WRANGLER

2025 取扱説明書



Jeep®

車両の画像は一例です。実際に販売される製品は異なる場合があります。

目次

1 はじめに 7
2 車両の概要 14
3 インストルメント・パネルについて 90
4 始動と運転 107
5 マルチメディア 150
6 安全について 176
7 緊急時 221
8 整備およびお手入れ 235
9 技術仕様 279
10 アシスタンスが必要な場合 285
11 さく引 286

はじめに

ようこそ 7
重要なお知らせ 8
記号説明 8
横転に関する警告 8
車両の改造／変更 9
記号用語集 9

車両の概要

キー 14
キー・フォブ 14
SENTRY KEY 16
イグニッション・スイッチ 16
Keyless Enter -N Go™イグニッション 16
電子式ステアリング・ホイール・ロック - タイプ別装備 17
リモート始動 - タイプ別装備 17
リモート始動の使用方法 18
リモート始動モードの終了 18
Remote Start Front Defrost Activation（リモート始動、フロント・デフロスタ作動 - タイプ別装備 19
リモート始動コンフォート・システム – タイプ別装備 19
リモート・スタート・フロント・ガラス・ワイパー除氷装置の作動 – タイプ別装備 19
リモート始動キャンセルのメッセージ 19
車両セキュリティ・システム タイプ別装備 20
システムのセット方法 20
システムの解除方法 20
システムの再設定方法 20
セキュリティ・システムの手動操作 20
プレミアム車両セキュリティ・システム タイプ別装備 20
システムのセット方法 21
システムの解除方法 21
セキュリティ・システムの手動操作 21
ドア 21
手動ドア・ロック 22
パワー・ドア・ロック – タイプ別装備 22
Keyless Enter-N-Go™ - パッシブ・エントリ（タイプ別装備） 23
オート・ドア・ロック – タイプ別装備 25
チャイルド・プロテクション・ドア・ロック・システム – リヤ・ドア 25
フロント・ドアの取り外し 25
リア・ドアの取り外し (4 ドア・モデル) 29
ステアリング・ホイール 30
チルト／テレスコピック・ステアリング・コラム 30
ステアリング・ホイール・ヒータ - タイプ別装備 30
UCONNECT の音声認識 31
音声認識の概要 31
基本的ボイス・コマンド 31
音声認識の開始 31
補足情報 31
シート 31
電動調整フロント・シート タイプ別装備 32
手動調整フロント・シート 33
6:4 分割折りたたみ式リヤ・シート – 4 ドア・モデル 34
折りたたみ／回転リヤ・シート - 2 ドア・モデル 35
シート・ヒータ – タイプ別装備 36
リヤ・シート・アームレスト - タイプ別装備 36
ヘッド・レスト 36
ミラー 38
ルーム・ミラー 38
バニティ・ミラー – タイプ別装備 39
ドア・ミラー 39
方向指示器付きドア・ミラー – タイプ別装備 39
パワー・ミラー - タイプ別装備 39
ヒーテッド・ミラー - タイプ別装備 39
車外灯 40
ヘッドライト・スイッチ 40
デイタイム・ランニング・ライト（DRL）- タイプ別装備 40
ハイ・ビーム／ロー・ビーム・スイッチ 40
自動ハイ・ビーム・ヘッドライト制御 - タイプ別装備 40
パッシング 40
オート・ヘッドライト - タイプ別装備 40
消灯遅延時間 41
ライト消し忘れ警告アラーム 41
フロント・フォグ・ライトとリヤ・フォグ・ライト - タイプ別装備 41
方向指示灯 41
レーン変更アシスト – タイプ別装備 41
オート・ヘッドライト・レベリング – タイプ別装備 41
室内灯 42

室内灯 42
イルミネーション・コントロール 42
アンビエント・ライト–タイプ別装備 42
フロントガラス・ワイパおよびウォッシャ 42
フロントガラス・ワイパの作動 43
リアウインドウ・ワイパ／ウォッシャ – タイプ別装備 43
ヒータ／エアコン 44
自動ヒータ／エアコンの説明および機能 44
自動温度コントロール（ATC）- タイプ別装備 46
エアコン・ボイス・コマンド 46
操作のヒント 46
室内収納および機器 47
ストレージ 47
照明付きカップ・ホルダ – タイプ別装備 48
USB/AUX Control（USB/AUX コントロール）...48
電源コンセント - タイプ別装備 49
シガー・ライタ（タイプ別装備） 50
パワー・インバータ – タイプ別装備 51
補助スイッチ - タイプ別装備 51
ウインドウ 52
パワー・ウィンドウ・コントロール 52
オート・ダウン機能 53
ウィンドウ・ロックアウト・スイッチ 53
ウインド・バフェッティング 53
WRANGLER のトップ 53
用意されているツール 53
ソフト・トップを Sunrider® 位置に下げる 54
ソフト・トップを上げる 63
ソフト・トップの取り外し 66
ソフト・トップの取り付け 67
ハード・トップ・フロント・パネルの取り外し 69
ハード・トップ・フロント・パネルの取り付け 72
ハードトップの取り外し 73
ハードトップの取り付け 75
ハード・トップ用 Sunrider® 75
パワー・スライディング・トップ - タイプ別装備 77
ドア・フレーム 80
ドア・フレーム 取り外し 81
ドア・フレームの取り付け - 4 ドア・モデル - タイプ別装備 81
ドア・フレームの取り付け - 2 ドア・モデル - タイプ別装備 82
折りたたみ式フロントガラス 83
フロントウィンドウを下げる 83
フロントウィンドウを上げる 85
ボンネット 85
ボンネットを開ける 85
ボンネットを閉じる 86
リヤ・スイング・ゲート 86
カーゴ・エリア機能 87
ルーフ・ラゲージ・ラック - タイプ別装備 88
環境保護システム 88

インストルメント・パネルについて

インストルメント・パネル 90
インストルメント・パネルの説明 91
インストルメント・パネル・ディスプレイ 92
インストルメント・パネル・ディスプレイの位置とスイッチ 92
オイル交換のリセット - タイプ別装備 93
インストルメント・パネル・ディスプレイの選択可能項目 93
バッテリ・セーバ・オン／バッテリ・セーバ・モード・メッセージ – 電力負荷低減機能 – タイプ別装備 97
警告灯およびメッセージ 98
赤色警告灯 98
黄色警告灯 101
黄色表示灯 103
緑色表示灯 104
白色表示灯 104
青色表示灯 105
灰色表示灯 105
オンボード故障診断システム – OBD II 105
オンボード故障診断システム（OBD II）サイバーセキュリティ 105

始動と運転

エンジン始動手順 107
オートマチック・トランスミッション 107
通常の始動手順 107
AutoPark 108
長期間の駐車後のエンジン始動 109
エンジンがかからない場合 109
極寒冷地 (Below –22°F または–30°C 以下) 109
エンジンが始動したら 110
エンジンの慣らし運転について 110
パーキング・ブレーキ 110
オートマチック・トランスミッション 111
イグニッション・パーキング・インターロック 112

ブレーキ／トランスミッション・シフト・インターロック（BTSI）システム 112
8 速オートマチック・トランスミッション.....112
電子油圧式パワー・ステアリング..... 115
4WD 走行.....115
トランスファ・ケースの 5 つの位置..... 115
Trac-Lok リヤ・アクスル – タイプ別装備 117
アクスル・ロック（Axle Lock）（Tru-Lok）、フロントおよびリヤ - タイプ別装備..... 117
アクスル・ロック（Axle Lock）（Tru-Lok）、リヤのみ - タイプ別装備.....118
電子制御式スウェイ・バー切り離し機能 – タイプ別装備 119
OFF ROAD+（オフ・ロード+）- タイプ別装備 120
START&STOP システム..... 120
Autostop Mode（自動停止モード）..... 121
エンジンが自動停止しないときの考えられる理由..... 121
自動停止モード時にエンジンを始動する...122
START&STOP システムを手動で OFF にする 122
START&STOP システムを手動で ON にする 122
システム異常.....122
クルーズ・コントロール・システム – タイプ別装備 122
アダプティブ・クルーズ・コントロール（ACC）- タイプ別装備.....123
PARKSENSE FRONT/REAR PARK ASSIST SYSTEM（PARKSENSE フロント／リヤ・パーク・アシスト・システム）- タイプ別装備 130
ParkSense センサ.....130
ParkSense ディスプレイ..... 130
ParkSense 警告画面.....133
ParkSense の有効化と無効化.....133
ParkSense パーキング・アシスト・システムの整備.....133
ParkSense システムの清掃..... 133
ParkSense システム使用上の注意事項.... 134
PARKVIEW リア・バックアップ・カメラ – タイプ別装備..... 134
TRAILCAM システム - タイプ別装備..... 135
車両への給油.....136
フューエル・フィラ・キャップ 136
フューエル・フィラ・キャップがゆるい場合のメッセージ 137
車両積載量 137
保証ラベル.....137
トレーラけん引 - タイプ別装備..... 138
一般的なけん引の定義.....138
分離ケーブル・アタッチメント.....139
トレーラー牽引重量 (トレーラーの最大定格) 140
トレーラとタング重量 140
けん引要件.....140
牽引のヒント.....142
トレーラーヒッチ取り付けポイント 143
レクリエーションけん引（モータホームによるけん引） 143
他の車での車両けん引.....143
運転のアドバイス.....143
オン・ロード走行について.....143
オフ・ロード走行について.....144

マルチメディア

UCONNECT システム 150
サイバーセキュリティ 150
UCONNECT の設定 150
ユーザー選択機能..... 150
ステアリング・ホイール・オーディオ・コントロール – タイプ別装備..... 170
ラジオの操作..... 170
メディア・モード.....170
ラジオ操作と携帯電話 170
「OFF ROAD PAGES（オフ・ロード・ページ）」 – タイプ別装備 170
「Vehicle Dynamics（車両のダイナミックス）」..... 170
「Accessory Gauge（アクセサリ・ゲージ）」..171
Pitch & Roll（ピッチ＆ロール） 171
TrailCam - タイプ別装備.....171
トレイルの記録 – タイプ別装備 172
アドベンチャー・ガイド – タイプ別装備..... 173

安全について

安全装置..... 176
アンチロック・ブレーキ・システム（ABS） 176
リヤ・シート警告アラーム（RSRA） – タイプ別装備.....176
エレクトロニック・ブレーキ・コントロール（EBC）システム 177
ドライビング・アシスト・システム.....182
ブラインド・スポット・モニタ（BSM）- タイプ別装備 182

軽減動作を伴う前面衝突警報（FCW）- タイプ別装備 185
タイヤ空気圧モニタ・システム（TPMS） 187
乗員保護拘束装置 190
乗員保護拘束装置の機能 190
安全に関する重要な注意事項 190
シートベルト・システム 191
補助拘束装置（SRS） 194
チャイルド・シート – お子さまを安全に乗せるために 205
安全のヒント 218
乗員を乗せる場合 218
ペットを乗せる場合 218
コネクテッド・カー 218
車内の安全点検 219
定期的な車外の安全点検 220
排気ガス 220
一酸化炭素に関する警告 220

緊急時

非常点滅表示灯 221
SOS – 緊急通話 – タイプ別装備 221
ジャッキ・アップとタイヤ交換 223
ジャッキ作業の準備 223
ジャッキ・アップ位置 224
スペア・タイヤの取り外し 224
ジャッキ作業の手順 224
ジャンプ・スタート 227
ジャンプ・スタートの準備 227
ジャンプ・スタートの手順 228
エンジンがオーバーヒートした場合 229
手動パーキング解除 230
スタックからの脱出 231
走行不能車両のけん引 231
4WD モデル 232
イグニッション・キー・フォブがない場合 232
けん引フックの使用法 232
高度事故時反応システム（EARS） 234
事象データ・レコーダ（EDR） 234

整備およびお手入れ

定期整備 235
エンジン・ルーム 236
2.0L ガソリン・エンジン 236
オイル・レベルの点検 237
ウォッシャ液の補給 237
メンテナンス・フリー・バッテリ 237
高圧洗浄 238
車両のメンテナンス 238
エンジン・オイル 238
エンジン・オイル・フィルタ 239
エンジン・エア・クリーナフィルタ 239
アクセサリ・ドライブ・ベルトの点検 240
エアコンのお手入れ 240
ボディ系の潤滑 242
フロントガラス・ワイパ・ブレード 242
排気装置 244
冷却装置 245
ブレーキ・システム 247
フロント／リヤ・アクスル・フルード 248
トランスファ・ケース 248
オートマチック・トランスミッション 248
ヒューズ 249
電球（バルブ）の交換 259
タイヤ 262
タイヤの安全情報 262
タイヤ - 一般情報 263
タイヤの種類 267
スペア・タイヤ - タイプ別装備 267
ホイールおよびホイール・トリムのお手入れ 268
雪路トラクション装置 269
タイヤのローテーションの推奨 270
車両の保管 270
ボディワーク 271
大気中の作用物質からの保護 271
ボディおよびボディ下部のメンテナンス 271
塗装状態の維持 271
インテリア 273
カーペットの安全情報 273
カーペットの取り外し 274
シートおよびファブリック部品 277
プラスチック製およびコーティング部品 277
革製表面 277
ガラスの表面 278

技術仕様

車両識別番号（VIN） 279
ブレーキ・システム 279
ホイールとタイヤのトルク仕様 279
トルク仕様 279
燃料要件 280
2.0L エンジン 280
メタノール 280
エタノール 280
空気清浄化ガソリン 281

改質ガソリン 281
非フレックス・フューエル車両に E-85 を使用しないでください.....281
圧縮天然ガス (CNG) および液体プロパン (LP) 燃料システムの変更.....281
メチルシクロペンタジエニル・マンガン・トリカルボニル（MMT）.....281
フルード容量 281
エンジン・フルードおよび潤滑剤.....282
シャーシ・フルードおよび潤滑剤..... 284

アシスタンスが必要な場合

はじめに

ようこそ

お客様

このたびは、Jeep®をご購入いただき、誠にありがとうございます。高度な技術、特徴あるスタイル、高品質にご満足いただけるものと確信しております。

この車は多目的車です。従来の乗用車では意図されていない場所でも走行することができます。オン・ロード、オフ・ロードともに、ほかのどの乗用車とも違った操作性を備えています。時間をかけてゆっくりと車に慣れ親しんでください。ご購入いただいた車を運転される前に、この「取扱説明書」の情報を必ずお読みください。車の操作方法、特にブレーキやステアリング、トランスミッションおよびトランスファ・ケースのシフト操作などについて十分にご理解ください。また、様々な路面状況でのクルマの挙動についての説明もあわせてお読みください。慣れと経験により運転技術が向上します。オフ・ロードでの走行中または車両についての作業時は、車に負担をかけすぎないようご注意ください。車が物理的な自然法則を上回ると考えるのはとても危険です。運転時には、必ず当該地域の交通法規に従ってください。この種の車に共通することですが、運転操作を誤ると操縦性を失い、衝突事故につながるおそれがあります ⇨ ページ 143。

お客様に車の運転および点検整備の方法などをご理解いただくために、この取扱説明書は専門の整備士およびエンジニアの協力のもとに作成されております。お客様向けの案内文書もお車に積まれております。この情報には、FCA International Operations LLC（FCAIO）がお客様に提供するサービスの説明およびその有効性を維持するための詳細な条件が記載されています。初めて車両を運転される前に、時間をかけてこれらの資料をよくお読みください。本書には、車を安全かつ快適に運転していただくための指示、推奨事項、ヒント、および重要な警告が記載されています。

本書では、この車両のすべてのモデルについて説明しています。特定の市場またはモデルに固有のオプションおよび装備は本文中に明記されていません。したがって、ご購入いただいたグレード、エンジン、およびモデルに関連する情報のみを考慮してください。オーナー用情報の内容は、お客様の車両に適用される場合と適用されない場合がありますが、「タイプ別装備」という用語で識別されています。本書記載のすべてのデータは、最良の方法で車両を使用いただくことを目的としております。当社は生産する車両を絶えず改善していくことを目指しています。このため、技術的または商業的な理由で、記載されているモデルを変更する権利を保有しています。詳細については、正規ディーラーにお問い合わせください。

整備に関してお客様の Jeep®を最も良く知っているのは正規ディーラーです。正規ディーラーは、訓練された技術者および Mopar®純正部品を用意し、お客様に満足していただけるよう常に細心の注意を払っています。

重要なお知らせ

本書の記載内容は出版時点での最新情報です。当社は、事前の予告なしに本書に訂正を加える権利を有するものとします。

本書には、標準仕様の装備と特別仕様の装備についての説明が記載されております。したがって、本書記載の装備およびアクセサリには、お客様の車に装備されていないものもあります。

メモ:
初めて車を運転する前および部品・アクセサリ類を装着・設置する前、またはその他の変更をする前に必ず本書をお読みください。

交換部品やアクセサリ類が数多く市販されていますが、これらの部品を取り付けた場合のお車の安全性については、FCAIO は保証いたしかねます。また、そうした交換部品が公認されている場合（一般的に使用されている部品や公認の設計に基づいて製造された部品など）、あるいは交換取り付け後に個別に使用が許可された場合も、後で取り付けた部品によりお車の安全性が損なわれないという保証はありません。したがって、専門整備士や正規ディーラーであっても責任を負えないことがあります。FCAIO は、FCAIO 純正部品、または FCA で推奨した部品が、正規ディーラーで取り付けられた場合にのみ保証するものとします。これは、ご購入いただいた後で FCAIO の車両に何らかの改造を行った場合も同様です。

FCAIO が供給する部品以外は保証の対象にはなりません。また、当社以外から供給された部品、構成部品、装備、材料、または添加剤の取り付けおよび使用が原因で必要となった修理および調整の費用は、保証の対象外となります。さらに、FCAIO の仕様に適合しない改造が原因で生じた損傷、または状態の修理費用も保証の対象外です。

FCAIO は、以前に生産された車について何ら義務を負うことなく、設計および仕様を変更し、製品への追加・改良を行う権利を有するものとします。

記号説明

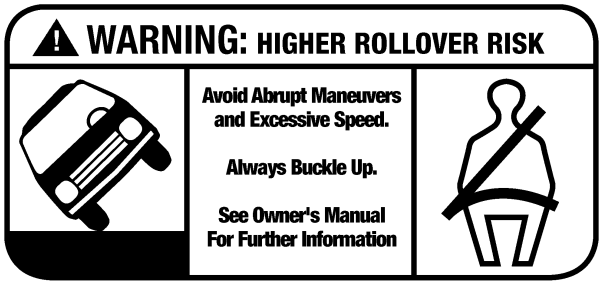
警告!	この記載は、衝突事故やけが、死亡につながる恐れのある運転操作などに適用されます。
注意！	この記載は、車に損傷を与える恐れのある操作などに適用されます。
メモ:	取り付け、操作、信頼性を改善するための提案です。これに従わないと、損傷が発生することがあります。
ヒント:	製品や機能をより使いやすくするための一般的なアイデア／解決策／提案です。
 **ページ参照矢印**	これを参照すると、特別な機能についての詳細な情報が得られます。
 **脚注**	その項目に付随する補足／該当情報です。

重要な情報を見逃すことのないよう、本書をよくお読みください。注意および警告には必ず従ってください。

横転に関する警告

多目的車は、他の車種より横転する確率が非常に高くなります。この車両は、他の多くの乗用車に比べて車高と重心位置が高くなっています。これにより、各種オフ・ロード用途で高い性能を発揮します。しかし、どのような車であっても、安全性を無視した運転をすれば制御不能に陥る恐れがあります。特にこの車は重心位置が高いため、制御不能になると他の車が横転しないケースでも、横転するおそれがあります。

急にカーブを曲がったり、不意な操縦を試みたりといった無謀な運転は、車が制御不能になる恐れがありますのでおやめください。安全運転を怠ると、衝突事故、車の横転、重傷や死亡事故につながる恐れがあります。慎重な運転を心がけてください。



80bfe0f0

横転警告ラベル

シートベルトを着用していないと、重傷または死亡につながる恐れがあります。横転事故において、シートベルトを着用していない場合は、着用している場合と比べ、死亡率が非常に高くなります。必ずバックルを締めてください。

車両の改造／変更

警告!
この車両を改造または変更した場合、その走行性能と安全性が大きな影響を受け、重傷や死亡につながる衝突事故を引き起こす恐れがあります。

記号用語集

車両構成部品の一部には、この構成部品を使用する際に遵守すべき注意事項を示す色付きのラベルが貼付されているものがあります。車両運転の際は、すべての警告に従うことが重要です。各記号の定義については以下を参照してください ⇨ ページ 98。

メモ：

装備オプションやその時点の車両の状態によっては、警告灯や表示灯が異なることがあります。一部の表示灯はオプションであり、表示されないことがあります。

赤色警告灯	
	エアバッグ警告灯 ⇨ ページ 98
	ブレーキ警告灯 ⇨ ページ 98
	バッテリ充電警告灯 ⇨ ページ 99
	ドア・オープン警告灯 ⇨ ページ 99
	電動パワー・ステアリング（EPS）故障警告灯 ⇨ ページ 99
	エレクトロニック・スロットル・コントロール（ETC）警告灯 ⇨ ページ 99

赤色警告灯	
	エンジン・クーラント温度警告灯 ⇨ ページ 99
	ボンネット・オープン警告灯 ⇨ ページ 100
	油圧警告灯 ⇨ ページ 100
	オイル温度警告灯 ⇨ ページ 100
	シートベルト警告灯 ⇨ ページ 100
	スイング・ゲート・オープン警告灯 ⇨ ページ 100
	トランスミッション温度警告灯 ⇨ ページ 100
	車両セキュリティ警告灯 ⇨ ページ 101

黄色警告灯	
	アンチロック・ブレーキ・システム（ABS）警告灯 ⇨ ページ 101
	エレクトロニック・スタビリティ・コントロール（ESC）作動警告灯 ⇨ ページ 101
	エレクトロニック・スタビリティ・コントロール（ESC）OFF 警告灯 ⇨ ページ 101
	フューエル・フィラ・キャップ緩み警告灯 ⇨ ページ 101
	残燃料警告灯 ⇨ ページ 101
	ウォッシャ液不足警告灯 ⇨ ページ 101
	エンジン点検／警告灯（MIL） ⇨ ページ 101
	アダプティブ・クルーズ・コントロール（ACC）整備警告灯 ⇨ ページ 102

黄色警告灯	
	前方衝突警告（FCW）整備警告灯 ⇨ ページ 102
	ストップ/スタート・システム整備警告灯 ⇨ ページ 102
	クルーズ・コントロール異常警告灯 ⇨ ページ 102
	スウェイ・バー異常警告灯 ⇨ ページ 102
	タイヤ空気圧モニタ・システム（TPMS）警告灯 ⇨ ページ 102

黄色表示灯	
	4WD 表示灯 ⇨ ページ 103
	「4WD LOW」表示灯 ⇨ ページ 103

黄色表示灯	
	4WD パート・タイム表示灯 ⇨ ページ 103
	アクスル・ロック異常表示灯 ⇨ ページ 103
	前面衝突警報（FCW）OFF 表示灯 ⇨ ページ 103
	フロントおよびリヤ・アクスル・ロック表示灯 ⇨ ページ 103
	ニュートラル表示灯 ⇨ ページ 103
	リヤ・アクスル・ロック表示灯 ⇨ ページ 103
	リヤ・フォグ表示灯 ⇨ ページ 104
	スウェイ・バー表示灯 ⇨ ページ 104

緑色表示灯	
	先行車を検知したときのアダプティブ・クルーズ・コントロール（ACC）設定表示灯 ⇨ ページ 104
	4WD オート表示灯 ⇨ ページ 104
	クルーズ・コントロール SET 表示灯 ⇨ ページ 104
	フロント・フォグ表示灯 ⇨ ページ 104
	駐車灯／ヘッドライト表示灯 ⇨ ページ 104
	START&STOP システム作動表示灯 ⇨ ページ 104
	方向指示灯表示灯 ⇨ ページ 104

白色表示灯	
	アダプティブ・クルーズ・コントロール（ACC）レディ表示灯 ⇨ ページ 104
	2WD HIGH 表示灯 ⇨ ページ 104
	下り坂コントロール（HDC）表示灯 ⇨ ページ 105
	Selec-Speed Control 表示灯 ⇨ ページ 105
	クルーズ・コントロール作動可能表示灯 ⇨ ページ 105
	クルーズ・コントロール SET 表示灯 ⇨ ページ 105

青色表示灯	
	ハイ・ビーム表示灯 ⇨ ページ 105

灰色表示灯	
	クルーズ・コントロール作動可能表示灯 ⇨ ページ 105

車両の概要

キー

キー・フォブ

車両には、パッシブ・エントリ、リモート・キーレス・エントリ（RKE）、Keyless Enter-N-Go™（タイプ別装備）の機能をサポートするキー・フォブが装備されています。キー・フォブを使用して、約 20m（66 フィート）以内の距離から、ドアおよびスイング・ゲートをロックまたはロック解除できます。システムを作動させる場合、キー・フォブを車の方向に向ける必要はありません。キー・フォブにはメカニカル・キーも付いています。

メモ：

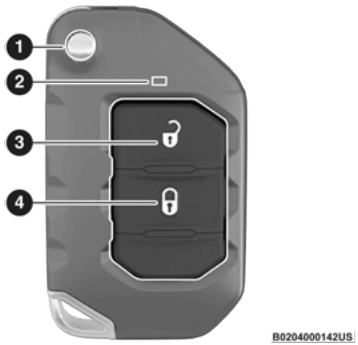
- キー・フォブの無線信号は、キー・フォブが携帯電話、ノート・パソコン、またはその他の電子機器のそばに置かれていると、それと干渉することがあります。この場合は性能が低下することになります。
- イグニッション・オンで車両が 2 mph (4 km/h)で走行すると、RKE の作動はすべて OFF になります。

警告!

キー・フォブからメカニカル・キーをリリース・ボタンを押して取り外す際は、身体、特に目や損傷を受けやすい衣類などの物に向けないようにしてください。

注意!

キー・フォブに大きな電気的衝撃を与えると、キー・フォブ内の電気構成部品が損傷することがあります。キー・フォブ内の電子機器の作動を完全に保つには、キー・フォブを直射日光にさらさないでください。



キー・フォブ

1 – メカニカル・キー・リリース・ボタン
2 - LED ランプ
3 - 「Unlock（ロック解除）」ボタン
4 - 「Lock（ロック）」ボタン

メモ：

- ボタンを押してもイグニッション・スイッチが切り替わらない場合は、キー・フォブの電池残量が少ないか切れています。キー・フォブの電池残量が低いことは、インストルメント・パネルのメッセージで表示されるか、キー・フォブの LED ライトでわかります。キー・フォブのボタンを押してもキー・フォブの LED ライトが点灯しない場合は、キー・フォブの電池を交換する必要があります。
- キー・フォブ・バッテリの処理が不適切な場合、環境にとって有害になることがあります。バッテリの適切な廃棄については、正規ディーラーにお問い合わせください。

ドアおよびスイング・ゲートを施錠／解錠するには

キー・フォブの「Unlock（ロック解除）」ボタンを 1 度押して放すと、運転席側のドアが解錠します。2 度押すとすべてのドアとスイング・ゲートが解錠します。ドアをすべて施錠するには、「Lock（ロック）」ボタンを 1 回押します。

ドアが解錠されると、方向指示器が点滅します。ドアが施錠されると、方向指示器が点滅します。

メモ：

「Unlock（ロック解除）」ボタンを 1 回押して、すべてのドアを解錠するようにプログラムすることができます ⇨ ページ 150。

キー・フォブ内のバッテリの交換

交換するバッテリには、CR2450 をお勧めします。

メモ :
- Mopar®が供給するバッテリの使用をお勧めします。市販のコイン・バッテリの寸法は OEM のコイン・バッテリの寸法に合わないことがあります。
- 過塩素酸塩物質 – 特別な取り扱いが必要です。
- トランスミッタのバック・ハウジングまたはプリント基板上の電池の端子には触れないでください。
- キー・フォブのバッテリ残量が少なくなると、車両のインストルメント・パネルに警告が表示され、ボタンを押してもキー・フォブの LED は点灯しなくなります。

1. キー・フォブ下部のスロットにマイナス・ドライバを差し込んで、キー・フォブの裏カバーを取り外します。壊さないように注意して、カバーが外れるまで持ち上げます。外れない場合は、ドライバを反時計回りに軽く回します。



A0204000136US

1-3 - 裏カバーを持ち上げる箇所

2. 小型のマイナス・ドライバをバッテリ取り外しスロットに差し込み、バッテリを前方上にスライドさせて、消耗したバッテリを取り外します。下の電子ボードを損傷しないように注意してください。



A0204000138US

バッテリの交換

3. 新品のバッテリをキー・フォブに取り付け、プラス (+) 側を上向きにしてください。タブの下にしっかりと収まるまでバッテリをスライドさせます。
4. 裏カバーを取り付け、所定の位置に確実にはめる前に位置が適切に合っていることを確認します。

警告!
- 一体型キー・フォブにはコイン型電池が内蔵されています。電池を飲み込まないようにしてください。化学やけどの危険性があります。コイン型電池を飲み込むと、わずか 2 時間で体内に深刻なやけどが引き起こされるおそれがあり、死に至る場合もあります。
- 電池を飲み込んだり、電池が体内のどこかに入った可能性がある場合は、直ちに医療機関を受診してください。
- 新品および使用済みの電池はお子さまの手が届かない場所に保管してください。電池カバーがしっかりと閉まらない場合は、キー・フォブの使用を中止して、お子さまの手の届かない場所に保管してください。

追加キー・フォブのプログラムおよび要求

キー・フォブのプログラムは正規ディーラーで行うことができます。

メモ :
- すでに車両にプログラムされたキー・フォブは、他の車両用に再利用および再プログラムすることはできません。
- 車両の電子装置に合わせてプログラムされたキー・フォブ以外のものでは、車両を始動および走行させることができません。

警告!
- 車を離れるときは必ず車両からキー・フォブを抜き、すべてのドアをロックしてください。
- Keyless Enter 'n Go™イグニッション搭載車では、降車する場合は、必ずイグニッションを「OFF(オフ)」位置にしてください。

キー・フォブの複製は正規ディーラーで行うことができます。この作業では車の電子装置に合わせて未使用のキー・フォブをプログラムします。未使用のキー・フォブとは、プログラムされていないキー・フォブのことを言います。

メモ :
- Sentry Key イモビライザ・システムを整備に出すときは、すべての車両キーを正規ディーラーにお渡しください。
- メカニカルフリップ付きキーフォブのキーは、車両のロックに合わせて正しくキーを作るよう注文する必要があります。

SENTRY KEY

Sentry Key イモビライザ・システムとは、エンジンを始動できないようにすることで車の不正使用を防止するシステムです。このシステムは、セットしたり起動させる必要はありません。車両が施錠または解錠されたときに自動的に作動します。

このシステムは、キー・フォブ、キーレス・プッシュ・ボタン・イグニッション、高周波（RF）レシーバを使用して車の不正使用を防止します。そのため、車両に合わせてプログラムされたキー・フォブ以外では車両を始動および走行させることはできません。システムは、別の車両から得られたキー・フォブを再プログラムすることはできません。

イグニッション・スイッチを「ON/RUN（オン／走行）」位置にすると、電球点検のために車両セキュリティ・ライトが 3 秒間点灯します。電球点検後に表示灯が点灯し続けるときは、電子装置に問題があります。また、電球点検後に表示灯が点滅し始めたときは、誰かが無効なキー・フォブを使ってエンジンの始動を試みたことを示しています。有効なキー・フォブを使用してエンジンを始動する場合に、車両の電子装置に問題があるときは、エンジンは始動して 2 秒後に停止します。

通常作動時（エンジンが 10 秒以上作動している）に車両セキュリティ表示灯が点灯したときは、電子装置に問題があります。正規ディーラーで速やかに車両の整備を受けてください。

注意!

Sentry Key イモビライザ・システムは、一部のアフターマーケット用リモート始動システムとは互換性がありません。両システムを同時に使用すると、車両の始動性または防犯システムに問題が生じる恐れがあります。

新車に付属しているキー・フォブはすべて、車両の電子装置に合わせてプログラムされています。

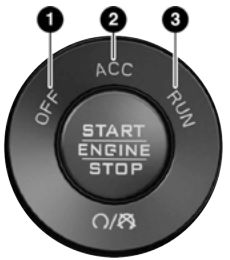
メモ：
プログラムされていないキー・フォブも無効なキーと見なされます。

イグニッション・スイッチ

KEYLESS ENTER -N GO™イグニッション

この機能により、キー・フォブが車内にあれば、運転者はボタンを押してイグニッション・スイッチを操作できます。

START/STOP イグニッション・ボタンには複数の操作モードがあり、ラベルが付けられ、各位置で点灯します。これらのモードはそれぞれ「OFF（オフ）」、「ACC」「RUN（走行）」、「START（始動）」です。



「START/STOP（ストップ／スタート）」イグニッション・ボタン

1 – OFF
2 - ACC
3 - RUN

プッシュ・ボタン・イグニッションは次のモードにできます。

「OFF（オフ）」

- エンジンが停止します。
- 一部の電気装置（パワー・ロックやアラームなど）は利用できます。

「ACC」

- エンジンは始動していません。
- 電気装置はすべて（ヒータ／エアコン、シート・ヒータなど）利用可能です。

「RUN（走行）」

- 走行位置です。
- すべての電気装置は利用できます。

「START（スタート）」

- エンジンが始動します。

メモ：
START/STOP イグニッション・ボタンを押してもイグニッション・スイッチが切り替わらない場合は、キー・フォブの電池残量が少ないか切れています。この場合は、別の方法でイグニッション・スイッチを操作できます。キー・フォブのノーズ側（メカニカル・フリップ・キーの隣）を「START/STOP（始動／停止）」ボタンに当てて押し、イグニッション・スイッチを操作します。

注意!

- メカニカル・キーを「START/STOP（始動／停止）」イグニッション・ボタンに押し付けないでください。

（続き）

注意!

- 尖った金属製の物(マイナス・ドライバなど)を使用して、イグニッション・スイッチからボタンを取り外そうとしないでください。このボタンは一体化されており、取り外しできません。シリコン製シールドが損傷するおそれがあります。



バックアップの始動方法



メカニカル・キーは使用しないでください

警告!

- 車を出るときは、必ずキー・フォブを携帯して、車をロックしてください。
- お子さまだけを車内に残して車を離れないでください。またお子さまが、ロックされていない車に触れることのないようにしてください。
- お子さまを車内に残して車から離れることは、非常に危険です。お子さまだけでなく第三者にもけがを負わせる恐れがあります。お子さまがパーキング・ブレーキ、ブレーキ・ペダルまたはギヤ・セレクタに触れないように注意してください。
- キー・フォブを車内または車の近く、またはお子さまの手が届く場所に放置しないでください。また、Keyless Enter-N-Go™搭載車では、イグニッションを「ON/RUN(オン／走行)」位置のままにして車から離れないでください。お子さまがパワー・ウィンドウやその他の装置を操作したり、車を動かしてしまう恐れがあります。
- 高温時には、駐車した車内にお子さまやペットを残さないでください。車内の温度が上がり、重傷または死亡事故につながる恐れがあります。

注意!

ロックしていない車は、盗難にあうおそれが高くなります。車両を離れるときは必ずキー・フォブを車両から持ち出して、すべてのドアをロックしてください。

メモ:

- 通常始動については、⇨ ページ 107 を参照してください。
- イグニッションが「ON/RUN(オン／走行)」位置(エンジンを始動していない)のときに運転席ドアを開けると、チャイムが鳴り、イグニッション・スイッチを「OFF(オフ)」位置にするように通知されます。チャイムに加え、「Ignition Or Accessory On(イグニッションまたはアクセサリ ON)」というメッセージもインストルメント・パネルに表示されます。

電子式ステアリング・ホイール・ロック - タイプ別装備

車両によっては電子式パッシブ・ステアリング・ホイール・ロックが装備されています。このロックにより、イグニッションが OFF の状態では車両を操縦できないようになります。ステアリング・ホイール・ロックは、イグニッションを ON にすると解除されます。ロックが解除されず車両が始動しない場合は、ホイールを左右に回してロックを解除してください。

リモート始動 - タイプ別装備

これは、セキュリティを確保しながらも、キー・フォブを使用して車外からエンジンを始動できる便利なシステムです。このシステムの動作範囲は 100m(328 フィート)です。

リモート始動は、寒冷時のウィンドウの霜取りを行ったり、あらゆる外気温条件下で、運転者が車内に入るまでに車内を快適な温度にしておくために使用されます。

メモ:

- オートマチック・トランスミッション装備車でなければ、リモート始動を装備することができません。
- 車両とキー・フォブの間に障害物があると、この作動範囲が狭くなることがあります。

警告!

- 狭いガレージや密閉された場所では、エンジンをかけないでください。排気ガスには、無色無臭の一酸化炭素(CO)が含まれています。一酸化炭素は有毒であり、吸引した場合、重傷または死亡事故につながる恐れがあります。
- キー・フォブはお子さまの手が届かない場所に保管してください。お子さまがリモート・スタート・システム、ウインドウ、ドア・ロック、またはその他のスイッチ類を操作すると、重傷または死亡事故につながる恐れがあります。

リモート始動の使用方法

5 秒以内にキー・フォブの「リモート始動」ボタンを 2 回押して放します。車両ドアとスイング・ゲートが施錠され、方向指示器が 2 回点滅し、ホーンが 2 回鳴ります。「Remote Start(リモート始動)」ボタンを再度押すと、エンジンが停止します。

メモ:

- リモート始動では、エンジンは 15 分間のみ作動します。
- リモート始動は 2 回しか使用できません。
- エンジンの故障が発生するか、または燃料低下している場合、車両は始動しますが 10 秒間で停止します。
- 駐車灯が点灯し、リモート始動モードの間、点灯し続けます。
- 車両がリモート始動モードに入っていると、セキュリティ上の観点から、パワー・ウインドウの動作は無効になります。
- 続けて 3 回目のリモート始動を連続して行う場合は、イグニッションを「ON/RUN」位置にする必要があります。

次のすべての条件に合致しなければ、エンジンのリモート始動は行われません。

- ギヤ・セレクタが「P(パーキング)」の位置にある
- ドアが閉まっている
- ボンネットが閉まっている
- スイング・ゲートが閉まっている
- 非常点滅灯がオフ
- ブレーキ・スイッチが作動していない(ブレーキ・ペダルが踏まれていない)
- バッテリの充電レベルが規定以上
- システムが前回のリモート始動動作により無効になっていない
- 車両セキュリティ・システム表示灯が点滅している
- イグニッションが「OFF」位置
- 燃料残量が最低要件を満たしている
- すべての取り外し可能ドアは取り外さない
- エンジン警告灯(MIL)が点灯していない

警告!

- 狭いガレージや密閉された場所では、エンジンをかけないでください。排気ガスには、無色無臭の一酸化炭素(CO)が含まれています。一酸化炭素は有

(続き)

警告!

毒であり、吸引した場合、重傷または死亡事故につながる恐れがあります。

- キー・フォブはお子さまの手が届かない場所に保管してください。お子さまがリモート・スタート・システム、ウインドウ、ドア・ロック、またはその他のスイッチ類を操作すると、重傷または死亡事故につながる恐れがあります。

リモート始動モードの終了

リモート始動システムの始動後車両を運転するには、キー・フォブのロック解除ボタンを押して放し、ドアを解錠するか、Keyless Enter-N-Go™ - パッシブ・エントリ・ドア・ハンドルを使って車両を解錠し、車両セキュリティ・アラーム(タイプ別装備)を解除します。次に、15 分間のサイクルが終了する前に、「START/STOP(始動/停止)」イグニッション・ボタンを押して放します。

リモート始動システムでは、キー・フォブの「Remote Start(リモート始動)」ボタンをもう 1 回押して離すか、15 分間の作動サイクルの間、エンジンの動作が連続すると、エンジンがオフになります。イグニッションを ON/RUN(オン/ラン)位置にすると、エアコンが前回設定した動作状態(温度、ファン制御など)に復帰します。

メモ:

- 意図しない停止を防止するため、有効なリモート始動要求を受信してから 2 秒間、システムは無効になります。
- Keyless Enter-N-Go™ - パッシブ・エントリ機能が装備されている車両の場合、「START/STOP(始動/停止)」イグニッション・ボタンを押すまでインストルメント・パネル・ディスプレイに「Remote Start Active - Push Start Button(リモート始動有効 -「START(スタート)」ボ

タンを押してください）」というメッセージが表示されます。

Remote Start Front Defrost Activation（リモート始動、フロント・デフロスタ作動 - タイプ別装備

リモート始動が起動し、周囲温度が 4.5℃（40°F）以下の場合、フロント・デフロスタが自動的に最大 15 分間作動します。この時間は周囲温度によって異なります。タイマが切れると、周囲の状況に応じて自動的に設定が調整されます。詳細な操作については、次のセクションの「Remote Start Comfort Systems（リモート始動コンフォート・システム）- タイプ別装備」を参照してください。

リモート始動コンフォート・システム — タイプ別装備

リモート始動を作動させるとき、周囲温度が低いと、フロントおよびリヤ・デフロスタが自動的にオンになります。「Uconnect Settings（Uconnect 設定）」内のコンフォート・メニュー画面で設定されている場合、ステアリング・ホイール・ヒータと運転席シート・ヒータ機能がオンになります ⇨ ページ 150。周囲温度が高いと、リモート始動を作動させたときに、運転席シート・ベンチレーションが自動的にオンになります（コンフォート・メニュー画面で設定されている場合）。車両は、周囲温度に応じてヒータ／エアコン設定を調整します。

メモ：
車両にリア・エアコン・システムが装備されている場合は、最前列のパフォーマンスを最適化するためにオフのままになります。

自動温度コントロール（ATC）- タイプ別装備

ヒータ／エアコンは、周囲温度に応じて最適な温度とモードを自動的に調整します。イグニッションを「ON/RUN」位置にすると、エアコンは前回の設定に戻ります。

手動温度コントロール（MTC）- タイプ別装備

- 周囲温度が 4.5°C（40°F）以下の場合、エアコン設定はデフォルトでヒーター最大に設定され、外気が室内に導入されます。フロント・デフロスター・タイマーが切れると、車両は「Mix Mode（ミックス・モード）」に入ります。
- 周囲温度が 4.5°C（40°F）～26°C（78°F）の場合、ヒーター／エアコン設定は運転者が最後に選択した設定で行われます。
- 周囲温度が 26°C（78°F）以上の場合、エアコン設定はデフォルトで「MAX A/C（エアコン最大）」、Bi-Level（バイレベル）」モードで、「Recirculation（内気循環）」に設定されます。

ATC、MTC、およびヒータ／エアコン設定の詳細については、⇨ ページ 44 を参照してください。

メモ：
これらの機能はリモート始動サイクルが終了するまで、またはイグニッションが「ON/RUN」位置に回されるまでオンのままになります。車両がリモート始動モードのときに運転者が手動で調整すると、ヒータ／エアコンの設定は変更され、自動デフォルト設定は終了します。「OFF」ボタンを使用して、ヒータ／エアコンをオフにしても同様です。

リモート・スタート・フロント・ガラス・ワイパー除氷装置の作動 — タイプ別装備

リモート・スタートがオンで、外気温度が 33°F (0.6°C) 未満の場合、フロント・ガラス・ワイパー除氷装置が作動します。リモート・スタートを終了すると、以前の動作が再開されます。フロント・ガラス・ワイパー除氷装置が作動していた場合、タイマーと動作は継続されます。

リモート始動キャンセルのメッセージ

車両がリモート始動できなかったときや、予定よりも早くリモート始動を終了したときは、次のメッセージがインストルメント・パネル・ディスプレイに表示されます。

- Remote Start Canceled Door Open（リモート始動中止 - 半ドア）
- Remote Start Canceled —Hood Open（リモート始動中止 - ボンネットが開いたまま）
- Remote Start Canceled Fuel Low（リモート始動中止 - 燃料不足）
- Remote Start Cancelled - Swing Gate Open（リモート始動中止 - スイング・ゲート開）
- Remote Start Canceled —Time Expired（リモート始動中止 - 時間切れ）
- Remote Start Canceled — System Fault（リモート始動中止 - システム故障）
- Remote Start Disabled — Start Vehicle To Reset（リモート始動が無効 - 車両を始動してリセット）

インストルメント・クラスターのメッセージは、イグニッションを「ON/RUN」位置にするまで表示され続けます。

車両セキュリティ・システム タイプ別装備

車両セキュリティ·システムは、車両のドアからの不正侵入、およびイグニッション·スイッチの不正使用を監視します。アラームの作動中は、ドア・ロックの車内スイッチは無効になります。車両セキュリティ·システムが作動すると、音と光で警告を発します。何らかの原因でアラームが作動した場合、車両セキュリティ・システムは以下のような音と光で警告を発します。

- ホーンが鳴ります
- 駐車灯または方向指示器（あるいはその両方）が点滅します
- インストルメント・パネルにある車両セキュリティ・ライトが点滅します

システムのセット方法

車両セキュリティ・システムは以下の手順でセットします。

1. 開いているドアまたはウィンドウを閉じます。
2. 車両のイグニッションを必ず「OFF（オフ）」位置に切り替えてください。
3. 車両をロックするには、以下のいずれかの方法を実施します。
   - 運転席ドアまたは助手席ドアが開いている状態で、車内のパワー・ドア・ロック・スイッチの「ロック」を押します。
   - 有効なキー・フォブを同一の車外ゾーンで使用できる状態で、車外のパッシブ・エントリ・ドア・ハンドルの「Lock（ロック）」ボタンを押します ⇨ ページ 23。
   - キー・フォブの「ロック」ボタンを押します。

メモ：
手動ドア・ロックを使用してドアを施錠した場合、車両セキュリティ・システムは作動しません。

システムの解除方法

車両セキュリティ・システムは、以下のいずれかの方法で解除できます。

- キー・フォブの「ロック解除」ボタンを押します。
- パッシブ・エントリ・ドア・ハンドル（タイプ別装備）をつかみます ⇨ ページ 23。
- イグニッション・システムを「OFF」位置から回します。

メモ：
- 運転席ドアのキー·シリンダでは、車両セキュリティ·システムの設定または解除はできません。
- 車両セキュリティ・システムの作動中は、内部のパワー・ドア・ロック・スイッチでドアを解錠することはできません。

車両セキュリティ・システムは車両を保護するように設計されていますが、システムが誤ってアラームを鳴らすことがあります。前述の手順のいずれかで車両セキュリティ・システムをセットした場合、乗員が車内にいるかどうかにかかわらずアラームはセットされます。乗員が車内にいてドアを開けると、アラームが鳴ります。この場合、車両セキュリティ・システムを解除してください。

車両セキュリティ・システムがセットされた状態で、バッテリの接続を外しても、再度バッテリを接続すれば車両セキュリティ・システムはセットされた状態を維持します。このとき外部照明が点滅し、ホーンが鳴ります。この場合、車両セキュリティ・システムを解除してください。

システムの再設定方法

アラームが起動しアラームを解除するための措置を何も講じなかった場合、29 秒間のサイクル（トリガーがアクティブのままの場合、5 秒間隔で最大 8 回のサイクル）の完了後にホーンが鳴りやみ、車両セキュリティ・システムが自動的に再設定されます。

セキュリティ・システムの手動操作

手動ドア・ロックを使用してドアを施錠した場合、車両セキュリティ・システムは作動しません。

プレミアム車両セキュリティ・システム タイプ別装備

このプレミアム車両セキュリティ・システムは、車両のドア、ボンネット、スイング・ゲート、イグニッションの不正操作を監視します。

このシステムには、侵入防止センサーと車両チルトセンサーという 2 つの機能も装備されています。侵入防止センサは車内の動きを監視します。車両チルト・センサは、車の傾斜動作（けん引、タイヤの取り外し、フェリー輸送など）を監視します。

アラームの作動中は、ドア・ロックの車内スイッチとパワー・スイング・ゲートが無効になります。何らかの原因でアラームが作動した場合、車両セキュリティ・システムは

ホーンを断続的に鳴らす、駐車灯や方向指示器を点滅させるなど音と光で警告を発します。

システムのセット方法

プレミアム車両セキュリティ・システムは以下の手順でセットします。

1. 車両のイグニッション・システムが「OFF（オフ）」であることを確認してください。
2. 車両をロックするには、以下のいずれかの方法を実施します。
   - 運転席ドアまたは助手席ドアが開いている状態で、車内のパワー・ドア・ロック・スイッチの「ロック」を押します。
   - 有効なキー・フォブを同一の車外ゾーンで使用できる状態で、車外のパッシブ・エントリ・ドア・ハンドルの「Lock（ロック）」ボタンを押します ⇨ ページ 23。
   - キー・フォブの「ロック」ボタンを押します。
3. 開いているドアを閉じます。

メモ：

- プレミアム車両セキュリティ・システムがセットされたら、記載されている各種解除手順のいずれかに従ってシステムが解除されるまで、セット状態が維持されます。システムをセットした後に電圧低下が発生した場合は、アラームの作動を防止するため、電圧が回復した後にシステムを解除する必要があります。
- プレミアム車両セキュリティ・システムがセットされるたびに、超音波式侵入センサ（モーションセンサー）は車両を自動的に監視します。希望する場合、セキュリティ・システムをセットする際に超音波式侵入センサを停止させることが可能です。停止させるには、システムをセットしてから 15 秒以内（車両セキュリティ・ライトが素早く点滅している間）に、キー・フォブの「Lock（ロック）」ボタンを 3 回押します。

システムの解除方法

プレミアム車両セキュリティ・システムは、以下のいずれかの方法で解除できます。

- キー・フォブの「ロック解除」ボタンを押します。
- パッシブ・エントリ・ドア・ハンドルをつかみます ⇨ ページ 23。
- キーレス・イグニッション・ボタンを押して、車両のイグニッション・システムを「OFF（オフ）」位置から回します（有効なキー・フォブが車内に少なくとも 1 つ必要です）。

メモ：

- 運転席ドアのキー・シリンダでは、プレミアム車両セキュリティ・システムの設定または解除はできません。
- プレミアム車両セキュリティ・システムの作動中は、内部のパワー・ドア・ロック・スイッチでドアを解錠することはできません。
- セキュリティ・システムがセットされるたびに、超音波式侵入センサ（モーションセンサー）は車両を自動的に監視します。希望する場合、セキュリティ・システムをセットする際に超音波式侵入センサを停止させることが可能です。停止させるには、システムをセットしてから 15 秒以内（車両セキュリティ・ライトが素早く点滅している間）に、キー・フォブの「Lock（ロック）」ボタンを 3 回押します。

プレミアム車両セキュリティ・システムは車両を保護するために設計されていますが、正しく設定しないと、システムが誤ってアラームを鳴らすことがあります。この条件には、車内に残された人やペット、または揺れる可能性のある吊り下げられた物（例：バックミラー、バイザーなど）が含まれます。風、落ち葉、その他の破片が車両に吹き込まれないように、窓と屋根パネルを閉める必要があります。車内に放置された物品（ビニール袋、衣類、食料品など）は、時間の経過とともに移動する可能性があり、迷惑警報が鳴る可能性があります。

さらに、極端な環境条件（風、雨、ひょう、雷など）や極端な騒音（オーディオ システム、交通状況、電車など）、または車両への直接的な衝撃により、警報状態が発生する可能性があります。

前述の手順のいずれかで車両セキュリティ・システムをセットした場合、乗員が車内にいるかどうかにかかわらずアラームはセットされます。乗員が車内にいてドアを開けた場合、アラームが鳴ります。この場合、車両セキュリティ・システムを解除してください。

車両セキュリティ・システムがセットされた状態で、バッテリの接続を外しても、再度バッテリを接続すれば車両セキュリティ・システムはセットされた状態を維持します。このとき外部照明が点滅し、ホーンが鳴ります。この場合、車両セキュリティ・システムを解除してください。

セキュリティ・システムの手動操作

手動ドア・ロックを使用してドアを施錠した場合、車両セキュリティ・システムは作動しません。

ドア

注意!
着脱式ドア・パネルの取り扱いおよび保管に際しては、シールを傷めないように十分注意してください。雨漏りの原因となります。

手動ドア・ロック

すべてのドアには、ロッカータイプの室内ドア・ロック・レバーが装備されています。車から離れるときにドアを施錠するには、ロッカー・レバーを前方に押してロック位置にしてから、ドアを閉じます。ドアを解錠するには、ロッカー・レバーを後方に押します。



手動ドア・ロック

メモ:
メカニカル・キーを使用すると、ドア、スイング・ゲート（ロック装備の場合）、グローブ・ボックス、またはコンソール・ストレージをロックまたはロック解除できます。

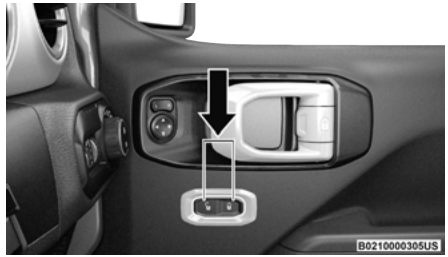
警告!

- 防犯および衝突の際の安全のために、運転中および駐車中に車から出る際にはドアをロックしてください。
- 車両から出る場合は、必ずイグニッションを切り、車両からフォブキーを取り外してください。大人がいない状況で、お子さまが車の装備に触れると、大けがや死亡事故につながる恐れがあります。
- お子さまだけを車内に残して車を離れないでください。またお子さまが、ロックされていない車に触れることのないようにしてください。
- お子さまを車内に残して車から離れることは、非常に危険です。お子さまだけでなく第三者にもけがを負わせる恐れがあります。お子さまがパーキング・ブレーキ、ブレーキ・ペダルまたはギヤ・セレクタに触れないように注意してください。
- キー・フォブを車内や車の周辺、またはお子さまの手が届く場所に放置しないでください。お子さまがパワー・ウィンドウやその他の装置を操作したり、車を動かしてしまう恐れがあります。

(続き)

パワー・ドア・ロック – タイプ別装備

パワー・ドア・ロック・スイッチは、各フロント・ドア・パネルにあります。スイッチを前方に押すとドアが解錠され、後方に押すと施錠されます。



パワー・ドア・ロック・スイッチ

警告!

- 防犯および衝突の際の安全のために、運転中および駐車中に車から出る際にはドアをロックしてください。
- 車両から出る場合は、必ずイグニッションを切り、車両からフォブキーを取り外してください。大人がいない状況で、お子さまが車の装備に触れると、大けがや死亡事故につながる恐れがあります。
- お子さまだけを車内に残して車を離れないでください。またお子さまが、ロックされていない車に触れることのないようにしてください。
- お子さまを車内に残して車から離れることは、非常に危険です。お子さまだけでなく第三者にもけがを負わせる恐れがあります。お子さまがパーキング・ブレーキ、ブレーキ・ペダルまたはギヤ・セレクタに触れないように注意してください。
- キー・フォブを車内や車の周辺、またはお子さまの手が届く場所に放置しないでください。お子さまが

(続き)

警告!

パワー・ウィンドウやその他の装置を操作したり、車を動かしてしまう恐れがあります。

KEYLESS ENTER-N-GO™ - パッシブ・エントリ(タイプ別装備)

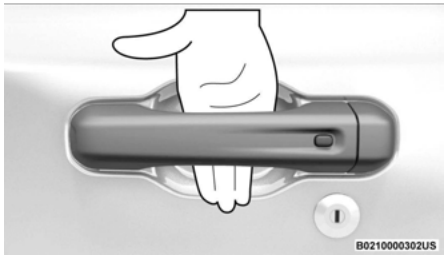
「パッシブ・エントリ」システムにより、キー・フォブのロックまたはロック解除ボタンを押さなくても、車両のドアを施錠または解錠することができます。

メモ:

- パッシブ・エントリは、「Uconnect の設定」内で「ON(オン)」または「OFF(オフ)」にプログラムできます ⇨ ページ 150。
- キー・フォブが携帯電話、ノート・パソコン、またはその他の電子機器のそばに置かれていると、車両のパッシブ・エントリ・システムが検知できないことがあります。こうした機器はキー・フォブの無線信号と干渉するため、パッシブ・エントリ・システムは車両を施錠/解錠できなくなります。
- どの時間に設定されていても(0、30、60、または 90 秒)、パッシブ・エントリによる解錠によりイルミネーション・アプローチ(ロー・ビーム、ナンバー・プレート・ランプ、車幅灯)が点灯します。また、パッシブ・エントリによる解錠により方向指示器が 2 回点滅します。
- 手袋をしている場合、降雨/降雪の場合、またはパッシブ・エントリ・ドア・ハンドルに塩分/泥が被っている場合は、解錠の感度に影響があり、応答時間が遅くなることがあります。
- キー・フォブがハンドルから 1.5m(5 フィート)以内の車両外側にある場合、パッシブ・エントリ・ドア・ハンドルに水しぶきがかかると、ドアが解錠される場合があります。
- パッシブ・エントリを使用して車両を解錠し、60 秒以内にドアを開かなかった場合、車両は再度施錠され、装備されている場合は車両セキュリティ・システムが設定されます。

運転席/助手席ドアでの解錠

ドア・ハンドルから 1.5m(5 フィート)以内に有効なパッシブ・エントリ・キー・フォブがある場合、ハンドルをつかむと、車両を解錠できます。運転席側のドア・ハンドルをつかむと、運転席側のドアが自動的に解錠されます。助手席側のドア・ハンドルをつかむと、すべてのドアとスイング・ゲートが自動的に解錠されます。



ドア・ハンドルをつかんでの解錠

メモ:

運転席ドアのドア・ハンドルをつかんだときに、運転席ドアのみが解錠されるか、すべてのドアが解錠されるかは、Uconnect システムで選択した設定により異なります ⇨ ページ 150。

Frequency Operated Button Integrated Key (FOBIK-Safe) (頻繁に操作するボタン、内蔵キー)

車内にパッシブ・エントリ・キー・フォブがあるときに予期せず施錠される可能性を極力減らすために、パッシブ・エントリ・システムには、イグニッション・スイッチが「OFF(オフ)」位置の場合にのみ機能する自動ドア解錠機能が備えられています。

FOBIK セーフは、「START/STOP(始動/停止)」イグニッション・ボタンを装備した車両でのみ作動します。パッシブ・エントリ車両で FOBIK セーフ・サーチが開始される状況は 3 つあります。

- ドアが開いているときに有効なパッシブ・エントリ・キー・フォブによって施錠が要求される場合。
- ドアが開いているときにパッシブ・エントリ・ドア・ハンドルによって施錠が要求される場合。
- ドアが開いているときにドア・パネルにあるスイッチによって施錠が要求される場合。

これらのうちのいずれかの状況になったときに、開いているドアをすべて閉じると、FOBIK セーフ・サーチが作動します。パッシブ・エントリ・キー・フォブが車内で検知されると、車両が解錠され、ユーザーに警告が出されます。Uconnect システムを使用してパッシブ・エントリを解除した場合は、このセクションに記載のキー・フォブ保護が作動/機能し続けます。

メモ:

有効なパッシブ・エントリ・キー・フォブが車内で検知された場合は、FOBIK セーフ作動時にのみドアの解錠が行われます。次のいずれかの条件に当てはまる場合、車のドアは解錠されません。

- 2 番目の有効なパッシブ・エントリ・キー・フォブが車外で検知される（パッシブ・エントリ・ドア・ハンドルから 1.5 m（5 フィート）以内にある）。
- ドア・ロック・ノブを使用して手動でドアを施錠した。
- ドア・パネルにあるスイッチを使用してドアの施錠を 3 回試み、その後ドアを閉めた。

車両のドアおよびスイング・ゲートを施錠するには

車両のいずれかのパッシブ・エントリ・キー・フォブが運転席または助手席のドア・ハンドルの 5 フィート(1.5 m) 以内にある場合、パッシブ・エントリ・ロック・ボタンを押すと車両ドアおよびスイング・ゲートが施錠されます。



ドア・ハンドル・ロック・ボタンを押しての施錠

メモ：

ドア・ハンドル・ロック・ボタンを押しているときは、ドア・ハンドルをつかまないでください。これにより、ドアが解錠されることがあります。

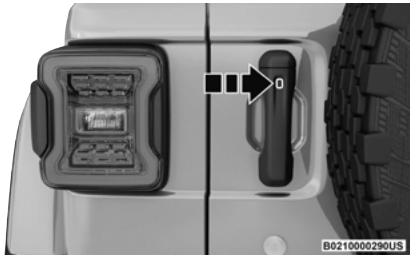


施錠中はドア・ハンドルをつかまないでください

車内のドア・パネルにあるロック・ボタンを使用してドアを施錠することもできます。

スイング・ゲートを解錠／開くには

スイング・ゲート・パッシブ・エントリ・ロック解除機能は、スイング・ゲートのハンドルに組み込まれています。有効なパッシブ・エントリ・キー・フォブがスイング・ゲート・ハンドルから 1.5m（5 フィート）以内にある場合、スイング・ゲートのハンドルをつかむとスイング・ゲートが自動的にロック解除され、スイング・ゲートを引くと開きます。



スイング・ゲート・パッシブ・エントリ・ロック・ボタン

スイング・ゲートを施錠するには

有効なパッシブ・エントリ・キー・フォブがスイング・ゲート・ハンドルの 5 フィート (1.5 m)以内にある場合、パッシブ・エントリ・ロック・ボタンを押すと、車両ドアおよびスイング・ゲートが施錠されます。

メモ：

- ドア・ハンドル・ボタンを押したら、パッシブ・エントリ・ドア・ハンドルを使用してドアを施錠または解錠できるようになるまでに 2 秒ほどお待ちください。これにより、車の応答を解錠したりすることなく、ドア・ハンドルを引いて車がロックされているかどうか確認できます。
- Uconnect 設定を使用してパッシブ・エントリを解除した場合は、「Frequency Operated Button Integrated Key (FOBIK-Safe)（頻繁に操作するボタン、内蔵キー）」に記載のキー・フォブ保護が作動／機能し続けます。
- キー・フォブの電池が消耗している場合、パッシブ・エントリ・システムは作動しません。

オート・ドア・ロック – タイプ別装備

オート・ドア・ロック機能は、初期設定で有効になっています。この機能が有効のときは、車速が 15 mph (24 km/h)を超えるとドア・ロックが自動的にロックされます。オート・ドア・ロック機能は、お客様が書面で要請することで、正規ディーラーが有効または無効にできます。正規ディーラーにお問い合わせください。

チャイルド・プロテクション・ドア・ロック・システム – リヤ・ドア

リヤ・シートの小さなお子さまの安全のために、リヤ・ドアにはチャイルド・セーフティ・リヤ・ドア・ロックが備えられています。

このシステムを利用するには、各リヤ・ドアを開けて、ロック・アクチュエータのキャップを取り外します。次に、マイナス・ドライバ(またはメカニカル・キー)を使用してダイヤルを施錠または解錠の位置に回します。



チャイルド・セーフティ・リヤ・ドア・ロックの設定

メモ:

- チャイルド・プロテクション・ドア・ロック・システムの作動中は、内側のドア・ロックが解錠の位置にあっても外側のドア・ハンドルでしかドアを開けることができません。
- チャイルド・プロテクション・ドア・ロックを解除した後、システムが作動していないことを確認するために、内側のドア・ハンドルを操作してロック解除位置にあることを確かめてください。
- チャイルド・プロテクション・ドア・ロック・システムを設定した後、システムが作動していることを確認するために、内側のドア・ハンドルを操作してロック位置にあることを確かめてください。
- このシステムが作動しているときに緊急脱出するには、ロック・レバー(ドア・トリム・パネルにある)を後方に動かし、ウインドウを下ろし、車外のドア・ハンドルでドアを開けてください。

警告!
衝突の際に、車内に乗員が取り残されることがないよう注意してください。チャイルド・プロテクション・ロックが作動している(ロックされている)場合は、車外からしかリヤ・ドアを開けることができません。

メモ:

- お子さまを連れているときは、必ずこの装置を使用してください。両方のリヤ・ドアでチャイルド・ロックを作動させた後は、車外のドア・ハンドルでドアを開けようとしてみて、ロックが有効であることを確認してください。チャイルド・プロテクション・ドア・ロック・システムが作動すると、車内からドアを開けることはできません。車両から離れるときは、車内にだれも残っていないことを確認してください。
- タクシーとして使用する車両や現地の地方自治体の条例に従って黄色のライセンス・プレートで使用する場合、チャイルド・プロテクション・ドア・ロック・システムを無効にする必要があります。

フロント・ドアの取り外し

メモ:

カウル・マウント式ミラーは純正付属品ではありません。ドアやドアミラーを取り付けずに公道を走行しないでください。

警告!
ドアを取り外したまま公道を運転しないでください。万一のときに保護されません。この手順は、オフ・ロード走行を行う場合のみを想定しています。この警告に従わないと、死亡または重傷につながるおそれがあります。



ドア取り外し警告ラベル

警告!

- ドアを取り外した状態でオフ・ロード運転をするときは、すべての乗員はシートベルトを着用する必要があります。オフ・ロード走行については、⇨ ページ 144 を参照してください。
- 取り外したドアは車両内に保管しないでください。事故の場合にけがをすることがあります。

注意!

車両のサイド・カメラの配線は助手席ドアを通って取り回されています。車両のカメラ・システムを損傷しないように、適切な配線を注意して取り外してください。

メモ:

- ドアは大変重たいので、取り外す場合は十分注意してください。
- ドアの再取り付けの際に締め付けすぎるとヒンジ・ピンが破損するおそれがあります(最大トルク:10N·m/7.5ft lb)。オフ・ロード走行については、⇨ ページ 144 を参照してください。
- フロント・ドアを取り外すと、インストルメント・パネル・ディスプレイに「Blind Spot Alert Temporarily Unavailable(ブラインド・スポット・アラート一時的に使用不可)」と表示されます。パワー・ミラーおよびパワー・ドア・ロックも使用できなくなります。

フロント・ドアを取り外すには、以下の手順に従ってください。

1. 損傷する恐れがあるので、ウインドウを下ろします。
2. 上部および下部の外側ヒンジからヒンジ・ピン・スクリュを取り外してください(#T50 Torx ヘッド・ドライバーを使用)。

メモ:

ヒンジ・ピン・スクリュとナットは、リヤ・ロード・フロア下のリヤ・カーゴ・トレイに収納できます。

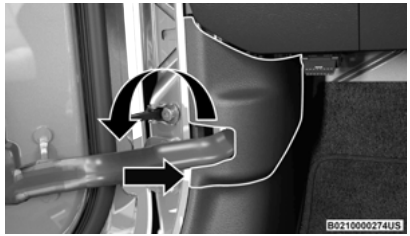


ヒンジ・ピン・スクリュ

3. タブが外れるまで、ドア・フレームに沿ってプラスチック・パネルをシートの方にスライドさせて、インストルメント・パネルの下のプラスチック・ワイヤ・アクセス・ドアを取り外します。

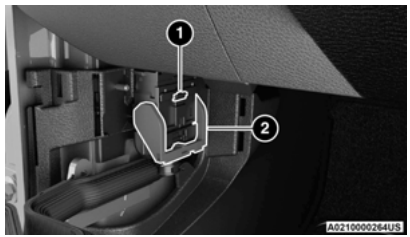
メモ:

こじあけないでください。プラスチック・カバーが破損します。



ワイヤ・アクセス・ドア

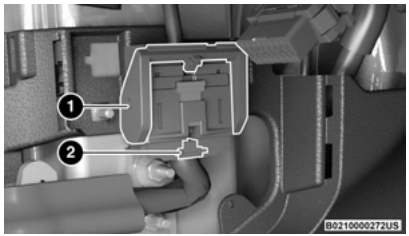
4. 赤いロッキング・タブを引っ張ってワイヤ・ハーネスのロックを解除します。



閉じられているワイヤ・ハーネス

1 - 赤色のロッキング・タブ
2 - ワイヤ・ハーネス・レバー(閉位置)

5. ワイヤ・ハーネスの下にある黒いセキュリティ・タブを押したまま、ハーネスを開位置に持ち上げます。



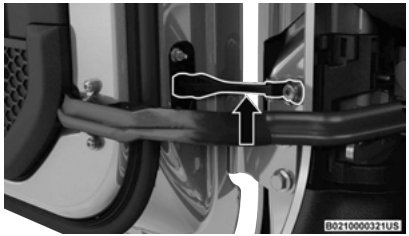
ワイヤ・ハーネスを開く

1 - ワイヤ・ハーネス・レバー（開位置）
2 - 黒色のセキュリティ・タブ

6. ワイヤ・ハーネスが開いた状態で、ワイヤ・コネクタを下方に**真っ直ぐに**引っ張って抜きます。ワイヤ・コネクタをロア・ドア・バスケットに保管します。
7. ドアを開いた状態で、ボディサイドのドア・チェック取り付け部からチェック・ネジを取り外します（#T40 Torx ヘッド・ドライバを使用）。

メモ：

再度取り付ける際に簡単になるように、チェック・アームを伸ばした位置のままにします。ドアを取り外した状態のときに、チェック・アームがドア内に押し込まれた場合は、次のメモを参照してください。



ドア・チェック・アーム

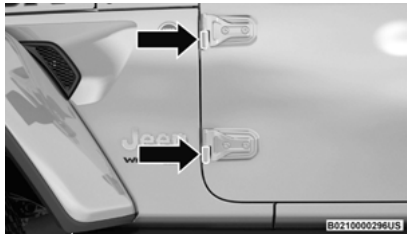
8. ドアを開いた状態で、もう１人の助けを借りてドアを持ち上げてヒンジからヒンジ・ピンを外し、ドアを取り外します。

フロント・ドアの取り付け

1. ドアの上部および下部ヒンジ・ピンの位置を確認し、ヒンジ・ピンを車両のボディ・ヒンジに上から差し込みます。

メモ：

上部ヒンジ・ピンの方が長くなっており、取り付けの際にこれを先に差し込むと、ドアを所定位置に導きやすくなります。



ヒンジ・ピンの位置

2. ドアを開いた状態で、ドア・チェック ブラケットとボディサイドの穴の位置を合わせます。チェック・スクリュを差し込み、#40 Torx ヘッド・ドライバを使用して、27.0N·m（19.9ft·lb）で締め付けます。
3. 上部および下部ヒンジ・ピン・スクリュをボディ・ヒンジに差し込みます。#T50 Torx ヘッド・ドライバを使用して、スクリュを 5.2N·m（3.8ft·lb）で締め付けます。

メモ：

チェック・アームがドアの内側で止まって動かない場合は、次の手順に従ってチェック・アームを取り付けてください。

1. チェック・アーム・ネジをチェック・アーム・ブラケットに差し込みます。ネジの向きが正しいことを確認してください。
2. ネジをゆっくりと引っ張り、抵抗が大きくなるまでチェック・アームを引き出します。チェック・アームをいっぱいまで引き出さないでください。
3. 車内に座り、ドアを途中まで閉めた状態で保持し、ネジをボディの穴に差し込みます。

4. 指でネジを時計回りに 2 回転以上回します。ネジを軽く引っ張って、ネジが固定されていることを確認します。
5. ドア・ハンドルを使って、ドアをゆっくりと押し開きます。チェック・アームがドアから引き出されます。チェック・アームがネジに当たって音がすることがあります。
6. 指示に従って、ネジを完全に締め付けます。

警告!

けがを防ぐために、取り外しおよび取り付けの際は、腕、手、指、他の物体をチェック・アームの周辺に近づけないでください。

注意!

- ドア・チェックをボディに再取り付けする前にドアを閉じないでください。ドア・チェックが損傷するおそれがあります。
- Torx ネジを締め付けすぎないでください。車両の部品が損傷するおそれがあります。
- ドアの取り付けの際に締め付けすぎるとヒンジ・ピンが破損するおそれがあります（最大トルク：8.1N-m/6.0ft-lb）。

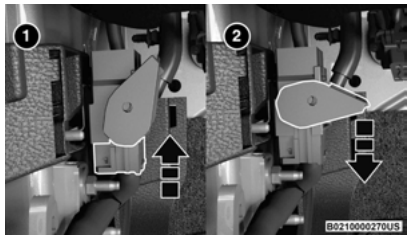
ワイヤ・コネクタのワイヤ・ハーネスへの取り付け

車両ドアのワイヤ・コネクタを車両のすぐ内側にあるハーネスに取り付けるには、以下の手順に従ってください。

メモ：

取り付ける際は、ワイヤ・コネクタに十分なたるみがあることを確認してください。必要に応じて、ドアを少し閉じて、たるみを確保します。

1. ワイヤ・コネクタをワイヤ・ハーネスに**真っ直ぐに**差し込み、軽く押して、ワイヤ・ハーネス・レバーがラッチ・ピンとともに下がり始めるようにします。



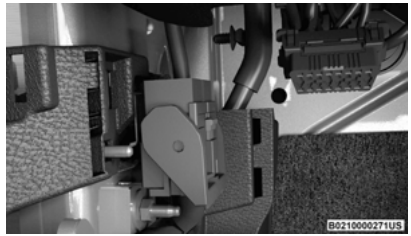
ワイヤ・ハーネスの接続

1 - コネクタをハーネスに真っ直ぐに差し込む
2 - ワイヤ ハーネス レバーが下がり始める

注意!

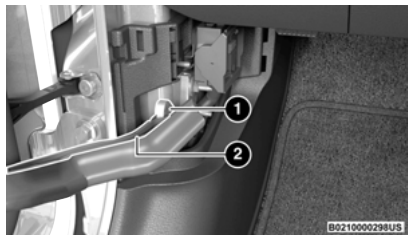
ワイヤ・コネクタをハーネスに正しく再接続しないと損傷が発生し、そうした損傷は新車保証の対象とはなりません。

2. ワイヤ コネクタを押し込む力によってハーネス・レバーが動き始めたら、ワイヤ・ハーネス・レバーを全閉位置まで下げます。



全閉位置

3. 赤色のロッキング・タブを押し下げて所定の位置に固定します。
4. ドアの布製ストラップを車両のすぐ内側にある金属製フックに取り付けます。



布製ストラップの取り付け

1 - 金属製フック
2 - 布製ストラップ

5. ワイヤ・アクセス・ドアを元の位置に取り付けます。

リア・ドアの取り外し (4 ドア・モデル)

警告!

ドアを取り外したまま公道を運転しないでください。万一のときに保護されません。この手順は、オフ・ロード走行を行う場合のみを想定しています。この警告に従わないと、死亡または重傷につながるおそれがあります。



A0210000002US

ドア取り外し警告ラベル

警告!

- ドアを取り外した状態でオフ・ロード運転をするときは、すべての乗員はシートベルトを着用する必要があります。オフ・ロード走行については、⇨ ページ 144 を参照してください。
- 取り外したドアは車両内に保管しないでください。急停車時、悪路走行中、衝突の際にドアが跳ねて、けがまたは死亡を招くことがあります。

メモ:

- ドアは大変重たいので、取り外す場合は十分注意してください。
- ドアの再取り付けの際に締め付けすぎるとヒンジ・ピンが破損するおそれがあります(最大トルク: 10N·m/7.5ft lb)。オフ・ロード走行については、⇨ ページ 144 を参照してください。

リヤ・ドアを取り外すには、以下の手順に従ってください。

1. 損傷する恐れがあるので、ウインドウを下ろします。
2. 上部および下部の外側ヒンジからヒンジ・ピン・スクリュを取り外してください(#T50 Torx ヘッド・ドライバーを使用)。

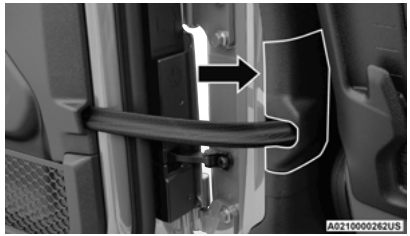
   メモ:

   ヒンジ・ピン・スクリュとナットは、リヤ・ロード・フロア下のリヤ・カーゴ・トレイに収納できます。



ヒンジ・ピン・スクリュ

3. フロント・シートを前方へいっぱいまでスライドさせます。
4. こじ開けて、B ピラーの下部からプラスチック・ワイヤ・アクセス・ドアを取り外します。

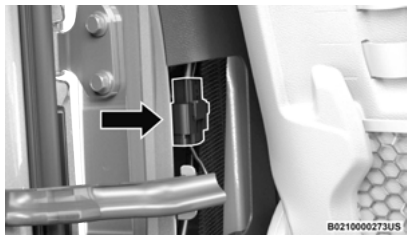


ワイヤ・アクセス・ドア

5. ワイヤ・コネクタを外してください。

   メモ:

   ワイヤ・ハーネスのベース部にあるツメをつまみます。こうすることでコネクタのツメのロックが外れて、ワイヤ・ハーネスを取り外すことができます。



ワイヤ・コネクタ

6. ドアを開いた状態で、ボディのドア・チェック取り付け部からチェック・ネジを取り外します（#T40 Torx ヘッド・ドライバを使用）。

メモ：
再度取り付ける際に簡単になるように、チェック・アームを伸ばした位置のままにします。



ドア・チェック・アーム

7. ドアを開いた状態で、もう 1 人の助けを借りてドアを持ち上げてヒンジからヒンジ・ピンを外し、ドアを取り外します。

警告!

けがを防ぐために、取り外しおよび取り付けの際は、腕、手、指、他の物体をチェック・アームの周辺に近づけないでください。

ドアを取り付けるには、取り外し手順と逆の作業を行ってください。

メモ：
上部ヒンジには長いピンがあり、これを使用すると再取り付けの際にドアを所定位置にガイドすることができます。

ステアリング・ホイール

チルト／テレスコピック・ステアリング・コラム

この機能により、ステアリング・コラムを上下に傾けることができます。また、ステアリング・コラムの長さを調整することができます。チルト／テレスコピック・レバーは、ステアリング・コラムにあります。



チルト／テレスコピック・ステアリング・コラム・レバー

ステアリング・コラムのロックを解除するには、コントロール・ハンドルを下側に（フロア方向に）押します。ステアリング・コラムを傾けるには、ステアリング・ホイールを上下させお好みの角度に調節してください。ステアリング・コラムの長さを調整するには、ステアリング・ホイールを手前に引いて長くするか、下へ押して短くします。ステアリング・コラムを所定位置にロックするには、コントロール・ハンドルをいっぱいまで引き上げて固定してください。

警告!

運転しながらステアリング・コラムの調整を行わないでください。運転中にステアリング・コラムを調整すると、車を制御できなくなることがあります。ここに示す警告内容に従わないと、重傷または死亡事故につながる恐れがあります。

ステアリング・ホイール・ヒータ - タイプ別装備



ステアリング・ホイールには電熱線が入っており、低温時に手を暖かく保つことができます。ステアリング・ホイール・ヒータの温度設定は固定されています。ステアリング・ホイール・ヒータをオンにすると、オペレータがオフにするまでオンのままです。すでに暖かい場合は、ステアリング・ホイール・ヒータはオンにならないことがあります。

ステアリング・ホイール・ヒータ・ボタンは Uconnect システム内にあり、装備されている場合は、ラジオの下のインストルメント・パネルにあります。このボタンには、タッチスクリーンの「エアコン」または「コントロール」メニューからアクセスできます。

- ステアリング・ホイール・ヒータ・ボタンを 1 回押すと、ヒータがオンになります。
- ステアリング・ホイール・ヒータ・ボタンをさらに押す（2 回目）と、ヒータがオフになります。

メモ：
ステアリング・ホイール・ヒータを作動させるには、エンジンが作動している必要があります。

警告!

- 高齢、慢性疾患、糖尿病、脊髄損傷、薬物治療、アルコールの摂取、疲労、またはその他の身体状態により、皮膚に痛みを感じることができない方は、ステアリング・ホイール・ヒータを使用する場合に注意が必要です。特に長時間使用した場合、低温でもやけどを起こす恐れがあります。
- 種類や素材を問わず、毛布やステアリング・ホイール・カバーなど、断熱効果のあるものをステアリング・ホイールの上に置かないでください。ステアリング・ホイール・ヒータが過熱する恐れがあります。

UCONNECT の音声認識

音声認識の概要

Uconnect の音声認識の使用開始時には、このクイック・ヒントが役立ちます。重要なボイス・コマンドと、お使いの車両の音声認識(VR)システムのコントロールのために知っておくべきヒントが記載されています。

基本的ボイス・コマンド

下記の基本的ボイス・コマンドは、Uconnect システムの使用中いつでも使用できます。

ステアリング・ホイールの「VR(音声認識)」ボタンを押します。ビープ音の後で、

- 「**Cancel(キャンセル)**」と発声すると、現在のボイス・セッションが中止されます。
- 「**Help(ヘルプ)**」と発声すると、推奨ボイス・コマンドのリストが聞こえます。
- 「**Repeat(リピート)**」と発声すると、システムの指示が再度聞こえます。

音声認識システムの状態を知らせるインジケーターに注意してください。

音声認識の開始

「VR(音声認識)」ボタンを使用して、音声認識システムの有効化／無効化を行います。

メモ:

音声認識システムは複数の言語を認識できます。システム言語はヘッド・ユニットの Uconnect の設定から変更できます。言語設定の変更に関する詳細については、
⇨ ページ 150

音声認識の使用に役立つヒント:

- 背景の雑音を少なくしてください。たとえば、風の音や他の乗員の会話が認識に影響することがあります。
- まっすぐ前方を向いて、通常の速さと声量ではっきりと話してください。
- ボイス・コマンドを出す場合は毎回、まず「VR(音声認識)」ボタンを押して、ビープ音が鳴った後、ボイス・コマンドを発声してください。
- 「VR(音声認識)」ボタンを押して、現在のカテゴリのボイス・コマンドを発声することで、ヘルプ・メッセージまたはシステム・プロンプトを中断できます。

メモ:

音声認識機能が搭載されていない車両でも、音声認識ボタンがある場合があります。これらのボタンは、Siri または Google アシスタントの音声認識セッションを開始することで、Android Auto™および Apple CarPlay®と連動します。お使いのデバイスによっては、音声認識セッションを開始するために VR ボタンを 1 秒間長押しする必要があります。



Uconnect のボイス・コマンド・ボタン

1 - 押すと、通話の開始または応答、テキストの送受信を行います
2 – 「VR(音声認識)」ボタンを押すと、ラジオ機能、メディア機能、ナビゲーション機能、ヒータ／エアコン機能を開始します
3 – 押すと、通話が終了します

補足情報

© 2024 FCAIO.All rights reserved.Mopar および Uconnect は登録商標であり、Mopar Owner Connect は FCAIO の商標です。

シート

シートは車両の乗員保護拘束装置の一部です。

警告!

- 車の内外に関係なく、カーゴ・エリアへの乗車は危険です。衝突の際にカーゴ・エリアに乗っていると、重傷または死亡事故につながる危険性が高くなります。
- シートとシートベルトがない場所には人を乗せないでください。衝突の際にカーゴ・エリアに乗っていると、重傷または死亡事故につながる危険性が高くなります。
- すべての乗員がシートベルトを正しく使用してシートに座っていることを確認してください。

電動調整フロント・シート タイプ別装備

警告!

- 運転中のシートの調整は危険です。運転中にシートを動かすと、操作を誤り、衝突して重大なけがや死亡事故につながる恐れがあります。
- シートは、シートベルトを着用する前に車を停車した状態で調整する必要があります。シートベルトの調整が不適切な場合、大きなけがや死亡事故につながる恐れがあります。

一部のモデルには、運転席と助手席（装備されない場合もあります）にパワー・シートが装備されています。パワー・シート・スイッチおよびパワー・シート・リクライニング・スイッチは、シートのドア側、フロア付近にあります。パワー・シート・スイッチを使用して、シートの高さ、角度、または前後位置を調節します。パワー・シート・リクライニング・スイッチを使用して、シート・バックの角度を調節します。



パワー・シート・スイッチ

1–パワー・シート・スイッチ
2 - パワー・リクライニング・スイッチ

フロント・シートの前後調整

シートは前後位置を調整できます。シート・スイッチを前方または後方に押すと、シートはスイッチの方向に移動します。必要な位置に達したら、スイッチを放します。

高さ調整

シートの高さを上下に調整できます。シート・スイッチを上に引く、または下に押すと、シートはスイッチの方向に移動します。必要な位置に達したら、スイッチを放します。

チルト調整

シート・クッションの角度は上下に調整できます。シート・スイッチの前部を上に引いたり、下に押したりすると、シート・クッションの前部がスイッチの方向に動きます。

シート・バックの前後のリクライニング

シート・バックは前後両方にリクライニングさせることができます。パワー・リクライニング・スイッチを前または後ろに押します。シート・バックがスイッチの方向に移動します。必要な位置に達したら、スイッチを放します。

警告!

シート・バックを倒し、ショルダ・ベルトが胸部から離れた状態で車を運転しないでください。衝突時、シートベルトの下で体が滑り、大きなけがや死亡事故につながる恐れがあります。

パワー・ランバ - タイプ別装備

運転席パワー・シートまたは助手席パワー・シートを装備している車両は、パワー・ランバも装備している場合があります。パワー・ランバ・スイッチは、パワー・シートのドア側にあります。ランバ・サポートを強くするには、スイッチの前方を押します。ランバ・サポートを弱くするには、スイッチの後方を押します。スイッチを上方へ押すとサポートが上昇し、下方へ押すとサポートが下降します。

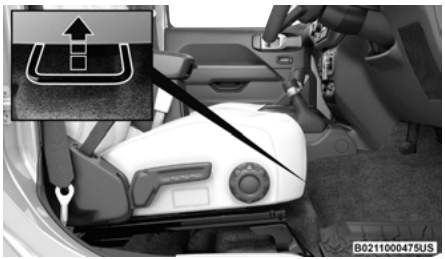


パワー・ランバ・スイッチ

手動調整フロント・シート

フロント・シートの前後手動調整

シートはシート・クッションの前のフロア近くにあるバーを使用して前後の位置を調整できます。シートに座って、シート・クッションの下にあるバーを上に持ち上げてシートを前後に動かします。希望の位置に達したら、バーを放します。次に、体重を利用してシートを前後に動かし、シートのアジャスタが固定されていることを確認してください。



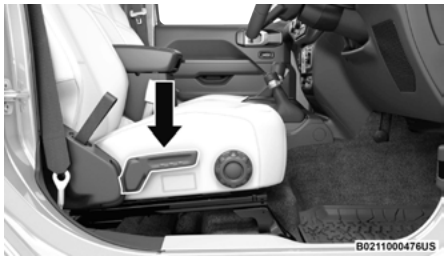
調節バーの位置

警告!

- 運転中のシートの調整は危険です。運転中にシートを動かすと、操作を誤り、衝突して重大なけがや死亡事故につながる恐れがあります。
- シートは、シートベルトを着用する前に車を停車した状態で調整する必要があります。シートベルトの調整が不適切な場合、大きなけがや死亡事故につながる恐れがあります。

シートの高さの手動調節

運転席の高さは、シートのドア側にあるラチェット・ハンドルを使用して上下に動かせます。シートを高くするにはハンドルを引き上げ、低くするにはハンドルを押し下げます。目的の位置に達するまでは上げ下げ操作が何回か必要になることがあります。



シートの高さの調節

フロント・シートのリクライニングの手動調整

シートをリクライニングするには、リクライニング・ストラップを引き、シートを倒したい方向に応じて前方または後方にもたれかかります。目的の位置に達したらストラップを放すと、シート・バックが所定の位置に固定されます。



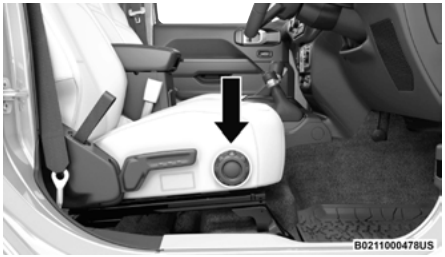
リクライニング・ストラップ

警告!

シート・バックを倒し、ショルダ・ベルトが胸部から離れた状態で車を運転しないでください。衝突時、シートベルトの下で体が滑り、大きなけがや死亡事故につながる恐れがあります。

ランバ・サポート

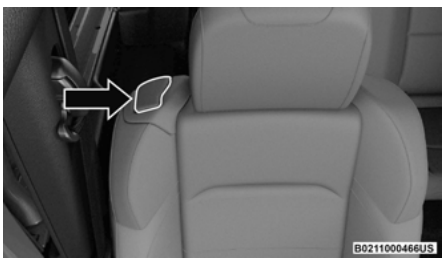
ランバ・コントロール・ノブは、運転席のドア側にあります。コントロールを前に回すとサポートが強くなり、後ろに回すとサポートが弱くなります。



ランバ・コントロール・ノブ

助手席イージー・エントリ・シート - 2ドア・モデル

シート・バックの外側にあるイージー・エントリ・レバーを上に引っ張り、シート全体を前方にスライドさせます。



イージー・エントリ・レバー

シートを通常の位置に戻すには、ロックするまでシート・バックを立て、レールにロックするまでシートを後方に押します。

メモ:

- 助手席シートにはトラック・メモリがあり、シートは以前の位置に戻ります。
- シートを自動的に通常の位置に戻すときは、リクライニング・ストラップとイージー・エントリ・レバーを使用しないでください。

6:4 分割折りたたみ式リヤ・シート – 4ドア・モデル

ストレージ・スペースを広げるために、各リヤ・シートを倒して平らにすることができます。

メモ:

- 前部座席が完全に垂直位置になっており、前方に移動していることを確認します。こうすると、リヤ・シートを簡単に折りたたむことができます。
- シートを折りたたむときにセンタ・コンソールとの接触を避けるために、センタ・ヘッド・レストは最低位置にする必要があります。

警告!

- 車の内外に関係なく、カーゴ・エリアへの乗車は非常に危険です。衝突の際にカーゴ・エリアに乗っていると、重傷または死亡事故につながる危険性が高くなります。
- シートとシートベルトがない場所には人を乗せないでください。
- すべての乗員がシートベルトを正しく使用してシートに座っていることを確認してください。

リヤ・シートを折りたたむには

リヤ・シートの上部外側には、それぞれ 2 つのリリース・レバーがあります。2 つのリリース・レバーのうち大きい方は、シートとヘッド・レストを同時に折りたたみます。小さい方のレバーは、視界を向上させるために、独立してヘッド・レストを折りたたみます。

シートを折りたたむには、大きい方のリリース・レバーを上に持ち上げ、シート・バックをゆっくりと折りたたみます。レバーを引くと、ヘッド・レストはシートとともに自動的に折りたたまれます。



シート・バック・リリース・レバー

メモ:

シートを折りたたんだ状態で長期間放置すると、シート・ベルト・バックルによってシート・クッションが変形することがあります。これは正常な状態です。シートを垂直位置にすると、シート・クッションは徐々に通常の形状に戻っていきます。

リヤ・シートを元に戻す方法

シート・バックを持ち上げ、所定の位置に固定します。所定の位置に固定されるまで、ヘッド・レストを持ち上げま

す。カーゴ・エリアの荷物が干渉している場合、背もたれが完全にロックできなくなり、シート・クッションを適切な位置に戻すことが困難になります。

警告!

シート・バックが所定の位置にしっかりと固定されていることを確認してください。シート・バックが所定の位置にしっかりと固定されていないと、そのシートにチャイルド・シートを確実に取り付けることや、乗員が安定して座ることができません。シートが適切に固定されていない場合、重傷につながる恐れがあります。

折りたたみ／回転リヤ・シート - 2ドア・モデル

メモ :

- リヤ・シートを折りたたむ前に、フロント・シートの位置を調整しておく必要がある場合があります。
- 前部座席が完全に垂直位置になっており、前方に移動していることを確認します。こうすると、リヤ・シートを簡単に折りたたむことができます。

リヤ・シートを折りたたむ

1. シート・バック・リリース・レバーを引き上げてシート バックを前に倒します。



リヤ・シート・バック・リリース・レバー

2. ゆっくりとシート全体を前方へ倒します。

リテーナ・ストラップを使用する

1. リヤ・シートの後部には 2 つのリテーナ・ストラップがあり、各 B ピラーの後部には対応する 2 つのワイヤ・ループがあります。ストラップのフック／ループ・ファスナを開き、ワイヤ・ループに通します。シートが折りたたみ位置になるようにフック／ループ・ファスナを折りたたみます。これは両側で実行してください。



リヤ・シート回転位置固定ストラップ

2. シートを正常な直立位置に戻すには、逆の手順を実行します。

リヤ・シートを取り外す

1. リリース・バーの両端を押し下げて、シートを引いて下部ブラケットから離してください。



リリース・バーの位置

2. 車両からシートを取り外します。
3. リヤ・シートを取り付けるには、逆の手順を実行します。

メモ :

リヤ・シート・ラッチを取り付けないまま車両を走行させないでください。

警告!

- 車の内外に関係なく、カーゴ・エリアへの乗車は非常に危険です。衝突の際にカーゴ・エリアに乗っていると、重傷または死亡事故につながる危険性が高くなります。

(続き)

警告!

- シートとシートベルトがない場所には人を乗せないでください。
- すべての乗員がシートベルトを正しく使用してシートに座っていることを確認してください。
- シートがフロア・アタッチメントにしっかり固定されていないと、衝突の際、乗員がけがをする恐れがあります。必ずシートが完全に固定されていることを確認してください。

シート・ヒータ – タイプ別装備



シート・ヒータのコントロール・ボタンは、タッチスクリーンの「Climate(ヒータ/エアコン)」画面または「Comfort(コンフォート)」画面にあります。

- 「HEATED SEAT(シート・ヒータ)」ボタンを 1 回押すと「HI(高温)」設定が ON になります。
- 「HEATED SEAT(シート・ヒータ)」ボタンをさらに押す(2 回目)と、「MED(中温)」設定が ON になります。
- 「HEATED SEAT(シート・ヒータ)」ボタンをさらに押す(3 回目)と、「LO(低温)」設定が ON になります。
- 「HEATED SEAT(シート・ヒータ)」ボタンをさらに押す(4 回目)と、ヒータが OFF になります。

メモ:

- シート・ヒータを作動させるには、エンジンが作動している必要があります。
- 選択したヒータのレベルは、オペレーターが変更するまでオンのままです。

警告!

- 高齢、慢性疾患、糖尿病、脊髄損傷、薬物治療、アルコールの摂取、疲労、またはその他の生理的状態により、皮膚に痛みを感じることができない方は、シート・ヒータを使用する場合に注意が必要です。特に長時間使用した場合、低温やけどを起こす恐れがあります。
- 毛布やクッションなど、断熱効果のあるものを座席の上またはシート・バック表面に置かないでください。シート・ヒータが過熱する恐れがあります。過熱状態のシートに座り続けると、シートの表面温度が上昇して、重度のやけどを負う恐れがあります。

リヤ・シート・アームレスト - タイプ別装備

リヤ・シートの中央部は、カップ・ホルダ付きリヤ・アームレストとしても使用できます。折りたたむには、ヘッド・レストの下のプル・ストラップをつかみ、前方に引きます。



リヤ・シート・アームレスト

メモ:

カップ・ホルダ・ライナは取り外して清掃できます。

警告!

シート・バックが所定の位置にしっかりと固定されていることを確認してください。シート・バックが所定の位置にしっかりと固定されていないと、そのシートにチャイルド・シートを確実に取り付けることや、乗員が安定して座ることができません。シートが適切に固定されていない場合、重傷につながる恐れがあります。

ヘッド・レスト

ヘッド・レストは、後方から追突されたときに頭部の動きを制限して負傷の危険性を低減します。ヘッド・レストは、ヘッド・レストの上端が耳の上端より上になるように調整してください。

警告!

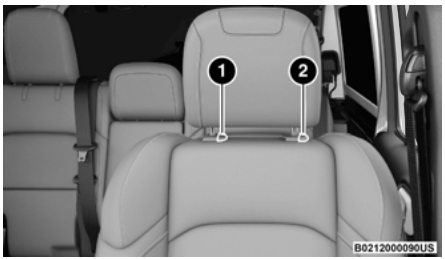
- 運転者を含むすべての乗員は、衝突時に首を損傷する危険性を最小限に抑えるために、ヘッド・レストを正しい位置に調節してから、車両を運転したり着座したりしてください。
- 車が動いているときには、ヘッド・レストを調整しないでください。ヘッド・レストの調整が不適切な状態で運転したり、取り外した状態で運転したりすると、衝突時に傷害や死亡事故につながる恐れがあります。

フロント・ヘッド・レスト

ヘッド・レストを上げるには、ヘッド・レストを上に引きます。ヘッド・レストを下げるには、ヘッド・レストのベース部にある調整ボタンを押してヘッド・レストを下に押し下げ

ます。ヘッド・レストを調整する場合は、リリース・ボタンを押す必要はありません。

ヘッド・レストを取り外すには、ヘッド・レストを上限まで引き上げ、そのまま上に引きながら、各ロッドのベース部にある調整ボタンとリリース・ボタンを押します。ヘッド・レストを元のとおりに取り付けるには、ヘッド・レストのロッドを穴に差し込み、ヘッド・レストを下向きに押し込みます。次に、適切な高さに調整してください。



フロント・ヘッド・レスト

1 - リリース・ボタン
2 – 調整ボタン

警告!

- ヘッド・レストを固定していない場合、衝突または急停止の際にヘッド・レストが前方に飛ばされ、乗員が重傷を負ったり、死亡にいたる恐れがあります。ヘッド・レストを取り外した場合は、必ず車室内以外の場所に収納して固定しておいてください。

(続き)

警告!

- 取り外したヘッド・レストは、乗員保護のため、すべてを必ず元のとおりに車両に取り付ける必要があります。車両を走行させる場合、または座席に着席する場合は、事前に上記の取り付け手順に従ってください。

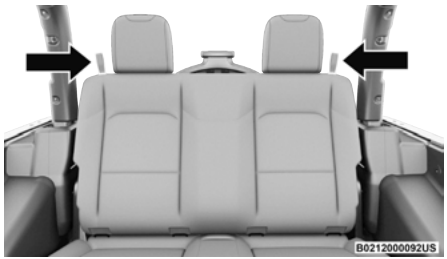
メモ:

乗員の頭部後方の空間を広げるために、ヘッド・レストを後方の正しくない位置にすることはおやめください。

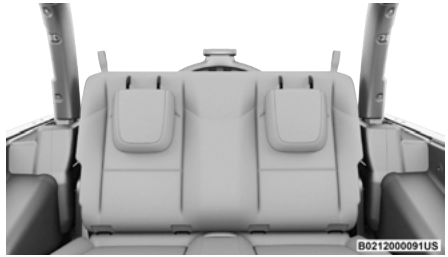
リヤ・ヘッド・レスト - 2ドア・モデル

リヤ・シートには調整機能なし(格納式)のヘッド・レストが装備されています。

外側ヘッド・レストを格納するには、各リヤ・シートの上部外側にあるリリース・ストラップを引っ張ります。



リヤ・ヘッド・レスト格納ストラップの位置



格納されたリヤ・ヘッド・レスト

ヘッド・レストを上向き位置に戻すには、所定の位置にはまるまでヘッド・レストを持ち上げます。

チャイルド・シート・テザーの取り回しの詳細については、⇨ ページ 190 を参照してください。

警告!

- リヤ・シート・ヘッドレストが取り付けられていないまま、リヤ・シートに乗員が着席した状態では、車を走行させないでください。衝突の際にヘッドレストが取り付けられていない位置に乗っていると、重傷または死亡事故につながる危険性が高くなります。
- ヘッド・レストを固定していない場合、衝突または急停止の際にヘッド・レストが前方に飛ばされ、乗員が重傷を負ったり、死亡にいたる恐れがあります。ヘッド・レストを取り外した場合は、必ず車室内以外の場所に収納して固定しておいてください。
- 取り外したヘッド・レストは、乗員保護のため、すべてを必ず元のとおりに車両に取り付ける必要があります。車両を走行させる場合、または座席に着席

(続き)

警告!

する場合は、事前に上記の取り付け手順に従ってください。

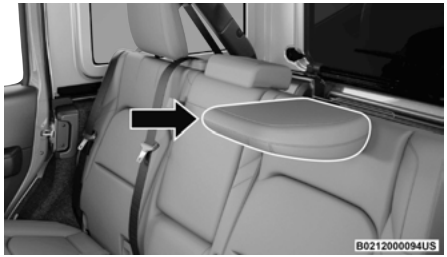
リア・ヘッド・レスト – 4ドア・モデル

リヤ・シートには、調節不可（格納可）のドア側ヘッド・レストと、着脱式（調節可）のセンタ・ヘッド・レストが装備されています。

外側ヘッド・レストを格納するには、各リヤ・シートの上部にあるインナ・リリース・レバーを引っ張ります。



リヤ・ヘッド・レスト・レバー



格納されたリヤ・ヘッド・レスト

ヘッド・レストを上向き位置に戻すには、所定の位置にはまるまでヘッド・レストを持ち上げます。

センタ・ヘッド・レストを上げるには、ヘッド・レストを引き上げます。センタ・ヘッド・レストを下げるには、ヘッド・レストのベース部にある調節ボタンを押してからヘッド・レストを下に押します。

センタ・ヘッド・レストを外すには、ヘッド・レストのベース部にあるリリース・ボタンを押し、ヘッド・レストを上に引きます。

ヘッド・レストを取り付けるには、リリース・ボタンを押した状態で、ヘッド・レストを下に押します。チャイルド・シート・テザーの取り回しの詳細については、⇨ ページ 190 を参照してください。

メモ：

シートを折りたたむときにセンタ・コンソールとの接触を避けるために、センタ・ヘッド・レストを下げます。

警告!

- リヤ・シート・ヘッドレストが取り付けられていないまま、リヤ・シートに乗員が着席した状態では、車を走行させないでください。衝突の際にヘッドレストが取り付けられていない位置に乗っていると、重傷または死亡事故につながる危険性が高くなります。
- ヘッド・レストを固定していない場合、衝突または急停止の際にヘッド・レストが前方に飛ばされ、乗員が重傷を負ったり、死亡にいたる恐れがあります。ヘッド・レストを取り外した場合は、必ず車室内以外の場所に収納して固定しておいてください。
- 取り外したヘッド・レストは、乗員保護のため、すべてを必ず元のとおりに車両に取り付ける必要があります。車両を走行させる場合、または座席に着席する場合は、事前に上記の取り付け手順に従ってください。

ミラー

ルーム・ミラー

自動防眩式ルーム・ミラー

ルーム・ミラーは、上下左右に調節することができます。リヤ・ウインドウを通して見る後ろの視界を基準にして、中央にくるようにミラーを調節します。

このミラーは、自動的に後続車のヘッドライトの反射を調節します。

メモ：

車両を「R（リバース）」にすると、視界を十分に確保できるように自動防眩機能は作動しなくなります。



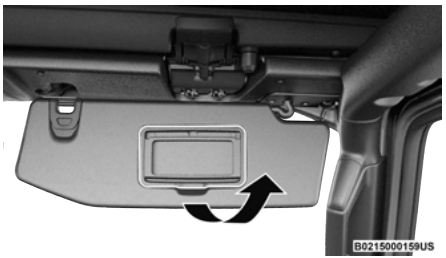
自動防眩式ルーム・ミラー

自動防眩機能は、Uconnect 設定を使用してオン／オフを切り替えることができます ⇨ ページ 150。

注意!
清掃中にミラーを傷つけないために、ガラス・クリーナをミラーに直接スプレーしないでください。清潔な布にガラス・クリーナをつけミラーを拭きます。

バニティ・ミラー – タイプ別装備

バニティ・ミラーを使用するには、どちらかのバイザを引き下げ、ミラー・カバーを上げます。



バニティ・ミラー・カバー

ドア・ミラー

最適な視界を得るには、隣の車線の車両がミラーの中央に映るように調整します。



ドア・ミラー

警告!
助手席側の凸状のドア・ミラーに映る他の車や物体は、実物よりも小さくまた遠くにあるように見えます。助手席側のドア・ミラーに頼りすぎると、他の車や物体に衝突する恐れがあります。助手席側のドア・ミラーに映る車両との距離やその大きさを判断するには、ルーム・ミラーを使用してください。

方向指示器付きドア・ミラー – タイプ別装備

方向指示器付きの運転席・助手席ドア・ミラーには、各ミラーの上部外側の隅に LED が収容されています。

この LED は方向指示器表示灯で、車両のフロントおよびリヤの対応する方向指示器と一緒に点滅します。非常点滅表示灯を点灯させた場合もこれらの LED が作動します。

パワー・ミラー - タイプ別装備

パワー・ミラーのスイッチは、ドア・ハンドルの横のドア・パネルにあります。



パワー・ミラー・スイッチ

パワー・ミラーのスイッチは、ミラー選択ボタンと 4 ウェイ・ミラー・コントロール・スイッチで構成されています。ミラーを調節するには、「L」（左）または「R」（右）ボタンを押して調整するミラーを選択します。

ミラー・コントロール・スイッチの 4 つのいずれかの矢印部分を押して、ミラーの向きを調節します。

ヒーテッド・ミラー - タイプ別装備

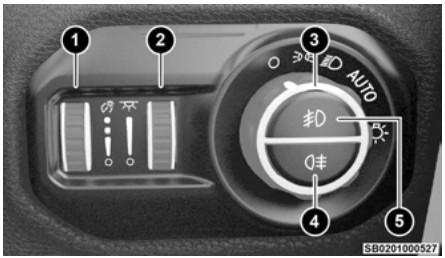


このミラーには霜や氷を溶かすためのヒータが付いています。この機能はリヤ・ウインドウ・デフロスタを ON にすると同時に作動します（タイプ別装備） ⇨ ページ 44。

車外灯

ヘッドライト・スイッチ

ヘッドライト・スイッチは、インストルメント・パネルの右側にあります。このスイッチはヘッドライト、車幅灯、オート・ヘッドライト（タイプ別装備）、インストルメント・パネルの照明、室内灯、フォグ・ライト（タイプ別装備）、ヘッドライト・レベリング（タイプ別装備）の操作を制御します。



ヘッドライト・スイッチ

1 - インストルメント・パネルのイルミネーション・コントロール
2 – アンビエント・ライト・イルミネーション・コントロール（タイプ別装備）
3 - ヘッドライト・コントロール
4 - リヤ・フォグ・ライト・スイッチ
5 - フロント・フォグ・ライト・スイッチ

車幅灯やインストルメント・パネルの照明を点灯するには、ヘッドライト・スイッチを「O」の位置から最初の停止位置まで時計回りに回します。ヘッドライト、車幅灯、インストルメント・パネルの照明を点灯するには、ヘッドライト・スイッチを 2 番目の停止位置まで回します。

デイタイム・ランニング・ライト（DRL）- タイプ別装備

デイタイム・ランニング・ライトが作動するのは、ロー・ビームが作動しておらず、エンジンが作動している場合です。DRL はパーキング・ブレーキをかけると消灯します。

メモ：
一部の車両では、車両の一方の側（方向指示器の作動時）、または車両の両方の側（ハザード警告灯作動時）のデイタイム・ランニング・ライトが消灯したり、減光したりします。

ハイ・ビーム／ロー・ビーム・スイッチ

マルチファンクション・レバーをインストルメント・パネルの方向に押すと、ヘッドライトがハイ・ビームになります。レバーは中央位置に戻ります。ヘッドライトをロー・ビームに戻すには、レバーをステアリング・ホイールの方向に引くか、レバーをインストルメント・パネルの方向に押します。



マルチファンクション・レバー

自動ハイ・ビーム・ヘッドライト制御 - タイプ別装備

自動ハイ・ビーム・ヘッドライト制御システムは、車両のヘッダに搭載されているカメラによってハイビームの切り替えを自動的に制御し、夜間の優れた前方照射性を実現します。このカメラは、車両特有の光を検知し、接近している車両が視界から消えるまでハイ・ビームをロー・ビームに自動的に切り替えます。

メモ：

- 自動ハイ・ビーム・ヘッドライト制御は、Uconnect の設定内の「Auto High Beams（オート・ハイ・ビーム）」にある「ON（オン）」を選択し、さらにヘッドライト・スイッチを「AUTO（オート）」位置にし、マルチファンクション・レバーをハイビーム位置してオンまたはオフにできます。
- 視界にある他の車両のヘッドライトやテールライトが破損していたり、汚れていたり、異物で覆われていると、切り替わるタイミングが遅くなることがあります（切り替わる際の車間距離が短くなります）。また、フロントウィンドウやカメラのレンズが汚れていたり、膜が付いていたり、その他の異物があると、システムが正しく機能しません。

パッシング

マルチファンクション・レバーを軽く手前に引くと、周囲の車両にヘッドライトで合図することができます。レバーを放すまでハイ・ビーム・ヘッドライトが点灯し続けます。

オート・ヘッドライト - タイプ別装備

このシステムは、周囲の明るさに応じてヘッドライトを自動的に点灯／消灯します。システムを ON にするには、ヘッドライト・スイッチをオート・ヘッドライトが作動する最後の停止位置まで時計回りに回します。オート・ヘッドラ

イト・システムを ON にすると、ヘッドライトの消灯遅延機能も ON になります。つまり、イグニッション・スイッチを「OFF」位置にしてから、最大 90 秒間ヘッドライトが点灯したままになります。オート・ヘッドライト・システムを OFF にするには、ヘッドライト・スイッチを「AUTO」位置から他の位置へ回します。

メモ：

- 消灯遅延時間は、まず Uconnect システムで有効にする必要があります。
- オート・モードでヘッドライトが点灯するには、エンジンが作動している必要があります。

消灯遅延時間

これは、暗い場所に駐車して車から離れるとき、安全のために最長 90 秒間ヘッドライトを点灯させておく機能です。ヘッドライトの消灯遅延は、「Uconnect Settings（Uconnect 設定）」⇨ ページ 150 内で 0、30、60、90 秒間の中から設定できます。

消灯遅延機能を作動させるには、ヘッドライトを点灯させたまま、イグニッション・スイッチを「OFF」位置にします。遅延消灯間隔は、ヘッドライト・スイッチがロー・ビーム位置から OFF になっている場合に開始します。ヘッドライト・スイッチが「AUTO（自動）」にあり、イグニッション・スイッチを OFF にする前にヘッドライトが点灯していた場合、遅延消灯間隔は自動的に開始します。

この機能は、ヘッドライトまたは駐車灯を点灯するか、イグニッション・スイッチを「OFF」位置から動かすと、無効になります。イグニッション・スイッチを ON にする前にライトを消灯すると、通常通り消灯します。

メモ：

この機能を作動させるには、イグニッション・スイッチを「OFF」位置にして 45 秒以内にヘッドライトを消灯させる必要があります。イグニッションを「OFF（オフ）」位置にする前にヘッドライト・スイッチが「AUTO（オート）」位置になっていると、ヘッドライト・スイッチを OFF にしなくてもヘッドライトの消灯遅延機能が作動します。

ライト消し忘れ警告アラーム

イグニッション・スイッチを「OFF（オフ）」にした後もヘッドライト、車幅灯、またはカーゴ・ライトが点灯している場合は、運転席ドアを開けるとチャイムが鳴ります。

フロント・フォグ・ライトとリヤ・フォグ・ライト - タイプ別装備

フォグ・ライトのスイッチは、ヘッドライト・スイッチに組み込まれています。



フォグ・ライト・スイッチの位置

1 - フロント・フォグ・ライト・スイッチ
2 - リヤ・フォグ・ライト・スイッチ

フロント・フォグ・ライトを点灯するには、ヘッドライト・スイッチの上半分を押します。フロント・フォグ・ライトを消灯するには、ヘッドライト・スイッチの上半分をもう一度押します。

リヤ・フォグ・ライトを点灯するには、ヘッドライト・スイッチの下半分を押します。リヤ・フォグ・ライトを消灯するには、ヘッドライト・スイッチの下半分をもう一度押します。

メモ：

リヤ・フォグ・ライトを点灯させるには、あらかじめロー・ビーム・ライトまたはフロント・フォグ・ライトを作動させておく必要があります。

フォグ・ライトを点灯すると、インストルメント・パネル内の表示灯が点灯します。

方向指示灯

マルチファンクション・レバーを上または下に動かすと、方向指示器が作動します。インストルメント・パネルの両側にある矢印が点滅すれば、正常に動作しています。

メモ：

矢印の表示灯が点灯したままで点滅しない場合、または点滅の間隔が短くなった場合は、方向指示灯の電球に不具合がないか確認してください。

レーン変更アシスト ― タイプ別装備

マルチファンクション・レバーを、停止位置を越えることなく上または下に軽く押すと、方向指示器が 3 回点滅し、自動的に消灯します。

オート・ヘッドライト・レベリング – タイプ別装備

この機能は、ヘッドライトが対向車の運転者の視界を妨げないようにします。ヘッドライト・レベリングは、車両の傾きの変化に応じてヘッドライト・ビームの高さを自動的に調整します。

室内灯

室内灯

室内灯は、フロント・ドアを開けたとき、およびヘッドライト・スイッチのイルミネーション・コントロールを上方向へいっぱいに回したときに点灯します。そのほか、キー・フォブ（タイプ別装備）のロック解除ボタンを押したときにも点灯します。

室内灯は、車両のスポーツ・バーの中心にあり、1 つの大きなセンター・ライトと 4 つの小さなリーディング・ランプで構成されています。各リーディング・ランプは、レンズを押すと点灯します。レンズ部分をもう 1 度押すと、消灯します。

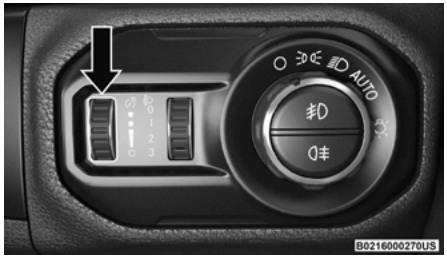


車内灯

ドアを開けて室内灯が点灯したとき、イルミネーション・コントロール・スイッチを一番下まで回すと、室内灯は消灯します。これにより、ドアを長時間開けたままにしても車両のバッテリを消耗させません。

イルミネーション・コントロール

イルミネーション・コントロールはヘッドライト・スイッチの一部で、インストルメント・パネルの右側にあります。



イルミネーション・コントロール

車幅灯やヘッドライトが ON の時、イルミネーション・コントロール・ダイヤルを上方向に回すと、インストルメント・パネル・ライトが明るくなります。

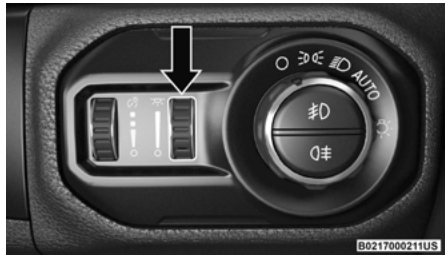
アンビエント・ライト—タイプ別装備

車内アンビエント・ライトは、車両前部足元エリアに設置されています。

アンビエント・ライトは次の状況で点灯します。

- 車幅灯またはヘッドライトが点灯中にイグニッションが OFF 以外の位置にあるとき。
- インテリア・センター・オーバーヘッド・ライト点灯時。

アンビエント・ライト・イルミネーション・コントロールを一番上まで回転させると、アンビエント・ライトを明るくすることができます。



アンビエント・ライト・イルミネーション・コントロール

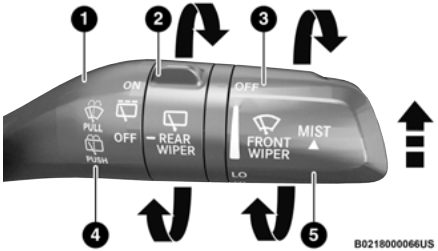
メモ：

- イルミネーション・コントロールが上から 2 番目の位置にある場合、アンビエント・ライトは点灯しません。
- アンビエント・ライトが装備されていない車両には、イルミネーション・コントロール・ダイヤルが装備されている場合がありますが、機能はありません。

フロントガラス・ワイパおよびウォッシャ

フロントウィンドウ・ワイパ／ウォッシャ・コントロール・レバーは、ステアリング・コラムの右側にあります。フロント・ワイパは、レバー端部にあるスイッチを回して操作します。

フロントガラス・ワイパの作動



フロントガラス・ワイパ／ウォッシャの作動

1 - 引く（フロント・ウォッシャ）
2 - 回す（リヤ・ワイパの作動）（タイプ別装備）
3 - 回す（フロント・ワイパの作動）
4 前方に押す（リヤ・ウォッシャ）
5 上に押す（ミスト）

レバーの先端を、間欠設定を越えて最初の停止位置まで上に回すとワイパは低速で作動します。レバーの先端を、間欠設定を越えて 3 番目の停止位置まで上に回すとワイパは高速で作動します。

注意!

寒冷時は、エンジンを切る前に必ずワイパ・スイッチを OFF にしてワイパを停止位置に戻してください。ワイパ・スイッチが ON のままでワイパがフロントガラスに凍りつくと、車を再始動したときにワイパ・モータが損傷する恐れがあります。

間欠ワイパ

時間をおいてワイパを 1 往復ずつ作動させたいときに、間欠ワイパを使用します。レバーの先端を最初の停止位置まで回し、4 つの間欠ワイパ設定のいずれかに合わせます。間欠間隔は 1 秒から 18 秒間隔で調節できます。

メモ：

ワイパの作動間隔は車速によって異なります。車速が 16km/h（10mph）未満であれば、作動間隔は 2 倍になります。

フロントガラス・ウォッシャ

レバーを手前に引くと、ウォッシャ液が噴射されます。間欠ワイパの作動中にレバーを引くと、レバーを放した後にワイパが 2、3 往復作動します。その後、元の間欠ワイパの作動状態に戻ります。

ワイパが OFF 位置のときにレバーを引くと、ワイパは 2、3 往復作動します。その後、ワイパは停止します。

メモ：

ウォッシャ・モータ保護のため、スイッチを 20 秒以上保持した場合はポンプが停止します。スイッチを放すと、ウォッシャは通常の作動に戻ります。

警告!

フロントウィンドウの視界不良は、衝突事故につながります。他車や障害物を認識できません。寒冷時にフロントウィンドウが突然氷結しないように、ウォッシャを使用する前にはデフロスタでフロントウィンドウを温めてください。

ミスト

ワイパ・レバーを押し上げると、ワイパが 1 回作動します。路上の霧や追い越し車からの水しぶきを取り除くのに便利です。レバーを押し上げている間、ワイパが作動します。

メモ：

ミスト機能ではウォッシャ・ポンプは作動しないため、フロントウィンドウにウォッシャ液は噴射されません。フロントガラスにウォッシャ液を噴射するには、ウォッシュ機能を使用してください。

ワイパのお手入れと交換については、⇨ ページ 242 を参照してください。

リアウインドウ・ワイパ／ウォッシャ – タイプ別装備

フロントウィンドウ・ワイパ／ウォッシャ・レバーの中央部のロータリ・スイッチは、リヤ・ワイパ／ウォッシャ機能の作動をコントロールします。



スイッチを上に回して最初の停止位置にするとリヤ・ワイパが間欠作動になり、2 番目の停止位置にすると連続作動になります。



リヤ・ウォッシャを作動させるには、ワイパ・レバーをインストルメント・パネルの方向に押します。レバーを保持している間は、ウォッシャ・ポンプとワイパが作動し続けます。

メモ：

ウォッシャ・モータ保護のため、スイッチを 20 秒以上保持した場合はポンプが停止します。スイッチを放すと、ウォッシャは通常の作動に戻ります。

リヤ・ワイパが作動しているときに、イグニッション・スイッチを「OFF」位置にすると、ワイパは自動的に停止位置に

戻ります。車を再始動させると、スイッチが ON 位置にセットされている場合、ワイパは動作を再開します。

ヒータ／エアコン

ヒータ／エアコン・システムにより、車内を循環している空気の温度、流れ、方向を調節できます。スイッチは、タッチスクリーンおよびインストルメント・パネルのラジオの下にあります。

自動ヒータ／エアコンの説明および機能



Uconnect 5（12.3 インチ・ディスプレイ装備車）のオート・ヒータ／エアコン

「MAX A/C（急速冷房）」ボタン

MAX A/C

タッチスクリーンの「MAX A/C（急速冷房）」ボタンを押して放すと、送風温度が現在の設定から最も低温に変わります。「MAX A/C（急速冷房）」を「ON（オン）」にすると「MAX A/C（急速冷房）」インジケーターが点灯します。このボタンをもう一度押すと、「MAX A/C」の作動が終了します。

「MAX A/C」は、最大の冷却性能を可能にする設定です。「MAX A/C（急速冷房）」を「ON（オン）」にするとボタンが点灯します。「MAX A/C」では、ファン・スピードとモード位置を希望の設定に調節できます。他の設定を押すと、「MAX A/C（急速冷房）」がオフになります。

メモ：

「MAX A/C（急速冷房）」ボタンは、タッチスクリーンでのみ使用できます。

「A/C（エアコン）」ボタン

A/C

現在の設定を変更するには、タッチスクリーンのこのボタンを押して放す、またはフェイスプレートにあるボタンを押します。「A/C（エアコン）」をオンにすると「A/C（エアコン）」インジケーターが点灯します。

「A/C（エアコン）」ボタンを使用して、手動でエアコン・システムの作動または解除を行うことができます。エアコン・システムをオンにすると、除湿された冷気が吹き出し口から車内に出てきます。

「Recirculation（内気循環）」ボタン

内気循環モードと外気モードの間でシステムを切り替えるには、タッチスクリーンのこのボタンを押して放す、またはフェイスプレートにあるボタンを押します。「Recirculation（内気循環）」ボタンを押すと、「Recirculation（内気循環）」インジケーターと「A/C（エアコン）」インジケーターが点灯します。内気循環は、外部に煙、悪臭、または砂埃が立ち込めている、または高い湿度の時に使用できます。内気循環は、すべてのモードで使用できます。フロントウィンドウの内側が曇る状態になっている場合は、内気循環が使用できなくなっている可能性があります（タッチスクリーンのボタンがグレー表示になります）。モード・コントロールの選択に影響を与えずに、A/C システムの選択を手動で解除することができます。内気循環モードを連続使用すると、車内の空気がこもってウィンドウが曇ることがあります。このモードの長時間の使用は、避けてください。暖房、冷房、除湿など、お客様の体感を最適化するため、内気循環モードは自動的に調整される場合があります。

「AUTO（自動）」ボタン

AUTO

希望の温度に設定し、「AUTO（自動）」を押します。「AUTO（自動）」では、ファン速度と吹き出し装置を自動調整することで希望の温度にして、それを維持します。自動運転中は、性能向上のためエアコン（A/C）が作動する場合があります。効率性を考えた場合、AUTO モードをお勧めします。AUTO モードをオンにするには、タッチスクリーンのこのボタンを押して放す、またはフェイスプレートにあるボタンを押します。「AUTO（自動）」をオンにすると「AUTO（自動）」インジケーターが点灯します。この機能を切り替えると、システムが手動モードと自動モードの間で切り替わります ⇨ ページ 46。

フロント・デフロスタ・ボタン

FRONT

現在の送風設定をデフロスタ・モードに変更するには、タッチスクリーンのこのボタンを押して放すか、フェイスプレートのボタンを押して放します。フロント・デフロスタが ON のときはフロント・デフロスタ表示灯が点灯します。フロントウィンドウおよびドアガラス・デミスタの吹き出し口から送風されます。デフロスタを選択すると、ファン・スピードが増す場合があります。温度を最高に設定してこのモードを使用すると、フロントウィンドウとドアウィンドウの曇りや湿気が良く取れます。フロント・デフロスタ・モード・ボタンを解除すると、エアコン・システムは直前の設定に戻ります。

「Rear Defrost（リヤ・デフロスタ）」ボタン



リヤ・ウインドウ・デフロスタおよびヒーテッド・ドア・ミラー（タイプ別装備）を ON にするには、タッチスクリーンの「Rear Defrost（リヤ・デフロスタ）」ボタンを押して放すか、フェイスプレートのボタンを押して放します。リヤ・ウインドウ・デフロスタがオンのとき、「Rear Defrost（リヤ・デフロスタ）」インジケーターが点灯します。リヤ・ウインドウ・デフロスタは 10 分作動した後自動的にオフになります。

注意!

これらの注意事項に従わないと、電熱線が損傷する恐れがあります。

- リヤ・ウインドウの内側を清掃する際は注意してください。リヤ・ウインドウの内側表面に研磨剤入りのウインドウ・クリーナを使用しないでください。柔らかい布と中性洗剤液を使用して、電熱線と平行に拭きます。ガラスの上のラベルは、お湯に浸すと剥がせます。
- リヤ・ウインドウの内側表面にスクレーパ、尖った工具、研磨剤入りのウインドウ・クリーナを使用しないでください。
- ウインドウの近くに物を置かないでください。

運転席および助手席温度の上昇／下降ボタン

運転者および助手席の乗員が独立して温度を制御できます。



フェイスプレートまたはタッチスクリーンの赤いボタンを押すか、温度バーをタッチスクリーンの赤色の矢印ボタン方向に押してスライドさせると、設定温度が上がります。



フェイスプレートまたはタッチスクリーンの青いボタンを押すか、温度バーをタッチスクリーンの青色の矢印ボタン方向に押してスライドさせると、設定温度が下がります。

メモ:
車両にオート・ヒータ／エアコン・システムが装備されている場合、温度ディスプレイ内の数字のみが表示されます。

SYNC ボタン



タッチスクリーンの「SYNC（同期）」ボタンを押して、同期機能のオン／オフを切り替えます。「A/C（エアコン）」をオンにすると「SYNC（同期）」インジケーターが点灯します。「SYNC（同期）」は助手席の温度設定を運転席の温度設定に同期させます。「SYNC（同期）」中に助手席の温度設定を変更すると、この機能は自動的に終了します。

メモ:
「SYNC（同期）」ボタンはタッチスクリーンでのみ利用できます。

ファン・スピード・スイッチ



ファン・スピード・コントロールは、ヒータ／エアコン・システムを通る空気の量を調節します。ファン・スピードを調整すると、自動モードは手動操作に自動的に切り替わります。ファン・スピードは 7 段階あります。ファン・スピードは、フェイスプレートのファン・スピード・スイッチ・ノブまたはタッチスクリーンのボタンを使用して選択できます。

- **フェイスプレート**:ファン・スピード・コントロール・ノブを最も遅いファン・スピード設定から時計回りに回すと、ファン・スピードが速くなります。ファン・スピード・スイッチ・ノブを反時計回りに回すと、ファン・スピードは遅くなります。
- **タッチスクリーン**:ファン・スピード設定を遅くするには、小さいファン・アイコンを使用し、ファン・スピード設定を速くするには、大きいファン・アイコンを使用します。アイコンの間にあるファン・スピード・エリアを押してファン・スピードを選択することもできます。

モード・コントロール



タッチスクリーンの「Mode（モード）」ボタンの 1 つを押すか、フェイスプレートの「Mode（モード）」ボタンを選択し、風向きのモードを調節します。インストルメント・パネル吹き出し口、フロア吹き出し口、デフロスタ吹き出し口、デミスタ吹き出し口から送風されるように風向きを調節できます。

パネル・モード



風はインストルメント・パネルの吹き出し口から送られます。それぞれの吹き出し口でそれぞれ風の方向を調節することができます。中央吹き出し口と外側の吹き出し口の風向板を上下左右に動かして、風向きを調節することができます。風向板の下に送風遮断ホイールがあり、これを回して各吹き出し口からの送風を遮断したり、送風量を調節することができます。

バイレベル・モード



インストルメント・パネルの両方の吹き出し口、フロアの吹き出し口から送風されます。デフロスタおよびドアウィンドウ・デミスタ吹き出し口からも少量の送風があります。

メモ:
バイレベル・モードでは、快適な条件下でパネルの吹き出し口から冷気が、フロアの吹き出し口から暖気が吹き出るようになっています。

フロア・モード



フロアから送風されます。デフロスタおよびドアウィンドウ・デミスタ吹き出し口からも少量の送風があります。

ミックス・モード



フロア、デフロスタ、ドアウィンドウ・デミスタの吹き出し口から送風されます。この設定は、フロントウィンドウを温かくする必要がある寒い雪の降る天候時に最も効果的です。この設定はフロントウィンドウの水分を取り除いて、快適さを維持するのに適しています。

「エアコン OFF」ボタン



ヒータ／エアコンの「ON（オン）」／「OFF（オフ）」を切り替えるには、タッチスクリーンの「OFF（オフ）」ボタンを押して放す、またはフェイスプレートにある「OFF（オフ）」ボタンを押します。

自動温度コントロール（ATC）- タイプ別装備

オートマチック操作

1. フェイスプレートの「AUTO（自動）」ボタンを押すか、自動温度コントロール（ATC）パネルのタッチスクリーンの「AUTO（自動）」ボタンを押します。
2. 次に、運転席と助手席の温度コントロール・ボタンを調節して、維持したい温度に合わせます。希望の温度が表示されたら、システムは自動的にその車内温度に調節して維持します。
3. 希望の温度にシステムが設定されたら、設定を変更する必要はありません。システムが自動的に機能し、効率よく温度を調節することができます。

メモ:
- 車両の温度に応じて温度設定を操作する必要はありません。快適な状況をできるだけ早く提供するために、システムは自動的に温度、モードおよびファン・スピードを調整します。
- Uconnect 設定にある U.S.単位またはメートル法単位顧客別プログラム機能を選択すると、温度を U.S.単位またはメートル法単位で表示できます ⇨ ページ 150。

自動モードでできるだけ快適な環境を実現するため、低温での始動時には、エンジンが暖まるまで送風ファンは低速のままになります。次第にファンの回転が速くなり、AUTO モードに切り替わります。

手動操作オーバーライド

このシステムは、優先的に手動操作で作動させることができます。システムが手動モードで使用されている場合、フロントの自動温度コントロール（ATC）ディスプレイ内の AUTO 表示が消灯します。

エアコン・ボイス・コマンド

室内温度をハンズ・フリーで調整し、車内の全員が快適に過ごすことができます。

ステアリング・ホイールの「VR（音声認識）」ボタンを押します。ビープ音の後、以下のコマンドのいずれかを発声してください。

- 「**Set the driver temperature to 20degrees**（運転席温度を 20 度に設定）」
- 「**Set the passenger temperature to** 20 **degrees**（助手席温度を 70 度に設定）」

便利な使い方: エアコンのボイス・コマンドは、車両の室内温度の調整にのみ使用できます。ボイス・コマンドは、シート・ヒータまたはステアリング・ホイール・ヒータ（タイプ別装備）の温度調整には使用できません。

操作のヒント

異なる天候状況での推奨コントロール設定については、本セクションの最後にあるチャートを参照してください。

夏季の操作

エンジン冷却装置は、腐食やオーバーヒートを防ぐため、高品質の不凍液によって保護する必要があります。OAT クーラント（MS.90032 に準拠）をお勧めします。

冬季の操作

ヒータやデフロスタのパフォーマンスを最適に保つには、エンジン冷却装置が正常に動作していることと、使用されているクーラントの量、種類、濃度が適切であることを確認してください。冬季の内気循環モードの使用は避けてください。ウインドウガラスが曇りやすくなります。

長期間使用しない場合

長期間の保管時のエアコン・システムのメンテナンスについては、⇨ ページ 270 を参照してください。

ウィンドウ・ガラスの曇り

雨の日や湿度の高い日には、ウインドウの内側が曇りやすくなります。ウインドウ・ガラスの曇りを取るには、デフロスタ・モードまたはミックス・モードを選択し、フロントのファン・スピードを上げてください。エアコンを作動させないまま内気循環モードを長時間使わないでください。ウインドウ・ガラスが曇りやすくなります。

外気取り入れ口

フロントウィンドウの正面にある外気取り入れ口が、落ち葉などでふさがれていないか確認してください。異物が送風ボックスにたまると通風量が減り、また中に入ると水の排出口をふさぐことがあります。冬季は外気取り入れ口の氷雪などを取り除いてからご使用ください。

室内エア・フィルタ

ヒータ／エアコン・システムは、空気中の埃および花粉をフィルタに通して除去します。室内エア・フィルタの整備を行うには、正規ディーラーにお問い合わせいただき、必要に応じて交換してください。

START &STOP システム–タイプ別装備

Autostop システムが作動しているときは、ヒータ／エアコン・システムは自動的に風量を調節し、車内を快適に保ちます。エンジンを再度始動させた場合も、ユーザー設定は維持されます。

「操作のヒント」チャート

天候	コントロール設定
気温が高く、車内の温度も高い日	モード・コントロールを（パネル・モード）、A/C（エアコン）オン、ファン高速にします。少しの間ウインドウを開けて、熱い空気を逃がします。快適になるよう必要に応じてコントロールを調節します。
温かい日	A/C（エアコン）をオンに、モード・コントロールを（パネル・モード）にします。
晴天だが涼しい日	（バイレベル・モード）で作動させます。
涼しいが湿気が多い日	モード・コントロールを（ミックス・モード）にしてA/C（エアコン）をオンにし、窓ガラスが曇らないようにします。
寒冷地	モード・コントロールを（フロア・モード）にします。フロントガラスが曇るようであれば、モード・コントロールを（ミックス・モード）にします。

室内収納および機器

ストレージ

グローブ・ボックス

グローブ・ボックスは、インストルメント・パネルの助手席側にあります。

グローブ・ボックスを開くには、リリース・ハンドルを引きます。



グローブ・ボックス

メモ：

キー・フォブ内のメカニカル・キーを使用すると、グローブ・ボックスをロックできます。

警告!
グローブ・ボックスを開けたままで車両を運転しないでください。グローブ・ボックスを開いたままで車両を運転すると、衝突の際にけがをする恐れがあります。

コンソール・ストレージ・コンパートメント

センタ・コンソールには、アッパ・ストレージ・コンパートメントとロア・ストレージ・コンパートメントがあります。

アッパ・ストレージ・コンパートメントを開くには、上部ラッチを持ち上げます。ロア・ストレージ・コンパートメントにアクセスするには、下部ラッチを持ち上げます。



コンソール・ストレージ・ラッチ

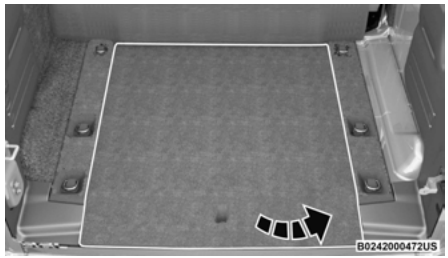
1 アッパ・コンパートメント・ラッチ
2 - ロア・コンパートメント・ラッチ

メモ：
キー・フォブ内のメカニカル・キーを使用すると、センタ・コンソールをロックできます。

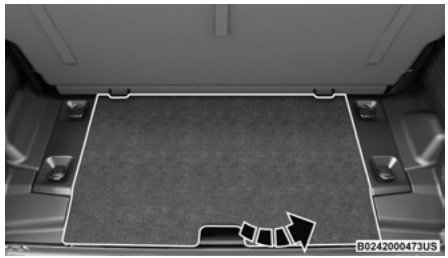
リヤ・ストレージ・コンパートメント – タイプ別装備

リヤ・カーゴ・エリアのストレージ・コンパートメントは、ロード・フロアの下にあります。

ストレージ・コンパートメントにアクセスするには、カーゴ・エリア後部のカーゴ・ストラップ／ハンドルを持ち上げます。



リヤ・ストレージ・カバー（4 ドア・モデル）



リヤ・ストレージ・カバー（2 ドア・モデル）

照明付きカップ・ホルダ – タイプ別装備

一部の車両のフロント・カップ・ホルダには、助手席の乗員にわかりやすいようにカップ・ホルダを照らすライト・リングが装着されています。ライト・リングはイルミネーション・コントロールによって操作されます ⇨ ページ 42。

USB/AUX CONTROL（USB/AUX コントロール）

メディア・ハブは、ヒータ／エアコンの下のインストルメント・パネルにあります。メディア・ハブのアクセス・ドアの内部には、AUX ポート、タイプ C USB ポート、標準 USB ポートがそれぞれ 1 つずつあります。両方の USB ポートでは、車両のサウンド・システムを通して MP3 プレーヤ／スマートフォンまたは USB 機器で音楽を再生できます。

スマートフォン機器を USB ポートに接続すると、Android Auto™または Apple CarPlay®機能（タイプ別装備）を作動できます。詳細は、Uconnect ラジオ取扱説明書を参照してください。

スマート充電 USB ポートは、エンジンを切った後最長 1 時間、機器に電源を供給します。

メモ：
- 機器を USB ポートに接続すると、充電が開始され、システムによる使用準備が整います。タイプ C およびタイプ A 充電専用 USB ポートは同時に使用できますが、メディア再生中は同時に使用できません。タイプ C およびタイプ A 充電専用 USB ポートを両方使用すると、充電速度が低下します。
- 1 つのデータ接続を 2 個のポートで使用しています。タイプ A とタイプ C を切り替えることはできません。



メディア・ハブ

1 - AUX ポート
2 - タイプ C USB ポート
3 - タイプ A USB ポート

センタ・コンソールの内側には、2 番目の USB ポートがあり、車両のサウンド・システムを通して USB 機器の音楽を再生できます。

3 番目と 4 番目の USB ポート（タイプ別装備）は、センタ・コンソールの後端、パワー・インバータの上にあります。どちらのポートも充電専用です。



センタ・コンソール後端の USB

新しい機器またはスマートフォンを USB ポートに差し込むと、利用中の機器に応じて次のいずれかのメッセージが表示されることがあります。

- 「新しい機器が接続されています。これまでの接続は解除されました。」
- 「（電話名）が接続されています。これまでの接続は解除されました。」
- 「同じ USB ポートで別の機器が使用中です。現在使用中の機器の接続を解除してから、次の機器を使用してください」

メモ：

対応していない機器は、充電専用 USB ポートで充電します。対応していない機器がメディア USB ポートに接続されていると、システムが機器に対応していないというメッセージがタッチスクリーンに表示されます。

警告!

運転中に外部機器の接続や取り外しを行わないでください。この警告に従わないと、衝突を招く可能性があります。

電源コンセント - タイプ別装備

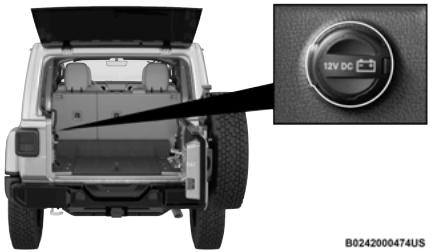
この車両には、汎用電源ソケット・アダプタを使用するアクセサリ用に 12V（13A）の電流を出力する補助電源ソケットが 2 つ装備されています。

フロント電源ソケットは、インストルメント・パネルの中央、ヒータ／エアコンの下にあり、イグニッション・スイッチから電源が供給されます。イグニッション・スイッチを「ON/RUN（オン／走行）」位置または「ACC」位置に回したときに電源が供給されます。

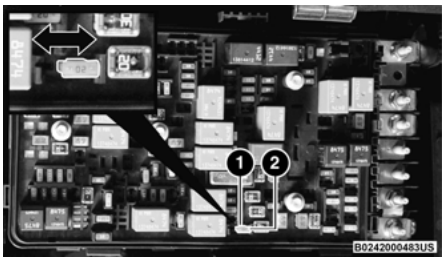


フロント電源ソケット

リヤ・サブウーファ装備車の場合、リヤ・カーゴ・エリアの電源コンセントには車両バッテリから直接電源が供給されています。



リヤ・カーゴ電源ソケット



電源ソケットのヒューズの場所

1 - F43 ヒューズ、20A、黄色、リヤ電源コンセント（常時電源供給）
2 - F45 ヒューズ、20A、黄色、リア電源ソケット（イグニッション・スイッチが「ON/RUN（オン／走行）」または「ACC」位置にあるときに電源供給）

警告!

重傷または死亡事故を防ぐため、次の事項を守ってください。

- コンセントにいかなる異物も挿入しないでください。
- 濡れた手で触らないでください。
- 使用していないときは蓋を閉めてください。
- ソケットの扱いを誤ると、感電や心臓麻痺を起こす恐れがあります。

注意!

- 12V 時で最大出力 160W（13A）を超えないようにしてください。160W（13A）を超えた場合は、システムを保護しているヒューズを交換する必要があります。
- 電源ソケットはアクセサリ・プラグ専用に設計されています。電源ソケットにはその他の物を挿入しないでください。ソケットを損傷し、ヒューズが飛ぶ場合があります。電源ソケットの使い方を誤ると新車保証の対象外の損傷を引き起こす恐れがあります。
- プラグ接続タイプのほとんどのアクセサリ部品（携帯電話など）は、使用中以外もバッテリ電源を消費します。長時間プラグを差し込んだままにしておくと、車のバッテリが放電してバッテリの寿命を縮めたり、エンジン始動に支障をきたすことがあります。
- 電力を大量消費するアクセサリ部品（クーラ、掃除機、ライトなど）は、バッテリの寿命をさらに縮めます。このようなアクセサリ部品は、注意を払って断続的に使用してください。

（続き）

注意!

- 電力を大量消費するアクセサリ部品を使用した後や、電源プラグを差し込んだまま長期間エンジンを始動しなかった場合は、車両を十分な時間走行させ、バッテリを充電してください。
- 電源ソケットはアクセサリ・プラグ専用に設計されています。アクセサリやアクセサリ・ブラケットを、プラグからぶら下げないでください。電源ソケットの使い方を誤ると、損傷を引き起こす恐れがあります。

シガー・ライタ（タイプ別装備）

シガー・ライタは、インストルメント・パネルのセンタ・スタックの下にあります。ライタを押し込むと加熱されます。

数秒後、ライタは自動的に元の位置に戻り、使用可能な状態になります。

警告!

シガレット・ライタは使用中に非常に高温になります。重傷事故を防ぐため、シガレット・ライタは慎重に扱ってください。必ずシガレット・ライタが OFF になっていることを確認してください。

注意!

消費電力が 180W（15A）を超える機器はソケットに接続しないでください。不適切なアダプターを使用してソケットを損傷しないようにしてください。定格電力の 180W（15A）を超えた場合は、システムを保護しているヒューズを交換する必要があります。

パワー・インバータ – タイプ別装備

115V、150W のインバータのコンセントがセンタ・コンソールの背面にあり、DC 電流を AC 電流に変換します。

このコンセントは、最大 150W の電力を必要とする携帯電話、電子機器、その他の低電力機器に電力を供給できます。一部のビデオ・ゲーム機器や大部分の電動工具はこの電力制限を上回ります。



パワー インバータ

パワー・インバータは過負荷保護装置を内蔵した設計です。150W の定格電力を超えると、パワー・インバータは自動的に遮断されます。電気装置をコンセントから外すと、インバータは自動的にリセットされます。定格電力が約 170W を超えると、パワー・インバータの手動リセットが必要になる場合があります。

警告!
重傷または死亡事故を防ぐため、次の事項を守ってください。

(続き)

警告!
● コンセントにいかなる異物も挿入しないでください。 ● 濡れた手で触らないでください。 ● 使用していないときは蓋を閉めてください。 ● ソケットの扱いを誤ると、感電や心臓麻痺を起こす恐れがあります。

補助スイッチ - タイプ別装備

インストルメント・パネルのロア・スイッチ・バンクには 4 つの補助スイッチがあり、これらを使用すると、さまざまな電気装置の電源を供給できます。Uconnect 設定から、補助スイッチの機能を設定できます ⇨ ページ 150。

すべてのスイッチは次のように設定できます。

- **スイッチ・タイプの操作**:ラッチ式または瞬時
- **電源**:バッテリまたはイグニッション
- **キー・サイクル全体にわたって最後の状態を維持する機能**:オンまたはオフ

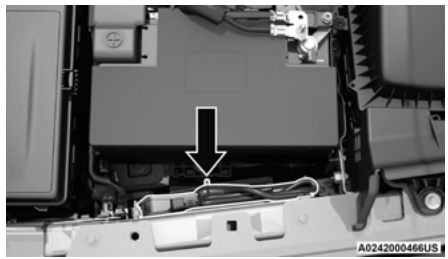


補助スイッチ

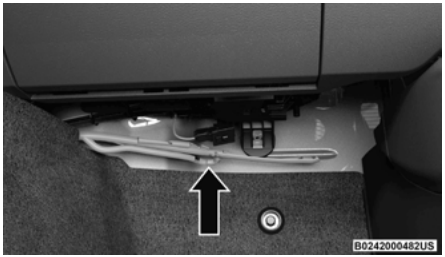
メモ:

スイッチ・タイプがラッチに設定され、電源がイグニッションに設定されている場合、最後の状態に維持されます。

補助スイッチは、4 本のブラント・カット・ワイヤに電源を供給するリレーを管理します。これらのワイヤは、車内のインストルメント・パネルの下、ボンネット右側の下、バッテリ付近にあります。



補助スイッチ接続 - ボンネットの下



補助スイッチ接続 - インストルメント・パネルの下

4 本の補助スイッチ・ワイヤに加えて、ヒューズ付きバッテリ・ワイヤおよびイグニッション・ワイヤも、インテリアの下、助手席側のインストルメント・パネルの下にあります。

電気装置の接続および取り付けのために、スプライスおよび熱収縮チューブのキットが補助スイッチに付属しています。

ワイヤ・カラー・チャート

回路の機能	ヒューズ	ワイヤ・カラー	位置
補助スイッチ 1	F93 - 40 Amp	ベージュ／ピンク	インテリア（助手席側のインストルメント・パネルの下）&エンジン・ルーム（バッテリ付近の右側）
補助スイッチ 2	F92 - 40Amp	グリーン／ピンク	インテリア（助手席側のインストルメント・パネルの下）&エンジン・ルーム（バッテリ付近の右側）
補助スイッチ 3	F103 - 15Amp	オレンジ／ピンク	インテリア（助手席側のインストルメント・パネルの下）&エンジン・ルーム（バッテリ付近の右側）
補助スイッチ 4	F108 - 15Amp	ダーク・ブルー／ピンク	インテリア（助手席側のインストルメント・パネルの下）&エンジン・ルーム（バッテリ付近の右側）
バッテリ	F72 - 10Amp	レッド／ホワイト	インテリア（助手席側のインストルメント・パネルの下）
イグニッション	F50 - 10Amp	ピンク／オレンジ	インテリア（助手席側のインストルメント・パネルの下）

ウインドウ

パワー・ウィンドウ・コントロール

パワー・ウインドウ・スイッチは、ヒータ／エアコンの下のインストルメント・パネルにあります。スイッチを下に押すとウインドウが開き、上に押すとウインドウが閉じます。

左上のスイッチで左フロント・ウインドウを、右上のスイッチで右フロント・ウインドウを操作します。

警告!

車の中にお子さまだけを残さないでください。また、お子さまがパワー・ウインドウで遊ばないようにしてください。キー・フォブを車内や車の周辺、またはお子さまの手が届く場所に放置しないでください。お子さまを監視なしで車内に残すと、パワー・ウィンドウ・スイッチをいたずらし、誤って窓に挟まってしまうことがあります。このような事故は重傷や死亡事故につながる恐れがあります。



パワー・ウインドウ・スイッチ

途中までウィンドウを（手動で）開くには、ウインドウ・スイッチを軽く押し下げて放してください。

メモ：

イグニッション・スイッチを「OFF（オフ）」モードにしてから最長 10 分間は、パワー・ウインドウ・スイッチを使用できます。どちらかのフロント・ドアを開けるとこの機能は解除されます。

4 ドア・モデル

左下のスイッチで左リヤ・ウインドウを、右下のスイッチで右リヤ・ウインドウを操作します。

メモ：

4 ドア・モデルでは、センタ・コンソール後端に後席用ウィンドウ・スイッチがあります。

オート・ダウン機能

運転席ドアおよび助手席ドアのパワー・ウィンドウ・スイッチには、オート・ダウン機能がついています。2 番目の停止位置までウインドウ・スイッチを押し下げてから放すと、自動的にウインドウが下がります。

オート・ダウン操作でウィンドウを下げている最中に停止させる場合は、スイッチを軽く上げてください。

警告!
アンチ・ピンチ保護機能はウインドウがほとんど閉じている状態では作動しません。ウインドウ付近に障害物が何もないのを確認して閉めてください。

ウィンドウ・ロックアウト・スイッチ



ウィンドウ・ロックアウト・スイッチ

ウインドウ・ロックアウト・スイッチを使うと、後部座席のドアのウインドウ・コントロールの作動を無効にすることができます。ウインドウ・コントロールを無効にするには、スイッチを下方向に回転させてください。ウインドウ・コントロールを有効にするには、スイッチを上方向に回転させてください。

ウインド・バフェッティング

ウインド・バフェッティングとは、耳に風圧を感じる、またはヘリコプターが出すような音がするなどのことをいいます。車両のウィンドウを開けた状態、またはパワースライディング・トップ（タイプ別装備）が特定の位置まで開いている状態でウインド・バフェッティングが起こる場合があります。この状態は正常で、最小限に抑えることが可能です。リヤ・ウインドウが開いた状態でバフェッティングが起こる場合、フロントおよびリヤ・ウインドウをともに開けてバフェッティングを最小限に抑えてください。バフェッティングがパワースライディング・トップを開けている状態で起こる場合は、パワースライディング・トップまたはドアの開き具合を調整してバフェッティングを最小限に抑えるか、またはいずれかのウィンドウを開きます。

WRANGLER のトップ

用意されているツール

利便性を高めるために、車両のセンタ・コンソールにツール・キットが用意されています。このキットには、次のセクションで説明する操作に必要なツールが入っています。使いやすいように、すべてのツールはラチェットにはまります。

メモ：

ソフト・トップとハード・トップは、別々に使用してください。ソフト・トップとハード・トップを同時に取り付けたことによって生じた損傷に対して保証は適用されません。



用意されているツール

1 – ラチェット
2 - #T50 Torx ヘッド・ドライバ
3 - #T40 Torx ヘッド・ドライバ
4 - 15mm ソケット

車両にデュアル・トップが装備されている場合（4ドア・モデルのみ）、ソフト・トップ・システムは納車目的でのみ車両後部にある別のボックスに用意されています。

ソフト・トップを SUNRIDER®位置に下げる

警告!

- ファブリック・クォータ・ウィンドウおよびファブリック・トップは、風雨を避けるためだけに設計されています。乗員が車外に投げ出されないようにするためや事故発生時のケガ防止には役立ちません。常にシートベルトを着用してください。
- ソフト・トップの取り付けおよび取り外し時には、手指が挟まれないようにしてください。リフト・アシスト機構とサイド・ボウの間に手指が挟まれると、重傷を負う恐れがあります。

注意!

このソフト・トップは、ルーフ・ラック、スペア・タイヤ、建築用資材、狩猟用の道具、キャンプ用品や荷物などを積めるようには設計されていません。また、車体の構造材ではないため、雨や雪など環境上の負荷以外の負荷にも耐えられません。

気温が 24°C（72°F）を下回る状態でトップを長期にわたりたたんでいた場合、広げたときに縮んだ様になり、広がりにくいことがあります。これは、ファブリック・トップのビニールまたはアクリル素材が自然収縮するためです。

車両を暖かい場所に移動させます。トップの部材をまんべんなく引っ張ってみてください。ビニールが元のサイズに戻り、トップを取り付けることができます。**気温が 41°F (5°C) を下回る場合、トップを下ろしたり、リヤ・カーテンやサイド・カーテンを丸めたりしないでください。**

注意!

- ファブリック・トップを洗車機で洗わないでください。ウインドウに傷が付き、ワックスが堆積する場合があります。
- 気温が 5°C（41°F）を下回る場合はトップを下ろさないでください。トップが損傷する恐れがあります。
- フロントガラス・フレームにトップをしっかりと固定するか、または完全に下ろした状態以外で車両を運転しないでください。
- ウィンドウを取り付けたままトップを完全に下ろさないでください。ウインドウもトップも損傷する恐れがあります。
- この項には、お車のファブリック・トップの清掃方法や取り扱いに関する重要な情報が記載されています ⇨ ページ 273。

(続き)

注意!

- ソフト・トップを固定しているクランプ、クリップ、またはリテーナを工具（ドライバーなど）でこじったり、無理な力をかけたりしないでください。ソフト・トップを開閉するのに枠をこじったり、無理な力をかけたりしないでください。トップが損傷する恐れがあります。

これらの注意に従わないと、水の浸入によって損傷したり、トップの材質にしみやカビが発生したりする恐れがあります。

- トップを開く前に、トップが乾燥していることを確認してください。トップが濡れている状態で、トップを開閉したり、ドアや窓を開けたりすると、車内に水が入る恐れがあります。
- ソフト・トップの取り扱いおよび保管に際しては、シールを傷めないように十分注意してください。雨漏りの原因となります。
- しっかりと密閉するには、ソフト・トップを正しく位置決めしなければなりません。正しく取り付けないと、室内に雨漏りが発生する恐れがあります。



4ドア側面構成部品

1 - 第 1 ボウ
2 - 第 2 ボウ
3 - 第 3 ボウ
4 - 第 4 ボウ
5 - 第 5 ボウ
6 - 第 6 ボウ
7 - フロント・ウィンドウ・リテーナ
8 - ロア・ウィンドウ・リテーナ
9 - リヤ・クォータ・ウィンドウ



2ドア側面構成部品

1 - 第 1 ボウ
2 - 第 2 ボウ
3 - 第 3 ボウ
4 - 第 4 ボウ
5 - 第 5 ボウ
6 - 第 6 ボウ
7 - フロント・ウィンドウ・リテーナ
8 - ロア・ウィンドウ・リテーナ
9 - リヤ・クォータ・ウィンドウ



2ドア／4ドア・リヤ構成部品

1 - リヤ・ウィンドウ・リテーナ取り付けポイント
2 - クォータ・ウィンドウ・ピラー
3 - スイング・ゲート・バー・リテーナ

メモ :

- ソフト・トップの昇降方法はすべて、2ドア・モデル車両と4ドア・モデル車両の両方に適用されます。
- 記載の画像は4ドア・モデルのものであり、2ドア・モデルの構成部品の場合、外観が異なることがあります。

車両のソフト・トップを下げる場合は、以下のオプションがあります。

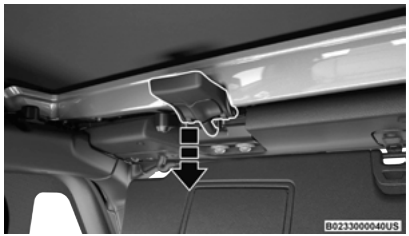
- リヤ・ウィンドウおよびクォータ・ウィンドウを取り付けた状態での Sunrider®位置

- リヤ・パネルおよびクォータ・パネルを取り外した状態での Sunrider®位置
- リヤ・ウィンドウを取り付けてクォータ・パネルを取り外した状態での Sunrider®位置
- リヤ・ウィンドウおよびクォータ・ウィンドウを取り外して完全に下げた位置

クォータ・ウィンドウの取り外しおよび取り付けは両側同時に行ってください。

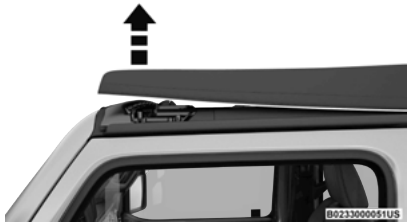
ソフト・トップを Sunrider®位置に下げる

1. 両方のサンバイザをフロントウィンドウの方向にたたみます。
2. ハンドルを下に引いて、クロスバーからヘッダー・ラッチを外します。フックがレシーバから外れていることを確認します。



手順 2

3. 左右両側からソフト・トップの第 1 ボウを持ち上げて操作を開始します。



手順 3

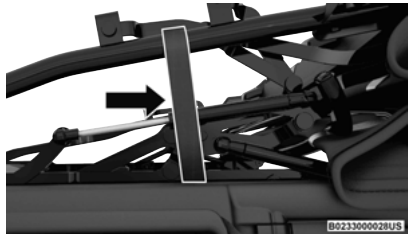
4. 車両側面に移動し、サイド・リンクを使用してソフト・トップを後方の Sunrider®位置に格納します。



手順 4

メモ：

ソフト・トップを Sunrider®位置にしておく場合、センタ・コンソールに用意されている 2 つのフック／ループ・ファスナを使用してトップを固定します。



手順 4

メモ：

- 車両は、リヤ・ウィンドウおよびクォータ・パネル・アセンブリを完全に取り付けたまたは取り外した状態の Sunrider®位置で運転することができます。
- トップの損傷を防止するためにソフト・トップを完全に下げる前に、リヤ・ウィンドウおよびリヤ・クォータ・ウィンドウを取り外す**必要があります**。ソフト・トップを取り外す際にサイド・ウィンドウおよびリヤ・ウィンドウにかき傷をつけないために、ウィンドウを先に清掃しておいてください。道路で付着した汚れなどによりプラスチック・リテーナがスムーズに動かない場合は、中性洗剤溶液と小さなブラシできれいにしてください。清掃用製品は正規ディーラーでお求めいただけます。

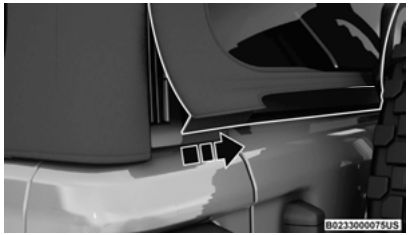
ソフト・トップ・ウィンドウの取り外し

メモ：

ソフト・トップを完全に下げる前に、必ずリヤ・ウィンドウおよびリヤ・クォータ・ウィンドウを**取り外して**ください。

リヤ・ウィンドウを取り外す:

1. スイング・ゲートが開いた状態で、右下隅および左下隅からリヤ・ウィンドウのプラスチック・リテーナを取り外します。



手順 1

2. スイング・ゲート・バーをつかんで外側および上側に回して、左右両方のリテーナから外します。



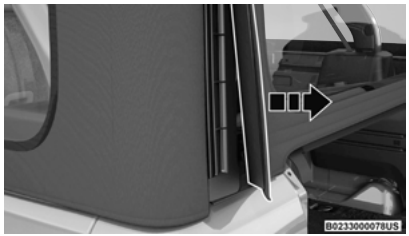
手順 2(左側を図示)

3. ウィンドウを所定の位置で保持したまま、スイング・ゲート・バーを左にスライドさせ、リヤ・ウィンドウから分離させます。ソフト・ウィンドウ・バッグ(タイプ別装備)に保管するか、安全な場所に保管します。



手順 3

4. 両方のクォータ・ウィンドウ・ピラーからプラスチック・リテーナを取り外します。



手順 4

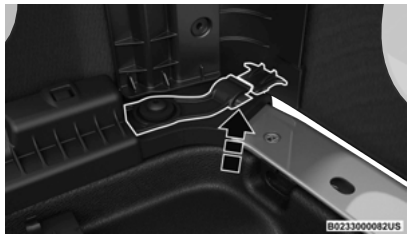
5. リヤ・ウィンドウを水平に保ちながら、リテーナから完全に外れるまで左にスライドさせます。**リヤ・ウィンドウを取り外しているときに、下に引き下ろさないでください。リテーナが損傷するおそれがあります。**



手順 5

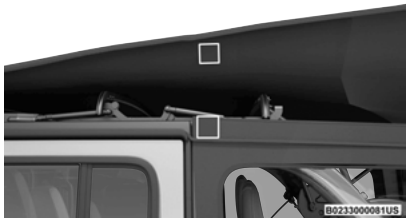
左右のクォータ・ウィンドウを取り外す:

1. リヤ開口部を通して、下隅を外側に押し、ウィンドウ・ピラーの下部からタブを外します。



手順 1

2. 各クォータ・ウィンドウの上部隅にあるフック／ループ・ファスナを緩めます。



手順 2

3. 車両のリヤから始めて、ウィンドウの下部に沿ってプラスチック・リテーナを取り外し、車両のフロントに移ります。



手順 3

4. フロント・ウィンドウの下部から上部にかけてプラスチック・リテーナを取り外します。



手順 4

5. ウィンドウを水平に保ちながら、リテーナから完全に外れるまで後ろにスライドさせます。**ウィンドウを取り外しているときに、下に引き下ろさないでください。リテーナが損傷するおそれがあります。**



手順 5

6. ソフト・ウィンドウ・バッグ（タイプ別装備）に保管するか、安全な場所に保管します。

メモ：
収納バッグの使い方の詳細については、次のセクションを参照してください。

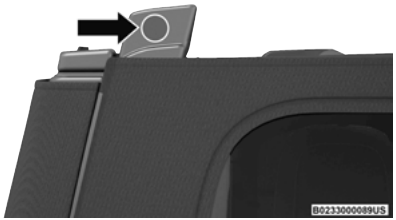
ソフト・トップ・ウィンドウ収納バッグ - タイプ別装備

ソフト・トップ・リヤ・ウィンドウとリヤ・クォータ・ウィンドウを安全に収納するには、以下の手順に従います。

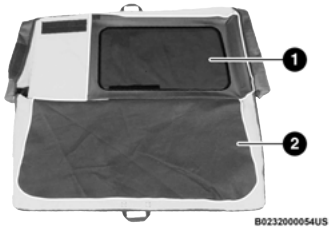
メモ：
リヤ・ウィンドウから取り外したスイング・ゲート・バーは、ソフト・ウィンドウ収納バッグ（タイプ別装備）に**収納しないでください**。

1. バッグを完全に開いた状態でファブリック・ディバイダを 2 枚とも手前に折りたたみ、1 つ目のクォータ・ウィンドウをピラーが外側に向くようにウィンドウの内側を下向きにして、バッグの右側にずらして置きます。

メモ：
クォータ・ウィンドウは、ウィンドウ・ピラーの内側に「1」および「2」とマークされています。



手順 1



手順 1

1 - 下向きのクォータ・ウィンドウ
2 - 2 枚の折りたたんだディバイダ

2. 手前に折りたたんだ 1 枚目のディバイダで、1 つ目のクォータ・ウィンドウを覆います。



手順 2

3. 2 つ目のクォータ・ウィンドウを 1 枚目のディバイダの上に、ピラーが外側に向くようにウィンドウの内側を下向きにして左側にずらして置きます。



手順 3

1 - 下向きのクォータ・ウィンドウ
2 - 2 枚目の折りたたんだディバイダ

4. 手前に折りたたんだ 2 枚目のディバイダで、2 つ目のクォータ・ウィンドウを覆います。



手順 4

5. リヤ・ウィンドウを 2 枚目のディバイダの上に置きます。



手順 5

6. 収納バッグを閉めて、安全な場所に保管します。



手順 6

ソフト・トップの格納位置までの下降

1. リヤ・ウィンドウおよびクォータ・パネル・ウィンドウを取り外します ⇨ ページ 58。
2. すでに固定されている場合、Sunrider®位置 ⇨ ページ 54、からストラップを取り外し、車両の後部に移動します。
3. 左側のソフト・トップの第 6 ボウの下で Sunrider®ラッチを見つけます。



手順 3

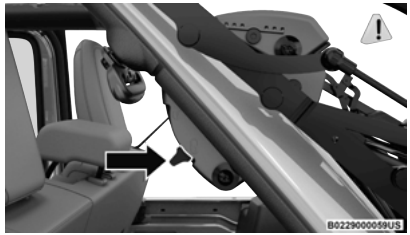
4. ラッチを引いてトップを外し、ガイド・トラックに沿って収納位置に達するまで後方にソフト・トップを自由にスライドさせます。



手順 4

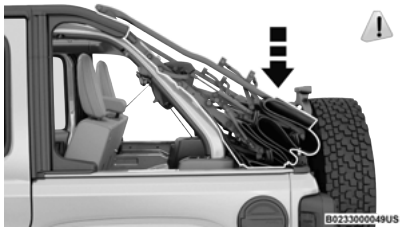
注意!
次の手順に従わないと、ソフト・トップまたは車両に損傷を与えることがあります。

5. 格納されているソフト・トップをわずかに押し下げながら、左右両側のリフト・アシスト機構のロック・レバーを「ロック」位置にスライドさせます。



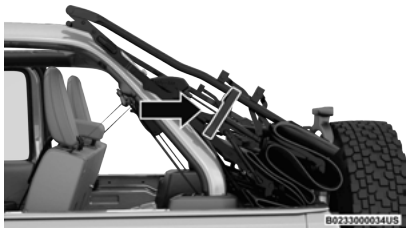
手順 5（ロック位置）

6. ロック・レバーを「ロック」位置にしたら、格納されたソフト・トップの各部を下に押し下げて固定します。「カチッ」という音が聞こえます。



手順 6

メモ：
センタ・コンソールに用意されている 2 つのフック／ルーフ・ファスナを使用してトップを固定します。



手順 6

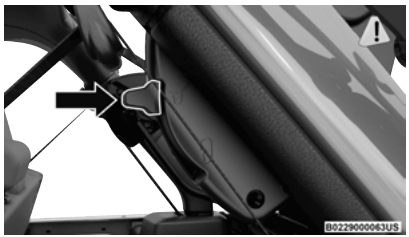
ソフト・トップを上げる

完全に下げた位置からソフト・トップを上げる

1. すでに固定されている場合、完全に下げた位置からストラップを外します。

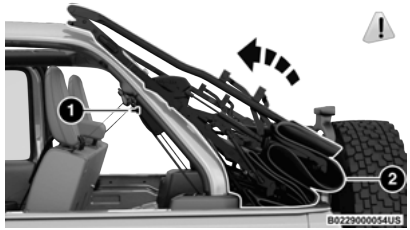
注意!
次の手順に従わないと、ソフト・トップまたは車両に損傷を与えることがあります。

2. トップの後部を押し下げながら、左右両側のリフト・アシスト機構のロック・レバーを「ロック解除」位置にスライドさせます。



手順 2

3. 第 5 ボウを押し上げ、Sunrider®位置にロックし「カチッ」という音がするまで、ガイド・トラックに沿って押し進めます。

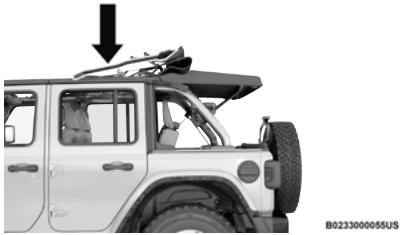


手順 3

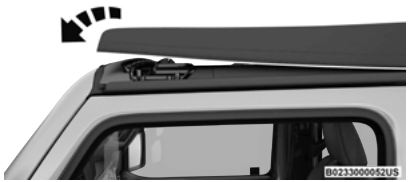
1 - ロック解除位置
2 - 第 5 ボウの位置

4. 第 6 ボウをゆっくりと後ろに引き、トップがSunrider®位置にロックしたことを確認します。

5. サイド・リンクを使用して、ソフト・トップを持ち上げて車両の前部に押し、手動でトップを閉じた位置にします。



手順 5



手順 5

6. 車両内側からヘッダー・ラッチのハンドルを下に引き下げ、フックをレシーバーにはめ込みます。反対側でもこの作業を行ってください。



手順 6

7. フックを押し込み、ラッチを所定の位置にロックしながら、ハンドルを上方に引き上げます。

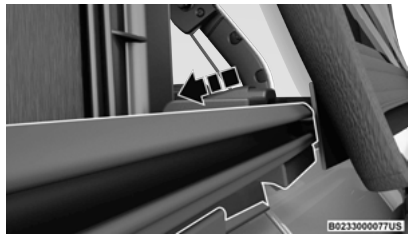


手順 7

ソフト・トップ・ウィンドウの取り付け

左右のクォータ・ウィンドウの取り付け

1. 車両の後部からウィンドウを水平に保ちながら、ウィンドウの上部をリテーナにはさみ、前方にスライドさせます。反対側でもこの作業を行ってください。

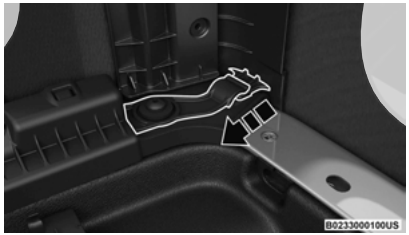


手順 1

2. クォータ・ウィンドウ・ピラーの上部を上部カバーに置き、下部タブをクリップに挿入します。



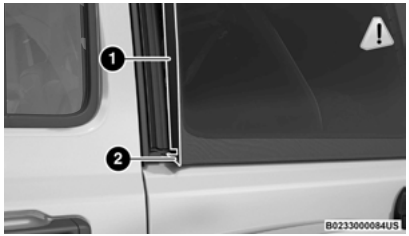
手順 2



手順 2

注意!
クォータ・ウィンドウの取り付けの全手順に従わないと、ソフト・トップまたは車両に損傷を与えることがあります。

3. リテーナをウィンドウの前部にはめ込み、完全に噛み合っていることを確認してから、ウィンドウ下部に沿ってリテーナが続きます。



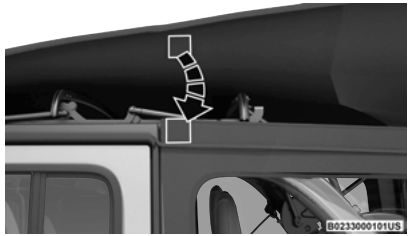
手順 3

1 - クォータ・ウィンドウの前部のリテーナ
2 - クォータ・ウィンドウ下部のリテーナ

メモ :

車両で運転を再開する前に、リテーナが完全に噛み合っていることが**重要**です。

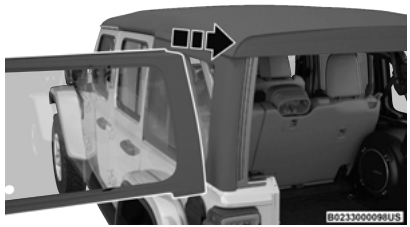
4. しっかりと押すことで、各クォータ・ウィンドウの前部上隅にフック／ループ・ファスナを固定します。



手順 4

リヤ・ウィンドウの取り付け

1. ウィンドウを水平に保ちながら、左から右へかけてリヤ・ウィンドウをリテーナにはさみます。



手順 1

2. スイング・ゲート・バーを左から右にかけてウィンドウ下部のリテーナに挿入します。



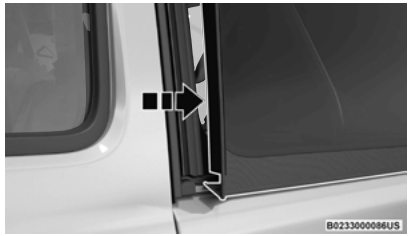
手順 2

3. 左側リテーナと右側リテーナで、スイング・ゲート・バーを回転させます。



手順 3

4. まずリヤ・ウィンドウを**右側**クォータ・ウインドウに揃えて、プラスチック・リテーナをはめ込みます。
5. 左側クォータ・ウインドウで同じ手順を繰り返します。



手順 5

6. リヤ・ウィンドウ・リテーナを右下隅と左下隅にはめ込みます。



手順 6

メモ：
ソフト・トップの取り外しの詳細については、次のセクションを参照してください。

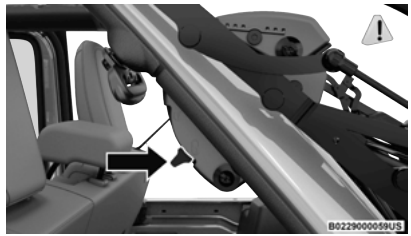
ソフト・トップの取り外し

1. ソフト・トップ ⇨ ページ 62 を完全に下ろします。

注意!

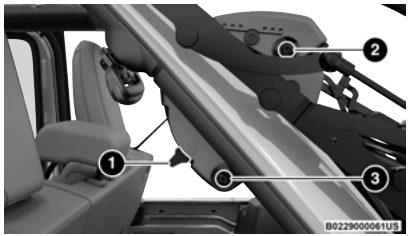
次の手順に従わないと、ソフト・トップまたは車両に損傷を与えることがあります。

2. 左右両側のリフト・アシスト機構が「ロック」位置にあり、取り外しの前に各リフト・アシスト機構の第 1 ボウを押すと「カチッ」という音が聞こえることを確認します。



手順 2

3. 付属の#40 Torx ヘッド・ドライバおよびラチェットを使用して、各リフト・アシスト機構の 2 つの Torx ヘッド・ネジを外し、機構を持ち上げて車両から離します。



手順 3

1 - ロック位置
2 - Torx ヘッド・ネジ
3 - Torx ヘッド・ネジ

4. レール上部のリリース・レバーを後方に引っ張り、トラックからサイド・リンクを外します。

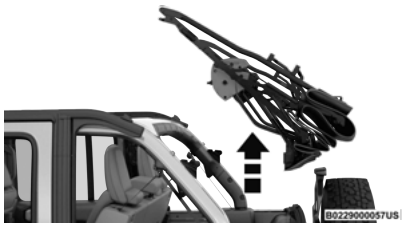


手順 4



手順 4

5. 反対側でもこの作業を行ってください。
6. 2 人でソフト・トップを持ち上げ、車両のスポーツ・バー、トリム、およびタイヤ・キャリアを回避するように注意しながら車両から離します。ソフト・トップは、安全かつ清潔な乾燥した場所に保管します。



手順 6

7. 付属の#50 Torx ヘッド・ドライバおよびラチェットを使用して、車両の後部両隅の Torx ネジを外し、リテーナを取り外します。



手順 7

ソフト・トップの取り付け

1. 現在、ハード・トップが取り付けられている場合は、ハード・トップを取り外します ⇨ ページ 73。
2. フロントから始めてドア・レールを取り付け、両側のリヤに続けます。指示およびドア・レール Torx ネジに適したトルク仕様については、⇨ ページ 81 を参照してください。

3. 付属の#50 Torx ヘッド・ドライバおよびラチェットを使用して、車両後部の両側にリヤ・リテーナを取り付けます。推奨のトルク仕様については、以下の表を参照してください。



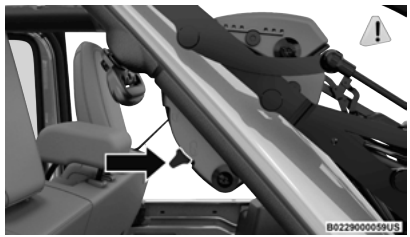
手順 3

注意!
Torx ネジを締め付けすぎないでください。リテーナが損傷するおそれがあります。

Torx ネジのトルク仕様	最大	最小
13.5N·m（119.5in-lb）	17.0N·m（150.5in-lb）	12.0N·m（106.2in-lb）

注意!
次の手順に従わないと、ソフト・トップまたは車両に損傷を与えることがあります。

4. リフト・アシスト機構が「ロック」位置にあり、ソフト・トップが車両の後部に上がり、サイド・リンクがフロント側を向いていることを確認してください。リフト・アシスト機構を両側のリテーナに下げます（スポーツ・バーの内側）。

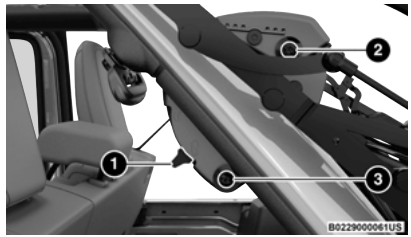


手順 4



手順 4

5. 付属の#40 Torx ヘッド・ドライバおよびラチェットを使用して、時計回りに回して Torx ネジを締め付けます。密着するまで固定し（推奨トルク仕様については以下の表を参照）、ネジを斜めに締め付けたり、過度に締め付けないように注意してください。反対側でもこの作業を行ってください。



手順 5

1 - ロック位置
2 - Torx ヘッド・ネジ
3 - Torx ヘッド・ネジ

Torx ネジのトルク仕様	最大	最小
13.5N·m（119.5in-lb）	17.0N·m（150.5in-lb）	12.0N·m（106.2in-lb）

注意!
ネジを締め付けすぎないでください。締め付けすぎると、ネジ山がつぶれる恐れがあります。

6. レールの上部にあるリリース・レバーを後方に引っ張りながら、レールの上部にあるガイド・トラックにサイド・リンクを置き、レバーを放します。



手順 6

7. 黒いブーツ・カバーのスナップを外して、取り外します。このカバーは破棄してください。これは納車用の保護カバーです。
8. ソフト・トップを上げます ⇨ ページ 63。

メモ：
トップを持ち上げる前に、左後部の隅にあるワイヤリング・ハーネスがソフト・トップ・ボウに絡まっていないことを確認してください。

ハード・トップ・フロント・パネルの取り外し

注意!

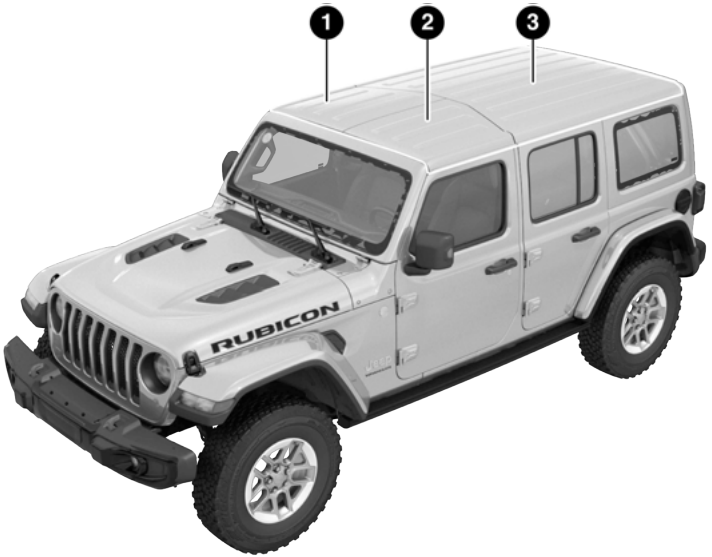
- ハード・トップは、アフターマーケット用ルーフ・ラック、スペア・タイヤ、建築用資材、狩猟用の道具、キャンプ用品や荷物などを積めるようには設計されていません。オプションの Mopar®アクセサリ・ルーフ・ラックの詳細は、⇨ ページ 88 を参照してください。
- フロント・ヘッダ、スポーツ・バー、ボディ・サイドにトップをしっかりと固定するか、または完全に外した状態以外で車両を運転しないでください。

(続き)

注意!

これらの注意に従わないと、水の浸入によって損傷したり、しみ、カビなどが生じたりする恐れがあります。

- パネルを取り外す前に、トップが乾燥していることを確認してください。トップが濡れている状態で、トップを取り外したり、ドアやウィンドウを開けたりすると、室内に水が入る恐れがあります。
- しっかりと密閉するには、ハード・トップ・アセンブリを正しく位置決めしなければなりません。正しく取り付けないと、室内に雨漏りが発生する恐れがあります。
- 着脱式ルーフ・パネルの取り扱いおよび保管に際しては、シールを傷めないように十分注意してください。雨漏りの原因となります。
- しっかりと密閉するには、フロント・パネルを正しく位置決めしなければなりません。正しく取り付けないと、室内に雨漏りが発生する恐れがあります。



4ドア・ハード・トップ構成部品

1 - 右側パネル
2 - 左側パネル
3 - ハード・トップ



B0230000033US

2ドア・ハード・トップ構成部品

1 - 右側パネル
2 - 左側パネル
3 - ハード・トップ

メモ :

- ハード・トップの取り外しと取り付け方法はすべて、2ドア・モデル車両と4ドア・モデル車両の両方に適用されます。
- 記載の画像は4ドア・モデルのものであり、2ドア・モデルの構成部品の場合、外観が異なることがあります。
- **右側パネルを取り外す前に、左側パネルを取り外す必要があります。**

ハード・トップのフロント・パネルを取り外すには、以下の手順を行います。

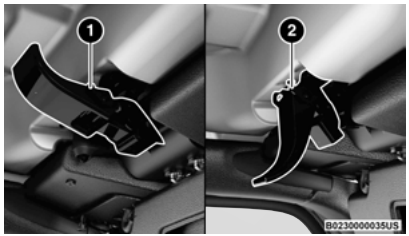
1. フロントウィンドウの方向にサンバイザを折りたたみます。

2. 左側パネルの 3 つの L 型ロック(1 つは前部、1 つは後部、1 つは外側)を回して、ルーフからロック解除します。



手順 2

3. フロントガラスの上部にある左側のヘッダー・パネル・ラッチを外してください。



手順 3

1 - ヘッダー・パネル、ラッチ状態
2 - ラッチ解除位置

4. 左側パネルを取り外します。
5. 右側パネルを取り外すには、上記の手順を繰り返します。

ハード・トップ・パネル収納バッグ - タイプ別装備

Freedom Top パネル収納バッグを使うと、ハード・トップ・パネルを収納することができます。この収納バッグは 2 つの構成部品で構成されています。

ループとフックが上を向くようにフリーダム・トップ・パネルのバッグを下に置きます。バッグのファスナを開けてアウタ・フラップを折りたたみます。

メモ:

フロント・パネルのラッチが閉じていることを確認してから、パネルをバッグの中に挿入します。

1. ラッチを上向きにして、左側のハード・トップ・パネルをバッグの中に挿入します。
2. 黒のパネル・ディバイダを開きます(ディバイダが平らになっていることを確認します)。
3. ラッチを下向きにして、右側のフリーダム・トップ・パネルをバッグの中に挿入します。

   メモ:

   フロント・パネルのラッチが閉じていることを確認してから、バッグの中に挿入します。
4. アウタ・フラップを開き、ハード・トップ・バッグのファスナを閉めます。



手順 4

5. フックとストラップをリヤ・シートの背面に向けて、フリーダム・トップ・バッグを車両の中に積み込みます。バッグの下部にあるクリップをリヤ・シートのベース部にあるチャイルド・シート・アンカに取り付けます。
6. アッパ・ストラップをリア・ヘッド・レストの周囲に巻き付けて、ストラップをバックルに通します。ストラップを引っ張ってフリーダム・トップ・バッグをリヤ・シートにしっかりと固定します。

ハード・トップ・フロント・パネルの取り付け

1. ヘッダ・ラッチおよび各パネルの 3 つの L 型ロックを開きます。
2. 位置決めピンをフロント・レシーバ取り付け穴にはめた状態でフロントガラス・フレームの右側パネルを置き、次に左側パネルを置いて、はみ出している部分がないことを確認します。また、パネルがボディに対し同一面上であることを確認してください。
3. 取り外しと逆の手順でパネルを取り付けます。

メモ：
水漏れを防止するには、取り付ける前にシールおよびハード・トップ・パネルから埃およびくずを取り除いてください。

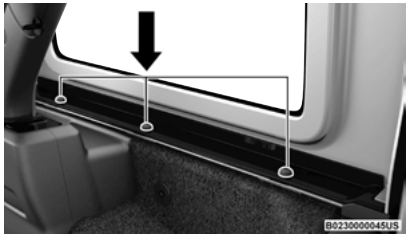
ハードトップの取り外し

1. フロント・パネルを両方取り外します ⇨ ページ 69。
2. フロント・ドアを両方開けます。
3. 付属の#50 Torx ヘッド・ドライバおよびラチェットを使用して、B ピラー（フロント・ドアの上部付近）でハード・トップを固定する 2 つの Torx ヘッド・ネジを取り外します。



手順 3

4. ハード・トップを車両に固定している 6 つの Torx ヘッド・ネジ（内側ボディサイドに沿っている、各側 3 個のネジ）を、#50 Torx ヘッド・ドライバを使用して取り外してください。



手順 4

5. スイング・ゲートを全開にし、リヤ・ウインドウ・ガラスと当たらないことを確認してください。リヤ・ウインドウ・ガラスを持ち上げてください。



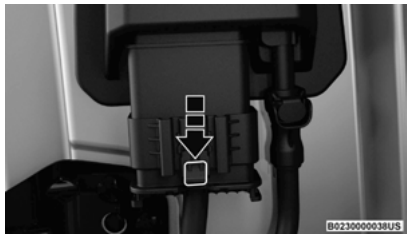
手順 5

6. 車両左後部内側の隅にワイヤ・ハーネスおよびウォッシャ・ホースがあります。



手順 6

7. ロック・タブを下に押して解放します。

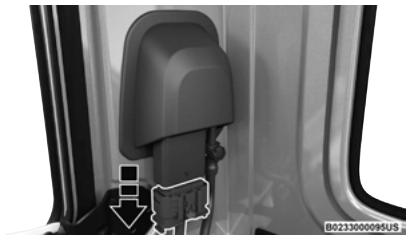


手順 7

8. ワイヤ・ハーネスを取り外すには、タブを内側に押しながら下に引っ張って外します。



手順 8



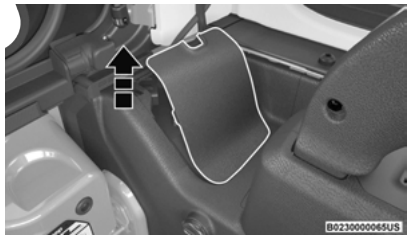
手順 8

9. ウォッシャ・ホースを取り外すには、ホース・コネクタのリリース・ボタンを押して下に引っ張ります。



手順 9

10. ワイヤーハーネスとウォッシャーホースはトリムの下のコンパートメントに保管します。収納コンパートメントにアクセスするには、図のようにトリム カバーを持ち上げます。



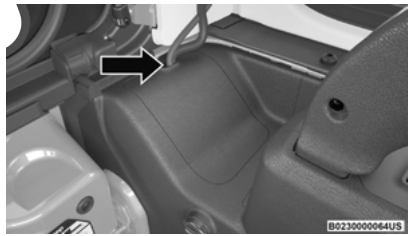
手順 10

11. ワイヤ・ハーネスは、ソケットに差し込み、ロック・タブを再度噛み合わせてコンパートメントに固定します。



手順 11

12. ウォッシャー・ホースをソケットの横にはめ込んで固定し、コンパートメントカバーを元に戻します。



手順 12

13. リヤ・ウィンドウを下げ、スイング・ゲートを閉じます。
14. 車両からハード・トップを取り外します。損傷しないように、表面が柔らかい場所にハード・トップを置きます。

注意!

リヤ・ハード・トップを取り外すには各隅に1人ずつ4人の大人を配置する必要があります。この注意に従わないと、ハード・トップが損傷する可能性があります。

ハードトップの取り付け

ソフト・トップを使用するためにドア・フレームを取り付けてある場合、ハード・トップを取り付ける前に外す必要があります。取り外し手順の詳細は ⇨ ページ 80。

ハード・トップを取り付けるには、ハード・トップの両側が車体と同一面上になっており、リフト・ガラスとハード・トップの間の隙間が均一であることを確認しながら、車両にハード・トップを置いてください。その後、取り外しと逆の手順を行います。

メモ:

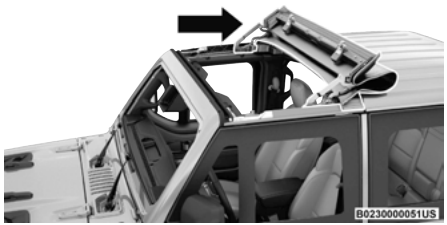
- ハード・トップ・シールが損傷していないか点検して、必要に応じて交換してください。
- 付属の#50 Torx ヘッド・ドライバとラチェットを使用して、ハード・トップをボディに固定する Torx ねじを以下のトルクで締め付けてください。
  - ハード・トップと B ピラー:13.5N·m +/- 2.7N·m (119in-lb +/- 23in-lb)
  - ハード・トップと J レ ー ル:17.5N·m +/- 3.5N·m (154in-lb +/- 30in-lb)

ハード・トップ用 SUNRIDER®

警告!

運転中に Sunrider®トップを開いたり閉じたりしないでください。運転中にトップを開くと、運転者が車両を制御できなくなるおそれがあります。ここに示す警告内容に従わないと、重傷または死亡事故につながる恐れがあります。

ハード・トップ・フリーダム・パネルの代わりに Sunrider® ソフト・トップを使用して、運転席および助手席の上部エリアを簡単に開けられるようにすることができます。



ハード・トップ用 Sunrider®

Sunrider®ソフト・トップを取り付けるには、以下の手順に従ってください。

1. 両方のフロント・ハード・トップ・フリーダム・パネルを取り外します ⇨ ページ 69。
2. もう1人の助けを借りて、サイド・レールのフロント部とリヤ部にある穴を合わせながら、Sunrider®トップを車両の上部に設置します。



Sunrider®を車両の上に下ろす

3. フロント・フレーム・ブラケットをレールの側面に引っかけて、ドア・レール取り付けボルト(スペーサなしの付属ボルト)を下側から挿入します。密着するまで#40 Torx ヘッド・ドライバで締め付けます。



フロント・ドア・レール・ボルトを取り付ける

4. リヤ・ドア・レール取り付けボルト（スペーサなしの付属ボルト）を下側から挿入します。密着するまで#40 Torx ヘッド・ドライバで締め付けます。



リヤ・ドア・レール・ボルトを取り付ける

5. 手順 3 と 4 を、車両の反対側で繰り返します。

メモ：
フロントおよびリヤ・ドア・レール取り付けボルトの推奨トルク仕様は 12N·m（8.8ft-lb）です。

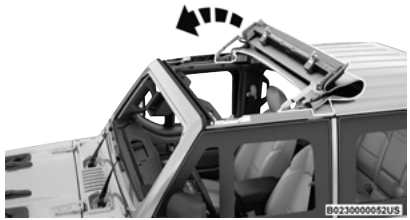
6. 付属のリヤ・クランプ取り付けボルト 2 つを使用して、リヤ・クランプを Sunrider®トップのリヤ側中央部に取り付けます。密着するまで#40 Torx ヘッド・ドライバで締め付けます。



リヤ・クランプの位置

メモ：
リヤ・クランプ取り付けボルトの推奨トルク仕様は 5N·m（3.7ft-lb）です。

7. 車両の中から、Sunrider®トップのフロント・ヘッダ部にある一体型ハンドルを使ってトップを持ち上げ、前方に引きます。手動で、トップを閉じた位置まで動かします。



Sunrider®トップを前方に押す

8. 車両内側からヘッダー・ラッチのハンドルを下に引き下げ、フックをレシーバーにはめ込みます。フックを押し込み、ラッチを所定の位置にロックしながら、ハンドルを上方に引き上げます。反対側でもこの作業を行ってください。



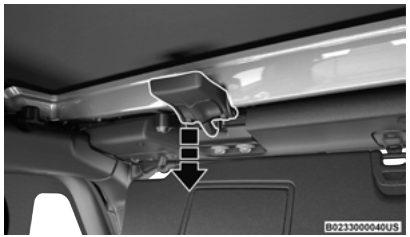
両方のヘッダ・ラッチをかみ合わせる

Sunrider®トップを開く方法

Sunrider®トップを開くには、以下の手順に従ってください。

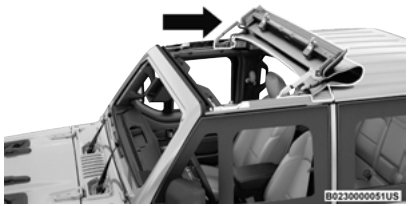
1. 両方のサンバイザをフロントウィンドウの方向にたたみます。

2. ハンドルを下に引いて、クロスバーからヘッダー・ラッチを外します。フックがレシーバから外れていることを確認します。



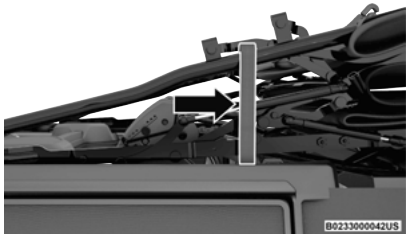
両方のヘッダ・ラッチを外す

3. Sunrider®トップのフロント部から、トップを持ち上げて、後方に向かって Sunrider®位置まで押します。



Sunrider®位置

4. Sunrider®キットに付属のフック／ループ・ファスナ 2 つを使用してトップを固定します。ファスナの1つを Sunrider®トップの各サイドにあるサイド・レールに巻き付けて、トップを所定位置に保持します。



フック／ループ・ファスナの取り付け方

パワー・スライディング・トップ - タイプ別装備

注意!

パワー・スライディング・トップを装備する車両では、フロントガラスを降ろすことは推奨しません。トップおよびヘッダー・シールに損傷が発生します。

パワー・スライディング・トップを装備している車両の場合、助手席側サンバイザの右、フロント・トリム・パネルにコントロール・スイッチがあります。



パワー・スライディング・トップ・コントロール・スイッチ

1 - オープン・スイッチ
2 - クローズ・スイッチ

メモ :

- パワー・トップは取り外しできません。希望する場合は、リヤ・クォータ・ウィンドウを取り外して、付属のストレージ・バッグに保管できます ⇨ ページ 79。
- パワー・トップは、-20°C(-4°F)未満の気温では開きません。それ以上の気温で開いた場合は、-40°C (-40°F) 以上であれば閉じることができます。
- パワー・トップは、96km/h (60mph) 以上の車速では作動しません。

メモ :

パワー・スライディング・トップの開閉時にはオーディオが一時停止することがありますが、これは Uconnect システムがパワー・トップ閉オーディオ・モードからパワー・トップ開オーディオ・モードに切り替わることによるものです。

警告!

- お子さまだけを車内に残して車を離れないでください。またお子さまが、ロックされていない車に触れることのないようにしてください。キー・フォブを車内や車の周辺、またはお子さまの手が届く場所に放置しないでください。Keyless Enter 'n Go™イグニッションを「ACC」または「ON/RUN（オン／走行）」位置のままにしないでください。お子さまだけを車内に残すと、パワー・トップ・スイッチをいたずらし、誤ってパワー・トップに挟まってしまうことがあります。このような事故は重傷や死亡事故につながる恐れがあります。
- 衝突したときパワー・トップが開いていると、そこから車外に投げ出される危険性が高くなります。重傷や死亡事故につながる恐れがあります。常にシートベルトを正しく使用し、同乗者も正しくシートベルトを使用していることを確認してください。
- 小さなお子さまにパワー・トップを操作させないようにしてください。指や身体の一部、またはどんな物もパワー・トップ開口部から外に出さないようにしてください。けがをする恐れがあります。

Opening And Closing The Power Top（パワー・トップの開閉）

エクスプレス・オープン／クローズ

オープン・スイッチを押して 0.5 秒以内に放すと、どの位置からでも自動でサンルーフが開きます。パワー・トップが完全に開き、自動的に停止します。

クローズ・スイッチを押して 0.5 秒以内に放すと、どの位置からでも自動でサンルーフが閉じます。パワー・トップは完全に閉じると、自動的に停止します。

エクスプレス・オープンまたはエクスプレス・クローズの操作をしている間にサンルーフ・スイッチを操作すると、サンルーフは止まります。

手動オープン／クローズ

パワー・トップを手動で開くには、オープン・スイッチを押したままにして、完全に開いたら放します。

パワー・トップを手動で閉じるには、クローズ・スイッチを押したままにして、完全に閉じたら放します。

オープンまたはクローズの操作をしている間にスイッチを放すと、サンルーフが止まります。もう一度スイッチを押し続けるまで、トップは部分的に開いた状態になります。

ピンチ保護機能

この機能は、エクスプレス・クローズの操作をしている間、パワー・トップの開口部に障害物があるかどうかを検知するものです。パワー・トップの開口部に障害物があると、パワー・トップは自動的に引き込まれます。そのような場合は障害物を取り除いてください。その後、クローズ・スイッチを押し、エクスプレス・クローズを行います。

警告!

パワー・トップがほとんど閉じている状態では、アンチ・ピンチ保護機能は動作しません。けがをしないために、ウインドウを閉じる前に腕、手、指や他の物がパワー・トップの作動範囲にないことを確認してください。

メモ：

- 激しい向かい風が吹いているときに閉めると、パワー・スライディング・トップの動作が反転することがあります。反転した場合、パワー・スライディング・トップ・スイッチを再度押したままにして、トップを完全に閉めてください。
- パワー・トップを閉める操作を 3 回連続して行った結果、ピンチ保護によってパワー・トップが開くと、ピンチ保護が無効になり、パワー・トップを手動モードで閉める必要があります。

パワー・トップのメンテナンス

クォータ・ウィンドウ・ガラス・パネルを清掃する場合、必ず研磨剤の入っていないクリーナと柔らかい布を使用してください。この項には、お車のファブリック・トップの清掃方法や取り扱いに関する重要な情報が記載されています ⇨ ページ 271。

再学習手順

パワー・トップを装備した車両の場合、「エクスプレス・モード」機能が作動しなくなった場合にパワー・トップを補正できる再学習手順があります。パワー・トップは以下の手順でリセットします。

1. イグニッションを「RUN（走行）」位置にし、車両を始動します。

   メモ：
   再学習手順を実行するには、エンジンを作動させておく必要があります。
2. パワー・トップが完全に閉じた位置にあることを確認します。
3. 「Close（閉じる）」スイッチを 10 秒間押し続けます。これにより、パワー・トップが補正モードになります。
4. トップが完全に開いたあとに、戻って完全に閉じるまで、クローズ・スイッチを押したままにします。

5. パワー・トップが完全に閉じた位置で停止したら、「Close（閉じる）」スイッチを放します。パワー・トップがリセットされ、使用できるようになります。

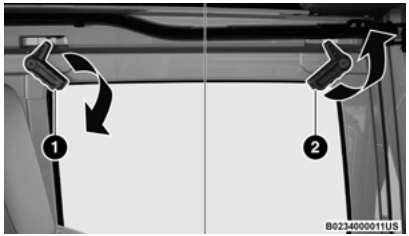
メモ：

再学習のプロセス中に「Close（閉じる）」スイッチを放した場合、再学習を完了していないことがあります。その場合は、手順を繰り返す必要があります。

リヤ・クォータ・ウィンドウの取り外し

パワー・スライディング・トップを装備している車両の場合、リヤ・クォータ・ウィンドウを取り外すことができます。これらのウィンドウを取り外すには、以下の手順を参照してください。

1. スイング・ゲートを開き、リヤ・ウィンドウを上げます。
2. クォータ・ウィンドウ付近の両方のサイド・ドアを開きます。
3. ウィンドウの内側でリヤ・クォータ・ウィンドウ・ラッチ（各ウィンドウに 2 つ）を見つけます。
4. 左側ラッチを**時計方向**に回して外します。
5. 右側ラッチを**反時計方向**に回して外します。



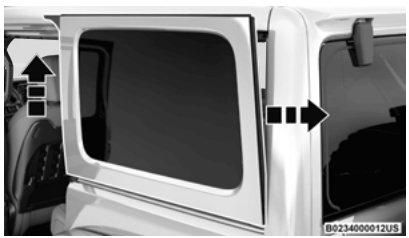
手順 5

1 - 左側のラッチは時計方向に回します
2 - 右側のラッチは反時計方向に回します

6. 車両の外側から、各ウィンドウを持ち上げて車両から離します。

メモ：

ラッチを外した後は、ウィンドウを引き下げたり、重量を加えたりしないでください。ウィンドウを所定位置に固定するピンが損傷することがあります。



手順 6



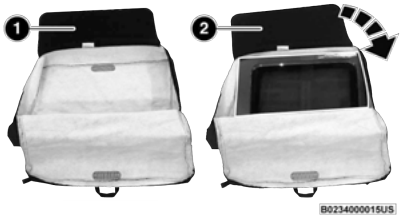
手順 6

7. リヤ・クォータ・ウィンドウは付属のストレージ・バッグに収納し、安全な場所に保管するか、リヤ・シートにバッグをしっかりと固定します。

クォータ・ウィンドウ・ストレージ・バッグ

リヤ・クォータ・ウィンドウ用のストレージ・バッグを使用するには、以下の手順を実行します。

1. バッグを完全に開き、ファブリック・ディバイダを持ち上げた状態で、ラッチが外側のフォーム・インサートに向くようにして 1 個目のクォータ・ウィンドウを収めます。収めたら、ウィンドウの上でディバイダを折りたたみます。



手順 1

1 - ディバイダを持ち上げた状態でバッグを開く
2 - ウィンドウの上にディバイダを下ろす（ラッチは外向き）

2. ラッチを外向きにして、2 個目のウィンドウをフォーム・インサートに収めます。バッグを完全に閉じます。

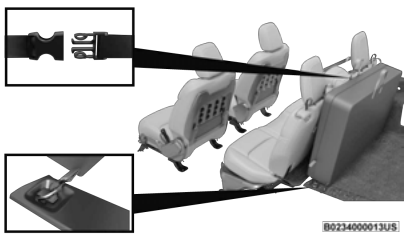
メモ：
両方のウィンドウがバッグ内に収まったら、ウィンドウの外側は互いに向き合い、すべてのラッチはバッグの外側を向きます。



手順 2

1 - ディバイダの上に置いた 2 番目のウィンドウ
2 - 完全に閉じられたバッグ

3. バッグは安全な場所に保管するか、車両のカーゴ・エリアに固定して保管します。これを行うには、バッグ上部のストラップをリヤ・ヘッド・レストに取り付け、バッグ下部のクリップをロード・フロアの最前方のカーゴ・フックに取り付けます。



手順 3

警告!

リヤ・クォータ・ウインドウが固定されていないと、衝突事故の際にけがの原因になります。急停止時や悪路走行中にリヤ・クォータ・ウインドウが跳ねて、車内の人にぶつかるおそれがあります。リヤ・クォータ・ウインドウをこの指示に従って固定せずに車内に収納しないでください。

ドア・フレーム

警告!

- ドア・フレームを取り外したまま公道を運転しないでください。万一のときに保護されません。この手順は、オフ・ロード走行を行う場合のみを想定しています。
- ドアを取り外したまま公道を運転しないでください。万一のときに保護されません。この手順は、オフ・ロード走行を行う場合のみを想定しています。

注意!

これらの注意に従わないと、水の浸入によって損傷したり、しみ、カビなどが生じたりする恐れがあります。

- トップが濡れている状態で、ドアを開いたり、窓を開けたりすると、車内に水が入る恐れがあります。
- 着脱式ドア・フレームの取り扱いおよび保管に際しては、シールを傷めないように十分注意してください。雨漏りの原因となります。

(続き)

注意!

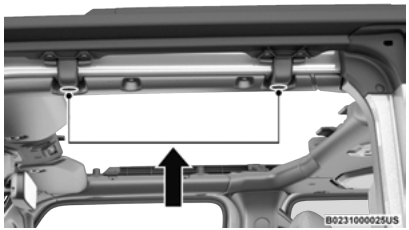
- しっかりと密閉するには、ドア・フレームを正しく位置決めしなければなりません。正しく取り付けないと、室内に雨漏りが発生する恐れがあります。

ドア・フレーム 取り外し

メモ:

4ドア・モデルでは最初にリヤ・ドア・フレームを取り外し、次にフロント・ドア・フレームを取り外す必要があります。

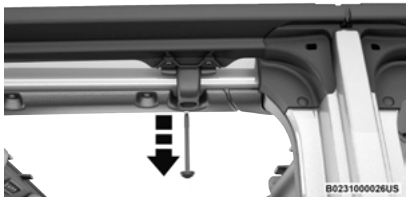
1. 付属の#40 Torx ヘッド・ドライバおよびラチェットを使用して、各ドア・フレームの下側にある Torx ネジ（1 つのドアにつき 2 つ）を緩め、ファスナを下方向に引いて取り外します。



ドア・フレーム・ネジの位置

メモ:

所定の位置に保持される設計になっているので、ファスナは完全に緩めても落下しません。



フレームの下方からネジを取り外します

2. フレームを上に持ち上げ、車両から取り外します。



手順 2

3. ネジを安全な場所に保管してください。
4. フロント・ドア・フレームで同じ手順を繰り返します（4ドア・モデルの場合）。

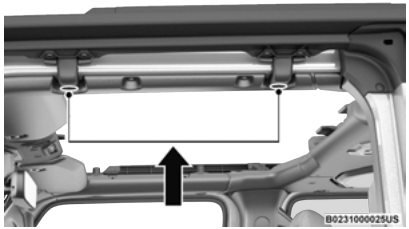
警告!

- ドア・フレームを取り外したまま公道を運転しないでください。万一のときに保護されません。この手順は、オフ・ロード走行を行う場合のみを想定しています。
- ドアを取り外したまま公道を運転しないでください。万一のときに保護されません。この手順は、オフ・ロード走行を行う場合のみを想定しています。

ドア・フレームの取り付け - 4ドア・モデル - タイプ別装備

1. まずフロント・ドア・レールを取り付けます。
2. フロントウィンドウ上部のラバー・シールにフロント・ドア・レールを注意して置き、Torx ヘッド・ネジ用の穴をそろえます（各ドアに 2 個ずつ）。

3. レール側面にフレーム・ブラケットを回し、下からネジを挿入します。密着するまで#40 Torx ヘッド・ドライバで締め付けます。ネジを斜めに締め付けたり、過度に締め付けないように注意してください。ドア・レール・ネジの適切なトルク仕様については、以下の表を参照してください。



手順 3

Torx ネジの目標トルク仕様	最大	最小
9N·m（79.6in-lb）	9.9N·m（87.6in-lb）	8.1N·m（71.7in-lb）

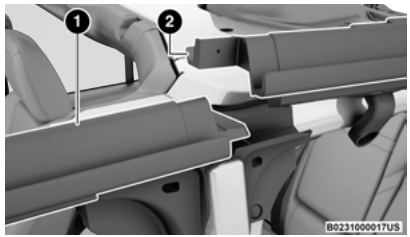
注意!
ネジを締め付けすぎないでください。締め付けすぎると、ネジ山がつぶれる恐れがあります。

4. リヤ・ドア・フレーム・ピンを、車両のドア開口部の裏にある上部の穴にセットしてください。



手順 4

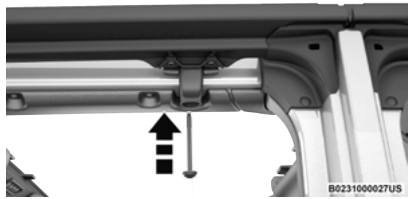
5. ドア・フレーム上部をフロント・ドア・レールの後部に慎重に配置し、ラバー・シールが平らになっていることを確認します。雨漏りが発生しないように、シールが取り付けられていることを確認します。



ドア上部のフレーム位置

1 - フロント・ドア・レール
2 - リヤ・ドア・フレーム

6. レール側面にフレーム・ブラケットを回し、下からネジを挿入します。密着するまで#40 Torx ヘッド・ドライバで締め付けます。ネジを斜めに締め付けたり、過度に締め付けないように注意してください。ドア・レール・ネジの適切なトルク仕様については、前表を参照してください。

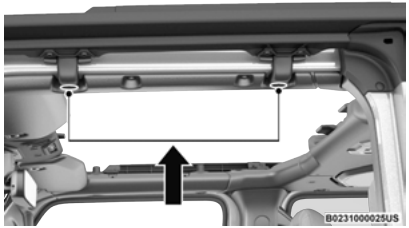


手順 6

ドア・フレームの取り付け - 2ドア・モデル - タイプ別装備

1. フロントウィンドウ上部のラバー・シールにフロント・ドア・レールを注意して置き、Torx ヘッド・ネジ用の穴をそろえます（各ドアに 2 個ずつ）。

2. レール側面にフレーム・ブラケットを回し、下からネジを挿入します。密着するまで#40 Torx ヘッド・ドライバで締め付けます。ネジを斜めに締め付けたり、過度に締め付けないように注意してください。ドア・レール・ネジの適切なトルク仕様については、以下の表を参照してください。



手順 2

Torx ネジの目標トルク仕様	最大	最小
9N·m（79.6in-lb）	9.9N·m（87.6in-lb）	8.1N·m（71.7in-lb）

注意!

ネジを締め付けすぎないでください。締め付けすぎると、ネジ山がつぶれる恐れがあります。

折りたたみ式フロントガラス

注意!

パワー・スライディング・トップを装備する車両では、フロントガラスを降ろすことは推奨しません。トップおよびヘッダー・シールに損傷が発生します。

車両の折りたたみ式フロントウィンドウは車両の構造材の一部で、事故の際に保護効果を発揮します。フロントウィンドウは風雨、路上の落下物、小さな枝などの障害物から乗員を守ってくれます。

フロントウィンドウを下ろしたままで公道を運転しないでください。この構造部材による保護がなければ危険です。

特定のオフ・ロード用途に必要な場合は、フロントウィンドウを下ろしておくことは可能です。ただし、フロントウィンドウによる保護効果は失われます。フロントウィンドウを下ろした場合は、ゆっくりと注意深く走行してください。フロントウィンドウを下げてオフ・ロード走行を行う場合、速度を 16 km/h（10 mph）以下に抑え、低速レンジを使用することをお勧めします。

フロントウィンドウを下ろしておく必要がなくなったら、公道へ戻る前に速やかにフロントウィンドウを戻してください。公道かオフ・ロードかに関わらず、またフロントウィンドウを上げているかどうかに関わらず、運転者と乗員は常にシートベルトを着用してください。

警告!

以下の警告に従ってケガを負わないように注意してください。

(続き)

警告!

- フロントガラスを下ろしたまま公道を走行しないでください。
- フロントガラスを上げた場合または下ろした場合のいずれであっても、しっかりと固定するまで運転しないでください。
- フロントガラスを下ろして走行する際は、常にゴーグルなどを着用して目を保護してください。
- フロントガラスを上げる際の指示に慎重に従ってください。運転する前に、折りたたみ式フロントガラス、フロントガラス・ワイパ、サイド・バー、および関連するすべての部品や固定具が、正しくしっかりと取り付けられていることを確認してください。これらの指示に従わないと、事故の際に運転者と乗員の安全が守られない恐れがあります。
- ドアを外す場合は、車外の安全な場所に保管してください。ドアを車内に置いておくと、万一の事故の際にケガを負う危険があります。

フロントウィンドウを下げる

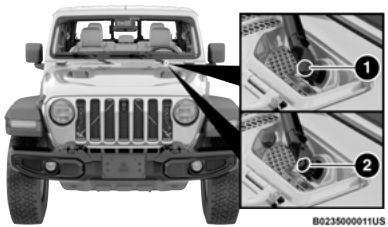
1. 以下の手順を行う前に次の事項を確認してください。
   - ソフト・トップを装備している車両の場合、トップを下げる**必要があり**、フロントウィンドウを下げる前にドア・レールを取り外す必要があります。
   - ハード・トップを装備している車両の場合、フロントウィンドウを下げる前にフリーダム・パネルを取り外す**必要があります**。

- 詳細については、以下の指示事項を参照してください。
  - ソフト・トップ 下降 ⇨ ページ 62
  - ドア・フレーム ⇨ ページ 80
  - Freedom Top パネル ⇨ ページ 69

注意!

- この指示に従わないと、車両のヘッダ・シールが損傷します。
- フロントガラスを倒す際に、損傷を防ぐためにボンネットの DTV チューナ・アンテナの取り外しが必要な場合があります。

2. フロントウィンドウ・ワイパの六角ボルトをおおう保護キャップを手動で取り外します。



手順 2

1 – 六角ボルト・カバーの取り付けられた状態
2 – 六角ボルト・カバーの取り外された状態

3. 付属の 15mm ソケットを使用して、2 つの六角ボルトを取り外し、ワイパ・アームを取り外します。
4. 車両の内側に移動し、両方のサンバイザを下げます。
5. 付属の#40 Torx ヘッド・ドライバを使用して、フロントウィンドウの内側に沿ってある 4 つの Torx ネジを取り外します。

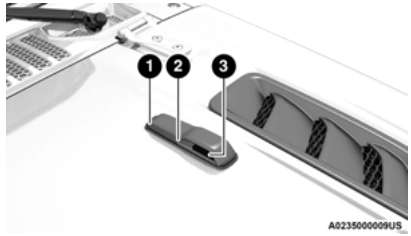


インテリアの Torx ネジの位置

1 - 外側 Torx ネジ
2 - 内側 Torx ネジ

メモ :
取り外した取り付けボルトをなくさないために、すべて元の穴に戻しておきます。

6. タイダウン・バンパに触れるまで、フロントガラスを慎重に下ろします（タイプ別装備）。



タイダウン・バンパ

1 - ウォッシャ・ノズル
2 - バンパ
3 - タイダウン

7. シンチ・ストラップを、ボンネットの両側およびフロントガラス・フレームのタイダウンに通して、フロントガラスを固定します。ストラップを締めてフロントウィンドウを固定してください。OEM Mopar®が設計した保護カバーは、正規ディーラーからご購入いただけます。

注意!

過度に締め付けないようにしてください。フロントガラスが損傷するおそれがあります。

Adaptive Cruise Control (ACC)/Forward Collision Warning (FCW) Sensor Protective Cover（アダプティブ・クルーズ・コントロール（ACC）／前面衝突警告（FCW）センサ保護カバー）- タイプ別装備

フロントガラスを降ろしている場合には、アダプティブ・クルーズ・コントロール（ACC）／前方衝突警告（FCW）センサを保護する保護カバーが必要です。OEM Mopar®が設計した保護カバーは、正規ディーラーからご購入いただけます。カバーを取り付けるには、以下の指示を参照してください。

1. カバーの上部を固定して、ヘッダー部分を軸にして回転できるようにします。
2. カバーの下側を降ろし、押し込んで開口部がカバーされるようにします。
3. カバーが正しく固定されていることを確認します。

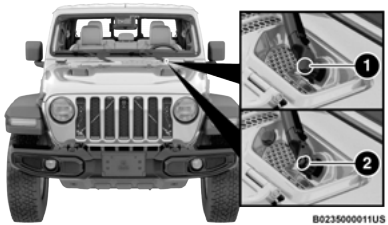
メモ：
フロントガラスを通常位置に戻す際には、必ずカバーを取り外してください。カバーをカーゴ・エリアに戻します。

清掃時の指示事項

フロントガラスを降ろして使用する際は、カバー内に埃や泥などがたまり、カメラ・レンズが曇る場合があります。モジュールを損傷したり、傷を付けたりしないように注意しながら、カメラ・レンズ、モジュール、内部カバーを清掃してください。

フロントウィンドウを上げる

1. 低い位置でフロントウィンドウを固定しているストラップを外します。
2. フロントウィンドウを上げます。
3. 付属の#40 Torx ヘッド・ドライバを使用して、フロントウィンドウの内側に沿って 4 本の Torx ネジを取り付けます。密着するまで締め付けます。ネジを斜めに締め付けたり、過度に締め付けないように注意してください。



インテリアの Torx ネジの位置

1 - 外側 Torx ネジ
2 - 内側 Torx ネジ

4. 付属の 15mm ソケットを使用して、フロントウィンドウ・ワイパ・アームを取り付けます。まず、ブレードの先端をガラスの「T」マークと揃えます。次に、この位置でアームを保持しながら、六角ナットを取り付け、しっかりと締め付けます。締め付けすぎないようにしてください。別のアームにも同じ手順を繰り返します。
5. ワイパ・アームの六角ボルトの上の保護キャップを取り付け、所定の位置にはまるまでゆっくり押し込みます。



手順 5

1 – 六角ボルト・カバーの取り付けられた状態
2 – 六角ボルト・カバーの取り外された状態

6. 上記の手順の終了後、以下の手順を実行してください。
   - 車両がソフト・トップを装備している場合、ドア・レールを取り付け、トップを持ち上げます。
   - 車両がハード・トップを装備している場合、Freedom Top パネルを取り付けます。

ボンネット

ボンネットを開ける

外側のボンネット・ラッチを両方とも解除します。



ボンネット・ラッチの位置

ボンネットを少し上げ、ボンネット開口部の中央に手を手のひらを下にして入れます。中央の安全ラッチの場所を確認し、ラッチを右に押して開けます。



ボンネット開口部に手を入れる

ボンネットからサポート・ロッドを取り外し、ラジエータのクロスメンバに挿入します。



ボンネット・プロップ・ロッド・スロット

メモ：

- 車両が静止し、ギヤ・セレクタが「P（パーキング）」に入っている必要があります。
- うまくいかない場合は、ボンネットを若干押し下げてから、安全ラッチを押してください。
- ボンネットを上げるときは、両手を使用してください。
- ボンネットを上げる前に、ワイパ・アームが作動状態ではなく、上昇位置にないことを確認してください。

ボンネットを閉じる

ボンネットを閉じるときは、サポート・ロッドをスロットから外して、ボンネット・パネル固定クリップに留めてください。ボンネットを静かに下げてください。運転席側と助手席側の両方のラッチを固定します。

警告!
車両を運転する前に、ボンネットのラッチが完全にかかっていることを確認してください。ボンネットがラッチ

(続き)

警告!
でしっかりと固定されていないと、走行中にボンネットが開き、視界を遮る恐れがあります。ここに示す警告内容に従わないと、重傷や死亡事故につながる恐れがあります。

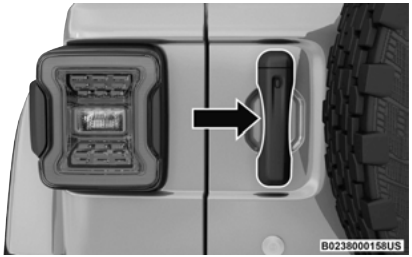
注意!
ボンネットを乱暴に閉めないでください。ボンネットが損傷する恐れがあります。

リヤ・スイング・ゲート

リヤ・スイング・ゲートは、次のいずれかの方法で解錠できます。

- メカニカル・キー（メカニカル・ロック装備 - タイプ別装備）
- リモート・キーレス・エントリ・キー・フォブ（タイプ別装備）
- フロント・ドアのパワー・ドア・ロック解除スイッチ（タイプ別装備）
- パッシブ・エントリ・スイング・ゲート・ハンドル（タイプ別装備）

スイング・ゲートを開けるには、ゲート・ハンドルを引いてください。



スイング・ゲート・ハンドル

フリップアップ・ウィンドウ（ハード・トップ・モデルのみ）

フリップアップ・ウィンドウを開けるには、まずスイング・ゲートを開け、次にウィドウを持ち上げます。



フリップアップ・ウィンドウ

メモ：

スイング・ゲートを閉じる前にリヤ・フリップアップ・ウインドウを閉じてください。

警告!

フリップアップ・ウインドウを開けたまま運転すると、有毒な排気ガスが車内に侵入する恐れがあります。この排気ガスによって運転者や同乗者の健康が損なわれることがあります。走行中はフリップアップ・ウインドウを必ず閉めてください。

注意!

リヤ・フリップアップ・ウインドウを閉じるとき、リヤ・ワイパ・ブレードを押さえないように注意してください。ブレードを損傷してしまう危険があります。

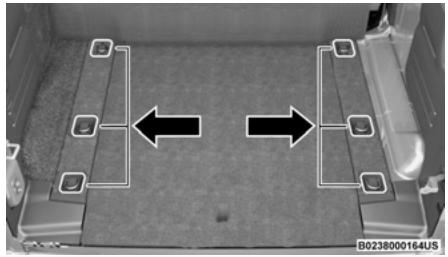
メモ：

スイング・ゲートの開放時にキーキー音が聞こえる場合は、スイング・ゲート・ヒンジおよびチェック・ストラップの清掃が必要になることがあります。チェック・ストラップ・アームに埃や堆積物が徐々に堆積すると、チェック・ストラップが故障し、交換が必要になる場合があります。

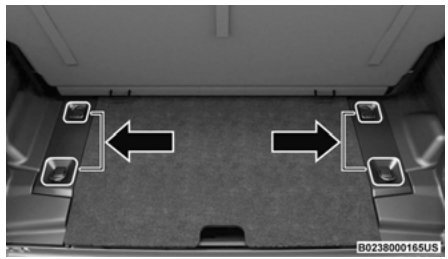
カーゴ・エリア機能

カーゴ・タイダウン・フックとループ

走行中は、カーゴ・エリア・フロアにあるカーゴ・タイダウンを使用して荷物を安全に固定してください。



カーゴ・タイダウン・ループ（4ドア・モデル）



カーゴ・タイダウン・ループ（2ドア・モデル）

警告!

- カーゴ・タイダウンは、チャイルド・シートのテザー・ストラップに使用するためのアンカではありません。車が急停止した時や事故の際には、タイダウンが緩んでチャイルド・シートが外れ、お子さまが重傷を

(続き)

警告!

負う恐れがあります。必ずチャイルド・シート用のアンカを使用してください。

- 人身事故を防ぐため、乗員はリヤ・カーゴ・エリア内に乗らないでください。カーゴ・エリアは荷物の運搬専用に設計されており、乗員が乗るようには設計されていません。乗員は必ずシートに座り、シートベルトを使用してください。

荷物と乗員の重量や位置によって、車の重心と操作性が変化します。人身事故につながる制御不能を防ぐため、車に荷物を積み込む際には次の注意に従ってください。

- 左側ドアまたは左側ドアのセンタピラーに貼付されているラベルに記載された積載制限を超える荷物を搭載しないでください。
- 荷物は常にカーゴ・フロアに均等に置いてください。重い荷物はできるだけ前方の低い位置に置いてください。
- 荷物はできるだけリヤ・アクスルの位置より前に置いてください。リヤ・アクスルの上や後ろに過度な荷重がかかったり、荷物が適切に置かれていないと、車が左右に振られることがあります。
- 荷物や積荷はシート・バックより高く積まないでください。視界が悪くなり、急停止や事故の際に前方に飛び出して危険です。

ルーフ・ラゲージ・ラック - タイプ別装備

メモ:

ルーフ・ラックは、ハード・トップ・モデルで**のみ**使用できます。

ラゲージ・ラックを装着した場合、ルーフに積む荷物の重量は、45kg(100lb)を超えないようにしてください(クロスバーの重量を含みます)。荷重がカーゴ・エリア全体に均等に分散されるようにしてください。

ルーフ・ラックに荷物を積んでいるときは、必ずクロスバーを使用してください。ストラップを頻繁に点検し、荷物がしっかりと固定されていることを確認してください。

メモ:

クロスバーは、正規ディーラーで Mopar®部品から購入できます。

ルーフ・ラックを装着しても、車の許容積載量は増えません。車内の乗員および荷物、ルーフ・ラック上の荷物まで含めた全荷重が最大車両積載量を超えないようにしてください。

警告!

走行前に、荷物がしっかりと縛られていることを必ず確認してください。ルーフ・ラック、クロスバー、またはルーフ自体への荷物の固定状態が不適切な場合、特に高速走行中に、荷物が車両から外れて飛んでしまい、衝突、けが、または物損事故につながるおそれがあります。ルーフ・ラックに物を載せて運転する際には、ルーフ・ラックの注意事項に従ってください。

注意!

- ルーフ・ラックおよび車両に損傷を与えないためにも、ルーフ・ラックの最大積載量を超えないようにしてください。重い荷物はできるだけ均等に分散し、荷物および荷物とルーフ表面の間に挟んだ保護物を適切に固定してください。
- フロントガラスよりも前にはみ出る長い積荷は、車両の前後で固定してください。
- ルーフの表面と積荷の間にブランケットなどを挟んで保護してください。
- 大型の荷物または重い荷物をルーフ・ラックに積んで運ぶときは、常に低速で走行し、カーブも慎重に曲がってください。トラックの横を走行することや、自然現象が原因で、風が巻き起こり上方へ持ち上がることがあります。木製パネルやサーフボードなど、大きくて平らな積荷は運ばないことを推奨します。カーゴまたは車両が損傷する場合があります。
- 積載物は必ず最初にクロスバーに固定し、必要に応じてタイダウン・ループを使用し、固定ポイントを追加してください。タイ・ループは、補助的なタイダウン・ポイントとしてのみ使用してください。タイ・ループには、ラチェット機構を使用しないでください。ストラップを頻繁に点検し、荷物がしっかりと固定されていることを確認してください。

環境保護システム

ガソリン微粒子フィルタ(GPF) — 2.0L T4 200kW ガソリン バージョンのみ

ガソリン微粒子フィルタは、排気システムに統合された機械式フィルタで、2.0L T4 200kW ガソリン エンジンの

排気ガス中に存在する炭素粒子を物理的に捕捉します。

微粒子フィルタは、現在および将来の規制および基準に準拠して炭素粒子の排出をほぼすべて除去するために必要です。

このフィルタは粒子を物理的に捕捉するため、通常の運転中にカーボン粒子を除去するために洗浄（再生）する必要があります。再生手順は、フィルタの状態や車両の使用状況に応じて、エンジン・コントロール・ユニットによって自動的に制御されます。

再生中に次のような現象が発生する可能性があります：騒音、振動およびハーシュネス (NVH) レベルの増加、およびエンジン性能の低下。

フィルタの状態によっては、専用のメッセージがインストルメント・パネル・ディスプレイに表示されることがあります。

フィルタに大量の煤が付着すると、インストルメント・パネルに 2 つの異なるメッセージが表示される場合があります。1 つ目のメッセージは、再生（クリーニング）中であることを示すもので、そのまま運転を続けられます。フィルタがいっぱいになって自動再生ができなくなると、2 つ目のメッセージが表示されます。このメッセージは、整備再生のためにディーラーを訪問するよう勧めるものです。

インストルメント・パネルについて

インストルメント・パネル





インストルメント・パネルの説明

1. **タコメータ**

   - 1 分間あたりのエンジン回転数（RPM x 1000）を表示します。

注意!
タコメータがレッド・ゾーンを指した状態で運転しないでください。エンジンが損傷します。

2. **温度計**

   - 水温計は、エンジン・クーラントの温度を示します。水温計が正常な範囲内を示していれば、エンジン冷却装置は正しく作動しています。
   - 気温が高い場所での走行、登坂走行、またはトレーラけん引をしている時などは、表示は高めになります。水温計の指針が通常作動範囲の上限を超えないように注意してください。

警告!
過熱したエンジン冷却装置は危険です。蒸気や沸騰しているクーラントで重度のやけどを負う恐れがあります。車がオーバーヒートしたら、正規ディーラーに連絡してください。

注意!

エンジン冷却装置が過熱した状態で運転すると、車が損傷することがあります。水温計が「H」を示している場合は、車を路肩に停めてください。エア・コンディショナを切り、針が通常温度範囲に下がるまでアイドリングします。水温計の針が「H」から動かない場合は、直ちにエンジンを止めて、正規ディーラーに整備を依頼してください。

3. **インストルメント・パネル・ディスプレイ**
   - インストルメント・パネル・ディスプレイは、ドライバ・インタラクティブ・ディスプレイを備えています。
4. **燃料 ゲージ**
   - 燃料計は、イグニッション・スイッチが「ON/RUN」位置のとき、燃料タンク内にある燃料の残量を示します。
   -  このフューエル・ポンプのマークは、車両のフューエル・フィラ・リッドがある側を示しています。
5. **スピードメータ**
   - 車速を示します。

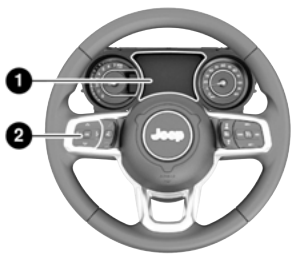
インストルメント・パネル・ディスプレイ

お使いの車両には運転者に便利な情報を通知するインストルメント・パネル・ディスプレイが装備されています。

イグニッションが「OFF（オフ）」モードの状態でドアを開閉するとディスプレイが起動し、オドメータに走行距離が表示されます。インストルメント・パネル・ディスプレイには車両システムと機能に関する重要な情報が表示されるようになっています。インストルメント・パネル・ディスプレイは、インストルメント・パネルにあるドライバ・インタラクティブ・ディスプレイを使用して、システムの機能状態を表示し、機能不良の場合に警告を表示します。ステアリング・ホイールに取り付けられたボタンにより、表示をスクロールしてメイン・メニューとサブ・メニューに入ることができます。必要な特定の情報にアクセスし、選択や調整を行うことができます。

インストルメント・パネル・ディスプレイの位置とスイッチ

インストルメント・パネル・ディスプレイは、インストルメント・パネルの中央にあります。



インストルメント・パネル・ディスプレイの位置とスイッチ

1 - インストルメント・パネル・ディスプレイの画面
2 – インストルメント・パネル・ディスプレイのスイッチ

情報を選択するには、ステアリング・ホイールに取り付けられた次のボタンを押します。



インストルメント・パネル・ディスプレイのコントロール・ボタン

1 - 左矢印ボタン
2 - 上矢印ボタン
3 - 右矢印ボタン
4 - 下矢印ボタン
5 -「OK」ボタン

- **左矢印ボタン**

  メイン・メニュー項目の情報画面またはサブメニュー画面にアクセスするには、**左** ◁ 矢印ボタンを押して放します。

- **上矢印ボタン**

  メイン・メニュー項目を上方向にスクロールするには、**上** △ 矢印ボタンを押して放します。

- **右矢印ボタン**

  メイン・メニュー項目の情報画面またはサブメニュー画面にアクセスするには、**右** ▷ 矢印ボタンを押して放します。

- **下矢印ボタン**

  メイン・メニュー項目を下方向にスクロールするには、**下** ▽ 矢印ボタンを押して放します。

- **OK ボタン**

  メイン・メニュー項目の情報画面またはサブメニュー画面にアクセスしたり、選択するためには、**OK** ボタンを押します。**OK** 矢印ボタンを 2 秒間押し続けて、表示または選択されているリセット可能な機能をリセットします。

オイル交換のリセット - タイプ別装備

この車両には、エンジン・オイル交換の警告システムが装備されています。チャイムが 1 回鳴った後に、「Oil Change Due（オイル交換時期）」というメッセージが約 5 秒間表示され、次回の定期オイル交換の時期が来たことが示されます。エンジン・オイル交換の警告システムは法定整備のサイクルに基づいているため、エンジン・オイルの交換時期は周囲温度、エンジン暖気および運転状況によって変動する場合があります。

リセットしない限り、このメッセージはイグニッション・スイッチを「ON/RUN」位置にするたびに表示されます。メッセージを一時的にオフにするには、**OK** ボタンを押して放します。定期メンテナンス後にオイル交換の警告システムをリセットするには、次の手順に従ってください。

オイル交換時期のリセット

1. ブレーキ・ペダルを踏まずに、イグニッションを「ON/RUN」位置にします（エンジンは始動させないでください）。
2. インストルメント・パネル・ディスプレイの「Vehicle Info（車両情報）」の中の「Oil Life（オイルの交換時期）」サブメニューに移動します。
3. **OK** ボタンを押し続けて、ゲージを 100%にリセットします。

その他のオイル交換リセット手順

1. ブレーキ・ペダルを踏まずに、イグニッションを「ON/RUN」位置にします（エンジンは始動させないでください）。
2. アクセル・ペダルを 10 秒以内に 3 回、ゆっくりと強く踏み込みます。
3. ブレーキ・ペダルを踏まずに、イグニッションを「OFF（オフ）」位置にします。

メモ：
車両を始動させたときに警告メッセージが表示された場合は、エンジン・オイル交換の警告システムがリセットされていません。必要に応じてこの手順を繰り返してください。

インストルメント・パネル・ディスプレイの選択可能項目

インストルメント・パネル・ディスプレイでは、メイン・メニューで以下の項目を確認できます。

メモ：
車両オプションによって、機能設定が異なることがあります。

スピードメータ	停止／始動
Vehicle Info（車両情報）	Audio（オーディオ）
Off Road（オフ・ロード）	Messages（メッセージ）
運転者アシスト タイプ別装備	Screen Setup（画面設定）
Trip Info（トリップ情報）	設定
燃費	Phone Call Status（通話ステータス）

スピードメータ

インストルメント・パネル・ディスプレイで「スピードメータ」メニュー・タイトルが表示されるまで、**上** △ 矢印または**下** ▽ 矢印ボタンを押して放します。「**OK**」ボタンを押して放すと、km/h と mph の表示が切り替わります。

Vehicle Info（車両情報）

インストルメント・パネル・ディスプレイに「Vehicle Info（車両情報）」メニュー・アイコンが表示されるまで、**上** △ または**下** ▽ 矢印ボタンを押して放します。**左** ◁ 矢印ボタンまたは**右** ▷ 矢印ボタンを押して放すと、情報サブメニュー内をスクロールできます。「**OK**」ボタンを押して放すと、リセット可能なサブメニューを選択またはリセットできます。

Tire Pressure（タイヤ空気圧）	Coolant Temperature（クーラント温度）

Transmission Temperature（トランスミッション温度）- オートマチック・トランスミッションのみ	Oil Temperature（オイル温度）
Oil Pressure（油圧）	Oil Life（オイルの交換時期）
Battery Voltage（バッテリ電圧）	

Off Road（オフ・ロード）

インストルメント・パネル・ディスプレイに「Off Road（オフ・ロード）」メニュー・アイコンが表示されるまで、**上** △ 矢印ボタンまたは**下** ▽ 矢印ボタンを押して放します。**左** ◁ 矢印ボタンまたは**右** ▷ 矢印ボタンを押して放し、情報サブメニューをスクロールします。

- 駆動系
  - Front Wheel Angle（前輪の角度）：ステアリング・ホイールの向きから計算された平均前輪角度のグラフィックと数値が表示されます。
  - Transfer Case Lock Status（トランスファ・ケース・ロック・ステータス）：4WD ハイ、4WD ハイ・パート・タイム、4WD ローの状態のときにのみ「ロック」グラフィックが表示されます。
  - アクスル・ロックおよびスウェイ・バー・ステータス（タイプ別装備）：フロントおよびリヤ、またはリヤのみのアクスル・ロッカ・グラフィックと、テキスト・メッセージ（接続または解除）とともにスウェイ・バー接続グラフィックが表示されます。
- ピッチ＆ロール
  - グラフィックでの車両のピッチとロールが角度数とともに画面に表示されます。

メモ：

ピッチとロールを表示するには車速が速くなりすぎた場合、数字の代わりに「- -」が表示され、グラフィックが灰色表示になります。この機能の利用に必要な速度もメッセージとして表示されます。

運転者アシスト タイプ別装備

「Driver Assist（運転者アシスト）」メニューには、ACC システムのステータスが表示されます。

インストルメント・パネル・ディスプレイに「Driver Assist（運転者アシスト）」メニューが表示されるまで、**上** △ 矢印または**下** ▽ 矢印ボタンを押して放します。

アダプティブ・クルーズ・コントロール（ACC）機能 - タイプ別装備

インストルメント・パネル・ディスプレイに現在の ACC システム設定が表示されます。表示される情報は、ACC システムの状態に応じて異なります。

インストルメント・パネル・ディスプレイに以下のいずれかが表示されるまで、ステアリング・ホイール上にある ACC の「ON/OFF（オン／オフ）」ボタンを押してください。

Adaptive Cruise Control Off（アダプティブ・クルーズ・コントロール - OFF）

ACC の作動を解除すると、「Adaptive Cruise Control Off（アダプティブ・クルーズ・コントロール - OFF）」と表示されます。

Adaptive Cruise Control Ready（アダプティブ・クルーズ・コントロール - 準備完了）

ACC がオンになっているが、車速設定が選択されていない場合は、「Adaptive Cruise Control Ready（アダプティブ・クルーズ・コントロール - 準備完了）」と表示されます。

ステアリング・ホイール上にある「SET+（設定+）」または「SET-（設定-）」ボタンを押すと、インストルメント・パネル・ディスプレイに次の項目が表示されます。

ACC SET（ACC 設定）

ACC を設定すると、設定速度がインストルメント・パネルに表示されます。

ACC が起動されると、次のような ACC 画面が再表示される場合があります。

- システムのキャンセル
- 運転者によるオーバーライド
- システム OFF
- ACC 接近警告
- ACC 利用不可警告

メモ：

ACC 表示の動きがなく 5 秒経過すると、インストルメント・パネル・ディスプレイは最後に選択された表示に戻ります ⇨ ページ 123。

燃費

インストルメント・パネル・ディスプレイで「Fuel Economy（燃費）」アイコンがハイライト表示されるまで、**上** △ 矢印または**下** ▽ 矢印ボタンを押して放します。**OK** ボタンを押し続けると、平均燃費機能がリセットされます。

左 ◁ 矢印または**右** ▷ 矢印ボタンを押して、「Current Fuel Economy Information（現在の燃費情報）」を表示する、または表示しない画面を選択します。

- Range（走行可能距離） – ディスプレイに、タンクに残っている燃料で走行可能な推定距離（キロメートルまたはマイル）が表示されます。走行可能距離値が16km（10 マイル）未満になると、走行可能距離表示は「LOW（減少）」というメッセージに変わります。燃料が十分給油されると「LOW（減少）」メッセージが消えて、新しい走行可能距離値が表示されます。**OK** ボタンを使用しても走行可能距離をリセットすることはできません。

  メモ：
  走行可能距離に表示された距離に関係なく、運転スタイルや車両積載量によって実際の走行距離は大きく変わります。

- Average（平均） – ディスプレイに、直近のリセット以降の平均燃費（MPG、L/100km、または km/L）が表示されます。
- Current（瞬間） – ディスプレイに、走行中の瞬間燃費（MPG、L/100km、km/L）が表示されます。

Trip Info（トリップ情報）

インストルメント・パネル・ディスプレイで「Trip（トリップ）」アイコン／タイトルがハイライト表示されるまで、**上** △ 矢印ボタンまたは**下** ▽ 矢印ボタンを押して放します。次に、**左** ◁ 矢印または**右** ▷ 矢印ボタンを押して放すと、「Trip A（トリップ A）」または「Trip B（トリップ B）」を選択できます。

「Trip A（トリップ A）」および「Trip B（トリップ B）」情報には、次の項目が表示されます。

- Distance（距離）
- Average Fuel Economy（平均燃費）
- Elapsed Time（経過時間）

すべての情報をリセットするには、**OK** ボタンを押し続けます。

Stop/Start（ストップ／スタート）–タイプ別装備

インストルメント・パネル・ディスプレイに「Stop/Start（停止／始動）」アイコン／タイトルがハイライト表示されるまで、**上** △ 矢印ボタンまたは**下** ▽ 矢印ボタンを押して放します。画面には「Stop/Start （停止／始動）」の状態が表示されます。

Audio（オーディオ）

インストルメント・パネル・ディスプレイで「Audio（オーディオ）」メニュー・アイコン／タイトルがハイライト表示されるまで、**上** △ 矢印ボタンまたは**下** ▽ 矢印ボタンを押して放します。このメニューには、曲名、アーチスト名、付属画像を伴ったオーディオ・ソースなど、オーディオ・ソース情報が表示されます。

Messages（メッセージ）

「Messages Menu（メッセージ・メニュー）」項目がハイライトされるまで、**上** △ または**下** ▽ 矢印ボタンを押して放します。この機能を選択すると、保存された警告メッセージの数が表示されます。**右** ◁ 矢印ボタンを押すと、保存されたメッセージを確認できます。

メッセージがない場合は、「No Stored Messages（保存されたメッセージなし）」が表示されます。

Screen Setup（画面設定）

インストルメント・パネル・ディスプレイで「Screen Setup Menu（画面設定メニュー）」アイコン／タイトルがハイライト表示されるまで、**上** △ 矢印ボタンまたは**下** ▽ 矢印ボタンを押して放します。**OK** ボタンを押して放してサブメニューを開き、必要に応じて画面の指示に従って手順を進めます。画面設定機能により、インストルメント・パネルに表示される情報およびその情報が表示される位置を変更できます。

メモ：
装備オプションおよび現在の車両状況により、一部の機能が使用できない場合があります。

運転者が選択できる画面設定項目

左上		
なし	Time（時刻）	Current Econ (or L/100km, km/L)（現在の燃費（または L/100km、km/L））
Outside Temp（外気温）	Trip B Distance（トリップ B 走行距離）	Average Econ (or L/100km, km/L)（平均燃費（または L/100km、km/L））
Range to Empty（走行可能距離）	Compass（コンパス）	Trip A Distance（トリップ A 走行距離）

3

Center（中央）		
なし	Compass（コンパス）	Current Econ (or L/100km, km/L)（現在の燃費（または L/100km、km/L））
Outside Temp（外気温）	Trip B Distance（トリップ B 走行距離）	Time（時刻）
Trip A Distance（トリップ A 走行距離）	Audio（オーディオ）	スピードメータ
Range to Empty（走行可能距離）	Menu Title（メニュー・タイトル）	Average Econ (or L/100km, km/L)（平均燃費（または L/100km、km/L））

右上		
なし	Time（時刻）	Current Econ (or L/100km, km/L)（現在の燃費（または L/100km、km/L））

右上		
Outside Temp（外気温）	Compass（コンパス）	Average Econ (or L/100km, km/L)（平均燃費（または L/100km、km/L））
Range to Empty（走行可能距離）	Trip A Distance（トリップ A 走行距離）	Trip B Distance（トリップ B 走行距離）

ギヤ表示 - タイプ別装備

- Full（フル）
- Single（シングル）

Current Gear（現在のギヤ）- タイプ別装備

- On（オン）
- Off（オフ）

Odometer（オドメータ）- タイプ別装備

- Show（表示）
- Hide（非表示）

Favorite Menus（お気に入りのメニュー）		
スピードメータ	Fuel Economy (show/hide)（燃費（表示／非表示））	Messages（メッセージ）

Favorite Menus（お気に入りのメニュー）		
停止／始動	Off Road（オフロード）– タイプ別装備（表示／非表示）	設定
Vehicle Info（車両情報）	Driver Assist（ドライバ・アシスト）- タイプ別装備（表示／非表示）	Trip Info (Show/Hide)（トリップ情報（表示／非表示））
Audio (show/hide)（オーディオ（表示／非表示））	Screen Setup（画面設定）	

工場出荷時設定

- Cancel（キャンセル）
- Restore（復元）

(show/hide)（表示／非表示）付きのメニューは、ユーザーが **OK** ボタンを押して、このメニューのインストルメント・パネル・ディスプレイでの表示／非表示を選択できることを意味します。

Vehicle Settings（車両設定）

クラスタ・ディスプレイでは、以下のメニュー／サブメニュー項目が利用できます。

Speed Warning（速度警告）：

警告表示と警告音（ディスプレイ上でのメッセージと記号の表示）で運転者に伝えられる車速制限を設定します。

速度警告を設定すると、アイコンがポップアップ・メッセージと同じ時間表示されたままになります。車両の設定速度を超過すると、アイコンは超過している間表示されたままになります。

この機能を使用しない場合、「Speed Warning（速度警告）」を「OFF」にすることもできます。

助手席側エアバッグ - タイプ別装備

助手席側エアバッグは有効にも無効にもできます。

Phone Call Status（通話ステータス）

着信を知らせるポップアップ・メッセージは、インストルメント・パネル内のどの画面にも表示されます。ポップアップ・メッセージは、着信無視、着信応答、通話終了によって消去されるまで画面に表示されます。

メモ：

「Uconnect Settings（Uconnect の設定）」で、ポップアップが表示されないように設定できます。これは、オーディオ・メニューまたは携帯電話状態情報に影響を与えません ⇨ ページ 150。

電話の着信、通話、発信は、オーディオ情報の代わりになります。

発信者の名前は、以下の場合にのみ表示されます。

- 番号が通話に関連付けられている場合。電話番号が発信者の名前の代わりに表示される場合。
- インストルメント・パネルが名前のテスト／フォントに対応していない場合。インストルメント・パネルは、名前の代わりに何も表示しません。
- 発信者の名前が最大文字数を超える場合。適合する最後の 2、3 桁の数字は「...」に置き換えられます。

メモ：

通話が終了すると、オーディオ情報はインストルメント・パネルに戻ります。

バッテリ・セーバ・オン／バッテリ・セーバ・モード・メッセージ – 電力負荷低減機能 – タイプ別装備

この車両には、インテリジェント・バッテリ・センサ（IBS）が装備されており、電気系統および車両バッテリの状態を監視します。

IBS が充電システム不具合、あるいは車両のバッテリ状態の悪化を検出すると、車両の走行時間および走行距離を伸ばすために、電力負荷の低減動作を実行します。この動作は、必要でない電力負荷に対する出力を下げるか、オフにすることによって行われます。

負荷低減機能はエンジン動作中にのみ有効になります。電源を供給できなくなるために車両が停止する、または現在の走行サイクル後に再始動しなくなる程度にまでバッテリが消耗する恐れがある場合には、メッセージが表示されます。

負荷低減機能の作動時には、インストルメント・パネル・ディスプレイに「Battery Saver On（バッテリ・セーバ・オン）」または「Battery Saver Mode（バッテリ・セーバ・モード）」というメッセージが表示されます。

これらのメッセージは、車両バッテリの充電レベルが低下し、そのまま走行を続けると充電システムを維持できなくなる程度にまで電力が低下することを示しています。

メモ：

- 充電システムは負荷低減機能から独立して作動します。充電システムは、充電システムの診断を継続して実行します。
- バッテリ充電警告灯が点灯した場合、充電システムの問題を示していることがあります ⇨ ページ 99。

オフになる電力負荷（タイプ別装備）、および負荷低減により影響を受ける車両の機能は、以下のとおりです。

- シート・ヒータ/ベンチレーテッド・シート/ステアリング・ホイール・ヒータ
- リヤ・デフロスタおよびヒーテッド・ミラー
- エアコンディショナー・システム
- オーディオ・システムおよびテレマティックス・システム

バッテリーの充電不足は、以下のうちの一つまたは複数の状況により発生します。

- 電力負荷が充電システムの能力より大きくなるため、充電システムが車両システムに十分な電力を供給できなくなる。それでも充電システムは正常に機能している。
- 特定の走行条件（市街地走行、けん引、頻繁な停止）で、車両のすべての電力負荷がオンになる（たとえば、エアコンディショナーが最大設定になる、室内灯や車外灯が点灯する、+12 ボルト、150W 電源コンセント、USB ポートが過負荷になる）。
- 追加のランプ、後付けの電気アクセサリ、オーディオ・システム、アラーム、およびそれに類似した装置などのオプションが装備されている。
- 異常な走行サイクル（短距離走行と長期間の駐車の繰り返しなど）。

- 車両を長期間（週単位、あるいは月単位で）駐車した。
- 最近バッテリーを交換したが、完全に充電していなかった。
- 車両を駐車したときに作動していた電力負荷によってバッテリが放電した。
- エンジンが作動していない状態で、ラジオ、ライト、充電器、掃除機などの+12 ボルト電源携帯電気器具、ゲーム・コンソールおよびそれに類する機器へ電力を供給するためにバッテリが長時間使用された。

電気負荷低減アクション・メッセージが表示される（「Battery Saver On（バッテリ・セーバ・オン）」または「Battery Saver Mode（バッテリ・セーバ・モード）」）場合に行うこと

走行中：

- 可能な場合、以下のようにして不要な負荷への出力を下げる：
  - 余分な灯火類（室内灯や車外灯）を消灯する
  - +12 ボルト、150W、USB ポートに接続されているものを点検する
  - エアコンディショナー設定（ファン、温度）を確認する
  - オーディオ設定（音量）を確認する

走行後：

- 市販の機器（追加ランプ、カスタム電装品、オーディオ・システム、アラーム）が取り付けられていないかを確認し、取り付けられている場合は、仕様を確認する（負荷電流およびイグニッション OFF ドロー電流）。
- 直近の走行サイクル（走行距離、走行時間および駐車時間）の見直しを行う。
- それでも引き続き走行中にメッセージが表示される場合や、車両および走行パターンを見直しても原因を特定できない場合は、車両の修理点検を行う必要があります。

警告灯およびメッセージ

インストルメント・パネルの警告灯／表示灯が点灯すると、それに関連する専用のメッセージや警告音が同時に発せられます。メッセージや警告音は注意を喚起する予備的なものですので、それだけに頼ったり、取扱説明書に記載されている情報に代わるものと考えたりはしないでください。また、いかなる場合でも取扱説明書の説明を十分にお読みください。故障の兆候が見受けられる場合は、必ずこの章の説明を参照してください。まず、問題に該当する表示灯がすべて表示されます。装備オプションやその時点の車両の状態によっては、システム点検メニューの表示が異なることがあります。一部の表示灯はオプションであり、表示されないことがあります。

赤色警告灯

エアバッグ警告灯



この警告灯は、エアバッグの故障を示し、イグニッションを「ON/RUN（オン／走行）」または「ACC/ON/RUN（ACC／オン／走行）」位置にしたとき、電球点検として 4～8 秒間点灯します。この警告灯は、エアバッグの故障が検出された場合にチャイム 1 回とともに点灯し、故障が解消されるまで点灯したままになります。エンジン始動時にこの警告灯が点灯しなかったり、点灯したままの状態になったり、または運転中に点灯した場合は、直ちにジープ正規ディーラーで点検を受けてください。

ブレーキ警告灯



この警告灯は、ブレーキ・フルード量やパーキング・ブレーキなどの様々なブレーキ機能をモニタします。ブレーキ警告灯が点灯している場合は、パーキング・ブレーキがかかっているか、ブレーキ・フルード量が低下しているか、またはアンチロック・ブレーキ・システムに不具合があることを示しています。

パーキング・ブレーキがかかっていないときやマスタ・シリンダ・リザーバのフルード量が規定値にあるときに、ブレーキ警告灯が点灯したままの場合は、ブレーキ油圧システムに故障があるか、またはブレーキ・ブースタでの問題がアンチロック・ブレーキ・システム（ABS）／エレクトロニック・スタビリティ・コントロール（ESC）システムで検出されたことを示しています。この場合、不具合が修理されるまで警告灯は点灯し続けます。問題がブレーキ・ブースタに関係している場合、ブレーキをかけているときに ABS ポンプが作動し、停車しようとするたびにブレーキ・ペダルの脈動が感じられる場合があります。

このデュアル・ブレーキ・システムは、油圧システムが一部効かなくなった場合に予備のブレーキ能力を発揮します。デュアル・ブレーキ・システムのいずれかで漏れが発生すると、ブレーキ警告灯が点灯します。これは、マスタ・シリンダのブレーキ・フルード量が規定値より低下した時に点灯します。

警告灯は、不具合が修理されるまで点灯し続けます。

メモ：
この警告灯は、急なカーブを曲がるときなどにフルード量の状態が変化することにより点滅する場合がありま

す。車両を整備に出し、ブレーキ・フルード量の点検を受けてください。

ブレーキの故障がある場合は、直ちに修理が必要です。

警告!

赤いブレーキ警告灯が点灯したままの状態で走行することは危険です。ブレーキ・システムの一部に故障が起きている可能性があります。この場合、車両の制動距離が長くなります。衝突事故につながります。直ちに点検を受けてください。

アンチロック・ブレーキ・システム(ABS)装備車には、電子ブレーキ・フォース・ディストリビューション(EBD)機能も搭載されています。EBD が故障した場合、ブレーキ警告灯が ABS 警告灯とともに点灯します。早急に ABS システムを修理する必要があります。

ブレーキ警告灯の動作は、イグニッション・スイッチを「OFF」位置から「ON/RUN」位置に回すことによって確認できます。警告灯が約 4 秒間点灯します。その後、パーキング・ブレーキを効かせるか、またはブレーキの不具合が検知されない限り、警告灯は消灯します。警告灯が点灯しない場合、ジープ正規ディーラーで点検を受けてください。

また、イグニッション・スイッチが「ON/RUN」位置でパーキング・ブレーキを効かせるとこの警告灯が点灯します。

メモ:
この場合は、単にパーキング・ブレーキがかかっていることを示します。ブレーキの作動具合を示すものではありません。

バッテリ充電警告灯



この警告灯は、バッテリが適切に充電されていない場合に点灯します。エンジンが作動中でも点灯し続ける場合、充電装置に問題があるおそれがあります。できるだけ早く、正規ディーラーにお問い合わせください。

これは、電気系統または関連部品に問題がある可能性を示しています。

ドア・オープン警告灯



この警告灯は、ドアが半ドアまたは開いた状態で、完全に閉じていないときに点灯します。

メモ:
車両が動いている場合、チャイムが 1 回鳴ります。

電動パワー・ステアリング(EPS)故障警告灯



この警告灯は、EPS システムに故障が発生すると点灯します ⇨ ページ 115。

警告!

アシストが完全でない車両を操作し続けると、事故につながる恐れがありますので、直ちに整備を受けてください。

エレクトロニック・スロットル・コントロール(ETC)警告灯



この警告灯は、ETC システムに不具合が発生すると点灯します。車両の走行中に不具合が検出されると、不具合の状況に応じて警告灯は点灯または点滅します。車を安全に停車させ、トランスミッションを「P(パーキング)」位置に入れてイグニッションを切り替えます。警告灯は消えます。走行中に警告灯が点灯し続ける場合、通常は走行可能ですが、できるだけ早く正規ディーラーで点検を受けてください。

メモ:
アクセル・ペダルとブレーキ・ペダルを同時に踏むと、この警告灯は点灯することがあります。

この警告灯が走行中に点滅し続ける場合、直ちに点検を受ける必要があります。出力の低下、アイドリング回転数の増加、不安定、またはエンストなどが起きて、車両をけん引しなければならなくなる場合もあります。警告灯は、イグニッションを「ON/RUN(オン/走行)」または「ACC/ON/RUN(ACC/オン/走行)」位置にしたときに点灯し、電球点検のためしばらく点灯します。始動時に警告灯が点灯しない場合、正規ディーラーでシステムの点検を受けてください。

エンジン・クーラント温度警告灯



この警告灯は、エンジンがオーバーヒートしていることを警告します。エンジン・クーラント温度が高い場合は、警告灯が点灯し、チャイムが 1 回鳴ります。温度が上限に達した場合、チャイムが 4 分間またはエンジンが冷えるまで(いずれか早い方)鳴り続けます。

走行中に警告灯が点灯した場合、安全を確認して車を路肩に寄せ、停止させてください。エアコン(A/C)システ

ムを ON にしている場合は OFF にします。トランスミッションを「N（ニュートラル）」に入れ、アイドリングします。水温計の測定値が正常範囲に戻らない場合は、直ちにエンジンを止めて、整備を依頼してください ⇨ ページ 229。

ボンネット・オープン警告灯



この警告灯は、ボンネットが半開きまたは開いた状態で、完全に閉じていないときに点灯します。

メモ：
車両が動いている場合、チャイムが 1 回鳴ります。

スイング・ゲート・オープン警告灯



この警告灯は、スイング・ゲートが開くと点灯します。

メモ：
車両が動いている場合、チャイムが 1 回鳴ります。

油圧警告灯



この警告灯が点灯し、チャイム音が鳴ると、エンジンの油圧低下を示しています。走行中にこの警告灯が点灯し、チャイム音がなる場合は、直ちに車を止め、エンジンを停止します。車両を安全に停止させた後、エンジンを再始動し、油圧警告灯を監視します。それでも油圧警告灯が消灯しない場合は、エンジンを停止し、正規ディーラーに連絡して、対応についてご相談ください。原因の箇所を修理するまで車を運転しないでください。警告灯が再点灯しなければ、エンジンを使用することは可能ですが、なるべく早く正規ディーラーに車両を持ち込むことを推奨します。原因の箇所を修理するまで車を運転しないでください。この警告灯はエンジン・オイル量を示すものではありません。エンジン・オイル・レベルはエンジン・ルーム内で確認してください。

オイル温度警告灯



この警告灯は、エンジン・オイル温度が高いことを示します。走行中にこの警告灯が点灯する場合は、直ちに車を止め、エンジンを停止します。オイル温度が正常レベルに戻るのを待ちます。

シートベルト警告灯



この警告灯は、運転席または助手席のシートベルトが締められていないことを示します。イグニッションを最初に「ON/RUN（オン／走行）」または「ACC/ON/RUN（ACC／オン／走行）」位置にしたときに、運転席のシートベルトが外れている場合は、チャイムが鳴り警告灯が点灯します。運転中に助手席のシートベルトが外れたままの場合は、シートベルト警告灯が点滅または点灯し続け、チャイムが鳴ります ⇨ ページ 190。

速度警告灯 - タイプ別装備

この警告灯は、車速が既定の速度制限を超えると警告音で運転者に警告します。

警告音の周期：



車速 120km/h（75mph）超 – 2 秒に 1 回（第二段階）。

メモ：
速度警告ライトを停止するには、運転者が速度を落とす以外の方法はありません。

トランスミッション温度警告灯



この警告灯は、トランスミッション・フルード温度が高いことを警告するために点灯します。これは、トレーラけん引などの過酷な使用を行った際に発生することがあります。この警告灯が点灯した場合、車を停止し、トランスミッションを「P（パーキング）」または「N（ニュートラル）」に入れた状態で、警告灯が消灯するまでエンジンをアイドリング回転またはわずかに速いアイドリング回転で作動させてください。警告灯が消灯すれば、通常走行を継続してかまいません。

警告!

トランスミッション温度警告灯が点灯しているときに車の運転を続けると、トランスミッション・フルードが吹きこぼれて温度が高いエンジンや排気系の部品に接触し、火災が発生することがあります。「CLUTCH HOT（クラッチ高温）」メッセージが表示されているときや、トランスミッション温度警告灯が点灯しているときに運転を続けると、クラッチが過熱して火災の原因になることがあります。

注意!

トランスミッション温度警告灯が点灯した状態で運転を続けると、トランスミッションに深刻な損傷や故障が発生する恐れがあります。「CLUTCH HOT（クラッチ高温）」メッセージが表示されているときや、トランスミッション温度警告灯が点灯しているときに運転を続けると、クラッチが過熱して、クラッチ損傷、トランスミッション損傷、または故障を招くことがあります。

車両セキュリティ警告灯 タイプ別装備



この警告灯は、車両セキュリティ・アラームがセットされると約 15 秒間すばやく点滅し、その後は解除されるまでゆっくりと点滅します。

黄色警告灯

アンチロック・ブレーキ・システム（ABS）警告灯



この警告灯は、ABS を監視しています。この警告灯は、イグニッションを「ON/RUN（オン／走行）」または「ACC/ON/RUN（ACC／オン／走行）」位置にすると点灯し、約 4 秒後に消灯します。

運転中に ABS 警告灯が点灯し続ける場合、または走行中に点灯する場合は、ブレーキ・システムの ABS 装置が機能しておらず、できるだけ早い修理が必要です。しかし、ブレーキ警告灯が点灯していなければ、通常のブレーキ・システムはそのまま正常に作動します。

イグニッションを「ON/RUN（オン／走行）」または「ACC/ON/RUN（ACC／オン／走行）」位置にしても ABS 警告灯が点灯しない場合、正規ディーラーでブレーキ・システムの点検を受けてください。

エレクトロニック・スタビリティ・コントロール（ESC）作動警告灯 - タイプ別装備



この警告灯は、エレクトロニック・スタビリティ・コントロール・システムが作動しているときに点灯します。インストルメント・パネル内の ESC 警告灯は、イグニッションを「ON/RUN（オン／走行）」または「ACC/ON/RUN（ACC／オン／走行）」位置にしたときと、ESC が作動したときに点灯します。この表示灯は、エンジンが始動すると消灯します。エンジンがかかっても ESC 警告灯が点灯し続ける場合は、ESC システムに故障があることを意味します。イグニッション操作が数回行われ、48km/h（30mph）以上の速度で数キロメートル（数マイル）運転した後も警告灯が点灯し続ける場合、直ちに正規ディーラーで診断および修理を受けてください。

- ESC OFF 表示灯と ESC 表示灯は、イグニッションを「ON/RUN（オン／走行）」または「ACC/ON/RUN（ACC／オン／走行）」位置にするたびに一時的に点灯します。
- ESC システムの作動中は、ブンブンまたはカチッという音を発します。これは正常な動作で、ESC が作動しなくなるとこの音は止まります。
- ESC が作動すると、この警告灯が点灯します。

エレクトロニック・スタビリティ・コントロール（ESC）オフ警告灯 – タイプ別装備



この警告灯は、ESC が OFF であることを示します。

イグニッション・スイッチを「ON/RUN（オン／走行）」位置にするたびに、以前「OFF（オ フ）」にしていた場合でも、ESC システムは「ON（オン）」に なります。

フューエル・フィラ・キャップ緩み警告灯 - タイプ別装備



この警告灯は、フューエル・フィラ・キャップが緩んでいるときに点灯します。この表示灯を消すには、フィラ・キャップを適切に閉めてください。警告灯が消灯しない場合は、正規ディーラーにお問い合わせください。

残燃料警告灯



燃料の残量が約 7.5 リットル（2.0 ガロン）まで減少すると、この警告灯が点灯し、チャイムが鳴ります。警告灯は燃料が補給されると消灯します。

ウォッシャ液不足警告灯 - タイプ別装備



この警告灯は、フロントガラス・ウォッシャ液の残量が少なくなったときに点灯します。

エンジン点検／警告灯（MIL）



エンジン点検／警告灯（MIL）は、オンボード故障診断（OBDII）と呼ばれる診断システムの一部で、エンジンとオートマチック・トランスミッションの各コントロール・システムを監視しています。エンジン始動前、イグニションを「ON/RUN（オン／走行）」位置にすると、この警告灯が点灯します。イグニッション・スイッチを「OFF（オフ）」から「ON/RUN（オン／走行）」位置にしたときに警告灯が点灯しない場合は、直ちに点検を受けてください。

エンジン始動後も、ガス・キャップの緩みや紛失、燃料の品質不良などで警告灯が点灯することがあります。通常の運転の際にこの警告灯がたびたび点灯したままになる場合は、車の整備を受けてください。このようなときでも、ほとんどの場合、車は正常に運転でき、けん引の必要はありません。

MIL が点滅する場合は、エンジンが作動しているときに、急な出力低下や触媒コンバータの損傷などにつながる重大な不具合があることを警告しています。その場合は、直ちに正規ディーラーで車両の整備を受けてください。

警告!

触媒コンバータが故障した場合、触媒コンバータの温度が通常の走行状態よりも高くなることがあります。乾燥した草木など、可燃性の物質の上を低速で走行したり、駐車したりした場合、触媒コンバータの故障が原因で火災が発生し、運転者、乗員、または他の人が死亡したり、重傷を負うことがあります。

注意!

エンジン警告灯(MIL)が点灯したまま長時間運転すると、車両コントロール・システムが損傷する恐れがあります。また、燃費と操縦性にも影響を与えることがあります。MIL が点滅すると、触媒コンバータの重大な損傷と出力低下が程なくして起こります。直ちに整備を受けてください。

4WD 整備警告灯 - タイプ別装備



この警告灯は、4WD システムに故障が発生すると点灯します。警告灯が点灯し続けたり走行中に点灯したりするときは、4WD システムが正常に機能しておらず、整備が必要であることを示しています。最寄りの正規ディーラーまで運転し、直ちに車両の整備を受けることをお勧めします。

アダプティブ・クルーズ・コントロール(ACC)整備警告灯 - タイプ別装備



この表示灯は、ACC が作動しておらず、整備が必要な場合に点灯します ⇨ ページ 123。

前面衝突警報(FCW)の整備警告灯 - タイプ別装備



この警告灯は、前方衝突警告システムの故障を示す場合に点灯します。正規ディーラーで整備を受けてください ⇨ ページ 185。

STOP/START システム整備警告灯 - タイプ別装備



この警告灯は、STOP/START システムが正常に機能しておらず、整備が必要である場合に点灯します。正規ディーラーで整備を受けてください。

クルーズ・コントロール異常警告灯



この警告灯は、クルーズ・コントロール・システムが正常に機能しておらず、整備が必要であることを点灯して知らせます。正規ディーラーにお問い合わせください。

スウェイ・バー異常警告灯 - タイプ別装備



この警告灯は、スウェイ・バー接続解除システムに故障があると点灯します。

タイヤ空気圧モニタ・システム(TPMS)警告灯 – タイプ別装備



警告灯が点灯し、タイヤ空気圧が推奨値よりも低下していることや、ゆっくりと圧力が喪失していることを伝えるメッセージが表示されます。このような場合、最適なタイヤの寿命や燃費が確保されないことがあります。

1 本以上のタイヤが前述の状態になった場合、該当するタイヤが表示されます。

注意!

1 本以上のタイヤがパンクした状態で走行を続けないでください。操作性が失われるおそれがあります。急ブレーキや急ハンドルを避け、車を止めてください。タイヤがパンクした場合は、専用のタイヤ修理キットを使用して速やかに修理を行い、できるだけ早くジープ正規ディーラーにお問い合わせください。

冷間時に、スペア・タイヤ(ある場合)も含め各タイヤを毎月チェックし、車両プラカードまたはタイヤ空気圧ラベルに記載されているメーカー推奨空気圧までタイヤの空気を入れてください。車両プラカードまたはタイヤ空気圧ラベルに記載されているサイズとは異なるサイズのタイヤが車に取り付けられている場合、適切なタイヤ空気圧を判断する必要があります。

追加の安全機能として、車両には TPMS が装備されており、1 つ以上のタイヤの空気圧が大幅に低下したときに低タイヤ空気圧警告灯が点灯します。低タイヤ空気圧警告灯が点灯したら、直ちに車を止め、タイヤをチェックした後、適切な空気圧までタイヤに空気を入れてください。タイヤ空気圧が著しく低下している状態で走行すると、タイヤが過熱し、タイヤの不具合につながるおそれがあります。タイヤ空気圧が低いと燃費も低下し、タイヤ・トレッドの寿命も短くなります。さらに、車の操作や制動能力にも影響が出る可能性があります。

TPMS は通常のタイヤのメンテナンスに代わるものではないことに注意してください。空気圧の低下が TPMS の低タイヤ空気圧警告灯が点灯するレベルに達していない場合でも、タイヤの空気圧を正しく保つのは運転者の責任です。

また、この車には、システムの動作が適切でない場合に点灯する TPMS 警告灯が装備されています。TPMS 警告灯は低タイヤ空気圧警告灯と組み合わせて使用されます。システムによって不具合が検出されると、警告灯が約 1 分間点滅し、その後は点灯し続けます。不具合が発生しているかぎり、この動作はその後の車の始動時にも継続します。警告灯が点灯していると、システムによって低タイヤ空気圧が正しく検出および警告できない場合があります。TPMS の不具合は、交換タイヤまたは代替タイヤまたはホイールを車に取り付けた場合など、TPMS の適切な動作を妨げるさまざまな原因によって発生します。タイヤやホイールを 1 つでも交換した場合は、TPMS 警告灯を必ず確認し、交換用または代替のタイヤやホイールでも TPMS が引き続き正常に動作することを確認してください。

注意!

TPMS は、純正タイヤとホイール用に最適化されています。TPMS の空気圧と警告は、車両に取り付けられたタイヤ・サイズに対して設定されています。サイズ、タイプ、またはスタイル（あるいはそのすべて）が同じでない交換タイヤを使用すると、好ましくないシステム操作が発生したり、センサが損傷したりする場合があります。アクセサリ部品のホイールを使用すると、センサが損傷する可能性があります。市販のタイヤ・シーラントを使用すると、タイヤ空気圧モニタ・システム（TPMS）のセンサが作動しなくなる場合があります。市販のタイヤ・シーラントの使用後は、お近くのジープ正規ディーラーに車両をお持ちいただき、センサ機能の点検を受けることをお勧めします。

黄色表示灯

4WD 表示灯 – タイプ別装備



4WD 表示灯は、4 輪駆動モードが使用されており、フロントおよびリヤのドライブシャフトが機械的に連動し、前輪と後輪が同じ速度で回転していることを運転者に知らせます。

「4WD LOW」表示灯–タイプ別装備



この表示灯は、車が 4WD LOW モードに入っていることを運転者に警告します。フロントおよびリヤ・ドライブシャフトが機械的に同時にロックされ、前輪と後輪は強制的に同じ速度で回転します。ロー・レンジの方が減速率が高く、ホイールに伝達されるトルクが大きくなります。

4WD パート・タイム表示灯 - タイプ別装備



この表示灯は、4 WD パート・タイム・モードが使用されており、フロントおよびリヤのドライブシャフトが機械的に連動し、前輪と後輪が同じ速度で回転していることを運転者に知らせます。

アクティブ・スピード・リミッタ故障表示灯 - タイプ別装備



この警告灯は、アクティブ・スピード・リミッタの故障が検知されたときに点灯します。

アクスル・ロッカ異常表示灯 - タイプ別装備



この表示灯は、フロントまたはリヤ、あるいはその両方のアクスル・ロッカの故障が検出されたことを示します。

前面衝突警報（FCW）オフ表示灯 - タイプ別装備



この表示灯は、前方衝突警告が OFF であることを示す場合に点灯します。

フロントおよびリヤ・アクスル・ロック表示灯 - タイプ別装備



この表示灯は、フロント、リヤ、または両方のアクスルがロックされていることを示します。表示灯には、フロントおよびリヤ・アクスルのロック・アイコンが表示され、現在のロック状態を示します。

ニュートラル表示灯 - タイプ別装備



この表示灯は、車が 4WD モードに入っていることを運転者に警告します。

リヤ・アクスル・ロック表示灯 - タイプ別装備



この表示灯は、リヤ・アクスル・ロックが作動していることを示します。

3

リヤ・フォグ・ライト表示灯 タイプ別装備



リヤ・フォグ・ライトが点灯すると、この表示灯が点灯します。

スウェイ・バー表示灯 - タイプ別装備



この表示灯は、フロント・スウェイ・バーが外されると点灯します。

緑色表示灯

先行車を検知していないときのアダプティブ・クルーズ・コントロール(ACC)設定表示灯 - タイプ別装備



このランプはアダプティブ・クルーズ・コントロールが「SET(セット)」の位置にあり、前方に車両が検知されていないときに点灯します ⇨ ページ 123。

先行車を検知しているときのアダプティブ・クルーズ・コントロール(ACC)設定表示灯 – タイプ別装備



これは、ACC が設定され、前方に車両が検出されたときに点灯します ⇨ ページ 123。

4WD オート表示灯 - タイプ別装備



この表示灯は、車が 4WD モードに入っていることを運転者に警告します。システムは、動力を 4 輪すべてに伝達し、必要に応じてフロント・アクスルとリヤ・アクスルに分配します。これにより、乾いて滑りやすい状況において最大のトラクションが得られます。

アクティブ・スピード・リミッタ設定表示灯 - タイプ別装備



この表示灯は、アクティブ・スピード・リミッタを ON にして特定の速度に設定すると点灯します。

クルーズ・コントロール SET 表示灯 - タイプ別装備



この表示灯は、クルーズ・コントロールが希望の速度に設定されると点灯します ⇨ ページ 122。

フロント・フォグ・ライト表示灯 タイプ別装備



フロント・フォグ・ライトが点灯すると、この表示灯が点灯します。

駐車灯／ヘッドライト表示灯



この表示灯は、駐車灯またはヘッドライトを ON にすると点灯します。

停止／始動作動表示灯 タイプ別装備



この表示灯は、START&STOP 機能が「自動停止」モードになっているときに点灯します。

方向指示灯表示灯



左右の方向指示灯を作動させると、方向指示器表示灯は個別に点滅し、対応する車外の方向指示灯が点滅します。方向指示灯は、マルチファンクション・レバーを下(左)または上(右)に動かして作動させます。

メモ:

- 左右どちらかの方向指示灯を出したまま 1 マイル (1.6 km)以上運転すると、警告チャイムが鳴り続けます。
- 左右どちらかが早く点滅する場合は、フロントおよびリヤの方向指示灯の電球に不具合がないかどうか点検してください。

白色表示灯

アダプティブ・クルーズ・コントロール(ACC)レディ表示灯 – タイプ別装備



この表示灯は車両に装備される ACC がオンであるが、設定されていないときに点灯します ⇨ ページ 123。

2WD HIGH 表示灯 - タイプ別装備



この表示灯は、車両が 2WD HIGH モードに入っていることを運転者に警告します。

下り坂コントロール（HDC）表示灯 - タイプ別装備



この表示灯は、HDC 機能が作動しているときに点灯します。HDC がセットされていると、表示灯が点灯します。トランスファ・ケースが「4WD Low」位置にあり、車速が 48km/h（30mph）未満である場合にのみ、HDC をセットできます。これらの条件を満たしていない場合に、HDC 機能を使用しようとすると、HDC 表示灯が点滅します。

Selec-Speed Control 表示灯 - タイプ別装備



『Selec-Speed Control が作動すると、この表示灯が点灯します。

Selec Speed Control を作動させるには、車両が「4WD LOW」になっていることを確認し、インストルメント・パネルのボタンを押してください。

メモ：

車両が「4WD LOW」に入っていない場合は、「To Enter Selec-Speed Shift to 4WD Low（4WD Low にシフトして Selec-Speed を作動）」というメッセージがインストルメント・パネル・ディスプレイに表示されます。

クルーズ・コントロール作動可能表示灯 - タイプ別装備



この表示灯は、クルーズ・コントロールがオンでも設定されていないときに点灯します ⇨ ページ 122。

クルーズ・コントロール SET 表示灯 - タイプ別装備



この表示灯は、クルーズ・コントロールが設定されると点灯します ⇨ ページ 122。

青色表示灯

ハイ・ビーム表示灯



この表示灯は、ハイ・ビーム・ヘッドライトが点灯しているときに点灯します。ロー・ビームの使用中にマルチファンクション・レバーを前方（車両前方側）に押すと、ハイ・ビームが点灯します。マルチファンクション・レバーを後方（車両後方側）に引くと、ハイ・ビームが消灯します。ハイ・ビームがオフの場合、さらにレバーを手前に引くと、一時的にハイ・ビームが点灯し、「パッシング操作」を行えます。

灰色表示灯

クルーズ・コントロール作動可能表示灯 - タイプ別装備



この表示灯は、クルーズ・コントロールがオンでも設定されていないときに点灯します。

オンボード故障診断システム – OBD II

この車両には、OBD II と呼ばれる高性能のオンボード故障診断システムが装備されています。このシステムは、排気、エンジン、およびトランスミッションの各コントロール・システムの性能を監視するものです。これらのシステムが適切に作動していると、車両は最高の性能を発揮するほか、燃費も向上し、排ガスのレベルも基準値を大幅に下回ります。

これらのシステムで点検が必要になると、OBD II システムはエンジン警告灯（MIL）を点灯します。また、故障診断コードや他の情報も記録するので、修理時の補助となります。この警告灯が点灯した場合でも、通常車両は走行可能で、けん引の必要はありませんが、できるだけ早く正規ディーラーで整備を受けてください。

注意!

- MIL が点灯したまま長時間運転すると、排出物コントロール・システムへさらなる損傷を与える恐れがあります。また、燃費と操縦性にも影響を与えることがあります。排ガス点検を行う前に、必ず車両を整備してください。
- 車両の走行中に MIL が点滅すると、重大な触媒コンバータの損傷と出力低下がすぐに発生します。直ちに整備を受けてください。

オンボード故障診断システム（OBD II）サイバーセキュリティ

エミッション・コントロール性能に関連する情報にアクセスするには、OBD II と接続ポートを装備する必要があります。認定を受けた整備士が車両およびエミッション・システムの診断および整備を実施する際に、この情報にアクセスすることが必要になる場合があります ⇨ ページ 150。

警告!

- VIN の読み取り、車両の診断、または整備を行うため、OBD II 接続ポートに機器を接続できるのは認定整備技術者に限られます。
- OBD II 接続ポートに、運転者動作追跡機器などの不正な機器が接続された場合、以下が生じる恐れがあります。
  - 安全関連システムを含む車両システムに障害が発生したり、車の制御が失われ、重傷または死亡に至る事故を引き起こす可能性があります。
  - 車両システムに保存された情報（個人情報を含む）へのアクセス、またはそれらの情報への他者のアクセスが許可されます。

始動と運転

エンジン始動手順

車を始動させる前に、座席位置、ルーム・ミラーおよびドア・ミラーを調節し、シートベルトを締めます。

警告!

- 車を出るときは、必ずキー・フォブを携帯して、車をロックしてください。
- お子さまだけを車内に残して車を離れないでください。またお子さまが、ロックされていない車に触れることのないようにしてください。
- お子さまを車内に残して車から離れることは、非常に危険です。お子さまだけでなく第三者にもけがを負わせる恐れがあります。お子さまがパーキング・ブレーキ、ブレーキ・ペダルまたはトランスミッション・ギヤ・セレクタに触れないように注意してください。
- キー・フォブを車内や車の周辺、またはお子さまの手が届く場所に放置しないでください。お子さまがパワー・ウィンドウやその他の装置を操作したり、車を動かしてしまう恐れがあります。
- 高温時には、駐車した車内にお子さまやペットを残さないでください。車内の温度が上がり、重傷または死亡事故につながる恐れがあります。
- 車内で休息や仮眠をとる場合は、必ずエンジンを停止してください。誤ってギヤ・セレクタを動かしてしまい衝突事故を起こす恐れがあります。アクセル・

(続き)

警告!

ペダルを踏み込むことにより衝突事故につながる恐れもあります。また、排気装置が異常過熱され、オーバーヒートや出火を引き起こすこともあり、重傷または死亡事故につながる恐れがあります。

オートマチック・トランスミッション

ギヤ・セレクタを「P(パーキング)」位置に入れて車両を始動します(車両は「N(ニュートラル)」でも始動できます)。シフト・レバーを操作するときには、ブレーキをかけてください。

通常の始動手順

「ENGINE START/STOP(エンジンの始動／停止)」ボタンを使用したエンジンの始動

1. トランスミッションが P(パーキング)または N(ニュートラル)位置にある。
2. ブレーキ・ペダルを踏み込んだ状態で「ENGINE START/STOP」ボタンを 1 回押します。
3. システムにより、車両が始動します。エンジンがかからなかった場合、スタータは 10 秒後に自動的に作動停止します。
4. エンジンが始動する前にクランキングを停止するには、もう一度「ENGINE START/STOP(エンジン始動／停止)」ボタンを押します。

「ENGINE START/STOP(エンジンの始動／停止)」ボタンを使用したエンジンの停止

1. ギヤ・セレクタを「P(パーキング)」位置に入れて、「ENGINE START/STOP」ボタンを押して放します。イグニッションが「OFF(オフ)」位置に戻ります。
2. ギヤ・セレクタが(車両停止中に)「P(パーキング)」以外の位置にあり、「ENGINE START/STOP(エンジン始動／停止)」ボタンを 1 回押すと、ギヤ・セレクタは現在の位置のままエンジンが停止します。このとき、ギヤ・セレクタのシフト位置表示灯が点滅します。イグニッションは「ACC」位置(「OFF(オフ)」位置ではない)のままになります。シフト・レバーが「P」(パーキング)以外の位置にある状態で車から離れないでください。車が走り出す可能性があります。
3. ギヤ・セレクタが「N(ニュートラル)」にあり、車速が 8km/h(5mph)を下回る場合、「ENGINE START/STOP(エンジンの始動／停止)」ボタンを 1 回押すとエンジンが停止します。イグニッションは「ACC」位置のままです。
4. 車速が 8km/h(5mph)以上の場合、「ENGINE START/STOP(エンジン始動／停止)」ボタンを 2 秒以上押すか、3 回連続で軽く押してください。トランスミッションが「P(パーキング)」位置にない場合にエンジンが停止すると、イグニッションは「ACC」位置(「OFF(オフ)」位置ではない)のままになります。

メモ:

イグニッションが「ACC」または「RUN(走行)」(エンジンが回転していない)位置のままで、トランスミッションが「P(パーキング)」位置にある場合、システムは自動的にタ

イムアウトし、動かなくなって 30 分後にイグニッションは「OFF(オフ)」位置に切り替わります。

「ENGINE START/STOP(エンジンの始動／停止)」ボタンの機能 - ブレーキ・ペダルが踏まれていない状態(「P(パーキング)」または「N(ニュートラル)」位置)

「ENGINE START/STOP」ボタンは、イグニッション・スイッチと同じように機能します。3 つの位置、「OFF(オフ)」、「ACC」、「ON/RUN(オン／走行)」の 3 つのモードがあります。車両を始動せずにイグニッション・モードを変えて、車両を使用するには、次の手順に従います。

1. 最初にイグニッションを「OFF」位置にします。
2. 「ENGINE START/STOP(エンジンの始動／停止)」ボタンを 1 回押して、イグニッションを「ACC」位置にします(イグニッション・スイッチ・ベゼルに「ACC」と表示されます)。
3. 「ENGINE START/STOP(エンジンの始動／停止)」ボタンをもう 1 回押して、イグニッションを「ON/RUN(オン／走行)」位置にします(イグニッション・スイッチ・ベゼルに「ON/RUN」と表示されます)。
4. 「ENGINE START/STOP(エンジンの始動／停止)」ボタンをもう 1 回押して、イグニッションを「OFF(オフ)」位置にします(イグニッション・スイッチ・ベゼルに「OFF」と表示されます)。

AUTOPARK

AutoPark とは、以下のページのような状況が発生した場合に、車両を「P(パーキング)」にするのに役立つ補助的な機能のことです。これは、バックアップ・システムであり、運転者が車両を「P(パーキング)」にシフトする主要な方法として頼りにしないでください。

AutoPark が作動する状況の概要は、以下のページに記載されています。

警告!

- 運転者の不注意で、ギヤを「P(パーキング)」に入れていないおそれがあります。インストルメント・パネル・ディスプレイおよびギヤ・セレクタで「P(パーキング)」が点灯している(点滅ではない)ことを確認して、車両が「P(パーキング)」位置にあることを必ず目視点検してください。「P(パーキング)」表示灯が点滅している場合は、車両は「P(パーキング)」位置にありません。念のため、降車する場合は必ずパーキング・ブレーキをかけてください。
- AutoPark は補助的な機能です。ギヤを「P(パーキング)」に入れる必要をなくす機能ではありません。これは、バックアップ・システムであり、運転者が車両を「P(パーキング)」にシフトする主要な方法として頼りにしないでください。

ギヤが「P(パーキング)」に入っておらず、運転者がエンジンを切ると、車両は AutoPark になることがあります。

以下のすべての条件を満たすと、AutoPark は作動します。

- 車両が 8 速トランスミッションを搭載している
- 運転席ドアが開いていたり、取り外されている状況で、運転者がいない(シート・パッド・センサが運転者がいないことを検出)
- ギヤが「P(パーキング)」に入っていない
- 車速が 1.2 mph (1.9 km/h)以下である
- イグニッションが「RUN」位置から「OFF」位置に切り替わった

メモ:

Keyless Enter-N-Go™システム装備車の場合、エンジンはオフになり、イグニッション・スイッチは ACC 位置に変わります。

ギヤが「P(パーキング)」に入っておらず、運転者がエンジンをかけたまま降車すると、車両は AutoPark になることがあります。

以下のすべての条件を満たすと、AutoPark は作動します。

- 車両が 8 速トランスミッションを搭載している
- 運転席ドアが開いていたり、取り外されている状況で、運転者がいない(シート・パッド・センサが運転者がいないことを検出)
- ギヤが「P(パーキング)」に入っていない
- 車速が 1.2 mph (1.9 km/h)以下である
- 運転席のシートベルトが外れている
- ブレーキ・ペダルを踏んでいない

メッセージ「**AutoPark Engaged Shift To P Then Shift To Gear**(AutoPark 作動「P(パーキング)」に入れてからギヤを入れてください)」が、インストルメント・パネルに表示されます。

メモ:

場合によっては、ParkSense のグラフィックが、インストルメント・パネルに表示されます。このような場合は、ギヤ・セレクタを「P(パーキング)」に戻してから希望のギヤを選択する必要があります。

車両が動いているときにギヤを「P(パーキング)」に入れると、AutoPark になることがあります。

AutoPark が作動するのは、車速が 1.9km/h(1.2mph)以下の場合**のみ**です。

メッセージ「**Vehicle Speed Is Too High To Shift To P（車速が高すぎて「P（パーキング）」にシフトできません）**」がインストルメント・パネルに表示されるのは、車速が1.9km/h（1.2mph）を超えている場合です。

警告!

車速が 1.2 mph (1.9 km/h)を超えると、車速が 1.2 mph (1.9 km/h)未満に低下するまで、トランスミッションはデフォルトで「N（ニュートラル）」になります。「N（ニュートラル）」位置のままで放置すると、車両が動き出す場合があります。念のため、降車する場合は必ずパーキング・ブレーキをかけてください。

4WD LOW

車両を「4WD LOW」で運転すると、AutoPark は無効になります。

メッセージ「**AutoPark Disabled（AutoPark が無効）**」が、インストルメント・パネルに表示されます。

以下の両方の条件が満たされると、さらに警告が表示されます。

- ギヤが「P（パーキング）」に入っていない
- 運転者ドアが半ドアである

メッセージ「**AutoPark Not Engaged**（AutoPark が作動していません）」が、インストルメント・パネルに表示されます。ギヤを「P（パーキング）」に入れるか、運転者ドアを閉めるまで警告チャイムが鳴り続けます。

インストルメント・パネル・ディスプレイおよびシフタの「P（パーキング）」を探して、車両が「P（パーキング）」位置にあることを**必ず目視で確認してください**。念のため、降車する場合は必ずパーキング・ブレーキをかけてください。

長期間の駐車後のエンジン始動

メモ：

30 日間以上車両のエンジンを始動させない、または車両を走行させないと、長期の駐車状態になります。

1. バッテリが完全に充電された状態でエンジン始動動作を行なうために、バッテリ充電器またはジャンパ・ケーブルをバッテリに接続します。
2. ブレーキ・ペダルを踏み込んだ状態で「ENGINE START/STOP」ボタンを 1 回押します。
3. エンジンが 10 秒以内に始動しない場合、イグニッションを「OFF（オフ）」位置にし、10～15 秒待ってスタータを冷やしてから、もう一度「長期間の駐車後のエンジン始動」手順を実行してください。
4. この操作を 8 回繰り返してもエンジンが始動しない場合は、スタータを 10 分以上冷やしてからもう一度この手順を実行してください。

注意!

損傷を防ぐため、スタータは 1 回に 10 秒以上連続して回さないでください。再度スタータを回すまでに 10～15 秒間おいてください。

エンジンがかからない場合

「通常の始動」手順に従ってもエンジンが始動せず、既定の長期間駐車状態に該当しない場合は、スパーク・プラグがかぶっているおそれがあります。アクセル・ペダルをいっぱいに踏み込んで、そのまま保ちます。エンジンを回します。ただし 10 秒以上は回さないでください。これにより、かぶり状態にあるスパーク・プラグから過剰に供給された燃料を取り除くことができます。イグニッション・キーを「RUN（走行）」位置にしたままでアクセル・ペダルを放し、「通常の始動手順」を繰り返してください。

警告!

- エンジンを始動するために、燃料またはその他の可燃性の液体をスロットル・ボディの空気取入口に注入しないでください。発火して重傷を負う恐れがあります。
- エンジンを始動させるために、車を押したりけん引したりしないでください。オートマチック車は、押しがけでエンジンをかけることはできません。未燃焼の燃料が触媒コンバータの中に入り、エンジン始動時に発火して触媒コンバータと車を損傷させる恐れがあります。
- 車のバッテリが放電している場合、補助バッテリまたは他車両のバッテリからブースタ・ケーブルを使用し、エンジンをかけることができます。この始動方法は正しく行われないと危険です ⇨ ページ 227。

注意!

スタータの損傷を防ぐため、エンジンは 1 回に 10 秒以上続けて回さないでください。再度スタータを回すまでに 10～15 秒間おいてください。

極寒冷地 (Below –22°F または –30°C 以下)

この温度でエンジンを安定してかけるには、外部から電気を供給するエレクトリック・エンジン・ブロック・ヒータ（正規ディーラーにご相談ください）を使用することをお勧めします。

エンジンが始動したら

アイドリング・スピードは自動的に制御され、エンジンが温まるにつれてアイドリングの回転数は低くなります。

エンジンの慣らし運転について

エンジンおよび駆動系（トランスミッションおよびアクスル）に対する長時間の慣らし運転は不要です。

最初の 500km（300 マイル）はゆっくりと走行してください。最初の 100km（60 マイル）を過ぎた後は、速度を 80 または 90km/h（50mph または 55mph）まで上げるようにしてください。

一定速度で走行しながらスロットルを瞬間的に全開にし、交通法規の範囲内で加速を行うことで、良い慣らし運転ができます。低速ギヤでスロットル全開加速を行うことは、車体に悪影響を及ぼしますので避けてください。

工場でエンジンに充填されているエンジン・オイルは、高品質、省エネ・タイプのオイルです。車を運転する時の気候条件に合わせオイル交換を行ってください。

推奨される粘度および品質レベルは、⇨ ページ 282です。

注意!

ノンデタージェント・オイルまたはストレート・ミネラル・オイルはエンジンに絶対に使用しないでください。使用した場合、エンジンが損傷する恐れがあります。

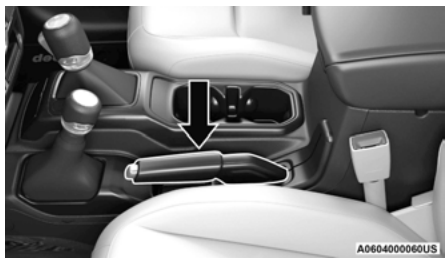
メモ：

新しいエンジンでは、最初の数千キロメートルの走行で、エンジン・オイルが若干多めに消費されることがあります。これは正常な慣らし運転の結果ですので、問題はありません。

パーキング・ブレーキ

車から降りるときは、必ずパーキング・ブレーキをしっかりとかけてください。また、トランスミッションを「P（パーキング）」レンジに入れたままにしておいてください。

パーキング・ブレーキ・レバーはセンタ・コンソールにあります。パーキング・ブレーキをかける場合は、レバーをできるだけしっかり引き上げてください。パーキング・ブレーキを解除するには、レバーを少し引き上げ、中央のボタンを押してからレバーを完全に下ろします。



パーキング・ブレーキ・レバー

イグニッション・スイッチが ON 位置のとき、車速が 0km/h（0mph）でパーキング・ブレーキをかけると、インストルメント・パネルのブレーキ警告灯が点灯します。

メモ：

- 車速が検出され、パーキング・ブレーキがかかっているときにオートマチック・トランスミッションのギヤをシフトすると、ブレーキ警告灯が点滅します。車速が 8 km/h を超えるとチャイムが鳴り、ドライバーに警告します。走行する前に、必ずパーキング・ブレーキを完全に解除してください。
- 車両の移動速度が 8km/h（5mph）未満の場合は、ブレーキ警告灯が点滅しますが、チャイムは鳴りません。車両の移動速度が 8km/h（5mph）以上の場合は、ブレーキ警告灯が点滅し、チャイムが 1 回鳴ります。
- ブレーキ警告灯は、パーキング・ブレーキがかかっていることを示すもので、ブレーキの作動具合を示すものではありません。

坂道で駐車するときは、下り坂では前輪を縁石側へ向け、上り坂では車線中央側へ向けて駐車することが重要です。オートマチック・トランスミッション車の場合は、ギヤ・セレクタを「P（パーキング）」レンジにシフトする前にパーキング・ブレーキをかけてください。かけなかった場合、トランスミッションのロック機構にかかる負荷で、ギヤ・セレクタが「P（パーキング）」レンジから抜けにくくなることがあります。

警告!

- 絶対にパーキング・ブレーキの代用として「P（パーキング）」位置を使用しないでください。車が動かないように、また人身事故や物損を防止するため、駐車時には必ずパーキング・ブレーキを確実にかけてください。
- 車を出るときは常に、イグニッションからキー・フォブを抜いて、車をロックしてください。
- お子さまだけを車内に残して車を離れないでください。またお子さまが、ロックされていない車に触れることのないようにしてください。お子さまを車内に残して車から離れることは、非常に危険です。お子さ

（続き）

警告!

まだけでなく第三者にもけがを負わせる恐れがあります。お子さまがパーキング・ブレーキ、ブレーキ・ペダルまたはギヤ・セレクタに触れないように注意してください。

- キー・フォブを車内や車の周辺、またはお子さまの手が届く場所に放置しないでください。お子さまがパワー・ウィンドウやその他の装置を操作したり、車を動かしてしまう恐れがあります。
- 運転する前にパーキング・ブレーキを完全に解除してください。解除が不十分な場合、ブレーキの故障および衝突事故につながる恐れがあります。
- 車から離れるときは、パーキング・ブレーキを確実にかけてください。車が動き出して、破損またはけがを引き起こす恐れがあります。また、トランスミッションを「P(パーキング)」レンジに入れたままにしておいてください。これを怠ると車が動き出し、破損またはけがを引き起こす恐れがあります。

注意!

パーキング・ブレーキを解除してもブレーキ警告灯が点灯したままの場合、ブレーキ・システムに不具合があることを示しています。直ちに正規ディーラーでブレーキ・システムを修理してください。

オートマチック・トランスミッション

「P(パーキング)」からのシフトは、ブレーキ・ペダルを踏み込んだ状態で行う必要があります。

警告!

- 絶対にパーキング・ブレーキの代用として「P(パーキング)」位置を使用しないでください。車が動かないように、また人身事故や物損を防止するため、車両から離れるときは、必ずパーキング・ブレーキを確実にかけてください。
- 「P(パーキング)」位置に入っていないと、車が動き出して、自分が負傷したり人身事故を招く恐れがあります。ブレーキ・ペダルを放し、トランスミッション・ギヤ・セレクタを「P(パーキング)」から別のギヤに入れて確認してください。車から出るときは、必ずトランスミッションが「P(パーキング)」位置に入っていることを確認してください。
- 車両が動いている最中は、トランスミッションを「P(パーキング)」に入れることはできません。「P(パーキング)」にシフトする前に、必ず車両を完全に停止させ、トランスミッション・ギヤ位置表示が「P(パーキング)」を示している(点滅ではなく点灯している)ことを確認してください。車両から離れる前に、車両が完全に停止しており、「P(パーキング)」位置が適切に示されていることを確認してください。
- エンジン回転数がアイドリング回転数を超えているときに、セレクタを「P(パーキング)」または「N(ニュートラル)」からシフトするのは危険です。ブレーキ・ペダルをしっかり踏んでいないと、車両が前方または後方に急発進する恐れがあります。車を制御できなくなり、人や物にぶつかる危険性があります。シフト操作は、エンジンが通常通りにアイドリングしていて、ブレーキ・ペダルをしっかり踏んでいるときにだけ行ってください。
- 車両が予期せずに動き出してしまった場合、人身事故を招く危険性があります。エンジンをかけたまま、車外に出ないでください。車から出る前には必ず完全に停止し、パーキング・ブレーキをかけ、ギヤを「P(パーキング)」に入れ、イグニッションを「OFF」にしてください。イグニッションを「OFF」位置にすると、車両が予期せず動き出さないようにトランスミッションは「P(パーキング)」位置に固定されます。
- 車両から降りる場合は、必ずイグニッションを「OFF」位置にし、キー・フォブを車両から持ち出して、車両をロックしてください。
- お子さまだけを車内に残して車を離れないでください。またお子さまが、ロックされていない車に触れることのないようにしてください。お子さまを車内に残して車から離れることは、非常に危険です。お子さまだけでなく第三者にもけがを負わせる恐れがあります。お子さまがパーキング・ブレーキ、ブレーキ・ペダルまたはトランスミッション・ギヤ・セレクタに触れないように注意してください。
- キー・フォブを車内や車周辺または子供の手が届く場所に置いたまま車から離れないでください。また、イグニッションを「ACC」または「ON/RUN」の位置にしたまま車から離れないでください。お子さまがパワー・ウィンドウやその他の装置を操作したり、車を動かしてしまう恐れがあります。

注意!

次の注意事項に従わないと、トランスミッションが損傷することがあります。

(続き)

(続き)

注意!

- 車両が完全に停止してから、ギヤを「P(パーキング)」または「R(リバース)」に入れるか、そのギヤからシフトします。
- エンジン回転数がアイドリング回転数を超えているときには、「P(パーキング)」、「R(リバース)」、「N(ニュートラル)」、「D(ドライブ)」間でシフトしないでください。
- シフト・レバーを操作する前に、ブレーキ・ペダルをしっかり踏んでください。

イグニッション・パーキング・インターロック

この車両にはイグニッション・パーキング・インターロックが装備されており、トランスミッションを「P(パーキング)」にしてからイグニッションを「OFF(オフ)」位置にする必要があります。これは、運転者がトランスミッションを「P(パーキング)」レンジに入れずにうっかり車両から離れてしまうことを防ぎます。このシステムは、イグニッションが「OFF」位置のときは必ずトランスミッションを「P(パーキング)」にロックする機能も備えています。

メモ:

ブレーキをかけていても、エンジンが稼働していない場合は、トランスミッションは「P(パーキング)」位置からシフトできません。降車する前に、トランスミッションが「P(パーキング)」にあり、イグニッションが「**OFF**(オフ)(「ACC」位置ではなく)」であることを確認してください。

ブレーキ/トランスミッション・シフト・インターロック(BTSI)システム

この車両には、ブレーキ・ペダルが踏み込まれていない場合にトランスミッション・ギヤ・セレクタを「P(パーキング)」位置に固定する BTSI が装備されています。トランスミッションを「P(パーキング)」位置から動かすには、エンジンを作動させてブレーキ・ペダルを踏み込む必要があります。また、車両が停止しているか低速走行しているときに「N(ニュートラル)」から「D(ドライブ)」または「R(リバース)」にシフトする場合にも、ブレーキ・ペダルを踏む必要があります。

8 速オートマチック・トランスミッション

トランスミッション・ギヤ・レンジ(PRNDM)は、ギヤ・セレクタの横とインストルメント・パネル内の両方に表示されます。ギヤ・レンジを選択するには、ギヤ・セレクタの「Lock(ロック)」ボタンを押し、セレクタを後方または前方へ動かします。トランスミッションを「P(パーキング)」位置から動かすには、エンジンを作動させてブレーキ・ペダルを踏み込む必要があります。車両が停止中、あるいは低速走行中に「N(ニュートラル)」から「D(ドライブ)」または「R(リバース)」へシフトする場合も、ブレーキ・ペダルを踏む必要があります。通常の運転には、「D(ドライブ)」レンジを選択してください。

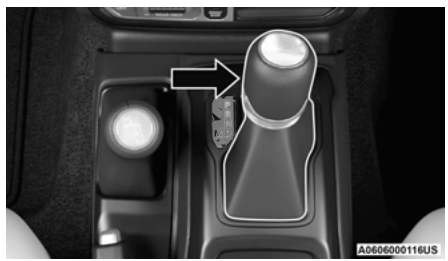
メモ:

- 新車の場合、最初のうちしばらくはシフトがややぎくしゃくすることがあります。しかし、これは異常な状態ではなく、数百キロメートル走るうちに正確なシフトが行われるようになります。
- ギヤ・セレクタの位置と実際のトランスミッション・ギヤが一致しないと(たとえば、運転中に運転者が「P(パーキング)」を選択した場合)、セレクタを正しい位置に戻すか、要求されたシフト操作を行えるようになるまで、位置表示が点滅し続けます。

電子制御されるトランスミッションは、ドライバの操作と環境および路面状況に基づいてシフト・スケジュールを調整します。

「D(ドライブ)」から「P(パーキング)」または「R(リバース)」にシフトする場合は、必ずアクセル・ペダルを放し、車を停止してから行ってください。これらのレンジ間でシフトするときは、必ずブレーキ・ペダルを踏んでおいてください。

トランスミッション・ギヤ・セレクタのシフト位置は、「P(パーキング)」、「R(リバース)」、「N(ニュートラル)」、「D(ドライブ)」、「M(マニュアル)(AutoStick)」です。AutoStick シフト・コントロールを使用すると、マニュアル・シフトを行えます。「M(AutoStick)(マニュアル)」位置(「D(ドライブ)」位置の横)にあるときにギヤ・セレクタを前方(-)または後方(+)に切り替えると、トランスミッション・ギヤが手動で選択され、インストルメント・パネルに現在のギヤが表示されます ⇨ ページ 114。



ギヤ・セレクタ

メモ：
ギヤ・セレクタを前方に押しても「P（パーキング）」、「R（リバース）」、または「N（ニュートラル）」位置に入らない場合、ギヤ・セレクタが（「D（ドライブ）」位置の横の）AutoStick（+/-）位置に入っている可能性があります。AutoStick モードでは、トランスミッション・ギヤ（1、2、3など）がインストルメント・パネルに表示されます。「P（パーキング）」、「R（リバース）」、および「N（ニュートラル）」に入れるには、ギヤ・セレクタを右（「D（ドライブ）」位置）に動かしてください。

ギヤ・レンジ

「P（パーキング）」または「N（ニュートラル）」から他のギヤへシフトするときは、アクセル・ペダルを踏み込まないでください。

メモ：
任意のギヤ・レンジを選択したら、選択されたギヤに入るまで少し待ってからアクセル・ペダルを踏んでください。これは特にエンジンが冷えているときに重要です。

P（パーキング）

「P（パーキング）」レンジは、トランスミッションをロックすることによって、パーキング・ブレーキを補助します。エンジンはこのギヤ・レンジで始動します。車が動いているときには、絶対にセレクタを「P（パーキング）」レンジに入れないでください。ギヤをこのレンジに入れて車を降りる時は、パーキング・ブレーキをかけてください。

坂道で駐車する時は、トランスミッションを「P（パーキング）」にシフトする前にパーキング・ブレーキをかけてください。念のため、下り坂では前輪を縁石側へ向け、上り坂では車線中央側へ向けて駐車してください。

車両から離れるときは常に以下を行ってください。

- パーキング・ブレーキをかける
- トランスミッションを「P（パーキング）」位置にする
- イグニッションを OFF にします
- キー・フォブを携帯して車両から出る

メモ：
4WD 車の場合は、トランスファ・ケースが「D（ドライブ）」位置にあることを確認してください。

注意!

- トランスミッション・ギヤ・セレクタを「P（パーキング）」から動かす前に、エンジンを始動し、ブレーキ・ペダルも踏む必要があります。そうしないと、ギヤ・セレクタが損傷する恐れがあります。
- 「P（パーキング）」または「N（ニュートラル）」位置から別のギヤ・レンジにシフトするときは、エンジン回転数を上昇させないでください。ドライブトレーンが損傷する危険があります。

次のガイドラインに従って、トランスミッションを「P（パーキング）」位置に適切かつ確実にシフトしてください。

- 「P（パーキング）」にシフトするときは、ギヤ・セレクタのロック・ボタンを押して、ギヤ・セレクタが停止して所定の位置に固定されるまで、前方に向けていっぱいに動かします。
- トランスミッション・ギヤ位置表示を見て、「P（パーキング）」位置にあり、点滅していないことを確認してください。
- ブレーキ・ペダルを放した状態で、ギヤ・セレクタが「P（パーキング）」位置から動かないことを確認してください。

R（リバース）

このレンジは、車両を後退させる場合に使用します。必ず車両が完全に停止してから、「R（リバース）」レンジにシフトしてください。

N（ニュートラル）

エンジンを作動させた状態で長時間停車する際に使用します。車両を降りる場合は、パーキング・ブレーキをかけ、トランスミッションを「P（パーキング）」レンジに入れます。

警告!

「N（ニュートラル）」レンジで惰性走行しないでください。また、エンジンを切ったまま絶対に下り坂を惰性走行しないでください。交通や路面の状態の変化に対する運転者の反応が制限されるため、きわめて危険です。車を制御できなくなり、衝突事故につながる恐れがあります。

注意!

けん引時、惰性走行、またはその他の何らかの理由でトランスミッションを「N（ニュートラル）」に入れて走行させると、トランスミッションが重大な損傷を受ける恐れがあります。

キャンピング・カーなどのけん引については、⇨ ページ 143。

走行不能車両のけん引については、⇨ ページ 231。

D（ドライブ）

通常の運転状況では、このレンジを使用します。シフトアップおよびシフトダウンが最も滑らかで、燃費性能も最大

限発揮されます。トランスミッションがすべての前進ギヤにわたって自動的にシフトアップします。

重い荷物を積んでの運転、丘陵地や強い向かい風の中を走行しているとき、または重いトレーラをけん引しているときなど、トランスミッションが頻繁にシフトする場合は、AutoStick シフト・コントロール（タイプ別装備）を使用して低いギヤを選択します ⇨ ページ 114。これらの状況では、低速ギヤを使用すると走行性能が高まり、シフトの頻度が減って過熱状態を避けることができるため、トランスミッションの寿命も延びます。

極寒時（-30°C（-22°F）以下）には、エンジンとトランスミッションの温度と車速に応じてトランスミッションの動作が変わることがあります。トランスミッション温度が適切な温度に上昇したら、通常の作動に戻ります。

マニュアル（M）

「D（ドライブ）」位置の横の「M（マニュアル）」（M、+/-）位置では、トランスミッションのシフトを完全に手動で制御でき、AutoStick モードとも呼ばれます。「M（マニュアル）（AutoStick）」位置にあるときにギヤ・セレクタを前方（-）または後方（+）に動かすと、トランスミッション・ギヤが手動で選択され、インストルメント・パネルに現在のギヤが表示されます ⇨ ページ 114。

トランスミッション・リンプ・ホーム・モード

異常な状態がないかどうか、トランスミッション機能は電子的にモニタされています。トランスミッションの損傷につながる状態が検知されると、トランスミッション・リンプ・ホーム・モードが作動します。このモードでは、トランスミッションは特定のギヤのみで作動するか、まったくシフトできません。車の性能が大きく低下したり、エンジンがストールしたりすることがあります。場合によっては、エンジンを停止して再始動した場合にギヤがかみ合わないことがあります。警告灯（MIL）が点灯することがあります。インストルメント・パネルにメッセージが表示され、重大な状態を通知したり、必要な処置を示したりする場合があります。

不具合が一時的であった場合は、下記の手順でトランスミッションをリセットすれば、前進ギヤはすべて作動可能な状態に戻ります。

メモ：

エンジン停止後に通信が再接続されない可能性があることをインストルメント・パネルのメッセージが示している場合、ご希望の場所（できれば正規ディーラー）でこの手順のみを実行してください。

1. 車を停止させます。
2. 可能な場合は、トランスミッションを「P（パーキング）」位置にします。そうでない場合は、トランスミッションを「N（ニュートラル）」にシフトします。
3. エンジンがオフになるまで、イグニッション・スイッチを押し続けます。
4. 約 30 秒間待ちます。
5. エンジンを再始動してください。
6. 目的のギヤ・レンジにシフトします。不具合が検知されなければ、トランスミッションは正常な動作に戻ります。

メモ：

トランスミッションがリセットできた場合にも、できるだけ早く最寄りの正規ディーラーにご相談ください。正規ディーラーには、トランスミッションの状態を評価する診断機器が備わっています。

トランスミッションをリセットできない場合は、正規ディーラーでの整備が必要です。

AutoStick

AutoStick は運転者の意思でシフト・チェンジができるトランスミッションです。マニュアル・シフト・コントロールを提供することで、車のこまやかなコントロールを可能にします。AutoStick によりエンジン・ブレーキを最大限活用し、不要なシフトアップやシフトダウンをなくし、全体的な車の性能を向上させることができます。このシステムは、追い越し、市街地走行、寒冷時のすべりやすい状態、山岳走行、およびその他多くの状況で、細やかなコントロールを可能にします。

操作

AutoStick モードを作動させるには、ギヤ・セレクタを「M（マニュアル）」位置（「D（ドライブ）位置の横）にシフトします。現在のトランスミッション・ギヤは、インストルメント・パネルに表示されます。AutoStick モードでは、（「M（マニュアル）」位置にある）ギヤ・セレクタを使用して、トランスミッションを手動でシフトできます。「M（マニュアル）」位置にある状態でギヤ・セレクタを前方（-）にタップすると、トランスミッションは次の低いギヤにシフトダウンします。セレクタを後方（+）にタップすると、シフトアップが行われます。

AutoStick モードでは、エンジンのラギングや過回転状態が発生しない限り、運転者が手動で（+/-）を選択すると、トランスミッションはシフトアップまたはシフトダウンします。下記の条件を除き、さらにシフトアップやシフトダウンを選択するまで現在選択しているギヤが維持されます。

- トランスミッションは、車の速度が遅くなると、自動的にシフトダウンしてエンジンのラギング（もたつき）を防止し、現在のギヤが表示されます。
- トランスミッションは、停車すると自動的に 1 速にシフトダウンします。停車してから発進するときに運転者

は車の加速に応じてトランスミッションを手動でシフトアップ(+)する必要があります。

- 停車後、1 速または 2 速(あるいは、4WD Low では 3 速)でも発進することができます。(停車時に)(+)を押すと、2 速で発進できます。雪や凍った状況では、2 速または 3 速での発進が有効な場合があります。
- 要求されたシフトダウンによってエンジンが過回転になる場合、そのシフトは発生しません。
- このシステムは、車速が不十分な場合にシフトアップしようとしても無効になります。
- ギヤ・セレクタを(-)位置に押し続けると、トランスミッションが徐々にシフトダウンしていき、現在の速度で可能な最低のギヤになります。
- AutoStick が有効な場合、トランスミッションのシフト動作がより強く感じられます。
- 故障またはオーバーヒート状態が検出された場合、システムはオートマチック・シフト・モードに戻ることがあります。

メモ:
下り坂コントロールが有効な場合、AutoStick は無効になります。

AutoStick モードを解除するには、ギヤ・セレクタを「D(ドライブ)」位置に戻します。「AutoStick」位置へ、または「AutoStick」位置からのシフト操作は、アクセル・ペダルから足を放さなくてもいつでもできます。

警告!

滑りやすい路面では、シフトダウンして余分なエンジン・ブレーキをかけないでください。駆動輪がグリップを失って車両が滑り、衝突や人身事故が発生する恐れがあります。

電子油圧式パワー・ステアリング

車両には、卓越した応答性や容易な操作性を実現する電子油圧式パワー・ステアリング・システムが装備されています。このシステムは、さまざまな走行条件に適応します。電子油圧式ステアリング・システムがパワー・ステアリング・アシストを提供できなくなった場合、システムは機械式ステアリング機能を提供します。

注意!

過度にステアリングを操作すると、システムが損傷しないように、電気駆動式ポンプのパワー・ステアリング・アシスト能力が低下または停止されます。システムの温度が低下すると、通常動作に戻ります。



インストルメント・パネルに「SERVICE POWER STEERING(パワー・ステアリングの整備が必要です)」というメッセージが表示され、点滅しているアイコンが表示された場合は、正規ディーラーで整備を受ける必要があることを示しています。この場合は、パワー・ステアリング・アシストが機能しなくなる可能性があります ⇨ ページ 90。

インストルメント・パネルに「POWER STEERING HOT(パワー・ステアリング過熱)」メッセージが表示され、アイコンが表示された場合、過度なステアリング操作により、パワー・ステアリング・システムが過熱したことを示します。過熱状況が解消されるまで、パワー・ステアリング・アシストが一時的に機能しなくなります。安全を確認し、車を路肩に寄せ、メッセージが消灯するまでしばらくアイドリング状態にしておきます ⇨ ページ 90。

メモ:
- パワー・ステアリング・アシストが機能しなくなっても、車両を操舵することができます。このような状況、特に低速走行時および駐車時の操作においては、ハンドル操作にかかる負担が増します。
- 状況が改善されない場合は、正規ディーラーへお問い合わせください。

4WD 走行

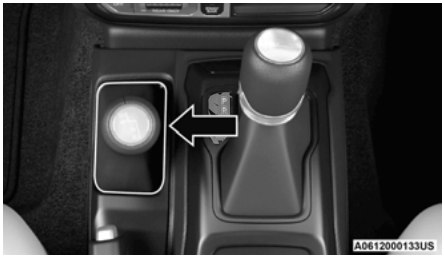
警告!

トランスファ・ケースがポジションにしっかり入っていないと、トランスファ・ケースが破損したり、動力不足に陥ったり、車を制御できなくなったりする恐れがあります。衝突事故につながります。トランスファ・ケースが完全に締結しない状態で車を運転しないでください。

トランスファ・ケースの 5 つの位置

トランスファ・ケースには、次の 5 つのモードがあります。

- 2H - 2WD ハイ・レンジ
- 4H AUTO - 4WD オート・ハイ・レンジ
- 4H PART TIME - 4WD パート・タイム・ハイ・レンジ
- N(ニュートラル)
- 4L - 4WD ロー・レンジ



4WD ギヤ・セレクタ

各トランスファ・ケース・モード位置の適切な使用に関するより詳しい情報については、以下を参照してください。

2H

2WD ハイ・レンジ - 一般道路および高速道路の乾燥した舗装道路を走行するときに使用します。

4H AUTO

4WD オート・ハイ・レンジ - このレンジは駆動力を前輪に伝えます。車両がトラクションの喪失を感知すると、4WD システムが自動的に作動します。このレンジでは、さまざまな路面状況に対してトラクションが向上します。

4H パート・タイム

4WD パート・タイム・ハイ・レンジ - このレンジは、フロント・ドライブシャフトに対するトルクを最大化し、前輪と後輪を同じ速度で回転させます。このレンジは、ぬかるんだ滑りやすい路面に限り、より大きなトラクションを発揮します。

N（ニュートラル）

警告!

パーキング・ブレーキを完全にかけないで、トランスファ・ケースを「N（ニュートラル）」位置に入れたまま車を離れると、人身事故や死亡事故を招く恐れがあります。トランスファ・ケースが「N（ニュートラル）」位置になっていると、フロント・ドライブシャフトとリヤ・ドライブシャフトがパワートレインから切り離されているので、オートマチック・トランスミッションが「P（パーキング）」になっていても車が動いてしまいます。車を離れるときは、必ずパーキング・ブレーキをかけてください。

ニュートラル - このレンジでは、フロント・ホイールとリヤ・ホイールのドライブシャフトをパワートレーンから切り離します。この位置は、ほかの車の後ろでけん引される場合に使用します ⇨ ページ 143。

4L

4WD ロー・レンジ - このレンジは、低速 4WD 走行に対応します。フロント・ドライブシャフトに対するトルクを最大化し、前輪と後輪を同じ速度で回転させます。このレンジは、ぬかるんだ滑りやすい路面に限り、より大きなトラクションと最大の発進力を発揮します。40km/h（25mph）の速度を超えないでください。

このトランスファ・ケースは、一般道および高速道の乾いた固い路面では 2WD（2H）位置または 4WD 位置（4H AUTO）で走行するように設計されています。

さまざまな走行条件に対しては、4H AUTO モードが使用できます。このモードでは、フロント・アクスルが作動しますが、車両の駆動力は後輪に伝えられます。車両がトラクションの喪失を感知すると、4WD が自動的に作動します。フロント・アクスルが作動するため、このモードは 2WD モードよりも燃料消費効率が低くなります。

より強力なトラクションが必要なときは、トランスファ・ケースを 4H または 4L 位置にすることにより、前輪と後輪のドライブシャフトを連結し、両方を同じ速度で回転させることができます。4H および 4L 位置での作動は、柔らかく滑りやすいオフ・ロード路面での運転を目的としたもので、通常走行時には不向きです。4H および 4L 位置で乾いた固い路面を走行するとタイヤが激しく摩耗し、駆動系の構成部品が損傷する恐れがあります components ⇨ ページ 116。

インストルメント・パネルは、車両が 4WD にあること、前部と後部のドライブシャフトが同時にロックされていることを運転者に警告します。トランスファ・ケースが 4H 位置にシフトされた場合は、表示灯が点灯します。

4L 位置で走行するときには、2H または 4H での走行時に比べ、エンジン回転数が同じ速度で約 3 倍（Rubicon モデルでは約 4 倍）になります。エンジン回転数が上がり過ぎないように注意してください。

4WD 車を適切に作動させるには、各ホイールのタイヤのサイズ、タイプおよび円周が均一でなければなりません。少しの差でも、シフトに悪影響が出て、トランスファ・ケースが損傷する恐れがあります。

4WD は優れたトラクションを供給することができるため、安全な旋回速度および制動速度を超えてしまう傾向があります。路面の状態が許す範囲の速度で走行してください。

シフト操作手順

2H から 4H AUTO へ、または 4H AUTO から 2H へ

2H と 4H AUTO 間のシフト・レバー操作は、車の走行中、停止中のどちらの場合でも行えます。好ましいシフト速度は、0～72km/h（45mph）になります。車両走行中

は、レバー操作後にアクセル・ペダルを一時的に放すと、トランスファ・ケースの連結と解除が素早く行えます。トランスファ・ケースをシフトしているときは加速しないでください。トランスファ・ケース・レバーをシフトする際には、一定の力を加えてください。

2H/4H オートから 4H パート・タイムへ、または 4H パート・タイムから 2H/4H オートへ

2H/4H オートと 4H パート・タイムの間のシフト操作は、車の走行中、停止中のどちらの場合でも行えます。好ましいシフト速度は、0～72km/h（45mph）になります。車両走行中は、レバー操作後にアクセル・ペダルを一時的に放すと、トランスファ・ケースの連結と解除が素早く行えます。トランスファ・ケースをシフトしているときは加速しないでください。トランスファ・ケース・レバーをシフトする際には、一定の力を加えてください。

メモ：

- 前輪または後輪のどちらか一方が空転しているときに、シフトを行わないでください。シフトを行うために、フロントとリヤ・ドライブシャフトの速度は同じである必要があります。前輪または後輪のどちらかのみが空転しているときにシフトを行うと、トランスファ・ケースが損傷する場合があります。
- 4WD からのシフトが遅れる可能性がある理由としては、タイヤの偏摩耗、タイヤ空気圧の低下または不均衡、過剰な車両積載量、または低温があります。
- 速度上昇に伴いシフト操作には力が必要になりますが、これは正常です。

寒冷時は、トランスファ・ケース・フルードが暖まるまでシフト変更が困難な場合があります。これは正常な状態です。

4H パート・タイム／4H オートから 4L へ、または 4L から 4H パート・タイム／4H オートへ

車両が 2～5km/h（1～3mph）で走行している状態で、トランスミッションを「N（ニュートラル）」にシフトします。車両が 2～5km/h（1～3mph）で惰性走行中に、トランスファ・ケース・レバーを希望するポジションにしっかりとシフトします。トランスファ・ケース・レバーを N（ニュートラル）位置で止めないようにしてください。シフトが完了したら、トランスミッションを「D（ドライブ）」にします。

メモ：

4L へのシフト接続、4L からのシフト解除の操作は、車両が完全に停止しているときも可能ですが、クラッチの歯がうまく噛み合わないと、シフトが難しくなる場合もあります。クラッチの歯をうまく噛み合わせ、シフトが完全に入るまでに何度か操作を繰り返さなければならないことがあります。車両を 2～5km/h（1～3mph）で走行させながら操作するのが望ましい方法です。2～5km/h（1～3 mph）以上で走行している場合、4L の締結、または解除を試みないでください。

警告!

トランスファ・ケースがポジションにしっかり入っていないと、トランスファ・ケースが破損したり、動力不足に陥ったり、車を制御できなくなったりする恐れがあります。衝突事故につながります。トランスファ・ケースが完全に締結しない状態で車を運転しないでください。

TRAC-LOK リヤ・アクスル – タイプ別装備

Trac-Lok リヤ・アクスルは、両方の後輪に一定の駆動力を与えるとともに、駆動車輪の 1 つでトラクションがなくなることによって起こるホイールの空転を防ぎます。2 つの後輪のトラクションが異なる場合、ディファレンシャルは、トラクションのある方の車輪にトルクを多く供給し、自動的に、使用可能なトルクの均衡をとります。

Trac-Lok は、滑りやすい道路条件の場合に、特に有効です。両方の後輪が滑りやすい路面にある場合、アクセルを少し踏むことにより、最大のトラクションが発揮されます。

警告!

リミテッド・スリップ・ディファレンシャルが装備されている車両では、リヤ・ホイールの 1 つが地面から離れている状態では、決してエンジンを作動させないでください。地面に着いているリヤ・ホイールで走行することになり、車を制御できなくなる恐れがあります。

アクスル・ロック（AXLE LOCK）（TRU-LOK）、フロントおよびリヤ - タイプ別装備

アクスル・ロック・スイッチは、インストルメント・パネル（ステアリング・コラムの右側）にあります。



アクスル・ロック・スイッチ・パネル

この機能は、以下の条件が揃った場合に限り作動します。

- イグニッションが「RUN（走行）」位置にあり、車両が「4L」（4WD ロー・レンジ）である。
- 車速が 10 mph (16 km/h)以下。
- アクスルの右と左の両方のホイールが同じ速度である。

システムを起動するには、「AXLE LOCK（アクスル・ロック）」スイッチを押し下げ、リヤ・アクスルのみをロックします（「REAR ONLY（リヤのみ）」表示灯が点灯します）。スイッチを引き上げてフロント・アクスルとリヤ・アクスルをロックします（「FRONT + REAR（フロント+リヤ）」表示灯が点灯）。リヤ・アクスルがロックしたら、スイッチの下部をもう一回押すとフロント・アクスルがロックまたはロック解除されます。

メモ：

アクスルが完全にロックまたはロック解除されるまで表示灯が点滅します。

アクスルのロックを解除するには、「AXLE LOCK OFF（アクスル・ロック・オフ）」ボタンを押します。

ギヤが「4L」（4WD ロー・レンジ）から解除されるか、またはイグニッション・スイッチを「OFF（オフ）」位置に回すと、アクスル・ロックは解除されます。

車速が 48km/h（30mph）超になるとアクスルはロック解除され、車速が 16km/h（10mph）未満になると自動的に再ロックされます。

アクスル・ロック（Axle Lock）（Tru-Lok）、リヤのみ - タイプ別装備

適切な条件を満たす場合、リヤ・アクスルが 4H にロックされることがあります。

警告!
このモードは、幹線道路以外の道またはオフ・ロードでのみ使用するためのものであり、公道で使用してはいけません。

アクスル・ロック・スイッチは、インストルメント・パネル（ステアリング・コラムの右側）にあります。



アクスル・ロック・スイッチ・パネル

この機能は、以下の条件が揃った場合に限り作動します。

- イグニッションが「RUN（走行）」位置にあり、車両が「4H」（4WD ハイ・レンジ）にある。
- 車両が「OFF ROAD+」有効になっている ⇨ ページ 120。
- 車両が ESC「Full Off」モードになっている ⇨ ページ 178。
- 車両のホイール・スリップが大きい、または車両が急なカーブを曲がっている状態でないこと。

システムを起動するには、「AXLE LOCK（アクスル・ロック）」スイッチを押し下げ、リヤ・アクスルのみをロックします（「REAR ONLY（リヤのみ）」が点灯します）。

リヤ・アクスルのロックを解除するには、「AXLE LOCK OFF（アクスル・ロック・オフ）」ボタンを押します。

車両の「4H（4WD ハイ・レンジ）」を解除する、運転者が「OFF ROAD+」をオフにする、ESC「Full Off（フル OFF）」を

終了する、またはイグニッション・スイッチを「OFF(オフ)」位置にすると、アクスル・ロックは解除されます。

メモ:
リヤ・アクスルが完全にロックまたはロック解除されるまで表示灯が点滅します。

一部の条件下において、リア・アクスル・ロック・システムがリヤ・ロッカーを一時的に解除することがあります。

この動作が行われた場合、システムの許可が行われれば直ちに、自動的にリヤ・アクスルが再ロックされます。

車両の運転条件が正しくないことにより、アクスル・ロックの要求をシステムが 5 秒以内に完了しない場合は、その要求はキャンセルされるので、運転者がロッカーの起動を再要求する必要があることがあります。

電子制御式スウェイ・バー切り離し機能 – タイプ別装備

電子制御で切り離されるスタビライザ／スウェイ・バーが装備されている車両もあります。このシステムにより、オフ・ロードでフロント・サスペンションの移動量を増加させることができます。

このシステムはインストルメント・パネル(ステアリング・コラムの右側)にある SWAY BAR スイッチにより制御されています。



「SWAY BAR(スウェイ・バー)」スイッチ

システムを起動するには SWAY BAR スイッチを押します。システムを解除するにはスイッチを再度押します。スウェイ・バーが切り離されると、(インストルメント・パネルにある)「スウェイ・バー表示灯」が点灯します。起動時または作動条件が合致しない場合、「スウェイ・バー表示灯」は点滅します。スタビライザ／スウェイ・バーは、通常の走行条件ではオン・ロード・モードのままになります。

警告!

硬い路面を走行する前に、または 29km/h(18mph)を超える速度で走行する前に、スタビライザ／スウェイ・バーが再接続されていることを確認してください。スタビライザ／スウェイ・バーが外れていると、車両の制御を失うことがあり、重傷を負う恐れがあります。特定の状況では、フロント・スタビライザ／スウェイ・バーは車両安定性を向上させ、車両の制御に役立ちます。このシステムは車速を監視し、速度が 29km/h(18mph)を超えたときにスタビライザ／スウェイ・バーを再接続します。これはスウェイ・バー表示灯の点滅または点灯で示されます。車速が 22km/h(14mph)

(続き)

警告!

を下回ると、システムは再度オフ・ロード・モードに戻ります。

スタビライザ／スウェイ・バーを切り離すには、4H か 4L のどちらかにシフトし、SWAY BAR スイッチを押して、オフ・ロード・ポジションにします ⇨ ページ 115。スタビライザ／スウェイ・バーが完全に切り離されるまで、「スウェイ・バー表示灯」が点滅します。

メモ:
スタビライザ／スウェイ・バーは、左右サスペンションの高さの違いにより、トルクによってロックされることがあります。この状態は、路面の違いまたは積載重量によるものです。スタビライザ／スウェイ・バーを切り離して再度接続するには、左右のバーの高さを揃えてください。この調整を行うには、車両を水平面で走行させるか、左右に揺らさなければならない場合があります。

オン・ロード・モードに戻るには、SWAY BAR スイッチを再度押してください。

警告!

スタビライザ／スウェイ・バーがオン・ロード・モードに戻らない場合は、「スウェイ・バー表示灯」がインストルメント・パネルで点滅し、車両安定性が低下することがあります。29km/h(18mph)を超える速度で運転しないでください。スタビライザ／スウェイ・バーを外した状態で 29km/h(18mph)を超えて運転しないでください。車両の制御を失うことがあり、重傷を負う恐れがあります。

OFF ROAD+（オフ・ロード+）- タイプ別装備

OFF ROAD+（オフ・ロード+）を有効にすると、特定の Off Road（オフ・ロード）走行モードを使用する場合の運転感覚が向上します。OFF ROAD+（オフ・ロード+）を作動させるには、スイッチ・バンクにある「OFF ROAD+（オフ・ロード+）」スイッチを押します。有効になっている 4WD モードに応じて、車両の性能が向上します。



OFF ROAD+（オフ・ロード+）スイッチ

メモ：

OFF ROAD+（オフ・ロード+）は、「2WD High（2H）」モードでは作動しません。2H モードでこのボタンを押すと、インストルメント・パネル・ディスプレイに「Off Road+ Unavailable Shift to 4WD（オフ・ロード+、4WD にシフトできません）」というメッセージが表示されます。

OFF ROAD+（オフ・ロード+）が有効になると、以下の機能が有効になります。

- インストルメント・パネル・ディスプレイに「OFF ROAD+（オフ・ロード+）」表示灯が点灯します。
- インストルメント・パネル・ディスプレイには、モードに応じたメッセージが表示されます。
- ラジオのヘッドユニット（タイプ別装備）に「Off Road（オフ・ロード）」ページが起動します。
- 「Off Road Camera（オフ・ロード・カメラ）」が起動します（タイプ別装備）。

OFF ROAD+（オフ・ロード+）が有効になると、使用中の 4WD モードに応じて、車両の挙動が変化するようになります。OFF ROAD+（オフ・ロード+）を使用すると、以下の機能が向上します。

4L

- エンジン／トランスミッションの補正：ロック・クローリングとコントロール性に特化、ロック・クローリング時のシフト・スケジュールの変更、ペダル補正を感度抑制とロー・レンジにシフト、低車速域で動作
- トラクション・コントロール：低速域または 1 速において能動的なブレーキ・ロック・ディファレンシャル・チューニング
- OFF ROAD+（オフ・ロード+）：イグニッション・オフ後、次回始動時に前回の状態を呼び出し

4H

- エンジン／トランスミッションの補正：砂上性能向上／ホイール・スリップ重視、スポーツ・モードのシフト・スケジュール変更、ペダル補正を能動に設定、高車速域で動作
- トラクション・コントロール：ホイール回転数高、スリップ・チューニング・ブレーキ・ロック・ディファレンシャル（エンジン制御なし）
- エレクトロニック・スタビリティ・コントロール：ESC Off（オフ）（車速制限なし）
- OFF ROAD+（オフ・ロード+）：イグニッション・オフ後、次回始動時にデフォルトで OFF

OFF ROAD+（オフ・ロード+）の使用中は、クルーズ・コントロールとアダプティブ・クルーズ・コントロール（ACC）は作動しません。OFF ROAD+（オフ・ロード+）の使用中に、いずれかの機能を起動した場合、専用のインストルメント・パネル・メッセージが表示されます。

OFF ROAD+（オフ・ロード+）の使用中に、ESC OFF（ESC オフ）ボタンを押すと、車両が以下のようになります。

- 「ESC OFF（ESC オフ）」ボタンを押す：Traction Control（トラクション・コントロール）がオフになりますが、Stability Control（スタビリティ・コントロール）はオンのままです。
- 「ESC OFF（ESC オフ）」ボタンを 5 秒間押し続ける：Traction Control（トラクション・コントロール）と Stability Control（スタビリティ・コントロール）がオフになります。

START&STOP システム

停止／始動システムは、燃費向上のために開発された機能です。必要条件が満たされると、停車中にシステムがエンジンを自動的に停止させます。ブレーキ・ペダルを放すか、アクセル・ペダルを踏み込むと、エンジンは自動的に再始動します。

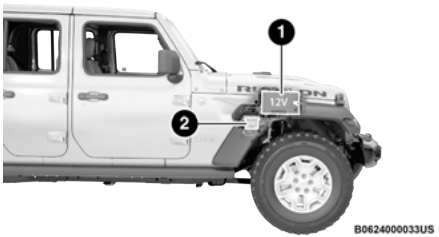
エンジン START&STOP（ESS）装備車両は高負荷対応型スタータ、強化バッテリ、その他のエンジン・パーツで能力が向上しており、エンジン始動の回数が多くても対応できます。

メモ：

START&STOP システムは、オフ・ロードでは無効にすることを推奨します。

補助バッテリ

車両には、START&STOP システムおよび 12 ボルト車両電気系統に電源を供給するための、補助バッテリが備わっている場合があります。補助バッテリは、左フロント・ホイールのホイール・ウェルの後ろにあります。



バッテリの場所

1 - メイン・バッテリ
2 - 補助バッテリ

AUTOSTOP MODE（自動停止モード）

警告!

- START&STOP システム装備車両には、バッテリが 2 つ備わります。12 ボルトの電気系統への電源供給を完全に停止するには、メイン・バッテリおよび補助バッテリ両方の接続を外す必要があります。
- 両方のバッテリの接続を外さないと、重傷または死亡事故につながるおそれがあります。正しく外す方法については、正規ディーラーにお問い合わせください。

START&STOP システムは、ユーザーが通常のエンジン始動を行うたびに有効になります。このとき、システムは「STOP/START READY（停止／始動準備 OK）」の状態になります。

自動停止モードを作動させるには、次の条件が満たされていなければなりません。

- システムが「STOP/START READY（START&STOP システム準備 OK）」の状態であること。インストルメント・パネル・ディスプレイの「START&STOP」セクション内に、「STOP/START READY（停止／始動準備 OK）」のメッセージが表示されます ⇨ ページ 90。
- 車両が完全に停止していること。
- ギヤ・セレクタを前進ギヤに入れ、ブレーキ・ペダルを踏み込んでいること。

エンジンが停止し、タコメータがゼロ位置に戻ると、START&STOP 表示灯が点灯し、自動停止モードであることを示します。エンジンを再度始動させた場合も、ユーザー設定は維持されます。

エンジンが自動停止しないときの考えられる理由

エンジンを停止させる前に、システムは安全性や快適性に関するさまざまな条件が満たされているかを点検します。停止／始動システムの動作に関する詳細な情報は、インストルメント・パネルの「Stop/Start（停止／始動）」画面で確認できます。次の条件下では、エンジンは停止しません。

- 運転席のシートベルトのバックルが外れている。
- 運転者ドアが閉じられていない。
- バッテリの温度が高すぎる、または低すぎる。
- バッテリの充電残量が少ない。
- 車両が急な坂にある。
- 車内が暖房中または冷房中で、車内温度が許容温度に達していない。
- ファン・スピードが高速で、エアコンディショナーが最大限のデフロスタ・モードに設定されている。
- HVAC が「MAX A/C（急速冷房）」に設定されている。
- エンジンが通常の作動温度に達していない。
- エンジン温度が高過ぎる。
- トランスミッションが前進ギヤに入っていない。
- ボンネットが開いている。
- トランスファ・ケースが「4L」または「N（ニュートラル）」にある。
- ブレーキ・ペダルが十分な力で踏み込まれていない。
- アクセル・ペダルが踏まれている。
- 前回の自動停止から車速しきい値に達していない。
- ステアリングの角度が設定値を超えている。
- ACC が ON で、速度が設定されている。
- 車両が高地にある。
- システム故障がある。
- START&STOP システム「OFF（オフ）」スイッチが押された。

上記の項目がより極端な場合は、停止／始動システムが「STOP/START READY（停止／始動準備 OK）」になっていない状態であり、車両を数回走行させることができる場合があります。

自動停止モード時にエンジンを始動する

トランスミッションが前進ギヤに入っている状態でブレーキ・ペダルを放すか、アクセル・ペダルを踏み込むとエンジンが始動します。エンジンが再始動すると、トランスミッションは自動的にかみ合います。

次の場合、自動停止モード時にエンジンが自動的に始動します。

- トランスミッション・セレクタを「D（ドライブ）」以外に動かした。
- 車内の温度を快適に保とうとしている。
- 実際の車内温度がオートエアコンで設定されている温度と大きく異なっている。
- エアコンディショナーを最大限のデフロスタ・モードに設定した。
- エアコンディショナーシステムの温度またはファン・スピードを手動で調整した。
- バッテリ電圧が過度に低下した。
- ブレーキの真空状態が低い（ブレーキ・ペダルを数回踏み込んだ後など）。
- START&STOP システム「OFF（オフ）」スイッチが押された。
- START&STOP システムにエラーが発生した。
- 「Stop/Start Autostop Active（停止／始動自動停止が作動）」の時間が 5 分を超えた。
- 4WD システムが「4L」モードまたは「N（ニュートラル）」モードになっている。
- ステアリング・ホイールがしきい値を超えて回転している。

START&STOP システムを手動で OFF にする

（スイッチ・バンクにある）START&STOP システムの「OFF（オフ）」スイッチを押します。スイッチの表示灯が点灯します。インストルメント・パネル・ディスプレイの START&STOP セクション内に、「STOP/START OFF（停止／始動システム「OFF」）」のメッセージが表示されます ⇨ ページ 90。



START&STOP システム「OFF（オフ）」スイッチ

メモ：
イグニッションを OFF にしてから ON に戻すたびに、STOP&START システムは ON の状態にリセットされます。

START&STOP システムを手動で ON にする

（スイッチ・バンクにある）START&STOP システムの「OFF（オフ）」スイッチを押します。スイッチの表示灯が消灯します。

システム異常

START&STOP システムに異常が発生すると、システムによるエンジンの停止が行われなくなります。インストルメント・パネル・ディスプレイに「SERVICE STOP/START SYSTEM（START&STOP システム整備）」というメッセージおよび黄色の停止／始動整備表示灯が表示されます ⇨ ページ 90。

インストルメント・パネル・ディスプレイに「SERVICE STOP/START SYSTEM（START&STOP システム整備）」というメッセージが表示された場合は、正規ディーラーでシステムの点検を受けてください。

クルーズ・コントロール・システム – タイプ別装備

一部の車両には、以下のようなクルーズ・コントロール・システム、またはアダプティブ・クルーズ・コントロール（ACC）システムが装備されています。

- クルーズ・コントロールは、車速をあらかじめ設定された一定の速度に維持します。
- アダプティブ・クルーズ・コントロール（ACC）は、あらかじめ設定された速度を上限に車速を調整して、先行車との車間距離を維持します。

メモ：

- ACC 搭載車で ACC が有効になっていない場合、定速クルーズ・コントロールは自車の直前の車両を検知しません。選択されている機能に常に注意してください。
- 複数のクルーズ・コントロール機能を同時に作動させることはできません。たとえば、定速クルーズ・コントロールが有効になっている場合、アダプティブ・クルーズ・コントロールは利用できません（逆の場合も同様です）。

アダプティブ・クルーズ・コントロール（ACC）- タイプ別装備

アダプティブ・クルーズ・コントロール（ACC）を使用することにより、高速道路や幹線道路を走行中にクルーズ・コントロールが提供する快適さが増します。しかし安全のための装置ではなく、衝突防止機能はありません。

メモ：

- ACC センサが先行車を検出すると、減速と（当初の設定速度を超えないように）加速を自動的に調整し、あらかじめ設定された先行車との車間距離を維持しながら先行車の速度に合わせます。
- 車両のシャーシ／サスペンションまたはタイヤ・サイズに改変を加えると、アダプティブ・クルーズ・コントロールと前方衝突警告システムの性能に影響が出ます。
- 定速クルーズ・コントロール（ACC が有効になっていない状態）では、先行車を検知することはできません。選択されている機能に常に注意してください。

警告!

- アダプティブ・クルーズ・コントロール（ACC）は利便性を追求したシステムです。運転者による運転に代わるものではありません。路面、交通状況、天候、車速、車間距離に注意し、なによりもあらゆる道路状況でブレーキを操作し安全に運転することは、運転者の責任です。安全運転を行うためには、常に十分な注意力が欠かせません。ここに示す警告に従わないと、衝突事故や死亡または重傷につながる恐れがあります。
- ACC システムは：
  - 歩行者、対向車、静止物（渋滞で停止している車や故障車など）には反応しません。
  - 路面、交通状況、および天候を考慮に入れることはできず、視界の悪い状況では性能が制限される場合があります。
  - 複雑な運転条件では必ずしも認識が完全に行われるわけではなく、そのため車間距離の警告が正しくなかったり、警告が発せられないことがあります。
  - 先行車に追従している間に、車両を完全に停止し、2 秒間車両をそのまま保持します。先行車が 2 秒以内に動き出さない場合、ACC システムは、システムによりブレーキが解除されるためブレーキを手動でかける必要があるというメッセージを表示します。ブレーキが解除されるときにチャイムが鳴ります。

（続き）

警告!

- 下記の状況では ACC システムを使用しないでください。
  - 霧、大雨、大雪、凍結路、交通量の多い場所、複雑な状況（高速道路の工事中現場など）の中を運転する場合
  - 右左折レーンや高速道路の出口ランプに入る場合、曲がりくねった道、凍結した道路、雪道、滑りやすい路面、勾配の大きい道を走行する場合
  - 勾配の大きい道でトレーラをけん引する場合
  - 一定速度で走行するのが危険な状況である場合

アダプティブ・クルーズ・コントロール（ACC）の操作

ACC システムは（ステアリング・ホイールの右側にある）ボタンで操作します。



アダプティブ・クルーズ・コントロール・ボタン

1 - 距離設定（延長）
2 - アダプティブ・クルーズ・コントロール（ACC）ON/OFF
3 - 距離設定（短縮）

アダプティブ・クルーズ・コントロール（ACC）のメニュー

インストルメント・パネル・ディスプレイに現在のシステム設定が表示されます。DID に表示される情報は、ACC システムの状態に応じて異なります。

「Adaptive Cruise Control（アダプティブ・クルーズ・コントロール）（ACC）ON/OFF」ボタンを押すと、インストルメント・パネル・ディスプレイに以下のいずれかの項目が表示されます。

Adaptive Cruise Control Off（アダプティブ・クルーズ・コントロール - OFF）

ACC の作動を解除すると、「Adaptive Cruise Control Off（アダプティブ・クルーズ・コントロール - OFF）」と表示されます。

Adaptive Cruise Control Ready（アダプティブ・クルーズ・コントロール - 準備完了）

ACC がオンになっているが、車速設定が選択されていない場合は、ディスプレイに「Adaptive Cruise Control Ready（アダプティブ・クルーズ・コントロール - 準備完了）」と表示されます。

Adaptive Cruise Control Set（アダプティブ・クルーズ・コントロール - 設定）

「SET（+）」または「SET（-）」ボタンを押すと、ディスプレイに「ACC SET（ACC 設定）」が表示されます。

ACC を設定すると、設定速度がインストルメント・パネルに表示されます。

次の ACC 機能が作動すると、ACC 画面が再表示される場合があります。

- システムのキャンセル
- 運転者によるオーバーライド
- システム OFF
- ACC 接近警告
- ACC 利用不可警告

ACC 表示の動きがなく 5 秒経過すると、インストルメント・パネル・ディスプレイは最後に選択された表示に戻ります。

アダプティブ・クルーズ・コントロール（ACC）の作動

ACC システムの最低設定速度は 30km/h（19mph）です。

システムを「ON（オン）」にして準備完了状態になると、インストルメント・パネル・ディスプレイに「ACC Ready（ACC 準備完了）」と表示されます。

システムが「OFF（オフ）」のときは、インストルメント・パネル・ディスプレイに「Adaptive Cruise Control (ACC) Off（アダプティブ・クルーズ・コントロール・オフ）」と表示されます。

メモ：

下記の状態では ACC を作動できません。

- 「4WD Low」になっている場合
- ブレーキが踏み込まれている場合
- パーキング・ブレーキがかかっている場合
- トランスミッションが「P（パーキング）」、「R（リバース）」、または「N（ニュートラル）」に入っている場合
- 車速が最低速度範囲に達していない場合
- ブレーキが過熱している場合
- 低速で運転席のドアを開けている場合
- 低速で運転席のシートベルトが外れている場合
- 「ESC フル OFF」モードが作動している場合
- [Off Road+（オフ・ロード+）(タイプ別装備)]が作動している場合

作動／停止するには

アダプティブ・クルーズ・コントロール（ACC）の「ON/OFF（オン／オフ）」ボタンを押して放します。インストルメント・パネル・ディスプレイの ACC メニューに「ACC Ready（ACC 準備完了）」と表示されます。

システムを OFF にするには、アダプティブ・クルーズ・コントロール（ACC）の「ON/OFF（オン／オフ）」ボタンをもう一度押して放します。このときシステムは OFF になり、インストルメント・パネル・ディスプレイに「Adaptive Cruise

Control (ACC) Off（アダプティブ・クルーズ・コントロール（ACC）OFF）」と表示されます。

警告!

アダプティブ・クルーズ・コントロール（ACC）システムを使用していないときに ON のままにしておくことは危険です。不意にシステムが設定されたり、予想以上の速度になることがあります。車を制御できなくなり、衝突事故につながる恐れがあります。システムを使用しないときは、常に OFF にしておいてください。

希望速度を設定するには

車両が希望速度に達したときに、「SET +」ボタンまたは「SET -」ボタンを押して放します。インストルメント・パネル・ディスプレイに設定速度が表示されます。

メモ：

定速クルーズ・コントロールは ACC を有効にしなくても使用できます。別のモードに切り替えるには、**ACC on/off ボタン**を押します。これで、ACC と定速クルーズ・コントロールがオフになります。**定速クルーズ・コントロール on/off ボタン**を押すと、定速クルーズ・コントロール・モードがオンになります（切り替わります）。

警告!

定速クルーズ・コントロール・モードでは、システムは先行車には反応しません。さらに、先行車の存在や車間距離が検出されないため、先行車に近づきすぎても接近警報が作動せず、アラームも鳴りません。先行車との安全な車間距離を維持してください。選択されているモードに常に注意してください。

車速が 30km/h（19mph）を**下回っている**ときに ACC が設定されると、設定速度はデフォルトの 30km/h（19mph）になります。

メモ：

車速が 30km/h（19mph）を下回っているときは、定速クルーズ・コントロールを設定することができません。

車速が 30km/h（19mph）を**超えている**ときにいずれかのシステムが設定されると、設定速度は現在の車速になります。

メモ：

- アクセル・ペダルに足を乗せたままにしていると、設定速度を超えて加速し続ける場合があります。これが起こった場合は、インストルメント・パネル・ディスプレイに「DRIVER OVERRIDE（運転者によるオーバーライド）」というメッセージが表示されます。
- ACC を有効にした状態で設定速度を超えて加速し続けると、自車と先行車の間の車間距離制御が行われなくなります。車速はアクセル・ペダルを踏み込む量によってのみ決まります。

キャンセルするには

次の条件に合致すると、ACC システムまたは定速クルーズ・コントロール・システムがキャンセルされます。

- ブレーキ・ペダルを踏む
- 「CANC（キャンセル）」ボタンを押す
- アンチロック・ブレーキ・システム（ABS）が作動する
- ギヤ・セレクタを「D（ドライブ）」位置から動かす
- エレクトロニック・スタビリティ・コントロール／トラクション・コントロール・システム（ESC／TCS）が作動する
- 車両のパーキング・ブレーキをかける
- ブレーキ温度が正常範囲を超える（オーバーヒート）
- トレーラ・スウェイ・コントロール（TSC）が作動する

次の条件に合致すると、ACC システムのみがキャンセルされます。

- 低速で運転席シートベルトが外れている場合
- 低速で運転席のドアを開ける

OFF にするには

下記の動作を行うとシステムは OFF になり、設定速度をメモリから消去します。

- アダプティブ・クルーズ・コントロール（ACC）の「ON/OFF（オン／オフ）」ボタンを押す
- 定速クルーズ・コントロール・システムの「ON/OFF（オン／オフ）」ボタンを押す
- イグニッション・キーが「OFF（オフ）」の位置にある
- 4WD LOW が作動している

再作動させるには

メモリに設定速度が記憶されている場合は、「RES（再開）」ボタンを押してから、アクセル・ペダルから足を放します。インストルメント・パネル・ディスプレイに前回の設定速度が表示されます。

復帰機能は、定速クルーズ・コントロール使用中のみ、30km/h（19mph）を超える速度で使用できます。

復帰機能は、ACC の作動時は 0km/h（0mph）を超える速度で使用できます。

メモ：

- ACC モードになっている状態で車両が完全に停止して 2 秒を超えると、車両を停止した状態に維持するには、運転者はブレーキをかける必要があります。
- この車両のすぐ前方に静止車両がある場合、ACC を再開できません。

警告!

復帰機能は、交通状況と路面状態に注意して使用してください。設定速度が速すぎたり遅すぎたりするときに復帰機能を使用すると、そのときの交通量や路面状況によっては、車速を急に上げたり落としたりすることになるため危険です。ここに示す警告に従わないと、衝突事故や死亡または重傷につながる恐れがあります。

設定速度を変更するには

設定速度を増減させるには

速度の設定後、「SET（設定）**(+)**」ボタンを押すと、設定速度が上がり、「SET（設定）**(-)**」ボタンを押すと、設定速度が下がります。

米国式（mph）

- 「SET（設定）**(+)**」ボタンまたは「SET（設定）**(-)**」を 1 回押すと、設定速度を 1mph 単位で調整できます。ボタンを 1 回押すごとに、1mph 単位で増減します。
- ボタンを押し続けると、ボタンを放すまで設定速度は 5mph 単位で連続して調整できます。新たに設定した速度はインストルメント・パネル・ディスプレイに反映されます。

メートル法（km/h）

- 「SET（設定）**(+)**」または「SET（設定）**(-)**」ボタンを 1 回押すと、設定速度を 1km/h 単位で調整できます。ボタンを 1 回押すごとに、1km/h 単位で増減します。
- ボタンを押し続けると、ボタンを放すまで設定速度は 10km/h 単位で連続して調整できます。新たに設定した速度はインストルメント・パネル・ディスプレイに反映されます。

メモ：

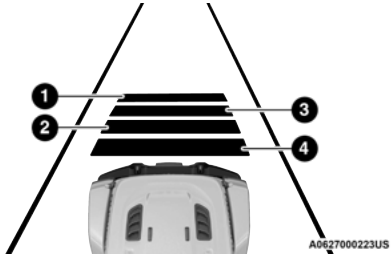
現在の設定を無視して「SET +（設定+）」ボタンまたは「SET -（設定-）」ボタンを押すと、新しい設定速度が現在の車速になります。

ACC の作動中

- 「SET -（設定-）」ボタンを操作して減速するとき、エンジン・ブレーキによって設定速度まで車速を十分に落とすことができない場合、ブレーキ システムで自動的に減速します。
- 前方車両に追従しているときは、ACC システムがブレーキをかけて完全に停止します。前方車両に追従して静止した場合、完全停止してから 2 秒後にブレーキを解除します。
- ACC システムは、坂道でも設定速度を維持します。緩やかな坂で速度が多少変化しても異常ではありません。また、坂道の上り坂と下り坂ではシフトダウンが行われることもあります。これは設定速度を維持するために必要な正常な動作です。登坂および降坂時、ブレーキ温度が通常の範囲を超えると（オーバーヒート）、ACC システムはキャンセルされます。

ACC での車間距離の設定

バー 4 本（最長距離）、バー 3 本（長距離）、バー 2 本（中距離）、バー 1 本（短距離）の間で距離設定を変化させて、ACC の指定車間距離を設定できます。ACC は、この距離設定値と車速を基に、先行車との車間距離を計算して設定します。この距離設定値はインストルメント・パネル・ディスプレイに表示されます。



距離設定

1 - 最長距離設定（バー 4 本）
2 - 中距離設定（バー 2 本）
3 - 長距離設定（バー 3 本）
4 - 短距離設定（バー 1 本）

距離設定を長くするには、「Distance Setting - Increase（距離設定 - 延長）」ボタンを押して放します。このボタンを押すたびに、距離設定はバー 1 本ずつ増加（延長）します。

距離設定を短くするには、「Distance Setting - Decrease（距離設定 - 短縮）」ボタンを押して放します。このボタンを押すたびに、距離設定はバー 1 本ずつ減少（短縮）します。

先行車がいない場合、車両は設定速度で走行します。同じ車線に速度の遅い車が見つかった場合、インストルメント・パネルに「ACC Set With Target Light（先行車を検知したときの ACC 設定）」表示灯が表示されます。その後システムは、設定速度に関係なく車速を自動的に調整し、距離設定を維持します。

車両は以下の条件が満たされるまで設定されている車間距離を維持します。

- 先行車が設定速度を超えるまで加速する
- 先行車が車線を移る、またはセンサの検出範囲の外に出る
- 車間距離の設定値を変更する
- システムの解除 ⇨ ページ 124

ACC による最大制動力は制限されますが、運転者は必要に応じて通常通りにブレーキをかけることができます。

メモ：

ACC システムがブレーキをかけると、常にブレーキランプが点灯します。

ACC はシステムの最大制動力では設定の車間距離を維持できないと判断すると、運転者に接近警報を発します。警報が出ると、インストルメント・パネル・ディスプレイで「BRAKE!（ブレーキ！）」という視覚警報が点滅し、チャイムが鳴ると同時に、ACC は最大制動力をかけ続けます。

メモ：

インストルメント・パネル・ディスプレイの「BRAKE!（ブレーキ！）」画面は運転者に対応を促す警告であり、必ずしも前方衝突警告システムが自動的にブレーキをかけるということではありません。

追い越し補助

ACC を作動させて別の車の後を走行中の場合、前方の車を追い越せるように、ACC の設定速度まで車が加速されます。左側通行の地域の場合、この追加の加速は、右方向指示器を使用したときに開始されます。なお、先行車の右側を追い越す場合にのみ作動します。右側通行の地域の場合、この追加の加速は、左方向指示器を使用したときに開始されます。なお、先行車の左側を追い越す場合にのみ作動します。

メモ：

車両が右側通行の地域から左側走行の地域に移行する場合、またはその逆の場合、ACC システムが通行の方向を自動的に検出します。

停車時の ACC 操作

対象車に追従している間に、ACC システムにより車両が静止し、静止してから 2 秒以内にその対象車が動き出した場合、運転者が何も対応しなくても、この車両は走行を再開します。

自車の静止後 2 秒以内に対象車が動き出さない場合、ACC with Stop（停止 ACC）システムはキャンセルされ、ブレーキは解除されます。キャンセルのメッセージがインストルメント・パネル・ディスプレイに表示され、警告チャイムが鳴ります。この時点で、運転者の介入が必要となります。

停止 ACC により車両が静止している間、運転席のシートベルトが外されるか運転席のドアが開けられると、停止 ACC システムはキャンセルされ、ブレーキは解除されます。キャンセルのメッセージがインストルメント・パネル・ディスプレイに表示され、警告チャイムが鳴ります。この時点で、運転者の介入が必要となります。

警告!

ACC システムを再起動させるとき、運転者は、車両の進路上に歩行者、他の車両、障害物がないことを確認してください。ここに示す警告に従わないと、衝突事故や死亡または重傷につながる恐れがあります。

警告およびメンテナンスの表示

「WIPE FRONT RADAR SENSOR（フロント・レーダ・センサを清掃してください）」警告

システムの性能が一時的に制限される条件になると、「ACC/FCW Unavailable Wipe Front Radar Sensor（ACC／FCW が無効のためフロント・レーダ・センサを清掃してください）」という警告が表示され、チャイムも鳴ります。

この警告は、多くの場合、雪や大雨などのため視界が悪いときに発せられます。ACC システムは、泥、埃、氷などの障害物によって一時的に利用できなくなる場合もあります。このような場合、インストルメント・パネル・ディスプレイに「ACC/FCW Unavailable Wipe Front Radar Sensor（ACC/FCW が無効のためフロント・レーダ・センサを清掃してください）」と表示され、システムが無効になります。

反射率の高いエリア（反射タイルが使用されたトンネル、氷雪など）の走行中に「ACC/FCW Unavailable Wipe Front Radar Sensor（ACC/FCW が無効のためフロント・レーダ・センサを清掃してください）」というメッセージが表示されることがあります。エリアを離れると、ACC システムは再び作動します。まれに、レーダーが追跡する車両や物体が進路上にない場合、この警告が一時的に表示される場合があります。

メモ：

「ACC/FCW Unavailable Wipe Front Radar Sensor（ACC／FCW が無効のためフロント・レーダ・センサを清掃して

ください）」という警告が表示されている場合でも、定速クルーズ・コントロールは使用できます。

天候状況が原因でない場合、センサを点検する必要があります。センサの清掃や障害物の除去が必要な場合もあります。センサは、車両中央、ロア・グリルの背後に取り付けられています。

ACC システムを適切に動作させるには、以下のメンテナンス項目に注意することが重要です。

- センサを常にきれいにしておきます。柔らかい布でセンサのレンズを丁寧に拭きます。センサのレンズに傷を付けないように注意してください。
- センサのネジを取り外さないでください。ネジを外すと、ACC システムが誤作動を起こしたり機能せず、センサの再調節が必要になる場合があります。
- 衝突によってセンサまたは車両の前部が損傷を受けた場合、正規ディーラーで整備を受けてください。
- センサ付近には透明な部品や後付けグリルなどのアクセサリをはめたり、取り付けたりしないでください。アクセサリを付けると ACC が機能しなくなったり、誤作動を起こす恐れがあります。

システムの作動を解除していた状況がなくなったとき、システムは「Adaptive Cruise Control Off（アダプティブ・クルーズ・コントロール - OFF）」状態になり、再起動するだけで再び機能するようになります。

メモ：

雪、雨、泥またはその他の障害物がないにもかかわらず「ACC/FCW Unavailable Wipe Front Radar Sensor（ACC/FCW が無効のためフロント・レーダ・センサを清掃してください）」というメッセージが頻繁に表示される場合（1 回の走行に 2 度以上）、正規ディーラーでレーダ・センサの再調節を行ってください。

「CLEAN FRONT WINDSHIELD（フロントガラスの清掃が必要です）」警告

システムの性能が一時的に制限される条件になると、「ACC/FCW Limited Functionality Clean Front Windshield（ACC／FCW の機能が制限されているためフロントガラスの清掃が必要です）」という警告が表示され、チャイムがなります。この警告は、多くの場合、雪または大雨や曇りなどのため視界が悪いときに発せられます。ACC システムは、フロントガラス上の泥、埃、氷、さらにはガラス内側の曇りなどの障害物によって一時的に利用できなくなる場合もあります。このような場合、インストルメント・パネル・ディスプレイに「ACC/FCW Limited Functionality Clean Front Windshield（ACC/FCW の機能が制限されているためフロントガラスの清掃が必要です）」と表示され、システムの性能が低下します。

悪天候条件での走行中、「ACC/FCW Limited Functionality Clean Front Windshield（ACC/FCW の機能が制限されているためフロントガラスの清掃が必要です）」というメッセージがときどき表示されることがあります。車両がこうしたエリアを離れると、ACC/FCW システムは再び作動します。まれに、カメラが進路上の車両や物体を追跡しない場合、この警告が一時的に表示される場合があります。

天候条件が原因ではない場合、運転者はフロントガラスおよびルーム・ミラーの裏側にあるカメラを点検する必要があります。清掃や障害物の除去が必要な場合もあります。

機能の制限をもたらす状況がなくなると、システムの機能は完全に元に戻ります。

メモ：

雪、雨、泥またはその他の障害物がないにもかかわらず「ACC/FCW Limited Functionality Clean Front Windshield（ACC/FCW の機能が制限されているためフロントガラスの清掃が必要です）」というメッセージが頻繁に表示される場合（1 回の走行に 2 度以上）、正規ディーラーでフロントガラスおよび前方向きカメラの点検を受けてください。

「ACC/FCW 整備」警告

システムがオフになり、インストルメント・パネル・ディスプレイに「ACC/FCW Unavailable Service Required（ACC/FCW 利用不可、整備を受けてください）」または「Cruise/FCW Unavailable Service Required（クルーズ／FCW 利用不可、整備を受けてください）」と表示された場合は、ACC の機能を制限する内部システム故障または一時的な不具合が生じているおそれがあります。通常の状態で走行することはできますが、ACC は一時的に利用できなくなります。そのような場合は、後ほどイグニッション・サイクルに従って ACC を作動させてください。問題が解決できない場合は、正規ディーラーにお問い合わせください。

ACC を作動させて運転する際の注意事項

運転状況によっては、ACC の検出に問題が生じることがあります。そのような場合、ACC によってブレーキがかかるのが遅かったり、不意にかかったりする可能性があります。運転者は油断せず、場合によってはシステムの作動に対し処置を講じることが必要なこともあります。以下は、こうした種類の状況の例です。

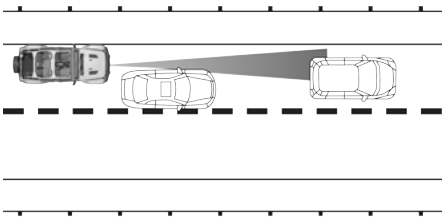
トレーラのけん引

ACC の使用時、トレーラのけん引はお勧めしません。

車の位置のずれ

同じ車線に車がいても、運転している車の直線方向からずれている場合や、隣の車線から合流してくる車両の場合、ACC は検出できないことがあります。また、先行車との距離を十分に保つことができないことがあります。そ

のような車は一定して走行軌跡に留まらないため、車のブレーキが不意にかかったり、加速したりすることがあります。



車の位置のずれの例

曲がり角やカーブ

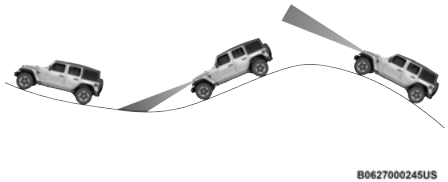
ACC を作動させてカーブを走行すると、前方の車両を検知していない状態で、安定性確保のためにシステムが車速を増減させる場合があります。車両がカーブを抜けると、システムは元の設定速度を復帰させます。これは、ACC システムの正常な機能の一部です。

メモ：

急カーブでは、ACC の作動が制限される場合があります。

坂道での ACC の使用

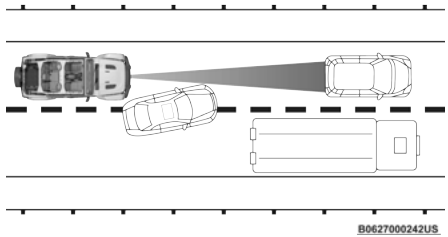
坂道を走行中は、ACC の性能が十分に発揮されない恐れがあります。速度、積載物の重量、交通状況、坂道の勾配によっては、ACC が車線斜での車両を検出できないことがあります。



坂道での ACC の例

車線変更

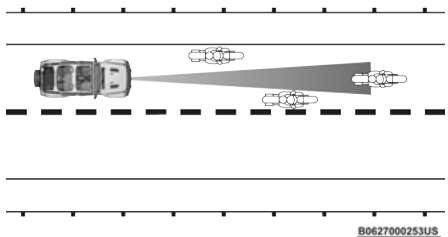
ACC は、車線変更している車が同じ車線に完全に移るまで車を検知しません。以下の車線変更の例では、ACC は車線変更中の車両をまだ検出しておらず、ACC システムは作動可能な時間内に車両を検出できないこと合があります。ACC は、車が同じ車線に完全に移るまで検知しません。また、先行車との距離を十分に保つことができないことがあります。常に注意を怠らず、必要に応じてブレーキをかけられるように準備をしておいてください。



車線変更例

車幅の狭い車

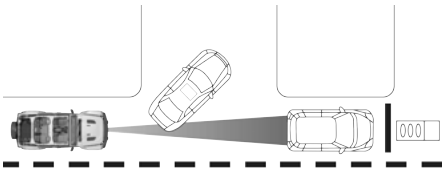
車幅の狭い車が車線の外側ラインぎりぎりの位置を走行している場合や、少しずつ同じ車線に移ってきている場合、車線内に完全に入るまで検知されないことがあります。また、先行車との距離を十分に保つことができないことがあります。



車幅の狭い車の例

静止物と車両

ACC は静止物または車両には反応しません。たとえば、ACC は前方車両が現在走行中の車線から移動した、または前方車両が現在走行中の車線で停止したなどの状況には反応しません。ACC は、相対的な動きを事前に検出しなかったので、この停止した車両を静止物とみなします。常に注意を怠らず、必要に応じてブレーキをかけられるように準備をしておいてください。



B0627000252US

静止物と静止車両の例

PARKSENSE FRONT/REAR PARK ASSIST SYSTEM（PARKSENSE フロント／リヤ・パーク・アシスト・システム）- タイプ別装備

ParkSense パーキング・アシスト・システムは、車をバックまたは前進させるとき（駐車の操作中など）に、リアと、装備されている場合はフロント・フェイシア/バンパと検出された障害物との距離を、視覚と音で示します。このシステムの制限については、⇨ ページ 134 を参照してください。

メモ：

- システムは、あくまでも運転者を支援するものであり、運転者に代わって車両を操作するものではありません。
- 運転者は、車両のアクセル操作とブレーキ操作すべてを制御する必要があり、車両の動きの制御に責任があります。

ParkSense は、イグニッション・スイッチを「ON/RUN」位置に切り替えたとき、最後にイグニッション・スイッチを切り替えたときのシステムの状態（有効／無効）を維持します。

ParkSense は、ギヤ・セレクタが「R（リバース）」位置および「D（ドライブ）」位置にある場合にのみ有効になります。ギヤ・セレクタがこれらのいずれかの位置にあり、ParkSense が作動状態であっても、車速が約 11km/h（7mph）以上になるとシステムは無効になります。車両が ParkSense の作動速度を超えていることを示す警告がインストルメント・パネル・ディスプレイに表示されます。車速が約 9km/h（6mph）未満になると、システムは再度作動状態になります。

PARKSENSE センサ

リヤ・バンパには、6 つの ParkSense センサ（フロント・センサが装備されていない場合は 4 つ）が内蔵されており、また、フロント・バンパには 6 つの ParkSense センサが内蔵されており、車両前方と後方の、センサの検出エリア内に入る範囲をモニタします。フロント・センサは、フロント・バンパから約 30cm（12 インチ）～120cm（47 インチ）の距離にある障害物を検知することができます。リヤ・センサは、リヤ・バンパから約 30cm（12 インチ）～200cm（79 インチ）の距離にある障害物を検知することができます。これらの距離は、水平方向における障害物の場所、種類、および方向に応じて異なります。

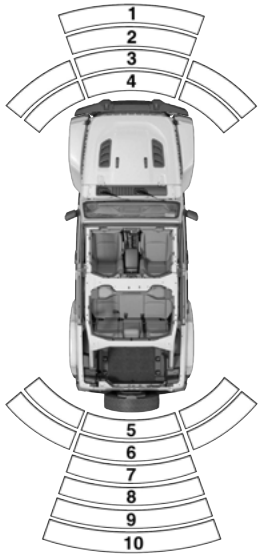
PARKSENSE ディスプレイ

シフト・レバーが「R（リバース）」または「D（ドライブ）」に入った状態で障害物が検知されると、警告ディスプレイが ON になり、システム・ステータスが表示されます。

このシステムは、障害物の車両からの相対的な距離と位置に基づいて、1 つまたは複数の領域内に 1 本の曲線を表示し、検知した障害物を示します。

前方の中央領域に障害物を検知すると、ディスプレイ上の前方中央領域に 1 本の曲線が点灯します（警告音なし）。車両が障害物に近づくにつれて、車両に接近する 1 本の曲線がディスプレイに表示され、短い警告音が 1 回鳴った後、最終的に連続的な音になります。

障害物を左前方または右前方の領域、あるいはその両方の領域で検知すると、ディスプレイの左前方または右前方領域、あるいはその両方の領域に点滅する 1 本の曲線を表示し、短い間隔の警告音が鳴ります。車両が障害物に近づくにつれて、車両に接近する 1 つの曲線がディスプレイに表示され、短い警告音が連続した音に変わります。



B0629000275US

ParkSense の曲線

1 - 警告音なし／曲線が点灯
2 - 警告音なし／曲線が点滅
3 - 短い間隔の警告音／曲線が点滅
4 - 連続した音／曲線が点滅
5 - 連続した音／曲線が点滅
6 - 短い間隔の警告音／曲線が点滅
7 - 短い間隔の警告音／曲線が点滅
8 - 長い間隔の警告音／曲線が点灯
9 - 長い間隔の警告音／曲線が点灯
10 - 1 回の 0.5 秒の警告音／曲線が点灯

車両が障害物に接近していると、ディスプレイに 1 本の点滅する曲線が表示され、警告音が連続して鳴ります。次の表は、障害物が検知されたときの警告方法を示しています。

リヤの警告音							
後方距離（cm／インチ）	200cm（79 インチ）超	200～150cm（79～59 インチ）	150～120cm（59～47 インチ）	120～100cm（47～39 インチ）	100～65cm（39～25 インチ）	65～30cm（25～12 インチ）	30cm（12 インチ）未満
曲線 - 左	なし	なし	なし	なし	なし	6 本目が点滅	5 本目が点滅
曲線 - 中央	なし	10 本目が実線	9 本目が実線	8 本目が実線	7 本目が点滅	6 本目が点滅	5 本目が点滅
曲線 - 右	なし	なし	なし	なし	なし	6 本目が点滅	5 本目が点滅
警報チャイム	なし	0.5 秒の警告音が 1 回（後方中央のみ）	長い間隔（後方中央のみ）	長い間隔（後方中央のみ）	短い間隔（後方中央のみ）	短い間隔	連続
オーディオの音量低下	非作動	作動	作動	作動	作動	作動	作動

フロントの警告音					
前方距離（cm／インチ）	120cm（47 インチ）超	120～100cm（47～39 インチ）	100～65cm（39～25 インチ）	65～30cm（25～12 インチ）	30cm（12 インチ）未満
曲線 - 左	なし	なし	なし	3 本目が点滅	4 本目が点滅
曲線 - 中央	なし	1 本目が実践	2 本目が点滅	3 本目が点滅	4 本目が点滅
曲線 - 右	なし	なし	なし	3 本目が点滅	4 本目が点滅
警報チャイム	なし	なし	なし	短い間隔	連続
オーディオの音量低下	非作動	非作動	非作動	作動	作動

メモ：
ParkSense が警告音を発している際にオーディオが ON になっていると、システムがオーディオの音量を下げます。

フロント・パーキング・アシスト警報

ParkSense は、障害物が検知され、車両が停止し、ブレーキ・ペダルが踏み込まれてから約 3 秒後に、フロント・パーキング・アシスト警報（チャイム）を OFF にします。

調整可能チャイム音量設定

フロントおよびリヤのチャイム音量設定はプログラムできます。

この設定は、Uconnect システムで設定できます ⇨ ページ 150。

チャイム音量設定には、「LOW（低）」、「MEDIUM（中）」、「HIGH（高）」があります。工場出荷時の音量設定は「MEDIUM（中）」です。

ParkSense は、イグニッション・スイッチを切り替えたときの最後の設定状態を保持します。

ParkSense 警告画面

ParkSense 警告画面は、インストルメント・パネル・ディスプレイ内にあります ⇨ ページ 92。このシステムは、リヤ・バンパまたはフロント・バンパ（あるいはその両方）と検出された障害物との距離を、視覚による警告で伝えます。

ParkSense の有効化と無効化



ParkSense は、Uconnect ディスプレイの下部にある ParkSense スイッチで有効または無効にできます。

ParkSense スイッチを押してシステムを無効にすると、インストルメント・パネル・ディスプレイに「PARKSENSE OFF（ParkSense オフ）」というメッセージが約 5 秒間表示されます。

また、ギヤ・セレクタを「R（リバース）」位置に入れたときに、システムが無効になっていると、シフト・レバーが「R（リバース）」位置に入っている限りインストルメント・パネル・ディスプレイに「PARKSENSE OFF（ParkSense オフ）」というメッセージが表示されます。

ParkSense スイッチの LED は、ParkSense が無効の場合、または整備が必要な場合に点灯します。システムが有効になっているときは、ParkSense スイッチの LED は消灯しています。ParkSense スイッチを押したときにシステムの整備が必要な場合、ParkSense スイッチの LED はしばらく点滅してから点灯します。

ParkSense パーキング・アシスト・システムの整備

車両の始動中、ParkSense システムが故障状態を検出すると、イグニッション・サイクルごとにチャイムが 1 回鳴り、インストルメント・パネルに「PARKSENSE UNAVAILABLE WIPE REAR SENSORS（ParkSense 使用不可、リヤ・センサを清掃してください）」、「PARKSENSE UNAVAILABLE WIPE FRONT SENSORS（ParkSense 使用不可、フロント・センサを清掃してください）」、または「PARKSENSE UNAVAILABLE SERVICE REQUIRED（ParkSense 使用不可、整備が必要です）」というメッセージが表示されます。ギヤ・セレクタを「R（リバース）」位置に入れたときに、システムが故障状態を検出した場合、インストルメント・パネル・ディスプレイに「PARKSENSE UNAVAILABLE WIPE REAR SENSORS（ParkSense が使用できません。リヤ・センサを拭いてください）」または「PARKSENSE UNAVAILABLE SERVICE REQUIRED（ParkSense が使用できません。整備が必要です）」というメッセージが表示されます。このメッセージは車両が「R（リバース）」状態にある間表示されます。この状態では、ParkSense は作動しません。

インストルメント・パネル・ディスプレイに「PARKSENSE UNAVAILABLE WIPE REAR SENSORS（ParkSense 使用不可、フロント・センサを清掃してください）」または「PARKSENSE UNAVAILABLE WIPE FRONT SENSORS（ParkSense 使用不可、フロント・センサを清掃してください）」というメッセージが表示された場合は、リヤ・フェイシア／バンパまたはフロント・フェイシア／バンパ（あるいはその両方）の外面と下面が汚れておらず、雪、氷、泥、汚れ、または異物が付着していないことを確認してから、イグニションを切り替えてください。このメッセージが引き続き表示される場合は、正規ディーラーにお問い合わせください。

インストルメント・パネル・ディスプレイに「PARKSENSE UNAVAILABLE SERVICE REQUIRED（パーキング・アシスト使用不可、整備が必要です）」というメッセージが表示された場合は、正規ディーラーにお問い合わせください。

ParkSense システムの清掃

ParkSense センサは、洗車用の洗剤と柔らかい布で清掃します。生地の粗い布や固い布は使用しないでください。洗車場では、蒸気ジェット／高圧洗浄ノズルをセンサから 10cm（4 インチ）以上離したままセンサを素早く洗浄します。センサに引っかき傷を与えたり、たたいたりしないでください。センサが破損する恐れがあります。

PARKSENSE システム使用上の注意事項

メモ：

- ParkSense システムが正しく作動するように、フロントおよびリヤ・フェイシア／バンパに雪、氷、泥、汚れ、ごみを付着させないようにしてください。
- 工事用削岩機や大型トラック、その他の振動が、ParkSense の作動に影響を与える場合があります。
- ParkSense システムを OFF にすると、インストルメント・パネル・ディスプレイに「ParkSense Off（ParkSense オフ）」というメッセージが 2 秒間表示されます。また ParkSense を OFF にすると、再び ON にするまでは、イグニッションの切り替えに関係なく、OFF の状態を保ちます。
- ギヤ・セレクタを「R（リバース）」位置に入れて ParkSense を OFF にすると、インストルメント・パネルに「PARKSENSE OFF（ParkSense オフ）」というメッセージが表示されます。車両が「R（リバース）」になっている限り、このメッセージは表示されます。

  メモ：

  車両が「4WD Low」位置にある間は「PARKSENSE OFF（ParkSense オフ）」というメッセージは表示されません。
- ParkSense が ON の場合、ParkSense が警告音を発する際はオーディオの音量が下がります。
- センサに引っかき傷や損傷を与えないように注意しながら、ParkSense センサを定期的に清掃してください。センサに付着した氷や雪、泥、埃、堆積物を除去してください。これを怠ると、システムが適切に機能しない場合があります。ParkSense システムがバンパの後方または前方の障害物を検知しなかったり、バンパの後方または前方に障害物があると誤認する場合があります。
- 自転車用キャリアやトレーラ・ヒッチなどの障害物がリヤ・フェイシア／バンパから 30cm 以内にある場合、ParkSense スイッチを使って ParkSense システムを OFF に切り替えてください。これを怠ると、システムが近くの障害物をセンサの不具合と誤認識し、インストルメント・パネル・ディスプレイに「PARKSENSE UNAVAILABLE SERVICE REQUIRED（ParkSense 使用不可、整備が必要です）」というメッセージが表示される場合があります。
- スイング・ゲートが開位置にあると、ParkSense が無効になります。スイング・ゲートが開いていると、車両の後方に障害物があると誤認されます。

警告!

- 運転者は、ParkSense を使用している場合でも、バックの際に注意を怠らないでください。常に車両の後ろを注意深く確認し、自分の後方を見て、バックする前に歩行者、動物、他の車両、障害物、および死角を確認してください。安全な運転を心がけ、周囲の確認を怠らないようにします。これを怠ると、重傷や死亡事故につながる恐れがあります。
- 車両をけん引目的に使用していないときは、ParkSense を使用する前に、ボール・マウントおよびヒッチ・ボールのアセンブリを取り外すことを強くお勧めします。そうしないと、連続的な警告音が鳴ったときにはヒッチ・ボールがリヤ・フェイシア／バンパよりも障害物に近づいているため、負傷したり、車両または障害物が破損したりする危険があります。また、ボール・マウントおよびヒッチ・ボールのアセンブリのサイズと形状によっては、車両の後方にある障害物としてセンサが誤認する場合があります。

注意!

- ParkSense は、あくまでも駐車をアシストするためのものであり、小さな物体など、すべての障害物を検知できるわけではありません。駐車用の縁石は、一時的に検知されたり、まったく検知されなかったりすることがあります。センサ上または下にある障害物は、すぐそばにある場合は検知されません。
- 障害物が検知されたらすぐに停止できるように、ParkSense 使用中はゆっくりと運転してください。ParkSense の使用中でも、肩越しに後ろを確認しながら運転することをお勧めします。

PARKVIEW リア・バックアップ・カメラータイプ別装備

ParkView リア・バックアップ・カメラは、ギヤ・セレクタを「R（リバース）」に入れるたびに車両後方の周辺画像を画面に表示します。この画像は、タッチスクリーンに表示され、「check entire surroundings（周囲全体を確認してください）」というメッセージが画面の上部に表示されます。5 秒後にこのメッセージは消えます。ParkView カメラは、車両後方、スペア・タイヤの中心にあります。

後方カメラの手動作動

1. Uconnect ディスプレイにある「Vehicle（車両）」ボタンを押して、「Controls（コントロール）」タブを選択します。
2. リヤ・ビュー・カメラ・システムを ON にするには、「Back Up Camera（後方カメラ）」ボタンを押します。

シフト・レバーを「R（リバース）」から別の位置に入れると（カメラ・ディレイは OFF）、リヤ・カメラ・モードが終了し、直前の画面に戻ります。

カメラ・ディレイが ON の状態でシフト・レバーを「R（リバース）」から別の位置に入れると、リヤ・カメラの画像は最大 10 秒間表示を継続します。ただし、車速が 13km/h（8mph）を超えたり、トランスミッションを「P（パーキング）」に入れたり、イグニッション・スイッチを「OFF（オフ）」位置にしたり、またはリヤ・ビュー・カメラの画像表示を無効にするためタッチスクリーンの「X」ボタンを押したりすると表示されなくなります。

「Controls（コントロール）」メニューの「Back Up Camera（後方カメラ）」ボタンでリヤ・ビュー・カメラ画像を起動し、車速が 13km/h（8mph）以上になると、その画像のディスプレイ・タイマが開始されます。画像は、ディスプレイ・タイマが 10 秒間を超えるまで継続して表示されます。

メモ：

- 車速が 13km/h（8mph）未満の場合、タッチスクリーンの「X」ボタンで無効にしたり、トランスミッションを「P（パーキング）」に入れたり、イグニッション・スイッチを「OFF（オフ）」位置にしたりするまで、リヤ・ビュー・カメラ画像は表示され続けます。
- カメラ画像の表示を無効にするタッチスクリーンの「X」ボタンは、シフト・レバーが「R（リバース）」に入っていると使用できません。

カメラ画像の表示を有効にすると、アクティブ・ガイドラインが画像に重なって表示され、車幅と、ステアリング・ホイール位置に基づいて予測された後退進路が示されます。重ねて表示される中心部の破線によって車両の中心が示され、駐車したり、またはけん引接続部分の位置を揃えたりすることを支援します。

カメラ画像の表示を有効にすると、固定ガイド線が画像の上に重なって表示され、車幅が示されます。

色分けされて表示されたゾーンは、車両後方までの距離を示します。

次の表に、各ゾーンのおおよその距離を示します。

ゾーン	車両後方までの距離
赤	0～30cm（0～1 フィート）
黄	30cm～2m（1～6.5 フィート）
緑	2m（6.5 フィート）超

警告!

ParkView リア・バックアップ・カメラを使用している場合でも、車両をバックさせるときは注意が必要です。常に車両の後ろを注意深く確認し、バックする前に歩行者や動物、他の車両、障害物がないか注意し、死角を確認してください。周囲の安全に注意を払い、バックする際には常に注意する必要があります。これを怠ると、重傷や死亡事故につながる恐れがあります。

注意!

- 車両の損傷を防ぐために、ParkView リア・バックアップ・カメラは駐車補助装置としてのみ使用してください。ParkView リア・バックアップ・カメラでは、進路上のすべての障害物や物体を検知できるわけではありません。
- 車両の損傷を防ぐため、ParkView リア・バックアップ・カメラ使用中は、障害物を検知した場合に停止できるようにゆっくり走行してください。ParkView リア・バックアップ・カメラ使用中でも、肩越しに後ろを頻繁に確認しながら運転することをお勧めします。

(続き)

メモ：

カメラに雪、氷、泥や異物が付着している場合は、レンズを洗浄して水ですすぎ、柔らかい布で拭いて乾かします。レンズにカバーなどをかけないでください。

TRAILCAM システム - タイプ別装備

一部の車両には、車両の前方視界を画面上で確認できる TrailCam が装備されています。この画像は、タッチスクリーンに表示され、「Check Entire Surroundings（周囲全体を確認してください）」というメッセージが画面の上部に表示されます。



フロント・ビュー・カメラ

メモ：
4WD Low に入っている場合、システムはそのまま作動します。

TrailCam システムにはプログラム可能な設定があり、Uconnect システムを使用して選択可能です ⇨ ページ 150。

TrailCam の手動起動

TrailCam 表示は、インストルメント・パネルのスイッチ・バンクにある「Camera（カメラ）」ボタンを押すことで起動できます。

TrailCam 表示は、「Backup Camera（後方カメラ）」表示の アイコンを押しても、起動することができます。「Back Up Camera（後方カメラ）」表示は、TrailCam 表示の アイコンを押しても、起動することができます。

TrailCam 表示が起動している状態で、シフト・レバーを「R（リバース）」から別の位置に入れると（カメラの遅延はオフ）、TrailCam モードは終了し、直前の画面に戻ります。

TrailCam 表示が起動している状態で、シフト・レバーを「R（リバース）」から別の位置に入れると（カメラの遅延はオン）、TrailCam の画像は最大 10 秒間表示を継続します。ただし、車速が 13km/h（8mph）を超えたり、トランスミッションを「P（パーキング）」に入れたり、イグニッション・スイッチを「OFF（オフ）」位置にしたり、または TrailCam カメラの画像を無効にするためタッチスクリーンの「X」ボタンを押したりすると表示されなくなります。

手動起動方法で TrailCam カメラ画像を起動し、車速が 13km/h（8mph）を超えると、その画像のディスプレイ・タイマが開始します。画像は、ディスプレイ・タイマが 10 秒間を超えるまで継続して表示されます。

有効にすると、ステアリング・ホイール位置に基づき、TrailCam 表示の地平面にアクティブでダイナミックな Tire Lines（タイヤ・ライン）が投影されます。

メモ：
- 2WD または 4WD High に入っているときに、車速が 13km/h（8mph）未満の場合、タッチスクリーンの「X」ボタンで無効にしたり、トランスミッションを「P（パーキング）」に入れたり、イグニッション・スイッチを「OFF（オフ）」位置にしたりするまで、TrailCam 画像は表示され続けます。
- カメラ画像の表示を無効にするタッチスクリーン・ボタン「X」は、シフト・レバーが「R（リバース）」に入っていると使用できません。
- 4WD Low での走行中は車速や時間に関係なく、TrailCam 表示は起動したままになります。

TrailCam の洗浄

TrailCam 表示画面で、「Wipe Camera and Rear Glass（カメラと背面ガラスをワイプ）」ボタンをタッチして、TrailCam に液体をスプレーします。この際、リアウォッシャーとワイパーも作動します。

TrailCam 表示にある「Clean Camera（カメラ洗浄）」というボタンを長押しすると、TrailCam の洗浄が行われます。ボタンを放すと、洗浄液が停止します。さらに、リアウォッシャー・システムを搭載している場合は、ウォッシャー液が TrailCam を洗浄します。

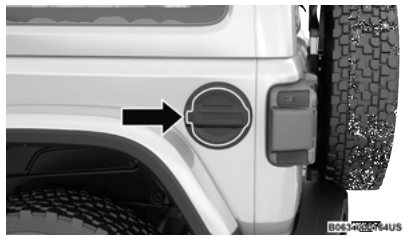
- ボタンを押し続けている間、1 回につき最大 20 秒間カメラを洗浄することができます。
- フロントガラス洗浄中は、「Clean Camera（カメラ洗浄）」システムは使用できません。

車両への給油

フューエル・フィラ・キャップ

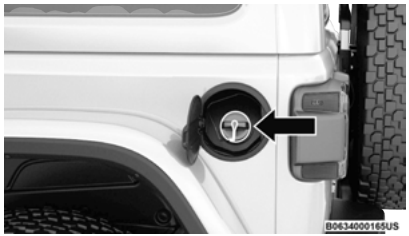
フューエル・フィラ・キャップは、車の左側にあります。フューエル・フィラ・キャップを紛失したり破損したりした場合は、新しいフューエル・フィラ・キャップが車両に適合していることを必ず確認してください。

1. フューエル・フィラ・リッド（タイプ別装備）を開きます。



給油口リッド

2. フューエル・キャップを反時計回りに回転させて取り外します。



フューエル・フィラ・キャップ

3. フィラ・パイプにフューエル・ノズルをいっぱいまで差し込みます。
4. 車両に給油します。

メモ：

- 給油ノズルからカチッという音が聞こえるか、または給油が止まった時点で燃料タンクは満タンです。
- ノズルが閉じたら、フューエル・ノズルを取り外す前に、5 秒待って余分な燃料をノズルから排出させます。

5. フューエル・ノズルを取り外し、フューエル・キャップを取り付けて、フューエル・フィラ・リッドを閉じます。

警告!

- フューエル・リッドが開いているときやタンクに給油しているときには、決して車内や車周辺にタバコなどの火気を近づけないでください。

(続き)

警告!

- エンジン作動中は、絶対に給油しないでください。これはほとんどの国で違法であるため、この行為を行うと、エンジン警告灯（MIL）が点灯します。
- 車内に置かれた携帯用容器に直接燃料を給油すると火事の原因になり、やけどをする恐れもあります。給油中はガソリン容器を車外に出し、地面に置いてください。

注意!

- 不適切なフューエル・フィラ・キャップを使用すると、フューエル・システムまたはエミッション・コントロール・システムが損傷する恐れがあります。キャップを正しく取り付けないと、フューエル・システムに不純物が混入することがあります。また、しっかり閉まらない市販のキャップを使用すると、気化した燃料がシステムから抜けることにより、エンジン警告灯（MIL）が点灯する場合があります。
- ガソリンが飛び散ったり溢れたりしないように、給油の際には燃料タンクの給油口いっぱいまでガソリンを入れないでください。

メモ：

- 給油ノズルからカチッという音が聞こえるか、または給油が止まった時点で燃料タンクは満タンです。
- フューエル・フィラ・キャップをカチッという音がするまで約 1/4 回転して締め付けます。この音により、キャップが適切に締め付けられたことがわかります。
- フューエル・フィラ・キャップが適切に締められていないと、MIL が点灯します。毎回給油するたびに、フューエル・フィラ・キャップが締められていることを確認してください。

フューエル・フィラ・キャップがゆるい場合のメッセージ

給油後、車両診断システムによりフューエル・フィラ・キャップが緩んでいないか、適切に取り付けられているか、破損していないかが判断されます。システムが不具合を検知すると、オドメータに「gASCAP（ガス・キャップ）」メッセージが表示されます。ガス・キャップは、カチッという音が聞こえるまで締めてください。この音により、ガス・キャップが適切に締め付けられたことがわかります。メッセージを消すにはオドメータ・リセット・ボタンを押します。異常が解消されないと、次に車両を始動したときに同じメッセージが表示されます。この場合、キャップが損傷している可能性があります。問題が連続して 2 回検出されると、MIL が点灯します。異常が解消されると MIL は消灯します。

車両積載量

保証ラベル

地域の規則に定められているとおり、車両の運転席ドアまたはピラーには保証ラベルが貼付されています。

このラベルには、製造年月、車両定格総重量（GVWR）、フロントとリヤの車軸定格総重量（GAWR）、および車両識別番号（VIN）などが記載されています。このラベルに記載されている月日時（MDH）番号は、製造された月、日、時間を示します。ラベルの下部に記載されているバーコードが VIN です。

車両定格総重量（GVWR）

GVWR とは、運転者、乗員、車両、装備、および積荷を含む、車両の許容総重量を意味します。ラベルには、フロントとリヤの最大許容荷重（GAWR）も記載されていま

す。総荷重は制限されているため、GVWR およびフロントとリヤの GAWR を超えないようにしてください。

最大積載量

車両の最大積載量とは、運転者、全乗員、装備、および積荷を含む、車両が運搬可能な許容積載量を意味します。

車軸定格総重量(GAWR)

GAWR とは、フロント・アクスルおよびリヤ・アクスルの最大許容荷重を意味します。荷重はカーゴ・エリアで分散して、各アクスルの GAWR を超えないようにしてください。

各アクスルの GAWR は、システムで荷重容量が最小である構成部品(アクスル、ばね、タイヤ、またはホイール)によって決まります。耐久性を高めるために購入時に重いアクスルまたはサスペンション構成部品を指定しても、車両の GVWR が増えるとは限りません。

タイヤ・サイズ

車両識別ラベルのタイヤ・サイズは、車両の実際のタイヤ・サイズを示しています。交換タイヤの負荷性能は、このタイヤ・サイズの負荷性能と同じである必要があります。

リム・サイズ

記載されているタイヤ・サイズに合ったリム・サイズです。

空気圧

GAWR 限界までのすべての積載条件における車両の冷間時のタイヤの空気圧です。

装備重量

車両の装備重量とは、乗員や積荷が積載されていない状態で、すべてのフルード類(燃料を含む)を最大容量まで入れた状態の車両の総重量を意味します。フロントとリヤの装備重量は、乗員または積荷を積載する前に、業務用の重量計で車両の重量を測定することで求められます。

積載方法

地上で車両の実際の総重量およびフロントとリヤの重量を求めるには、積載済みの運転可能な状態で車両の重量を測定することをお勧めします。

まず、車両全体の重量を業務用の重量計で測定して、GVWR を超えていないことを確認します。次に、車両のフロントとリヤの重量を別々に測定し、荷重がフロント・アクスルとリヤ・アクスルに適切に分散されていることを確認します。測定した結果、総重量は記載の GVWR 以内であるが、フロント・アクスルまたはリヤ・アクスルで GAWR を超えている場合があります。その場合、必要に応じてフロントからリヤ、またはリヤからフロントに荷重を移動して、記載の重量制限内に収まるようにします。重い荷物を低い位置に配置し、荷重が均等に分散されるようにしてください。運転前に、安定の悪い荷物を固定します。

不適切な荷重配分は、車両の操舵性およびブレーキ性能に悪影響をおよぼすおそれがあります。

警告!

車両の積載量が、GVWR、またはフロントとリヤの GAWR より重くならないようにしてください。重くなっている場合、車両の部品が破損したり、車両の操作性が変化したりする場合があります。その結果、車が制御できなくなる恐れがあります。過負荷によって車両の寿命が短くなる恐れがあります。

トレーラけん引 - タイプ別装備

このセクションでは、安全に関するヒントと、車両で合理的に実行することが可能なけん引制限に関する情報について説明します。トレーラーを牽引する前に、この情報を注意深く確認して、できるだけ効率的かつ安全にけん引してください。

新車限定保証の適用範囲を維持するため、トレーラーけん引に使用される車両に関するこの取扱説明書の要件と推奨事項に従ってください。

一般的なけん引の定義

以下のトレーラーけん引関連定義は、次の情報を理解するのに役立ちます:

車両定格総重量(GVWR)

GVWR は車両の許容総重量です。これには、ドライバー、乗員、荷物、およびタング重量が含まれます。.総負荷は GVWR を超えないように制限する必要があります。詳細については、この章の「車両積載量」を参照してください。

トレーラ総重量(GTW)

GTW は、トレーラーの重量に、「荷物が積まれて運転の準備ができている」状態でトレーラーに積み込まれているすべての貨物、消耗品、および機器 (恒久的または一時的) の重量を加算した重量です。

GTW を測定するには、荷物を満載したトレーラーを車両スケールに乗せることが推奨されていますトレーラーの全重量をスケールで支持する必要があります。

車両トレーラ連結総重量 (GCWR)

GCWR は、車両とトレーラーを組み合わせて計量した場合の許容総重量です。

車軸定格総重量（GAWR)

GAWR とは、フロント・アクスルおよびリヤ・アクスルの最大荷重を意味します。フロント・アクスルとリア・アクスルに均等に荷重を分散します。フロントまたはリヤの GAWR を超えないことが重要です。詳細については、この章の「車両積載量」を参照してください。

警告!

フロントまたはリヤの最大車軸定格総重量を超えないことが重要です。いずれかが定格を超えると、危険な運転状況に陥る恐れがあります。車を制御できなくなり、衝突事故につながる恐れがあります。

タング重量 (TW)

TW は、トレーラーによってヒッチ・ボールに加えられる下向きの力です。これは車両への負荷の一部として考慮する必要があります。

トレーラ前方面積

トレーラーの前方面積は、最大高さにトレーラー前部の最大幅を掛け合わせたものです。

トレーラ・スウェイ・コントロール（TSC） タイプ別装備

TSC は、ヒッチ連結部とトレーラーのタングの間に取り付けることができる機械式伸縮リンクであり、通常、伸縮動作により調整可能な摩擦を提供し、走行中のトレーラーの不要な揺れを抑制します。

電子 TSC が装備されている場合、トレーラーの揺れを認識し、自動的に各ホイール・ブレーキを適用したり、エンジン出力を低減してトレーラーの揺れが抑制されます。

けん引ヒッチ

トレーラー TW は、ヒッチ・ボールまたは車両のその他の接続点に荷物が置かれているように作用し、重量を支えるヒッチによって支えられています。この種類のヒッチは、小型および中型のトレーラーを牽引するためによく使用されています。

荷重分散ヒッチ

重量分散システムは、スプリング(ロード)バーを通じて、てこの作用を適用して機能します。これらは通常、より重い荷物を積載する際に、トレーラーのタング重量を牽引車の前車軸とトレーラー車軸に分散するために使用されます。メーカーの指示に従って使用することで、より安定した乗り心地が得られ、より安定したステアリングとブレーキ制御が提供され、牽引の安全性が向上します。摩擦/油圧式揺れ制御の追加により、交通や横風によって引き起こされる揺れも軽減され、牽引車両やトレーラーの安定性に良好な効果が得られます。TSC および重量分散(荷重均等化)ヒッチは、より重い TW に推奨されますが、GAWR 要件に準拠するために車両およびトレーラーの構成/積載量に応じて必要になる場合があります。

警告!

- 荷重分散ヒッチ・システムを不適切に調整すると、ハンドリング、安定性、ブレーキ性能が低下し、衝突事故につながる恐れがあります。
- 荷重分散システムは、サージ・ブレーキ・カプラに対応していない場合があります。詳細は、ヒッチとトレーラのメーカまたは信頼できるレクリエーショナル・ビークル販売店に問い合わせてください。

(続き)

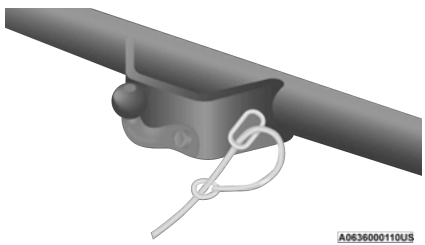
分離ケーブル・アタッチメント

ヨーロッパのブレーキ規制では、最大 7.700 ポンド (3,500 kg) のブレーキ付きトレーラーに対して、トレーラーに二次カップリングまたは分離ケーブルのいずれかを取り付けることが義務付けられています。

標準トレーラーの分離ケーブルを取り付ける推奨位置は、ヒッチ連結部の側壁にある刻印されたスロットです。

取り付けポイント付き

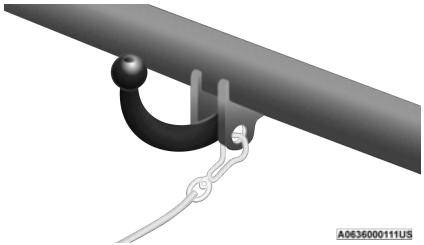
- 脱着式牽引バーの場合、ケーブルを取り付けポイントに通してクリップで元に戻すか、クリップを指定されたポイントに直接取り付けます。



着脱式ボール・クリップ・ループ方式

- 固定ボール牽引バーの場合、クリップを指定された箇所に直接取り付けます。この代替方法は、クリップの強度が不十分で使用できない可能性があるため、ト

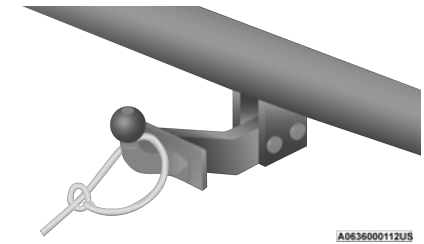
レーラーの製造業者によって特別な許可が必要になります。



固定ボール・クリップ・ループ方式

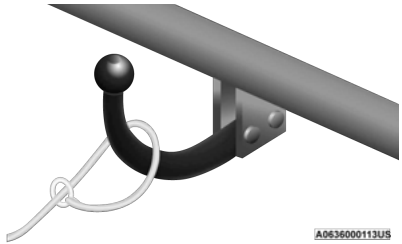
取付けポイントなし

- 脱着式ボール牽引バーの場合は、メーカーまたはサプライヤーの推奨手順に従う必要があります。



着脱式ボール・ネック・ループ方式

- 固定ボール牽引バーの場合は、ケーブルを牽引ボールのネックに巻き付けます。このようにケーブルを取り付ける場合は、単一のループのみを使用してください。



固定ボール・ネック・ループ方式

トレーラー牽引重量 (トレーラーの最大定格)

メモ :

トレーラーのタング重量は、乗員と貨物の合計重量 (つまり GVWR) の一部として考慮する必要があり、GVWR はタイヤと積載情報のプラカードに記載されている重量を決して超えてはなりません ⇨ ページ 262。

トレーラとタング重量

フェイシア/バンパーまたはトレーラー・ヒッチに刻印されている最大タング重量を決して超えないでください。

注意!
トレーラーの前部に重量の 60%を常に載せてください。これにより、GTW の 10%が車両の牽引ヒッチに配置されます。車輪の上に荷重がかかるか、後部の荷重が重くなると、トレーラーが左右に大きく揺れ、車両とトレーラーの制御が失われる可能性があります。トレーラーの衝突事故の多くは、より重いトレーラーを前に積載しないことが原因です。

(続き)

車両の後車軸にかかる重量を計算するときは、次の項目を考慮してください。

- トレーラーの TW。
- 車両内または車両上に置かれるその他の種類の貨物または機器の重量。
- 運転手と乗員全員の体重。

メモ :

トレーラー内またはトレーラー上に配置されるものはすべて、車両への荷重を増加させることに注意してください。また、追加の工場設置オプションまたはディーラー設置オプションも、車両の総積載量の一部として考慮する必要があります。車両の乗員と荷物の最大合計重量については、タイヤと積載情報プラカードを参照してください。

けん引要件

新しい車両のドライブ・トレイン・コンポーネントの適切な慣らし運転を行うには、次のガイドラインに従うことをお勧めします。

注意!

- 新車で最初の 500 miles (805 km) の間はトレーラをけん引しないでください。エンジン、アクスル、その他の部品が損傷する恐れがあります。
- 次に、トレーラをけん引する最初の 805km（500 マイル）の間は 80km/h（50mph）を超える速度で運転しないようにし、スロットル全開で発進しないでください。これにより、重負荷時にエンジンや車両の摩耗が増加します。

「メンテナンスハンドブック」に記載されているメンテナンスを行ってください。適切な交換間隔については、「メンテナンス・ノート」を参照してください。トレーラーをけん引するときは、GAWR または GCWR 定格を絶対に超過しないようにしてください。

警告!

不適切にけん引すると、衝突事故が発生する恐れがあります。トレーラをけん引するときは、以下の点に注意して可能な限り安全にけん引してください。

- トレーラの積荷がしっかりと固定されており、けん引中に動かないことを確認してください。積荷が完全に固定されていないトレーラをけん引すると、車を制御できなくなるような動的な荷重の移動が発生することがあります。車を制御できなくなり、衝突事故につながる恐れがあります。
- 積荷のけん引やトレーラのけん引の際は、車やトレーラが過負荷にならないようにしてください。過負荷によって、車を制御できなくなったり、性能の低下またはブレーキ、アクスル、エンジン、トランスミッション、ステアリング、サスペンション、シャーシ構造、またはタイヤが損傷する恐れがあります。
- 車とトレーラの間には、必ず安全チェーンを使う必要があります。必ずチェーンを車のヒッチのフック・リテーナに接続してください。トレーラ・タングの下にチェーンを交差させ、コーナで旋回できるように十分なたるみを持たせます。
- トレーラを連結した車を傾斜地に駐車させないでください。駐車するときは、けん引車両のパーキング・ブレーキをかけてください。けん引車両のトランスミッションを「P（パーキング）」レンジに入れます。4WD 車の場合は、トランスファ・ケースが「NEUTRAL（N（ニュートラル））」以外の位置にあることを確認してください。トレーラのホイールには、必ずブロックや「輪止め」をしてください。
- GCWR（グロス・コンビネーション・ウェイト・レーティング）を超えないでください。
- **次の 4 つのレーティングを超えないように、総重量をけん引車両とトレーラ間で分散させる必要があります。**
  - GVWR
  - GTW
  - GAWR（車軸定格総重量）
  - 使用するトレーラ・ヒッチの最大垂直荷重レーティング

(続き)

けん引要件 – タイヤ

- コンパクト・スペア・タイヤを使用している間は、トレーラーを牽引しないでください。
- フルサイズのスペアタイヤを使用して牽引する場合は、時速 50 mph (80 km/h) 以上で運転しないでください。
- 車を安全かつ快適に走行させるためには、タイヤの空気圧を適切に保つことが非常に重要です。
- トレーラーを使用する前に、トレーラーのタイヤのタイヤ空気圧が適切であることを確認してください。
- トレーラーを牽引する前に、タイヤの摩耗の兆候や目に見えるタイヤの損傷がないか確認してください。
- より高い耐荷重能力のタイヤに交換しても、車両の GVWR および GAWR 制限は増加しません。
- 詳細情報 ⇨ ページ 263。

牽引要件 - トレーラー・ブレーキ

- 車両の油圧ブレーキ・システムまたはバキューム・システムとトレーラーの油圧システムを相互接続**しないでください**。ブレーキ力が不十分になり、人身傷害を引き起こす可能性があります。
- 電子制御式ブレーキを備えたトレーラーを牽引する場合は、電子制御式トレーラー・ブレーキ・コントローラーが必要です。油圧サージ作動ブレーキ・システムを備えたトレーラーを牽引する場合、電子ブレーキ・コントローラーは必要ありません。
- トレーラー・ブレーキは、1,000 ポンド (453 kg) を超えるトレーラーに推奨され、2,000 ポンド (907 kg) を超えるトレーラーには必須です。

警告!

- トレーラのブレーキを車の油圧ブレーキ・ラインに接続しないでください。車のブレーキ・システムに過大な負荷がかかり、ブレーキが故障する恐れがあります。必要なときにブレーキが機能しないで、事故が発生する恐れがあります。
- トレーラをけん引すると、制動距離が増加します。けん引するときは、車と前方の車との車間距離を余分に取る必要があります。そうしないと、事故が発生する恐れがあります。

注意!

トレーラの重量が 453 kg(1,000lbs)を超える場合、トレーラは独自のブレーキを装備する必要があり、その能力は適切である必要があります。これを怠ると、ブレーキ・ライニングの早期摩耗、ブレーキ・ペダル踏力の増加、停止距離の増加を招く恐れがあります。

けん引要件 – トレーラー・ライトと配線

トレーラーけん引パッケージにはワイヤー・ハーネスが含まれる場合があります。工場で承認されたトレーラー・ハーネスとコネクタを使用してください。

メモ:
車両のワイヤー・ハーネスの配線を切断したり、接続したりしないでください。

車両への電気接続はすべて完了していますが、ハーネスをトレーラーのコネクタに接続する必要があります。次の図を参照してくだ:

メモ:
- ボートを水中に進水させる前に、トレーラーの配線コネクタを車両 (または車両の電気コネクタに接続されているその他のデバイス) から外してください。
- 必ず水域から離れてから再接続してください。

牽引のヒント

トリップを開始する前に、交通量の多い道路から離れた場所でトレーラーの方向転換、停止、後退走行の練習を行ってください。

オートマチック・トランスミッション

けん引時に DRIVE(ドライブ)レンジを選択することができます。ただし、DRIVE(ドライブ)中に頻繁にシフト変更する場合は、エレクトロニック・レンジ・セレクト (ERS) シフト・コントロールを使用して、手動で低いギア・レンジを選択してください。

メモ:
重い負荷条件で車両を運転するときに低いギアレンジを使用すると、過度のシフトと熱の蓄積が軽減されるため、パフォーマンスが向上し、トランスミッションの寿命が長くなります。この動作により、エンジン・ブレーキも改善されます。

定期的にトレーラーをけん引して 45 分以上連続運転する場合は、「警察、タクシー、フリート、または頻繁にトレーラーを牽引する車両」の指定に従って、トランスミッション・フルードとフィルタを交換してください。適切な交換間隔については、「メンテナンス計画」を参照してください。

エレクトロニック・レンジ・セレクト(ERS)

- ERS シフト・コントロールを使用する場合は、適切なパフォーマンスを実現し、頻繁なシフトダウンを回避できる最も高いギアを選択してください。たとえば、希望の速度を維持できる場合は「4」を選択します。希望の速度を維持するために、必要に応じて「3」または「2」を選択します。
- 過度の発熱を防ぐため、高回転での連続運転は避けてください。高回転での長時間の運転を避けるために、必要に応じて車速を下げてください。勾配や道路状況が許せば、より高いギア・レンジまたは車速に戻してください。

AutoStick– タイプ別装備

- AutoStick シフト・コントロールを使用する場合は、適切なパフォーマンスを実現し、頻繁なシフトダウンを回避できる最も高いギアを選択してください。たとえば、希望の速度を維持できる場合は「5」を選択します。希望の速度を維持するために、必要に応じて「4」または「3」を選択します。
- 過度の発熱を防ぐため、高回転での連続運転は避けてください。高回転での長時間の運転を避けるために、必要に応じて車速を下げてください。勾配や道路状況が許せば、より高いギアまたは車速に戻してください。

Cruise Control(クルーズ・コントロール) - タイプ別装備

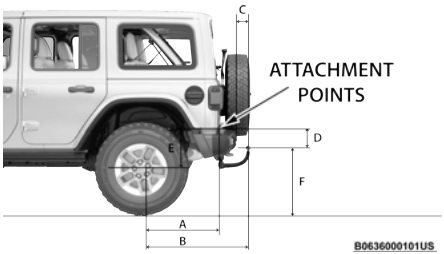
- 丘陵地や重量物を載せた状態では使用しないでください。
- クルーズ・コントロールを使用しているときに、時速 10 mph (16 km/h) 以上速度が低下した場合は、所

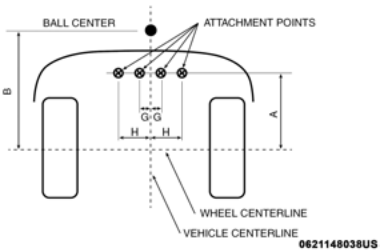
定のクルーズ速度に戻るまでクルーズ・コントロールを解除してください。

- 最大限の燃料効率を発揮させるには、平坦な地形で負荷が軽い場合にクルーズ・コントロールを使用してください。

トレーラーヒッチ取り付けポイント

トレーラーを安全かつ効率的に牽引するには、車両に追加装備が必要です。トレーラー牽引ヒッチは、車両のフレームに用意されている取り付けポイントを使用して車両に取り付ける必要があります。正確な取り付けポイントを決定するには、次の表を参照してください。トレーラーの揺れ制御装置やブレーキ装置、トレーラーのイコライジング (レベリング) 装置、薄型ミラーなどの他の装置も必要になるか、推奨される場合があります。





トレーラー牽引ヒッチの取り付けポイントとオーバーハングの寸法	
A	27.28 in (693 mm)
B	37.17～39.65 in (944～1,007 mm)
C	2.56～5.04 in (65～128 mm)
D	2.60 in (66 mm)
E	6.34 in (161 mm)
F	13.78～16.54 in (350～420 mm)
G	1.97 in (50 mm)
H	5.51 in (140 mm)

レクリエーションけん引（モータホームによるけん引）

他の車での車両けん引

けん引の条件	地面から離れている車輪	4WD モデル
4 輪すべてが地面に着いている状態でけん引	なし	禁止
けん引用台車によるけん引	フロント	禁止
	リヤ	禁止
トレーラによるけん引	すべて	可能

メモ：
車両のけん引を行う場合は、適用される法令に必ず従ってください。詳細については、地元の規制当局に問い合わせてください。

運転のアドバイス

オン・ロード走行について

多目的車両は、最低地上高が高くホイール・ベースが狭く設計されています。これにより、オフ・ロード走行時の変化に富んだ走行に幅広く対応できます。また、特有のデ

4

ザインにより重心が従来の乗用車よりも高くなっています。

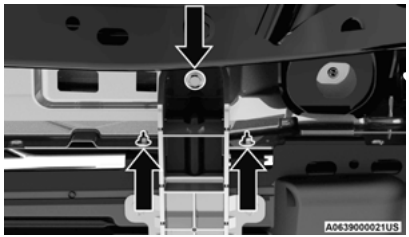
最低地上高が高いため、道路に対しての視野が広がり、障害を事前に察知できます。スポーツ・カーでオフ・ロードの軽快な走行ができないのと同じように、この車では、従来の乗用車と同じ速度でコーナーを曲がることができません。急な旋回や操作は避けてください。このタイプの他の車と同じく、適切な運転を心がけなければ、制動不能または横転してしまう恐れがあります。

オフ・ロード走行について

サイド・ステップの取り外し - タイプ別装備

メモ：
損傷を防ぐため、オフ・ロード走行の前にサイド・ステップを取り外してください（タイプ別装備）。

1. 各ブラケットについては、車両の下部から両方のナットおよびボルトを取り外します。



下部ナット

2. サイド・ステップ・アッセンブリを取り外します。

バンパ・エンド・キャップの取り外し

車両のフロント・フェイシア／バンパのエンド・キャップは、以下の手順で取り外すことができます。

メモ：
バンパ・エンドは、スチール・バンパの場合のみ取り外し可能です。

1. T45 Torx ビット・スクリュー・ドライバを使用して、GAWR ブラケットをエンド・キャップに固定している 2 つのボルト（ボルト#1 と#2）を緩めます。ボルトは取り外さないでください。



ボルト#1



ボルト#2

2. 残り 8 つのボルトを取り外してください。
3. 車両からエンド・キャップをゆっくり取り外し、安全な場所に保管します。
4. 反対側でもこの手順を行ってください。

オフ・ロード走行の基本

オフ・ロード走行では、多様な地形を走行することになります。そのため、走行前に地形と地理を十分に把握しておく必要があります。また、堅い土塊、砂利、岩、草、砂、泥、雪、氷など、地面の条件もさまざまです。それぞれの地面において、車両のステアリング、挙動、およびトラクションに異なる影響を及ぼします。オフ・ロード走行では、車両を制御することが非常に重要なことであるため、常にステアリング・ホイールをしっかり握って、良好な運転状態を保つ必要があります。急加速、急ハンドル、急ブレーキは禁物です。ほとんどの場合、道路標識、制限速度、信号がありません。このため、何が安全で何が危険であるかを自ら判断する必要があります。オフロード走行中は、路面の障害物と地形の変化をあらかじめ予想しなければなりません。また、現在走行している地形を記憶しながら、その後の進路を見極めることが重要です。

メモ:
STOP&START システムは、オフ・ロードでは無効にすることを推奨します。

警告!

常にシートベルトを締め、積荷はしっかりと固定してください。オフ・ロード走行時に積荷を固定しないと、積荷が投げ出される恐れがあります。

注意!

絶対に、乾燥した草やその他の燃えやすい物体の上に駐車しないでください。車両の排気装置の熱によって火災が発生する可能性があります。

4WD LOW を使用するケース

オフ・ロード走行の際、滑りやすいまたは走行が困難な地形での運転で、より大きなトラクションと制動力が必要な場面や、急な坂道の上り下り、および低速でより大きな牽引力が必要な場合は、4WD Low にします。このレンジの使用は、低速の駆動力を必要とする深雪、泥、急勾配、砂利道などの極端な状況に限定してください。4WD Low では、車の速度が 40km/h(25pmh)を超えないようにしてください。

注意!

4WD Low レンジは、乾いた舗装路の走行には使用しないでください。駆動系部品が損傷することがあります。

ブレーキとアクセルの同時操作

オフ・ロード走行では、ブレーキとアクセルを同時に操作しなければならないことが多々あります(両足操作)。岩、丸太、またはその他の段差のある物体を乗り越える際には、軽くブレーキ圧を踏みながら軽くアクセルを踏むことで、車両がぐらついたり急に傾いたりするのを抑えることができます。このテクニックは、急勾配で車両を停止させて発進する場合でも使用します。

雪、泥、砂地道での走行

雪

深い雪道を走行する場合、または低速走行時に優れた制御とトラクションを必要とする場合は、シフト・レバーをロー・ギヤに、トランスファ・ケースを 4WD Low に入れます。前進を続けるために必要なときのみ、低速ギアにシフトしてください。エンジンの回転数を上げ過ぎると車輪が空転し、トラクションが失われます。速度が落ちて止まりそうになったら、スロットルを踏みながら、ステアリング・ホイールをすばやく左右に回します(1/4 回転以内)。これにより路面にタイヤが食い込み、トラクションを維持することができます。

注意!

凍結路や滑りやすい路面では、高回転時または高速時のシフトダウンを避けてください。エンジン・ブレーキがかかって、横滑りや制動不能が起きる危険があります。

泥

深い泥は、タイヤの周囲に強い吸引力を生じさせるため、通過するのが非常に困難です。トラクションを維持するには、シフト・レバーを「D(ドライブ)」にして、トランスファ・ケースを「4WD Low(4WD ロー)」位置にしてください。速度が落ちて止まりそうになったら、ステアリング・ホイールをすばやく左右に回して(1/4 回転以内)、トラクションを確保します。泥池を走行する場合は、車両が損傷したり、ぬかるみにはまったりする可能性がさらに高まります。このような場所には、以前に走行した車両が、はまった際に落とした破片などの異物が溜まっています。泥池を走行する場合は、いったん車から降りて池の深さを調べ、障害物が沈んでいないか確認し、車両がはまってしまった場合に安全に脱出できるかを確認してください。

砂地

柔らかい砂地は、標準のタイヤ空気圧で走行するのが非常に困難です。柔らかい砂地を走行する場合は、車両のトラクションを維持させ、なおかつ停止してはいけません。柔らかい砂地を走行する際は、タイヤ空気圧を適切に調整し、アクセルをゆっくりと操作し、急な運転操作を避けて、車両のトラクションを維持することが重要です。広大な柔らかい砂地や砂丘を走行する場合は、タイヤ空気圧を最小値である 103 kPa(15 psi)まで下げて、タイヤと地面が接する面積を増やしてください。タイヤ空気圧を下げることで、柔らかい砂地を走行する際のトラクションと挙動が大幅に向上します。ただし、舗装路やその他の堅い路面を走行する前に、標準のタイヤ空気圧に戻す必要があります。このため、空気圧を下げる前に、空気入れを所有していることを確認してください。

注意!

タイヤ空気圧を下げると、タイヤとホイール・リム部との密着性が下がり、空気圧がさらに低下することがあります。タイヤとホイール・リム部との密着性が下がってしまう状況を避けるため、タイヤ空気圧を低くしたときには、速度を落として、急な旋回や操作を避けてください。

障害物の通過（岩などの高さのある物体）

オフ・ロード走行時には、多様な地形を走行することになります。各地形には、さまざまな障害物が存在します。走行する前に、進路を確認して、適切な進入経路を判断したり、不慮の事態が発生した場合に安全に車両を脱出させることができるかどうかを判断する必要があります。ステアリング・ホイールをしっかりと握り、まず車両を完全に停止させてから、障害物に接触するまで車両を少しずつ前進させます。軽くブレーキ圧を踏みながら軽くアクセルを踏むことで、障害物を乗り越えやすくなります。

警告!

障害物を乗り越えるときには、ステアリング・システムに急激な負荷がかかり、車両の制御を失うことがあります。

誘導者の配置

障害物が見えにくかったり、適切な進路を判断するのが難しいことがあります。また、さまざまな種類の障害物が存在するときは、適切な進路を判断することが非常に困難です。このような場合は、障害物の周囲に人を配置して誘導してもらいます。誘導する人は、車両前方の位置で、障害物とタイヤまたはシャーシが確認できる安全な位置に立って誘導してもらいます。

大きな岩の通過

大きな岩の転がる岩場に近づいたら、最も大きい岩の上を走行するような進路を選択します。これにより、車体を障害物の上に乗り上げることができます。タイヤのトレッドは、サイド・ウォールよりも厚く頑丈にできており、酷使にも耐えるように設計されています。常に前方を見て、大きな岩の上にタイヤが載るような進路を取ります。

注意!

- アクスルやシャーシに当たるほど大きな岩の上を乗り越えないでください。
- ドア・シルに接触するほど大きな岩の上を乗り越えないでください。

峡谷、小さな谷、溝、浸食路、わだちの通過

峡谷、小さな谷、溝、浸食路、大きなわだちなどを通過する際には、角度を付けて進入することで車両のトラクションを維持できます。45°の角度で障害物に進入し、各タイヤが障害物の上を個別に通過するようにします。勾配がきつい大きな障害物を越える場合には、十分注意する必要があります。車両が横転するほど勾配がきつい大きな障害物の上を走行しないでください。わだちにはまった場合は、フロント・タイヤの前方左または右 45°の方向に溝を掘ります。掘り起こした泥で、溝の前方にあるわだちを埋めます。これで、45°の角度で掘った溝に沿って脱出させることができます。

警告!

勾配がきつい障害物の上を走行した場合、進入角度に関係なく、横転の危険性が高まります。

丸太の通過

丸太の上を通過する場合は、多少角度（約 10～15°）を付けて進入します。これにより、一方のフロント・タイヤが丸太の上に載った状態で、もう一方のフロント・タイヤが丸太を上り始めるようになります。丸太を越える場合は、タイヤの下で丸太が転がらないようにブレーキとアクセルを調節してください。そして、ブレーキを使って丸太から下ります。

注意!

車両の最低地上高よりも直径が大きい丸太は越えないでください。シャーシが引っ掛かって立ち往生します。

シャーシが引っ掛かって立ち往生した場合

シャーシに物体が引っ掛かって立ち往生した場合は、いったん車から降りて、車両に引っ掛かったものと、その物体が接触したシャーシの位置を確認し、脱出するのに最適な方向を判断します。接触している物体によっては、車両をジャッキ・アップし、車両を下ろしたときに物体がシャーシに当たらないようにするために、タイヤの下に数個の岩を置きます。車両をゆすったり、ウインチで引っ張って脱出させることも可能です。

注意!

ただし、接触している物体が堅い場合、ウインチで引っ張ったり、車両をゆすって脱出させると、シャーシが損傷する危険性があります。

登坂走行

登坂走行を行うには、優れた判断能力が求められるとともに、自分の運転技量および車両の制限事項を的確に理解している必要があります。登坂走行は、重大な問題を引き起こす可能性があります。坂によっては勾配がきつすぎるものもあり、このような坂は登坂しないでください。また、車両と自分の運転技量に自信がなければなりません。坂を上り下りする際には、坂に対してまっすぐに進入してください。絶対に角度を付けて上らないでください。

急坂を上る前に

坂に近づいたら、坂の勾配を見極めます。勾配がきつすぎないかどうかを判断します。坂道のトラクションを確認します。まっすぐに上り下りできるか路面状態ですか？坂道の頂上と向こう側はどのようになっていますか？進路にわだち、岩、枝などの障害物はありませんか？何らかの不具合が発生した場合に安全に車両から脱出できる状況ですか？すべてに問題がなく、確信が持てる場合は、トランスミッションをロー・ギヤに、トランスファー・ケースを 4WD Low レンジに入れ、トラクションを維持することに注意を払いながら坂を上ります。

上り坂の走行

上る自信があり、ギヤを適切なレンジに入れたら、可能な限り直線的に走行できる方向に車両を向けます。最初はアクセルを軽く踏んで加速し、坂を上り始めたらさらに踏み込みます。坂に突進しないでください。勾配の急激な変化により制御を失うことがあります。フロント側が跳ね始めたら、アクセルを多少戻して、4 輪すべてを地面に接触させます。頂上に近づいたら、アクセルを戻して、ゆっくりと頂上に上ります。坂の頂上に近づくにつれタイヤがスリップする場合は、アクセルを緩め、ステアリング・ホイールをすばやく左右に回して（1/4 回転以内）前進を続けます。これにより路面にタイヤが食い込み、通常、坂道を上がりきるトラクションが生じます。頂上に到達できなくなったら、R（リバース）に入れて、フット・ブレーキとエンジン・ブレーキを併用してまっすぐ坂を下ります。

警告!

絶対に角度を付けて坂を上ったり、急坂で方向転換しないでください。坂を横切る向きに走行すると、車両が横転して重傷を負う恐れがあります。

下り坂の走行

急坂を下る前に、安全に下るのに勾配がきつすぎないかどうかを判断します。路面のトラクションはどうですか？操縦性を保った状態でゆっくりと下ることができないほど勾配きつくないですか？障害物はありませんか？まっすぐに下ることができますか？坂を下りきった地点に、車両が高速で降りてきた場合に制御を取り戻すための、十分な距離はありますか？確信が持てる場合は、「4WD Low」に入れ、注意して前進します。エンジン・ブレーキを使用して下り、必要に応じてフット・ブレーキをかけます。ただし、タイヤをロックさせないようにしてください。

警告!

急坂を「N（ニュートラル）」で下らないでください。エンジン・ブレーキとフット・ブレーキを併用してください。坂を高速で下ると、制御を失い、重傷事故や死亡事故が発生する恐れがあります。

坂道を横切る方向での走行

可能な限り、坂道を横切る方向で走行しないでください。必要に応じて、車両の能力を確認してください。坂道を横切る向きで走行すると、下り側の車輪にかかる重量が増し、下方向にすべり落ちたり横転する可能性が高まります。路面が堅く安定した土であり、トラクションが良好であることを確認してください。できるだけ、上または下向きに多少角度を付けて横切ります。

警告!

坂を横切る向きに走行すると、車両が横転して重傷を負う恐れがあります。

エンストを起こしたり、前進できなくなった場合

登坂中にエンストを起こしたり、前進できなくなった場合は、停止してすぐにブレーキをかけてください。エンジンを再始動して、R（リバース）にシフトします。バックで坂を下ります。エンジン・ブレーキを使用して下り、必要に応じてフット・ブレーキをかけます。ただし、タイヤをロックさせないようにしてください。

警告!

急坂でエンストしたり、前進できなくなったり、または頂上まで到達できなくなったら、絶対に方向転換しないでください。方向転換すると、車が傾き、横転して、重傷を負う恐れがあります。「R（リバース）」で慎重にまっすぐ後退してください。「N（ニュートラル）」に入れて、フット・ブレーキだけで急坂を下ることは行わないでください。坂道では斜めに横切りながら運転するのではなく、常にまっすぐ上り下りしてください。

水溜りでの走行

水溜りを走行する際には、十分注意する必要があります。可能な限り水溜りでの走行を避け、どうしても必要な場合に限り、安全性を確保できる方法で走行してください。指定および許可されている場所のみを走行してください。注意深く走行して、環境を破壊しないようにしてください。車両の能力を理解し、不具合が発生した場合には、そこから脱出しなければなりません。水深が深い場所を走行中は、絶対にエンジンを切らないでください。エンジンを切ると、エンジンの外気取り入れ口から水が吸い込まれます。エンストした場合は、エンジンをかけないでください。まず、水を吸い込んだかどうか確認してください。水溜りを走行する際に重要なことは、低速ギヤに入れてゆっくりと走行することです。シフト・レバーを「D（ドライブ）」に、トランスファ・ケースを「4WD LOW」位置に入れて、アクセルを軽く踏んで非常にゆっくりとした一定

速度(最大 5〜8km/h(3〜5mph))で走行します。停止せずに前進し続けます。加速して通過しようとしないでください。アクスル・ディファレンシャルの下端よりも水深が深い場所を走行した後は、車のすべてのフルードを点検して、水が混入していないことを確認します。

注意!

- 高速で走行した場合、または水深が深すぎる場所を走行した場合、アクスル、トランスミッション、トランスファ・ケース、エンジン、または車内に水が浸入することがあります。水は、エンジン、駆動系、またはその他の車両構成部品に回復不能な損傷を与えます。また、ブレーキに水や泥が付着するとブレーキのききが悪くなります。
- 水溜りの中を走行する場合、速度は 8km/h (5mph)以下にしてください。事前に水深を確認し、水溜りから上がったらすべてのフルード類を点検してください。水溜りでの走行では、新車限定保証の対象にならない損傷を受ける場合があります。

水溜りを走行する前に

水溜りに近づいたら、安全に通過することができるかどうかを判断する必要があります。必要に応じて、水の中を歩いたり、棒で水深を測ってください。水深、進入角度、水流、および水底の状態を確認する必要があります。濁った水や泥水の場合は、障害物が沈んでいないか確認してください。自然を破壊する可能性がないことを確認します。また、必要に応じて脱出できることを確認します。安全に通過するためには、水深、水流、および水底の状態を把握することが重要です。水底が柔らかい場合、車両が沈み込み、結果として水深が深くなります。水深を確認して、安全に通過できるかどうか判断する際には、このことも考慮してください。

水溜り、ため池、よどみなどでの走行

水溜り、ため池、よどみなどの水は、一般的に濁った水や泥水です。このような水の場合、通常、障害物が沈んでいるとともに、水深、進入角度、および水底の状態を正確に確認するのが困難です。濁った水や泥の池を走行する場合は、あらかじめけん引ストラップを取り付けます。これにより、迅速かつ容易に車両を脱出させることができます。安全に通過できることを確認できたら、低速ギヤに入れてゆっくりと走行します。

注意!

泥水により、ラジエータにごみなどが堆積して冷却装置の効率が低下することがあります。

水路、小川、浅瀬などの流水地帯での走行

流水地帯での走行は非常に危険なことがあります。水深が浅くても、流れの速い川では絶対に走行しないでください。水の流れが速いと、車両が簡単に下流に押し流されて、制御不能になります。水深が非常に浅い場合でも、速い流れによりタイヤの周囲の土が流されて、乗員および車両が危険にさらされます。流れが遅くても、水深が車両の最低地上高よりも深い場合は、けがや車両損傷の可能性が高くなります。水深が車両の最低地上高よりも深い流水は、絶対に走行しないでください。水深が、表面積の大きいボディに達するほどに深いと、流れが遅い場合でも車両は下流に押し流されて、制御不能になります。あらかじめ、流速、水深、進入角度、水底の状態、および障害物がないかを確認してから、少し上流に向かう角度で進入し、低速ギヤに入れてゆっくりと走行します。

警告!

流れが速く、水深が深い川は絶対に走行しないでください。車両が下流に押し流されて、制御不能になります。運転者と乗員が重傷を負ったり、おぼれる危険性があります。

オフロード走行後

オフロード走行は道路での走行に比べて車にかかる負担が大きくなります。オフロード走行の後は損傷がないか点検することをお勧めします。これにより車の異常を早期に発見することができ、必要なときにいつでも安全に運転することができます。

- アンダーボディをよく点検してください。タイヤ、ボディ構造、ステアリング、サスペンションおよび排気装置の破損を点検します。
- ラジエータに泥やごみなどが堆積していないか確認し、必要に応じて清掃してください。
- シャーシ、駆動系、ステアリングおよびサスペンションのファスナの締付け/取付け部が緩んでいないか確認します。緩んでいる場合は、サービス・マニュアルに規定されているトルクで締め直します。
- 草や枝が引っ掛かっていないか点検します。雑草などは火災を起こす危険性があります。草や枝に隠れて、フューエル・ライン、ブレーキ・ホース、アクスル・ピニオン・シール、プロペラ・シャフトの損傷がわからない場合もあります。
- 泥、砂、水など汚れた状態の道を長時間走行した後は、ラジエータ、ファン、ブレーキ・ロータ、ホイール、

ブレーキ・ライニング、アクスル・ヨークを直ちに点検して清掃してください。

警告!

ブレーキ関連部品に研磨作用のある物質が付着していると、異常な摩耗が生じて予期せぬ制動を招く恐れがあります。このため、衝突事故防止に必要なときに十分にブレーキがかからないこともあります。泥道などの悪路を走行した後はブレーキを点検し、必要に応じて清掃してください。

- 泥、ぬかるみ、または同様の条件の下で運転した後に異常な振動を感じたら、ホイールに異物が付着していないか確認してください。異物があるとホイールのバランスが崩れる恐れがあるので、除去してください。

マルチメディア

UCONNECT システム

Uconnect 5/5 NAV システム（12.3 インチ・ディスプレイ装備）の詳細は、Uconnect ラジオ取扱説明書を参照してください。

メモ：
Uconnect 画面の画像は例示にすぎず、車両のソフトウェアそのものを反映していない場合があります。

サイバーセキュリティ

適合性に応じて、車両は有線ネットワークまたはワイヤレス・ネットワークから情報を送受信できるようになります。この情報の活用により、車両のシステムおよび機能の正常な動作が可能になります。

車両システムやワイヤレス通信への不正アクセスの危険を低減するために、この車両に特定のセキュリティ機能が装備されていることがあります。車両ソフトウェア技術は、刻々と進化し続けているため、FCAIO はサプライヤと協同で評価を実施し、必要に応じて適切な処置を講じています。今までどおり、異常な車両動作を感じた場合、すぐに正規ディーラーまたは ⇨ にお問い合わせください。

最新バージョンの車両ソフトウェア（Uconnect ソフトウェアなど）がインストールされていても、お客様の車両システムへの不正アクセスの危険性は依然として存在します。

警告!

- 信頼できるメディア機器／コンポーネントのみを車両に挿入してください。出所が不明なメディアには悪質なソフトウェアが含まれる場合があり、車両にインストールすると、車両システムが侵害される可能性が高まります。
- 今までどおり、異常な車両動作を感じた場合、すぐに正規ディーラーにお問い合わせください。

UCONNECT の設定

Uconnect システムでは、インストルメント・パネルの中央にあるタッチスクリーンのボタンとフェイスプレートのボタンを組み合わせて使用します。これらのボタンを使用して、ユーザー選択機能にアクセスして変更できます機能の多くは車両によって異なることがあります。

フェイスプレートのボタンは、インストルメント・パネルの中央の Uconnect システムの下または横（あるいはその両方）にあります。さらに、「SCROLL/ENTER（スクロール/エンター）」コントロール・ノブがあります。コントロール・ノブを回してメニューをスクロールし、設定を変更します。コントロール・ノブの中央を 1 回以上押して設定を選択または変更できます。

Uconnect システムには、フェイスプレートに「SCREEN OFF（画面オフ）」と「MUTE（ミュート）」ボタンを備えているものもあります。

フェイスプレートの「SCREEN OFF（画面オフ）」ボタンを押すと、Uconnect 画面がオフになります。ボタンを再度押すか、画面をタップして画面をオンにします。

戻る矢印ボタンを押すと、Uconnect システムのメニューまたは特定のオプションを終了できます。

ユーザー選択機能



Uconnect 5 NAV（12.3 インチ・ディスプレイ・タッチスクリーンとフェイスプレート・ボタン装備）

1 – タッチスクリーンのボタン
2 – フェイスプレートのボタン

「Vehicle（車両）」ボタンを押してから、タッチスクリーン上部の「Settings（設定）」タブを押します。このメニューでは、Uconnect システムを使用して、利用可能なすべてのユーザー選択機能にアクセスできます。

メモ：
- 車両オプションによって、機能設定が異なることがあります。
- すべての設定は、イグニッションを「ON/RUN（オン／走行）」位置にして変更してください。

選択をする際は、タッチスクリーンのボタンを押して、希望のメニューに入ってください。希望のメニューにアクセスしたら、目的の設定オプションを押し続け、その設定の横にチェックマークが表示されて設定が選択されたことが示されたら放します。設定が完了したら、「Vehicle（車両）」ボタンを押して元の画面に戻ります。画面右側の上矢印または下矢印ボタンを押して、使用可能な設定を上下にスクロールできます。

スクリーン表示

タッチスクリーンの「Display（ディスプレイ）」ボタンを押すと、タッチスクリーンのテーマ（タイプ別装備）、明るさ、色合いに関連するオプションが表示されます。利用可能な設定は以下のとおりです。

メモ：
車両オプションによって、機能設定が異なることがあります。

設定名	説明
Language（言語）	この設定では、Uconnect システムおよびインストルメント・パネル・ディスプレイの言語を変更します。設定可能な言語は、Português Brasileiro（ブラジル・ポルトガル語）、日本語、Deutsch（ドイツ語）、English（英語）、Español（スペイン語）、Français（フランス語）、Italiano（イタリア語）、Nederlands（オランダ語）、Polski（ポーランド語）、Türk（トルコ語）、Русски（ロシア語）、Arabic（アラビア語）です。
Display Mode（表示モード）	この設定では、明るさを手動で設定するか、システムが自動的に設定するかを設定します。「Auto（自動）」設定では、ディスプレイの明るさが自動的に調整されます。「Manual（手動）」設定では、ディスプレイの明るさを手動で調整することができます。
Units（単位）	この設定では、「速度」（km/h または MPH）、「距離」（km または mi）、「燃費」（MPG [US]、MPG[UK]、L/100km、または km/L）、「圧力」（psi、kPa、または bar）、「温度」（°C または° F）、および「トルク」（Nm または lb-ft）の測定単位を個別に変更できます。
Touchscreen Beep（タッチパネル操作音）	この設定では、タッチスクリーンのビープ音のオン／オフを行うことができます。

設定名	説明
メイン・カテゴリ・バー・ラベルの表示	この設定では、メイン・カテゴリ・バー・ラベルの表示／非表示を選択することができます。
Display Brightness Nighttime(夜間のディスプレイの明るさ)	表示モードが「マニュアル」に設定されている場合にのみ使用できます。この設定を使用すると、「Brightness Nighttime（夜間の明るさ）」を調節できます。選択可能なオプションは 1 ～ 10 です。
Display Brightness Daytime(日中のディスプレイの明るさ)	表示モードが「マニュアル」に設定されている場合にのみ使用できます。この設定を使用すると、「Brightness Daytime（日中の明るさ）」を調節できます。選択可能なオプションは 1 ～ 10 です。
Cluster Options（クラスターオプション）	この設定により、ユーザは、インストルメント・パネル・ディスプレイのカスタマイズ可能な各領域に表示するコンテンツを選択できます。
Warning Cluster Buzzer Volume（警告クラスターブザー音量）	この設定により、クラスター警告ブザーの音量を調整できます。設定可能なオプションは、「Low（低）」、「Med（中）」、「High（高）」です。
Navigation Turn-by-Turn Displayed In Cluster（インストルメント・パネルにターン・バイ・ターン・ナビゲーションを表示）	この設定では、インストルメント・パネル・ディスプレイにナビゲーションのメッセージが表示されます。
Phone Pop-Ups Displayed In Cluster（インストルメント・パネルでの電話ポップアップの表示）	この設定では、インストルメント・パネル・ディスプレイにスマートフォンの通知が表示されます。

My Profile（マイ・プロフィール）

タッチスクリーンの「My Profile（マイ・プロフィール）」ボタンを押すと、車両のプロファイルに関連するオプションが表示されます。

メモ：
車両オプションによって、機能設定が異なることがあります。

設定名	説明
Language（言語）	この設定では、Uconnect システムおよびインストルメント・パネル・ディスプレイの言語を変更します。設定可能な言語は、Português Brasileiro（ブラジル・ポルトガル語）、日本語、Deutsch（ドイツ語）、English（英語）、Español（スペイン語）、Français（フランス語）、Italiano（イタリア語）、Nederlands（オランダ語）、Polski（ポーランド語）、Türk（トルコ語）、Русски（ロシア語）、Arabic（アラビア語）です。
Display Mode（表示モード）	この設定では、オーディオの表示を「Auto（自動）」または「Manual（手動）」に設定します。「Manual（手動）」にすると、オーディオ・ディスプレイの詳細なカスタマイズが可能です。
Display Brightness Nighttime(夜間のディスプレイの明るさ)	この設定を使用すると、「Brightness Nighttime（夜間の明るさ）」を調節できます。選択可能なオプションは 1 ～ 10 です。
Display Brightness Daytime(日中のディスプレイの明るさ)	この設定を使用すると、「Brightness Daytime（日中の明るさ）」を調節できます。選択可能なオプションは 1 ～ 10 です。
Units（単位）	この設定では、「速度」（km/h または MPH）、「距離」（km または mi）、「燃費」（MPG［US］、MPG［UK］、L/100km、または km/L）、「圧力」（psi、kPa、または bar）、「温度」（°C または° F）、および「トルク」（Nm または lb-ft）の測定単位を個別に変更できます。
Touchscreen Beep（タッチパネル操作音）	この設定では、タッチスクリーンのビープ音のオン／オフを行うことができます。
メイン・カテゴリ・バー・ラベルの表示	この設定では、メイン・カテゴリ・バー・ラベルの表示／非表示を選択することができます。
Time Format（時刻表示形式）	この設定では、時刻の表示形式（AM/PM）を設定します。この設定を使用するには、「Sync Time With GPS（GPS との時計同期）」がオフになっている必要があります。「12 hrs（12 時間）」設定では、時刻は 12 時間形式に設定されます。「24 hrs（24 時間）」設定では、時刻は 24 時間形式に設定されます。

設定名	説明
音声オプション	この設定では、オーディオ用の音声を「Male（男性）」または「Female（女性）」に変更できます。
起動単語	この設定では、システムの「Wake Up（起動）」という言葉を設定できます。利用可能なオプションは、「Off（オフ）」、「Hey, Uconnect（ねえ、Uconnect）」、「Hey, Jeep（ねえ、Jeep）」です。
音声割り込み	この設定では、音声の割り込みをオン／オフすることができます。
Show Command List（コマンド・リストの表示）	この設定では、コマンド・リストの表示／非表示を選択することができます。
Navigation Settings（ナビゲーション設定）	この設定は、ナビゲーション設定のリストへリダイレクトされます。詳細は、Uconnect ラジオの取扱説明書を参照してください。
Auto-On Driver Heated/Ventilated Seat & Heated Steering Wheel（運転席のヒータ／ベンチレーションおよびステアリング・ホイールのヒータの自動オン）	この設定では、車両のリモート始動時またはイグニッション始動時に、車両のコンフォート・システムとシート・ヒータまたはステアリング・ホイール・ヒータが作動します。「Off（オフ）」設定では、コンフォート・システムは作動しません。「Remote Start（リモート始動）」設定では、リモート始動を使用している場合のみ、コンフォート・システムが作動します。「All Start（すべて始動）」設定では、車両始動時には常時、コンフォート・システムが作動します。
Radio Off Delay（ラジオの停止遅延）	この設定により、エンジンをオフにした後に特定の電装品がそのまま動作するようになります。いずれかのドアを開けると、その電装品の動作は停止します。利用可能な設定値は「0 min（0 分）」と「20 min（20 分）」です。
Radio Off With Door（ドアに連動してラジオをオフにする）	この設定では、どれかドアが開かれたときにオーディオを停止させるかどうか決定できます。
オーディオ設定	この設定では、オーディオ設定を含んでいるサブメニューが開きます。オーディオ設定の詳細については、Uconnect ラジオ取扱説明書を参照してください。

設定名	説明
アプリ・ドロワお気に入り追加ポップアップ	この設定では、「On／Off（オン／オフ）」オプションでアプリ・ドロワ・ポップアップのお気に入り追加を行うことができます。
アプリ・ドロワお気に入り解除ポップアップ	この設定では、「On／Off（オン／オフ）」オプションでアプリ・ドロワ・ポップアップのお気に入り解除を行うことができます。
新着テキスト・メッセージポップアップ	この設定では、新着テキスト・メッセージのポップアップ通知を設定することができます。設定オプションは「On（オン）」と「Off（オフ）」です。
応答できなかった通話	この設定では、応答できなかった通話のポップアップ通知を設定することができます。設定オプションは「On（オン）」と「Off（オフ）」です。
Navigation Pop-Up（ナビゲーション・ポップアップ）	この設定では、ナビゲーションに関するポップアップ通知を設定することができます。設定オプションは「On（オン）」と「Off（オフ）」です。
Reset App Drawer To Default Order（アプリ・ドロワの工場出荷時レイアウトへのリセット）	この設定では、アプリ・ドロワを工場出荷時のレイアウトへリセットすることができます。
Restore Settings to Default（設定を工場出荷時設定に戻す）	この機能を選択すると、これまで変更した設定が工場出荷時の設定に戻ります。
More Profile Options（詳細なプロファイル・オプション）	この設定では、詳細なプロファイル・オプションにアクセスすることができます。
Warning Cluster Buzzer Volume（警告クラスターブザー音量）	この設定により、クラスター警告ブザーの音量を調整できます。設定可能なオプションは、「Low（低）」、「Med（中）」、「High（高）」です。
Cluster Options（クラスターオプション）	この設定では、Uconnect タッチスクリーンを使用してクラスターのオプションが表示されます。オプションには、「Trip B On Cluster（クラスターのトリップ B）」、「クラスターのカスタムエリア（Custom Areas on Cluster）」、および「ウィジェットリスト（Widget List）」が含まれます。

設定名	説明
Auto-On Comfort（オート・オン・コンフォート）	この設定では、車両のリモート始動時またはイグニッション始動時に、車両のコンフォート・システムとシート・ヒータまたはステアリング・ホイール・ヒータを作動させます。「Off（オフ）」設定では、コンフォート・システムは作動しません。「Remote Start（リモート始動）」設定では、リモート始動を使用している場合のみ、コンフォート・システムが作動します。「All Start（すべて始動）」設定では、車両始動時には常時、コンフォート・システムが作動します。
Navigation Turn-by-Turn Displayed In Cluster（インストルメント・パネルにターン・バイ・ターン・ナビゲーションを表示）	この設定では、インストルメント・パネル・ディスプレイにナビゲーションのメッセージが表示されます。
Phone Pop-Ups Displayed In Cluster（インストルメント・パネルでの電話ポップアップの表示）	この設定では、インストルメント・パネル・ディスプレイにスマートフォンの通知が表示されます。

Safety/Driving Assistance（セーフティ／ド ライビング・アシスト）

タッチスクリーンで「Safety/Driving Assistance（セーフティ／ドライビング・アシスト）」ボタンを押すと、車両の安全設定に関連するオプションが表示されます。これらのオプションは、車両に装備されている機能によって異なります。設定は、リスト形式で表示される場合と、画面のサブフォルダ内に表示される場合とがあります。サブフォルダにアクセスするには、希望のフォルダを選択すると、画面にその機能に関連する利用可能なオプションが表示されます。

メモ：
車両オプションによって、機能設定が異なることがあります。

設定名	説明
Forward Collision Warning（前方衝突警告）-「Automatic Emergency Braking（自動急ブレーキ）」サブメニュー内	この設定では、「Forward Collision Warning (FCW)（前方衝突警告）」システムのオン／オフを行います。「Off（オフ）」に設定すると、FCW システムが停止します。「Warning + Active Braking（警告+自動ブレーキ）」の設定では、衝突を検知するとチャイムが鳴り、規定のブレーキ圧がかかります。

設定名	説明
Forward Collision Warning Sensitivity（前方衝突警告感度）- 「Automatic Emergency Braking（自動急ブレーキ）」サブメニュー内	この設定では、前方衝突警告の鳴動する距離を変更します。「Medium（中）」の設定では、物体が視野に入り、衝突の可能性があることを検知すると FCW システムが信号を送出します。「Near（近）」の設定では、物体が車両に接近中であると FCW システムが信号を送出します。「Far（遠）」設定では、物体が車両から離れた距離にある場合に FCW システムが信号を送出します。
ParkSense	この設定では、物体の接近を検知した場合の ParkSense 警告の種類を変更し、音声チャイムと視覚表示の両方を行います。
Front ParkSense Volume（フロント ParkSense の音量）	この設定では、フロント ParkSense システムの音量を調整します。設定は、「Low（低）」、「Medium（中）」、「High（高）」の中から選択します。
Rear ParkSense Volume（リヤ ParkSense の音量）	この設定では、リヤ ParkSense システムの音量を調整します。設定は、「Low（低）」、「Medium（中）」、「High（高）」の中から選択します。
Rear ParkSense Braking Assist（リヤ ParkSense ブレーキ補助）	この設定により、リヤ ParkSense システムが物体との衝突を検知するとブレーキ・アシストが行われます。
ブラインド・スポット・アラート	この設定では、車両の死角において物体が検知された場合の警告の種類を変更します。「Off（オフ）」設定では、ブラインド・スポット・アラートがオフになります。「Lights（ライト）」設定では、ドア・ミラーのブラインド スポット・アラート・ライトが点灯します。「Lights & Chime（ライトおよびチャイム）」設定では、ドア・ミラーのライトとチャイムの両方が作動します。
New Speed Zone Indication（新速度域指示）	この設定では、特定の領域での速度制限の変化をシステムが警告するかどうかを設定できます。設定可能なオプションは、「Off（オフ）」、「Visual（視覚）」、「Visual + Chime（視覚とチャイム）」です。
Drowsy Driver Alert（運転者居眠り警告）	この設定では、運転者の運転傾向を監視し、運転者が眠気を感じている可能性を示す変化があれば、警告を発します。設定可能なオプションは「On（オン）」と「Off（オフ）」です。

設定名	説明
Highway Assist Steering Wheel Vibration（ハイウェイ・アシスト・ステアリング・ホイール振動）	この設定で Highway Assist Steering Wheel Vibration（ハイウェイ・アシスト・ステアリング・ホイール振動）をカスタマイズします。設定可能なオプションは「On（オン）」と「Off（オフ）」です。
Tire Fill Assist（タイヤ充填アシスト）	この設定では、タイヤ充填アシストのオン／オフを設定します。
ヒル・スタート・アシスト	この設定では、ヒル・スタート・アシストのオン／オフを設定します。
Front Passenger Airbag（助手席エアバッグ）	この設定では、助手席エアバッグを有効または無効にすることができます。

Clock & Date（時計と日付）

タッチスクリーンの「Clock & Date（時計と日付）」ボタンを押すと、車両の内部時計に関連するオプションが表示されます。

メモ：
車両オプションによって、機能設定が異なることがあります。

設定名	説明
Sync Time With GPS（GPS との時計同期）	この設定では、システム内の GPS 受信機に時刻を同期させます。システムは、GPS の位置情報により時刻を制御します。
Set Time（時間の設定）	この設定では、時と分を合わせることができます。この設定を使用するには、「Sync Time With GPS（GPS との時計同期）」がオフになっている必要があります。「+」設定では時と分が増加します。「-」設定では時と分が減少します。
Time Format（時刻表示形式）	この設定では、時刻の表示形式（AM/PM）を設定します。この設定を使用するには、「Sync Time With GPS（GPS との時計同期）」がオフになっている必要があります。「12 hrs（12 時間）」設定では、時刻は 12 時間形式に設定されます。「24 hrs（24 時間）」設定では、時刻は 24 時間形式に設定されます。時計の調整もできます。

設定名	説明
Set Date（日付の設定）	この設定では、日付を設定できます。
Show Time in Status Bar（ステータス・バーに時計を表示）	この設定では、ラジオのステータス・バーに時刻を表示します。
Show Time and Date During Screen Off（スクリーン・オフのときに時刻と日付を表示）	この設定では、スクリーンがオフのときに時刻と日付を表示できます。設定可能なオプションは「On（オン）」と「Off（オフ）」です。

Phone/Bluetooth®

タッチスクリーンの「Phone/Bluetooth®（電話／Bluetooth®）」ボタンを押すと、外部オーディオ機器またはスマートフォンからの Bluetooth®の接続性に関連するオプションが表示されます。このメニューからペアリングされたオーディオ機器やスマートフォンのリストにアクセスすることができます。

メモ：
車両オプションによって、機能設定が異なることがあります。

設定名	説明
デバイス・マネージャ	この設定では、「Device Manager（デバイス・マネージャ）」メイン画面が開きます。
Do Not Disturb All（応答拒否）	この設定では、「Do Not Disturb All（応答拒否）」設定メニューが開きます。設定可能なオプションは「On（オン）」と「Off（オフ）」です。
Enable Two Active Phones（電話機 2 台の有効化）	この設定では、車両で 2 台の電話機を有効または無効にします。設定オプションは「On（オン）」と「Off（オフ）」です。
Phone Pop-Ups Displayed In Cluster（インストルメント・パネルでの電話ポップアップの表示）	この設定では、インストルメント・パネル・ディスプレイに表示される電話メッセージのポップアップが有効になります。

Voice（音声）

タッチスクリーンの「Voice（音声）」ボタンを押すと、車両の音声認識機能に関連するオプションが表示されます。

メモ：
車両オプションによって、機能設定が異なることがあります。

設定名	説明
音声オプション	この設定では、システムの音声を「Male（男性）」または「Female（女性）」のどちらかに変更できます。
起動単語	この設定では、システムの「Wake Up（起動）」という言葉を設定できます。利用可能なオプションは、「Off（オフ）」、「Hey, Uconnect（ねえ、Uconnect）」、「Hey, Jeep（ねえ、Jeep）」です。
音声割り込み	この設定では、システムが話し終える前に音声応答に答えられるようにします。設定可能なオプションは「On（オン）」と「Off（オフ）」です。
Show Command List（コマンド・リストの表示）	この設定では、コマンド・リストをオンまたはオフにできます。「Always（常時）」の設定では、常時、コマンド・リストが表示されます。「With Help（ヘルプ付き）」の設定では、コマンド・リストが表示され、コマンドの機能についての簡単な説明が表示されます。「Never（なし）」の設定では、コマンド・リストがオフになります。

ナビゲーション

タッチスクリーンの「Navigation（ナビゲーション）」ボタンを押すと、車両の内蔵ナビゲーション・システムに関連するオプションが表示されます。この設定では、マップ上で表示するアイコン、「到着時間の計算」、ルートの種類を変更することができます。

ナビゲーションおよび設定の詳細については、Uconnect ラジオ取扱説明書を参照してください。

カメラ

タッチスクリーンの「Camera（カメラ）」ボタンを押すと、車両のカメラ機能に関連するオプションが表示されます。

メモ：
車両オプションによって、機能設定が異なることがあります。

設定名	説明
ParkView Backup Camera Delay（ParkView 後方カメラ・ディレイ）	この設定を行うと、「R（リバース）」から他のギヤにシフトしたときに、ParkView バックアップ・カメラが遅延して停止するようになります。
ParkView Backup Camera Active Guidelines（ParkView リヤ・バックアップ・カメラ動的ガイドライン）	この設定では、ParkView バックアップ・カメラ・ガイドラインのオン／オフを設定します。
ParkView Backup Camera Fixed Guidelines（ParkView リヤ・バックアップ・カメラ固定ガイドライン）	この設定では、ParkView バックアップ・カメラ固定ガイドラインのオン／オフを設定します。
前方用カメラのガイドライン	この設定では、前方用カメラ・ガイドラインのオン／オフを設定します。

ミラーおよびワイパ

タッチスクリーンの「Mirrors & Wipers（ミラーおよびワイパ）」ボタンを押すと、ミラーおよびワイパに関連するオプションが表示されます。

メモ：
車両オプションによって、機能設定が異なることがあります。

設定名	説明
ワイパ作動によるヘッドライトの点灯	この設定では、ワイパが作動したときにヘッドライトを点灯させることができます。

Lights（警告灯）

タッチスクリーンの「Lights（ライト）」ボタンを押すと、車両の車外灯および車内灯に関連するオプションが表示されます。

メモ：

- 「Daytime Running Lights（デイタイム・ランニング・ライト）」機能を選択すると、デイタイム・ランニング・ライトをオンまたはオフにできます。この機能は、車を購入した国の法規で認められている場合のみ使用できます。
- 車両オプションによって、機能設定が異なることがあります。

設定名	説明
Headlight Off Delay（ヘッドライトの消灯遅延）	この設定では、車両のエンジンを切った後、ヘッドライトが消灯するまでの時間を設定できます。設定は、「0 秒」、「30 秒」、「60 秒」、「90 秒」のいずれかを選択します。
Illuminated Approach（イルミネーション・アプローチ）	この設定では、車両のロック解除後、ヘッドライトが消灯するまでの時間を設定します。設定は、「0 秒」、「30 秒」、「60 秒」、「90 秒」のいずれかを選択します。
ワイパ作動によるヘッドライトの点灯	この設定では、ワイパが作動したときにヘッドライトを点灯させることができます。
Auto Dim High Beams（オート・ロー／ハイ・ビーム）	この設定では、Auto Dim High Beams（オート・ロー／ハイ・ビーム）のオン／オフを行うことができます。
デイタイム・ランニング・ライト	この設定では、デイタイム・ランニング・ライトのオン／オフを行います。
Flash Lights With Lock（施錠時に方向指示灯点滅）	この設定では、キー・フォブのロック・ボタンを押したときのライトの点滅をオンまたはオフにすることができます。
Interior Ambient Lights（車内のアンビエント・ライト）	この設定では、車内のアンビエント・ライトをオンまたはオフにできます。

Doors & Locks（ドアとロック）

タッチスクリーンの「Doors & Locks（ドアおよびロック）」ボタンを押すと、車両のドアのロック／ロック解除に関連するオプションが表示されます。

メモ：
車両オプションによって、機能設定が異なることがあります。

設定名	説明
Auto Unlock On Exit（降車時に自動でドア解錠）	この設定では、ドアのいずれかが内側から開かれたときにドアのロック解除が行われます。
Flash Lights With Lock（施錠時に方向指示灯点滅）	この設定では、キー・フォブのロック・ボタンを押したときのライトの点滅をオンまたはオフにすることができます。
Sound Horn With Lock（施錠時にホーンを鳴らす）	この設定では、キー・フォブの「Lock（ロック）」ボタンを押したときにホーンを鳴らすことができます。「Off（オフ）」の設定では、「Lock（ロック）」ボタンを押してもホーンは鳴りません。「1st Press（1 回押し）」の設定では、「Lock（ロック）」ボタンを 1 回押すと、ホーンが鳴ります。「2nd Press（2 回押し）」の設定では、「Lock（ロック）」ボタンを 2 回押すと、ホーンが鳴ります。
Sound Horn With Remote Start（リモート始動でホーンを鳴らす）	この設定では、キー・フォブでリモート始動を起動したときにホーンを鳴らすことができます。
1st Press Of Key Fob Unlocks（1 回目のキー・フォブ操作で解錠）	この設定では、すべてのドアのロックを解除するのに必要なキー・フォブのロック解除ボタンを押す回数を変更します。「Driver Doo（運転席ドア）」の設定では、「Unlock（ロック解除）」ボタンを 1 回押した場合、運転席ドアのロックのみが解除されます。「All Doors（すべてのドア）」の設定では、ロック解除ボタンを 1 回押すだけで、すべてのドアのロックが解除されます。
パッシブ・エントリ	この設定では、「Passive Entry（パッシブ・エントリ）」機能（Keyless Enter-N-Go™）のオン／オフを設定します。

Seats & Comfort（シートおよびコンフォート）

タッチスクリーンの「Seats & Comfort（シートおよびコンフォート）」ボタンを押すと、リモート始動作動時や車両始動時の車両のコンフォート・システムに関連するオプションが表示されます。

メモ：
車両オプションによって、機能設定が異なることがあります。

設定名	説明
Auto-On Driver Heated Seat & Steering Wheel（シート・ヒータおよびステアリング・ホイール・ヒータの自動オン）	この設定では、車両のリモート始動時またはイグニッション始動時に、車両のコンフォート・システムとシート・ヒータまたはステアリング・ホイール・ヒータが作動します。「Off（オフ）」設定では、コンフォート・システムは作動しません。「Remote Start（リモート始動）」設定では、リモート始動を使用している場合のみ、コンフォート・システムが作動します。「All Start（すべて始動）」設定では、車両始動時には常時、コンフォート・システムが作動します。

AUX Switches（補助スイッチ）

タッチスクリーンの「AUX」スイッチ・ボタンを押すと、車両の 4 つの「AUX」スイッチに関連するオプションが表示されます。

メモ：
車両オプションによって、機能設定が異なることがあります。

設定名	説明
AUX 1-4（補助 1～4）	この設定では、車両の 4 つの「AUX」スイッチのタイプと電源を選択します。以下の 2 つのタイプがあります。「Latching（ラッチ）」および「Momentary（一時的）」。「AUX」スイッチの電源は、「Battery（バッテリ）」または「Ignition（イグニッション）」のいずれかを使用するように設定することができます。タイプと電源の設定に加え、前回「AUX」スイッチをセットしたときの状態を呼び出すような設定も可能です。「Recalled Last State（最後の状態の再呼び出し）」設定は、「On」または「Off」のいずれかに設定します。スイッチ・タイプが「Latching（ラッチ）」に設定され、電源が「Ignition（イグニッション）」に設定されている場合のみ、最後の状態に維持されます。

Key Off Options（キー・オフ時のオプション）

タッチスクリーンの「Key Off Options（キー・オフ時のオプション）」ボタンを押すと、次の設定を利用できます。

メモ：
車両オプションによって、機能設定が異なることがあります。

設定名	説明
Doors On Key Off Power Delay（遅延パワー・アクセサリのドア・オン）	この設定により、エンジンをオンにした後に特定の電装品がそのまま動作するようになります。設定は、「0 秒」、「45 秒」、「5 分」、「10 分」のいずれかを選択します。
Doors Off Key Off Power Delay（遅延パワー・アクセサリのドア・オフ）	この設定により、エンジンをオフにした後に特定の電装品がそのまま動作するようになります。設定は、「0 秒」、「45 秒」、「5 分」、「10 分」のいずれかを選択します。
Headlight Off Delay（ヘッドライトの消灯遅延）	この設定では、車両のエンジンを切った後、ヘッドライトが消灯するまでの時間を設定できます。設定は、「0 秒」、「30 秒」、「60 秒」、「90 秒」のいずれかを選択します。

Audio（オーディオ）

タッチスクリーンの「Audio（オーディオ）」ボタンを押すと、車両のサウンド・システムに関連するオプションが表示されます。この設定を使用すると、車両内の音声の「Balance/Fade（バランス／フェード）」、「BASS（低音）」または「TREBLE（高音）」の調整、オーディオ装置またはスマートフォンの自動再生設定を変更することができます。

メモ：
車両オプションによって、機能設定が異なることがあります。

設定名	説明
Balance/Fade（バランス／フェード）	この設定では、車両のフロント／リヤおよび左右に配置されている特定のスピーカーからの音量を調整します。「Speaker（スピーカー）」アイコンを移動させると、バランス／フェードを調整することができます。
Equalizer（イコライザ）	この設定では、オーディオの「BASS（低音）」、「Mid（中音）」、または「TREBLE（高音）」を調整します。
Speed Adjusted Volume（速度による音量調整）	この設定では、車速が上がったときのオーディオ音量を調整します。設定を上げると、車速が上がったときの音量増加が大きくなります。利用可能な設定値は、「Off」、「1」、「2」、「3」です。
AUX Volume Offset（AUX 音量補正）	この設定では、「AUX」ポートに接続した機器の音量を調整します。利用可能な設定値は、「+」と「-」です。
Auto Play（自動再生）	この設定では、接続した機器の音声が自動的に再生されます。
Surround Sound（サラウンド・サウンド）	この設定では、「Surround Sound（サラウンド・サウンド）」システムのオン／オフを行います。
Loudness（ラウドネス）	この設定では、小音量時の音質が向上します。

Notifications（通知）

タッチスクリーンの「Notifications（通知）」ボタンを押すと、システムの通知機能に関連するオプションが表示されます。

メモ：
車両オプションによって、機能設定が異なることがあります。

設定名	説明
アプリ・ドロワのお気に入り設定ポップアップ	この設定では、「App Favorited（お気に入りに追加したアプリ）」のポップアップのオン／オフを行うことができます。
アプリ・ドロワのお気に入り解除ポップアップ	この設定では、「App Unfavorited（お気に入りを解除したアプリ）」のポップアップのオン／オフを行うことができます。
新しいテキスト・メッセージのポップアップ	この設定では、接続したすべての電話の新着テキスト・メッセージについて、ポップアップの受信／保存のオン／オフを行うことができます。
応答できなかった通話	この設定では、接続したすべての電話の応答できなかった通話について、ポップアップの受信／保存のオン／オフを行うことができます。
ナビゲーションのポップアップ	この設定では、ナビゲーションのポップアップのオン／オフを行うことができます。

リセット

タッチスクリーンで「Reset（リセット）」ボタンを押すと、Uconnect システムの既定の設定へのリセットに関するオプションが表示されます。この設定により、個人データの消去や他のメニューにより選択した設定のリセットを行うことができます。

メモ：
車両オプションによって、機能設定が異なることがあります。

設定名	説明
Reset App Drawer To Default Order（アプリ・ドロワの工場出荷時レイアウトへのリセット）	この設定では、アプリ・ドロワを工場出荷時のレイアウトへリセットすることができます。
Restore Apps（アプリの復元）	この設定では、インストールされているすべてのアプリが復元されます。アプリの使用またはインストール中に問題があった場合に、この機能は使用します。
Restore Settings to Default（設定を工場出荷時設定に戻す）	この機能を選択すると、これまで変更した設定が工場出荷時の設定に戻ります。
Clear Personal Data（個人データの消去）	この設定では、ポップアップが表示され、Bluetooth®機器やプリセットをなど、すべての個人データがシステムから消去されます。

Radio Setup（ラジオの設定）

タッチスクリーンで「Radio Setup（ラジオの設定）」ボタンを押すと、ラジオの地域設定に関連する選択可能なオプションが表示されます。

メモ：
車両オプションによって、機能設定が異なることがあります。

設定名	説明
Regional（地域）	この設定により、地域に応じて放送局が自動的に切り替わります。
Traffic Announcement（道路交通情報）	この設定では、ラジオまたはメディア・デバイスを一時中止してトラフィック・ブリテンを出します。
Alternative Frequency（代替周波数）	この設定では、最も強い信号を維持するために、周波数を自動的に変更します。

System Information（システム情報）

タッチスクリーンで「System Information（システム情報）」ボタンを押すと、ラジオ・システムの情報が表示されます。

メモ：
車両オプションによって、機能設定が異なることがあります。

設定名	説明
Software Licenses（ソフトウェア・ライセンス）	これにより、ソフトウェアのライセンス情報画面が表示されます。
Version Information（バージョン情報）	この機能を選択すると、「Version Information（バージョン情報）」画面が表示され、ラジオのバージョンに関する情報が表示されます。
License Information（ライセンス情報）	この機能を選択すると、「License Information（ライセンス情報）」画面が表示され、ラジオのライセンス情報が表示されます。

ステアリング・ホイール・オーディオ・コントロール – タイプ別装備

Uconnect システムのリモート・スイッチは、ステアリング・ホイールの背面の 3 時と 9 時の位置にあります。



Uconnect システムのリモート・スイッチ

右側のロッカ・タイプ・スイッチの中央にはプッシュ・ボタンがあり、システムの音量とモードを制御できます。ロッカ・スイッチの上側を押すと音量が上がり、ロッカ・スイッチの下側を押すと音量が下がります。

右側コントロールの中央のボタンを押すと、利用可能なモードがプリセットに対応している場合、ラジオ・スイッチでさまざまなプリセット間を切り替えることができます。欧州市場では、右側のコントロールの中央のボタンを押すとラジオの音がミュート（消音）されます。

左側のロッカ・タイプ・スイッチの中央にはプッシュ・ボタンがあります。左側スイッチの機能は、そのときのモードによって変わります。

以下に左側スイッチのモードごとの動作を説明します。

ラジオの操作

スイッチの上側を押すと、次に受信可能な周波数の高い放送局を探し、スイッチの下側を押すと、次に受信可能な周波数の低い放送局を探します。

左コントロールの中央のボタンを押すと、ラジオ・スイッチが利用可能なさまざまなモード（AM/FM またはメディアなど）に切り替わります。

メディア・モード

スイッチの上側を 1 回押すと、選択したメディア（AUX/USB/Bluetooth®）の次のトラックを再生します。スイッチの下側を 1 回押すと、現在の曲の最初に戻るか、または現在の曲が始まってから 8 秒以内であれば前の曲の最初に戻ります。

ラジオ操作と携帯電話

特定の状況では、車両で携帯電話を使用すると、ラジオの受信が不規則になったり、ノイズが発生することがあります。これは、携帯電話の車内での位置を変えると、軽減されたり、解消される場合があります。この状態がラジオに支障をきたすことはありません。携帯電話の位置を変えても、ラジオの音が十分に改善されない場合、Uconnect システムを使用せずに携帯電話を使用する際には、ラジオの音量を下げるか、または電源を切ることをお勧めします。

「OFF ROAD PAGES（オフ・ロード・ページ）」– タイプ別装備

車両に「Off Road Pages（オフ・ロード・ページ）」が装備されている場合は、オフ・ロードの状況で走行しているときに車両の状態が表示されます。このページには、駆動系の状態、トランスファ・ケース、クーラント／オイル・ゲージ、車両ピッチ／ロール、トレイルカム・システムへのアクセスなどの情報が表示されます。

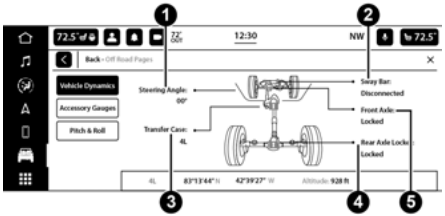
「Off Road Pages（オフ・ロード・ページ）」にアクセスするには、「Dashboard（ダッシュボード）」メニューの「Off Road（オフロード）」ボタンを押します。

「VEHICLE DYNAMICS（車両のダイナミックス）」

「Vehicle Dynamics（車両のダイナミックス）」ページには、車両のダイナミクスに関する情報が表示されます。

以下の情報が表示されます。

- ステアリングの角度（度）
- トランスファ・ケースの状態
- リヤ・アクスルの状態
- フロント・アクスルの状態
- スウェイ・バーの状態

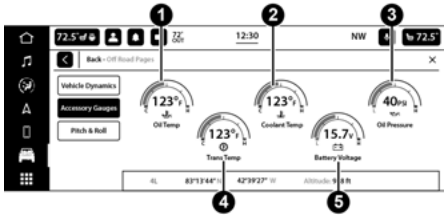


車両ダイナミクス・メニュー 2WD/4WD

1 – ステアリングの角度
2 - スウエイ・バー
3 - トランスファ・ケースの状態
4 - リヤ・アクスル・ロッカーの状態
5 – フロント・アクスル・ロッカーの状態

「Accessory Gauge（アクセサリ・ゲージ）」

「Accessory Gauges（アクセサリ・ゲージ）」ページには、車両の「Coolant Temperature（クーラント温度）」、「Oil Temperature（オイル温度）」、「Oil Pressure（油圧）」（ガソリン車のみ）、「Transmission Temperature（トランスミッション温度）」、（オートマチック・トランスミッションのみ）、「Battery Voltage（バッテリ電圧）」の現在のステータスが表示されます。

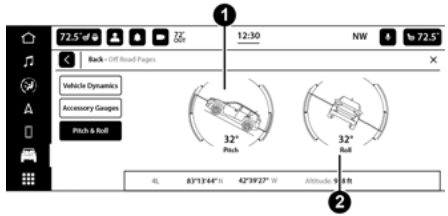


Accessory Gauges（アクセサリ・ゲージ）メニュー 2WD/4WD

1 – Oil Temperature（オイル温度）
2 – Coolant Temperature（クーラント温度）
3 – 「Oil Pressure（油圧）」（ガソリン車のみ）
4 - 「Transmission Temperature（トランスミッション温度）」（オートマチック・トランスミッションのみ）
5 – 「Battery Voltage（バッテリ電圧）」

Pitch & Roll（ピッチ＆ロール）

「Pitch & Roll（ピッチ＆ロール）」ページでは、車両の現在のピッチ（上下の角度）およびロール（左右の角度）を「度」で表示します。「Pitch & Roll（ピッチ＆ロール）」のゲージは、現在の車両の角度を視覚的に表示します。



「Pitch & Roll（ピッチ＆ロール）」メニュー 2WD/4WD

1 – 現在のピッチ
2 – 現在のロール

TrailCam - タイプ別装備

一部の車両には、車両の前方視界を画面上で確認できる TrailCam が装備されています。この画像は、タッチスクリーンに表示され、「Check Entire Surroundings（周囲全体を確認してください）」というメッセージが画面の上部に表示されます。

起動するには、タッチスクリーンの「TrailCam」ボタンを押します。

TrailCam の起動



TrailCam の起動

5

トレイルの記録 – タイプ別装備

概要

トレイル記録機能には、さまざまな方法でアクセスできます。Vehicle Dashboard（車両ダッシュボード）画面内、App Drawer（アプリ・ドロワー）メニュー、オフ・ロード・ページ Vehicle Dynamics（車両のダイナミックス）タブ内、または Adventure Guides（アドベンチャー・ガイド）アプリ内の Start Recording（記録の開始）機能からアクセスできます。「Trail Recording（トレイルの記録）」内には、トレイルの記録を開始したり、保存された記録を表示して以前に記録されたトレイルを確認したりできるオプションがあります。

トレイルの記録と記録の停止

トレイルの記録を開始するには、タッチスクリーンの下部にある「記録開始」を選択します。選択すると、希望する期間で記録が開始されます。

トレイルが終了したら、「Stop Recording（記録の停止）」を押します。トレイルを保存するかどうかを選択し、保存された場合は、「Saved Recordings（保存された録画）」に表示されます。「Cancel（キャンセル）」を選択するとトレイルは保存されず、削除されます。

メモ：
30 マイル (48 km) 走行すると、タッチスクリーンに記録を続けるかどうかを尋ねる通知が表示されます。

ウェイ・ポイントの追加

タッチスクリーンの左下にあるトレイル記録画面から「Add Waypoint（ウェイ・ポイントの追加）」を選択します。これにより、ユーザーは記録中および記録後の両方で、トレイルに沿った場所をピン留めすることができます。ウェイ・ポイントをマークするには、選択可能な 3 つのオプションがあります。ウェイ・ポイントは、車両が移動しているか停止しているかに関係なく配置できますが、車両が移動していない場合のみ、編集できます。デフォルトでは、ウェイ・ポイントはマークまたは追加された順序で時系列に名前が付けられます。デフォルトのウェイ・ポイント名の右側にある編集アイコンを押すことで、後に名前を変更できます。

- 場所
- 障害
- ガイダンス

メモ：
ウェイ・ポイントは、車両が移動していない場合のみ編集できます。

ビューの展開/折りたたみ

トレイル記録画面で、マップ・ビューの右側にある拡張ボタンを押すと、記録中にトレイル・マップ画面が拡大されます。展開表示になったら、折りたたみアイコンを押すと、画面録画中にトレイル・マップが縮小されます。

トレイルを編集する

トレイルの記録が完了すると、後に表示するためにトレイルの難易度を評価するスケールが表示されます。スケールは 1 ～10 で、1 が最も簡単で 10 が最も困難なトレイルを表します。

メモ：
トレイルを保存するために難易度を設定する必要はなく、後で編集することができます。

ウェイ・ポイントの編集/削除

ウェイ・ポイントを編集するには、地図上で目的のウェイ・ポイントを選択します。選択したら、ウェイ・ポイントのタイプを選択します。選択したら、ウェイ・ポイントを説明するサブタイプを選択します。ウェイ・ポイントのサブタイプを次の表に示します。

場所	障害	ガイダンス
キャンピング	泥	ベアレフト
シーンビュー	石	ベアライト
ステージングエリア	砂地	デッドエンド
登山口	急な登り	ハード左
水	急な下り坂	ハード右
	水	長い間隔
		行き止まり

デフォルトのウェイ・ポイント名の右側にあるペンシル・アイコンを押すことで、後にウェイ・ポイント名を変更できます。ペンシル・アイコンを選択すると、キーボードが表示され、ウェイ・ポイント名をカスタマイズできます。

メモ：
車両の走行中はウェイ・ポイントの編集はできません。ウェイ・ポイントを編集およびカスタマイズするには、車両が停止している必要があります。

ウェイ・ポイントを削除したい場合は、作成したウェイ・ポイントを選択し、タッチスクリーンの下部にある「Delete Waypoint（ウェイ・ポイントの削除）」ボタンを押します。ウェイ・ポイントが正常に削除されると、「Your waypoint was deleted successfully（ウェイ・ポイントは正常に削除されました）」というポップアップがタッチスクリーンに表示されます。

トレイルの保存とキャンセル

トレイルの編集が完了したら、「Save（保存）」を選択します。トレイルは「Saved Recordings（保存された録画）」タブに保存されます。

「Cancel（キャンセル）」を選択すると、トレイルが削除され、現在のトレイル記録をキャンセルするかどうかを尋ねるポップアップ画面が表示されます。「No, Don't Cancel（いいえ、キャンセルしません）」を選択するか、Xボタンを選択すると、ウェイ・ポイント編集画面に戻ります。「Yes, Cancel（はい、キャンセルします）」を選択すると、選択したトレイル記録が破棄されます。

保存されたトレイル

以前に保存したトレイルを表示するには、トレイル記録ホームページの「Saved Recordings（保存した記録）」ボタンをクリックします。「Saved Recordings（保存した記録）」に入ると、以前に保存されたトレイルのリストが表示されます。各トレイルの右端にある削除アイコンボタンを使用すると、トレイルが削除されます。すべてのトレイルを削除するには、タッチスクリーンの下部にある「Delete All（すべて削除）」を選択します。

メモ：
保存された録画には、Brand Connect サービスのサブスクリプションの有効期限が切れた後でもアクセスできます。

保存された録画を選択すると、録画を表示、編集、削除、または USB デバイスにエクスポートするためのオプションが利用可能になります。「View Performance Data（パフォーマンス・データの表示）」を押すと、車両のピッチ、ロール、高度、および選択した各ウェイ・ポイントの位置が表示されます。また、接続した USB デバイスにパフォーマンス・データの写真をエクスポートできるスナップショット機能が搭載されています。

記録を USB にエクスポートする

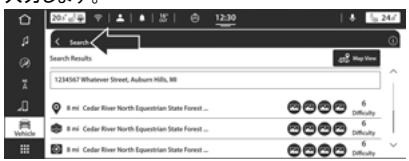
保存された録画を選択した後、タッチスクリーンの下部にあるエクスポート・ボタンを押し、USB アイコン・オプションを選択します。その後、エクスポートが完了したことを示すポップアップ・メッセージが表示されます。

アドベンチャー・ガイド – タイプ別装備

アドベンチャー・ガイド機能にアクセスするには、タッチスクリーンの下部メニュー バーにある車両アイコンを押します。車両ダッシュボードから「Adventure Guides（アドベンチャー・ガイド）」を押します。

オフロード・トレイルを検索するには:

1. 検索ボックスを押して、アドレスまたはキーワードを入力します。

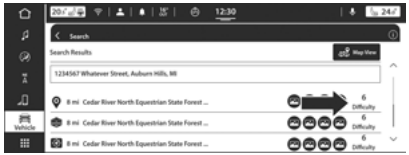


オフロード・トレイルを検索する

メモ：

- アドベンチャー・ガイド機能にアクセスするには、Jeep Connect コネクテッド・サービスへの有効なサブスクリプションが必要です。有効なサブスクリプションがない場合は、タッチ・スクリーンの「登録」ボタンをクリックして、プロンプトに従います。
- ネットワーク接続がない場合は、タッチ・スクリーンに「Data connection temporarily not available. Please try again later.（データ接続が一時的に利用できません。後でもう一度お試しください）」というメッセージが表示されます。「OK」を押して、ネットワーク接続が安定していることを確認します。
- 住所またはキーワードを追加したエリア内に検索結果がない場合は、タッチ・スクリーンに「No Results Found（結果が見つかりませんでした）」というメッセージが表示されます。

2. 各検索結果の左側に各目的地までの距離が表示されます。各トレイルの難易度は、各目的地の右側に表示されます。目的地のトレイルを選択します。



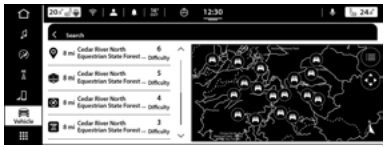
トレイルの難易度

メモ：

- 「Map View（マップ表示）」ボタンを押すと、各トレイルとその難易度の概要が展開されて表示されます。



Map View（マップ表示）ボタン



拡張されたトレイルの難易度ビュー

3. 「Go To（移動）」ボタンを押すと、TomTom Navigation システムに道順が送信されます。



「Go Here（こちらへ）」のナビゲーション・ボタン

4. Uconnect システムのローカル メモリ内にトレイルが存在しない場合は、「Download（ダウンロード）」ボタンを押します。トレイルがすでに存在する場合、つまりある時点ですでにダウンロードされている場合は、「Check For Updates（更新の確認）」ボタンを押します。

以下は、「Trail Info（トレイル情報）」ページごとに異なるページです。

メモ：

- **Highlights（ハイライト）：**トレイル名、トレイルの難易度、経験のアイコンなど、一般的な情報が表示されます。
- **Advanced Rating System（高度評価システム）：**トレイルに推奨される車や、選択したトレイルを走行する際の注意点などの情報を提供する「Concerns（懸念事項）」タブなどの情報が表示されます。ハイライト表示されている懸念事項のみが、このトレイルに適用されます。
- **Technical Rating（技術的評価）：**トレイルの簡単な説明と、「Mandatory（必須）」と「Optional（任意）」の評価が表示されます。各評価の横には「i」のアイコンがあり、1 が最も簡単で、10 が最も難しいというトレイルの難易度の評価凡例が示されています。
- **Waypoints（ウェイ・ポイント）：**最後のページには、選択したウェイ・ポイントからの距離や、トレイル沿いの他のウェイ・ポイントへのナビゲーション・ルートなど、トレイル沿いのさまざまなウェイ・ポイントに関する情報が表示されます。

メモ：

- トレイルの更新が正常に完了すると、タッチスクリーンの上部に「Trail Updated Successfully（トレイルが正常に更新されました）」と表示されます。「Trail could not update. Not enough space（トレイルを更新できませんでした。空き容量が足りません。）」というメッセージが表示された場合は、不要になったトレイルまたは希望しないトレイルを削除して、「Downloaded Trails（ダウンロードしたトレイル）」の容量を空ける必要があります。「No Updates available（利用可能なアップデートはありません）」は、選択したトレイルが最新であることを示しています。
- これらの画面のいずれかで「X」を押すと、トレイルの詳細画面に戻ります。

近くのトレイル

「Trails Near You（近くのトレイル）」機能では、現在の車両の位置内の 500 マイル (805 km)に基づいて最初の 20 箇所のトレイルが表示されます。

メモ：

現在の車両の位置から半径 500 マイル (805 km) 以内にトレイルがない場合は、タッチスクリーンに「No Results Found（結果が見つかりません）」と表示されます。

プリロードされたトレイル

「Preloaded Trails（プリロードされたトレイル）」を押すと、Uconnect システムにプリロードされているトレイルのリストが表示されます。



プリロードされたトレイル

メモ：

「Preloaded Trails（プリロードされたトレイル）」はシステム上に永久に残るデフォルトのトレイルであるため、リストから削除できません。

ダウンロードしたトレイル

ダウンロードしたいトレイルがある場合は、選択したトレイルの「Download（ダウンロード）」ボタンを押してください。

メモ：

- トレイルが正しくダウンロードされた場合は、タッチスクリーンの上部に「Trail Downloaded Successfully（トレイルが正常にダウンロードされました）」と表示されます。ダウンロードが完了した後、トレイルの更新を確認したい場合は、「Check for updates（更新の確認）」が使用できます。
- 「Downloaded Trails Full.Free up some space（ダウンロードしたトレイルが満杯です。空き容量を確保してください）」というメッセージが表示されます。「Downloaded Trails（ダウンロードしたトレイル）」ボタンを押して、既存のトレイルを削除します。

削除アイコンを押して、リストからトレイルを削除します。「Are you sure you want to delete this trail?（このトレイルを削除してもよろしいですか?）」という確認メッセージが表示されます。「Yes（はい）」を押すと、選択したトレイルが正常に削除されたことが表示されます。または、「No（いいえ）」または X ボタンを押すと、ダウンロードしたトレイルリストに戻ります。



ダウンロードしたトレイルを削除する

Go All Access（All Access に移動）

アドベンチャー・ガイドのメイン・ページで「Go All Access（All Access に移動）」ボタンを選択すると、アカウント管理画面が表示されます。この画面では、オフ・ロード・トレイルの全カタログを提供する All Access のメンバーシップを契約することができます。All Access のメンバーシップを契約するための QR コードが画面に表示されます。

メモ：

トレイルの右端にアイコンがグレー表示されている場合は、そのトレイルを見るには All Access のメンバーシップが必要であることを示しています。

5

安全について

安全装置

アンチロック・ブレーキ・システム（ABS）

ABS は大抵の制動状態で、車両安定性と制動性能を向上させます。このシステムは、ホイールのロックを自動的に防ぎ、ブレーキ中でも車を制御しやすくします。

車両の始動および走行を行うごとに、システム自身がセルフチェックを行い、ABS が正しく作動しているか点検します。このセルフチェックが行われている最中は、モータ音とともに小さなカチッという音が聞こえることがあります。

ABS は、1 つ以上のホイールがロックし始めたことを検出すると、ブレーキ中に作動します。ABS が作動する可能性は、氷、雪、砂利、凹凸路、鉄道軌、岩屑などの路面状況や急制動を行うことにより高まります。

ABS が作動すると、次のようなことも発生する可能性がありますが、これは正常です。

- ABS のモータ音またはカチカチ音（停止後も若干作動し続けることがあります）。
- ブレーキ・ペダルの脈動。
- 停止する際のブレーキ・ペダル力のわずかな低下。

ABS は、Original Equipment Manufacturer（OEM）のタイヤで作動するように設計されています。改造を行うと、ABS の性能が低下するおそれがあります。

警告!

- ABS には、不適切な取り付けや高出力の無線送信装置によって生じる干渉の影響を受けやすい、精密な電子機器が装備されています。この障害により、アンチロック・ブレーキ・システムの機能が損なわれることがあります。無線送信機などを取り付ける場合は専門家にご相談ください。
- アンチロック・ブレーキ・システムは、ブレーキ・ペダルをポンピングすると性能が低下し、衝突事故につながる恐れがあります。ブレーキ・ペダルのポンピングにより、停止するまでの距離が長くなります。車を減速または停止させるときには、ブレーキ・ペダルをしっかりと踏み込んでください。
- ABS は、物理的法則が車両に働くのを防いだり、車両のブレーキとタイヤまたはトラクションの状態で決まる性能以上にブレーキ性能やステアリング性能を高めることはできません。
- ABS は、カーブでの速度の出しすぎや、車間距離の詰めすぎ、ハイドロプレーニング現象などが原因の衝突事故は、防ぐことができません。
- 車両に搭載された ABS の機能を、むやみにまたは危険な方法で利用することは絶対にしないでください。運転者本人や第三者を危険にさらすことになります。

アンチロック・ブレーキ・システム（ABS）警告灯

黄色の ABS 警告灯は、イグニッションを「ON/RUN（オン／走行）」モードにすると点灯し、約 4 秒後に消灯します。

運転中に ABS 警告灯が点灯し続ける場合、または走行中に点灯する場合、ブレーキ・システムの ABS 部分が機能しておらず、修理が必要なことを示しています。しかし、ABS 警告灯が点灯していなければ、通常のブレーキ・システムはそのまま正常に作動します。

ABS 警告灯が点灯したときは、できるだけ早くブレーキ・システムの修理を行い、その機能が正常に作動するようにしてください。イグニッションを「ON/RUN（オン／走行）」モードにしても ABS システム警告灯が点灯しない場合、できるだけ早く警告灯の修理を依頼してください。

リヤ・シート警告アラーム（RSRA）– タイプ別装備

RSRA は、リヤ・シートに物が置かれていたり、乗員やペットがいたりする可能性がある場合に、視覚と聴覚を通して警告を発します。このシステムは、イグニッションを「ON/RUN（オン／走行）」位置にしてから 10 分以内にリヤ・ドアが開いた場合に自動的に作動します。RSRA では、リヤ・シートの物体、乗員、またはペットは直接検出されません。前の条件に合致すると、ドライバが車両から降りるためにイグニッションを「OFF（オフ）」位置にしたときに、RSRA によりメッセージ「Check Rear Seat（リヤ・

シートを点検してください）」がインストルメント・パネル・ディスプレイに表示され、警告音が鳴ります。

RSRA のオン／オフについては、以下を参照してください
⇨ ページ 150。

警告!

- 車両から離れる前に、必ず完全に停車して、オートマチック・トランスミッションを「P（パーキング）」に入れ、パーキング・ブレーキをかけてください。
- 必ずキーレス・イグニッション・ノードを「OFF（オフ）」位置にし、キー・フォブを車両から取り出し、車両をロックしてください。
- お子さまだけを車内に残して車を離れないでください。またお子さまが、ロックされていない車に触れることのないようにしてください。お子さまを車内に残して車から離れることは、非常に危険です。お子さまだけでなく第三者にもけがを負わせる恐れがあります。お子さまがパーキング・ブレーキ、ブレーキ・ペダルまたはギヤ・セレクタに触れないように注意してください。
- 高温時には、駐車した車内にお子さまやペットを残さないでください。車内の温度が上がり、重傷または死亡事故につながる恐れがあります。

エレクトロニック・ブレーキ・コントロール（EBC）システム

車両には高度なエレクトロニック・ブレーキ・コントロール（EBC）システムが装備されています。このシステムには、アンチロック・ブレーキ・システム（ABS）、ブレーキ・アシスト・システム（BAS）、電子ブレーキ・フォース・ディストリビューション（EBD）、エレクトロニック・ロール・ミティゲーション（ERM）、エレクトロニック・スタビリティ・コントロール（ESC）、ヒル・スタート・アシスト（HSA）、トラクション・コントロール・システム（TCS）が含まれます。これらのシステムは連動して、さまざまな運転状況での車両安定性やコントロールを向上させます。

この車両には、下り坂コントロール（HDC）、レイン・ブレーキ・サポート（RBS）、レディ・アラート・ブレーキ（RAB）、トレーラ・スウェイ・コントロール（TSC）も装備されていることがあります。

ブレーキ・アシスト・システム（BAS）

BAS は急ブレーキをかけた際に、車の制動力が最適な状態になるように設計されています。このシステムは、ブレーキ・ペダルの踏力と踏み込み量を感知して急ブレーキ状況を検出し、ブレーキに最適なプレッシャをかけます。これにより、制動距離の短縮が図られます。BAS は、アンチロック・ブレーキ・システム（ABS）を補完しています。勢いよくブレーキを踏むと、BAS 補助による最大の効果が得られます。システムの効果を得るには、停止時にポンピング・ブレーキをかけるのではなく、ブレーキを継続してかけ続けなければなりません。ブレーキが不要になるまでは、ブレーキ・ペダルにかけた力を弱めないでください。ブレーキ・ペダルをいったん放すと、BAS は解除されます。

警告!

ブレーキ・アシスト・システム（BAS）は、車両に働く物理的法則を回避したり、一般的な路面状態で発生するトラクションを向上させることはできません。BAS は、カーブでのスピードの出しすぎや、非常に滑りやすい路面での運転、ハイドロプレーニング現象などによる衝突事故を防止することはできません。BAS 搭載車両の機能を無謀または危険な方法で利用することは絶対にしないでください。運転者本人や第三者を危険にさらすことになります。

ブレーキ・システム 警告灯

赤色のブレーキ・システム警告灯は、イグニッションを「ON/RUN（オン／走行）」モードにすると点灯し、約 4 秒後に消灯します。

運転中にブレーキ・システム警告灯が点灯し続ける場合、または走行中に点灯する場合、ブレーキ・システムが適切に機能しておらず、直ちに修理が必要なことを示しています。イグニッションを「ON/RUN（オン／走行）」モードにしてもブレーキ・システム警告灯が点灯しない場合、できるだけ早く警告灯の修理を依頼してください。

電子ブレーキ・フォース・ディストリビューション（EBD）

EBD は、リヤ・アクスルにかかるブレーキ圧を制限することによって、フロント・アクスルとリヤ・アクスルへ分配するブレーキ・トルクを制御します。これにより、リヤ・ホイールの空転が防止されて車両の安定性が保たれるほか、ABS がフロント・アクスルより先にリヤ・アクスルに作動することが防がれます。

エレクトロニック・ロール・ミティゲーション（ERM）

ERM は、運転者によるステアリング・ホイールからの入力と車速をモニタし、ホイール・リフトの可能性を早く発見します。ERM は、ステアリング・ホイール角の変化率と車速によってホイール・リフトが発生する可能性が大きいと判断すると、ホイール・リフトが発生する可能性を減らすために適切にブレーキをかけ、必要に応じてエンジン出力を下げます。ERM は、激しい運転操作や回避的な運転操作を行っている間に、ホイール・リフトの可能性を減らすことのみ可能です。路面状況、脱輪、物や他車との衝突など、他の要因によって発生するホイール・リフトを防止することはできません。

メモ :
ESC が「フル OFF」モードの場合（タイプ別装備）、ERM は常に無効になります。使用可能な ESC モードの詳細説明は ⇨ ページ 178 を参照ください。

警告!

車両への積載状況、路面状況、運転状況などの多くの要因が、ホイール・リフトや横転の発生する可能性に影響します。ERM は、特に道路からの逸脱、物や他車との衝突などに関連する、すべてのホイール・リフトや横転を防止することはできません。車両に搭載された ERM の機能を無謀または危険な方法で利用することは絶対にしないでください。運転者本人や第三者を危険にさらすことになります。

エレクトロニック・スタビリティ・コントロール（ESC）

ESC は、さまざまな運転状況における直進安定性や車両の安定性を高めます。ESC は、オーバーステアまたはアンダーステア状態に対応するために、適切なホイールにブレーキをかけ、車のその状態を補正します。さらに、目的の進行方向を維持するために、必要に応じてエンジン出力を下げます。

- オーバーステア – ステアリング・ホイールの位置に対して、車両が必要以上に曲がっていく状態。
- アンダーステア – ステアリング・ホイールの位置に対して、車が必要以上に曲がっていかない状態。

ESC では、車両のセンサを使用して、運転者が意図している進行方向を判断し、それを車の実際の進行方向と比較します。実際の進行方向が意図している進行方向と一致しない場合、ESC はアンダーステアまたはオーバーステア状態に対応するために、適切なホイールにブレーキをかけます。

ESC システムが作動すると、インストルメント・パネルに配置された「ESC 作動／エンジン警告灯」がすぐに点滅します。「ESC 作動／エンジン警告灯」は、TCS が作動したときも点滅します。加速時に「ESC 作動／故障表示灯」が点滅を始めたら、アクセル・ペダルの踏み込みを緩めて、できる限り軽く踏むようにしてください。走行速度や運転方法は、必ずその時点の路面状況に合わせるようにしてください。

警告!

- エレクトロニック・スタビリティ・コントロール（ESC）は、車両に働く物理的法則を回避したり、一般的な路面状態で発生するトラクションを向上させることはできません。ESC は、カーブでのスピードの出しすぎや、非常に滑りやすい路面での運転、ハイドロプレーニング現象などによる事故を防止することはできません。また、ESC は、状況に不適切な操作を行ったために車両をコントロールできなくなり、それにより発生した事故を防止することもできません。安全を重視し、注意を怠らない、優れた運転技術を有する運転者だけが事故を防ぐことができます。車両に搭載された ESC の機能を、無謀または危険な方法で利用することは絶対にしないでください。運転者本人や第三者を危険にさらすことになります。
- 車両を改造したり、車両を正しくメンテナンスしなかったりすると、車両のハンドリング特性が変化し、ESC システムに悪影響を及ぼす場合があります。ステアリング・システム、サスペンション、ブレーキ・システム、タイヤ・タイプ／サイズ、またはホイール・サイズを変更すると、ESC の性能に悪影響を及ぼす場合があります。空気圧が間違っていたり、偏摩耗しているタイヤも ESC の性能を悪化させる場合があります。車両を改造したり、車両を正しくメンテナンスしなかったりすると、ESC システムの効果が減少し、車両のコントロール性の喪失、車両の横転、けが、死亡事故の危険が増大します。

(続き)

警告!

耗しているタイヤも ESC の性能を悪化させる場合があります。車両を改造したり、車両を正しくメンテナンスしなかったりすると、ESC システムの効果が減少し、車両のコントロール性の喪失、車両の横転、けが、死亡事故の危険が増大します。

ESC 作動モード

ESC システムは、モデルおよび作動モードに応じて、複数の作動モードを備えています。

ESC ON

「ESC ON」は、ESC の標準操作モードです。車を始動すると、ESC システムは必ずこのモードになります。通常の運転状況では、このモードを使用します。次の段落に記載する特定の理由がある場合のみ ESC モードの切り替えを行ってください。

パーシャル OFF

このモードは、車両がスタックしたときに有効な場合があります。このモードでは、TCS および ESC 作動のしきい値が上がり、通常許可されるより多くのホイールの空転を可能にします。

「パーシャル OFF」モードに入るには、「ESC OFF（ESC オフ）」ボタンを短く押します。「ESC OFF 表示灯」が点灯します。ESC を再び ON にするには、「ESC OFF（ESC オフ）」ボタンを短く押します。「ESC OFF 表示灯」が消灯します。

メモ :
複数のパーシャル ESC モードを装備する車両では、ボタンを押して放すと、ESC モードが順次切り替わります。「ESC ON」モードに戻るには、ボタンを押す動作を何回か行う必要がある場合があります。

警告!

- 「パーシャル OFF」モードでは、TCS のセクションに記載のリミテッド・スリップ機能を除き、ESC の TCS 機能は無効になり、「ESC OFF 表示灯」が点灯します。「パーシャル OFF」モードにすると、TCS のエンジン出力減少機能が無効になり、ESC システムによる車両安定性向上機能が低下します。
- ESC システムが「パーシャル OFF」モードに入っているときは、トレーラ・スウェイ・コントロール(TSC)は無効になります。

フル OFF - タイプ別装備

「フル OFF」モードは、幹線道路以外の道またはオフ・ロードでのみ使用するためのものであり、公道で使用してはいけません。このモードでは、TCS 機能および ESC 機能が OFF になります。「フル OFF」モードにするには、停車中でエンジンがかかっているときに、「ESC OFF(ESC オフ)」ボタンを 5 秒間押し続けます。5 秒後にチャイムが鳴り、「ESC Off Indicator Light(ESC OFF 表示灯)」が点灯し、「ESC OFF」メッセージがインストルメント・パネルに表示されます。ESC を再び ON にするには、「ESC OFF (ESC オフ)」ボタンを短く押します。

メモ:

既定の車速を超えると、システムは「ESC フル OFF」から「パーシャル OFF」モードに切り替わります。車速が既定速度未満になると、システムは「ESC フル OFF」に戻ります。

ESC モードはドライブ・モード(タイプ別装備)によっても影響を受けることがあります。

警告!

- ESC が「フル OFF」モードの場合、エンジン・トルク軽減機能およびスタビリティ機能は無効になります。したがって、ESC システムによる車両安定性の向上は利用できなくなります。緊急回避操作において、ESC システムは安定性の維持を補助しません。ESC「フル OFF」モードは幹線道路以外の道またはオフ・ロードでのみ使用するためのものです。
- エレクトロニック・スタビリティ・コントロール(ESC)は、車両に働く物理的法則を回避したり、一般的な路面状態で発生するトラクションを向上させることはできません。ESC は、カーブでのスピードの出しすぎや、非常に滑りやすい路面での運転、ハイドロプレーニング現象などによるすべての事故を防止することはできません。また ESC は、衝突を防止できません。

ESC 作動／故障警告灯と ESC OFF 表示灯



インストルメント・パネル内の「ESC 作動／エンジン警告灯」は、イグニッション・スイッチを「ON/RUN(オン／走行)」モードにしたときに点灯します。この表示灯は、エンジンが始動すると消灯します。エンジンがかかっても「ESC 作動／エンジン警告灯」が点灯し続ける場合は、ESC システムに故障があることを意味します。イグニッション操作が数回行われ、48km/h(30mph)以上の速度で数キロ(マイル)運転した後も警告灯が点灯し続ける場合、直ちに正規ディーラーで診断および修理を受けてください。

タイヤがトラクションを失い、ESC システムが作動すると、「ESC 作動／エンジン警告灯」が直ちに点滅を始めます。「ESC 作動／エンジン警告灯」は、TCS が作動したときも点滅します。加速時に「ESC 作動／故障表示灯」が点滅を始めたら、アクセル・ペダルの踏み込みを緩めて、できる限り軽く踏むようにしてください。走行速度や運転方法は、必ずその時点の路面状況に合わせるようにしてください。



「ESC OFF 表示灯」は、ユーザーがエレクトロニック・スタビリティ・コントロール(ESC)を低減モードにしたことを示します。

メモ:

- 「ESC 作動／エンジン警告灯」と「ESC OFF 表示灯」は、イグニッション・スイッチを「ON(オン)」にするたびに一時的に点灯します。
- イグニッション・スイッチを「ON(オン)」位置にするたびに、以前 OFF にしていた場合でも、ESC システムは ON になります。
- ESC システムの作動中は、ブンブンまたはカチッという音を発します。これは通常の状態であり、ESC を作動させた操作が終了して ESC が作動しなくなると、音はしなくなります。

ヒル・スタート・アシスト(HSA)

HSA は、坂道で車を完全停止状態から発進させるときに後退の発生を抑えるように設計されています。坂道で停止している場合、運転者がブレーキを放しても、HSA は短時間ブレーキ圧をかけ続けます。この時間が終了する前に運転者がスロットルをかけない場合、システムはブレーキ圧を解放し、車両は通常どおりに斜面を下ります。

HSA が作動するには、次の条件を満たさなければなりません。

- 機能が有効にされている。
- 車が停止している。
- パーキング・ブレーキがかかっていない。

- 運転席ドアが閉まっている。(ドアが取り付けられている場合、ドアを閉める必要があります。ドアが外されている場合、運転者のシートベルトを着用する必要があります)。
- 車両が急な坂にある。
- 選択するギヤが、車両の上り方向に合致している(つまり、坂を上る場合は前進ギヤ、登り坂を背にしてバックする場合は「R(リバース)」ギヤ)。
- HSA は「R(リバース)」ギヤとすべての前進ギヤで作動します。トランスミッションが「P(パーキング)」または「N(ニュートラル)」位置にある場合は、このシステムは作動しません。マニュアル・トランスミッション装備車の場合、クラッチが踏まれていると HSA は作動したままになります。

警告!

勾配が緩やかな坂や、車に荷物を積んでいる場合や、トレーラけん引をしている場合は、ヒル・スタート・アシスト(HSA)が動作せず、少し車が下がる恐れがあります。HSA は、ドライバー自身による運転に代わるものではありません。車間距離、歩行者、対象物に注意し、なによりもあらゆる道路状況でブレーキを操作し安全に運転することは、運転者の責任です。安全運転を行うためには、常に十分な注意力が欠かせません。ここに示す警告に従わないと、衝突事故や重傷につながる恐れがあります。

HSA を無効または有効にする

この機能は ON にも OFF にもできます。現在の設定を変更するには、次を参照してください ⇨ ページ 150。

HSA でのけん引

トレーラをけん引する場合も HSA が補助となり、後退の発生を抑えます。

警告!

- トレーラでトレーラ・ブレーキ・コントローラを使用する場合は、トレーラ・ブレーキがブレーキ・スイッチによって作動したり解除されたりする場合があります。その場合、ブレーキ・ペダルを解放すると、上り坂で車両およびトレーラを停車させるだけの十分なブレーキ圧がなくなることがあります。再度アクセルペダルを踏む間に坂道を下がらないようにするため、ブレーキ・ペダルを放す前に、トレーラ・ブレーキを手動で作動させるか、または車のブレーキ圧を強めてください。
- HSA はパーキング・ブレーキではありません。車から離れるときは、必ずパーキング・ブレーキをしっかりとかけてください。また、トランスミッションを「P(パーキング)」に入れてください。
- ここに示す警告に従わないと、衝突事故や重傷につながる恐れがあります。

レイン・ブレーキ・サポート(RBS)

RBS は、濡れた路面でのブレーキ性能を向上させます。定期的に少量のブレーキ圧をかけて、フロント・ブレーキ・ロータに付いている水滴を取り除きます。フロントウィンドウ・ワイパが「LO」または「HI」速度の場合に機能します。RBS の作動時に運転者に対する通知はありません。また、運転者による、RBS を作動させるための操作は不要です。

レディ・アラート・ブレーキ(RAB)

RAB により、急ブレーキ時にフル・ブレーキになるまでの時間を短縮できます。運転者がどの程度速くスロットルを戻したかを監視して、急ブレーキをかける状況がいつ発生するかを事前に察知します。エレクトロニック・ブレーキ・コントローラ(EBC)が急制動に対してブレーキ・システムを準備します。

Selec Speed Control(SSC) – タイプ別装備

SSC は、「4WD LOW」でのオフロード走行専用です。SSC は、エンジン・トルクとブレーキを積極的に制御することで、車速を維持します。

SSC には次の 3 つの状態があります。

1. Off(機能は無効となり、作動しません)
2. Enabled(HDC 機能は有効で、作動準備も完了していますが、作動条件が満たされていないか、運転者がブレーキまたはアクセルを積極的にかけることを優先できます)
3. Active(HDC 機能は有効となり、車速を積極的に制御します)

SSC を有効にする

SSC は、SSC スイッチを押すことで有効になりますが、SSC を有効にするためにはさらに次の条件を満たす必要があります。

- 駆動系が「4WD LOW」になっている。
- 車速が 8km/h(5mph)未満である。
- パーキング・ブレーキがかかっていない。
- 運転者がアクセルを踏んでいない。

- 運転席ドアが閉まっている(ドアが取り付けられている場合、ドアを閉める必要があります。ドアが外されている場合、運転者はシートベルトを着用する必要があります)

SSC を作動させる

SSC を有効にすると、次の条件を満たす場合、SSC は自動的に作動します。

- 運転者がアクセルから足を放す。
- 運転者がブレーキから足を放す。
- トランスミッションが「P(パーキング)」以外のレンジに入っている。
- 車速が 32km/h(20mph)未満である。
- 運転席側のドアが閉まっている。(ドアが取り付けられている場合、ドアを閉める必要があります。ドアが外されている場合、運転者はシートベルトを着用する必要があります)

SSC の設定速度は運転者が選択します。SSC の設定速度は、ギヤ・シフトの+/-で調整できます。さらに、SSC の設定速度は、坂を登るときに下がることがあります。また設定速度の下がり具合は勾配の大きさに依存します。SSC の設定速度を次に示します。

SSC 目標設定速度

- 1 速= 1km/h(0.6mph)
- 2 速= 2km/h(1.2mph)
- 3 速= 3km/h(1.8mph)
- 4 速= 4km/h(2.5mph)
- 5 速= 5km/h(3.1mph)
- 6 速= 6km/h(3.7mph)
- 7 速= 7km/h(4.3mph)
- 8 速= 8km/h(5mph)
- R(リバース) = 1km/h(0.6mph)
- N(ニュートラル)= 2km/h(1.2mph)
- P(パーキング)= SSC は有効なままですが作動しません

SSC 目標設定速度 –Off Road+(オフ・ロード+)装備車の場合

- 1 速= 1km/h(0.6mph)
- 2 速= 1.5km/h(0.9mph)
- 3 速= 2km/h(1.2mph)
- 4 速= 2.5km/h(1.5mph)
- 5 速= 3km/h(1.8mph)
- 6 速= 4km/h(2.5mph)
- 7 速= 6km/h(3.7mph)
- 8 速= 8km/h(5mph)
- R(リバース) = 1km/h(0.6mph)
- N(ニュートラル)= 2km/h(1.2mph)
- P(パーキング)= SSC は有効なままですが作動しません

メモ:

- SSC の作動中、+/-ギヤ・セレクタ入力は SSC の目標速度選択に使用されますが、トランスミッションによって選択されたギヤには影響しません。SSC を能動的に制御しているとき、トランスミッションは、運転者が選択した設定速度と対応する走行条件に対して適切にシフトします。
- Off Road+(オフ・ロード+)ドライブ・モードが作動している場合は、SSC の動作はこのモードの影響を受けます。この差はシステム介入度の強さの変化として、運転者が気づく場合もあります。

運転者によるオーバーライド

運転者は、SSC の作動より、いつでもアクセルまたはブレーキをかけることを優先できます。

SSC を解除する

以下のいずれかの状況になったときは、SSC は解除されます。

- 運転者が SSC 設定速度より、アクセルまたはブレーキをかけることを優先した場合。
- 車速が 32km/h(20mph)を超えるが、64km/h(40mph)以下にとどまっている場合
- 車両を「P(パーキング)」に入れた。

SSC を無効にする

次のいずれかの状況になった場合、SSC は解除され無効になります。

- 運転者が SSC スイッチを押した場合。
- 運転者が「4WD Low」以外にシフトした場合。
- パーキング・ブレーキをかけた場合。
- 車両が 32km/h(20mph)を超える速度で 70 秒以上走行した場合。
- 車両が 64km/h(40mph)を超える速度で走行する。SSC は直ちに終了します。
- 運転席ドアが開いている場合。(ドアが取り付けられている場合は運転席ドアを開いた場合、またはドアが外されている場合は運転席シートベルトを外した場合)

運転者への通知

インストルメント・パネルに SSC アイコンが表示され、SSC スイッチのランプが点灯し、SSC 状態になったことを運転者に知らせます。

- SSC が有効または作動しているときには、インストルメント・パネルのアイコンとスイッチの LED が点灯し続けます。これらは、SSC の標準操作モードです。
- 運転者が SSC スイッチを押したが有効となる条件を満たしていないときには、インストルメント・パネルのアイコンとスイッチの LED が数秒間点滅してから消灯します。
- 速度超過が原因で SSC が解除されたときには、インストルメント・パネルのアイコンとスイッチの LED が数秒間点滅してから消灯します。
- ブレーキのオーバーヒートが原因で SSC が解除されたときには、インストルメント・パネルのアイコンとスイッチの LED が点滅してから消灯します。

警告!

SSC は、オフ・ロード条件で運転するときに車速をコントロールするための補助を意図したものです。運転者は、運転条件に常に注意を払い、安全な車速を維持しなければなりません。

トラクション・コントロール・システム（TCS）

TCS は、各駆動輪のホイールの空転の量をモニタします。ホイールの空転が検出されると、TCS が空転しているホイールにブレーキ圧をかけたり、エンジン出力を低下させたりすることにより、加速性と安定性を向上させます。ブレーキ・リミテッド・ディファレンシャル（BLD）である TCS の機能は、リミテッド・スリップ・ディファレンシャルのように機能し、駆動アクスルでのホイールの空転を制御します。駆動アクスルの 1 つのホイールの回転がもう 1 つのホイールよりも高速である場合、回転しているホイールにブレーキがかけられます。これにより、回転していないホイールにより大きなエンジン・トルクがかかります。TCS やエレクトロニック・スタビリティ・コントロール（ESC）が低減モードになっている場合でも、BLD は作動し続けることができます。

トレーラ・スウェイ・コントロール（TSC）

TSC は車両のセンサを使用して、トレーラが過度に揺れている状態を認識し、揺れを解消するために作動します。

メモ：

TSC ですべてのトレーラの揺れを解消できるわけではありません。トレーラをけん引する場合は常に注意を払い、推奨されるトレーラけん引重量に従ってください。

TSC が作動すると、ESC 作動／エンジン警告灯が点滅します。必要に応じてエンジン出力が下がり、トレーラの揺れを抑えるために個々のホイールにブレーキがかかったことが感じられる場合があります。ESC システムが「パーシャル OFF」または「フル OFF」モードの場合、TSC は無効になります。

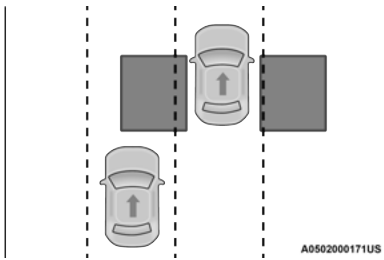
警告!

走行中に TSC が作動した場合、車両を減速させて付近の安全な場所で停止し、トレーラの積載量を調整してトレーラの揺れを解消してください。

ドライビング・アシスト・システム

ブラインド・スポット・モニタ（BSM）- タイプ別装備

BSM ステムは、テールライトの内側に取り付けられている 2 つのレーダ・センサを使用して、車両の後方／前方／側面の死角に入り込んだ高速道路を走行可能な車両（自動車、トラック、オートバイなど）を検知します。



後方検知ゾーン

車両を始動させると、左右のドア・ミラーの BSM 警告灯が一瞬点灯して、システムが作動していることを運転者に知らせます。BSM システムのセンサは、シフト・レバーが任意の前進ギヤに入っているときに作動し、「P（パーキング）」に入っているときにはスタンバイ・モードになります。

BSM 検知ゾーンは、車両の両側約 1 車線の幅の分で、12 ft (3.8 m)です。前後の長さはドア・ミラーの位置から車両のリヤ・バンパ後方約 3m（10 フィート）までです。

BSM システムは、車速が約 10km/h（6mph）以上になると車両の左右の検知ゾーンを監視し、これらのゾーンに車両が存在している場合、そのことを運転者に警告します。

メモ：

- BSM システムは、検知ゾーン外の急速に接近している車両については警告しません。
- BSM システムの検知ゾーンは、トレーラをけん引している場合も同じです。このため、車線変更する前に、隣の車線に他の車両が存在しないことを目視確認し、車両とトレーラが安全に車線変更できることを確かめてください。トレーラまたはその他の物体（自転車やスポーツ用品など）が車両の左右からはみ出している場合、前進ギヤに入っている間は BSM 警告灯が点灯し続けます ⇨ ページ 98。
- オートバイや小型の物体が自車の横に長時間（数秒間以上）留まると、ブラインド・スポット・モニタ（BSM）が途中で機能しなくなり、ドア・ミラーの警告灯が点滅を繰り返すことがあります。

BSM システムを正しく機能させるためには、テールライトのレーダー・センサが取り付けられている部分に雪、氷、泥、異物を付着させないでください。テールライトのレーダー・センサが取り付けられている部分をバンパー・ステッカ、自転車用ラックなどで覆わないでください。

また、砂漠などレーダーからの反射がきわめて少ない場所や、標高差の大きい道路を走行する場合にも障害を検知することがあります。障害を検知すると、「Blind Spot Temporarily Unavailable, Wipe Rear Corners（ブラインド・スポットが一時的に利用不可、リヤ・コーナーの拭き取り清掃を行ってください）」というメッセージがインストルメント・パネル内に表示され、左右のミラー警告灯が点灯し、BSM と RCP の警告は発生しません。これは正常な動作です。そのような状態ではなくなると、機能が自動的に回復し、システムが復帰します。



BSM レーダー位置（左側を図示）

BSM システムは、警告音を発し、ラジオの音量を下げると同時に、ドア・ミラーにある BSM 警告灯を点灯させて、検知ゾーンに車両または物体が存在していることを運転者に知らせます ⇨ ページ 185。

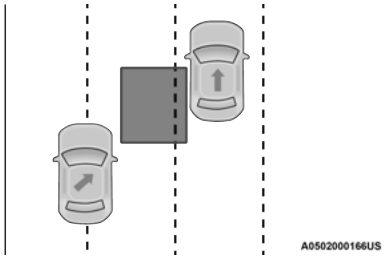


警告灯の位置

走行中、BSM システムは、3 つの方向（側方、後方、前方）からの進入に対して検知ゾーンを監視して、警告が必要かどうかを判断します。BSM システムは、次のようなゾーン侵入状況の時に警告を発します。

側方からの侵入

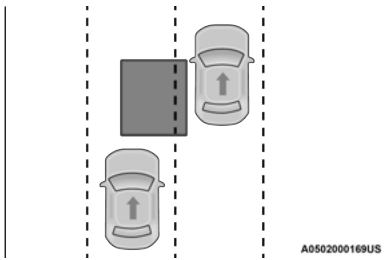
車両の左右の隣の車線に入ってくる車両。



側方監視

後方からの侵入

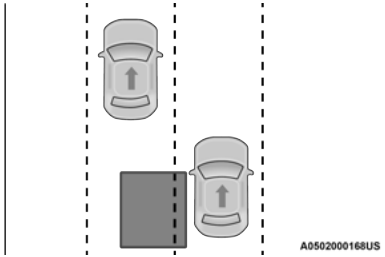
車両の左後方または右後方から近づき、相対速度 48km/h（30mph）未満で後方検知ゾーンに入ってくる車両。



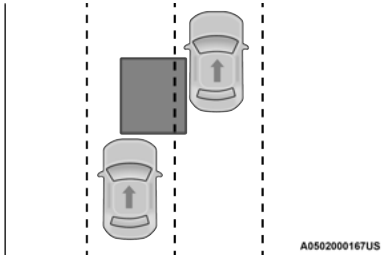
後方監視

追い抜き

自車が相対速度 24km/h（15mph）未満で別の車両をゆっくりと追い抜き、その車両が死角に約 1.5 秒入っていた場合、警告灯が点灯します。両車両の速度差が 24km/h（15mph）以上の場合、警告灯は点灯しません。



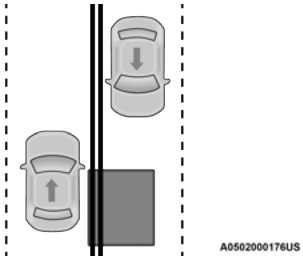
追い抜き／接近



追い抜き／通過

BSM システムは、ガードレール、ポスト、壁、草木、土手などの静止物に対しては、警告を発しないように設計されています。ただし、まれにそのような物体に対して警告を発することもあります。これは正常な動作で整備の必要はありません。

BSM システムは、隣の車線を車両と反対方向に走行している物体に対しては警告を発しません。



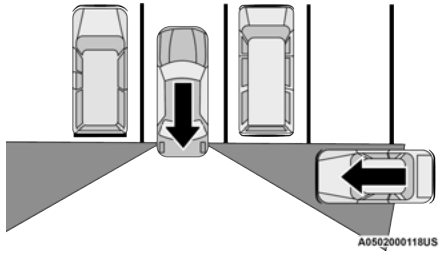
対向車

警告!

ブラインド・スポット（死角）モニタリング・システムは、死角ゾーンに存在する物体を検知しやすくするための補助機能です。BSM システムは、歩行者、自転車、または動物を検知するようには設計されていません。車両に BSM システムが装備されている場合でも、必ず車両のミラーを確認し、振り返って目視確認し、車線変更前に方向指示器を使用してください。これを怠ると、重傷や死亡事故につながる恐れがあります。

リヤ・クロス・パス・ディテクション

RCP 機能は、駐車スペースからバックで出るときに接近している車両が見えない場合に、運転者を補助することを目的としています。車両の後端が少し出るまで注意してゆっくりとバックします。これでリヤ・クロス・パス・ディテクションは接近している車両を検知でき、車両を検知した場合はそのことを運転者に警告します。



リヤ・クロス・パス・ディテクションの検知ゾーン

リヤ・クロス・パス・ディテクションは、車両の左右の後方検知ゾーンを監視し、側方から最低速度約 5km/h（3mph）、最大速度約 32km/h（20mph）で接近してくる物体を検知します。これは、駐車場での状況を想定したものです。

リヤ・クロス・パス・ディテクションがオンになっていて、シフト・レバーが「R（リバース）」に入っている場合、視覚と音による警告と、オーディオの音量低下によって運転者に警告を発します。

メモ：

駐車場では、左右に駐車している車両によって、接近している車両が遮られることがあります。センサが他の構造物や車両によって遮られた場合、システムは運転者に警告を発することはできません。

警告!

リヤ・クロス・パス・ディテクション（RCP）は、後退操作支援システムではありません。駐車場において、接近している車両を運転者が検知できるように補助することを目的としています。運転者は、RCP を使用している場合でも、バックの際に注意を怠らないでください。常に車両の後ろを注意深く確認し、自分の後方を見て、バックする前に歩行者、動物、他の車両、障害物、および死角を確認してください。これを怠ると、重傷や死亡事故につながる恐れがあります。

ブラインド・スポット・モード

ブラインド・スポット・アラート・ライトのみ

ブラインド・スポット・モニターが警告灯モードで作動している場合、BSM システムは検知された物体に基づいて、左側または右側のドア・ミラーに視覚警報を発します。ただし、システムがリヤ・クロス・パス・ディテクション・モードで動作している場合、物体が検知されると、システムは視覚と音の両方による警告を発します。警報が発せられる場合は、オーディオがミュート（無音）になります。

ブラインド・スポット・アラート警告灯／チャイム

ブラインド・スポット・モニターが警告灯／チャイム・モードで作動している場合、BSM システムは検知された物体に基づいて、左側または右側のドア・ミラーに視覚警報を発します。その後、運転者が方向指示器を作動させ、その方向が警告対象が存在する側と同じである場合は、チャイムが鳴ります。方向指示器を作動させたときに物体が検知され、それらが同じ側である場合は、視覚と音の両方による警告が発せられます。警報に加え、オーディオがオンになっている場合にはオーディオの音量もミュートされます。

メモ：

BSM システムによって警報が発せられる場合は、必ずオーディオの音量もミュートされます。

システムがリヤ・クロス・パス・ディテクションで作動している場合、物体が検知されると、システムは視覚と音の両方による警告を発します。音による警告が発せられる場合は、オーディオがミュート（無音）になります。方向指示器／非常点滅灯の状態は無視されます。リヤ・クロス・パス・ディテクションの場合は、常にチャイムが鳴ります。

ブラインド・スポット・アラート・オフ

BSM システムがオフの場合、BSM システムまたはリヤ・クロス・パス・ディテクション・システムの視覚または聴覚による警報は発せられません。

メモ：

BSM システムは、イグニッション・スイッチを切ったときに現在の動作モードを保存します。車両を始動させるたびに、以前に保存されたモードが呼び出されて使用されます。

ドアの取り外し

運転席ドアまたは助手席ドアを取り外すと、インストルメント・パネルに「Blind Spot Temporarily Unavailable（ブラインド・スポットが一時的に利用不可）」というメッセージが表示され、BSM システムが無効になります。システムの表示は、それ以前に Uconnect システム内で設定されていたブラインド・スポット・モードのままとなりますが、視覚または聴覚による警報は発せられません。ドアが取り外されている間は、イグニッション・サイクルごとにインストルメント・パネルに「Blind Spot Temporarily Unavailable（ブラインド・スポットが一時的に利用不可）」というポップアップが表示され、システムが無効であることが注意喚起されます。

両方のドアを取り付けると、システムは選択されていたモードで再び機能するようになります。

軽減動作を伴う前面衝突警報（FCW）- タイプ別装備

FCW システムは、前方衝突の可能性を検出した場合に、警告音と視覚的な警告（インストルメント・パネル・ディスプレイ内）を発し、場合によっては急ブレーキをかけて運転者に触覚による警告を出します。こうした警告の目的は、運転者が衝突の可能性に対応し、回避し、軽減操作を行うための十分な時間が得られるようにすることです。

メモ：

FCW は、前方検知センサやエレクトロニック・ブレーキ・コントローラ（EBC）からの情報を監視して、前方衝突の可能性を計算します。前方衝突の可能性があるとシステムが判断すると、運転者に聴覚と視覚による警告が発せられ、場合によっては急ブレーキをかけて触覚による警告を出します。

運転者がこうした段階的な警告に基づく対応を行わないと、次にシステムは限定的なレベルの自動ブレーキ作動で車両を減速させ、前方衝突の可能性に対して軽減動作を行います。運転者が警告に反応してブレーキを踏んでも、その制動力が衝突を回避するのに不十分であるとシステムが判断すると、システムは必要に応じて補正を行い制動力を増やします。

車速が 52km/h（32mph）未満で軽減動作を伴う FCW イベントが開始した場合、前方衝突の可能性を軽減するために、システムが最大限のブレーキをかけることがあります。軽減動作を伴う前面衝突警報イベントにより車両が完全に停止すると、システムは 2 秒間車両を停止状態に維持し、その後でブレーキを解除します。



FCW メッセージ

前方車両と衝突する可能性がなくなったとシステムが判断すると、警告メッセージが表示されなくなります。

メモ：

- FCW の最低作動速度は 3 mph (5 km/h)です。
- コース予測に基づいて、ガードレールまたは道路標識などの車以外の物体に対して、FCW 警報が作動することがあります。これは予想範囲内の作動であり、正常な FCW の作動および機能の一部です。
- FCW システムのテストを行うのは危険です。こうしたシステムの誤用を防止するため、1 回のキー・サイクル内で 4 回の自動的なブレーキ動作が発生すると、FCW の自動ブレーキの作動は次のキー・サイクルまで無効化されます。
- FCW システムはオン・ロード専用です。車両がオフ・ロードを走行する場合、FCW システムを無効化して、不要な警告を防止する必要があります。
- FCW は、頭上の物体、地面の反射、車両の進路にない物体、遠方の静止物、対向車、同じ速度以上の速度で走行している前方車両など、無関係な物体には反応しない場合があります。
- FCW が解除された場合は、ACC が解除された場合と同じように利用できないことを示す画面が表示されます。

警告!

前方衝突警告（FCW）は、衝突を回避したり、あらゆる種類の衝突可能性を検知したりする機能ではありません。まれに、トンネル、橋、ガードレールなど周囲の物体に反応することがあります。運転者には、ブレーキ、ハンドル操作、加速などで車両を制御して衝突を回避する責任があります。意図しないブレーキの反応があっても、アクセルをしっかりと踏み込むことで常時、運転者の操作が優先されます。ここに示す警告に従わないと、大きなけがや死亡事故につながる恐れがあります。

FCW の ON／OFF の切り替え

FCW の初期設定のステータスは「ON（オン）」で、この設定では、前方車両との衝突可能性について警告されます。

FCW 設定メニューは、Uconnect の設定から調整できます ⇨ ページ 150。

- FCW システムを「ON（オン）」にするには、FCW メニューで「Only Warning（警告のみ）」または「Warning and Braking（警告およびブレーキ）」を選択します。
- FCW メニューで「OFF（オフ）」を選択すると、FCW システムがオフになります。

メモ：

- FCW が「ON（オン）」の場合、前方車両との衝突可能性について警告されます。
- FCW を「OFF（オフ）」にすると、前方車両との衝突可能性が警告されなくなります。FCW が「OFF（オフ）」に設定されている場合、インストルメント・パネル・ディスプレイに「FCW OFF（FCW オフ）」と表示されます。
- FCW のステータスを「Only Warning（警告のみ）」に設定すると、前方衝突の可能性が発生した際に運転者がブレーキ操作を適切に行わなかった場合、アクティブ・ブレーキの自動制御やその他のブレーキ補助は行われません。
- FCW のステータスを「Warning and Braking（警告およびブレーキ）」に設定すると、警告音と警告表示を使用して前方車両との衝突のおそれをドライバーに警告し、自動ブレーキ作動を行います。
- システムは、イグニッションをオフにした後も「オン」設定を保持します。ドライバーが最後に選択した設定は保持されません。

FCW ブレーキ作動のステータスと感度

FCW の感度と自動ブレーキのステータスは、Uconnect システムでプログラムできます ⇨ ページ 150。

- Far（遠く）
  - FCW の感度を「Far（遠く）」設定にすると、システムは、前方車両との車間距離が長い時点で、警告音と警告表示を使用して前方車両との衝突のおそれをドライバーに警告できます。
  - 「Far（遠）」設定では、FCW による衝突のおそれに対する警告の発生数が増加することがあります。頻繁に警告されることを気にしない、慎重な運転者にお勧めの設定です。
- Medium（中）
  - FCW の感度を「Medium（中）」設定にすると、システムは、警告音と警告表示を使用して前方車両との衝突のおそれをドライバーに警告できます。

- Near（近く）
  - FCW の感度を「Near（近く）」設定にすると、システムは、前方車両との車間距離が短くなった時点で、警告音と警告表示を使用して前方車両との衝突のおそれをドライバーに警告できます。
  - この設定では、運転者の反応時間は「Far（遠く）」や「Medium（中）」の場合よりも短くなり、よりダイナミックなドライビングが可能になります。
  - 「Near（近）」設定では、FCW による衝突のおそれに対する警告の発生数が現象することがあります。頻繁に警告されたくない、ダイナミックまたはアグレッシブなドライビングを好む運転者にお勧めの設定です。

FCW 制限警告

インストルメント・パネル・ディスプレイに「ACC/FCW Limited Functionality（ACC/FCW の機能が制限されています）」または「ACC/FCW Limited Functionality Clean Front Windshield（ACC/FCW の機能が制限されているためフロントガラスの清掃が必要です）」と一時的に表示される場合は、FCW の機能が制限される状況が発生しているおそれがあります。車両は通常の状態で走行することはできますが、自動ブレーキが十分に使用できない場合があります。システムの性能を制限する状況がなくなると、システムは完全に性能を発揮する状態に戻ります。問題が解決できない場合は、正規ディーラーにお問い合わせください。

FCW 整備警告

システムがオフになると、インストルメント・パネルに次の警告が表示されます。

- ACC/FCW Unavailable Service Required（ACC／FCW 利用不可、整備を受けてください）
- Cruise/FCW Unavailable Service Required（クルーズ／FCW 利用不可、整備を受けてください）

これは、内部システム故障があることを示しています。通常の状態で走行することはできますが、正規ディーラーで点検を受けてください。

FCW センサ保護カバー

車両には、FCW センサを保護する保護カバーが装備されていますので、フロントガラスを降ろしている場合には必ず使用してください。カバーを取り付けるには、以下の指示に従ってください。

1. カバーの上部を固定して、ヘッダー部分を軸にして回転できるようにします。
2. カバーの下側を降ろし、押し込んで開口部がカバーされるようにします。
3. カバーが正しく固定されていることを確認します。

メモ：

フロントガラスを通常位置に戻す際には、必ずカバーを取り外してください。カバーをカーゴ・エリアに戻します。

清掃時の指示事項

フロントガラスを降ろして使用する際は、カバー内に埃や泥などがたまり、カメラ・レンズが曇る場合があります。モジュールを損傷したり、傷を付けたりしないように注意しながら、カメラ・レンズ、モジュール、内部カバーを清掃してください。

タイヤ空気圧モニタ・システム（TPMS）

タイヤ空気圧モニタ・システム（TPMS）は、プラカードに記載された冷間時の推奨タイヤ空気圧に基づいて、運転者にタイヤの空気圧が低くなっていることを警告します。

メモ：

タイヤがプラカードに記載された圧力に膨張するまで、パネル上の警告が点灯したままになります。

タイヤ空気圧は、外気温が 6.5°C（12°F）変わるごとに約 7kPa（1psi）変動します。つまり、外気温が下がると、タイヤ空気圧は低下します。タイヤ空気圧は、必ず冷間時のタイヤ空気圧に基づいて設定してください。冷間時のタイヤ空気圧とは、車両が 3 時間以上停車している状態のタイヤ空気圧、または 3 時間が経過した後で走行した距離が 1.6km（1 マイル）未満の空気圧を意味します。冷間時のタイヤ空気圧は、タイヤの側面に記載された最大空気圧を超えないようにしてください。また、タイヤ空気圧は車両走行中に上昇します。これは正常なので、上昇した空気圧を調整しないでください。

車のタイヤに適切に空気を入れる方法については、⇨ ページ 262 を参照ください。

TPMS は、低温の影響や自然なタイヤ空気圧の損失など、何らかの理由でタイヤ空気圧が低タイヤ空気圧警告灯を下回る場合に、運転者にタイヤ空気圧が低くなっていることを警告します。

そのような状況である限り、TPMS は運転者にタイヤ空気圧が低いことを警告し続けます。タイヤ空気圧がプラカード記載の冷間時の推奨タイヤ空気圧以上になるまで、警告は OFF になりません。低タイヤ空気圧警告（タイヤ空気圧モニタ・システム警告灯）が点灯したら、この TPMS 警告灯を消灯するには、タイヤ空気圧をプラカード記載の冷間時の推奨タイヤ空気圧まで上げる必要があります。

メモ：

暖まっているタイヤに空気を入れる場合、TPMS 警告灯を消灯するために、タイヤ空気圧をプラカードに記載され

た冷間時の推奨タイヤ空気圧よりさらに最大 28kPa（4psi）上昇させる必要があります。

システムが自動的に更新され、更新されたタイヤ空気圧をシステムが受信すると、TPMS 警告灯が消灯します。TPMS がこの情報を受信するには、車両を約 24km/h（15mph）を超える速度で最長 10 分間走行させてください。

たとえば、車両のプラカード記載の冷間時の推奨タイヤ空気圧（3 時間以上停車）が 227kPa（33psi）であるとします。周囲温度が 20°C（68°F）で測定タイヤ空気圧が 193kPa（28psi）のとき、気温が-7°C（20°F）に下がると、タイヤ空気圧は約 165kPa（24psi）に低下します。このタイヤ空気圧は、TPMS 警告灯が点灯するのに十分低いです。車両を走行させると、タイヤ空気圧が約 193kPa（28psi）に上昇する場合がありますが、TPMS 警告灯はまだ点灯したままです。この状況で、TPMS 警告灯を消灯するには、車両のプラカードに記載の冷間時の推奨タイヤ空気圧の値までタイヤに空気を入れるしかありません。

注意!

- TPMS は、純正タイヤとホイール用に最適化されています。TPMS の空気圧と警告は、車両に取り付けられたタイヤ・サイズに対して設定されています。サイズ、タイプ、またはスタイル（あるいはそのすべて）が同じでない交換タイヤを使用すると、好ましくないシステム操作が発生したり、センサが損傷したりする場合があります。TPMS センサは、市販のホイールを使用するように設計されておらず、そうすることでシステム性能が全般に低下する可能性があります。お客様は TPMS 機能が作動するように必ず純正ホイールを使用するようにしてください。

（続き）

注意!

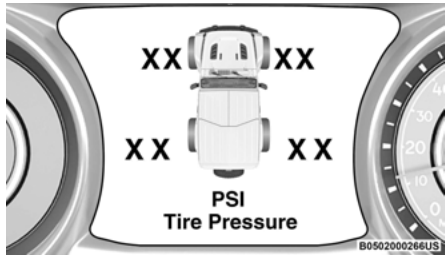
- 市販のタイヤ・シーラントを使用すると、タイヤ空気圧モニタ・システム（TPMS）のセンサが作動しなくなる場合があります。市販のタイヤ・シーラントの使用後は、お近くの正規ディーラーに車両をお持ちいただき、センサ機能の点検を受けることをお勧めします。
- タイヤ空気圧を点検して調節したら、必ずバルブ・ステム・キャップを取り付けてください。このキャップは、水分や汚れのバルブ・ステムへの混入を防ぎます。水分や汚れが入ると、TPMS センサが損傷することがあります。

メモ：

- TPMS は、タイヤの通常のお手入れおよびメンテナンスに代わるものではなく、タイヤの破損または状態を警告するためのものです。
- タイヤ充填警告または選択式タイヤ充填警告システムが装備されている場合を除き、タイヤ空気圧を調整する際に TPMS をタイヤ空気圧ゲージとして使用しないでください。
- タイヤ空気圧が著しく低下している状態で走行すると、タイヤが過熱し、タイヤの不具合につながるおそれがあります。タイヤ空気圧が低いと燃費も低下し、タイヤ・トレッドの寿命も短くなります。さらに、車の操作や制動能力にも影響が出る可能性があります。
- TPMS は通常のタイヤのメンテナンスに代わるものではないことに注意してください。空気圧の低下が TPMS 警告灯が点灯するレベルに達していない場合でも、正確なタイヤ空気圧ゲージを使用して、タイヤ空気圧を正しく保つのは運転者の責任です。
- 季節的な温度変化はタイヤ空気圧に影響を与えます。TPMS は実際のタイヤ空気圧を監視します。

システムの操作

タイヤ空気圧モニタ・システム（TPMS）は、無線技術を使用して、ホイール・リムに装着された電子センサでタイヤ空気圧レベルを監視しています。バルブ・ステムの一部として各ホイールに取り付けられたセンサによって、タイヤ空気圧の値がレシーバ・モジュールに送信されます。



タイヤ空気圧モニタ・システム・ディスプレイ

メモ：

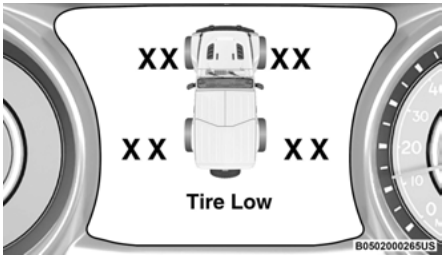
定期的に車両のすべてのタイヤの空気圧を確認して適正な空気圧に保つことは、特に重要です。

TPMS は、下記の部品で構成されます。

- レシーバ・モジュール
- 4 つのタイヤ空気圧モニタ・システム・センサ（フルサイズ・スペア・タイヤを装備している場合は 5 つ）
- インストルメント・パネルに表示される各種タイヤ空気圧モニタ・システムのメッセージ
- タイヤ空気圧モニタ・システム警告灯

タイヤ空気圧モニタ・システム低圧警告

使用中のロード・タイヤ 4 本のうち 1 本以上のタイヤ空気圧が低下した場合に、TPMS 警告灯がインストルメント・パネル内で点灯し、チャイムが鳴ります。また、インストルメント・パネルに「Tire Low（タイヤ空気圧が低い）」メッセージが 5 秒以上表示され、低タイヤ圧の値とタイヤごとの圧力値を示す図が異なる色で表示されます。



タイヤ空気圧モニタ・システム低圧警告

この警告が発生した場合、できるだけ早く停止し、圧力が低いタイヤ（インストルメント・パネルの図にあるさまざまな色のタイヤ）に、プラカードに記載された冷間時の推奨タイヤ空気圧まで空気を入れます。システムが更新されたタイヤ空気圧を受信すると、システムは自動的に更新されます。インストルメント・パネルのグラフィック表示にある圧力値は元の色に戻り、TPMS 警告灯は消灯します。

メモ：

暖まっているタイヤに空気を入れる場合、TPMS 警告灯を消灯するために、タイヤ空気圧をプラカードに記載された冷間時の推奨タイヤ空気圧よりさらに最大 28kPa（4psi）上昇させる必要があります。

TPMS がこの情報を受信するには、車両を約 24km/h（15mph）を超える速度で最長 10 分間走行させてください。

TPMS 整備警告

システム故障が検知されると、TPMS 警告灯が 75 秒間点滅し、その後点灯した状態になります。また、チャイムも鳴ります。さらに、インストルメント・パネルに「SERVICE TIRE PRESSURE SYSTEM（タイヤ空気圧システムの整備が必要です）」というメッセージが 5 秒間以上表示され、空気圧値の代わりにダッシュ（–）が表示され、どのセンサが受信していないか示します。

イグニッションを回してこれが繰り返される場合、システム故障がまだ解消されていません。システム故障が解消されると、TPMS 警告灯が点滅しなくなり、「SERVICE TIRE PRESSURE SYSTEM（タイヤ空気圧システムの整備が必要です）」メッセージが表示されなくなり、ダッシュの代わりに空気圧値が表示されます。システムの故障は、以下のいずれかの場合に発生する可能性があります。

- 電子装置による妨害電波または TPMS センサと同じ周波数の電波を発生する施設付近を走行した場合
- 電波に影響を与えるアクセサリ部品のカー・フィルムを何らかの形で設置した場合
- ホイールやホイール・ハウス周りに大量の雪や氷が付いた場合
- タイヤ・チェーンを装着した場合
- TPMS センサが装備されていないホイールまたはタイヤを使用している場合

適合するフル・サイズ・スペア・タイヤ装備車

1. 適合するフル・サイズのスペア・ホイールとタイヤ・アセンブリが車に装備されている場合は、タイヤ空気圧モニタ・センサが装備されており、低圧ロード・タイヤと交換したときに、タイヤ空気圧モニタ・システム（TPMS）が監視します。
2. 適合するフルサイズ・スペア・タイヤを低圧ロード・タイヤと交換した場合、次回イグニッション・スイッチを回すと、TPMS 警告灯が点灯し、チャイムが鳴り、グラフィックには異なる色で低圧タイヤ圧力値が表示されます。
3. ロード・タイヤのいずれも低タイヤ空気圧警告しきい値を下回っていなければ、24km/h（15mph）を超える速度で最長 10 分間車を走行させることで、TPMS 警告灯は消灯します。

選択可能タイヤ充填警告 タイプ別装備

STFA システムは、通常のタイヤ充填警告システムの一部として備えられているオプション機能です。このシステムの目的は、車両のフロントおよびリヤ・アクスル・タイヤの空気を入れたり抜いたりする圧力を選択できるようにすること、および車両のタイヤの空気を入れたり抜いたりするときにフィードバックを提供することです。

メモ：

STFA 機能を使用するには、ラジオのユーザー設定を使用してタイヤ充填警告機能を有効にする必要があります。

Uconnect システムのアプリ・メニューにある選択可能タイヤ充填警告のアプリケーションで、各アクスル設定に対して 1psi 刻みで XX～15psi の圧力範囲をスクロールさせて、フロントとリヤ両方のアクスル・タイヤ空気圧に対する圧力設定を選択できます。

XX = 車両プラカード圧力ラベルに表示されている、車両冷間時のフロントとリヤ・アクスルのプラカード圧力値。

Uconnect システム・アプリケーションで各アクスルに対して選択した圧力値は、プリセット圧力値として保存しておくこともできます。フロントとリヤ・アクスルに対して、最大 2 セットのプリセット圧力値を Uconnect システムに保存できます。フロントとリヤ・アクスルに対して、空気を入れたり抜いたりしたいタイヤ圧力を選択したら、1 回に 1 本のタイヤついて空気の出し入れを開始することができます。

メモ：

STFA システムでは、1 回に 1 本のタイヤのみ空気を入れたり抜いたりできます。

TPMS レシーバ・モジュールがタイヤ空気圧の変化を検出すると、システムが作動します。オートマチック・トランスミッション装備車両ではトランスミッションが「P（パーキング）」の状態、マニュアル・トランスミッション装備車両ではパーキング・ブレーキがかかった状態で、イグニッションが「ON/RUN（オン／走行）」モードになっている必要があります。非常点滅表示灯が点灯し、車両がタイヤ充填警告モードにあることを知らせます。

タイヤ充填警告モードに入ると、インストルメント・パネルにタイヤ空気圧画面が表示されます。タイヤの空気を入れたり抜いたりしている間に非常点滅表示灯が点灯しない場合、タイヤ空気圧モニタ・システム（TPMS）センサが作動しない位置にあり、TPMS センサ信号の受信が妨げられている場合があります。このような場合、車両を前方または後方へ少し移動させなければならないことがあります。

ホーンが鳴ることで、タイヤの空気を入れたり抜いたりする STFA ステータスが示されます。STFA が次の状態のとき、ホーンが鳴ります。

1. 選択した圧力に到達するとホーンが 1 回鳴り、タイヤの空気の出し入れが停止したことを知らせます。
2. タイヤ空気圧が高すぎるか低すぎると、ホーンが 3 回鳴ります。
3. 空気を十分に入れたり抜いたりすることで適正な選択した圧力レベルに到達すると、再びホーンが 1 回鳴ります。

TPMS 作動解除 – タイプ別装備

冬用ホイールとタイヤ・アセンブリを車両に取り付けた場合など、4 本すべてのホイールとタイヤ・アセンブリ（ロード・タイヤ）を TPMS センサを装備していないホイールとアセンブリに交換すると、TPMS を作動解除できます。

TPMS を作動解除するには、まず、4 本すべてのホイールとタイヤ・アセンブリ（ロード・タイヤ）をタイヤ空気圧モニタ・システム・センサを装備していないタイヤに交換します。次に、車両を 24km/h（15mph）を超える速度で 10 分間走行させます。TPMS のチャイムが鳴り、TPMS 警告灯が 75 秒間点滅した後、点灯したままの状態になります。インストルメント・パネルに「SERVICE TIRE PRESSURE SYSTEM（タイヤ空気圧システムの整備が必要です）」というメッセージが表示され、空気圧値の代わりにダッシュ（--）が表示されます。

次回イグニッション・キーを回したとき、TPMS はチャイムを鳴らしたり、インストルメント・パネルに「SERVICE TIRE PRESSURE SYSTEM（タイヤ空気圧システムの整備が必要です）」というメッセージを表示したりすることはありませんが、空気圧値の代わりにダッシュ（--）が表示されたままになります。

TPMS を再作動させるには、4 本すべてのホイールとタイヤ・アセンブリ（ロード・タイヤ）を TPMS センサを装備しているタイヤに交換します。次に、車両を 24km/h（15mph）を超える速度で最長 10 分間走行させます。TPMS のチャイムが鳴り、TPMS 警告灯が 75 秒間点滅した後、消灯します。インストルメント・パネルに「SERVICE TIRE PRESSURE SYSTEM（タイヤ空気圧システムの整備が必要です）」というメッセージが表示され、ダッシュの代わりに空気圧値が表示されます。次にイグニッション・スイッチを回したときに、システム故障は存在しないため「SERVICE TIRE PRESSURE SYSTEM（タイヤ空気圧システムの整備が必要です）」というメッセージは表示されません。

乗員保護拘束装置

最も重要な安全装置の 1 つに乗員を拘束するシートベルトとエアバッグがあります。

乗員保護拘束装置の機能

- シートベルト・システム
- 補助拘束装置（SRS）エアバッグ
- チャイルド・シート

このセクションで説明されている一部の安全機能は、一部のモデルでは標準装備されていますが、オプション装備のモデルもあります。標準装備されているか不確かな場合は、ジープ正規ディーラーでご確認ください。

安全に関する重要な注意事項

このセクションの説明は特に注意してお読みください。運転者と乗員の安全を守るためのシートベルト／エアバッグ・システムの正しい使用方法を説明しています。

次の要領で、エアバッグの作動により生じる危険を最小限にとどめてください。

1. 12 歳以下のお子さまには必ずシートベルトを着用させ、リヤ・シート付き車両のリヤ・シートに乗車させてください。



助手席サンバイザに貼付されている警告ラベル

2. 車両のシートベルトを適切に着用できるほど大きくないお子さまは、適切なチャイルド・シート、またはリヤ・シート位置のブースタ・シートを使用する必要があります ⇨ ページ 205。
3. やむをえず 2～12 歳のお子さまを（後ろ向きチャイルド・シートを使用せずに）助手席に座らせる場合には、シートをできるだけ後ろに移動させ、フロント・シートでの使用に適したチャイルド・シートを使用してください ⇨ ページ 205。
4. 肩部分のベルトをお子さまの背後や腕の下に絶対に通さないでください。
5. チャイルド・シートやジュニア・シートを適切に使用するため、添付されている製造メーカの説明書をお読みください。
6. 乗員は、必ず全員 3 点式シートベルトを正しく着用してください。
7. 運転席および助手席は、フロント・エアバッグが膨張するスペースを確保するために、運転に差し支えない程度に、できるだけ後方に移動させてください。
8. ドアまたはウインドウに寄りかからないでください。サイド・エアバッグ装備車の場合、その展開時には、乗員とドアの間のスペースでサイド・エアバッグが強い力で膨らみます。これにより乗員が負傷することがあります。

シートベルト・システム

運転に自信がある方も、短い距離を走行する場合も、シートベルトを使用してください。未熟なドライバーの起こした事故に巻き込まれることもあります。事故は、近距離、長距離にかかわらず発生する可能性があります。

交通事故の調査によって、シートベルトが衝突時に人命を救い、事故による傷害の程度を軽減していることがわかっています。車外へ投げ出されてしまうような事故では、重傷を負う可能性が高くなります。シートベルトはこうした車外への投げ出しから乗員を守り、車内での打撲傷の危険を低減します。車内のすべての乗員が常にシートベルトを使用していることを確認してください。

シートベルト非着用高度警告システム

運転席と助手席 BeltAlert - タイプ別装備



シートベルト警告は、運転者と助手席の乗員（助手席シートベルト警告を装備している場合）にシートベルトの着用を警告する機能です。シートベルト警告機能は、イグニッション・スイッチが「START」位置または「ON/RUN」位置になっているときに作動します。

初期通知

イグニッション・スイッチを最初に「START」位置または「ON/RUN」位置にしたときに運転者がシートベルトを着用していない場合、チャイムが数秒間鳴ります。イグニッション・スイッチを最初に「START」または「ON/RUN」位置にしたとき、運転者または助手席乗員（助手席シートベルト警告を装備している場合）のシートベルトが外されていると、両方のフロント・シートベルトが着用されるまで、シートベルト警告灯が点灯し続けます。助手席に乗員がいない場合、助手席シートベルト警告は作動しません。

BeltAlert 警告シーケンス

車両の移動速度が規定の車速範囲を超えた状態で運転者または助手席乗員（助手席シートベルト警告を装備している場合）がシートベルトを外すと、シートベルト警告の警告作動が開始します（助手席シートベルト警告を装備している場合）（助手席に乗員がいないと助手席シートベルト警告は作動しません）。シートベルト警告の警告作動は、シートベルト警告灯の点滅と断続的なチャイムによって開始されます。シートベルト警告の警告作動が終了すると、シートベルトが着用されるまでシートベルト警告灯は点灯し続けます。シートベルト警告の警告作動は、運転者または助手席に着座している乗員のシートベルトのバックルが差し込まれるまで、車速に応じて繰り返し作動することがあります。運転者はすべての乗員にシートベルトを着用するよう指示してください。

着用状態の変化

車両の走行中に運転者または助手席乗員（助手席シートベルト警告を装備している場合）がシートベルトを外した場合、再びシートベルトが着用されるまで、シートベルト警告の警告作動が継続されます。

助手席に乗員がいない場合、助手席シートベルト警告は作動しません。シートベルト警告は、ペットまたはその他の物体を助手席に載せた場合や、シートを折りたたんだ場合（タイプ別装備）に作動することがあります。ペットは、ペット・ハーネスでリヤ・シート（タイプ別装備）に拘束するか、ペット・キャリヤに入れシートベルトで固定することをお勧めします。また、荷物は正しく収納してください。

ラップ／ショルダ・ベルト

すべてのシートには 3 点式シートベルトが装備されています。

シートベルト・ウェビングのリトラクタがロックされるのは、急停止や衝撃を受けたときのみです。通常の状態では、肩部分のシートベルトは、自由に引き出すことができます。しかし衝突時にはシートベルトがロックし、車内で衝突したり車外に投げ出されたりする危険を低減します。

警告!

- エアバッグだけでは衝突の際に重傷を負う恐れがあります。エアバッグは、シートベルトと共に使用したときに初めて効果をもたらします。エアバッグがまったく展開しない衝突もあります。エアバッグが装備されていても、必ずシートベルトを使用してください。
- シートベルトを正しく使用していないと、衝突の際に運転者および乗員が重傷を負う恐れがあります。事故の状況によっては、車内各部や他の乗員にぶつかったり、車外に放り出されることも考えられます。運転者やすべての乗員が、シートベルトを正しく使用していることを常に確認してください。
- 車の内外に関係なく、カーゴ・エリアへの乗車は危険です。衝突の際にカーゴ・エリアに乗っていると、

(続き)

警告!

重傷または死亡事故につながる危険性が高くなります。

- シートとシートベルトがない場所には人を乗せないでください。
- すべての乗員がシートベルトを正しく使用してシートに座っていることを確認してください。運転者を含む乗員は、エアバッグの有無に関わらず、常にシートベルトを着用し、衝突した場合に重傷を負う、あるいは死亡する危険性を最小限にする必要があります。
- シートベルトの着用が適切でないと、衝突の際に大けがをする恐れがあります。内臓に傷害を受けたり、体がシートベルトからすり抜けてしまうことがあります。安全にシートベルトを使用し、乗員の安全を守るためにも、ここでの説明に従ってください。
- 1 本のシートベルトを 2 人で使用しないでください。1 本のベルトを 2 人で使用すると、衝突の際お互いにぶつかり合い、双方とも重傷を負うことがあります。3 点式シートベルトまたはラップ・ベルトは、体の大きさに関係なく、必ず 1 人でご使用ください。

警告!

- 腰を通るベルトの位置が高すぎると、衝突の際にけがをする危険性が高くなります。シートベルトの衝撃を丈夫な腰と骨盤ではなく、腹部で受けることになります。シートベルトはできるだけ低い位置に、ぴったりと着用してください。
- シートベルトがねじれていると乗員が正しく保護されないことがあります。衝突の際などベルトが体に

(続き)

警告!

食い込むことがあります。シートベルトがねじれておらず、体に対して平らになっていることを確認してください。シートベルトのねじれが直らない場合は、直ちにジープ正規ディーラーで修理を受けてください。

- シートベルトを間違ったバックルに留めると、体が正しく保護されません。腰を通るベルトが高くなり、内臓に傷害を与える恐れがあります。シートベルトは、正しいバックルに差し込んでください。
- シートベルトが緩すぎると正しく保護されません。突然の停止時に体が大きく前方に移動して、けがをする恐れが高くなります。シートベルトは、体に密着するように使用してください。
- 脇の下でシートベルトを使用するのは危険です。衝突の際に体が車内で叩き付けられ、頭部や首にけがをする危険性が高くなります。また、脇の下に通したシートベルトによって内臓に傷害を負う恐れもあります。肋骨は、肩の骨ほど強くありません。衝突の力を最も強い肩の骨で受け止めるように、シートベルトは肩の上を通してください。
- 肩を通るベルト部分を体の後ろにまわすと、衝突の際にけがから身を守ることができません。肩を通るベルトを使用していない場合、衝突の際に頭部を打ちつける危険が高くなります。3 点式シートベルトは、必ず腰回りと肩にかけて使用してください。
- 磨耗したり、切れかかったりしているシートベルトは衝突の際に破断し、乗員を保護できません。シートベルトは定期的に点検し、切れや磨耗、緩んだ部品などがないことを確認してください。損傷している部品は、直ちに交換してください。シートベルト・システムを分解したり、改造したりしないでください。

(続き)

警告!

車両が衝突事故に遭った場合、またはシートベルトやリトラクタの状態に疑問がある場合は、ジープ正規ディーラーで車両の検査を受けてください。

ラップ／ショルダ・ベルトの使い方

1. 車に乗って、ドアを閉めます。シートに深く座り、シートの位置を調節します。
2. シートベルト・ラッチ・プレートは、フロント・シートの背もたれの側方上部、およびリヤ・シートの横にあります。ラッチ・プレートを持ち、シートベルトを引き出します。シートベルトが腰を覆うのに十分なだけラッチ・プレートをシートベルト上でスライドさせます。



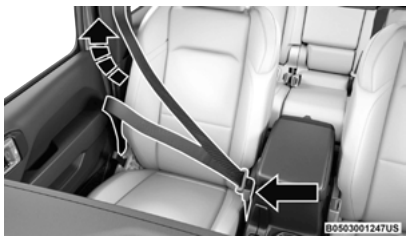
ラッチ・プレートの引き出し

3. シートベルトの長さが十分になったら、ラッチ・プレートをカチッという音がするまでバックルに差し込みます。



バックルへのラッチ・プレートの差し込み

4. ラップ・ベルトを、腹部の下の腰の低い位置に密着するように使用します。ラップ・ベルトの緩みをなくすには、ショルダ・ベルトを少し引き上げます。ラップ・ベルトがきつすぎるときに緩めるには、ラッチ・プレートを傾けてラップ・ベルトを引っ張ります。シートベルトをぴったりと使用することにより、衝突の際に体がシートベルトをすり抜けてしまう危険性が低くなります。



ラップ・ベルトの位置調整

5. 肩を通るベルトは肩と胸のまわりの隙間が最小限になるように使用してください。緩みは苦しくない程度にし、首にかからないようにします。リトラクタが肩を通るベルトの余分な緩みを巻き取ります。
6. シートベルトを外すには、バックルの赤いボタンを押します。シートベルトは、自動的に収納位置に引き込まれます。シートベルトが完全に戻らない場合は、ラッチ・プレートを一度下に引いてから放すときれいにベルトが巻き取られます。

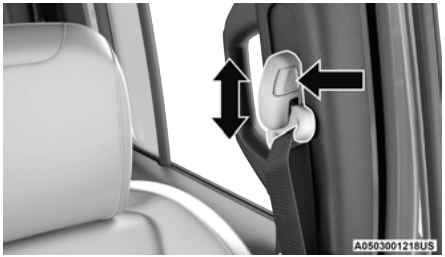
ラップ／ショルダ・ベルトのねじれ修正手順

次の手順に従って、3 点式シートベルトのねじれを修正します。

1. ラッチ・プレートをできるだけアンカ・ポイントの近くへ移動させます。
2. ラッチ・プレートから約 6～12 インチ (15～30 cm) 上を持ち、シートベルト・ウェビングを 180 度ねじってラッチ・プレートのすぐ上に折り目を付けます。
3. ラッチ・プレートを上方へスライドさせ、ベルトの折れた部分を通過させます。ベルトの折れた部分は、ラッチ・プレートの上端部にあるスロットに入らなければいけません。
4. ラッチ・プレートを、ベルトの折れた部分が通過し、シートベルトにねじれがなくなるまでスライドさせてください。

アジャスタブル上部ショルダ・ベルト・アンカ

運転席シートおよび助手席シートのショルダ・ベルトでは、その上部を上下に調節することによって、首から離れた位置でシートベルトを着用することができます。アンカ・ボタンを押すか強く握ってアンカを緩め、次にアンカを上下に動かして最適な位置に調節します。



アジャスタブル上部アンカ

目安として、平均よりも身長が低い場合はショルダ・ベルト・アンカを低めに、身長が高い場合は高めに調節することをお勧めします。アンカ・ボタンを緩めた後は、アンカを上下方向に軽く引っ張り、固定されていることを確認してください。

メモ：

アジャスタブル上部ショルダ・ベルト・アンカには、イージー・アップ機能が備わっています。この機能により、リリース・ボタンを押したり強く握ったりしなくても、ショルダ・ベルト・アンカを上の位置に調整できます。ショルダ・ベルト・アンカが固定されているかを確認するには、ロックされる位置までベルト・アンカを下方向に引っ張ります。

警告!

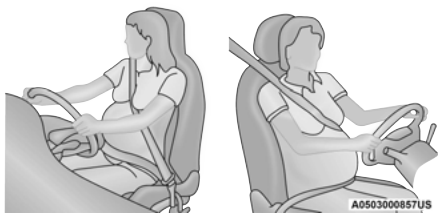
- シートベルトの着用が適切でないと、衝突の際に大けがをする恐れがあります。内臓に傷害を受けたり、体がシートベルトからすり抜けてしまうことがあります。安全にシートベルトを使用し、乗員の安全を守るためにも、ここでの説明に従ってください。

(続き)

警告!

- 肩を通るベルトは肩と胸のまわりの隙間が最小限になるように使用してください。緩みは苦しくない程度にし、首にかからないようにします。リトラクタが肩を通るベルトの余分な緩みを巻き取ります。
- シートベルトを正しく着用しないと、衝突時の安全ベルトの有効性を損ないます。
- 必ず車両が停止しているときに、シートベルトの高さを調整してください。

妊娠中の方のシートベルト着用



妊娠中の方のシートベルト着用

妊娠中の方を含め、シートベルトはすべての乗員が着用するようにしてください。万が一事故に遭った場合でも、シートベルトを着用することによって母親と胎児への負傷の可能性が低減されます。

ラップ・ベルトは、下腹部に密着させ、強固な腰骨部に当たるように着用してください。ショルダ・ベルトは、胸部を横切るように、首から離して着用してください。ショルダ・ベルトは、絶対に背中の後ろに回したり、腕の下に通したりしないでください。

シートベルト・プリテンショナ

フロント・シートおよび 2 列目ドア側シートのシートベルト・システムにはプリテンショナ装置が装備されており、衝突時にシートベルトのたるみを取り除くように設計されています。この装置は、衝突時に早めにシートベルトのたるみを取り除くことによってシートベルトの性能を向上させます。プリテンショナは、チャイルド・シートに座っているお子さまを含むあらゆる体形の人に対して有効です。

メモ：

これらの装置は、乗員による正しいシートベルトの使用に代わるものではありません。シートベルトは、必ず正しい位置で体に密着させて使用してください。

プリテンショナは、乗員保護拘束装置コントローラ（ORC）により作動します。エアバッグ同様、プリテンショナは 1 回の使い切り部品です。作動したプリテンショナまたはエアバッグは、すぐに交換する必要があります。

衝突エネルギー低減機能

フロントおよび 2 列目ドア側シートのシートベルト・システムには衝突エネルギー低減機能があり、衝突時にけがをする危険性をさらに低減させるのに役立ちます。シートベルト・システムはリトラクタ・アセンブリを備えており、ベルトを緩める力を制御するように設計されています。

補助拘束装置（SRS）

このセクションで説明されている一部の安全機能は、一部のモデルでは標準装備されていますが、オプション装備のモデルもあります。標準装備されているか不確かな場合は、ジープ正規ディーラーでご確認ください。

エアバッグ・システムは衝突時に乗員を保護します。乗員保護拘束装置コントローラ(ORC)は、エアバッグ・システムの電気構成部品に関係する内部回路と相互接続配線を監視します。お客様の車両には、以下のエアバッグ・システム構成部品が装備されている場合があります。

エアバッグ・システムの構成部品

- 乗員保護拘束装置コントローラ(ORC)
- エアバッグ警告灯
- ステアリング・ホイールおよびコラム
- インストルメント・パネル
- ニー・インパクト・ボルスタ(タイプ別装備)
- 運転席および助手席エアバッグ
- シートベルト・バックル・スイッチ
- サプリメンタル・サイド・エアバッグ
- 正面および側面衝突センサ
- シートベルト・プリテンショナ
- シート・レール位置センサ(タイプ別装備)

エアバッグ警告灯



乗員保護拘束装置コントローラ(ORC)は、イグニッション・スイッチが「START(始動)」位置または「ON/RUN(オン／走行)」位置になっているときに、エアバッグ・システムの電子部品の作動可能状態をモニタします。イグニッション・スイッチが「OFF」位置または「ACC」位置のときは、エアバッグ・システムは作動せず、膨らみません。

ORC に内蔵されたバックアップ電源供給システムにより、バッテリが上がったり、エアバッグの展開前に切り離されたりした場合でも、エアバッグ・システムを展開させることが可能です。

ORC は、イグニッション・スイッチが最初に「ON/RUN(オン／走行)」位置になったときに、約 2～8 秒間インストルメント・パネルのエアバッグ警告灯を点灯させて自己点検を行います。自己点検後、エアバッグ警告灯は消灯します。ORC がシステム内のどこかに不具合を検知すると、エアバッグ警告灯は瞬間的または継続的に点灯します。最初の始動後に警告灯が再度点灯した場合は、チャイムを 1 回鳴らして警告を発します。

ORC には診断機能も備わっており、エアバッグ・システムに影響を与える可能性のある不具合が検出された場合はインストルメント・パネル内のエアバッグ警告灯が点灯します。この診断機能は、不具合の性質の記録も行います。エアバッグ・システムはメンテナンス・フリーですが、次のような場合には直ちにジープ正規ディーラーにて点検を受けてください。

- イグニッション・スイッチが最初に「ON/RUN(オン／走行)」位置になったときに、エアバッグ警告灯が 4～8 秒間点灯しない場合
- イグニッションを「ON」位置にした後 2～8 秒経ってもエアバッグ警告灯が点灯したままの場合
- 運転中、エアバッグ警告灯が断続的に点滅または点灯する場合

メモ:
スピードメータやタコメータなどエンジン関連の計器が機能しない場合、乗員保護拘束装置コントローラ(ORC)も無効になっていることがあります。その場合、エアバッグが作動せず、衝突時に乗員が守られない危険があります。直ちにジープ正規ディーラーでエアバッグ・システムを適切に整備してください。

警告!

インストルメント・パネルのエアバッグ警告灯が点灯していると、衝突時にエアバッグ・システムによる保護が得られない場合があります。イグニッション・スイッチを最初に ON にしたときに、警告灯が点灯(電球点検のため)しなかったり、車両始動後も点灯し続けたり、運転中に点灯したときには、直ちにジープ正規ディーラーでエアバッグ・システムの点検を受けてください。

エアバッグ予備警告灯



エアバッグ警告灯に異常が検知され、それが補助拘束装置(SRS)に影響を与える可能性があると、インストルメント・パネルのエアバッグ予備警告灯が点灯します。エアバッグ予備警告灯は、異常が解消されるまで点灯し続けます。さらに、エアバッグ予備警告灯が点灯し、異常が検知されていることを運転者に警告するチャイムが 1 回鳴ります。運転中、エアバッグ予備警告灯が断続的に点滅または点灯し続ける場合、直ちにジープ正規ディーラーで車両の整備を受けてください ⇨ ページ 98。

フロント・エアバッグ

この車両には、運転席および助手席の両方にフロント・エアバッグとラップ／ショルダ・ベルトが装備されています。フロント・エアバッグは、拘束装置であるシートベルトを補助するものです。運転席のフロント・エアバッグは、ステアリング・ホイールの中心に内蔵されています。助手席のフロント・エアバッグは、グローブ・ボックスの上のインストルメント・パネルに内蔵されています。「SRS AIRBAG」または「AIRBAG」という文字がエアバッグ・カバーの上に浮き彫り加工されています。



フロント・エアバッグ／ニー・インパクト・ボルスタの位置

1 - 運転席および助手席のフロント・エアバッグ
2 - 運転席および助手席ニー・インパクト・ボルスタ

警告!

- ステアリング・ホイールやインストルメント・パネルに接近し過ぎると、フロント・エアバッグが展開した際に重傷または死亡事故につながるおそれがあります。エアバッグが膨らむには、ある程度の空間が必要です。ステアリング・ホイールやインストルメント・パネルに向かってゆったりと腕を伸ばせるくらいに深く座ってください。
- 作動可能なエアバッグで保護されている助手席には、絶対に後ろ向きのチャイルド・シートを使用しないでください。お子様の死亡または重傷を負う原因となります。
- お子さまを乗せる場合は、必ずリヤ・シートに取り付けたチャイルド・シートに座らせてください。これが衝突時に最も保護される位置です。

(続き)

警告!

- 助手席に取り付けた後ろ向きのチャイルド・シートにお子さまを乗せる必要がある場合は、助手席側フロント・エアバッグの作動を解除する必要があります。チャイルド・シートを使用する場合は、エアバッグ作動解除表示灯が点灯していることを必ず確認してください。助手席をできるだけ後方に下げ、チャイルド・シートがダッシュボードに接触しないようにしてください。
- 助手席のフロント・エアバッグが展開すると、後ろ向きのチャイルド・シートのお子さまなど、12 歳以下のお子さまに重傷事故または死亡事故が起きる恐れがあります。

運転席および助手席のフロント・エアバッグ機能

フロント・エアバッグ・システムでは、乗員保護拘束装置コントローラ(ORC)が正面衝突センサ(タイプ別装備)または他のシステム構成部品から情報を受信して、衝突の程度と種類に応じて展開するよう設計されています。運転席フロント・エアバッグ・システムは単一段階式エアバッグです。助手席フロント・エアバッグ・システムは多段階式フロント・エアバッグです。エアバッグを展開する必要のある衝撃が起きると、第 1 段階のインフレータが直ちに作動します。多段階式エアバッグの場合、軽度の衝突時には低エネルギー出力が使用されます。高エネルギー出力は、重度の衝突時に使用されます。

また、モデルによっては、運転席や助手席のシートベルトが留められているかどうかを検出する運転席／助手席シートベルト・バックル・スイッチが装備されています。シートベルト・バックル・スイッチにより、助手席多段階式フロント・エアバッグの膨張率が調節されます。

モデルによっては、シートの位置に基づいて高度フロント・エアバッグの膨張率を調節する運転席／助手席フロント・シート・レール位置センサが装備されています。

警告!

- インストルメント・パネルまたはステアリング・ホイールのエアバッグ・カバーの上または近くに物を置かないでください。衝突時にエアバッグが膨張した際に、これらの物によってけがをする恐れがあります。
- エアバッグ・カバーの周辺やその上に物を置かないでください。またエアバッグ・カバーを手で開けないでください。エアバッグを傷つけるだけでなく、万一の際に機能せず負傷する恐れがあります。エアバッグ・クッションの保護用カバーは、エアバッグが作動した場合のみ開く設計になっています。
- エアバッグだけでは衝突の際に重傷を負う恐れがあります。エアバッグは、シートベルトと共に使用したときに初めて効果をもたらします。エアバッグがまったく展開しない衝突もあります。エアバッグが装備されていても、必ずシートベルトを使用してください。

フロント・エアバッグの作動

フロント・エアバッグは、シートベルトを補助することにより、保護効果を高めるように設計されています。フロント・エアバッグでは、後面衝突、側面衝突、または横転の際の負傷の危険性を減らす効果は期待できません。フロント・エアバッグは、すべての正面衝突で作動するわけではありません。このような衝突には、ポールとの衝突、トラックへのもぐりこみ、斜めオフセット衝突など、車両にかなりの損傷が生じる衝突などがあります。

その一方で、衝撃の種類と位置によっては、車両前部の損傷が軽微でも初期減速度が著しい衝突においては、フロント・エアバッグが作動することもあります。

エアバッグ・センサは時間に対する車両の減速度を計測するため、車速および損傷だけで、エアバッグ展開の要否を判断することはできません。

シートベルトは、あらゆる衝突で乗員を保護するためだけでなく、膨張するエアバッグから離れた位置に乗員を保持するためにも必要です。

乗員保護拘束装置コントローラ(ORC)がフロント・エアバッグの作動に必要な衝撃を検知すると、インフレータ・ユニットに信号を送ります。フロント・エアバッグは、大量の無害なガスにより膨張します。

エアバッグが完全に膨張すると、ステアリング・ホイール・ハブのトリム・カバーとインストルメント・パネルの助手席側上部が外れて分離します。フロント・エアバッグは、まばたきよりも短時間で完全に膨らみます。膨張したフロント・エアバッグは、運転者と助手席の乗員を受け止めた後、直ちに収縮します。

助手席側エアバッグ無効機能 – タイプ別装備

フロント・シートにチャイルド・シートを取り付けなければ**ならない**場合、このシステムでは助手席側高度フロント・エアバッグを無効(OFF)にできます。助手席側高度フロント・エアバッグを無効(OFF)にするのは、どうしてもフロント・シートにチャイルド・シートを取り付けなければならない場合のみにしてください。12 歳以下のお子さまは、できるだけリヤ・シートでシートベルトを正しく使用させるようにしてください。衝突事故の統計によると、お子さまはフロント・シートよりもリヤ・シートでチャイルド・シートに座らせたほうが、より安全であることが確認されています ⇨ ページ 205。

警告!

- 「DISABLED (OFF)(無効(オフ))」では、助手席側高度フロント・エアバッグは作動解除され、衝突時に展開しません。
- 「DISABLED (OFF)(無効(オフ))」では助手席側高度フロント・エアバッグは、シートベルトを補助することで助手席の保護効果を高めることはしません。
- オーバーヘッド・スポーツ・バーの助手席側エアバッグ「DISABLED (OFF)(無効(オフ))」表示灯 t が点灯し、助手席側高度フロント・エアバッグが「DISABLED (OFF)(無効(オフ))」であることを示していない限り、助手席にチャイルド・シートを装着しないでください。
- シートベルトを正しく使用していないと、衝突の際に運転者および乗員が重傷を負う恐れがあります。事故の状況によっては、車内各部や他の乗員にぶつかったり、車外に放り出されることも考えられます。運転者やすべての乗員が、シートベルトを正しく使用していることを常に確認してください。

助手席側高度フロント・エアバッグは、インストルメント・パネル・ディスプレイ・メニューの該当する設定を選択することによって、有効(ON)または無効(OFF)にできます。

助手席側エアバッグ無効機能には、以下のものが含まれます。

- 乗員保護拘束装置コントローラ(ORC)
- 助手席側エアバッグ無効(OFF)表示灯 - オーバーヘッド・スポーツ・バーにある黄色の表示灯
- 助手席側エアバッグ有効(ON)表示灯 - オーバーヘッド・スポーツ・バーにある黄色の表示灯
- エアバッグ警告灯 - インストルメント・パネル・ディスプレイにある黄色の警告灯



助手席側エアバッグ表示灯

乗員保護拘束装置コントローラ(ORC)は、イグニッション・スイッチが「START(始動)」位置または「ON/RUN(オン/走行)」位置になっているときに、エアバッグ・システムの電子部品の作動可能状態をモニタします。ORC は、イグニッション・スイッチを最初に「START(始動)」または「ON/RUN(オン/走行)」位置にしたとき、オーバーヘッド・スポーツ・バーの助手席側エアバッグ無効(OFF)表示灯と助手席側エアバッグ有効(ON)表示灯を約 5～8 秒間点灯させ、自己点検を行います。自己点検が終わると表示灯が点灯し、助手席側高度フロント・エアバッグの状態を運転者と助手席乗員に伝えます。次のような場合、直ちにジープ正規ディーラーでエアバッグ・システムを適切に整備してください。

- イグニッションを最初に「START(始動)」または「ON/RUN(オン/走行)」位置にしたとき、どちらの表示灯も自己点検のために点灯しない。
- 車両を始動した後、両方の表示灯が点灯し続ける。
- 車両を始動した後、両方の表示灯が消灯し続ける。

- 走行中に両方の表示灯が点灯する。
- 走行中に両方の表示灯が消灯する。

自己点検が終了すると、どちらかの助手席側エアバッグ表示灯のみが点灯します。

警告!

助手席側エアバッグ表示灯に問題があることを示す上記のいずれかの状況が発生している場合、助手席側高度フロント・エアバッグは最後に選択されていた状態（無効または有効）のままになります。

助手席側エアバッグ無効（OFF）表示灯 - オーバーヘッド・スポーツ・バーにある

助手席側エアバッグ無効（OFF）表示灯は、助手席側高度フロント・エアバッグが解除されていることを運転者と助手席乗員に伝えます。助手席側エアバッグ無効（OFF）表示灯が点灯している場合、衝突時に助手席側高度フロント・エアバッグが展開しないことを示しています。助手席側エアバッグ無効（OFF）表示灯が点灯していないときは、助手席側高度フロント・エアバッグが解除されていると思わ**ないでください**。

助手席側エアバッグ有効（ON）表示灯 - オーバーヘッド・スポーツ・バーにある

助手席側エアバッグ有効（ON）表示灯は、助手席側高度フロント・エアバッグが作動可能な状態であることを運転者と助手席乗員に伝えます。助手席側エアバッグ有効（ON）表示灯が点灯している場合、エアバッグの展開を要する衝撃が発生すると助手席側高度フロント・エアバッグが展開することを示しています。助手席側エアバッグ有効（ON）表示灯が点灯していない限り、助手席側高度フロント・エアバッグが作動すると見なさ**ないでください**。

警告!

- 作動可能なエアバッグで保護されている助手席には、絶対に後ろ向きのチャイルド・シートを使用しないでください。お子様の死亡または重傷を負う原因となります。
- お子さまを乗せる場合は、必ずリヤ・シートに取り付けたチャイルド・シートに座らせてください。これが衝突時に最も保護される位置です。
- 助手席に取り付けた後ろ向きのチャイルド・シートにお子さまを乗せる必要がある場合は、助手席側フロント・エアバッグの作動を解除する必要があります。チャイルド・シートを使用する場合は、エアバッグ作動解除表示灯が点灯していることを必ず確認してください。助手席をできるだけ後方に下げ、チャイルド・シートがダッシュボードに接触しないようにしてください。
- 助手席のフロント・エアバッグが展開すると、後ろ向きのチャイルド・シートのお子さまなど、12 歳以下のお子さまに重傷事故または死亡事故が起きる恐れがあります。
- 12 歳以下のお子さまには必ずシートベルトを着用させ、リヤ・シート付き車両のリヤ・シートに乗車させてください。

（続き）

助手席側高度フロント・エアバッグを無効（OFF）にする

助手席側高度フロント・エアバッグを無効（OFF）にするには、ステアリング・ホイールの上下矢印ボタンを押して、インストルメント・パネルにあるインストルメント・パネル・ディスプレイのメイン・メニューにアクセスし、以下の作業を行います。

アクション	情報
「Vehicle Set-Up（車両設定）」まで上下にスクロールします	
車両のステアリング・ホイールの OK ボタンを押して、「Vehicle Settings（車両設定）」を開きます	

アクション	情報
ステアリング・ホイールの矢印ボタンを使って上下にスクロールし、「Security（セキュリティ）」を選択します	
ステアリング・ホイールの OK ボタンを押して、「Security（セキュリティ）」を選択します	
ステアリング・ホイールの OK ボタンを押して、「Passenger AIRBAG（助手席側エアバッグ）」を選択します	
「Passenger AIRBAG OFF（助手席側エアバッグ OFF）」（OFF OFF）まで上下にスクロールします	**メモ：** 以前に助手席側高度フロント・エアバッグを有効（ON）にしていた場合は初期設定で「ON」になるので、下にスクロールして「OFF」を選択する必要があります。
ステアリング・ホイールの OK ボタンを押して、「Passenger AIRBAG OFF（助手席側エアバッグ OFF）」（OFF OFF）を選択します	
上下にスクロールして、確定するために「YES（はい）」を選択します	
ステアリング・ホイールの OK ボタンを押して、「YES（はい）」を選択します	**メモ：** この操作を 1 分以内に行わないと、この選択内容が無効になり、手順を最初から繰り返さなければならなくなります。
	チャイムが 1 回鳴り、助手席側エアバッグ無効（OFF）OFF 表示灯が 4～5 秒間点灯し、助手席側高度フロント・エアバッグが無効になったことを通知します。 助手席側エアバッグ無効（OFF）OFF 表示灯は常時点灯し続け、助手席側高度フロント・エアバッグが無効（OFF）になっていることを運転者と助手席乗員に伝えます。

上記の表の作業に従うことで、助手席側高度フロント・エ アバッグが無効（OFF）になります。助手席側エアバッグ 無効（OFF）表示灯が点灯している場合 OFF 、衝突時に助手席側高度フロント・エアバッグが展開しないことを示しています。

助手席側高度フロント・エアバッグを有効(ON)にする

ステアリング・ホイールの上下矢印ボタンを押して、インストルメント・パネルにあるインストルメント・パネル・ディ スプレイのメイン・メニューにアクセスし、以下の作業を 行ないます。

アクション	情報
「Vehicle Set-Up(車両設定)」まで上下にスクロールします	
車両のステアリング・ホイールの OK ボタンを押して、「Vehicle Settings(車両設定)」を開きます	
ステアリング・ホイールの矢印ボタンを使って上下にスクロールし、「Security(セキュリティ)」を選択します	
ステアリング・ホイールの OK ボタンを押して、「Security(セキュリティ)」を選択します	
ステアリング・ホイールの OK ボタンを押して、「Passenger AIRBAG(助手席側エアバッグ)」を選択します	
「Passenger AIRBAG ON(助手席側エアバッグ ON)」(= ON)まで上下にスクロールします	**メモ:** 以前に助手席側高度フロント・エアバッグを無効(OFF)にしていた場合は初期設定で「OFF」になるので、下にスクロールして「ON」を選択する必要があります。
ステアリング・ホイールの OK ボタンを押して、「Passenger AIRBAG ON(助手席側エアバッグ ON)」(ON)を選択します	
ステアリング・ホイールの OK ボタンを押して、「Yes(はい)」を選択します	**メモ:** この操作を 1 分以内に行わないと、この選択内容が無効になり、手順を最初から繰り返さなければならなくなります。
	チャイムが 1 回鳴り、助手席側エアバッグ有効(ON) 表示灯が 4〜5 秒間点灯し、助手席側高度フロント・エアバッグが有効になったことを通知します。 助手席側エアバッグ有効(ON) 表示灯は常時点灯し続け、助手席側高度フロント・エアバッグが有効(ON)になっていることを運転者と助手席乗員に伝えます。

上記の表の作業に従うことで、助手席側高度フロント・エアバッグが有効（ON）になります。オーバーヘッド・スポーツ・バーの助手席側エアバッグ有効（ON）表示灯 が 点灯している場合、エアバッグの展開を要する衝撃が発生すると助手席側高度フロント・エアバッグが展開することを示しています。

警告!

- 作動可能なエアバッグで保護されている助手席には、絶対に後ろ向きのチャイルド・シートを使用しないでください。お子様の死亡または重傷を負う原因となります。
- お子さまを乗せる場合は、必ずリヤ・シートに取り付けたチャイルド・シートに座らせてください。これが衝突時に最も保護される位置です。
- 助手席に取り付けた後ろ向きのチャイルド・シートにお子さまを乗せる必要がある場合は、助手席側フロント・エアバッグの作動を解除する必要があります。チャイルド・シートを使用する場合は、エアバッグ作動解除表示灯が点灯していることを必ず確認してください。助手席をできるだけ後方に下げ、チャイルド・シートがダッシュボードに接触しないようにしてください。
- 助手席のフロント・エアバッグが展開すると、後ろ向きのチャイルド・シートのお子さまなど、12 歳以下のお子さまに重傷事故または死亡事故が起きる恐れがあります。
- 12 歳以下のお子さまには必ずシートベルトを着用させ、リヤ・シート付き車両のリヤ・シートに乗車させてください。

ニー・インパクト・ボルスタ

ニー・インパクト・ボルスタは、運転者と助手席乗員の膝を保護するとともに、フロント・エアバッグの効果を高める姿勢に保ちます。

警告!

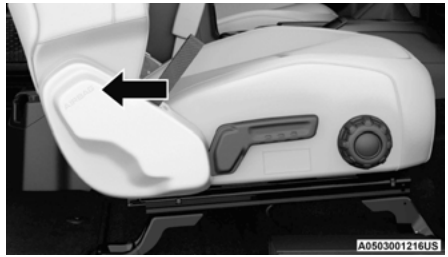
- ニー・インパクト・ボルスタにドリルで穴を開けたり、切断したり、改造したりすることは絶対にしないでください。
- ニー・インパクト・ボルスタに警告灯やステレオ、CB無線などのアクセサリ類を取り付けないでください。

サプリメンタル・サイド・エアバッグ

Supplemental Seat-Mounted Side Air Bags(サプリメンタル・シート・マウント・サイド・エアバッグ)(SAB) - タイプ別装備

この車両には、モデルによってサプリメンタル・シート・マウント・サイド・エアバッグ（SAB）が装備されています。サプリメンタル・シート・マウント・サイド・エアバッグ（SAB）が装備されている場合、以下の情報を参照してください。

サプリメンタル・シート・マウント・サイド・エアバッグ（SAB）はフロント・シートのドア側に内蔵されています。SAB が装備されている場合、シートのドア側のラベルまたはシート・トリムに、「SRS AIRBAG」または「AIRBAG」というマークが縫い付けられています。



サプリメンタル・シート・マウント・サイド・エアバッグのラベル

SAB が装備されている場合は、SAB はシートベルトやボディ構造による負傷の軽減に加え、特定の側面衝突時に乗員が負傷する危険性を低減するのに役立ちます。

SAB が展開するときは、シート・バックのトリム・カバーのドア側の縫い目が開きます。SAB は、シートの縫い目を裂いて展開し、乗員とドアの間の空間で膨張します。SAB は非常に速く強い力で作動するため、乗員が正しく座っていなかったり、SAB が膨張する空間に物が置いてある場合は、乗員が負傷する恐れがあります。お子さまの場合は、エアバッグの展開による負傷の危険性がさらに高まります。

警告!

後付けのシート・カバーを使用したり、体とサイド・エアバッグの間に物を置かないでください。十分な性能が得られなかったり、置いてあった物が身体に当たって負傷する恐れがあります。

サプリメンタル・シート・マウント・サイド・エアバッグ・インフレータブル・カーテン(SABIC)- タイプ別装備

この車両には、モデルによってサプリメンタル・サイド・エアバッグ・インフレータブル・カーテン(SABIC)が装備されています。サプリメンタル・サイド・エアバッグ・インフレータブル・カーテン(SABIC)が装備されている場合、以下の情報を参照してください。

サプリメンタル・サイド・エアバッグ・インフレータブル・カーテン(SABIC)はウィンドウ上部に内蔵されています。SABIC を覆うトリムには、「SRS AIRBAG」または「AIRBAG」というラベルが付いています。



サプリメンタル・サイド・エアバッグ・インフレータブル・カーテン(SABIC)のラベル位置

SABIC(タイプ別装備)は、シートベルトや車体構造による潜在的な負傷の軽減に加え、特定の側面衝突時におけるフロントおよびリヤ・シートのドア側乗員の頭部などへの負傷の危険性を軽減するうえで役立ちます。

SABIC は下向きに展開され、ドアウィンドウを覆います。膨張した SABIC は、ヘッドライナの周囲を外に向かって押し出し、窓を覆います。SABIC は強い力で膨張するため、乗員がシートベルトを着用せず正しく座っていなかったり、SABIC が膨張する空間に物が置いてある場合は、乗員が負傷する恐れがあります。お子さまの場合は、エアバッグの展開による負傷の危険性がさらに高まります。

SABIC(タイプ別装備)は、特定の側面衝突時にドアウィンドウから車両の乗員の体の一部またはすべてが飛び出す危険性を軽減するうえで役立ちます。

警告!

- SABIC の展開を妨げる高さに装置を取り付けたり、物や荷物を積み重ねたりしないでください。SABIC が収納されており SABIC 展開範囲となるドアウィンドウ上を覆うトリム付近には、障害物を置かないでください。
- SABIC が意図されたとおりに機能するように、車両のルーフを変形させるようなアクセサリを取り付けないでください。車両には後付サンルーフを取り付けないでください。車両ルーフに設置する際に、固定用部品(ボルトまたはスクリュ)を必要とするようなルーフ・ラックを取り付けないでください。車両ルーフには、絶対に穴をあけないでください。

側面衝突

サイド・エアバッグは、特定の側面衝突時に起動するよう設計されています。乗員保護拘束装置コントローラ(ORC)は、特定の側面衝突時におけるサイド・エアバッグの展開が適切であるかどうかを、衝突の程度と種類に応じて判断します。ORC は側面衝突センサを使用して、発生した衝突に対して適切な応答を決定します。システムは、サイド・エアバッグによる乗員保護が必要な衝撃に対して、車両の衝突した側のサイド・エアバッグを作動させるよう調整されています。側面衝突では、サイド・エアバッグはそれぞれ独立して展開します。左側の衝突では左側のサイド・エアバッグのみが展開し、右側の衝突では右側のサイド・エアバッグのみが展開します。車両の損傷自体は、サイド・エアバッグが展開するべきかどうかの十分な指標とはなりません。

サイド・エアバッグは、すべての側面衝突で展開するわけではありません。車内に影響を及ぼさないような特定の角度での衝突や一部の側面衝突では、サイド・エアバッグは展開しません。サイド・エアバッグは、フロント・エアバッグが展開する場合でも、角度のあるまたはオフセットした正面衝突の際に展開する場合があります。

サイド・エアバッグは、シートベルトの補助的な拘束装置です。サイド・エアバッグは、人間が 1 回まばたきをする時間もかからずに展開します。

警告!

- 乗員またはお子さまがサイド・エアバッグに接近し過ぎていると、重傷を負ったり、死にいたる恐れがあります。乗員とお子さまがドア、ドアウィンドウ、またはサイド・エアバッグが膨らむ範囲に寄りかかったり眠ったりしないようにしてください。お子さまをチャイルド・シートに座らせている場合も寄りかからないように注意してください。
- シートベルト(および適切な場合はチャイルド・シート)はあらゆる衝突から乗員を保護するために必要です。また、シートベルトは膨張するサイド・エアバッグから離れた位置に乗員を保持するためにも役立っています。サイド・エアバッグから最大限保護されるように、乗員はシートベルトを必ず適切に着用し、シートに背中を付けてまっすぐ座ってください。お子さまは、お子さまの体格に合ったチャイルド・シートまたはブースタ・シートに必ず正しく座らせてください。

警告!

- サイド・エアバッグが膨らむにはある程度の空間が必要です。ドアまたはウインドウに寄りかからないでください。シートの中央にまっすぐ座ってください。
- 展開中、サイド・エアバッグのすぐ近くにいると、重傷や死亡事故につながる恐れがあります。
- サイド・エアバッグだけでは衝突の際に重傷を負う恐れがあります。サイド・エアバッグは、シートベルトを適切に着用しているときに初めて効果をもたらします。サイド・エアバッグがまったく展開しない衝突もあります。サイド・エアバッグが装備されていても、必ずシートベルトを使用してください。

メモ:
エアバッグのカバーは周囲の内装と見分けがつきませんが、万一のときには開いてエアバッグが展開します。

エアバッグ・システムの構成部品

メモ:
乗員保護拘束装置コントローラ(ORC)は、電動エアバッグ・システムの電気構成部品に関係する内部回路と相互接続配線を監視します。

- 乗員保護拘束装置コントローラ(ORC)
- エアバッグ警告灯
- ステアリング・ホイールおよびコラム
- インストルメント・パネル
- ニー・インパクト・ボルスタ(タイプ別装備)
- 運転席および助手席エアバッグ
- シートベルト・バックル・スイッチ
- サプリメンタル・サイド・エアバッグ
- 正面および側面衝突センサ
- シートベルト・プリテンショナ
- シート・レール位置センサ(タイプ別装備)

エアバッグが作動したとき

フロント・エアバッグは、展開後すぐに収縮するように設計されています。

メモ:
フロントまたはサイド・エアバッグは、衝突のレベルによっては作動しないことがあります。これはエアバッグ・システムの故障ではありません。

衝突によりエアバッグが作動すると、次のような事態が起こることがあります。

- エアバッグが膨張するとき、エアバッグの素材により乗員がすり傷を負ったり、皮膚が赤くなったりすることがあります。エアバッグによるすり傷は、ロープなどによる摩擦で起きるもの、またはカーペットや体育館の床で滑ったときにできるもの(擦過傷)と同じものです。化学物質との接触によるものではありません。一時的なもので、通常は短期間で治癒するものです。ただし、数日たっても良くならないときや水ぶくれができたときには、直ちに医師の診察を受けてください。
- エアバッグが収縮するとき、煙のような粉末が発生することがあります。この粉末は、エアバッグ膨張のために無害なガスが発生するときの副産物です。この粉末が、皮膚、目、鼻、のどなどを刺激することがあります。皮膚や目に刺激を感じたら、冷水で洗い流してください。鼻やのどがひりひりするときは、空気が新鮮な場所に移動してください。それでも刺激を感じるようであれば、医師の診察を受けてください。粉末が衣服に付着した場合は、衣服の表示に従ってクリーニングしてください。

エアバッグが作動した後は、その車を運転しないようにしてください。次に衝突に巻き込まれた際に、エアバッグが機能を果たしません。

警告!

一度作動したエアバッグおよびシートベルト・プリテンショナは、次の衝突時には作動しません。直ちにエアバッグ、シートベルト・プリテンショナ、シートベルト・リトラクタ・アセンブリをジープ正規ディーラーで交換してください。乗員保護拘束装置コントローラの整備も受けてください。

メモ:
- エアバッグのカバーは周囲の内装と見分けがつきませんが、万一のときには開いてエアバッグが展開します。
- 衝突した場合には、直ちにジープ正規ディーラーに整備を依頼してください。

高度事故時反応システム

衝突時に、車両通信ネットワークおよび電源には問題がない場合、衝撃の性質に応じて、乗員保護拘束装置コントローラ(ORC)は高度事故時反応システムを作動して次の機能を実行するかどうかを判断します。

- エンジンへの燃料供給停止(タイプ別装備)
- 電動モータへのバッテリ電力供給の停止(タイプ別装備)
- ハザード警告灯の点滅(バッテリ電力が切れるまで)

- 室内灯の点灯。室内灯は、バッテリ電源がなくなるまで、または高度事故時反応システムの介入から 15 分間点灯し続けます。
- パワー・ドア・ロックの解錠

ご使用の車両は、高度事故時反応システムに反応して以下の他の機能のいずれかを実行するように設計されていることもあります。

- フューエル・フィルタ・ヒータをオフにする、HVAC ブロア・モータをオフにする、HVAC サーキュレーション・ドアを閉じる
- 以下のコンポーネントへのバッテリ電力供給を停止する。
  - エンジン
  - 電動モータ（タイプ別装備）
  - 電動パワー・ステアリング
  - ブレーキ・ブースタ
  - 電動パーキング・ブレーキ
  - オートマチック・トランスミッション・ギヤ・セレクタ
  - ホーン
  - フロント・ワイパ

メモ：
事故の後は、バッテリーの消耗を避けるために、必ずイグニッションを停止 (オフ) 位置にしてください。システムをリセットしてエンジンを始動する前に、エンジン・ルーム内やエンジン・ルームおよび燃料タンク付近の地面に燃料漏れがないか、車両を十分に点検してください。燃料漏れがなく、車両の電気装置（ヘッドライトなど）に損傷がない場合は、以下の手順でシステムをリセットしてください。疑わしい場合は、ジープ正規ディーラーにお問い合わせください。

高度事故時反応システムのリセット手順

事故後に高度事故時反応システム機能をリセットするには、イグニッション・スイッチをイグニッションの「START」または「ON/RUN」からイグニッションの「OFF」に変更する必要があります。システムをリセットしてエンジンを始動する前に、エンジン・ルーム内やエンジン・ルームおよび燃料タンク付近の地面に燃料漏れがないか、車両を十分に点検してください。

事故後、リセット手順を実行しても車両が始動しない場合、車両をジープ正規ディーラーまでけん引し、点検を行って、高度事故時反応システムのリセットを実施してください。

エアバッグ・システムのメンテナンス

警告!

- エアバッグ・システムを改造すると、万一のときに作動しない恐れがあります。必要なときにエアバッグ・システムが作動せず、負傷する恐れがあります。ステアリング・ホイール・ハブ・トリム・カバーやインストルメント・パネルの助手席側上部にバッジやステッカーなどを貼ったり、構成部品や配線を改造しないでください。フロント・バンパまたは車体構造を改造したり、アクセサリ部品のサイド・ステップまたはランニング・ボードを装着したりしないでください。
- お客様自身の手でエアバッグ・システムを修理することは危険です。車の整備を依頼するときは、整備士などにエアバッグ・システムが装備されていることを必ず伝えてください。

(続き)

警告!

- エアバッグ・システムの部品は改造しないでください。改造を加えると、エアバッグが誤って膨張したり正常に機能しなかったりすることがあります。エアバッグ・システムの整備を受けるには、ジープ正規ディーラーに整備をご依頼ください。トリム・カバーやクッション付きのシートの整備（シート取り付けボルトの取り外しまたは緩め／締め付け）が必要な場合は、ジープ正規ディーラーに整備をご依頼ください。使用できるシート・アクセサリは、メーカ認定済みのものだけです。

事象データ・レコーダ（EDR）

この車は、事象データ・レコーダ（EDR）を装備しています。EDR の主な目的は、衝突または衝突に近い状況（エアバッグの展開または道路の障害物に当たるなど）が起こった際、車両のシステム作動状況を把握するのに役立つデータを記録することです。EDR は、車両のダイナミックスと安全システムに関連するデータを短時間（通常、30 秒以下）の間記録するように設計されています。この車の EDR は、次のデータを記録するように設計されています。

- 車両の各種システムの作動状況
- 運転席または助手席シートベルトがバックルに差し込まれていた（着用されていた）かどうか
- 運転者がアクセル・ペダルやブレーキ・ペダルをどの程度踏み込んでいたか、またはまったく踏み込んでいなかったかどうか
- 車両の走行速度

これらのデータにより、衝突やけがの発生時の状況がわかりやすくなります。

メモ :
EDR データは、重要な衝突状況が発生した場合のみ車両で記録されます。通常の運転条件下ではデータは記録されません。また、個人情報（氏名、性別、年齢、衝突の場所）などは記録されません。ただし、法的機関などの他の関係者は事故調査中に通常取得される個人識別データと組み合わせてこの EDR データを使用する場合があります。

EDR に記録されたデータを読み取るには、専用の装置が必要で、車両または EDR にアクセスする必要もあります。車のメーカに加え、専用の装置を持っている法的機関などの他の関係者は、車両または EDR にアクセスできる場合に情報を読み取ることができます。

チャイルド・シート – お子さまを安全に乗せるために



助手席サンバイザに貼付されている警告ラベル

車内では、乳幼児も含めて全員が常にシートベルトを着用してください。EC 指令 2003/20/EC では、すべての EC 諸国に対し、シートの適切な使用を求めています。

身長が 1.5m に満たない 12 歳以下のお子さまは、できるだけリヤ・シートでシートベルトを正しく締めて乗車させるようにしてください。衝突事故の統計によると、お子さまはフロント・シートよりもリヤ・シートでチャイルド・シートに座らせたほうが、より安全であることが確認されています。

警告!

- 作動可能なエアバッグで保護されている助手席には、絶対に後ろ向きのチャイルド・シートを使用しないでください。お子様の死亡または重傷を負う原因となります。
- お子さまを乗せる場合は、必ずリヤ・シートに取り付けたチャイルド・シートに座らせてください。これが衝突時に最も保護される位置です。
- 助手席に取り付けた後ろ向きのチャイルド・シートにお子さまを乗せる必要がある場合は、助手席側フロント・エアバッグの作動を解除する必要があります。チャイルド・シートを使用する場合は、エアバッグ作動解除表示灯が点灯していることを必ず確認してください。助手席をできるだけ後方に下げ、チャイルド・シートがダッシュボードに接触しないようにしてください。
- 助手席のフロント・エアバッグが展開すると、後ろ向きのチャイルド・シートのお子さまなど、12 歳以下のお子さまに重傷事故または死亡事故が起きる恐れがあります。
- 衝突の際には、チャイルド・シートなどにより保護されていないお子さまは、一瞬のうちに車内で放り出された状態になってしまう恐れがあります。衝突時にお子さまをひざの上で抱いて支えるには想像以上の力が必要となるため、どんなに力が強い方でも、お子さまを抱えきれません。お子さまのみならず他の乗員も重傷を負ったり死亡にいたる恐れがあります。お子さまの大きさに合った適正なチャイルド・シートで保護してください。

チャイルド・シートには、幼児用からある程度大きなお子さま用まで、様々なサイズとタイプがあります。お子さまはできる限り後ろ向きにお乗せください。後ろ向きは、衝

突の際にお子さまをもっとも保護します。必ずチャイルド・シートの取扱説明書を読んで、お子さまに適切なシートかどうかを確認してください。チャイルド・シートの取扱説明書とチャイルド・シートに貼り付けられているすべてのラベルに記載された指示事項と注意事項すべてを十分に読んで従ってください。

欧州において、チャイルド・シートの特性は規制 ECE-R44 によって規定されています。この中でチャイルド・シートは、次の 5 つの体重グループに分類されています。

グループ	年齢	体重グループ	サイズ・クラス／固定
グループ 0	9 か月までの表示	10 kg まで	ISO/L1 ISO/L2 ISO/R1
グループ 0+	2 歳までの表示	13kg まで	ISO/R1 ISO/R2 ISO/R3
グループ 1	8 か月～4 歳までの表示	9～18 kg	ISO/R2 ISO/R3 ISO/F2 ISO/F2X ISO/F3
グループ 2	3～7 歳までの表示	15～25 kg	–
グループ 3	6～12 歳までの表示	22～36 kg	–

ECE R44 規格は ECE R-129 規定を補足するもので、i-Size チャイルド・シートの特性を定義しています（詳細については、「i-Size チャイルド・シートの使用に適した助手席」の項目を参照してください。）すべての拘束装置は、チャイルド・シートにしっかりと固定され絶対に外れることがないラベル上に、管理マークと一緒に型式認定データが記載されている必要があります。Lineaccessori MOPAR®では、各体重グループ向けのチャイルド・シートを用意しています。Jeep®の車両向けに特別に設計されているこれらの装置を推奨します。

警告!

非常に危険です！作動可能なエアバッグの前に後ろ向きのチャイルド・シートを取り付けないでください。詳細については、サンバイザに貼られたラベルを参照してください。衝突の度合いに関係なく、事故時のエアバッグの展開により乳幼児が重傷を負ったり死亡する恐れがあります。お子さまを乗せる場合は、必ずリヤ・シートに取り付けたチャイルド・シートに座らせてください。これが衝突時に最も保護される位置です。

警告!

助手席に取り付けた後ろ向きのチャイルド・シートにお子さまを乗せる必要がある場合は、「Setup（セットアップ）」メニューから助手席側フロント・エアバッグとサイド・バッグ（バージョン／市場に応じてタイプ別装備）の作動を解除する必要があります。作動解除はインストルメント・パネルに点灯した警告灯によって確認できます。助手席をできるだけ後方に下げ、チャイルド・シートがダッシュボードに接触しないようにしてください。

「ユニバーサル」チャイルド・シード

チャイルド・シートをこの車両に取り付ける場合は事前に、シート位置ごとのチャイルド・シートの使用法を参照して、使用するチャイルド・シートの種類がシート位置に適合するかどうか確認してください ⇨ ページ 213。

- 以下のセクションの図は、ユニバーサル・チャイルド・シートの各タイプの例です。一般的な取り付け方法が示されています。チャイルド・シートを取り付ける際は、このタイプのシートに添付されているメーカの説明書に必ず従ってください。
- ISOFIX アンカ付きのチャイルド・シートは、車両のシートベルトを使用せずに、車両に取り付けることができます。

グループ 0 および 0+

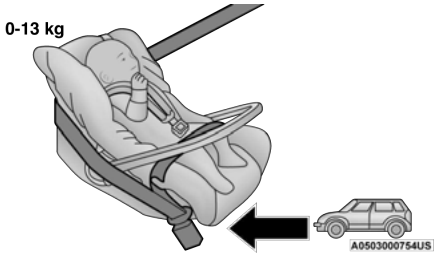


図 A

安全に関する専門家は、できるだけお子さまを車両内で後ろ向きに座らせることを推奨しています。体重が 13kg 未満の幼児は、図 A に示すチャイルド・シートのような後ろ向きシートに座らせる必要があります。このタイプのチャイルド・シートは、幼児の頭部をサポートし、急な減速や衝突時に首にストレスがかかりません。

後ろ向きチャイルド・シートは、図 A に示すにように車両のシートベルトで固定します。お子さまは、チャイルド・シート自体のハーネスで拘束します。

警告!

- 作動可能なエアバッグの前に後ろ向きのチャイルド・シートを取り付けないでください。助手席のフロント・エアバッグが展開すると、後ろ向きのチャイルド・シートに座っているお子さまを含む、12 歳以下のお子さまが重傷を負ったり、死亡したりするおそれがあります。
- フロント・シートで後ろ向きのチャイルド・シートを使用する場合は、必ずフロント・エアバッグの作動を解除してください。

グループ 1

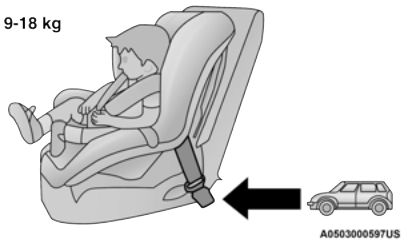


図 B

体重が 9kg～18kg のお子さまは、図 B に示すようなグループ 1 の前向きシートに乗せることができます。このタイプのチャイルド・シートは、グループ 0 または 0+のチャイルド・シートが小さすぎる大きなお子さま向けです。

(続き)

グループ 2

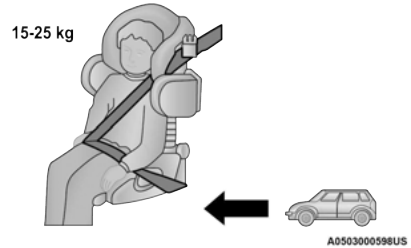


図 C

体重が 15kg～25kg で、グループ 1 のチャイルド・シートを使用するには大きすぎるお子さまは、グループ 2 のチャイルド・シートを使用することができます。

図 C に示すよう、グループ 2 のチャイルド・シートを使用することにより、ショルダ・ベルトがお子さまの首ではなく胸にかかり、ラップ・ベルトが腹部ではなく骨盤に密着するようにシートベルトを装着できます。

グループ 3

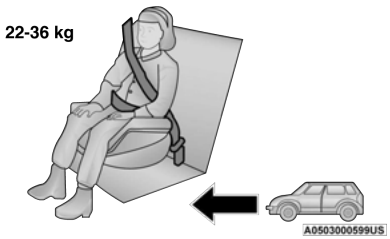


図 D

体重が 22kg～36kg で、大人用ショルダ・ベルトを無理なく着用できるだけの身長があるお子さまは、グループ 3 のチャイルド・シートを使用することができます。グループ 3 のチャイルド・シートでは、お子さまの骨盤の位置にラップ・ベルトを使用します。お子さまの身長は、ショルダ・ベルトが首ではなく、胸部にかかるだけの高さが必要です。

図 D は、グループ 3 チャイルド・シートのリヤ・シートでの正しい使用例を示しています。

警告!

- チャイルド・シートは、正しく取り付けないと機能しません。衝突の際にチャイルド・シートが外れ、お子さまが重傷を負ったり、死亡にいたる恐れがあります。チャイルド・シートの取り付けは、必ずチャイルド・シート・メーカの指示に従ってください。

(続き)

警告!

- 車両にチャイルド・シートを取り付けたら、車両のシートを前後に移動させないでください。これにより、チャイルド・シートの取り付け部が緩むことがあります。車両シートの位置を調整する場合は、チャイルド・シートを外してから行ってください。車両シートの位置を調整してから、チャイルド・シートを取り付けてください。
- チャイルド・シートをご使用にならない場合は、シートベルトまたは ISOFIX アンカで確実に固定するか、または車から降ろしてください。固定していない状態で車内にそのままにしないでください。急停止または事故の際に、シート・バックや乗員にぶつかり、乗員がけがをする恐れがあります。

大きなお子さまのシートベルトの使用

身長が 1.5m 以上あるお子さまは、チャイルド・シートではなくシートベルトを着用することができます。

以下の簡単な 5 段階のテストを使用して、お子さまがシートベルトを適切に使用できるか、またはシートベルトを正しく装着するにはまだグループ 2 または 3 のチャイルド・シートを使用する必要があるかご判断ください。

1. お子さまは、車のシート・バックに対していっぱいまで奥に座れますか？
2. お子さまの膝は、奥いっぱいに座ったままで車のシート前部を越えて無理なく曲がりますか？

3. ショルダ・ベルトは、お子さまの首と腕の間で肩を横切りますか？
4. ベルトのラップ部分はなるべく低い位置にあって、お子さまの腹部ではなく大腿部に触れていますか？
5. お子さまは、全行程中このような状態で座っていられますか？

これらの質問に対する回答に「いいえ」がある場合、お子さまはまだこの車ではグループ 2 または 3 のチャイルド・シートを使用する必要があります。お子さまが 3 点式シートベルトを使用している場合、ときどきベルトの状態を点検し、シートベルト・バックルが固定されていることを確認して下さい。お子さまが動いたりかがんだりするとベルトの位置がずれます。ショルダ・ベルトがお子さまの顔や首にあたる場合は、お子さまを車の中央寄りに座らせるようにしてください。または、ブースタ・シートを使用してお子さまが正しくシートベルトを着用できるようにしてください。

警告!

ショルダ・ベルトをお子さまの脇の下に通したり、背中の後ろに回したりすることは絶対に避けてください。衝突の際、ショルダ・ベルトはお子さまを適切に守ることができず、重傷を負うまたは死亡する場合があります。お子様は必ず 3 点式シートベルトの肩と腰の部分を正しく装着しなければなりません。

ISOFIX チャイルド・シート

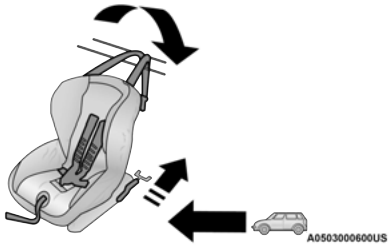


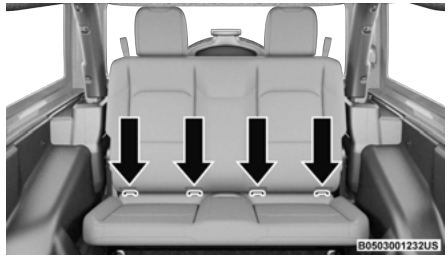
図 E

車両には ISOFIX というチャイルド・シート・アンカ機構が装備されています。このシステムにより、ISOFIX を備えたチャイルド・シートを車両のシートベルトを使用せずに取り付けることができます。ISOFIX システムには、シート・クッションの奥、シート・バックと接する位置にある 2 つのロア・アンカとシート位置の後ろにある 1 つのトップ・テザー・アンカが備わっています。

体重グループ 1 のユニバーサル ISOFIX チャイルド・シートの例が図 E に示されています。他の体重グループ用の ISOFIX チャイルド・シートもご利用頂けます。

ISOFIX アンカの配置

ロア・アンカは丸いバーで、シート・バックとシート・クッション後部の境目にあり、シート・バック上のアンカのシンボルの下にあります。チャイルド・シートを取り付けるためにリヤ・シートを見ると、すぐに目に入ります。シート・バックとシート・クッション間のすき間に指を差し込むと、すぐに見つかります。



ISOFIX アンカ（2 ドア・モデル）



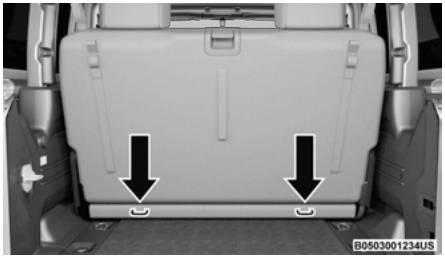
ISOFIX アンカ（4 ドア・モデル）

テザー・アンカの配置

2 ドア・モデル

各リヤ・シートの後ろにはテザー・ストラップ・アンカがあり、フロア付近に位置しています。

6



テザー・ストラップ・アンカ(2ドア・モデル)

4ドア・モデル



テザー・ストラップ・アンカは、ドア側各シートのシートバックの背面にあります。



テザー・ストラップ・アンカ(4ドア・モデル)

ISOFIX チャイルド・シートには、両側に堅いバーが付いています。それぞれ、ロア・アンカに取り付けるコネクタが付いており、アンカへの取り付け具合を締めることができます。前向きチャイルド・シートおよび一部の後ろ向きのチャイルド・シートには、テザー・ストラップが備えられている場合もあります。テザー・ストラップには、端部にトップ・テザー・アンカに取り付けるフックが付いており、アンカへの取り付け後にストラップを締めることができます。

センタ・シートの ISOFIX

2ドア・モデル

警告!

この車には、センタ・シート位置はありません。リヤ・シートのセンタ位置にチャイルド・シートを取り付けるのに、センタ位置の下部 ISOFIX アンカを使用しないでください。

4ドア・モデル

警告!

- この車両には、センターの ISOFIX やテザー・アンカは装備されていません。どのタイプの ISOFIX チャイルド・シートについても、この位置への取り付けは認められていません。センタ・シート位置には、テザー・ストラップを使用して前向きチャイルド・シートを取り付けないでください。
- センタ・シート位置にチャイルド・シートを取り付けるには、シートベルトを使用してください。
- 複数のチャイルド・シートの取り付けに同一のロア・アンカを使用しないでください。一般的な取扱説明書は ⇨ ページ 209 を参照ください。

ISOFIX チャイルド・シートの取り付け

チャイルド・シートをこの車両に取り付ける場合は事前に、シート位置ごとのチャイルド・シートの使用法テーブル ⇨ ページ 213 を参照して、使用するチャイルド・シートの種類がシート位置に適合するかどうか確認してください。

チャイルド・シートを取り付ける際には、必ずチャイルド・シート・メーカの指示に従ってください。すべてのチャイルド・シートが上述のように取り付けられるわけではありません。

ユニバーサル ISOFIX チャイルド・シートを使用する場合、ECE R44 基準(リリース R44/03 またはそれ以上)「Universal ISOFIX(ユニバーサル ISOFIX)」と印されている、認定チャイルド・シートのみをご使用いただけます。

ISOFIX チャイルド・シートの取り付け:

1. 車両のアンカにコネクタを簡単に付けられるように、チャイルド・シートのロア・コネクタとテザー・ストラップのアジャスタを緩めます。
2. チャイルド・シートをそのシート位置のロア・アンカの間に置きます。2 列目シートがリクライニングできる場合は、収まりを良くするためにシートをリクライニングさせたり、ヘッド・レスト(調節可能な場合)を上げたりしてもかまいません。リヤ・シートを車内で前後に動かせる場合、最後方に動かしてチャイルド・シートのための空間を作ることができます。また、フロント・シートを前方に動かして、チャイルド・シートのための空間を広げることもできます。
3. チャイルド・シートのコネクタを、選択したシート位置のロア・アンカに取り付けます。
4. チャイルド・シートにテザー・ストラップが付いている場合は、それをトップ・テザー・アンカに接続します。

テザー・アンカーの取り付け方法については、⇨ページ 212 を参照してください。

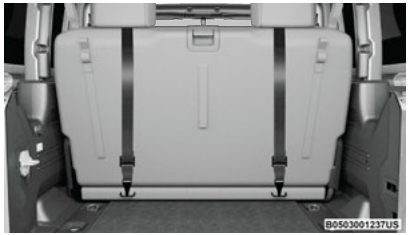
5. チャイルド・シートをシートの後方および下方へ押しながら、ストラップをすべて締め付けます。チャイルド・シート・メーカの指示に従い、ストラップのたるみを取り除きます。
6. ベルトを取りまわしているところでチャイルド・シートを前後に引っ張って、チャイルド・シートがしっかりと取り付けられているかテストします。いずれの方向にも、25mm を超えて動いてはいけません。

警告!

- チャイルド・シートは ISOFIX アンカへ正しく取り付けないと、機能しません。お子さまが重傷を負ったり、死亡にいたる恐れがあります。チャイルド・シートの取り付けは、必ずチャイルド・シート・メーカの指示に従ってください。
- チャイルド・シート・アンカは、正しく取り付けられたチャイルド・シートの荷重のみを支えるよう設計されています。大人用シートベルトやハーネスに使用したり、車両に他の部品や装置を取り付ける目的では絶対に使用しないでください。
- チャイルド・シートは、車両が停止しているときに取り付けてください。ISOFIX チャイルド・シートがブラケットに正しく固定されると、カチッという音がします。

トップ・テザー・アンカによるチャイルド・シートの取り付け

1. チャイルド・シートを取り付けようとしているシート位置の背面を見て、テザー・アンカを見つけます。シートが移動可能な場合、シートを前に移動させて、テザー・アンカに手が届きやすいようにシートを前に移動させる必要がある場合があります。そのシート位置にトップ・テザー・アンカがない場合、車の別の位置が利用可能ならば、チャイルド・シートをその位置に移動します。
2. テザー・ストラップを、アンカとチャイルド・シートの間の最短距離を通して取り回します。後席に調整機能付きヘッド・レストが装備された車両の場合、ヘッド・レストを持ち上げ、可能な場合は、テザー・ストラップをヘッド・レストの下、および 2 本の支柱の間に通します。それができない場合、ヘッド・レストを下げ、テザー・ストラップをヘッド・レストのドア側に通します。
3. 図に示すように、チャイルド・シートのテザー・ストラップ・フックをトップ・テザー・アンカに取り付けます。



テザー・ストラップ・マウント（2 ドア・モデル）



テザー・ストラップ・マウント (センターアームレスト非装備 4 ドア・モデル)

4. チャイルド・シート・メーカの指示に従い、テザー・ストラップのたるみを取り除きます。

警告!

- テザー・ストラップの取り付け方法を誤ると、頭部の動きが大きくなりお子さまのけがの原因となる場合もあります。チャイルド・シートの上部テザー・ストラップを固定するには、お子さまの座席の真後ろにあるアンカのみに取り付けるようにしてください。
- 車両に分割リヤ・シートが装備されている場合は、ストラップのたるみを取り除くときに、テザー・ストラップが背もたれの間に入り込まないように注意してください。

i-Size チャイルド・シートの使用に適した助手席

車両のリヤ・ドア側シートは、最先端の i-Size チャイルド・シートを収容するために型承認されています。

これらのチャイルド・シートは、i-Size（ECE R129）基準に従って製造と型承認が行われ、車両にお子さまを乗せるための安全性条件が向上しています。

- お子さまは、生後 15 か月までは後ろ向きに乗せる必要があります。
- チャイルド・シート保護は、側面衝突に備えて強化されています。
- チャイルド・シートの不適切な装着を回避するために、ISOFIX システムの使用が奨励されています。
- お子さまの体重ではなく身長に合わせることで、チャイルド・シートの選択がより効率的になります。
- 車両シートとチャイルド・シートの間に互換性があることは、より望ましいです。i-Size チャイルド・シートは、「スーパー ISOFIX」と見なすことができます。つまり、これらの車両シートには、型承認済み i-Size シートが装着能でき、ISOFIX（ECE R44）型承認済みシートも装着できます。

メモ：

i-Size 型承認済み車両シートには、図 XX の記号が付けられています。



図 XX

シート位置ごとのチャイルド・シート使用 法

この表には、特にチャイルド・シート・メーカを対象とした技術情報が記載されているため、各国言語に翻訳する必要はありません。

2ドア・モデル	**取り付け位置**				
シート位置番号	**1**	**2.**	**3**	**4.**	**5**
前向き汎用ベルト取り付けに適したシート位置（適／不適）	非作動	非作動	作動	非作動	作動
後ろ向き汎用ベルト取り付けに適したシート位置（適／不適）	非作動	非作動	作動	非作動	作動
i-Size シート位置（適／不適）	非作動	非作動	作動	非作動	作動
横方向固定具取り付けに適したシート位置（L1/L2）	非作動	非作動	非作動	非作動	非作動
後ろ向き固定具取り付けに適したシート位置（最大）（R1/R2X/R2/R3）	非作動	非作動	R3	非作動	R3
前向き固定具取り付けに適したシート位置（最大）（F1/F2X/F2/F3）	非作動	非作動	F3	非作動	F3
補助チャイルド・シートに適したシート（B2/B3）	非作動	非作動	B3	非作動	B3

4ドア・モデル	取り付け位置				
シート位置番号	**1**	**2.**	**3**	**4.**	**5**
前向き汎用ベルト取り付けに適したシート位置（適／不適）	非作動	非作動	非作動	作動	作動
後ろ向き汎用ベルト取り付けに適したシート位置（適／不適）	非作動	非作動	作動	作動	非作動
i-Size シート位置（適／不適）	非作動	非作動	作動	非作動	作動
横方向固定具取り付けに適したシート位置（L1/L2）	非作動	非作動	非作動	非作動	非作動
後ろ向き固定具取り付けに適したシート位置（最大）（R1/R2X/R2/R3）	非作動	非作動	R3	R2	R3
前向き固定具取り付けに適したシート位置（最大）（F1/F2X/F2/F3）	非作動	非作動	F3	F3	F3
補助チャイルド・シートに適したシート（B2/B3）	非作動	非作動	B3	非作動	B3

適したシート位置を使用する場合は、シートを最後方位置に調整してください。

大きいチャイルド・シートを使用する場合は、前方のシートの位置を変更してください。

シート位置:

1.フロント左

2.フロント右

3.2 列目左

4.2 列目中央

5.2 列目右

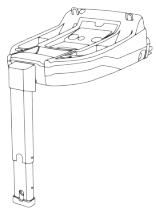
ヘッド・レストがチャイルド・シート取り付けの邪魔になる場合は、ヘッド・レストを調節します（調節可能な場合）。

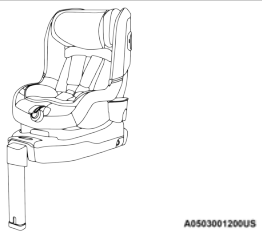
警告!

I	RISCHIO DI FERITE GRAVI O MORTALI. I seggiolini bambino che si montano nel verso opposto a quello di marcia non vanno installati sui sedili anteriori in presenza di air bag passeggero attivo.
GB	DEATH OR SERIOUS INJURY CAN OCCUR. NEVER use a rearward facing child restraint on a seat protected by an ACTIVE AIRBAG in front of it, DEATH or SERIOUS INJURY to the CHILD can occur
F	RISQUE DE MORT OU DE BLESSURES GRAVES. NE PAS positionner le siège pour enfant tourné vers l'arrière, en cas d'air bag passager actif.
D	Nichtbeachtung kann TOD oder SCHWERE VERLETZUNGEN zur Folge haben. Rückwärts gerichtete Kinderrückhaltesysteme (Babyschale) dürfen nicht in Verbindung mit aktiviertem Beifahrerairbag auf dem Beifahrersitz verwendet werden
NL	DIT KAN DODELIJK ZIJN OF ERNSTIGE ONGELUKKEN VEROORZAKEN. Plaats het kinderstoeltje niet ruggelings op de voorstoel wanneer er een airbag aanwezig is.
E	PUEDE OCACIONAR MUERTE O HERIDAS GRAVES. NO ubicar el asiento para niños en sentido inverso al de marcha en el asiento delantero si hubiese airbag activo lado pasagero.
PL	MOŻE GROZIĆ ŚMIERCIA LUB CIĘŻKIMI OBRAŻENIAMI. NIE WOLNO umieszczać fotelika dziecięcego tyłem do kierunku jazdy na przednim siedzeniu w przypadku zainstalowanej aktywnej poduszki powietrznej pasażera.
TR	ÖLÜM VEYA AĞIR ŞEKİLDE YARALANMAYA SEBEP OLABİLİR. Yolcu airbağı aktif halde iken çocuk koltuğunu araç gidiş yönüne ters biçimde yerleştirmeyin.
DK	FARE FOR DØDELIGE KVÆSTELSER OG LIVSTRUENDE SKADER. Placer aldrig en bagudvendt barnestol på passagersædet, hvis passager-airbagen er indstillet til at være aktiv (on).
EST	TAGAJÄRJEKS VÕIVAD OLLA TÕSISED KEHAVIGASTUSED VÕI SURM. Turvapadja olemasolu korral ärge asetage lapse turvaistet sõidusuunaga vastassuunas.
FIN	KUOLEMANVAARA TAI VAKAVIEN VAMMOJEN UHKA. Älä aseta lasten turvaistuinta niin, että lapsi on selkä menosuuntaan, kun matkustajan airbag on käytössä.
P	RISCO DE MORTE OU FERIMENTOS GRAVES. Não posicionar o banco para crianças numa posição contrária ao sentido de marcha quando o airbag de passageiro estiver activo.
LT	GALI ĮŠTIKTI MIRTIS ARBA GALITE RIMTAI SUŽEISTI. Nedėkite vaiko sėdynės atgręžtos nugara į priekinį automobilio sėdėjį tan, kur yra veikiant keleivio oro pagalvė.
S	KAN VARA LIVSHOTANDE ELLER LEDA TILL ALLVARLIGA SKADOR. Placera aldrig en bakåtvänd barnstol i framsätet då passagerarsidans krockkudde är aktiv.
H	HALÁSOS VAGY SÚLYOS BALESET KÖVETKEZHET BE. Ne helyezzük a gyermekülést a menetirányval szembe, ha az utas oldalán légzsák működik.
LV	VAR IZRAISĪT NĀVI VAI NOPIETNAS TRAUMAS. Nenovietot mazuļa sēdeklī pretēji braukšanas virzienam, ja pasažiera puse ir uzstādīta gaisa spilvens.
CZ	HROZÍ NEBEZPEČÍ VÁŽNÉHO UBLÍŽENÍ NA ZDRAVÍ NEBO DOKONCE SMRTI. Neumisťujte dětskou sedačku do opačné polohy vůči směru jízdy v případě aktivního airbagu spolujezdce.
SLO	LAHKO PRIDE DO SMRTI ALI HUDIH POŠKODB. Otroškega avtomobilskega sedeža ne nameščajte v obratni smeri vožnje, če ima vozilo vgrajene zračne blazine za potnike.
RO	SE POATE PRODUCE DECESUL SAU LEZIUNI GRAVE. Nu montați scaunul de mașină pentru bebeluși în poziție contrară direcției de mers atunci când airbag-ul pasagerului este activat.
GR	ΜΠΟΡΕΙ ΝΑ ΠΡΟΚΑΛΕΣΘΟΥΝ ΘΑΝΑΤΟΣ Η ΣΟΒΑΡΑ ΤΡΑΥΜΑΤΑ. Μην τοποθετείτε το καρεκλάκι αυτοκινήτου για παιδιά σε αντίθετη προς την φορά πορείας θέση σε περίπτωση που υπάρχει αερόσακος εν ενεργεία στη θέση συνεπιβάτη.
BG	ИМА ОПАСНОСТ ОТ СМЪРТ И СЕРИОЗНИ НАРАНЯВАНИЯ. Не поставяйте столчето за пренасяне на бебета в положение обратно на посоката на движение, при положение активно на въздушната възглавница за пътуване.
SK	MÔŽE NASTAŤ SMRŤ ALEBO VÁŽNE ZRANENIA. Nedávajte autosedačku pre deti do polohy proti chodu vozidla, keď je aktívny airbag spolujazdca.
RUS	ТРАВМЫ И ЛЕТАЛЬНЫЙ ИСХОД. Детское кресло, устанавливающееся против направления движения, нельзя монтировать на месте переднего пассажира, если последнее оборудовано активной подушкой безопасности.
HR	OPASNOST OD TEŠKIH ILI SMRTONOSNIH OZLJEDA. Sjedala za djecu koja se montiraju u smjeru suprotnom od vožnje ne smiju se instalirati na prednja sjedala ako postoji aktivni zračni jastuk suvozača.
AS	قد تحدث حالات وفاة أو إصابات بالغة لا تستخدم مقاعد الأمان الخاصة بالأطفال على مقعد مزود "بوسادة هوائية"، حيث إن الطفل قد يتعرض لوفاة أو لإصابة بالغة.

車両に対して FCAIO が推奨するチャイルド・シート

ライン・アクセサリ Mopar®には、アンカ・ポイントまたは SOF アンカを備えたシートベルトを使用して固定する全種類のチャイルド・シートが含まれています。

体重グループ	チャイルド・シート	チャイルド・シートのタイプ	チャイルド・シートの取り付け
グループ 0+：新生児～13kg、40cm～80cm		Peg Perego Primo Viaggio i-Size Mopar®注文コード：50290501.	i-Size ユニバーサル・チャイルド・シート i-Size サブベース（チャイルド・シートとの同時購入または個別購入が可能）と車両の ISOFIX アンカーを使用する場合のみ、進行方向とは逆の方向に取り付けることができます。リヤ・シートに取り付ける必要があります。
		Peg Perego Base i-Size Mopar®注文コード：50290505.	

体重グループ	チャイルド・シート	チャイルド・シートのタイプ	チャイルド・シートの取り付け
グループ 0+/1：9～18kg、67cm～105cm	 A0503001200US	Peg Perego Viaggio FF105 Mopar®注文コード：50290502.	i-Size 認定チャイルド・シート Peg Perego Base i-Size サブベースとの組み合わせの場合のみ取り付けることができます（個別購入、または Peg Perego Primo Viaggio i-Size チャイルド・シー・トシステムとの同時購入が必要）。リヤ・シートに取り付ける必要があります。
	 A0503001202US	Peg Perego Base i-Size Mopar®注文コード：50290505.	
グループ 2：15～25kg、95cm～135cm	 A0503001204US	Peg Perego Viaggio 2 3 Shuttle plus（供給されている場合） Mopar®注文コード：50290504.	車両の 3 点式シートベルトおよび ISOFIX アンカ（存在する場合）を使用して前向きでのみ取り付けることができます。Jeep®では、車両の ISOFIX アンカ・ポイントを使用して、このシートを取り付けることを推奨します。可能な限り、リヤ・ドア側シートに取り付けてください。

体重グループ	チャイルド・シート	チャイルド・シートのタイプ	チャイルド・シートの取り付け
グループ 3：22～36kg、136cm～150cm	 A0503001204US	Peg Perego Viaggio 2 3 Shuttle plus（供給されている場合） Mopar®注文コード：50290504.	車両の 3 点式シートベルトおよび ISOFIX アンカ（存在する場合）を使用して前向きでのみ取り付けることができます。Jeep®では、車両の ISOFIX アンカ・ポイントを使用して、このシートを取り付けることを推奨します。可能な限り、リヤ・ドア側シートに取り付けてください。
重要：Jeep®では添付されている指示に従ってチャイルド・シートを取り付けることを推奨しています。			

安全のヒント

乗員を乗せる場合

カーゴ・エリアには決して乗員を乗せないでください。

警告!

- 高温時には、駐車した車内にお子さまやペットを残さないでください。車内の温度が上がり、重傷または死亡事故につながる恐れがあります。
- 車の内外に関係なく、カーゴ・エリアへの乗車は非常に危険です。衝突の際にカーゴ・エリアに乗っていると、重傷または死亡事故につながる危険性が高くなります。

(続き)

警告!

- シートとシートベルトがない場所には人を乗せないでください。
- すべての乗員がシートベルトを正しく使用してシートに座っていることを確認してください。

ペットを乗せる場合

ペットをフロント・シートに乗せていると、エアバッグが作動した際にけがをする場合があります。ペットを正しく拘束していないと、急停止や衝突などの場合に車内で投げ出され、ペットや乗員がけがをする恐れがあります。

ペットは、ペット・ハーネスでリヤ・シート（タイプ別装備）に拘束するか、ペット・キャリヤに入れシートベルトで固定してください。

コネクテッド・カー

無線および有線通信のプライバシーは保証できません。第三者が、同意なく情報および個人の通信を不正に傍受することがあります ⇨ ページ 105。

警告!

車両システムが侵害された場合に考えられる結果をすべて予測することは不可能です。安全関連システムを含む車両システムに障害が発生したり、車の制御が失われ、重傷または死亡に至る事故を引き起こす可能性があります。

車内の安全点検

シートベルト

定期的にシートベルト・システムを点検し、切れや摩耗、たるみなどがないか確認してください。損傷している部品は、直ちに交換してください。システムを分解したり、改造したりしないでください。

車両が衝突事故に遭った場合、またはシートベルトやリトラクタの状態に疑問がある場合は、正規ディーラーで車両の検査を受けてください。

エアバッグ警告灯



エアバッグ警告灯は、イグニッション・スイッチを初めて「ON/RUN（オン／走行）」位置にしたとき、電球を点検するために 2～8 秒間点灯します。エンジン始動時にこの警告灯が点灯しなかったり、点灯したままの状態になったり、または運転中に点灯した場合は、直ちに正規ディーラーで点検を受けてください。この警告灯は、エアバッグの故障が検出された場合にチャイム 1 回とともに点灯し、故障が解消されるまで点灯したままになります。走行中、この警告灯が断続的に点灯または点灯し続ける場合は、直ちに正規ディーラーで車両の整備を受けてください ⇨ページ 190。

デフロスタ

デフロスタ・モードを選択し、ファンを高速に設定して作動状態を点検します。空気がフロントウィンドウに向かって流れているのが感じられます。デフロスタが作動しない場合、正規ディーラーで整備を受けてください。

フロア・マットに関する安全情報

必ずお使いの車に適合するよう開発されたフロア・マットを使用してください。ペダル・アセンブリの作動に干渉しないフロア・マットを使用してください。フロア・マットをフロア・マット固定具を使用してしっかりと固定し、所定の位置からずれたり、ペダル・アセンブリに干渉したり、それ以外の方法で車両の安全な操作を妨げたりすることのないようにしてください。

警告!

フロア・マットの誤った取り付け、損傷、折り畳み、または積み上げ、または損傷したフロア・マット固定部により、フロア・マットがアクセル・ペダル、ブレーキ・ペダル、またはクラッチ・ペダルの邪魔になるおそれがあり、車両のコントロールが失われます。重傷または死亡事故を防ぐため、次の事項を守ってください。

- 
必ずフロア・マット・ファスナを使用して、フロア・マットを確実に取り付けてください。フロア・マットを上下逆さまに取り付けたり、フロア・マットを裏返しにしたりしないでください。軽く引っ張って、フロア・マット固定部でマットが固定されていることを定期的に確認します。
- 
他のフロア・マットを取り付ける場合は、必ず車両から既存のフロア・マットを取り外してください。既存のフロア・マットの上にフロア・マットを追加で取り付けたり、積み上げたりしないでください。
- 車両に合うよう設計されたフロア・マットのみを取り付けてください。正しく取り付けたり、車両に固定したりできないフロア・マットは取り付けないでください。フロア・マットを交換する必要がある場合、車両の適合したメーカー、モデル、年式の FCA 認定フロア・マットのみ使用してください。
- 運転席のフロア・マットは、運転席のフロア部分のみに使用してください。邪魔になっているかどうか確認するには、車両を正しく駐車してエンジンを切り、アクセル・ペダル、ブレーキ・ペダル、クラッチ・ペダル（ある場合）をいっぱいまで踏んで邪魔かどうか確認します。フロア・マットがペダルの操作の邪魔になっている、またはフロアに固定されていない場合、フロア・マットを車両から取り外し、トランクに置きます。
- 助手席のフロア・マットは、助手席のフロア部分のみに使用してください。
- 車両が移動したときに、物が運転席のフロア部分に落ちたり、転がったりしないことを必ず確認します。物がアクセル・ペダル、ブレーキ・ペダル、またはクラッチ・ペダルの後ろに挟まると車の制御が失われます。
- 物（タオル、キーなど）をフロア・マットの下に置かないでください。こうした物によってフロア・マットの位置が変わる可能性があり、アクセル・ペダル、ブレーキ・ペダル、またはクラッチ・ペダルの邪魔になる場合があります。
- 車両のカーペットを取り外し、取り付け直した場合、必ずカーペットを正しくフロアに取り付け、フロア・マット固定部がカーペットに固定されていることを確認します。各ペダルをいっぱいまで踏み込み、アクセル・ペダル、ブレーキ・ペダル、またはクラッチ・ペダルの邪魔になっていないか確認し、フロア・マットを取り付け直します。

（続き）

（続き）

警告!

- フロア・マットの洗浄は、中性洗剤のみ使用することをお勧めします。洗浄後、フロア・マットが正しく取り付けられ、フロア・マット固定部で車両に固定されていることを、マットを軽く引っ張って必ず確認します。

定期的な車外の安全点検

タイヤ

タイヤのトレッド面に過度の摩耗や偏摩耗がないか点検します。また、石、釘、ガラスなどの異物がトレッドとサイドウォール(側面)に突き刺さっていないか点検します。タイヤのトレッドに亀裂や損傷がないか点検します。タイヤのサイドウォール(側面)に亀裂、損傷、ふくらみがないか点検します。ホイール・ナット／ボルトのトルクの締め具合を点検します。タイヤ(スペアも含む)の冷間時の空気圧が適切かどうか点検します。

ライト

各スイッチ類を操作しながら、誰かに車外からストップ・ライトと外部ライトが正しく点灯していることを確認してもらいます。インストルメント・パネルの方向指示器表示灯とハイビーム表示灯を点検します。

ドア・ラッチ

しっかりと閉じ、ラッチがかかり、施錠されることを点検します。

液漏れ

一晩駐車していた地面にガソリン、クーラント、オイルなど液漏れの跡がないか点検します。ガソリン蒸気が検出された場合または燃料やブレーキ・フルードの漏れの疑いがある場合は、直ちに修理が必要です。

排気ガス

警告!

排気ガスは、けがまたは死に至る危険性のある有毒なガスです。排気ガスには、無色無臭の一酸化炭素(CO)が含まれています。一酸化炭素を吸引すると、意識を失うなど人体に有害な影響を与えます。一酸化炭素の吸引を防ぐために、次の安全事項を遵守してください。

- 狭いガレージや密閉された場所では、車を出入りさせるのに必要な時以外はエンジンをかけないでください。
- トランク／リフトゲート／リヤ・ドアを開けて走行するときは、窓がすべて閉まっていて、ヒータ／エアコンのファン・スピード調整スイッチが高速にセットされていることを確認してください。内気循環モードは使用しないでください。
- エンジンをかけたまま駐車した車内にいなければならない場合は、空調装置を調節して、外気を車内に取り込みます。ファン・スピードを高速に設定してください。

一酸化炭素が車内に侵入するのを防ぐ上で最も効果的な方法は、エンジン排気装置を適切に点検整備することです。

排気装置の音が変化した場合、車内に排気ガスが入り込んでいる場合、または車の下やリヤ側が破損している場合、正規ディーラーの整備士によって排気装置および隣接したボディ部に欠陥、損傷、劣化、またはアライメント不良部品があるかどうかの点検を受けてください。継ぎ目が開いていたり、接続部が緩んでいると、排気ガスが車内に侵入する恐れがあります。また、潤滑やオイル交換で車を持ち上げるたびに排気装置を点検してください。必要に応じて部品を交換してください。

一酸化炭素に関する警告

警告!

排気ガスに含まれる一酸化炭素(CO)は極めて有害です。一酸化炭素中毒を防ぐため、次の注意事項を必ず守ってください。

- 排気ガスを吸い込まないでください。排気ガスには、致死性の無色無臭のガスである一酸化炭素が含まれています。絶対にガレージなどの密閉された場所でエンジンをかけたままにしないでください。また、エンジンをかけたまま駐車した車の室内に、絶対に長時間留まらないでください。屋外でエンジンをかけたまましばらく車を停止させる場合は、車内に新鮮な外気を取り入れるよう空調装置を調節してください。
- 適切なメンテナンスを行い、一酸化炭素に十分注意してください。メンテナンスで車がリフトアップされる毎に、必ず排気装置を点検してください。異常があれば、直ちに修理してください。修理が完了するまで、すべてのドア・ウインドウを完全に開けて運転するようにしてください。

緊急時

非常点滅表示灯

非常点滅表示灯ボタンは、エアコンの下のインストルメント・パネルにあります。



非常点滅表示灯ボタン

非常点滅表示灯を点灯するには、ボタンを押します。ボタンを押すと、すべての方向指示器が点滅し、接近する周囲の車両に非常事態を知らせます。もう一度ボタンを押すと非常点滅灯は消灯します。

非常点滅灯は緊急時の警報システムです。走行中は使用しないでください。車両が走行不能になった場合、または他の車両の運転者に向けて安全上の非常警告を発信する場合にのみ、非常点滅灯を使用してください。

助けを呼びに車を離れる場合、イグニッションが「OFF」位置にあっても非常点滅表示灯は作動し続けます。

メモ：

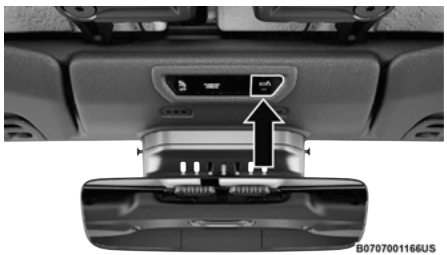
非常点滅表示灯を使いすぎると、バッテリの消耗が早まります。

SOS – 緊急通話 – タイプ別装備

車両には、事故および／または緊急時にサポートを提供する車載アシスタンス機能が備えられています。この機能は、エアバッグが作動すると自動的に作動し、またオーバーヘッド・コンソールにあるボタンを押すことで手動で作動させることもできます。

メモ：

SOS 緊急通話は、有効なネットワーク・オペレータとのみ通話できます。



SOS-Emergency Call（SOS 緊急通話）ボタン

SOS 緊急通話システムは、エアバッグが作動する事故が発生した場合、イグニッション装置が「RUN（走行）」位置にあり、エアバッグが作動していれば、通話を緊急サービスに自動的に転送します。オーバーヘッド・コンソールの「SOS」ボタンを押すと、ボタンのライトが点灯します。車両と緊急応答オペレータの間で接続が確立されると、位置と車両情報が自動的に緊急サービス・オペレータに送信されます。

緊急応答オペレータしか、リモートで SOS 緊急通話を終了し、必要に応じて緊急通話システムを介して車両に電話をかけ直すことができません。通話が終了しても、ボタンを再度押すと、緊急サービス・オペレータに電話をかけて追加の情報を伝えることができます。

SOS 緊急通話を使用するには

「SOS-Emergency Call（SOS 緊急通話）」ボタンを数秒間長押しします。SOS ボタン内にある LED が 1 回点滅した後、点灯したままになり、通話が確立されたことを示します。

メモ：

「SOS-Emergency Call（SOS 緊急通話）」ボタンを誤って押した場合でも、通話が確立されるまでに 10 秒間の遅延があります。通話が確立されようとしていることをシステムが音声で警告します。通話の確立を取り消すには、「SOS-Emergency Call（SOS 緊急通話）」ボタンを再度押します。

車両と緊急サービス・オペレータとの間で接続が確立されると、SOS 緊急通話システムは、以下の重要な車両情報をオペレータに送信します。

- 乗員が SOS 緊急通話を発信したという表示
- 車両識別番号（VIN）
- 識別された車両の最新の GPS 座標

次に、緊急サービス・オペレータと会話をして、追加の支援が必要かどうかを判断できます。

SOS 緊急通話は、他の音声ソースよりも優先されるため、これらの音声ソースは消音になります。Bluetooth® 経由で携帯電話を接続している場合は接続が解除され、SOS 緊急通話の終了時に再接続されます。SOS 緊急通話時は、音声プロンプトが案内します。緊急サービス・オペレーターと車両の間で接続が確立されると、緊急サービス・オペレータが車両内の会話や音声を録音することがあり、サービスを使用することで、これらの情報が共有されることに同意したことになります。

SOS 緊急通話システムの制限事項

イグニッションを「RUN（走行）」位置に入れると、緊急通話システムは通常チェックを実行します。このチェックの間、赤色の表示灯が約 3 秒間点灯します。この点灯を故障警告と混同しないでください。故障が発生した場合は、赤色の表示灯が点灯したままになります。SOS 緊急通話システムが誤動作を検知した場合、検知時に次のような状態になる場合があります。

- SOS ボタン内の LED が赤色で点灯し続けます。
- 緊急通話システムは、車両のバッテリが放電または切断された場合でも動作を確保するために、独自の非充電式バッテリから電源を供給されます。システムのバッテリが放電すると、インストルメント・パネル・ディスプレイに特別なメッセージが表示されます。これは、他のタイプの障害を示す他のメッセージとは異なります。この場合、システムが動作するのは、車両バッテリから電源が供給されるときのみです。
- インストルメント・パネルには、故障警告灯とともにサービス・ネットワークに連絡するように警告するメッセージが表示されます。

SOS 緊急通話システムが完全に機能している場合でも、外部または制御されていない要因により、SOS 緊急通話の動作が妨げられたり、停止したりすることがあります。このような取扱いの対象となる問題の例を次に挙げます。

- イグニッションが「OFF（オフ）」の位置にある。
- 車両の電子システムが作動しない。
- 車両の衝突時に、SOS 緊急通話システムのソフトウェアまたはハードウェアが損傷した。
- サービスの運用を制限または損なう可能性のあるネットワークの問題がある（オペレータによる間違い、ネットワークの混雑、悪天候など）。

衝突などの事故により車両のバッテリ接続が外れた場合、システムは限られた時間、SOS 緊急通話をサポートできます。使用中にバッテリが切断されると、システムはオフになります。この場合、バッテリを車両の電気系統に再接続したときのみ、SOS 緊急通話をすることができます。

システム要件

- 車両で 4G ネットワーク接続が使用できる必要があります。
- 車両は適切に動作する電気系統から電源が供給されている必要があります。
- イグニッションは「ON/RUN（オン／走行）」または「ACC」位置にする必要があります。

警告!

- 車両の 4G および GPS のアンテナの上または近くには何も置かないでください。4G および GPS 信号を受信できなくなり、車両が緊急通話を発信できなくなります。SOS 緊急通話システムを正常に機能させるために、動作可能な 4G ネットワーク接続および GPS 信号が必要です。
- 車両の電気系統に市販の電装品を追加しないでください。これにより、緊急通話を開始する信号を車両が送信できなくなる恐れがあります。SOS 緊急通話システムが機能しなくなる干渉を避けるために、アクセサリ部品（移動式双方向無線機、CB 無線機、データ・レコーダなど）を車両の電気系統に追加したり、車のアンテナを改造したりしないでください。事故時や事故後を含むいかなる理由にせよ、車両バッテリの充電が消耗した場合、MTC+機能（特にアプリケーションとサービス）は動作しません。
- エアバッグ・システムのどこかに不具合が検出されると、乗員保護拘束装置コントローラ（ORC）によってインストルメント・パネルのエアバッグ警告灯が点灯されます。エアバッグ警告灯が点灯した場合、エアバッグ・システムが正常に動作していない可能性があり、SOS 緊急通話システムは緊急サービスのオペレータに信号を送信できないことがあります。エアバッグ警告灯が点灯した場合は、直ちにサービス・ネットワークに問い合わせてエアバッグ・システムの点検を受けてください。
- SOS 緊急通話ボタンの LED を無視すると、必要なときに緊急通話サービスが利用できなくなります。緊急通話ボタンの LED が赤く点灯している場合

（続き）

警告!

は、直ちにサービス・ネットワークに問い合わせて緊急通話システムの点検を受けてください。

- 乗員に危険が及ぶ恐れがある場合（火災や煙の発見、危険な路面状況や場所など）は、直ちに緊急サービスのオペレータに電話をかけてください。すべての乗員は直ちに車から離れて安全な場所に移動する必要があります。
- 定期メンテナンスを実施しなかったり、車両を定期的に点検しなかった場合は、車両が損傷したり、事故が起きたり、負傷したりすることがあります。

よくある質問:

誤って「SOS-Emergency Call（SOS 緊急通話）」ボタンを押すとどうなりますか？

- 緊急ボタンを押してから通話を取り消すまでに 10 秒間の余裕があります。通話を取り消すには、このボタンを再度押してください。

自分の車両から SOS 緊急通話をしているときに、どのような情報が送信されますか？

- VIN などの特定の車両情報が、直前の GPS 位置とともに送信されます。緊急サービス・オペレータが車両内の会話や音声を録音することがあり、サービスを使用することで、これらの情報が共有されることに同意したことになることにも注意してください。

「SOS-Emergency Call（SOS 緊急通話）」ボタンは、いつ使用できますか？

- ユーザまたは他の誰かが緊急支援を必要とする場合に**のみ**、「SOS-Emergency Call（SOS 緊急通話）」ボタンを使用して電話をかけることができます。

ジャッキ・アップとタイヤ交換

警告!

- 車道側にあるタイヤの交換は行わないでください。ジャッキ操作やタイヤ交換は、作業中に事故に遭わないよう、車道から十分離れた安全な場所で行ってください。
- 車両のホイールに輪止めをかけることをお勧めします。ジャッキで持ち上げられた車の下にいるのは危険です。車がジャッキからすべり落ち、押し潰される恐れがあります。ジャッキで持ち上げられた車の下には絶対に入らないでください。入る必要がある場合は、リフトが設置されているガソリン・スタンドなどをご利用ください。
- ジャッキで持ち上げた車のエンジンは始動させないでください。
- ジャッキはタイヤ交換専用の工具です。整備のために車を持ち上げる目的では使用しないでください。ジャッキを使用して車を持ち上げる場合は、固く平らな地面でのみ行ってください。凍結していたり、滑りやすい場所は避けてください。

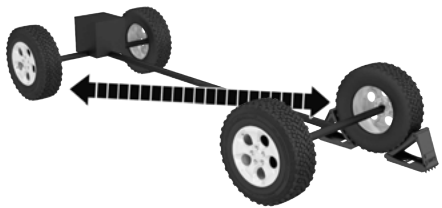
ジャッキ作業の準備

1. 固い平らな場所に駐車します。凍結していたり、滑りやすい場所は避けてください。
2. 必要に応じて、車両後方に三角表示板を設置します。
3.

警告!

車道側にあるタイヤの交換は行わないでください。ジャッキ操作やタイヤ交換は、作業中に事故に遭わないよう、車道から十分離れた安全な場所で行ってください。

4. 非常点滅表示灯を点灯します。
5. パーキング・ブレーキをかけます。
6. オートマチック・トランスミッションを「P（パーキング）」にシフトします。
7. イグニッションを OFF にします。
8. ジャッキで持ち上げるタイヤの対角線上に位置するタイヤの前後をブロックで輪留めします。たとえば、運転席側フロント・タイヤを交換する場合は、助手席側リヤ・ホイールをブロックで輪留めします。



ブロックによるホイールの輪留め例

メモ:
車を持ち上げる時は、乗員に車から降りてもらってください。

ジャッキ・アップ位置

ジャッキとホイール・ナット・レンチは、リヤ・カーゴ・エリアにあります。ジャッキとツールを取り外すには、以下の手順に従ってください。

1. カーゴ・エリアのロード・フロアを持ち上げます。



ラゲッジ・フロア・ハンドル

メモ：
手が届きやすくするためロード・フロアを取り外すには、ロード・フロア・ハンドルを引き上げて真後ろに引きます。

2. 左側のラッチをつまみ、上方に引っ張って、ハードウェア・ストレージ・カバーを取り外します。



ハードウェア・ストレージ・カバーのラッチ

3. プラスチック製ウイング・ナットを反時計回りに回して、ジャッキをストレージ・ビンから緩めます。



プラスチック製ウイング・ナットの位置

4. ツール・キットを取り外し、ツールを組み立てます。

スペア・タイヤの取り外し

1. キャリアからスペア・タイヤを取り外すには、タイヤ・カバーを取り外します（タイプ別装備）。
2. ホイール・ナット・レンチでホイール・ナットを反時計回りに回して取り外します。ロック・キー（グローブ・ボックスにある）でロッキング・ホイール・ナットを反時計回りに回して取り外します（タイプ別装備）。



スペア・タイヤの取り外し

ジャッキ作業の手順

警告!

人身事故または物損事故を防ぐためにタイヤ交換時の警告に従ってください。

- 車道脇からできるだけ離れた固く平らな地面に駐車してから、車を持ち上げるようにしてください。
- 非常点滅表示灯を点灯します。
- パーキング・ブレーキをしっかりとかけ、オートマチック・トランスミッションを「P（パーキング）」位置にします。
- 持ち上げる車輪の対角線上に位置する車輪をブロックで輪留めします。
- ジャッキで持ち上げた車のエンジンは始動させないでください。

（続き）

警告!

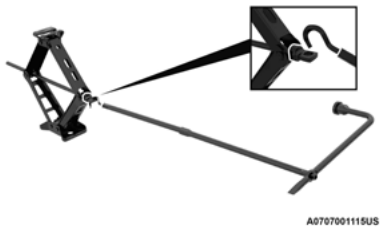
- ジャッキで持ち上げられた車には人がいないようにしてください。
- ジャッキで持ち上げられた車の下に入らないようにしてください。入る必要がある場合は、リフトが設置されているガソリン・スタンドなどをご利用ください。
- ジャッキは指定された位置に設置し、本車両を持ち上げてタイヤを交換する場合にのみ使用してください。
- 車道またはその近辺で作業を行う場合は、交通に十分注意してください。
- スペア・タイヤは空気圧の状態にかかわらず確実に固定されるように、バルブ・ステムを下向きにして収納する必要があります。
- ジャッキは緊急用の道具です。メンテナンスには使用しないでください。ジャッキ・ハンドルを無理に回すと、ジャッキ・ハンドル・バーとジャッキの接続部が外れて車両を損傷する恐れがあります。ゆっくり、慎重に作業してください。



060600714

ジャッキ警告ラベル

1. 格納場所からスペア・タイヤ、ジャッキ、および工具を取り外します。
2. ホイールが地面に着いている状態で、ナットを左に1回転させてホイール・ナットを緩めます(取り外さないでください)。
3. ジャッキとジャッキ・ツールを組み立てます。ジャッキ・ハンドル・ドライバをエクステンションに接続し、次にホイール・ナット・レンチに接続します。

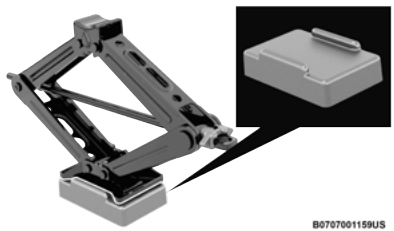


A0707001115US

組み立てたジャッキと工具

メモ:

工場出荷時に 88.9cm(35 インチ)タイヤが装着された車両の場合、リヤ・カーゴ・エリアにジャッキ・リフト・ブロックが用意されています。ジャッキ・リフト・ブロックは、パンクしたタイヤまたはスペア・タイヤを交換する際に車両の地上高を上げるために使用します。ジャッキ・リフト・ブロックをジャッキの下に置くとき、ジャッキの底がブロックの高くなった縁の内側にしっかりとはまっていることを確認してください。

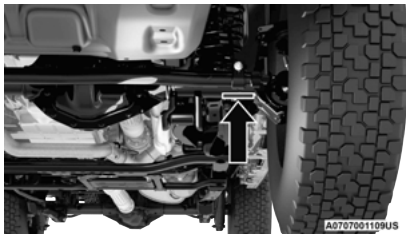


B0707001159US

ジャッキ・リフト・ボックスの使用方法

7

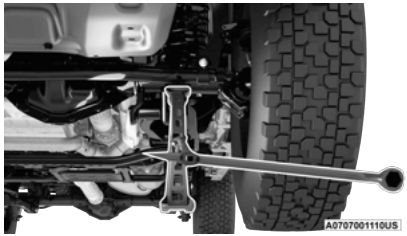
4. 車の前部または後部からジャッキを操作します。ジャッキを図のようにアクスル・チューブの下に入れます。**ジャッキが確実にはまっているのを確かめるまで、車両を持ち上げないでください。**



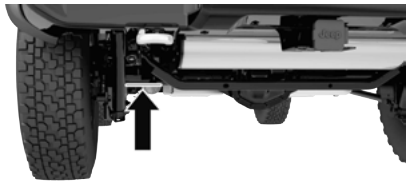
フロント側ジャッキ・アップ・ポイント

メモ：
車両を持ち上げている間はジャッキと工具の位置を合わせて、工具を損傷しないようにしてください。

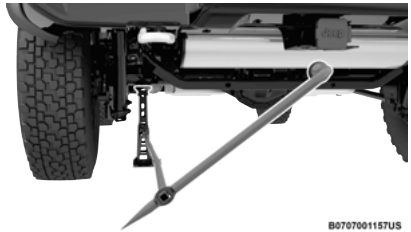
注意!
指定のジャッキ・アップ位置以外からジャッキで車両を持ち上げないでください。



フロント側ジャッキ位置



リヤ側ジャッキ・アップ・ポイント



リヤ側ジャッキ位置

5. ジャッキ・スクリュを時計回りに回して車両を上げます。タイヤが地面から少し浮き、スペア・タイヤの取り付けに十分な高さになるまで車を持ち上げます。持ち上げる高さを最小限にとどめると、安定した状態が最大限保たれます。

警告!
車体を必要以上に高く持ち上げると不安定になり、ジャッキからずり落ちるので危険です。車がジャッキから滑り落ちて、近くにいる人がけがをする恐れがあります。車体はタイヤを取り外すために必要な高さだけ持ち上げてください。

6. ホイール・ナットおよびホイールを取り外します。
7. アクスルにスペア・タイヤを取り付けます。
8. 円錐形端部をホイール側に向けてホイール・ナットを取り付けます。ラグ・ナットを時計回りに軽く締めます。

警告!

力を加えると車がジャッキから滑り落ちる恐れがあるため、車体を降ろすまでホイール・ナットは完全に締め付けないでください。この警告に従わないと、重傷を負う恐れがあります。

9. ジャッキ・スクリュを反時計回りに回して車両を降ろし、ジャッキを取り外します。
10. ホイール・ボルトを締め付けます。力を加えやすいように、ハンドルの端を持ってレンチを押し下げます。ホイール・ボルトを対角順に 2 回に分けて締め付けます ⇨ ページ 279。トルク値が正しいかどうか不安な場合は、正規ディーラーまたはガソリン・スタンドで、トルク・レンチを使用して点検してください。
11. 40km（25 マイル）走行後に、トルク・レンチを使用して、ホイール・ナットのトルクを点検し、すべてのホイール・ナットがホイールに正しく装着されていることを確認してください。
12. ジャッキ・アッセンブリと輪留めを取り外します。
13. ジャッキおよび工具を適切な位置に固定します。
14. 損傷したホイール／タイヤは、スペア・タイヤ・キャリアに固定します。ホイール・ナットおよびロッキング・ホイール・ナットを締め付けます。
15. 付属の#40 Torx ヘッド・ドライバおよびラチェットを使用してロックを時計回りに回して、ロック・ボルトをカメラ・カバーのロック位置に戻します。次に、所定の位置に止まるまでカメラ／タイヤ・キャリアの上をすべらせてカメラ・カバーを取り付けます。



ロック・ボルトの位置

警告!

タイヤまたはジャッキが固定されていないと、衝突または急停止の際に前方へ飛び出して、乗員がけがをする危険性があります。ジャッキ部品およびスペア・タイヤは、必ず指定の場所に収納してください。

ジャンプ・スタート

バッテリが放電した場合には、ジャンパ・ケーブルを他の車両のバッテリに接続するか、補助バッテリを使用して、ジャンプ・スタートを行うことができます。ジャンプ・スタートは正しく行わないと危険です。このセクションの手順を遵守してください。

警告!

バッテリが凍結している場合は、ジャンプ・スタートを行わないでください。バッテリが破裂または爆発してけがをする恐れがあります。

注意!

12V を超える補助バッテリや他の補助電源を使用しないでください。使用した場合、バッテリ、スタータ・モータ、オルタネータ、または電気系統が損傷する恐れがあります。

メモ :
補助バッテリを使用する場合は、メーカの取扱説明ならびに注意事項を遵守してください。

ジャンプ・スタートの準備

START&STOP システム装備車両には、バッテリが 2 つ装備されています ⇨ ページ 120。



補助バッテリ - タイプ別装備

警告!

- 車両をジャンプ・スタートするには、メイン・バッテリのバッテリのプラス端子のみを使用します。補助バッテリを使用してジャンプ・スタートしようとすると、

(続き)

7

警告!

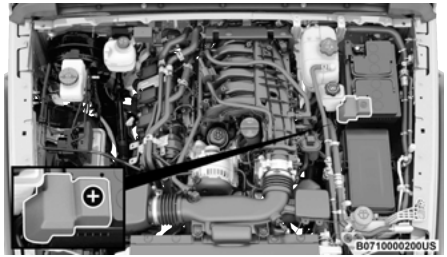
重傷または死亡事故につながるおそれがあります。

- バッテリから発生するガスは可燃性で爆発性があります。バッテリの近くに火または火気を近づけないでください。12V を超える電圧の補助バッテリや他の補助電源は使用しないでください。ケーブル・クランプ同士が接触しないようにしてください。
- バッテリ端子、その他のバッテリ部品には鉛および鉛の化合物が含まれます。バッテリを取り扱った後は、手を洗ってください。
- バッテリを車に搭載したまま「急速充電器」を使用する場合、充電器をバッテリに接続する前に車の両方のバッテリ・ケーブルを切り離してください。車両の始動に「急速充電器」を使用しないでください。
- エンジンを始動するときに、急速バッテリ充電器を使用しないでください。車両の電子システム、特にイグニッションおよびエンジン燃料供給制御ユニットが損傷することがあります。

バッテリは、エンジン・ルームの左後方にあります。

メモ:

バッテリのプラス(+)端子には保護キャップが付いています。端子の作業をするときは、キャップを持ち上げます。



バッテリのプラス(+)端子の場所

以下の手順を参照してジャンプ・スタートの準備を行います。

1. パーキング・ブレーキをかけ、オートマチック・トランスミッションを「P(パーキング)」にシフトして、イグニッション・スイッチを「OFF(オフ)」位置にします。
2. ヒータ、ラジオなど、電装品をすべて OFF にします。
3. プラス(+)バッテリ端子の保護用カバーを引き上げて外します。
4. 他の車両のバッテリに接続してジャンプ・スタートを行う場合は、ケーブルが届く位置に救援車両を停車してパーキング・ブレーキをかけ、必ずイグニッション・スイッチを「OFF」位置にします。

警告!

アースがつながって、けがを負う恐れがあるので、車両同士が接触しないように注意してください。

警告!

- ボンネットが開いているときは、ラジエータの冷却ファンに触れないように気を付けてください。イグニッション・スイッチが ON になると、直ちに始動します。回転するファン・ブレードで、けがをする恐れがあります。
- 感電の恐れのある腕時計およびブレスレットなどの金属製装身具は外してください。重傷につながる恐れがあります。
- バッテリには、皮膚および目に触れるとやけどの原因となる硫酸が含まれています。また硫酸は、可燃性および爆発性の水素ガスを発生させる恐れもあります。バッテリの近くに火または火気を近づけないでください。

ジャンプ・スタートの手順

警告!

このジャンプ・スタート手順に従わないと、バッテリが爆発してけがを負うか、物損事故につながる恐れがあります。

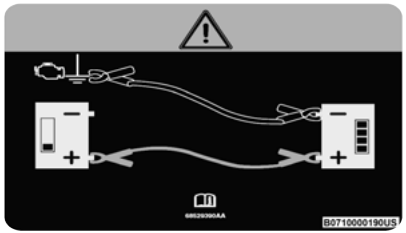
ジャンパ・ケーブルの接続

1. ジャンパ・ケーブルのプラス(+)側を、故障車両のバッテリのプラス(+)端子に取り付けます。
2. プラス(+)のジャンパ・ケーブルのもう一方を、補助バッテリのプラス(+)端子に接続します。
3. ジャンパ・ケーブルのマイナス(-)側を、補助バッテリのマイナス(-)端子に取り付けます。

4. マイナス(-)のジャンパ・ケーブルのもう一方の端部を、エンジン・アースに正しく取り付けます。アースとは、アクセサリ・ブラケットや大径ボルトなどエンジン、フレーム、シャーシの露出した金属／未塗装の部分のことです。アースは、バッテリーやフューエル・インジェクション・システムから離れていなければなりません。

警告!

放電したバッテリのマイナス(-)端子にジャンパ・ケーブルを接続しないでください。電気火花が発生するとバッテリが爆発してけがを負う恐れがあります。



ジャンプ・スタートのラベル

注意!

この手順に従わないと、救援車両または故障車両の充電系統を損傷する恐れがあります。

5. 救援車のエンジンを始動させ、エンジンを数分間アイドリングします。次にバッテリが放電した車のエンジンを始動します。

注意!

救援車のエンジンは、2000rpm 以上にしないでください。そうしても充電上の利点はなく、燃料が無駄になり、救援車のエンジンを傷めるおそれがあるためです。

6. エンジンが始動したら、ジャンパ・ケーブルを逆の順序で取り外します。

ジャンパ・ケーブルの取り外し

1. ジャンパ・ケーブルのマイナス(-)側を、故障車両のエンジン・アース部から取り外します。
2. マイナス(-)ジャンパ・ケーブルの反対側を、補助バッテリのマイナス(-)端子から取り外します。
3. ジャンパ・ケーブルのプラス(+)側を、補助バッテリのプラス(+)端子から外します。
4. プラス(+)のジャンパ・ケーブルのもう一方を、故障車両のバッテリのプラス(+)端子から外します。
5. 故障車両のプラス(+)端子の保護用カバーを元に戻します。

メモ:

ジャンプ・スタートを頻繁に行う必要がある場合は、正規ディーラーでバッテリおよび充電系統の検査を受けてください。

注意!

車両の電源コンセントに接続するタイプのアクセサリ（携帯機器など）は、使用していなくてもバッテリ電源を消耗します。エンジンがかかっていない状態で長時間プラグを差し込んだままにしておくと、車のバッテリが

(続き)

注意!

放電してバッテリの寿命を縮めたり、エンジン始動に支障をきたすことがあります。

エンジンがオーバーヒートした場合

車両がオーバーヒートしている場合は、正規ディーラーでの整備が必要です。

車両オーバーヒートの潜在的な兆候として、次のものが挙げられます。

- 温度計が「H（高温）」
- クーラントの強いにおい
- エンジンや排気系からの白煙
- クーラント・ボトルのクーラントに泡がある

警告!

ラジエータから出る高温のエンジン・クーラント（不凍液）または蒸気でやけどを負う恐れがあります。ボンネットの下から蒸気が見える、または音がする場合は、ラジエータが冷えるまでボンネットを開けないでください。ラジエータやクーラント・ボトルが熱い時は、絶対にラジエータ・キャップを開けないでください。

もし温度計が「H（高温）」位置に向かって動いているか、近くにある状況が見られる場合、適切に対応することでオーバーヒートになる可能性を低減できます。

- 高速道路走行時 – 速度を抑えてください。

- 市街地走行時 車両を停止させている間は、ブレーキで車両を停止させながら、シフト・レバーを「N（ニュートラル）」に入れてください。エンジンのアイドリング回転数は上げないでください。
- エアコン（A/C）を ON にしている場合は OFF にします。A/C システムは、エンジンの冷却装置を加熱させる作用があり、OFF にすることにより、この熱を除去できます。
- また、温度コントロールを最高温度にし、モード・コントロールをフロアに、また、ファン・スピード・コントロールを高速にしてください。これによってヒータ・コアがラジエータの補助として作動し、エンジン冷却装置の熱を取り除く手助けをします。

注意!

冷却装置が過熱した状態で運転すると、車が損傷することがあります。水温計が「H」（HOT）を示している場合は、車を路肩に寄せ、停止させてください。エア・コンディショナを切り、針が通常温度範囲に下がるまでアイドリングします。針が「H」を指したままチャイムが鳴り続ける場合は、直ちにエンジンを止めて正規ディーラーに連絡してください。

手動パーキング解除

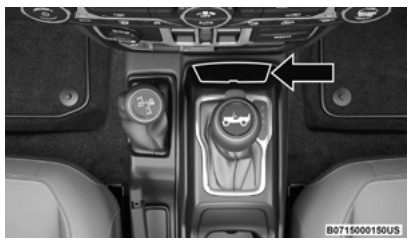
（バッテリ上がりなど）トランスミッションを「P（パーキング）」位置からシフトできない場合に車を移動するため、手動パーキング解除を利用できます。

警告!

手動パーキング解除を有効にする前に、必ずパーキング・ブレーキを完全にかけてください。また、手動パーキング解除を有効にする際は、運転席で必ずブレーキ・ペダルにしっかりと足を乗せて座るようにします。パーキング・ブレーキまたはけん引車両への適切な連結によって車両が動き出さないようになっていない場合、手動パーキング解除を有効にすると、車両が勝手に動き出します。動き出さないようになっていない車両で手動パーキング解除を有効にすると、乗員または車両の周囲にいる人の重傷または死亡事故につながる恐れがあります。

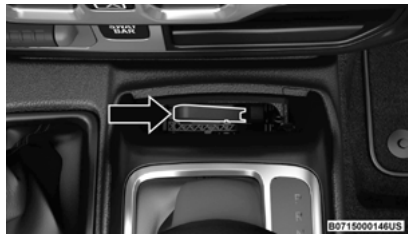
手動パーキング解除を使用するには、以下の手順を参照してください。

1. パーキング・ブレーキをしっかりとかけます。
2. 小型のドライバまたは同様のツールを使用して、リリース・テザー・ストラップにアクセスするには、ギヤ・セレクタの前にある手動パーキング解除カバーを取り外します。



手動パーキング解除のカバー

3. コンソール・ベースの開口部からテザー・ストラップを持ち上げます。



テザー・ストラップ

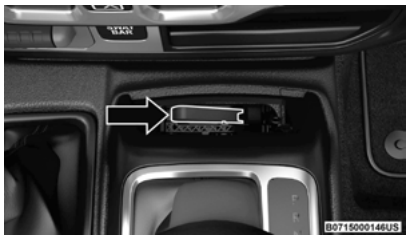
4. ブレーキ・ペダルを強く踏み込んだままにします。
5. リリース・レバーが所定の垂直位置にロックされるまで、テザー・ストラップを引き上げます。こうすることで、車両は「P（パーキング）」から解除され、走行できるようになります。車がけん引車両にしっかりと接続されている場合のみ、パーキング・ブレーキを解除してください。



解除された状態

手動パーキング解除をリセットするには:

1. テザー・ストラップを上向きに引っ張り、「ロック」位置から解除します。
2. 手動パーキング解除レバーを下向き左方向に下げ、元の位置に入れます。



テザーの再取り付け

3. テザー・ストラップをコンソールの台座に押し込み、カバーを取り付けます。

メモ:

レバーがリリース位置にロックされると、アクセス・カバーを再度取り付けることはできません。

スタックからの脱出

泥、砂、または雪の中で動きが取れない場合、車を前後に揺り動かすと脱出できることがよくあります。ステアリング・ホイールを左右に回して、フロント・タイヤ周辺から障害物を取り除きます。オートマチック・トランスミッション装備車の場合、ギヤ・セレクタのロック・ボタンを押し続けます。次に、アクセル・ペダルを少し踏み込みながら、「D(ドライブ)」と「R(リバース)」に交互にシフトします。タイヤをスピンさせたり、エンジンを空吹かししたりしないで、車両を前後に揺り動かし続けることができるように、少しだけアクセル・ペダルを踏みます。

メモ:

- オートマチック・トランスミッション装備車の場合:「D(ドライブ)」と「R(リバース)」間のシフトは、ホイール速度が 8km/h(5mph)以下でのみ可能です。トランスミッションが 2 秒間を超えて「N(ニュートラル)」に入っている場合は、必ずブレーキ・ペダルを踏んで「D(ドライブ)」または「R(リバース)」に入れなければなりません。
- 車両を揺り動かす前に、「ESC OFF(ESC オフ)」ボタンを押し、エレクトロニック・スタビリティ・コントロール(ESC)システムを「パーシャル OFF」モードに切り替えます ⇨ ページ 178。車両がスタックから脱出したら、「ESC OFF(ESC オフ)」ボタンをもう一度押して、「ESC ON」モードに戻します。

警告!

タイヤの高速空転は危険です。過度のホイール回転速度によって生じる力でアクスルおよびタイヤの破損または故障が発生する恐れがあります。タイヤが破裂し、人にけがを負わせる場合もあります。ぬかるみなどで動かなくなった場合は、車のタイヤを 48km/h(30mph)を超える速度で、または 30 秒以上連続して空転させないでください。また、回転速度に関係なく、空転しているタイヤ付近に人が近づかないようにしてください。

注意!

- エンジンの高回転やタイヤの空転は、トランスミッションの過熱および故障の原因になる恐れがあります。この前後に揺する動きを 5 回行う度に、トランスミッションを「N(ニュートラル)」に入れて、1 分以上、エンジンをアイドリングさせてください。これにより、立ち往生した車を長時間かけて脱出させる場合に、クラッチやトランスミッションが過熱したり、故障したりする危険性を低減します。
- 立ち往生した車を、「D(ドライブ)」/2 速ギヤと「R(リバース)」を交互にシフト・チェンジしながら「揺り動かして」スタック状態から脱出させる場合、24km/h(15mph)以上の速度で車輪を回転させないでください。駆動装置が破損する恐れがあります。
- エンジンの高回転やタイヤの空転は、トランスミッションの過熱および故障につながる恐れがあります。また、タイヤの損傷の原因にもなります。ギヤを入れた状態で 48km/h(30mph)を超える速度でタイヤを空転させないでください(トランスミッションは変速しません)。

(続き)

走行不能車両のけん引

このセクションでは、走行不能車両を一般のけん引サービスを使用してけん引する手順について説明します。

トランスミッションと駆動系が作動する場合は、⇨ ページ 143 で説明している方法で走行不能な 4X4 車両をけん引することもできます。

けん引の条件	地面から離れている車輪	4WD モデル
4 輪すべてが地面に着いている状態でけん引	なし	禁止
けん引用台車によるけん引	フロント	禁止
	リヤ	禁止
トレーラによるけん引	すべて	可能

メモ :
車両のけん引を行う場合は、適用される法令に必ず従ってください。詳細については、地元の規制当局に問い合わせてください。

けん引中に、アクセサリ（ワイパ、デフロスタなど）の使用が必要な場合、イグニッション・スイッチは、「ACC」位置でなく、「ON/RUN」位置にしてください。

車両のバッテリが放電している場合、車両を移動するにはオートマチック・トランスミッションを「P（パーキング）」からシフトする手順を参照してください ⇨ ページ 230。

注意!

- けん引時は、スリング・タイプの装備を使用しないでください。車両が損傷する恐れがあります。
- 車両をフラット・ベッド・トラックに固定する場合は、フロントまたはリヤ・サスペンション構成部品で固定しないでください。不適切にけん引すると、車両を損傷する恐れがあります。
- けん引されている車両の進路変更が必要な場合には、イグニッション・スイッチを「OFF（オフ）」位置ではなく、「ACC」または「ON/RUN（オン／走行）」モードに入れてください。

4WD モデル

FCA では、ホイールすべてを地面から**離して**けん引することを推奨します。けん引の正しい方法は、車両をフラットベッド・トラックに載せるか、または車両の片方を持ち上げ、もう片方をけん引用台車に載せて行います。

注意!

- 残りのホイールが接地している状態で、フロントまたはリヤ・ホイール・リフトは使用しないでください。けん引時にフロントまたはリヤ・ホイール・リフトを使用すると、トランスミッションまたはトランスファ・ケースの内部を損傷します。
- 承認済みの要件に反してこの車両をけん引すると、トランスミッションやトランスファ・ケースに重大な損傷が発生するおそれがあります。不適切なけん引によって生じた損傷は、新車保証の対象とはなりません。

イグニッション・キー・フォブがない場合

イグニッションをオフ・モードにして車をけん引する場合は、特別な注意が必要です。キー・フォブがない場合、フラット・ベッド・トラックを使用する以外のけん引方法は認められません。車両への破損を防ぐには、適切なけん引装備を使用する必要があります。

けん引フックの使用法

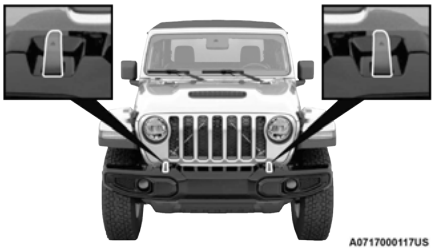
この車両には、走行不能車両の移動に使用できるけん引フックが装備されています。

車両のトリム・レベルによって、けん引フックのオプションが異なることがあります。けん引フックは、フロント・バンパとリヤ・フェイシア／バンパに取り付けられています。

けん引フックを使用するときは、このセクションで規定される指示に必ず従ってください。



フロントけん引フック – タイプ別装備



フロントけん引フック – タイプ別装備



リヤけん引フック

けん引フックの使用上の注意事項

警告!

けん引フックでけん引する場合は、車両から離れてください。

(続き)

警告!

- けん引フックでのけん引には、チェーンを使用しないでください。チェーンが切れて、重傷または死亡事故につながる恐れがあります。
- けん引フックでのけん引には、けん引ストラップを使用しないでください。ストラップが切れる、または外れて、重傷または死亡事故につながる恐れがあります。
- 正しいけん引フックの使用方法に従わないと、構成部品が破損し、重傷または死亡事故につながる恐れがあります。
- 車両がけん引されている間は、ブレーキおよびステアリング・パワー・アシスト・システムは機能しません。したがって、より大きな力をブレーキ・ペダルおよびステアリング・ホイールに加える必要があります。けん引の際には柔軟なロープは使用せず、急激な動きは避けてください。車両をけん引しているときは、エンジンを始動しないでください。リングを締め付ける前に、ネジ付きハウジングをしっかり清掃してください。車両をけん引する前に、リングがハウジングに完全にネジ留めされていることを確認してください。

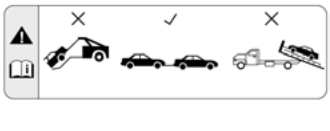
注意!

- けん引フックは道路上で発生した緊急の場合にのみ使用してください。交通規則に従った適切なデバイス(リジッド・バーまたはロープ)を用いて、けん引トラックによる輸送準備のため車両を操作します。
- けん引フックは、車両を道路以外または障害物のある場所に移動するのに使用しないでください。

(続き)

注意!

- けん引フックをけん引トラックでの吊り上げ、または高速道路でのけん引には使用しないでください。
- 立ち往生した車を脱出させる場合は、けん引フックを使用しないでください ⇨ ページ 231。
- これらのガイドラインに従わない場合、車両を損傷する恐れがあります ⇨ ページ 232。



けん引フック警告ラベル

高度事故時反応システム（EARS）

この車両には、高度事故時反応システムが搭載されています。

この機能は衝突時に有効になる通信ネットワークです ⇨ ページ 203。

事象データ・レコーダ（EDR）

この車は、事象データ・レコーダ（EDR）を装備しています。EDR の主な目的は、衝突または衝突に近い状況（エアバッグの展開または道路の障害物に当たるなど）が起こった際、車両のシステム作動状況を把握するのに役立つデータを記録することです ⇨ ページ 204。

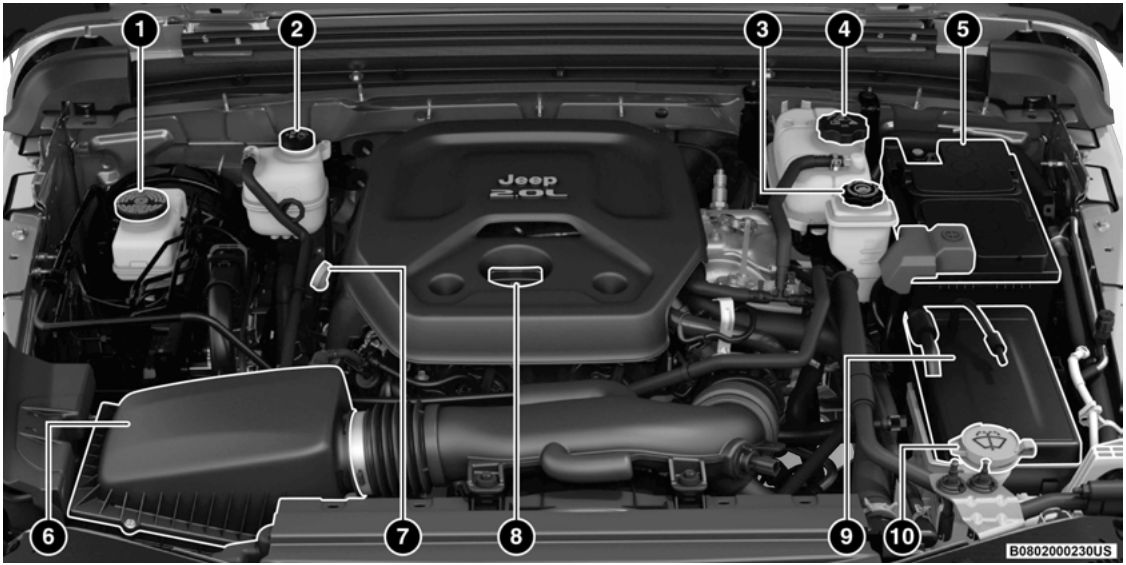
整備およびお手入れ

定期整備

定期整備については、「メンテナンス・ノート」を参照して ください。

エンジン・ルーム

2.0L ガソリン・エンジン



1 - ブレーキ・フルード・リザーバ・キャップ
2 - インタクーラ・クーラント・プレッシャ・キャップ
3 - パワー・ステアリング・フルード・リザーバ・キャップ
4 - エンジン・クーラント・プレッシャ・キャップ
5 – バッテリ
6 - エンジン・エアクリーナ・フィルタ
7 - エンジン・オイル・レベル・ゲージ
8 – エンジン・オイル・フィラ
9 – パワー・ディストリビューション・センタ(ヒューズ)
10 ウォッシャ・フルード・リザーバ・キャップ

オイル・レベルの点検

エンジンを適切に潤滑するためには、エンジン・オイルを適切なレベルに保つ必要があります。オイルのレベルを、燃料補給の度など定期的な間隔で点検してください。エンジン・オイル・レベルを点検するのに最適なのは、十分に暖機したエンジンを停止してから約 5 分後です。

車が水平な場所にあるときにオイルを点検すると、オイル量の測定精度が増します。

レベル・ゲージには次の 4 種類があります。

- 範囲マークが網目模様。
- 範囲マークが網目模様で「SAFE（安全）」とマークされている。
- 範囲マークが網目模様で、範囲の一番下に「MIN（最低）」とマークされ、範囲の一番上に「MAX（最高）」とマークされている。
- 範囲マークが網目模様で、範囲の「MIN（最低）」と「MAX（最高）」の端にくぼみがマークされている。

メモ：

オイル・レベルは常にレベル・ゲージの網目模様の範囲内を保つようにしてください。

メモ：

エンジン・オイル、フロントガラス・ウォッシャ液、不凍液など、ボンネット下で液体を補充する場合は、エンジン上部へのこぼれを最小限に抑えるように注意してください。余分な液体がエンジン上部にこぼれた場合、圧縮空気または吸収力のある布で除去してください。

読み取り値がレベル・ゲージ範囲マークの一番下の位置にあるときにオイルを 1L（1qt）加えると、オイル・レベルが範囲マークの一番上までいっぱいになります。

注意!

クランクケースへ補充が多すぎる、または少なすぎると、空気混入や油圧不足を招きます。これによりエンジンを損傷することもあります。

ウォッシャ液の補給

フロントガラスとリヤ・ウインドウ（タイプ別装備）のフルード・リザーバのタンクは共通です。フルード・リザーバはエンジン・ルームにあります。フルード量は、定期的に点検してください。フロントウィンドウ・ウォッシャ液（ラジエータ不凍液ではなく）をいっぱいまで注ぎます。ウォッシャ・フルード・リザーバを補充する際に、ウォッシャ液を布またはタオルに少し付けてワイパ・ブレードを拭くと、ブレードの性能が向上します。

寒冷時のフロントウィンドウ・ウォッシャ・システムの凍結を防ぐには、お住まいの気候の気温範囲に適合するか、またはそれ以上の気温範囲に対応する液または混合液を選択してください。この規格情報は、ほとんどのウォッシャ液の容器に記載されています。

メモ：

エンジン・オイル、フロントガラス・ウォッシャ液、不凍液など、ボンネット下で液体を補充する場合は、エンジン上部へのこぼれを最小限に抑えるように注意してください。余分な液体がエンジン上部にこぼれた場合、圧縮空気または吸収力のある布で除去してください。

警告!

市販のフロントウィンドウ・ウォッシャ液は可燃性です。点火して、やけどをする恐れがあります。ウォッシャ液の補充または周辺での作業には特に注意してください。

メンテナンス・フリー・バッテリ

この車には、メンテナンス・フリー・バッテリが装備されています。水の補充や定期的なメンテナンスは必要ありません。

警告!

- バッテリ液は腐食性のある希硫酸なので、やけどや失明の恐れがあります。バッテリ液が目、皮膚または衣服に付かないようにしてください。クランプを取り付けるときには、バッテリの上にかがみ込まないでください。万一バッテリ液が目に入ったり皮膚に付いたりしたときには、大量の水で直ちに洗い流してください ⇨ ページ 227。
- バッテリから発生するガスは可燃性で爆発性があります。バッテリの近くに火または火気を近づけないでください。12V を超える電圧の補助バッテリや他の補助電源は使用しないでください。ケーブル・クランプ同士が接触しないようにしてください。
- バッテリ端子、その他のバッテリ部品には鉛および鉛の化合物が含まれます。バッテリを取り扱った後は、手を洗ってください。
- START&STOP システム装備車両には、バッテリが 2 つ備わります。12 ボルトの電気系統への電源供給を完全に停止するには、メイン・バッテリおよび補助バッテリ両方の接続を外す必要があります。
- 両方のバッテリの接続を外さないと、重傷または死亡事故につながるおそれがあります。正しく外す方法については、正規ディーラーにお問い合わせください。

注意!

- バッテリのケーブルを交換するときは、必ずプラス・ケーブルをプラス(+)端子に、マイナス・ケーブルをマイナス(-)端子に取り付けてください。バッテリ・ケース上にあるバッテリ・ポストには、プラス(+)およびマイナス(-)のマークが付けられ、識別することができます。ケーブル・クランプを端子にしっかりと固定し、腐食を防いでください。
- バッテリを車に搭載したまま「急速充電器」を使用する場合、充電器をバッテリに接続する前に車の両方のバッテリ・ケーブルを切り離してください。車両の始動に「急速充電器」を使用しないでください。
- START&STOP システム装備車両には、バッテリが 2 つ備わります。12 ボルトの電気系統への電源供給を完全に停止するには、メイン・バッテリおよび補助バッテリ両方の接続を外す必要があります。
- マイナスのバッテリ・ケーブルが正しく絶縁されていない場合、システムの出力が急上昇して、重要な電気構成部品が損傷するおそれがあります。

高圧洗浄

エンジン・ルームを高圧ウォッシャで洗浄することはお勧めしません。

注意!

すべての部品および接続部を保護するように注意が施されていますが、これらの機械による圧力による水の侵入から完全に保護できる保証はありません。

車両のメンテナンス

正規ディーラーでは、あらゆる整備に高度な技術で対応するために、資格を持った整備士、専用工具および装置を用意してお待ちしております。整備に関する情報を詳細に記載したサービス・マニュアルも用意しております。ご自分で整備を試みられる前に、サービス・マニュアルを参照してください。

メモ:

排気装置を故意に改造すると、保証が無効になることがあり、また法律で罰せられることがあります。

警告!

車や車の周りでの作業は、大けがをする危険を伴います。お客様ご自身での整備は、整備についての正しい知識と適切な器具のある場合に限り行ってください。整備に自信がない場合は、資格のある整備士に整備をご依頼ください。

エンジン・オイル

エンジン オイルの選択

エンジン・オイルを適切に選択するには ⇨ ページ 282。

American Petroleum Institute(API)認定エンジン・オイル

これらのシンボルは、オイルが API に認定されていることを示すものです。当社は、API 商標の付いたオイルのみの使用を推奨いたします。



API Starburst 商標は、0W-20、0W-30、および 5W-30 の各エンジン・オイルを認定します。



API Donut 商標は 0W-40 および 5W-40 のエンジン・オイルを認定します。

注意!

エンジン・オイルには、化学洗浄剤は使用しないでください。化学洗浄剤によりエンジンを損傷する恐れがあります。このような損傷は、新車限定保証の対象とはなりません。

合成エンジン・オイル

エンジンは合成エンジン・オイルを使用するように設計されています。合成 API 認定エンジン・オイルのみご使用ください。

適正な API 商標と適正な SAE 粘度グレード番号の両方がついていない合成エンジン・オイルは使用しないでください。

エンジン・オイルの添加剤

当社は、オイル漏れ検出用の染料を除き、エンジン・オイルへの添加剤の注入は推奨しません。エンジン・オイルは加工製品であり、補助的な添加剤によって性能が劣化する可能性があります。

使用済みエンジン・オイルおよびオイル・フィルタの廃棄

使用済みエンジン・オイルおよびオイル・フィルタの廃棄には注意が必要です。使用済みオイルおよびオイル・フィルタを無分別に廃棄すると環境問題につながります。使用済みオイルおよびオイル・フィルタをお住まいの地域で安全に廃棄する方法と場所については、お近くの正規ディーラー、ガソリン・スタンド、または行政機関にお問い合わせください。

エンジン・オイル・フィルタ

エンジン・オイル・フィルタは、オイル交換と同時に新しいフィルタと交換してください。

エンジン・オイル・フィルタの選択

交換用としては、使い捨てのフルフロー型オイル・フィルタを使用してください。交換フィルタの品質は大きく異なります。Mopar®エンジン・オイル・フィルタの使用をお勧めします。Mopar®エンジン・オイル・フィルタが使用できない場合は、必ず SAE/USCAR-36 のフィルタ性能要件以上に合致するフィルタを使用してください。

エンジン・エア・クリーナフィルタ

適切な交換間隔については、「メンテナンス・ノート」を参照してください。

メモ :
該当する場合、「過酷な走行条件」のメンテナンス間隔に従ってください。

警告!

エア・インダクション・システム（エア・クリーナ、ホースなど）は、エンジンがバックファイヤを起こしたときに保護する機能があります。修理またはメンテナンスが必要な場合を除き、エア・インダクション・システム（エア・クリーナ、ホースなど）は外さないでください。エア・インダクション・システム（エア・クリーナ、ホースなど）を外した状態でエンジンを始動する際は、エンジン・ルームの近くに人がいないことを確認してください。確認を怠ると、大けがにつながる恐れがあります。

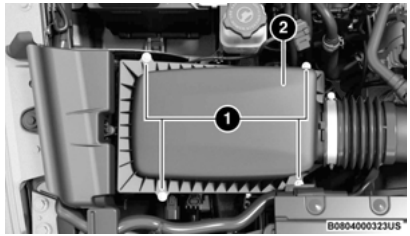
エンジン・エアクリーナ・フィルタの選択

交換用エンジン・エアクリーナ・フィルタの品質は大きく異なります。Mopar®認定高品質フィルタのみをご使用ください。

エンジン・エア・クリーナ・フィルタの点検と交換

エンジン・エア・クリーナ・フィルタの取り外し

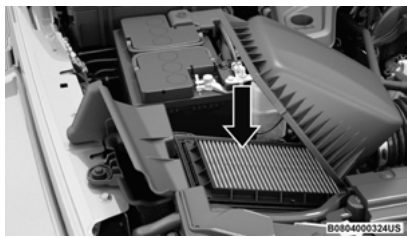
1. 適切なツールを使用して、エア・クリーナ・フィルタ・カバーのファスナを緩めます。



エンジン・エアクリーナ・フィルタ・カバー

1 - ファスナ
2 エンジン・エアクリーナ・フィルタ・カバー

2. エンジン・エアクリーナ・フィルタ・カバーを持ち上げて、エアクリーナ・フィルタにアクセスします。



エンジン エア・クリーナ・フィルタ

3. エンジン・エアクリーナ・フィルタ・カバーをハウジング・アッセンブリから取り外します。

エンジン・エア・クリーナ・フィルタの取り付け

メモ：
ハウジングを点検し、埃や堆積物がかなり存在する場合、エンジン・エアクリーナ・フィルタを交換する前にハウジングを清掃します。

1. エンジン・エアクリーナ・フィルタの点検面を下向きにして、エンジン・エアクリーナ・フィルタをハウジング・アセンブリに取り付けます。
2. 適切なツールを使用して、エンジン・エアクリーナ・フィルタ・カバーのファスナを締め付けます。

注意!
エンジン・エアクリーナ・フィルタ・カバーのリッド・スクリュを締め付け過ぎないでください。破損する恐れがあります。

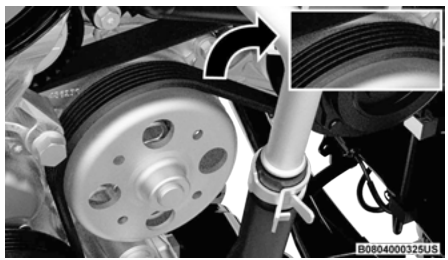
アクセサリ・ドライブ・ベルトの点検

警告!
● 車両の走行中に、アクセサリ・ドライブ・ベルトの点検を行わないでください。 ● ラジエータの冷却ファン付近で作業するときは、ファン・モータ・ハーネスを切り離してください。ファンは温度によって制御されており、イグニッション・モードの位置にかかわらず、始動することがあります。回転しているファン・ブレードによって負傷する恐れがあります。 ● 車や車の周りでの作業は、大けがをする危険を伴います。お客様ご自身での整備は、整備についての正しい知識と適切な器具のある場合に限り行ってください。整備に自信がない場合は、資格のある整備士に整備をご依頼ください。

(続き)

警告!
てください。整備に自信がない場合は、資格のある整備士に整備をご依頼ください。

アクセサリ・ドライブ・ベルトの点検時、ベルトのリブのある表面上のリブからリブまでを横切る小さな亀裂が見つかったとしても、これは正常なものです。このためにベルトを交換する必要はありません。ただし、リブを横切るのではなく、リブに沿って走る亀裂は正常なものではありません。リブに沿って亀裂が見つかったら、そのベルトは交換する必要があります。また、過度の摩耗、擦り切れ、または摩耗によるひどい照りがあるベルトも、交換してください。



アクセサリ・ベルト（サーペンタイン・ベルト）

以下の状態の場合は交換が必要です。

- リブのチャンキング（ベルト本体から１つ以上のリブが脱落）
- リブまたはベルトの摩耗
- ベルトを縦に走る亀裂（２つのリブの間の亀裂）
- ベルトの滑り
- 溝飛び（ベルトがプーリ上の正しい位置から外れる）
- ベルトの割れ
- ノイズ（ドライブ・ベルトの作動中に擦れるようなキーキー音やガラガラ音が聞こえるまたは感じる）

一部の状況は、ベルト・プーリなどの部品に故障がある場合に起こることがあります。ベルト・プーリに損傷がないか、アラインメントが適切か、注意深く点検してください。

一部のモデルでは、ベルトの交換に際して、特殊工具が必要です。そのため、正規ディーラーで車両の点検をお受けになることをお勧めします。

エアコンのお手入れ

エアコンが最高の性能を発揮するために、夏季の前には正規ディーラーでの点検整備を受けてください。その際には、コンデンサ・フィンの清掃および性能の点検も行ってください。同時に、ドライブ・ベルトの張りも必ず点検してください。

警告!
● エアコン・システムには当社が認可した冷媒およびコンプレッサ潤滑油のみを使用してください。認可されていない冷媒には可燃性のものがあり、爆発してけがをする恐れがあります。その他の認可されていない冷媒やコンプレッサ潤滑油を使用すると、システムを破損して、高額の修理費が必要になる場合があります。 ● エアコン・システムには高圧の冷媒が使用されています。人身事故やシステムの損傷を防ぐため、冷媒補充やシステムの配管を切り離す必要がある整備は必ず資格のある整備士に依頼してください。

注意!

エアコン・システムには、化学洗浄剤は使用しないでください。化学洗浄剤によりエアコンの部品が損傷する恐れがあります。このような損傷は、新車限定保証の対象とはなりません。

冷媒の回収とリサイクル – R-1234yf

R-1234yf エアコン冷媒は、ハイドロフルオロオレフィン（HFO）であり、米国環境保護局が推奨する地球温暖化係数の小さいオゾン保護物質です。当社では、回収およびリサイクル（再生利用）設備の整った正規ディーラーでエアコンの整備を行うことをお勧めしています。

メモ：
当社が認可したエアコン・システム PAG コンプレッサ・オイルおよび冷媒のみを使用してください。

室内エア・フィルタの交換

警告!

車両の走行中、またはイグニッションが「ACC」または「ON/RUN（オン／走行）」位置のときは、室内エア・フィルタを取り外さないでください。室内エア・フィルタが取り外された状態でファンが作動すると、ファンが手に接触したり、汚れやごみが目に入ったりして、けがを負うおそれがあります。

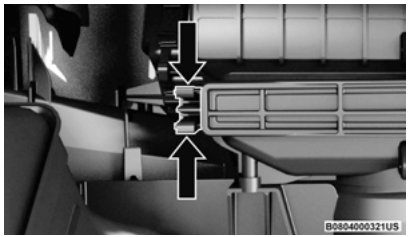
室内エア・フィルタはグローブ・ボックス裏側のエア・インレットにあります。フィルタの交換は、次の手順で行います。

1. グローブ・ボックスを開け、中に入れている物をすべて取り出します。
2. グローブ・ボックス・トラベル・ストップを押し上げ、ドアを下げます。



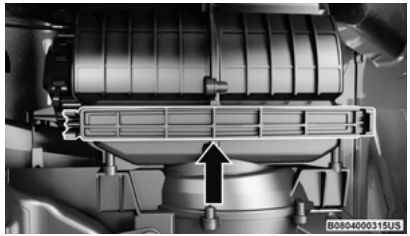
グローブ・ボックス・トラベル・ストップ

3. グローブ・ボックスを下方に回転させます。
4. 室内エア・フィルタ・アクセス・ドアを HVAC ハウジングに固定している固定タブ（合計 2 個）をそれぞれ外します。



室内エア・フィルタ・リテーニング・タブ

5. HVAC エア・インレット・ハウジングから室内エア・フィルタを取り外します。フィルタ・エレメントを引っ張り出し、右方向にはさんですきまを作ります。



室内エア・フィルタ

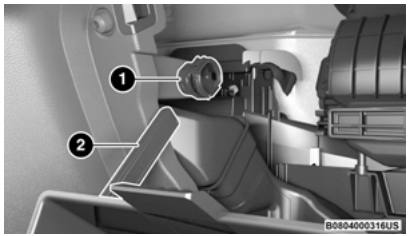
6. 取り外したときと同じ方向にエア・フィルタ位置インジケータを向けて、室内エア・フィルタを取り付けます。

注意!

室内エア・フィルタには、風向きの方向が矢印で示してあります。フィルタを正しく取り付けないと、フィルタの交換頻度が多くなります。

7. 室内エア・フィルタのアクセス・ドアを閉じ、固定タブを固定します。

8. グローブ・ボックス・ドアを所定の位置に回し、トラベル・ダンパが正しくはさまることを確認します。



トラベル・ダンパ

1 - トラベル・ダンパ・ハウジング
2 - トラベル・ダンパ・ロッド

適切な交換間隔については、「メンテナンス・ノート」を参照してください。

ボディ系の潤滑

シート・レール、ドア・ヒンジの開閉部およびローラ、リフトゲート、テールゲート、デッキ・リッド、スライディング・ドア、およびボンネット・ヒンジなどの部品を含め、ロック部やボディの開閉部は、Mopar®スプレー・ホワイト・グリースなどのリチウムベースのグリースを使用して定期的に潤滑する必要があります。これにより静粛性や操作性が向上し、錆や摩耗を防ぐことができます。潤滑油を塗布する前は、関連部品をきれいに拭いて埃やごみを取り除き、塗布後は余分なオイルやグリースを取り除いてください。また、ボンネット・ラッチ部品には特に注意し、適切に機能することを確認してください。他のエンジン・ルームの点検整備を行う場合、ボンネット・ラッチ、リリース・メカニズムおよび安全装置をきれいにして潤滑する必要があります。

外部ロック・シリンダは、年に 2 回程度（春と秋）潤滑を行ってください。Mopar®ロック・シリンダ・オイルなどの高品質の潤滑油を少量ロック・シリンダに直接塗布します。

フロントガラス・ワイパ・ブレード

研磨剤の入っていない洗剤と柔らかい布またはスポンジで、定期的にワイパ・ブレードのゴム製エッジとフロントウィンドウを掃除してください。これにより、走行中に付着した汚れの膜や塩分を取り除きます。

表面が乾いた状態のフロントウィンドウで長時間ワイパを作動させると、ワイパ・ブレードが劣化する恐れがあります。ワイパで乾いたフロントウィンドウの塩分や汚れを取り除く場合は、必ずウォッシャ液を使用してください。

フロントウィンドウの霜または氷の除去に、ワイパ・ブレードを使用しないでください。ワイパ・ブレードのゴム部分にはエンジン・オイルやガソリンなどの石油製品を付着させないでください。

メモ：
ワイパ・ブレードの寿命は、地理的条件や使用頻度によって異なります。ブレードの性能が低下すると、カタカタ音、マーク、スジ、または拭きむらが発生します。このような状態が見られたら、ワイパ・ブレードを清掃するか、必要に応じて交換してください。

ワイパ・ブレードおよびワイパ・アームは、ワイパの性能の問題が発生した場合ではなく、定期的に点検してください。この点検には以下の点を含めてください。

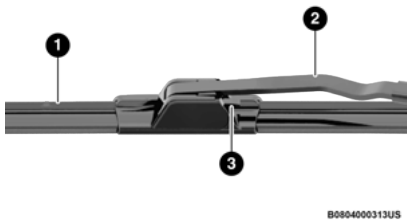
- 摩耗または偏摩耗したエッジ
- 異物
- 硬化または割れ
- 変形または疲労

ワイパ・ブレードまたはワイパ・アームが損傷した場合、該当のワイパ・アームまたはブレードを新品と交換します。損傷したワイパ・アームまたはブレードは修理しないでください。

ワイパ・ブレードの取り外し／取り付け

注意!
ワイパ・ブレードを所定の位置にしない状態で、ワイパ・アームをウィンドウに勢いよく戻さないでください。ウィンドウが損傷するおそれがあります。

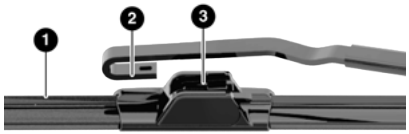
1. ワイパ・アームが一番上の位置になるまで、ワイパ・アームを持ち上げてワイパ・ブレードをガラスから上げて離します。



リリース・タブがロック位置にあるワイパ・ブレード

1 – ワイパ・ブレード
2 – ワイパ・アーム
3 - リリース・タブ

2. ワイパ・ブレードをワイパ・アームから切り離すには、ワイパ・ブレードのリリース・タブを押して、ワイパ・アームを片手で支えながら、ワイパ・ブレードをワイパ・アームのベースに向かって下にスライドさせます。



リリース・タブがロック解除位置にあるワイパ・ブレード

1 – ワイパ・ブレード
2 - ワイパ・アーム・J・フック
3 - J・フック・リテーナ

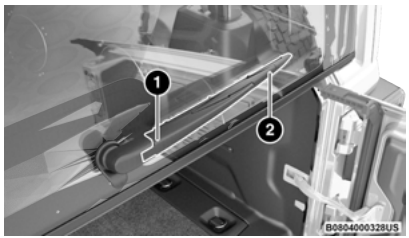
3. ワイパ・ブレードをワイパ・アームから取り外します。
4. ワイパ・アームをゆっくりとガラスに下げます。

フロント ワイパの取り付け

1. ワイパ・アームが一番上の位置になるまで、ワイパ・アームを持ち上げてガラスから離します。
2. ワイパ・ブレードをワイパ・アームの先端にあるフックの近くに配置します。
3. ワイパ・ブレードの開口部からアームの先端にフックを挿入します。
4. ワイパ・ブレードをワイパ・アーム上のフックにスライドさせると、「カチッ」という音がして、ラッチがかかります。
5. ワイパ・ブレードをゆっくりとガラスに下げます。

リヤ・ワイパ・ブレードの取り外し／取り付け

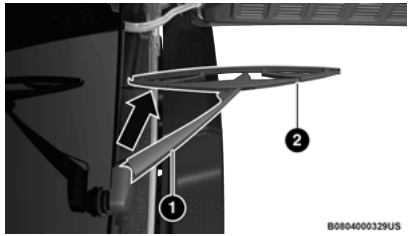
1. ワイパ・アームにアクセスするには、スイング・ゲートを開きます。



リヤ・ワイパ・アセンブリ

1 – ワイパ・アーム
2 – ワイパ・ブレード

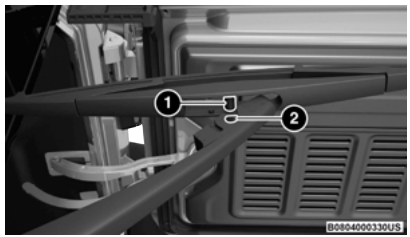
2. ガラスからワイパ・アームを持ち上げて離し、ワイパ・ブレードを外側に回してワイパ・アームから離します。



ワイパ・ブレードおよびワイパ・アーム

1 – ワイパ・アーム
2 – ワイパ・ブレード

3. アームをガラスにゆっくりと置きます。



ワイパ・アームから取り外したワイパ・ブレード

1 - ワイパ・ブレード・ピボット・ピン
2 - ワイパ・アーム・ソケット

リヤ・ワイパの取り付け

1. リヤ・ワイパ・アームを上に持ち上げてガラスから離します。

2. ワイパ・ブレード・ピボット・ピンをワイパ・アームの端の開口部に挿入し、ワイパを回して所定の位置にします。
3. ワイパをガラスの上に置き、スイング・ゲートを閉じます。

排気装置

一酸化炭素が車内に侵入するのを防ぐ上で最も効果的な方法は、エンジン排気装置を適切に点検整備することです。

排気装置の音の変化、車内の排気臭、または車の下部または後部に損傷がある場合、排気装置全体および隣接したボディ部に破損、損傷、劣化または取付不良の部品がないかどうか、認定を受けた整備士により点検を受けてください。継ぎ目が開いていたり、接続部が緩んでいると、排気ガスが車内に侵入する恐れがあります。また、潤滑やオイル交換で車を持ち上げるときに排気装置の点検も依頼してください。必要に応じて部品を交換してください。

警告!

- 排気ガスは、けがまたは死に至る危険性のある有毒なガスです。排気ガスには、無色無臭の一酸化炭素(CO)が含まれています。一酸化炭素を吸引すると、意識を失うなど人体に有害な影響を与えます。一酸化炭素の吸引を防ぐために、次の安全事項を遵守してください。
  - 狭いガレージや密閉された場所では、車を出入りさせるのに必要な時以外はエンジンをかけないでください。

(続き)

警告!

- トランク／リフトゲート／リヤ・ドアを開けて走行するときは、窓がすべて閉まっていて、ヒータ／エアコンのファン・スピード調整スイッチが高速にセットされていることを確認してください。内気循環モードは使用しないでください。
- エンジンをかけたまま駐車した車内にいなければならない場合は、空調装置を調節して、外気を車内に取り込みます。ファン・スピードを高速に設定してください。

- 可燃物の上に駐車すると、排気装置が熱を持ち、火災が発生する恐れがあります。たとえば、草や葉などが車両の排気装置に接触すると火災の原因になります。そのような可燃物が排気装置に接触するような場所に車両を駐車したり、そのような場所で車両を整備しないでください。

注意!

- 触媒コンバータ装備車には、無鉛レギュラー・ガソリンのみを使用してください。有鉛ガソリンを使用すると、排気装置としての触媒の効果が失われ、エンジン性能が著しく低下してエンジンに重大な損傷を与えることがあります。
- 車両を適切に走行できる状態を維持しておかないと、触媒コンバータを損傷します。エンジンの点火不良や、著しい性能低下などエンジン不良が起きた場合は、直ちに車両の整備を受けてください。そのまま運転し続けるとコンバータがオーバーヒートして、コンバータおよび車両に損傷を与える恐れがあります。

通常の走行状態では、触媒コンバータを整備する必要はありません。ただし、触媒を適切に機能させ触媒の損傷を防ぐために、適切にエンジンを調整しておくことが重要です。

メモ:

排気装置を故意に改造すると法律で罰せられることがあります。

エンジンの異常作動が著しい場合は、焦げた臭いがするため、触媒のオーバーヒートが深刻かつ異常な状態にあることを察知できます。その場合は車を停止してエンジンを切り、冷却してください。その後、すぐに整備を受け、メーカの仕様に合わせたエンジン調整も行うようにしてください。

触媒コンバータの損傷を最小限にするために、次の注意事項を守ってください。

- トランスミッションのギヤが入っていて車両が走行中の場合は、イグニッション・スイッチを操作しないでください。
- 押しがけ、またはけん引によって車両を始動させないでください。
- 診断テスト中など、イグニッション系部品の接続を外したり、取り外しているときにエンジンをアイドリングしないでください。また、アイドリングが非常に不安定なとき、または故障しているときに、アイドリングを長時間行わないでください。

冷却装置

警告!

- ラジエータから出る高温のエンジン・クーラント(不凍液)または蒸気でやけどを負う恐れがあります。ボンネットの下から蒸気が見える、または音がする場合は、ラジエータが冷えるまでボンネットを開けないでください。ラジエータやクーラント・ボトルが熱い時は、絶対にラジエータ・キャップを開けないでください。
- ボンネットを開いているときは、手、工具、衣類、および装身具をラジエータ冷却ファンに近づけないでください。ファンは自動的に起動し、エンジンが作動中かどうかにかかわらず、いつでも起動することがあります。
- ラジエータ冷却ファン付近で作業するときは、ファン・モータ・ハーネスを切り離すか、イグニッションを「OFF(オフ)」位置にしてください。ファンは温度によって制御されており、イグニッションが「ON(オン)」のときは、常に始動可能な状態にあります。

クーラントの点検

エンジン、およびインタクーラ(タイプ別装備)クーラント(不凍液)を 12 ヵ月毎(適宜、凍結シーズンが始まる前の時期)に点検してください。エンジン、およびインタクーラ(タイプ別装備)に汚れや錆が見受けられる場合、システムから抜き取って洗い流し、新しい OAT クーラント(MS.90032 に準拠)を充填する必要があります。その際は、正規ディーラーが実施しなければなりません。A/C コンデンサの前面またはラジエータに虫や落ち葉などがたまっていないか点検し、汚れていたら A/C コンデンサの表面またはラジエータ・コアの後ろにホースで上から下へ軽く水をかけて洗い流します。

エンジン、およびインタクーラ(タイプ別装備)のクーリング・システムのホースがクーラント・リカバリ・ボトルおよびラジエータ側でゴムが脆くなっていないか、亀裂、破れ、切れ目がないか、また接続がしっかりしているか点検します。冷却装置全体に漏れがないか点検します。冷却装置が熱い時には、ラジエータ・キャップを取り外さないでください。

冷却装置 抜き取り、洗浄、注入

メモ:

一部の車両では、クーラントを正しく補給するために特殊工具が必要です。これらのシステムに正しく補給しないと、エンジン内部の重大な損傷に至る恐れがあります。システムにクーラントを補給する必要がある場合は、正規ディーラーにお問い合わせください。

エンジン・クーラント(不凍液)が汚れていたり、目視できる沈殿物が含まれている場合は、正規ディーラーに、OAT(Organic Additive Technology)クーラント(MS.90032 に適合)の洗浄および流洗を依頼してください。

適切な交換間隔については、「メンテナンス・ノート」を参照してください。

クーラントの選択

詳細情報 ⇨ ページ 282。

メモ:

- 指定された OAT(Organic Additive Technology)エンジン・クーラント(不凍液)以外のクーラントを混合使用すると、エンジンが損傷したり、腐食防止効果が下がる場合があります。成分が異なるため、OAT エンジン・クーラントと HOAT(Hybrid Organic Additive Technology)エンジン・クーラントまたは何らかの「汎用的に互換性のある」クーラントを混ぜないでください。緊急時に非 OAT エンジン・クーラントをクーリング・システムに入れた場合、なるべく早く正規ディーラーにクーリング・システムの排出、洗浄、新しい OAT クーラント(MS.90032 に準拠)の充填を依頼する必要があります。
- アルコールが主成分のエンジン・クーラント製品または真水のみを使用しないでください。防錆剤は、ラジエータのエンジン・クーラントに合わず、ラジエータを詰まらせることがあるので添加しないでください。
- 本車両は、プロピレン・グリコール製のエンジン・クーラントを使用するように設計されていません。プロピレン・グリコール製のエンジン・クーラントの使用は推奨しません。
- 一部の車両では、クーラントを正しく補給するために特殊工具が必要です。これらのシステムに正しく補給しないと、エンジン内部の重大な損傷に至る恐れがあります。システムにクーラントを補給する必要がある場合は、正規ディーラーにお問い合わせください。

クーラントの補充

本車両は、メンテナンス間隔を長くする改良されたエンジン・クーラント(MS.90032 に適合した OAT クーラント)を使用しています。このエンジン・クーラント(不凍液)は、交換まで最長 10 年、または 240,000km(150,000 マイル)の走行が可能です。メンテナンス間隔を短縮させないために、常に同じエンジン・クーラント(MS.90032 に適合した OAT クーラント)を使用することが重要です。

メーカの材料規格 MS.90032 に適合した OAT(Organic Additive Technology)エンジン・クーラントの使用に関する推奨事項を確認してください。エンジン・クーラントを補充するとき

- メーカの材料規格 MS.90032 に適合した Mopar®不凍液/クーラント、10 年/240,000km(150,000 マイル)フォーミュラ OAT の使用をお勧めします。

8

- メーカの材料規格 MS.90032 に適合した OAT エンジン・クーラントを蒸留水で 50%以上に希釈して、エンジン・クーラント溶液を作ります。気温が-37℃(-34°F)を下回るような場合は、より濃度の高いクーラント(最大 70%)を使用してください。正規ディーラーにお問い合わせください。
- 水とクーラントを混合するときは、蒸留水や脱イオン水など高純度の水のみを使用してください。品質の悪い水を使用すると、エンジン冷却装置の腐食防止効果が下がります。

メモ:

- 気温が著しく低い地域では、お客様の判断で凍結に対する適切な対策を行ってください。
- エンジン・オイル、フロントガラス・ウォッシャ液、不凍液など、ボンネット下で液体を補充する場合は、エンジン上部へのこぼれを最小限に抑えるように注意してください。余分な液体がエンジン上部にこぼれた場合、圧縮空気または吸収力のある布で除去してください。
- 一部の車両では、クーラントを正しく補給するために特殊工具が必要です。これらのシステムに正しく補給しないと、エンジン内部の重大な損傷に至る恐れがあります。システムに補給するクーラントが必要な場合は、正規ディーラーにお問い合わせください。
- 異なる種類のエンジン・クーラントを混合して使用することは推奨しません。システムの損傷を招く恐れがあります。緊急時に HOAT および OAT クーラントを混合した場合は、なるべく早く正規ディーラーに OAT クーラント(MS.90032 に適合)の排出、洗浄、充填を依頼してください。

冷却装置 ラジエータ・キャップ

キャップはエンジン・クーラント(不凍液)が漏れないように、またエンジン・クーラントがクーラント・エクスパンション・ボトル/リカバリ・タンク(タイプ別装備)からラジエータに戻るようにしっかりと締めます。

ラジエータ・キャップの密封面に異物が付着していないか点検し、きれいな状態にしておいてください。

警告!

- 熱くなったエンジン冷却装置は開けないでください。エンジンのオーバーヒート時は、絶対にエンジン・クーラント(不凍液)を補充しないでください。オーバーヒートしたエンジンを冷やすために、キャップを緩めたり外したりしないでください。熱により冷却装置内の圧力が高まります。やけどやけがをしないために、システム内が高温または高圧の間はラジエータ・キャップを外さないでください。
- 車両に指定されたラジエータ・キャップ以外は使用しないでください。人身事故やエンジンの損傷につながる恐れがあります。

使用済みクーラントの廃棄

使用済みのエチレン・グリコール系クーラント(不凍液)は産業廃棄指定物です。最寄りの行政機関に問い合わせ、その地域の廃棄規則を確認してください。ペットやお子さまによる誤飲を防ぐため、エチレン・グリコール系クーラントを口の開いた容器に保存したり、水たまりなどに流さないでください。お子さまやペットが誤って口にした場合は、直ちに医師の診察を受けてください。地面にこぼれた場合も直ちにふき取ってください。

クーラントの量

クーラント・ボトルは、クーラントの量が適量かどうか一目でわかるようになっています。エンジンを OFF にして冷めた状態で、ボトル内のエンジン・クーラント(不凍液)の量が、ボトルに表示された範囲内にあるようにしてください。

ラジエータ内は通常満タン状態にあるので、エンジン・クーラントの凍結温度の点検時またはクーラント交換時以外は、ラジエータ/クーラント・プレッシャ・キャップを開ける必要はありません。整備士にその旨を伝えてください。エンジン作動温度が正常な限り、クーラント・ボトルは 1 ヵ月に 1 度点検すれば問題ありません。

適切な量になるようエンジン・クーラントの補充が必要な場合は、メーカの材料規格 MS.90032 に適合した OAT クーラントのみをクーラント・ボトルに補充してください。フルードを入れ過ぎないよう注意してください。

エンジン・クーラント・レベル — 2.0L

警告!

- 熱くなったエンジン冷却装置は開けないでください。エンジンのオーバーヒート時は、絶対にエンジン・クーラント(不凍液)を補充しないでください。オーバーヒートしたエンジンを冷やすために、キャップを緩めたり外したりしないでください。熱により冷却装置内の圧力が高まります。やけどやけがをしないために、システム内が高温または高圧の間はラジエータ・キャップを外さないでください。
- 車両に指定されたラジエータ・キャップ以外は使用しないでください。人身事故やエンジンの損傷につながる恐れがあります。

エンジンを停止して冷ました状態で、エンジン・クーラントの量がディップスティック上に表示された ADD と FULL の間の OK 範囲内になるようにしてください。

1. エンジン・クーラント・ボトルからキャップとレベル・ディップスティックを取り外します。
2. ディップスティックからクーラントを拭き取ります。
3. キャップを、クーラント・ボトルの開口部上に締め付けずに置きます。
4. キャップとディップスティックを取り外し、ディップスティック上のクーラント・レベルを確認します。

ラジエータ内は通常満タン状態にあるので、エンジン・クーラント（不凍液）の凍結温度の点検時またはクーラント交換時以外は、ラジエータ／クーラント・プレッシャ・キャップを開ける必要はありません。整備士にその旨を伝えてください。エンジン作動温度が正常な限り、クーラント・ボトルは 1 ヵ月に 1 度点検すれば問題ありません。

適切な量になるようエンジン・クーラントの補充が必要な場合は、メーカの材料規格 MS.90032 に適合した OAT クーラントのみをクーラント・ボトルに補充してください。フルードを入れ過ぎないよう注意してください。

クーリング・システムの注意

メモ：

2～3km 走行した後に停止すると、エンジン・ルーム前面から蒸気が立ち昇ることがあります。これは通常ラジエータ外面に雨や雪、湿気などの水分が蓄積し、サーモスタットを開いたときにラジエータ内部に温度の上昇したエンジン・クーラント（不凍液）が流入して蒸発したもので、異常ではありません。

エンジン・ルームの点検でラジエータまたはホースに漏れが見られなければ、安全に走行できます。蒸気はしばらくすると消えます。

- クーラント・エクスパンション・ボトルにクーラントを補充し過ぎないでください。
- ラジエータとクーラント・エクスパンション・ボトル内のクーラントの濃度を調べてください。エンジン・クーラントを補充する必要がある場合、エクスパンション・ボトル内のクーラントも凍結から防ぐ必要があります。
- エンジン・クーラントの補充が頻繁に必要な場合、漏れていないかどうか冷却装置の圧力を点検してください。
- エンジンにはアルミ製部品が使用されているため、OAT クーラント（材料規格 MS.90032 に適合）と蒸留水との混合濃度を 50%以上に保つことによって、エンジンを腐食から保護します。
- クーラント・エクスパンション・ボトルのオーバーフロー・ホースがねじれたり、詰まっていないか点検してください。
- ラジエータの前面は清潔に保ってください。車両にエアコンが装備されている場合、コンデンサの前面も清潔にしてください。
- サーモスタットを夏用もしくは冬用に変更しないでください。交換する必要がある場合は、適切なタイプのサーモスタットのみを取り付けてください。異なるタイプのものを使用するとエンジン冷却性能の低化、燃費の悪化および排気ガスの増加につながる恐れがあります。

ブレーキ・システム

ブレーキ・システム性能を維持するため、すべてのブレーキ・システム構成部品は定期的に点検してください。適切な交換間隔については、「メンテナンス・ノート」を参照してください。

警告!

ブレーキをかけ続けるとブレーキの故障、さらには衝突事故の原因になります。ブレーキ・ペダルの上に足を置いたまま運転したり、ブレーキ・ペダルを踏み続けて運転したりすると、ブレーキが熱を持ち、ライニングを過度に摩耗して、ブレーキを破損する恐れがあります。万一のとき、ブレーキの性能を完全に発揮させることができなくなります。

フルード量の点検 - ブレーキ・マスタ・シリンダ

マスタ・シリンダ内のフルード量は、エンジン・ルームの整備時に必ず点検してください。また、ブレーキ・システム警告灯が点灯した場合は、直ちに点検してください。必要に応じて、ブレーキ・マスタ・シリンダのリザーバの側面にある指定マークまでフルードを補充します。キャップを取り外す前に、マスタ・シリンダの上部をきれいに拭いてください。ディスク・ブレーキの場合、フルード量はブレーキ・パッドが摩耗するにつれて下がります。ブレーキ・フルード・レベルはパッド交換時に確認してください。ブレーキ・フルード量が特に少ない場合は、ブレーキ・システムに漏れがないか点検します。

詳細情報 ⇨ ページ 284。

警告!

- 当社の推奨するブレーキ・フルード ⇨ ページ 284 のみを使用してください。不適切な種類のブレーキ・フルードを使用すると、ブレーキ・システムに重大な損傷が発生したり、ブレーキの性能が低下したりすることがあります。工場出荷時に取り付け

(続き)

警告!

られた油圧マスタ・シリンダ・リザーバのラベルにも、車両に適したブレーキ・フルードの種類が記載されています。

- 異物や水分による汚染を防ぐために、新品のブレーキ・フルードまたは密閉容器に入っているブレーキ・フルードのみを使用してください。マスタ・シリンダ・リザーバのキャップは常にしっかりと閉めてください。容器が密閉されていないと、ブレーキ・フルードは空気中の水分を吸収し、沸点温度が下がります。これにより、急ブレーキをかけたり、長時間ブレーキをかけたときにブレーキ・フルードが沸騰して、突然ブレーキがきかなくなることがあります。その結果、衝突につながる恐れがあります。
- ブレーキ・フルード・リザーバにブレーキ・フルードを入れすぎると、ブレーキ・フルードが高温のエンジン部品の上にこぼれ落ち、ブレーキ・フルードが発火することがあります。ブレーキ・フルードは塗装面やビニール面も損傷させる場合があります。ブレーキ・フルードがこれらの面に接触しないように十分注意してください。
- ブレーキ・フルードが、石油基剤のフルードで汚染されないようにしてください。ブレーキ・シール部品が損傷すると、ブレーキが部分的または完全にきかなくなる恐れがあります。その結果、衝突につながる恐れがあります。

フロント／リヤ・アクスル・フルード

通常の整備では、定期的なフルードの量の点検は必要ありません。別の理由により車両を整備する場合は、アクスル・アセンブリの外面を点検する必要があります。ギヤ・オイル漏れの疑いがある場合はフルードの量を点検します ⇨ ページ 284。

フルード量の点検

潤滑油の量は、注油口の下端から約 3mm（1/8 インチ）下にしてください。

メモ：
車両が水平になっていて、アクスルに支えられていることを確認してください。

フルードの補充

フルードは必ず注油口から前述の規定レベルまで補充します。

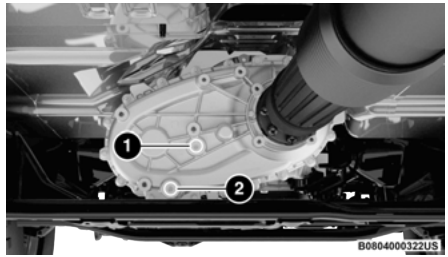
潤滑油の選択

当社の推奨フルードのみを使用してください ⇨ ページ 284。

トランスファ・ケース

フルード量の点検

車両が水平状態にあるとき、フルード量は注油口の下端に達している必要があります。



トランスファ・ケース

1 - 注油口
2 - 排水口

抜き取りおよび注入

適切な交換間隔については、「メンテナンス・ノート」を参照してください。

潤滑油の選択

当社の推奨フルードのみを使用してください ⇨ ページ 284。

オートマチック・トランスミッション

フルード量の点検

フルード量は工場で事前に設定されているので、通常の操作状況では調節は不要です。フルード量の定期的な点検は不要なため、トランスミッションにディップスティックはありません。正規ディーラーは、整備用の特殊な工具を使用して、トランスミッションのフルード量を点検できます。フルードの漏れやトランスミッションの不具合に気付いたときは直ちに、正規ディーラーでフルード量の点

検を受けてください。フルード量が適正でない状態で走行すると、トランスミッションの重大な損傷につながる恐れがあります。

注意!

トランスミッション・フルードが漏れた場合、すぐに正規ディーラーへお越しください。トランスミッションに重大な損傷が発生する恐れがあります。正規ディーラーでは、正確にフルード量を調節する適切な工具および設備をご用意しています。

特別添加剤

当社はトランスミッションにいかなる添加剤も使用しないよう推奨しています。オートマチック・トランスミッション・フルード(ATF)は加工製品であり、補助添加剤により性能が劣化する可能性があります。したがって、トランスミッション・フルードには添加剤を入れないでください。また、トランスミッション・シーラは、シール類に悪影響を与える場合があるので使用しないでください。

注意!

トランスミッションには、化学洗浄剤は使用しないでください。化学洗浄剤によりトランスミッション・コンポーネントを損傷する恐れがあります。このような損傷は、新車限定保証の対象とはなりません。

フルードおよびフィルタの交換

通常の走行状態であれば、工場で充填されたフルードで車両は十分に潤滑されます。

フルードおよびフィルタの定期的な交換は不要です。ただし、フルードが(水などで)汚染したり、何らかの理由でトランスミッションを分解した場合は、フルードおよびフィルタを交換してください。

潤滑油の選択

トランスミッションの最適な性能と寿命を確保するには、正しいトランスミッション・フルードを使用することが重要です。当社指定のトランスミッション・フルードのみを使用してください ⇨ ページ 284。トランスミッション・フルードには推奨フルードを使用し、規定のレベルに維持することが重要です。

メモ:

トランスミッションには、化学洗浄剤は使用しないでください。認可されている潤滑油のみをご使用ください。

注意!

当社が推奨する以外のトランスミッション・フルードを使用すると、トランスミッション・シフトの性能の低下、またはトルク・コンバータの振動の原因になることがあります ⇨ ページ 284。

ヒューズ

一般情報

警告!

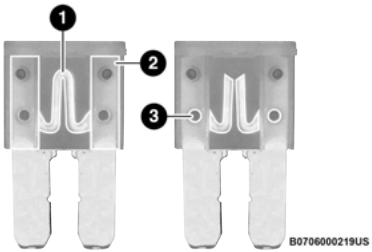
- 焼損したヒューズを交換する場合は、必ず元のヒューズと同一電流定格の適切な交換用ヒューズを使用してください。絶対に高い定格電流の別のヒューズに交換しないでください。表示されているアンペア以外のヒューズを使うと、電気系統が過負荷になる恐れがあり危険です。正しいアンペアのヒューズが何度も焼損する場合は、電気回路に異常があることを示しているため、修理する必要があります。絶対に焼損したヒューズを金属線や他の素材に置き換えないでください。適切なヒューズを使用しないと、重大なけが、火災、物損事故に至る恐れがあります。
- ヒューズを交換する前に、イグニッションがオフであること、および他のすべての作動がオフまたは解除されていることを確認してください。
- 交換したヒューズが再び焼損した場合は、正規ディーラーにご連絡ください。
- 安全システム(エアバッグ・システム、ブレーキ・システム)、パワー・ユニット・システム(エンジン・システム、ギヤボックス・システム)またはステアリング・システム用の一般的な保護ヒューズが焼損した場合は、正規ディーラーにご連絡ください。

ヒューズは電気系統に過大な電流が流れないように保護します。

動作しない機器がある場合は、ブレード・ヒューズ内部のヒューズ・エレメントに破損/熔解がないか点検してください。

また、エンジンを停止した状態で長時間電源コンセントを使用すると、車両バッテリが放電してしまうことがあります。

(続き)



ブレード・ヒューズ

1 – ヒューズ・エレメント
2 – ヒューズ・エレメントが良好な／機能しているブレード・ヒューズ
3 – ヒューズ・エレメントが不良な／機能していないブレード・ヒューズ（ヒューズが切れている）

パワー・ディストリビューション・センタ（PDC）

パワー・ディストリビューション・センタは、エンジン・ルーム内のバッテリ付近にあります。この中には、カートリッジ・ヒューズ、ミニ・ヒューズおよびリレーが収納されています。PDC の上部カバーには、役に立つ各ヒューズ／リレーの位置、機能、サイズを記載したラベルが貼られています。

注意!

パワー・ディストリビューション・センタ・カバーを取り付ける際には、カバーの位置が正しく、しっかりとはまっていることを確認してください。カバーがしっかりと取り付けられていないと、パワー・ディストリビューション・センタ内に水が浸入し、電気系統の不具合が生じる恐れがあります。



パワー・ディストリビューション・センタの位置

キャビティー	カートリッジ・ヒューズ	マイクロ・ヒューズ	説明
* タイプ別装備			
F01	–	–	スペア

キャビティー	カートリッジ・ヒューズ	マイクロ・ヒューズ	説明
F02	40A/緑	–	スタータ
F03	–	5A/黄褐色	インテリジェント・バッテリ・センサ（IBS）
F04	–	20A/黄	フューエル・ポンプ MTR/FPCM
F05	–	5A/黄褐色	セキュリティ・ゲートウェイ
F06	–	–	スペア
F07	–	15A/青	低温ラジエータ・クーリング・ポンプ（LTR）*
F08	–	15A/青	トランス・コントロール・モジュール TCM-8HP CYGNUS
F09	–	–	スペア
F10	–	15A/青	電動ステアリング・コラム・ロック (ESCL)
F11	–	10A/赤	UCI ポート（USB と AUX）
F12	–	25A/透明色	HIFI アンプ
F13	–	–	スペア
F14	–	–	スペア
F15	–	15A/青	インストルメント・パネル・クラスタ（IPC）／スイッチ・バンク-ヘビー・デューティ電動パーキング（SWITCH BANK-HD ELEC）
F16	–	–	スペア

キャビティー	カートリッジ・ヒューズ	マイクロ・ヒューズ	説明
F17	–	–	スペア
F18	–	10A/赤	エアコン・クラッチ（AC CLUTCH）
F19	–	–	スペア
F20	30A/ピンク	–	セントラル・ボディ・コントローラ（CBC）1-室内灯
F21	–	20A/黄	リヤ・ワイパ
F22	–	10A/赤	エンジン・コントロール・モジュール（ECM）
F23	–	10A/赤	エンジン・コントロール・モジュール（ECM）
F24	30A/ピンク	–	助手席電動シート
F25	–	10A/赤	モジュール・シフト・バイ・ワイヤ（MOD_SBW）
F26	40A/緑	–	セントラル・ボディ・コントローラ（CBC）2-車外ライト#1
F27	30A/ピンク	–	フロント・ワイパ
F28	40A/緑	–	セントラル・ボディ・コントローラ（CBC）3-パワー・ロック
F29	40A/緑	–	セントラル・ボディ・コントローラ（CBC）4-車外ライト#2
F30	30A/ピンク	–	電動ステップ/スライダー* (装備されている場合)
F31	–	10A/赤	診断ポート

キャビティー	カートリッジ・ヒューズ	マイクロ・ヒューズ	説明
F32	–	10A/赤	ヒート・ベンチレーション・エアコン・モジュール（HVAC CTRL MOD）／ステアリング・コラム・ロック（SCL）／乗員分類モジュール（OCM）／運転手着座検知モジュール（DPDM）
F33	–	10A/赤	ParkTronics システム（PTS）／赤外線カメラ・モジュール（IRCM）／エアバッグ無効ランプ（AIRBAG DISABLE LMPS）
F34	–	10A/赤	エレクトロニック・スタビリティ・コントロール（ESC）／電動油圧式パワー・ステアリング（EHPS）／スマート・バー・コントロール・モジュー（SBCM）ウェイク・アップ
F35	30A/ピンク	–	ブレーキ・バキューム・ポンプ*
F36	30A/ピンク	–	トレーラけん引電動ブレーキ・モジュール*
F37	30A/ピンク	–	トレーラけん引コネクタ 7 ウェイ*
F38	20A/青	–	エンジン・コントロール・モジュール（ECM）
F39	–	–	スペア
F40	–	15A/青	駆動系コントロール・モジュール（DTCM）／アクスル・ロック（AXLE LOC）FT_RR
F41	–	15A/青	インストルメント・パネル（IC）／セキュリティ・ゲートウェイ（SGW）ウェイク・アップ
F42	–	10A/赤	パワー・コントロール・リレー・コントロール・フィード（電動停止／始動）*
F43	–	20A/黄	電源コンセント（CARGO）BATT

キャビティー	カートリッジ・ヒューズ	マイクロ・ヒューズ	説明
F44	–	10A/赤	赤外線カメラ（IRCAM）ヒータ
F45	–	20A/黄	電源コンセント（CARGO）IGN
F46	–	10A/赤	オート HDLP LVL モジュール/LVL モータ/HDLP SW
F47	–	–	スペア
F48	–	–	スペア
F49	–	10A/赤	乗員保護拘束装置コントローラ（ORC）
F50	–	10A/赤	HD ACC *
F51	–	10A/赤	デジタル TV（DSRC）／USB／ルーム・ミラー（ISRVM）／コンパス・モジュール（CSGM）
F52	–	20A/黄	シガレット・ライタ
F53	–	–	スペア
F54	–	–	スペア
F55	–	10A/赤	セントラル・ビジョン・プロセシング・モジュール（CVPM）
F56	–	10A/赤	車内温度センサ
F57	–	20A/黄	運転席シート・ヒータ
F58	–	20A/黄	助手席シート・ヒータ

キャビティー	カートリッジ・ヒューズ	マイクロ・ヒューズ	説明
F59	30A/ピンク	–	運転席電動シート
F60	–	15A/青	コンフォート・ステアリング・ホイール・モジュール（CSWM）（HTD STR WHEEL）
F61	–	15A/青	左ブラインド・スポット・センサ（LBSS）／右ブラインド・スポット・センサ（RBSS）/CADM-Lo
F62	–	–	スペア
F63	–	10A/赤	乗員保護拘束装置コントローラ（ORC）
F64	–	–	スペア
F65	–	–	スペア
F66	40A/緑	–	HVAC ファン・モータ・フロント
F67	–	–	スペア
F68	–	–	スペア
F69	–	10A/赤	KIN/RF ハブ
F70	–	25A/透明色	INJ/IGN コイル（GAS）／GLO プラグ MOD（DSL）
F71	–	–	スペア
F72	–	10A/赤	HD ELEC ACC PKG *
F73	20A/青	–	PWR TOP LT

キャビティー	カートリッジ・ヒューズ	マイクロ・ヒューズ	説明
F74	20A/青	–	PWR TOP RT
F75	–	–	スペア
F76	–	20A/黄	ECM（ガソリン）
F77	–	10A/赤	ヒーテッド・ミラー
F78	–	10A/赤	侵入モジュール／サイレン／侵入センサ
F79	–	20A/黄	スマート・バー・コントロール・モジュール
F80	–	15A/青	パワートレイン・コントロール・モジュール（PCM）／SOL 1、2 ブロック・シフト
F81	30A/ピンク	–	リヤ・デフロスト（電気バックライト*
F82	–	–	スペア
F83	–	–	スペア
F84	–	–	スペア
F85	–	–	スペア
F86	–	–	スペア
F87	–	–	スペア
F88	–	–	スペア

キャビティー	カートリッジ・ヒューズ	マイクロ・ヒューズ	説明
F89	–	10A/赤	ステアリング・コラム・コントロール・モジュール（SCCM）／クルーズ・コントロール（CRUISE CTL）／デジタル TV（DTV）／EVIC／エアバッグ無効ランプ
F90	20A/青	–	トレーラけん引パーキング・ランプ*
F91	–	20A/黄	ホーン
F92	40A/緑	–	HD ACCY #2 *
F93	40A/緑	–	HD ACCY #1 *
F94	–	10A/赤	デュアル USB ポート
F95	–	–	スペア
F96	–	10A/赤	パワー・ミラー・スイッチ
F97	–	20A/黄	Radio（ラジオ）
F98	–	10A/赤	スイッチバンク-HD ELEC／オフロード
F99	–	–	スペア
F100	30A/ピンク	–	ESC-ECU とバルブ
F101	30A/ピンク	–	駆動系コントロール・モジュール（DTCM）
F102	–	15A/青	TBM2/Mod_DCSD
F103	–	15A/青	HD ACCY #3 *

キャビティー	カートリッジ・ヒューズ	マイクロ・ヒューズ	説明
F104	–	15A/青	ランバー スイッチ (運転席/助手席)
F105	–	10A/赤	統合センタ・スタック(ICS)／ヒート・ベンチレーション・エアコン(HVAC)
F106	50A/赤	–	ESC -PUMP MTR
F107	–	20A/黄	トレーラけん引停止／旋回 LT *
F108	–	15A/青	HD ACCY #4 *
F109	–	20A/黄	トレーラけん引停止／旋回 RT *
F110	30A/ピンク	–	パワー インバータ
F111	20A/青	–	トレーラけん引後退灯*

お客様は、カーゴ電源コンセントを F43 バッテリ供給電源から位置 F45 への変更を選択できます。これは、イグニッションが ON になると電源が供給されます。

電球(バルブ)の交換

交換用電球、名称、部品番号

電球を交換する必要がある場合は、このセクションに電球の説明と交換部品の番号を記載しているので参考にしてください。

メモ :
LED 電球の交換については、正規ディーラーにお問い合わせください。

車内の電球	
電球名	**電球の種類**
オートマチック・トランスミッション表示灯	658.
ヒータ・コントロール・ランプ(2)	194.

車内の電球	
電球名	**電球の種類**
ロッカ・スイッチ表示灯(リヤ・ウィンドウ・デフォッガ、リヤ・ウォッシャ／ワイパ)	**
サウンドバー・ドーム・ランプ	912.
** 電球は正規ディーラーでのみ販売しています。	

メモ：
LED 電球の交換については、正規ディーラーにお問い合わせください。

車外の電球	
電球名	**電球の種類**
ヘッドライト（2）	H4
プレミアム・ヘッド・ランプ	LED
スポーツ・フロント駐車灯／方向指示灯（2）	（ECE 市場では適用なし）
プレミアム・フロント駐車灯／方向指示灯（2）	LED
ベース（Sahara/Rubicon）方向指示灯	7440NALL/WY21WLL
ベース（Sahara/Rubicon）駐車灯／DRL	7443LL
フロント・サイド・マーカ・ランプ（2）	LED
ベース・フォグ・ライト	PSX24W
プレミアム・フォグ・ライト	LED
リヤ・プレミアム LED テール・ランプ、制動灯、バック・アップ・ランプ	LED

車外の電球	
電球名	**電球の種類**
リヤ・ベース・テール・ランプ制動／テール電球	P27/7WK
リヤ・ベース・テール・ランプ方向指示器電球	WY21W
リヤ・ベース・テール・ランプ・バックアップ電球	W16W
リヤ・ベース・テール・ランプ・車幅灯	LED
ハイ・マウント・ストップ・ランプ	LED
ナンバー・プレート・ランプ	W5W
リヤ・フォグ・ランプ	W21W

メモ：
数字は、正規ディーラーで購入できる市販電球タイプの個数です。電球を交換する必要がある場合は、正規ディーラーにご連絡いただくか、該当する整備マニュアルを参照してください。

電球（バルブ）の交換

メモ：
特定の気候条件によってはレンズが曇ることがあります。通常この曇りは、気候条件が変わって、付着した水滴が蒸発すると解消されます。ライトを点灯させると、曇りを素早く取り除くことができます。

ハロゲン・ヘッドライト

メモ：
整備については、正規ディーラーにお問い合わせください。

交換については以下の手順を参照してください。

1. ボンネットを開き、プロップ・ロッドを使って固定します。
2. フロント・グリルを取り外します。上部のリテーナを反時計回りに 4 分の 1 回転させて取り外します。
3. グリルの下側を引いて外します。片側から始めて反対側に向けて作業を進めてください。
4. ヘッドライトを車両に固定している 3 本のネジを取り外します。
5. 車両からライトを取り外します。
6. ランプをカラーから取り外します。
7. 電球をつかみ、反時計回りに 4 分の 1 回転させます。
8. 電球をハウジングから引き出します。
9. コネクタのロッキング・タブをロック解除位置へ押します。
10. コネクタを電球から取り外します。
11. コネクタを新しい電球ベースに押し入れ、コネクタのロッキング・タブをロック位置へ押します。

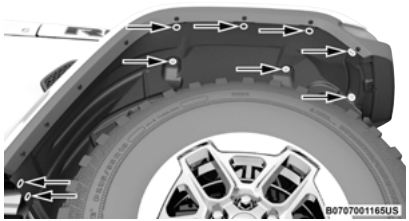
注意!
新しい電球に指で触れないでください。油脂による汚れは、電球の寿命を著しく縮めます。電球に油脂分が付着した場合は、消毒用のアルコールできれいに拭いてください。

12. 電球のハウジングを取り付けます。電球を時計回りに 4 分の 1 回転させます。

フロント・パーキング・ライト／方向指示器

交換については以下の手順を参照してください。

1. 電球ソケットにアクセスするには、前輪ライナ・ファスナを取り外します。



ホイール・ライナ

2. ソケット・アセンブリを反時計回りに 4 分の 1 回転させてハウジングから取り外します。ソケットから電球をまっすぐ引き出し、交換します。

メモ :
整備については、正規ディーラーにお問い合わせください。

LED フロント・サイド・マーカ

交換については以下の手順を参照してください。

1. サイド・マーカ・ネジおよび電気コネクタにアクセスするには、前輪のライナ・ファスナを取り外します。
2. フロント・サイド・マーカ・アセンブリの後部にある留めネジを取り外し、電気コネクタを外します。
3. LED フロント・サイド・マーカ・ライト・アセンブリを取り外し、交換します。

整備については、正規ディーラーにお問い合わせください。

ハロゲン・フロント・フォグ・ライト

交換については以下の手順を参照してください。

1. 車両の下に手を入れ、フロント・フォグ・ライトの背後にアクセスします。
2. ワイヤリング・ハーネス・コネクタをフロント・フォグ・ライトのコネクタ・ソケットから取り外します。
3. 2 つのラッチを持って電球をしっかりとつかみ、ラッチをつまんでフロント・フォグ・ライト・ハウジングの背面から電球を外します。
4. ハウジングの溝付きの開口部から電球をまっすぐに引き出し、交換用のバルブを接続します。

メモ :
整備については、正規ディーラーにお問い合わせください。

注意!
新しい電球に指で触れないでください。油脂による汚れは、電球の寿命を著しく縮めます。電球に油脂分が付着した場合は、消毒用のアルコールできれいに拭いてください。

LED フロント・フォグ・ライト

車両に LED フォグ・ライトが装備されている場合は、アセンブリとして交換します。正規ディーラーにお問い合わせください。

リヤ尾灯、制動灯、方向指示器、バックアップ・ランプ

交換については以下の手順を参照してください。

1. テール・ライト・アセンブリ用の 1 つの固定ネジにアクセスするには、インテリア・トリム・パネル・キャップを取り外します。



テールライト・アクセス・トリム・キャップ

2. 固定ネジを取り外し、電気コネクタを外して、車両からテール・ライト・アセンブリを取り外します。

メモ：
ライト・ハウジングの後部内側にあるアセンブリ・タブを押します。

3. 電球ソケットにアクセスするには、アセンブリ・ブラケットから 3 つのネジを取り外します。
4. 該当するソケットを反時計回りに 4 分の 1 回転させてハウジングから取り外します。



電球の取り外し

5. ソケットから電球をまっすぐ引き出し、交換します。

ハイ・マウント・ストップ・ランプ

ストップ・ランプはスペア・タイヤの背後のスイング・ゲートから上に延びるブラケットに取り付けられています。交換する場合は、LED アセンブリを正規ディーラーでお求めください。

交換については以下の手順を参照してください。

1. スペア・タイヤを取り外します。
2. タイヤ・キャリア・カバーを固定しているネジを取り外します。
3. ライト・アセンブリから 2 つのネジを取り外し、電気コネクタを外します。

整備については、正規ディーラーにお問い合わせください。

ナンバー・プレート・ランプ

交換については以下の手順を参照してください。

1. 車両の下に手を入れ、ランプの背後にアクセスします。
2. 2 つのラッチを持って電球をしっかりとつかみ、ラッチをつまんでランプ・ハウジングの背面から電球を外します。

LED アセンブリを交換するには、正規ディーラーにお問い合わせください。

リヤ・フォグ・ライト

交換については以下の手順を参照してください。

1. 車両の下に手を入れ、フォグ・ライトの背後にアクセスします。
2. ワイヤリング・ハーネス・コネクタをフォグ・ライトのコネクタ・ソケットから取り外します。
3. ソケットを反時計回りに 4 分の 1 回転させてハウジングから取り外します。
4. ハウジングの溝付きの開口部から電球をまっすぐに引き出し、交換用の電球を接続して組み立てます。

注意!
新しい電球に指で触れないでください。油脂による汚れは、電球の寿命を著しく縮めます。電球に油脂分が付着した場合は、消毒用のアルコールできれいに拭いてください。

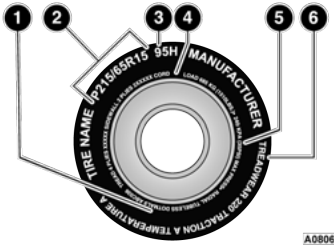
整備については、正規ディーラーにお問い合わせください。

タイヤ

タイヤの安全情報

タイヤの安全情報では、以下の情報の内容を説明します。タイヤのマーキング、タイヤ識別番号、タイヤの用語と定義、タイヤ空気圧、およびタイヤ積載。

タイヤ上のマーク



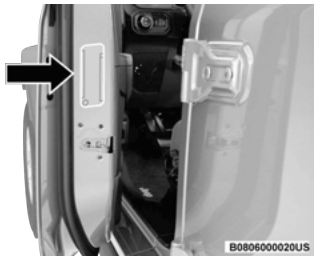
タイヤ上のマーク

1 – 米国運輸省規定安全基準規格（TIN）
2 – サイズ指定
3 – 整備の説明
4 – 最大荷重
5 – 最大空気圧
6 – トレッド・ウエア、トラクション、および温度等級

タイヤ積載とタイヤ空気圧

メモ：
適正な冷間時のタイヤ空気圧は、運転席側 B ピラーまたは運転席側ドアの後端に明示されています。

月に一度はスペア・タイヤ（タイプ別装備）も含めて各タイヤの空気圧を点検し、ご使用の車両の推奨空気圧まで空気を入れてください。

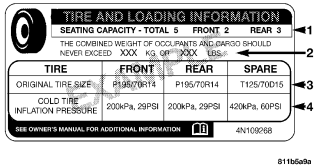


タイヤ・プラカードの配置例（ドア）



タイヤ・プラカードの配置例（B ピラー）

タイヤと積載情報のプラカード



タイヤと積載情報のプラカード

このプラカードは次の重要な情報を説明しています。

1. 乗車可能な人数。
2. 運搬可能な総重量。
3. 車両のタイヤ・サイズ。
4. フロント・タイヤ、リヤ・タイヤおよびスペア・タイヤの冷間時のタイヤ空気圧。

タイヤ - 一般情報

Tire Pressure（タイヤ空気圧）

車を安全かつ快適に走行させるためには、タイヤの空気圧を適切に保つことが非常に重要です。タイヤ空気圧が不適切だと、車の走行にかかわる次の 4 項目に影響を及ぼします。

- 安全性
- 燃費
- トレッドの摩耗
- 乗り心地と車の安定性

8

安全性

警告!

- 空気圧が不適切なタイヤは危険で、衝突事故を起こす恐れがあります。
- 空気圧が低すぎると、タイヤのたわみを増加させ、過熱や破損の原因になります。
- 空気圧が高すぎると、タイヤの衝撃吸収能力が損なわれます。道路上の障害物および穴は、タイヤの故障を招く損傷を与える場合があります。
- タイヤの空気圧が高すぎたり低すぎたりすると操作性に影響し、また、突然パンクして車の制御ができなくなる恐れがあります。
- 不均衡なタイヤ空気圧は、ステアリング異常の原因になります。車が制御できなくなる恐れがあります。
- タイヤ空気圧が左右で異なると、車体が左または右に振られる恐れがあります。
- 必ず推奨されている冷間時のタイヤ空気圧で運転してください。

高すぎる空気圧および空気圧の不足は、車両の安定性に影響を及ぼし、運転時の反応が鈍くなったように感じたり、反応が大きすぎるように感じたりする場合があります。

メモ:

- タイヤ空気圧が左右で異なると、不適正な予測できないステアリング反応が起こることがあります。
- タイヤ空気圧が左右で異なると、車体が左または右に振られる恐れがあります。

燃費

空気圧が低いタイヤは、タイヤの回転抵抗を増加させ、燃費が低下します。

トレッドの摩耗

不適切な冷間時のタイヤ空気圧は、正常ではない摩耗やトレッド寿命の短縮の原因となり、早目のタイヤ交換が必要になります。

乗り心地と車の安定性

適切なタイヤの空気圧は、快適な乗り心地を実現します。空気圧が高すぎると、きしり、および乗り心地の悪化の原因になります。

タイヤの空気圧

冷間時の適正なタイヤ空気圧は、車両左側の Bピラーまたは助手席側ドアの後端に明示されています。

最低 1ヵ月に 1度:

- 高品質の小型空気圧ゲージでタイヤ空気圧を点検して調整します。目視だけで適切な空気圧が入っているかどうかを判断しないでください。タイヤは、空気圧が低くても、適切な空気圧があるように見えます。
- タイヤの摩耗や目視できる損傷の徴候がないかタイヤを検査します。

注意!

タイヤ空気圧を点検して調節したら、必ずバルブ・ステム・キャップを取り付け直してください。このキャップは、水分や汚れのバルブ・ステムへの混入を防ぎます。水分や汚れが入ると、バルブ・ステムは損傷することがあります。

ラベルに明記された空気圧は、「冷間時のタイヤ空気圧」です。冷間時のタイヤ空気圧とは、車が 3 時間以上停車している状態のタイヤ空気圧、または 3 時間以上が経過した後で走行した距離が 1.6km(1 マイル)未満のタイヤの空気圧を意味します。冷間時のタイヤ空気圧は、タイヤの側面に記載された最大空気圧を超えないようにしてください。

タイヤの空気圧は温度変化の影響を受けるため、外気温の変動が激しい場合はより頻繁に点検を行ってください。

タイヤの空気圧は、気温が 7°C(12°F)変化するごとに約 7kPa(1PSI)変化します。特に冬にガレージ内でタイヤ空気圧をチェックする際は、このことを覚えておいてください。

例: ガレージ内の温度が 20°C(68°F)で外気温が 0°C(32°F)の場合、冷間時のタイヤ空気圧を 21kPa(3psi)高くします。つまり、外気温との差が 7°C(12°F)ごとに 7kPa(1psi)で調整します。

タイヤ空気圧は、走行中に 13〜40kPa(2〜6psi)上昇する場合があります。この空気圧の増加は正常なので圧力を下げないでください。空気を抜くとタイヤ空気圧が低くなりすぎます。

高速走行時のタイヤ空気圧

メーカは、制限速度内の安全速度で運転することを推奨しています。制限速度や道路条件から高速運転が可能で、実際に高速運転を行う場合、タイヤの空気圧を適切に保つことが特に重要になります。高速走行を行うには、タイヤ空気圧を上げて、車両積載量を減らす必要がある場合もあります。推奨される安全走行速度、積載量、および冷間時のタイヤ空気圧については、認定タイヤ販売店または純正部品販売店に問い合わせてください。

警告!

最大積載時の高速走行は危険です。タイヤに負荷がかかりすぎると、破損することがあります。重大な衝突事故につながる恐れもあります。車が最大積載量まで積荷されている場合は、120km/h（75mph）を超える速度で長時間走行しないでください。

積載方法

車両のタイヤの最大荷重は、タイヤの荷重容量を超えないようにしてください。タイヤと積載情報のプラカードに指定されている積載条件、タイヤ・サイズ、冷間時のタイヤ空気圧を守っていれば、タイヤの荷重容量を超えることはありません ⇨ ページ 262。

メモ:

最大積載量の状態では、フロント・アクスルおよびリヤ・アクスルの車軸定格総重量（GAWR）を超えないようにしてください。

GAWR、車両積載量およびトレーラけん引の詳細については、⇨ ページ 137 を参照ください。

ラジアル・タイヤ

警告!

ラジアル・タイヤを他の種類のタイヤと混合して使用すると、車の操作性に悪影響を及ぼします。安定性が損なわれ、衝突事故につながることがあります。ラジアル・タイヤは、常に 4 本セットで使用してください。絶対にラジアル・タイヤをその他のタイヤと組み合わせて使用しないでください。

タイヤの修理

タイヤが損傷した場合でも、次の基準に適合する場合は修理できることがあります:

- パンクした状態で走行していない。
- 損傷がタイヤのトレッド部分に限定されている（サイドウォールの損傷は修理できません）。
- パンクが 6mm 以下である。

タイヤの修理および詳細については、認定タイヤ販売店にお問い合わせください。

損傷したラン・フラット・タイヤ、または空気圧が減少したラン・フラット・タイヤは、サイズおよび整備詳細（積荷指数および速度記号）が同じ新品のラン・フラット・タイヤとすぐに交換する必要があります。再使用できるようには設計されていないため、タイヤ空気圧センサは交換してください。

ラン・フラット・タイヤ - タイプ別装備

ラン・フラット・タイヤを使用すると、空気圧が急速に減少した後でも、80km/h（50mph）の速度で 80km（50 マイル）の距離を走行することができます。この空気圧の急速な減少は、ラン・フラット・モードと呼ばれます。ラン・フラット・モードは、タイヤ空気圧が 96kPa（14psi）以下の場合に発生します。ラン・フラット・タイヤがラン・フラット・モードに達すると、その運転性能が制限されるため、直ちに交換する必要があります。ラン・フラット・タイヤは修理できません。ラン・フラット・モード（96kPa（14psi））で走行した後ラン・フラット・タイヤを交換する場合、TPMS センサは再利用できないので、交換してください。

メモ:

タイヤがパンクした状態で車両を走行した場合は、その後 TPMS センサを交換する必要があります。

タイヤがラン・フラット・モードのときに、フル容量で積載された車両を運転したり、トレーラをけん引することはお勧めできません。

詳細情報 ⇨ ページ 190。

タイヤの空転

ぬかるみ、砂地、雪道、凍結路で立ち往生したとき、タイヤを 30 mph (48 km/h)を超える速度で、または 30 秒以上連続して空転させないでください。

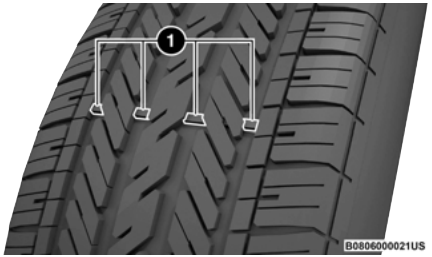
詳細情報 ⇨ ページ 231。

警告!

タイヤの高速空転は危険です。過度のホイール回転速度によって生じる力でタイヤが破損または故障する恐れがあります。タイヤが破裂し、人にけがを負わせる場合もあります。ぬかるみなどで動かなくなった場合は、車のタイヤを 48km/h（30mph）を超える速度で 30 秒以上連続して空転させないでください。また、回転速度に関係なく、空転しているタイヤ付近に人が近づかないようにしてください。

トレッド・ウエア・インジケータ

トレッド・ウエア・インジケータは、純正タイヤに備えられており、タイヤの交換時期を判断するのに役立ちます。



タイヤ・トレッド

1 - トレッド・ウエア・インジケータ

インジケータは、トレッド溝の底の部分に成形加工されており、トレッドの深さが 1.6mm（1/16 インチ）になると、筋状に盛り上がった箇所が現れます。トレッドが摩耗してトレッド・ウエア・インジケータが見えたら、タイヤを交換する必要があります。

タイヤの寿命

タイヤの寿命は以下のさまざまな要因に左右されます。

- ドライビング・スタイル。
- タイヤ空気圧 - 冷間時のタイヤ空気圧が適切でないと、タイヤ・トレッドが不均一に摩耗する原因になります。こういった、正常ではない摩耗によってトレッドの寿命が縮まり、早目のタイヤ交換が必要になります。
- 走行距離。
- 一般に、パフォーマンス・タイヤ、V 以上の速度記号が表記されているタイヤ、夏用タイヤのトレッド寿命は短いです。車のメンテナンス・ノートに合わせて、これらのタイヤのローテーションを行うことを強くお勧めします。

警告!

タイヤとスペア・タイヤは、トレッド残溝の有無に関わらず 6 年毎に交換してください。この警告に従わないと、突然タイヤが損傷することがあります。車を制御できなくなり、重傷または死亡につながる衝突事故が発生する恐れがあります。

メモ :

既存のタイヤの摩耗や損傷のために新品のタイヤを取り付ける場合、ホイール・バルブ・ステムも交換する必要があります。

取り外したタイヤは可能な限り光が当たらない涼しく乾いた場所に保管してください。タイヤにオイルやグリース、ガソリンを付着させないでください。

交換用タイヤ

新車に装着されているタイヤは、さまざまな特性のバランスが取れています。定期的に、摩耗の有無や冷間時の適正タイヤ空気圧を点検してください。当社では、タイヤの交換が必要な時は、サイズ、品質、性能が純正品と同等のタイヤを使用することを強く推奨しています ⇨ ページ 265。タイヤのサイズ指定については、タイヤと積載情報のプラカードまたは車両識別ラベルを参照してください。タイヤの積荷指標と速度記号は、純正タイヤのサイドウォール（側面）に表示されています。

フロント・タイヤ 2 本またはリヤ・タイヤ 2 本はペアで交換することをお勧めします。1 本のタイヤのみを交換した場合、車の操作に重大な影響が出る恐れがあります。ホイールを交換する場合は、ホイールの仕様が元のホイールの仕様と一致していることを確認してください。

タイヤの仕様や特性に関しては、認定タイヤ販売店または純正品取扱店にお尋ねください。同等の交換タイヤを使用しないと、車の安全性、操作性および乗り心地に悪影響を及ぼす恐れがあります。

警告!

- 車両に指定されている以外のタイヤ、ホイール・サイズ、定格荷重、または定格速度のものは使用しないでください。車両仕様に適合しないタイヤおよびホイールを組み合わせると、サスペンション寸法および性能特性が変わり、操縦性、操作性および制動性が変わってしまいます。これにより予期せぬステアリング・ホイール操作が生じたり、ステアリングおよびサスペンション構成部品に応力がかかったりすることがあります。車を制御できなくなり、重傷または死亡につながる衝突事故が発生する恐れがあります。この車には、認可された定格荷重のタイヤおよびホイール・サイズを必ず使用してください。
- 純正タイヤより少ない荷重指標または荷重量のタイヤは決して使用しないでください。荷重指標が小さいタイヤを使用すると、タイヤに過剰な負担がかかり損傷する恐れがあります。車を制御できなくなり、衝突事故につながる恐れがあります。
- 車の速度に十分耐えるタイヤを装着していないと突然タイヤが損傷し、車を制御できなくなることがあります。

注意!

標準装備のタイヤを異なるサイズのタイヤに交換すると、スピードメータやオドメータの値が不正確になる恐れがあります。

タイヤの種類

オールシーズン・タイヤ - タイプ別装備

オールシーズン・タイヤは季節（春、夏、秋、冬）に関係なくトラクションを与えます。トラクションのレベルは、オールシーズン・タイヤの種類に応じて異なる場合があります。オールシーズン・タイヤには、タイヤのサイドウォールに M+S、M&S、M/S、または MS の表記があります。オールシーズン・タイヤは、4 本をセットで使用してください。4 本セットで装着しない場合は、安全性や操作性に悪影響を及ぼすことがあります。

夏用タイヤまたは 3 シーズン・タイヤ - タイプ別装備

夏用タイヤは、ウェットとドライの両方の条件でトラクションを与えますが、雪道や氷上での運転用ではありません。車両に夏用タイヤが装着されている場合、これらのタイヤは冬季または寒冷時の走行条件のために設計されていないことに注意してください。外気温が 5°C（40°F）以下、または道路が氷や雪で覆われている場合は、車両に冬用タイヤを装着してください。詳細については、正規ディーラーにお問い合わせください。

夏用タイヤのタイヤのサイドウォールには、オールシーズン表示や山／スノーフレーク記号表示がありません。夏用タイヤは、4 本をセットで使用してください。4 本セットで装着しない場合は、安全性や操作性に悪影響を及ぼすことがあります。

警告!

夏用タイヤは、雪道／凍結路では使用しないでください。車を制御できなくなり、重傷を負ったり死亡にいたる恐れがあります。また、道路状態を考慮せずに速度を上げ過ぎると、車を制御できなくなる恐れがあります。

(続き)

スノー・タイヤ



地域によっては、冬季にスノー・タイヤを使用しなければならない場合があります。スノー・タイヤは、タイヤのサイドウォールに表示されている山／スノーフレーク記号により識別できます。

スノー・タイヤが必要な場合は、純正タイヤとサイズおよび種類が同じタイヤを使用してください。スノー・タイヤは 4 本すべてに使用してください。4 本セットで装着しない場合は、安全性や操作性に悪影響を及ぼす恐れがあります。

一般にスノー・タイヤは純正タイヤに比べて低速での走行を想定しているので、120km/h（75mph）を超える速度で巡航走行しないでください。120km/h（75mph）を超える速度の場合は、推奨される安全走行速度、積載量、および冷間時のタイヤ空気圧について、純正または認定タイヤ販売店に問い合わせてください。

スタッド・タイヤを使用すると、氷上での性能が改善しますが、ウェットまたはドライ路面上でのスキッドおよびトラクション能力がスタッドレス・タイヤよりも劣る場合があります。一部の国では、スタッド・タイヤの使用が禁止されているため、スタッド・タイヤを使用する前に国の法規を確認してください。

スペア・タイヤ - タイプ別装備

メモ：

スペア・タイヤの代わりにタイヤ修理キットを備えた車両の場合、詳細については「緊急時」の「タイヤ修理キット」を参照してください。

注意!

車高が下がるため、コンパクトまたはリミテッド・ユーズのスペア・タイヤの使用時は、決して自動洗車機を使用しないでください。車両に損傷を与える恐れがあります。

純正タイヤ／ホイールと同一のスペア・タイヤ - タイプ別装備

車両には、車両のフロント・アクスルまたはリヤ・アクスルの純正タイヤと同じ外観と機能を備えたスペア・タイヤを装備することができます。このスペア・タイヤは、車両のタイヤのローテーションに使用することができます。車両にこのオプションが装備されている場合は、推奨されるタイヤ・ローテーション・パターンについて、認定されたタイヤ販売店に問い合わせてください。

コンパクト・スペア・タイヤ - タイプ別装備

コンパクト・スペア・タイヤは、応急用にのみ使用してください。車両にコンパクト・スペア・タイヤが装備されているかどうかは、運転席のドア開口部にあるタイヤと積載情報のプラカード、またはタイヤのサイドウォールにあるスペア・タイヤの説明で確認できます。コンパクト・スペア・タイヤの説明は、「T」または「S」の文字で始まり、サイズ指定が続きます。例: T145/80D18 103M。

T、S = テンポラリー・スペア・タイヤ

8

このスペア・タイヤのトレッド寿命は限られているため、できるだけ早急に純正タイヤを修理（または交換）し、車両に再取り付けしてください。

ホイールはコンパクト・スペア・タイヤ専用であるため、ホイール・カバーまたは従来のタイヤをコンパクト・スペア・ホイールに取り付けないでください。いかなる場合も、車両にコンパクト・スペア・タイヤとホイールを 2 つ以上取り付けないでください。

警告!

コンパクトおよびコラプシブル・スペア・タイヤは、応急用にのみ使用してください。スペア・タイヤを使用するときは、80km/h（50mph）を超える速度では運転しないでください。スペア・タイヤの寿命は限られています。トレッドが摩耗してトレッド・ウエア・インジケータ（摩耗限度表示）が見えたら、スペア・タイヤを交換する必要があります。スペア・タイヤに貼り付けられている警告に必ず従ってください。警告に従わない場合、スペア・タイヤが破損し、車の制御を失う恐れがあります。

フル・サイズ・スペア・タイヤ - タイプ別装備

フル・サイズ・スペア・タイヤは、応急用にのみ使用してください。フロントまたはリヤ・アクスルにこのタイヤを装着すると、標準装備のタイヤと似ているように見えるかもしれませんが、別のものです。このスペア・タイヤの寿命は限られています。トレッドが摩耗してトレッド・ウエア・インジケータ（摩耗限度表示）が見えたら、フル・サイズ・スペア・タイヤを交換する必要があります。純正タイヤとは異なるので、できるだけ早急に純正のタイヤを交換（または修理）し、車両に再取り付けしてください。

リミテッド・ユーズ・スペア・タイヤ – タイプ別装備

リミテッド・ユーズ・スペア・タイヤは、応急用にのみ使用してください。このタイヤは、リミテッド・ユーズ・スペア・ホイールにあるラベルで識別できます。このラベルには、このスペア・タイヤに関する走行制限が記載されています。フロントまたはリヤ・アクスルにこのタイヤを装着すると、標準装備のタイヤと似ているように見えるかもしれませんが、別のものです。リミテッド・ユーズ・スペア・タイヤを取り付けると、車の操作性に影響を与えます。純正タイヤとは異なるので、できるだけ早急に純正のタイヤを交換（または修理）し、車両に再取り付けしてください。

警告!

リミテッド・ユーズ・スペア・タイヤは、応急用にのみ使用してください。リミテッド・ユーズ・スペア・タイヤを取り付けると、車の操作性に影響を与えます。このタイヤを使用しているときは、リミテッド・ユーズ・スペア・ホイールに記載されている速度を超える速度で運転しないでください。運転席側の Bピラーまたは運転席ドアの後端にあるタイヤと積載情報のプラカードに記載されている冷間時のタイヤの空気圧を保つようにします。できるだけ早急に純正のタイヤを交換（または修理）し、車両に再取り付けしてください。そうしないと、車がコントロールできなくなる恐れがあります。

ホイールおよびホイール・トリムのお手入れ

すべてのホイールおよびホイール・トリム、特にアルミニウム製およびクロム・メッキ・ホイールは、中性（中性 Ph）洗剤と水を使用して定期的に洗浄し、その光沢を維持し、腐食を防止する必要があります。車両のボディに推奨されているものと同じ洗剤溶液を使用してホイールを洗浄します。表面が触っても熱くないときにのみ洗浄することを忘れないでください。

ご使用のホイールは、塩分、塩化ナトリウム、塩化マグネシウム、塩化カリウムなど、また解氷や未舗装道路の埃を抑えるために使用されるその他の道路用化学薬品により劣化しやすくなっています。柔らかい布またはスポンジと中性洗剤を使用して、素早く拭き取ります。刺激の強い化学薬品または硬いブラシは使用しないでください。ホイールを腐食や変色から保護している保護コーティングが損なわれるおそれがあります。

注意!

酸性溶液または強アルカリ性添加物または堅いブラシを使用する製品や自動洗車機は避けてください。多くの市販のホイール・クリーナや自動洗車機は、ホイールの保護仕上げを損なう恐れがあります。このような損傷は、新車限定保証の対象とはなりません。洗車洗剤、Mopar®ホイール・クリーナまたは同等品のみを推奨します。

ブレーキ・ダストが著しいなど、汚れが激しいホイールを洗浄する場合、ホイールを傷めないように、タイヤおよびホイールの化学洗浄剤および機器は注意して選択する必要があります。Mopar®ホイール・トリートメントまたは Mopar®クロム・クリーナまたは同等品をお勧めします。またはアルミニウム製またはクロム・メッキ・ホイールには、研磨剤の入っていない非酸性クリーナを選んでください。

注意!

研磨パッド、スチール・ウール、硬いブラシ、金属研磨剤またはオーブン・クリーナを使用しないでください。こ

(続き)

注意!

れらの製品は、ホイールの保護仕上げを損なう恐れがあります。このような損傷は、新車限定保証の対象とはなりません。洗車洗剤、Mopar®ホイール・クリーナまたは同等品のみを推奨します。

メモ:

ホイール・クリーナでホイールを洗浄した後に、車両を長期間駐車または保管する場合、車両を運転してからブレーキをかけ、ブレーキ部品の水滴を取り除くようにしてください。この作業により、ブレーキ・ロータの赤さびを無くし、ブレーキ時の振動を防ぐことができます。

ダーク蒸着クロム、ブラック・サテン・クロム、または低光沢クリア・コート・ホイール

注意!

車両にこれらの特殊ホイールが装着されている場合、ホイール・クリーナ、研磨剤または艶出しコンパウンドは使用しないでください。それらを使用すると、この仕上げに回復不可能な損傷が生じ、そうした損傷は、新車限定保証の対象とはなりません。中性洗剤と水だけを使用し、柔らかい布で手洗いしてください。この仕上げを維持するには、定期的にこれらを使用するだけで十分です。

雪路トラクション装置

トラクション装置を使用するには、タイヤとボディ間に十分なクリアランスが必要です。クリアランスが制限されているため、次の雪路トラクション装置の使用をお勧めします。次の推奨事項に従って、車両を損傷しないようにしてください。

- 雪路トラクション装置は、雪路トラクション装置メーカが推奨するように、タイヤに適したサイズを使用する必要があります。
- タイヤ・チェーンまたは雪路トラクション装置を使用する場合、他のタイヤ・サイズはお勧めしません。
- 推奨タイヤ・サイズ、アクスル、雪路トラクション装置ついては、次の表に従ってください。

トリム・レベル	アクスル	タイヤ／ホイール・サイズ	雪路トラクション装置（タイヤ断面または同等部からの最大突出）
Sport（スポーツ）	リヤ	245/75R17	S Class または Autosock
Sahara	リヤ	255/70R18	Autosock
Rubicon	リヤ	LT255/75R17C	Autosock

警告!

フロントとリヤに異なるサイズまたはタイプ（マッド＆スノー、スノー）のタイヤを使用すると、予期せぬステアリング・ホイール操作が生じることがあります。車を制御できなくなり、衝突事故につながる恐れがあります。

注意!

車やタイヤの損傷を防ぐために、次の注意事項に従ってください。

(続き)

注意!

- タイヤとその他のサスペンション構成部品間のトラクション装置のクリアランスが限られているため、必ず状態の良いトラクション装置のみを使用してください。破損した装置は、重大な損傷を与える原因に

(続き)

8

注意!

なります。装置が切れたようなノイズが発生した場合、直ちに停車してください。再使用する前に、装置の破損した部分を取り外してください。

- 装置をできるだけきつく取り付け、約 0.8km（0.5 マイル）走行後に再び締め付け直してください。Autosock トラクション装置は再び締め付け直す必要はありません。
- 決して 48km/h（30mph）を超える速度で運転しないでください。
- 慎重に運転し、特に積載時には急カーブおよび凸凹道は避けてください。
- 乾いた路面で長時間走行しないでください。
- 装置の取り付け方法、走行速度および使用条件については、装置製造メーカの取扱説明書を参照してください。装置製造メーカの推奨する走行速度が 48km/h（30mph）未満の場合は、その走行速度に従ってください。
- コンパクト・スペア・タイヤにはトラクション装置を装着しないでください。

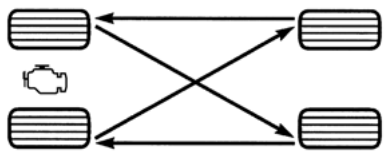
タイヤのローテーションの推奨

フロント・タイヤとリヤ・タイヤでは、タイヤにかかる荷重、ステアリング操作の影響、走行時および制動時の役割が異なります。このため、タイヤは不均一に摩耗します。

これらの影響は、定期的にタイヤをローテーションすることで減らすことができます。特にオン／オフ・ロード・タイヤなどの適応範囲の広いトレッド・デザインのタイプのタイヤの場合は、ローテーションすることでのメリットが大きくなります。ローテーションによって、トレッド寿命が延び、ぬかるみ、雪道および濡れた路面でのトラクション・レベルの維持に役立ち、スムーズで静かな走行を実現します。

適切な交換間隔については、「メンテナンス・ノート」を参照してください。急激または異常な摩耗を起こす原因がある場合は、タイヤのローテーションを行う前に修正してください。

推奨されるローテーション方法は、図に示すように前輪をクロス・パターンで後へ持ってくる方法です。



タイヤのローテーション（前輪をクロス・パターンで後ろへ持ってくる方法）

注意!

4WD 車を適切に作動させるには、各ホイールのタイヤのサイズ、タイプおよび円周が均一でなければなりません。タイヤ・サイズに違いがあると、トランスファ・ケースを損傷させる恐れがあります。タイヤのローテーション・スケジュールに従って、それぞれのタイヤが均一に摩耗するようにしてください。

車両の保管

警告!

- ボンネットが開いているときは、ラジエータの冷却ファンに触れないように気を付けてください。イグニッション・スイッチが ON になると、直ちに始動します。回転するファン・ブレードで、けがをする恐れがあります。
- 感電の恐れのある腕時計およびブレスレットなどの金属製装身具は外してください。重傷につながる恐れがあります。
- START&STOP システム装備車両には、バッテリが 2 つ備わります。12 ボルトの電気系統への電源供給を完全に停止するには、メイン・バッテリおよび補助バッテリ両方の接続を外す必要があります。
- 両方のバッテリの接続を外さないと、重傷または死亡事故につながるおそれがあります。正しく外す方法については、正規ディーラーにお問い合わせください。

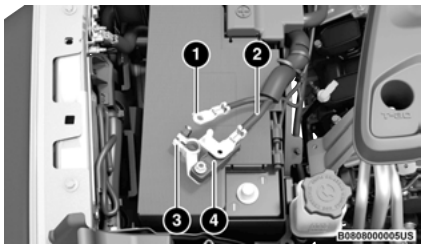
注意!

マイナスのバッテリ・ケーブルが正しく絶縁されていない場合、システムの出力が急上昇して、重要な電気構成部品が損傷するおそれがあります。

3 週間以上車両を保管する場合は、車両バッテリの消耗を最小に抑えるために、以下の手順を行ってください。

- バッテリのマイナス側ケーブルを外します。

- 車両に START&STOP システムが搭載されている場合、メインと補助両方のマイナス・バッテリ・ケーブルを外します。
- 休暇などで車を 2 週間以上使用しない場合は、アイドリング状態でエアコン・システムを外気取り入れモード、高速ファン・スピードで約 5 分間作動させてください。これによりシステムに適切な潤滑が施され、次回作動時にコンプレッサが損傷する可能性を軽減します。
- バッテリ・システムの取り外しにアシスタンスが必要な場合は、正規ディーラーにお問い合わせください。



バッテリ・ケーブルの取り外し

1 - 補助バッテリのマイナス・バッテリ・ケーブル
2 - メイン・バッテリのマイナス・バッテリ・ケーブル
3 - メイン・バッテリのマイナス・バッテリ端子
4 - インテリジェント・バッテリ・センサ（IBS）

メモ：

- 図に示すように、補助バッテリの接続ポイント、さらにメイン・バッテリ端子を端子から絶縁し、両方のバッテリの電源供給を完全に停止してから保管する必要があります。バッテリ・システムの取り外しにアシスタンスが必要な場合は、正規ディーラーにお問い合わせください。
- インテリジェント・バッテリ・センサ（IBS）は取り外さないでください。取り外すと、IBS が学習モードに設定されるため、START&STOP システムが最大 24 時間動作しなくなる場合があります。

ボディワーク

大気中の作用物質からの保護

ボディは、車両の使用状況や地理的条件により手入れの方法が異なります。寒冷地での凍結防止剤、およびそれ以外の季節で木や路面に散布される化学薬品は、車体の金属部分に腐食を起こさせます。車両が空気中の汚れにさらされる屋外駐車、車が走行する路面、極度に暑いまたは寒い天候、その他の著しく厳しい条件が、塗装、金属トリムおよびアンダボディの保護に悪影響を及ぼすことがあります。

この車両には腐食防止が施されていますが、次に推奨するメンテナンスによりその効果が最大限発揮されます。

腐食の原因は？

腐食は塗装および保護コーティングの劣化または剥離が原因となって発生します。

一般的な腐食の原因

- 路面の塩分、埃および湿気の蓄積
- 飛び石および砂利
- 虫、樹液およびタール
- 海岸地域の空気中の塩分
- 大気中の塵や工業汚染物質

ボディおよびボディ下部のメンテナンス

ヘッドライトの清掃

この車には、ガラス製ライトよりも軽量で、飛び石による衝撃にも強いプラスチック製のヘッドライトとフォグ・ライトが装備されています。

プラスチックはガラスほど傷に強くないため、レンズの洗浄手順はガラスと異なります。

レンズを傷から守り、ライト輝度の低下を避けるためにも、乾いた布で拭かないでください。路面からの汚れを取る際は、中性洗剤溶液で洗い、水ですすいでください。

研磨剤入りのコンパウンド、溶剤、スチール・ウール、またはその他の硬い材質のものでレンズを清掃しないでください。

塗装状態の維持

洗車

- 定期的に洗車をしてください。車は日陰において Mopar®製カー・ウォッシュまたは中性洗剤で洗い、水でよく洗い流してください。
- 虫、タール、その他の異物が車に付着したときは、Mopar®製スーパー・クリーン・バグ／タール・リムーバを使用して取り除いてください。
- 路上で付着した膜やしみを取り除いたり、塗装面を保護するには、Mopar®製クリーナ・ワックスなどの高品

質のクリーナ・ワックスを使用してください。塗装を傷つけないように注意してください。

- 塗装の仕上がりにムラができたり、つやをなくしてしまうような研磨剤入りのコンパウンドおよび電動バフ類は使用しないでください。

注意!

- スチール・ウールまたはクレンザのような研磨剤や強力な洗剤は使用しないでください。車体や塗装表面に傷をつけます。
- 水圧が 8,274kPa（1,200psi）を超えるパワー・ウォッシャを使用すると、塗装およびステッカが損傷したり剥げたりすることがあります。

特別なお手入れ

- 塩分や埃の多い道路あるいは海辺を走行する場合は、少なくとも月に一度は車体の下回りを水で洗ってください。
- ドア、ロッカ・パネル、トランクの下部にある排水口はきれいにし、詰まりのないように保ってください。
- 塗装の中に石の破片や傷などを見つけたら、直ちに補修してください。
- 衝突事故などで、塗装および保護コーティングがはがれた場合は、すぐに補修してください。
- 車で化学物質や肥料、凍結防止剤などの特殊な物品を運ぶ時には、荷物が完全に梱包し、密封されていることを確認してください。
- 砂利道を頻繁に走行する場合、泥除けや石除けを各車輪の後ろに付けるようにしてください。
- 引っかき傷には、Mopar®製タッチアップ・ペイントを使用し、すぐに補修してください。正規ディーラーではお客様の車両に合うタッチアップ・ペイントを各種取り揃えています。

ファブリック・トップ・モデルの外装のお手入れ

内装とトップの外観を保つために、次の注意事項に従ってください。

- ファブリック・トップを洗車機で洗わないでください。ウインドウに傷が付き、ワックスが堆積する場合があります。
- トップを下ろしたまま車から離れることは避けてください。日光や雨にさらされて、内装が傷む場合があります。
- ざらざらしたクリーナや漂白剤をトップに使用しないでください。傷む恐れがあります。
- ビニール製品用クリーナをボディにこぼしたり、塗装面で乾いて跡が残らないようにしてください。
- ファブリック製トップを洗浄したら、必ずトップを下げる前に完全に乾いていることを確認してください。
- 「ファブリック製トップのウインドウの手入れ」の指示に従ってウィンドウを洗う場合は、特に注意してください。

洗浄 - Mopar®製カー・ウォッシュまたは同等品、中性洗剤溶液、ぬるま湯、毛先の柔らかいブラシを使用してください。さらに洗浄する必要がある場合、トップを下から支えながら、トップ全体に Mopar®製コンバーチブル・クロス・トップ・クリーナまたは同等品、もしくは中性フォーミング・クリーナを使用してください。

すすぎ – きれいな水でトップを十分に洗い流し、クリーナの跡を必ず落としてください。必ずトップを下げる前に乾かしてください。

注意!

これらの注意に従わないと、水の浸入によって損傷したり、トップの材質にしみやカビが発生したりする恐れがあります。

- ファブリック・トップを洗車機で洗わないでください。ウインドウに傷が付き、ワックスが堆積する場合があります。
- トップを開く前に、トップが乾燥していることを確認してください。トップが濡れている状態で、トップを開閉したり、ドアや窓を開けたりすると、車内に水が入る恐れがあります。
- 洗車時には、ウェザー・ストリップ・シールに直接水圧がかからないように注意してください。車内に水が入る恐れがあります。
- 着脱式ルーフ・パネルの取り扱いおよび保管に際しては、シールを傷めないように十分注意してください。雨漏りの原因となります。
- しっかりと密閉するには、フロント・パネルを正しく位置決めしなければなりません。正しく取り付けないと、室内に雨漏りが発生する恐れがあります。

注意!

- 洗車場のローラーおよびブラシでは洗車しないでください。中性洗剤を使って手で洗車した後、湿らせたセーム革で拭き取り乾かしてください。洗車時に研磨剤や艶出し剤は使用しないでください。鳥のフンが付着した場合はすぐにきれいに洗い流してください。鳥のフンには特に強力な酸が含まれています。

（続き）

注意!

- 車両はなるべく木の下に駐車しないでください。植物樹脂が付着した場合はすぐに拭き取ってください。乾燥してしまうと、研磨剤や艶出し剤を使わないと取り除けなくなります。塗装の特徴的な不透明感が損なわれるため、研磨剤や艶出し剤の使用はお勧めしません。
- フロントガラスおよびリヤ・ウィンドウの洗浄時は、フロントガラス・ウォッシャ液の原液を使用せず、水で 2 倍以上に薄めてから使用してください。フロントウィンドウ・ウォッシャ液の原液は、外気温などの条件によって特に必要な場合にのみ使用します。

ファブリック製トップのウインドウの手入れ

ファブリック製トップには柔軟なプラスチック製のウインドウが使用されています。このウインドウは、次の指示に従わないと、傷が生じる恐れがあります。

- 埃を取り除くのに乾いた布を使用しないでください。これに代わり、**きれいな冷水かぬるま湯で湿らせたマイクロファイバー・タオル、もしくは柔らかい木綿の布を使用して、上下ではなく左右に窓を拭いてください。** Mopar®製 Jeep®・ソフト・グラス・ウインドウ・クリーナまたは同等品を使用すると、あらゆるプラスチック製のウインドウを傷つけることなく洗浄できます。細かい傷を取り除くことにより視界が良くなり、紫外線をカットして黄ばみを防ぎます。
- 洗浄時、**絶対にお湯**や中性石鹸より強い性質のものを使用しないでください。アルコールやざらざらした洗浄剤などの溶剤を使用しないでください。
- 必ず冷水で十分に洗い流し、少し湿らせた柔らかいきれいな布で拭き取ります。
- 霜、雪、氷を取り除くとき、**スクレーパや除氷剤を絶対に使用しないでください。**素早く窓を洗浄する必要がある場合にのみ、ぬるま湯を使用してください。
- オフ・ロード走行でついた汚れ（砂、泥／土、埃、塩分）は、プラスチック・リテーナ操作に影響を与えます。通常のオン・ロード走行や洗車であっても、ウインドウのプラスチック・リテーナ操作に影響を与えます。ウインドウのプラスチック・リテーナを使いやすく保つには、定期的にウインドウのプラスチック・リテーナすべてをきれいにして潤滑する必要があります。中性洗剤溶液および小型のブラシを使用して清掃してください。清掃用製品は正規ディーラーでお求めいただけます。
- ウインドウにステッカーや粘着性のあるラベルなどを貼らないでください。接着剤は取り除きにくいため、ウインドウに損傷を与える恐れがあります。

インテリア

カーペットの安全情報

必ずお使いの車に適合するよう開発されたカーペットを使用してください。ペダル・アセンブリの作動に干渉しないカーペットを使用してください。車両を運転する場合は、カーペットをグロメットで必ずしっかりと固定し、所定の位置からずれたり、ペダル・アセンブリに干渉したり、それ以外の方法で車両の安全な操作を妨げたりすることのないようにしてください。

警告!

- カーペットが所定の位置にない状態で車両を運転すると、フロアが高温になり、やけどの危険性があります。
- カーペットの誤った取り付け、損傷、折り畳み、または損傷したグロメットによってカーペットがアクセル・ペダル、ブレーキ・ペダル、またはクラッチ・ペダルの邪魔になるおそれがあり、車両のコントロールが失われます。重傷または死亡事故を防ぐため、次の事項を守ってください。カーペットは必ずグロメットを使用して、しっかりと固定してください。
- 車両が移動したときに、物が運転席のフロア部分に落ちたり、転がったりしないことを必ず確認します。物がアクセル・ペダル、ブレーキ・ペダル、またはクラッチ・ペダルの後ろに挟まると車の制御が失われます。
- 物（タオル、キーなど）をカーペットの下に置かないでください。こうした物によってカーペットの位置が変わる可能性があり、アクセル・ペダル、ブレーキ・ペダル、またはクラッチ・ペダルの邪魔になる場合があります。
- 車両に合うよう設計されたカーペットのみを取り付けてください。正しく取り付けたり、車両に固定したりできないカーペットは取り付けないでください。カーペットを交換する必要がある場合、車両に適合したメーカ、モデル、年式のメーカ認定カーペットのみを使用してください。
- 車両のカーペットを取り外し、取り付け直した場合、必ずカーペットを正しくフロアに取り付け、フロア・マット固定部がカーペットに固定されていることを確認します。アクセル・ペダル、ブレーキ・ペダル、またはクラッチ・ペダルをいっぱいまで踏み込み、各ペ

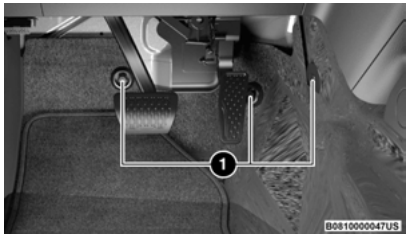
（続き）

警告!
ダルの邪魔になっていないか確認し、フロア・マットを取り付け直します。

カーペットの取り外し

フロント・カーペット(2ドア・モデルと4ドア・モデル):

1. フロント・グロメットを取り外します。



フロント・カーペット

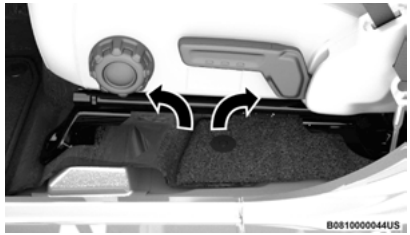
1 - グロメット

2. 前部から後部に向けてカーペットを引きはがします。



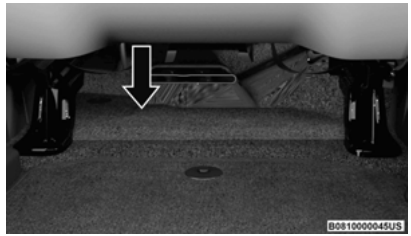
はがされたフロント・カーペット

3. フロント・シートの下のグロメットを取り外します。先にリヤ・カーペットで行い、次にフロント・カーペットで行います。



フロントおよびリヤのカーペット・スプリット

4. フロント・シートの後部下で、カーペット・スプリットを開き、後端を引き出し、カーペットを前部にスライドさせます(ハーネスを取り外さないでください)。



フロント・シートの後部下側

5. 最後にシート・ブラケットの周りのカーペット・スプリットを開き、最後の 2 つのグロメットを取り外します。



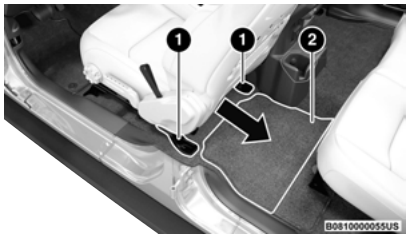
フロント・シートおよびフロア

1 - グロメット

6. カーペットを取り付けるときは、取り外しと逆の手順を行い、カーペットをスカッフ、Bピラー、コンソールの下に折り込み、グロメットを固定します。

リヤ・カーペット(4ドア・モデル):

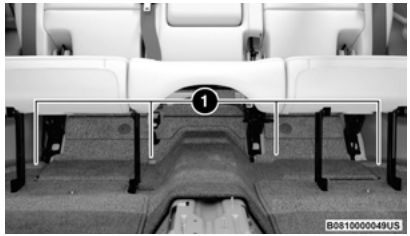
1. フロント・シートの下のグロメットを取り外します(1つは左、1つは右)。
2. カーペットを後部の方に引っ張り、フロント・シート・ブラケットの周りのカーペット・スプリットを開きます。



車両後部へ引っ張る

1 - カーペット・スプリット
2 - リヤ・カーペット

3. リヤ・シートの下のグロメットを取り外します(1つは左、1つは右)。先にカーゴ・カーペットのグロメットで行い、次にリヤ・カーペットのグロメットで行います。
4. カーペットを前部の方に引っ張り、リヤ・シート・ブラケットの周りのカーペット・スプリットを開きます。



リヤ・シートの下

1 - カーペット・スプリット

5. カーペットを取り付けるときは、取り外しと逆の手順を行い、カーペットをスカッフ、Bピラー、コンソールの下に折り込み、グロメットを固定します。

リヤ・カーペット(2ドア・モデル):

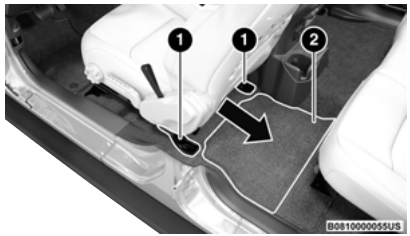
1. リヤ・シートを取り外します。
2. サイド・グロメットを取り外します(1つは左、1つは右)。先にサイド・カーペットのグロメットで行い、次にリヤ・カーペットのグロメットで行います。



サイド・カーペット

1 - グロメット

3. フロント・シートの下のグロメットを取り外します(1つは左、1つは右)。
4. カーペットを後部の方に引っ張り、フロント・シート・ブラケットの周りのカーペット・スプリットを開きます。



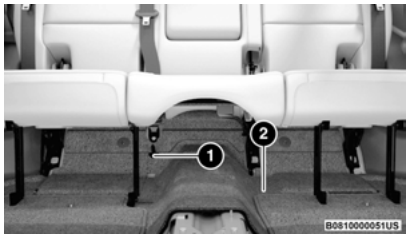
カーペットを後部に引っ張る

1 - カーペット・スプリット
2 - リヤ・カーペット

5. カーペットを取り付けるときは、取り外しと逆の手順を行い、カーペットをスカッフ、Bピラー、コンソールの下に折り込み、グロメットを固定します。

カーゴ・カーペット(4ドア・モデル):

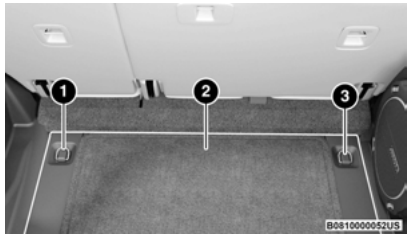
1. リヤ・シートの下のグロメットを取り外します(1つは左、1つは右)。
2. カーペットを後部の方に引っ張り、シートベルト・アタッチメントの周りのカーペット・スプリットを開きます。



リヤ・シートの下

1 - カーペット・スプリット
2 - リヤ・カーペット

3. ロード・フロアの下のカーペットおよびサイド・サポートを取り外し、カーペットを引っ張り出します。



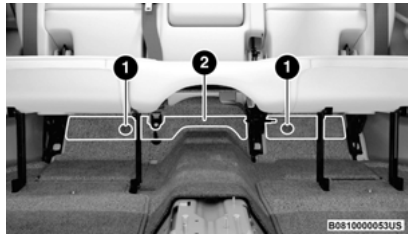
リヤ・ロード・フロア

1 - サイド・サポート
2 - ロード・フロア

4. カーペットを取り付けるときは、取り外しと逆の手順を行い、カーペットをスカッフ、Bピラー、コンソールの下に折り込み、グロメットを固定します。

ギャップ隠し付きカーゴ・カーペット(4ドア・モデル):

1. リヤ・シートの下のグロメットを取り外します(1つは左、1つは右)。
2. カーペットを前部の方に引っ張り、シートベルト・アタッチメントの周りおよびセンタ・シート・ブラケットの下のカーペット・スプリットを開きます。



リヤ・シートの下

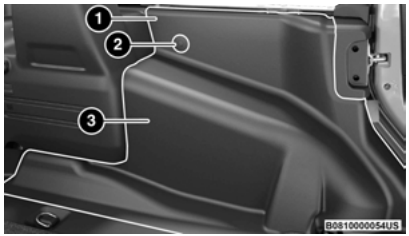
1 - グロメット
2 - カーペット・スプリット

3. カーペットを取り付けるときは、取り外しと逆の手順を行い、カーペットをスカッフ、Bピラー、コンソールの下に折り込み、グロメットを固定します。

サイド・カーペット(4ドア・モデル):

1. サイド・グロメットを取り外します(1つは左、1つは右)。

2. トップ・フランジのところからカーペットを引っ張り始めて、周囲全体のカーペットを引っ張り、シートベルト・アタッチメントの周りのカーペット・スプリットを開きます。



サイドウォール内側

1 - トップ・フランジ
2 - グロメット
3 - サイド・カーペット

3. カーペットを取り付けるときは、取り外しと逆の手順を行い、カーペットをスカッフ、Bピラー、コンソールの下に折り込み、グロメットを固定します。

サイド・カーペット(2ドア・モデル):

1. サイド・グロメットを取り外し、ロア・グロメットを取り外します(左と右)。
2. トップ・フランジのところからカーペットを引っ張り始めて、周囲全体のカーペットを引っ張り、シートベルト・アタッチメントの周りのカーペット・スプリットを開きます。
3. カーペットを取り付けるときは、取り外しと逆の手順を行い、カーペットをスカッフ、Bピラー、コンソールの下に折り込み、グロメットを固定します。

シートおよびファブリック部品

ファブリック製の内装、カーペットの清掃には Mopar®トータル・クリーンをお使いください。

警告!

揮発性の洗浄液は使用しないでください。多くのものは可燃性であり、閉めきった場所で使用すると呼吸器障害を引き起こす恐れがあります。

シートベルトのメンテナンス

シートベルトを化学溶剤または研磨クリーナで漂白、染色または洗浄しないでください。繊維質がもろくなります。

ベルトを洗浄する必要がある場合は、中性洗剤溶液またはぬるま湯を使用してください。洗浄するために、ベルトを車から取り外さないでください。柔らかい布で水分を取り除きます。

日光も繊維質をもろくします。ベルトに擦り切れや摩耗が見られた場合、またはバックルが適切に作動しない場合、ベルトを交換してください。

警告!

磨耗したり、切れかかったりしているシートベルトは衝突の際に破断し、乗員を保護できません。シートベルトは定期的に点検し、切れや磨耗、緩んだ部品などがないことを確認してください。損傷している部品は、直ちに交換してください。シートベルト・システムを分解したり、改造したりしないでください。車両が衝突事故に遭った場合、またはシートベルトやリトラクタの状態に疑問がある場合は、正規ディーラーまたは認定衝突ケアプログラム施設で車両の検査を受けてください。

プラスチック製およびコーティング部品

ビニール製の内装の清掃には、Mopar®トータル・クリーンを使用してください。

注意!

- 芳香剤、虫除け剤、日焼けローション、または手の消毒液をインテリアのプラスチック製、塗装または装飾された表面に直接接触させると、後に残る損傷が発生することがあります。すぐに拭きとってください。
- この種の製品により発生した損傷は、新車限定保証の対象とはならない場合があります。

プラスチック・メータ・パネル・レンズの洗浄

メータ・パネルのレンズは、透明プラスチックで成形されています。レンズを洗浄する際に、プラスチックに傷を付けないように注意してください。

濡れた柔らかい布で洗浄します。中性洗剤溶液は使用できますが、アルコール含有量の高いクリーナまたは研磨クリーナは使用しないでください。洗剤を使用する場合は、清潔な濡れた布で拭きます。柔らかい布で水分を取り除きます。

革製表面

特に革製の内装には、Mopar®トータル・クリーンを使用することを推奨します。

革部分は、湿らせた柔らかい布で定期的に清掃することで保つことができます。小さな粒子や汚れは研磨材とし

て作用してしまい、革部分を損傷させる恐れがあります。これらは湿らせた布で取り除いてください。こびりついている汚れは、柔らかい布と Mopar®トータル・クリーンを使用すると簡単に落とすことができます。革部分には、どのような液体もかからないように注意してください。研磨剤、油分、洗浄用フルード、溶剤、界面活性剤、またはアンモニアを成分に含んだ洗剤を使用して、革製の内装を清掃しないでください。

メモ:
明るいカラーの革が使用されている場合、暗いカラーのものよりも異物、汚れ、布の染料の移りが目立ちやすくなります。この革は楽に清掃ができるように設計されており、メーカでは、革製シートの清掃に必要に応じて Mopar®トータル・ケア・レザー・クリーナを布につけて塗布することを推奨します。

注意!
革製の内装の清掃には、アルコールおよびアルコール系やケトン系のクリーニング製品を使用しないでください。内装が損傷するおそれがあります。

ガラスの表面

ガラス表面は、すべて Mopar®ガラス・クリーナや市販の家庭用ガラス・クリーナで定期的に掃除してください。研磨剤入りのクリーナは、絶対に使用しないでください。デフロスタが付いたリヤ・ウインドウの内側や、ラジオ・アンテナが付いたウインドウを清掃をする際には注意が必要です。傷つきの原因となる、スクレーパや先のとがったものを使用しないでください。

ルーム・ミラーの清掃は、タオルまたは布にクリーナを付けて行ってください。ミラーに直接洗剤を吹き付けないでください。

技術仕様

車両識別番号(VIN)

VIN は、A ピラーの左前端にあり、車両の外からフロントガラス越しに見ることができます。この番号は、車両下面の中央近くの右サイド・フレーム・レールとフロントウィンドウに貼り付けられている車両情報開示ラベルにも記載されています。車両識別番号とオプション装備の記録として、このラベルは保管してください。

VIN は、エンジン・ブロックの左側または右側にも刻印されています。



車両識別番号

メモ :
VIN プレートを外したり、変更したりすることは法律で禁じられています。

ブレーキ・システム

この車には、デュアル・ハイドロリック・ブレーキ・システム(2 系統油圧ブレーキ・システム)が使われています。2 系統の油圧システムのうち1系統が機能しなくても、残りの1系統は機能します。ただし、全体のブレーキ効率は若干低下します。これは、ブレーキを踏み込んだ時のペダル・ストロークの増加、減速または停止に要するペダル踏力の増加、ブレーキ警告灯の点灯などで分かることがあります。

何らかの理由でパワー・アシストが作用しない場合も、ブレーキをかけることはできます。ただし、パワー・アシストが作用している時よりもブレーキをかける操作負荷は増大します。

ホイールとタイヤのトルク仕様

適正なホイール・ナット／ボルトのトルクは、ホイールを車両に確実に正しく装着するのに非常に重要です。ホイールを取り外して再び車両に取り付けるときには必ず、正しく較正されたトルク・レンチで、6 角ディープ・ソケットを使用してホイール・ナット／ボルトをトルク締めします。

トルク仕様

ホイール・ナット／ボルトのトルク	**ホイール・ナット／ボルトのサイズ	ホイール・ナット／ボルトのソケット・サイズ
130 ft-lb (176 N·m)	M14 x 1.50	22mm

**担当の正規ディーラーが推奨するホイール・ナット／ボルトのみを使用し、汚れやオイルが付着しているときはきれいに取り除いてから締め付けてください。

タイヤ取り付け前にはホイール取り付け面を点検し、腐食や浮いた小片があれば取り除いてください。

スペア・タイヤのトルク仕様

ホイール・ナット／ボルトのトルク	**ホイール・ナット／ボルトのサイズ	ホイール・ナット／ボルトのソケット・サイズ
71.5 ft-lb (97 N·m)	M14 x 1.50	22mm

**担当の正規ディーラーが推奨するホイール・ナット／ボルトのみを使用し、汚れやオイルが付着しているときはきれいに取り除いてから締め付けてください。

スペア・タイヤ・キャリア用のスペア・タイヤ・トルクは、スイング・ゲートに記載されています。



B0910000007US

ホイール取り付け面

ホイール・ナット／ボルトを対角順に 2 回に分けて締め付けます。ソケットがホイール・ナット／ボルトにしっかりとはまっていることを確認します（不完全な挿入は行わないでください）。



B0901000080US

トルク・パターン

40km（25 マイル）走行後に、ホイール・ナット／ボルトのトルクを点検し、すべてのホイール・ナット／ボルトが正しく締め付けられていることを確認してください。

警告!

力を加えると車がジャッキから滑り落ちる恐れがあるため、車を降ろすまでホイール・ナット／ボルトは完全に締め付けないでください。この警告に従わない場合は、けがをする恐れがあります。

燃料要件

オクタン価 87 のガソリンで運転するとエンジンから軽いノッキング音が聞こえますが、異常ではありません。ただし、エンジンから激しいノッキング音が聞こえる場合は、速やかに正規ディーラーに点検を依頼してください。推奨オクタン価より低いガソリンを使用すると、エンジンの不具合が生じることがあります。また、新車限定保証の対象とならないことがあります。

適正なオクタン値の無鉛レギュラー・ガソリンを使用するほかに、洗浄剤、腐食防止剤、安定剤を添加したガソリンの使用もお勧めします。これらの添加剤を含んだガソリンを使用することで燃費の向上と排ガスの減少を実現でき、車の性能を維持することができます。

低品質のガソリンは、始動困難、エンスト、ノッキングなどの問題を引き起こす恐れがあります。このような現象が起きた場合は、車を整備に出す前に他の銘柄のガソリンをお試しください。

2.0L エンジン

このエンジンは、すべての排ガス規則に適合するように設計されており、高品質無鉛ガソリンを使用した場合に優れた燃費と性能を発揮します。

メタノール

メタノール（メチル・アルコール）は、様々な濃度で無鉛ガソリンに混合されています。3%以上のメタノールと他のアルコール類を混ぜた混合ガソリンもみられます。メタノールとガソリンの混合物を使用した結果として生じた問題については、当社は責任を負いかねます。MTBE はメタノールが酸化したものですが、メタノールとは異なり悪影響を及ぼしません。

警告!

メタノールが混合されたガソリンを使用しないでください。これらの混合ガソリンはエンジンの始動と車の操作性に悪影響を及ぼし、燃料系部品が損傷する恐れがあります。

エタノール

当社では、車を走行させる際に、エタノール含有量が 15%未満の燃料を使用することを推奨しています。信頼できるサプライヤから燃料を購入することにより、この 15%の限度を超過したり基準外の特性を持つ燃料を使用するリスクが下がります。エタノール混合燃料を使用した場合、エタノールのエネルギー含量が低いために燃費が低下することが予測されますので、ご注意ください。メタノール混合ガソリンまたはエタノール混合燃料を使用して生じた問題については、当社は責任を負いかねます。

注意!

エタノールの含有量が 15%を超える燃料を使用すると、エンジンの不具合、始動や操作時の問題、部品劣化を引き起こす恐れがあります。こういった有害影響

(続き)

注意!
は、車への永久的な損傷を引き起こす原因となります。

空気清浄化ガソリン

今日、大気汚染のひどい地域においては特に、大気の清浄化に寄与するようガソリンが調合されています。このような新しい混合ガソリンは、燃料をきれいに燃焼させるもので、「リフォーミュレーテッド（改質）ガソリン」と呼ばれるものもあります。

製造メーカは、大気清浄化を図る様々な活動を支援しています。このような混合燃料を使用することにより、お客様も大気清浄化にご協力いただけます。

改質ガソリン

国の多くの地域では、「改質ガソリン」と呼ばれるクリーンな燃焼ガソリンの使用が定められています。酸素添加物が含まれる改質ガソリンは、車両の排ガス量を減らし、大気環境を改善するために特別にブレンドされています。

改質ガソリンの使用をお勧めします。適切に混合された改質ガソリンは、エンジンと燃料系部品の性能と耐久性を高めます。

非フレックス・フューエル車両に E-85 を使用しないでください

非フレックス・フューエル車両（FFV）は、エタノール含有量 15%（E-15）のガソリンと互換性があります。エタノール含有量の多いガソリンを使用すると、新車限定保証が無効になることがあります。

非 FFV 車両に誤って E-85 燃料を使用すると、エンジンで以下のいずれか、あるいはすべての症状が発生します。

- リーン・モードで作動する
- OBD II の「エンジン警告灯」が点灯する
- エンジン性能が下がる
- 冷間時のエンジン始動が困難になり、寒冷時の運転性が下がる
- 燃料システムの部品が腐食する危険性が高まる

圧縮天然ガス (CNG) および液体プロパン (LP) 燃料システムの変更

エンジンを CNG または LP で走行できるように改造すると、エンジン、排気系統、フューエル・システム構成部品を損傷することがあります。CNG または LP で走行したことに起因する不具合はメーカーの責任ではなく、新車限定保証が無効になります。

メチルシクロペンタジエニル・マンガン・トリカルボニル（MMT）

MMT は、金属添加物を含むマンガンで、オクタン価を高めるために一部のガソリンに混合されます。MMT を混合したガソリンは、MMT を混合していない同じオクタン価のガソリンと比べても性能上の利点はありません。MMT を混合したガソリンは、スパーク・プラグの寿命を短くし、一部の車両のエミッション・システムの性能を低下させます。この車は、MMT を含まないガソリンを使用するよう推奨されています。ガソリンスタンドのポンプにはガソリンの MMT 含有量が示されていない可能性があります。このため、ガソリンに MMT が含まれているかどうかをガソリンスタンドの従業員に確認する必要があります。

フルード容量

	US（米国）	Metric（メートル単位）
燃料（およその数値）		
2 ドア・モデル	17.5gal	66L

	US（米国）	Metric（メートル単位）
4ドア・モデル	21.5gal	81L
エンジン・オイル（オイル・フィルタ交換時）		
2.0L エンジン	5 qt	4.73 L
3.6L エンジン	5 qt	4.73 L
冷却装置*		
2.0L エンジン	12 qt	11.4 L
2.0L エンジン・インタークーラ	3.7qt	3.5L
3.6L エンジン	13.4 qt	12.7 L
* クーラント・リカバリ・ボトルの最大レベルまで注入した場合		

エンジン・フルードおよび潤滑剤

部品	フルード、潤滑剤、純正部品
エンジン・クーラント	メーカの材料規格 MS.90032 の要件に適合した PARAFLU ^{UP} Formula OAT (Organic Additive Technology) または同等品の使用をお勧めします。

部品	フルード、潤滑剤、純正部品
インタクーラ（タイプ別装備）	メーカの材料規格 MS.90032 の要件に適合した PARAFLU UP Formula OAT (Organic Additive Technology) または同等品の使用をお勧めします。
エンジン・オイル - 2.0L エンジン	メーカの材料規格 MS-13340 の要件に適合した Mopar® API SP/GF-6A 認定の SAE 5W-30 フル合成エンジン・オイルの使用をお勧めします。同等品のフル合成 SAE 5W-30 API SP エンジン・オイルも使用できますが、API Donut 商標が必要です ⇨ ページ 238。
	注意！
	推奨の API SP/GF-6A または同等のオイルを使用しないと、車両保証の対象とならないエンジンの損傷を招くことがあります。
エンジン・オイル - 3.6L エンジン	メーカの材料規格 MS-6395 の要件に適合した Mopar® SAE 0W-20 認定のフル合成エンジン・オイルの使用をお勧めします。同等品のフル合成 SAE 0W-20 エンジン・オイルも使用できますが、API Donut 商標が必要です ⇨ ページ 238。適切な SAE 等級については、エンジン・オイル・フィラ・キャップをご覧ください。
燃料の選択 - 2.0L エンジン	無鉛レギュラーガソリン。
燃料の選択 - 3.6L エンジン	無鉛レギュラーガソリン。

シャーシ・フルードおよび潤滑剤

部品	フルード、潤滑剤、純正部品
オートマチック・トランスミッション	Mopar® ZF 8/9 速 ATF オートマチック・トランスミッション・フルードまたは同等品のみを使用してください。適切なフルードを使用しない場合、トランスミッションの機能や性能に影響を与える恐れがあります。
トランスファ・ケース	Mopar® ATF+4 オートマチック・トランスミッション・フルードまたは同等品の使用をお勧めします。
フロント・アクスル・ディファレンシャル	Mopar®ギヤおよびアクスル潤滑油（SAE 75W85）（API GL-5）または同等品の使用をお勧めします。
リヤ・アクスル・ディファレンシャル（M200 販売コード DRZ）	Mopar®ギヤおよびアクスル潤滑油（SAE 75W140）（API GL-5）の使用をお勧めします。
リヤ・アクスル・ディファレンシャル（M220 販売コード DRE/DRF）	Mopar®ギヤおよびアクスル潤滑油（SAE 75W85）（API GL-5）または同等品の使用をお勧めします。Trac-Lok リミテッド・スリップ・ディファレンシャル装備モデルには、摩擦向上添加剤が必要です。
ブレーキ・マスタ・シリンダ	MOPAR® DOT 3 ブレーキ・フルード SAE J1703 の使用をお勧めします。
パワー・ステアリング・リザーバ	Mopar®電動ステアリング・ポンプ・フルードの使用をお勧めします。

アシスタンスが必要な場合

FCAIO のディーラーでは、製品およびサービスがお客様にご満足いただけるものであるよう常に心がけています。整備その他に関する問題がありましたら、次のようにお願いします。

- 問題をジープ正規ディーラーの担当者または責任者にご相談ください。問題を早期に解決するためには、ジープ正規ディーラーの販売責任者が最もふさわしい立場にあると考えます。
- **日本**

  それでも問題が解決しない場合は、FCAIO までご連絡ください。

  Jeep®フリー・ダイヤル

  地域の無料電話サービス番号

  電話：0120-712-812

販売店にご連絡の際は、下記の内容をお伝えください。

- お客様のお名前、ご住所、お電話番号
- 車両識別番号（VIN）（この 17 桁の番号は、運転席側のインストルメント・パネルの上隅にある、フロント・ウインドウ越しに見えるプレートに記載されています。また、この番号は車検証にも記載されています）
- 車両を購入し、整備を担当しているジープ正規ディーラー名
- 車両の納車日およびオドメータが示す現在の走行距離
- 車両の整備記録
- 発生した問題とその状況に関する詳しい説明

さくいん

記号

安全、排気ガス 220
安全のヒント 218
安全情報、タイヤ 262
一酸化炭素警告 220
運転上の注意 105
運転席シート・バックの傾き調整 31, 33
液漏れ 220
横転についての警告 8
温度コントロール、自動(ATC) 46
音声認識システム(VR) 31
改質ガソリン 281
改造／変更
　車両 9
寒冷地での運転 109
間欠ワイパ(遅延ワイパ) 43
記号用語集 9
急ブレーキ 110
給油 136
緊急
　SOS 緊急通話 221
　緊急時 221
緊急時のケース
　ジャッキ・アップ 223
　ジャンプ・スタート 227
空気圧
　タイヤ 264
空気清浄化ガソリン 281
携帯電話 170
警告、シートベルト 191
警告、横転 8
警告灯およびメッセージ 98
故障診断システム、オンボード 105
交換用タイヤ 266
交換用バルブ 259
高度事故時反応機能 203, 234
合成エンジン・オイル 238
仕様
　オイル 282
　燃料(ガソリン) 282
始動 107
　エンジン エンジンがかからない場合 109
　オートマチック・トランスミッション 107
　ボタン 16
　リモート 17
　寒冷地 109
始動と運転 107
始動の手順 107
始動時エンジンのかぶり 109
指示器、方向 104, 220, 261
自動温度コントロール(ATC) 46
自動防眩式ルーム・ミラー 38
室内灯 42
室内灯とインストルメント・パネルの照明 42
車の安全性の点検 218
車外の安全点検 220
車外灯 40, 220
車線変更補助 41
車内のお手入れ 273
車内の安全点検 219
車両のメンテナンス 238
車両の改造／変更 9
車両の保管 46, 270
車両識別番号(VIN) 279
車両積載量 137, 265
　タイヤ 263
車両定格総重量 138, 139
手動
　パーキング解除 230
潤滑、ボディ系 242
助手席側エアバッグ無効 197
消灯遅延
　ヘッドライト 41
乗員シートベルト 190
新車の慣らし運転期間 110
整備アシスタンス 285
正規ディーラーでの整備 238
清掃
　ホイール 268
折りたたみ式／タンブル式リヤ・シート 35

折りたたみ式シート 31
折りたたみ式フロントガラス 83
折りたたみ式リヤ・シート 34
設定 150
洗車 271
前方衝突警告 185
走行 143
走行が不可能な車両のけん引 231
速度コントロール
　加速／減速（ACC のみ） 126
速度コントロール（クルーズ・コントロール） 123
遅延（間欠）ワイパ 43
着脱式ドア 25, 29
　フロント 25
　リヤ 29
着脱式トップ 77
低タイヤ空気圧モニタ・システム 187
停止／始動 120
点検、安全 218
点滅表示灯
　非常点滅灯 221
　方向指示器 220
　方向指示灯 104, 261
電球 220, 259
電球（バルブ）、ランプ 220, 259
電球（バルブ）の交換 259, 260
電源コンセント 49
電源コンセント、補助（電源コンセント） 49
電動
　インバータ 51
　ウィンドウ 52
　シート 32
　ステアリング 115
　ドア・ロック 22
　ブレーキ 279
　ミラー 39
塗装面のお手入れ 271
内蔵パワー・モジュール（ヒューズ） 250
妊娠中の方とシートベルト 194
燃料 280
　エタノール 280
　オクタン価 280, 282
　ガソリン 280
　タンク容量 281
　フィラ・キャップ（ガス・キャップ） 136
　空気清浄化 281
　仕様 282
　補充 136
　要件 281
燃料の補給 136
廃棄
　不凍液（エンジン・クーラント） 246
排気ガスに関する注意 220
排気装置 220, 244
半ドア 99, 100
半ドア警告灯 99, 100
非常点滅表示灯 221
不凍液（エンジン・クーラント） 245, 281
　廃棄 246
腐食防止 271
負荷低減インテリジェント・バッテリ・センサ 97
負荷低減バッテリ・セーバ・オン 97
負荷低減バッテリ・セーバ・モード 97
負荷低減電力負荷低減機能 97
補助スイッチ 51
補助電源コンセント 49
補助電源コンセント（電源コンセント） 49
方向指示灯 104, 261
油圧警告灯 100
容量、フルード 281
冷却装置 245
　クーラント（不凍液）の選択 245, 281, 282
　クーラント（不凍液）の補充 245
　クーラントの量 246
　ご留意いただきたいこと 247
　プレッシャ・キャップ 246
　ラジエータ・キャップ 246
　使用済みクーラントの廃棄 246
　点検 245, 246
　抜き取り、洗浄、注入 245
　冷却容量 281
冷媒 241
漏れ、フルード 220

数字

4WD 115
　システム 115
　シフティング 115
　操作 115
4 ウェイ非常点滅表示灯 221
4 輪駆動 運転 115

A

AutoPark 108

B

Bピラーの位置 263

G

GVWR 137

K

Keyless Enter-N-Go™ 23
パッシブ・エントリ 23

L

Lights（警告灯） 220
4WD 103
4WD オート 104
4WD パート・タイム 103
4WD 整備 102
Oil Temperature（オイル温度） 100
SelecSpeed コントロール 105
STOP/START 整備 102
アクスル・ロッカ異常 103
アクティブ・スピード・リミッタ SET 104
アクティブ・スピード・リミッタ故障 103
アダプティブ・クルーズ・コントロール 104
アダプティブ・クルーズ・コントロール整備 102
イルミネーション・コントロール 42
イルミネーション・スイッチ、ヘッドライト 40
ウォッシャ液不足 101
エアバッグ 98, 195, 219
エレクトロニック・スタビリティ・プログラム（ESP）警告灯 101
エンジン警告灯（Check Engine） 101
オート・ヘッドライト 40
クルーズ 104, 105
クルーズ・コントロール異常 102
サイド・マーカ 261
シートベルト警告灯 100
スウェイ・バー異常 102, 103
スウェイ・バー表示 104
センタ・ハイ・マウント・ストップ 262
タイヤ空気圧モニタ（TPMS） 102
デイタイム・ランニング 40
トラクション・コントロール 179
ニュートラル 103
ハイビーム 40, 105
ハイビーム／ロー・ビーム切替スイッチ 40
パッシング 40
フォグ 104, 261
フューエル・フィラ・キャップ緩み 101
ブレーキ・アシスト警告灯 179
ブレーキ警告灯 98
フロントおよびリヤ・アクスル・ロック 103
ヘッドライト 260
ライト消し忘れ警告アラーム 41
リヤ・アクスル・ロック 103
リヤ・テール・ランプ 261
リヤの整備 261
下り坂コントロール表示灯 105
外部 40, 220
室内灯 42
整備 259, 260
前方衝突警告 103
前方衝突警告の整備 102
速度警告システム 100
駐車 104
停止／始動作動 104
電球（バルブ）の交換 259, 260
燃料低下 101
非常点滅表示灯 221
方向指示器 220
方向指示灯 104, 261

P

ParkSense
フロントおよびリヤ 130
ParkSense システム、リヤ 130
Profile Settings（プロフィール設定） 152

S

Selec-Speed コントロール 180

Sentry Key（イモビライザ） 16
Sentry Key の交換 15

T

Trac-Lok
　リヤ・アクスル 117
TrailCam システム 135

U

UCI（Universal Consumer Interface）コネクタ ... 48
UCI コネクタ 48
Uconnect
　Uconnect の設定 19
Uconnect の設定 150
　パッシブ・エントリのプログラミング 23
　ユーザー選択機能 19, 23, 150

V

Vehicle Settings（車両設定） 150

あ

アクスル・フルード 284
アクスル・ロック 117, 118
アシスト、ヒル・スタート 179
アダプティブ・クルーズ・コントロール（ACC）（クルーズ・コントロール） 122, 123
アドベンチャーガイド 173
アラーム
　システムのセット 20
　システムの解除 20
　セキュリティ・アラーム 20, 101
アンチロック・ブレーキ・システム（ABS） 176
アンチロック警告灯 101

い

イグニッション 16
　スイッチ 16
イルミネーション・スイッチ
　ヘッドライト 40
インストルメント・パネル 90
　エンジン オイルのリセット 93
　スクリーン表示 92
　メニュー項目 93
インストルメント・パネル・ディスプレイ
　Audio（オーディオ） 95
　Driver Assist（運転者アシスト） 94
　Messages（メッセージ） 95
　Off Road（オフ・ロード） 94
　Screen Setup（画面設定） 95
　Trip Info（トリップ情報） 95
　Vehicle Info（車両情報） 93
　Vehicle Settings（車両設定） 96
　スピードメータ 93
　位置とコントロール類 92
インストルメント・パネル・レンズの清掃 277
インバータ
　電動 51

う

ウインド・バフェッティング 53
ウィンドウ 52
　電動 52
ウィンドウ・ガラスの曇り 47
ウィンドウ・ストレージ 60
ウォッシャ、フロントガラス 237

え

エア・クリーナ（エンジン・エアクリーナ・フィルタ） 239
エア・フィルタ 239
エアコン・システム 46, 240
エアコン・フィルタ 47, 241
エアコン、操作のヒント 46
エアコンのお手入れ 240
エアコン冷媒 240, 241
エアバッグ
　エアバッグ・システムのメンテナンス 204
　エアバッグが作動したとき 203
　エアバッグの作動 196
　エアバッグ警告灯 195
　エアバッグ予備警告灯 195
　お手入れ 204

フロント・エアバッグ 195
ペットを乗せる場合 218
高度事故時反応 203, 234
事象データ・レコーダ（EDR） 234
無効、助手席側エアバッグ 197
エアバッグ警告灯 195, 219
エタノール 280
エレクトリック・ブレーキ・コントロール・システム 177
アンチロック・ブレーキ・システム 176
エレクトロニック・ロール・ミティゲーション 177, 182
エレクトロニック・スタビリティ・コントロール（ESC） 178
エレクトロニック・スロットル・コントロール警告灯 99
エンジン 236
エア・クリーナ 239
エンジンがかからない場合 109
オイル 238, 281, 282
オイル・フィラ・キャップ 236
オイル・フィルタ 239
オイル・レベルの点検 237
オイル、選択 238, 281
オイルのリセット 93
オーバーヒート 229
クーラント（不凍液） 282
ジャンプ・スタート 227
ルームの種類 236
慣らし運転について 110
洪水、始動 109
合成オイル 238
始動 107
車室 236
燃料 要件 280, 281
排気ガスに関する注意 220
冷却 245
エンジン・クーラント（不凍液）の補充 245
エンジン警告灯（Check Engine） 101

お

オイル、エンジン 238, 282
ディップスティック 237
フィルタ 239
フィルタの廃棄 239
圧力警告灯 100
合成 238
識別ロゴ 238
推奨 238, 281
添加剤 238
点検 237
粘度 281
廃棄 239
容量 281
オイルのリセット 93
オイルフィルタ、交換 239
オイルフィルタ、選択 239
オーディオ・システム（ラジオ） 150
オート・ダウン・パワー・ウインドウ 53
オート・ドア・ロック 25
オート・ヘッドライト 40
オートマチック・トランスミッション 112
ギヤ・レンジ 113
フルードおよびフィルタの交換 249
フルードの交換 249
フルードの種類 249, 284
フルードの補充 249
フルード量の点検 248
特別添加剤 249
オートマチック・トランスミッション・リンプ・ホーム・モード 114
オートマチック・ハイ・ビーム 40
オーバーヒート、エンジン 229
オクタン価、ガソリン（燃料） 280, 282
オフ・ロード・ページ 170
アクセサリ・ゲージ 170, 171
ステータス・バー 170
ピッチ＆ロール 170, 171
駆動系 170
オンボード故障診断システム 105
お車の保管 270
お手入れ 77

か

カーゴ・タイダウン 87
カーゴ・ロード・フロア 87
カーペット 274
ガス・キャップ（フューエル・フィラ・キャップ） 136, 137
カスタマ・サポート 285
ガソリン、（燃料） 280

ガソリン、改質 281
ガソリン、空気清浄化 281
ガソリン微粒子フィルタ（GPF） 88
カップ・ホルダ
　点灯 48
カメラ、フロント 135
カメラ、リヤ 134
ガラスの清掃 278

き

キー 14
　交換用 15
キー・フォブ
　システムのセット 20
　システムの解除 20
　追加キー・フォブのプログラム 15
キー・フォブのプログラム（リモート・キーレス・エントリ） 15
キー・フォブの電池のメンテナンス（リモート・キーレス・エントリ） 14
ギヤ・レンジ 113
キャップ、フィラ
　オイル（エンジン） 236
　ラジエータ（クーラントの圧力） 246
　燃料 136
キャンピング・カーなどのけん引 143

く

クーラント（不凍液）の選択 282
クルーズ・コントロール（スピード・コントロール） 122, 123
クルーズ・コントロール表示灯 104, 105

け

けん引 138, 140, 231
　キャンピング・カーなど 143
　重量 140
　走行が不可能な車両 231
けん引 モータホームの後ろ 143
けん引フック 232

こ

コネクタ
　UCI 48
　ユニバーサル・コンシューマ・インターフェース（UCI） 48
コンソール 48
　フロア 48
コンパクト・スペア・タイヤ 267

さ

サイド・ステップの取り外し 144
サイバーセキュリティ 150
サンルーフ 77

し

シート 31, 32
　チルト 31, 32
　ヒータ 36
　ランバ調整 32, 33
　リヤ折りたたみ式 31
　高さ調整 33
　折りたたみと回転リヤ 35
　調整 31
　電動 32
シート・ヒータ 36
シートベルト 191, 219
　アジャスタブル・ショルダ・ベルト 193
　アジャスタブル上部ショルダ・アンカ 193
　アジャスタブル上部ショルダ・ベルト・アンカ 193
　シートベルト・プリテンショナ 194
　ねじれ修正手順 193
　プリテンショナ 194
　フロント・シート 191–193
　ラップ／ショルダ・ベルト 192
　ラップ／ショルダ・ベルトのねじれ修正 193
　ラップ／ショルダ・ベルト操作 193
　リヤ・シート 192
　警告灯 191
　衝突エネルギー低減機能 194
　操作説明書 193

点検 219
妊婦 194
シートベルト お手入れ 277
シートベルト警告灯 100
システム、リモート始動 17
シフティング 111
オートマチック・トランスミッション 111, 112
ジャッキ・アップ位置 224
ジャッキの操作 224
ジャッキ作業の手順 224
ジャッキ作業の準備 223
ジャンプ・スタート 227
ショルダ・ベルト 192

す

スイング・ゲート、リヤ 86
スウェイ・コントロール、トレーラ 182
スウェイ・バー・ディスコネクト
電子制御式 119
スタック、脱出 231
スタックからの脱出 231
ステアリング
チルト・コラム 30
ホイール・ロック 17
ホイール、チルト 30
ホイール、ヒータ式 30
電動 115
ステアリング・ホイール・オーディオ・コントロール 170
ステアリング・ホイール・ヒータ 30
ステアリング・ホイールのサウンド・システム・コントロール 170
ストレージ 47, 60, 72, 79
シートの背後 48
ストレージ（収納）、車両 46, 270
スノー・タイヤ 267
スノー・チェーン（タイヤ・チェーン） 269
スペア・キー 15
スペア・タイヤ 224, 267, 268

せ

セキュリティ・アラーム 20, 101
システムのセット 20
システムの解除 20
プレミアム 20
センタ・ハイ・マウント制動灯 262

そ

ソフト・トップ 60
ソフト・トップ・ウィンドウ 60

た

タイダウン・フック、カーゴ 87
タイヤ 220, 263, 267
コンパクト・スペア 267
スノー・タイヤ 267
スペア・タイヤ 224, 267, 268
タイヤの寿命 266
チェーン 269
トレッド・ウエア・インジケータ 265
ホイール・ナットの締め付けトルク 279
ラジアル 265
ローテーション 270
安全性 262, 263
一般情報 263, 267
空気圧 263, 264
空気圧モニタ・システム（TPMS） 102, 187
空転 265
交換 223
交換用 266
高速 264
負荷性能 263, 265
劣化（タイヤの寿命） 266
タイヤと積載情報のプラカード 263
タイヤの安全情報 262
タイヤの寿命 266
タイヤ上のマーク 263
タング 重量／トレーラ重量 140

ち

チェーン、タイヤ 269
チルト・ステアリング・コラム 30

て

デイタイム・ランニング・ライト 40
ディップスティック
　オイル（エンジン） 237
デフロスタ、フロントガラス 219
テレスコピック・ステアリング・コラム 30

と

ドア 21
　取り外し 25, 29
　取り外し、フロント 25
　取り外し、リヤ 29
ドア・フレーム 80
　取り外し 80
　取り付け 80
ドア・ミラー 39
ドア・ロック
　オートマチック 25
トップ
　ハード 53
　パワー・スライディング 77
　着脱式 53
トラクション・コントロール 182
トランスファ・ケース 248
　4WD 走行 115
　お手入れ 248
　フルード 284
トランスミッション 112
　オートマチック 112, 248
　お手入れ 248
　シフティング 111
　フルード 284
トレーニング・レコード 172
トレーラ・スウェイ・コントロール（TSC） 182
トレーラけん引 138
　トレーラとタング重量 140
　ヒッチ 143
　最小要件 140
　配線 142
トレーラけん引ガイド 140
トレーラ重量 140
トレッド・ウエア・インジケータ 265

ね

ねじれ修正手順、シートベルト 193

は

パーキング・ブレーキ 110
ハード・トップ 53
ハード・トップ用 Sunrider® 75
ハイビーム／ロー・ビーム切替（イルミネーション・コントロール）スイッチ 40
パッシブ・エントリ 23
パッシング 40
バッテリ 99, 237
　キーレス・キー・フォブの交換 14
　充電装置警告灯 99
パドル・シフタ 114
バニティ・ミラー 39
パワー・ステアリング・フルード 284
パワー・トップ・クォータ・ウィンドウ 79
パワースライディング・トップ 77
　クォータ・ウィンドウの取り外し 79
　ピンチ保護 77
　操作 77
パンクしたタイヤの交換 262, 267
パンクしたタイヤの収納 262, 267
バンパ・エンド・キャップの取り外し 144

ひ

ヒータ／エアコン
　オートマチック 44
ヒーテッド・ミラー 39
ヒューズ 249
ヒル・スタート・アシスト 179

ふ

ファブリックのお手入れ 272
ファブリック製トップ 272
フィルタ
　エア・クリーナ 239
　エアコン 47, 241
　エンジン オイルの廃棄 239
　エンジン・オイル 239

フォグ・ライト 41, 104, 261
フォグ・ライト、リヤ 41
フォグ・ライト、整備 261
ブラインド・スポット・モニタ 182
フリーダム・パネル 72
プリテンショナ
　シートベルト 194
フルード、ブレーキ 284
フルード容量 281
フルード量の点検 248
　エンジン・オイル 237
　ブレーキ 247
ブレーキ・アシスト・システム 177
ブレーキ・コントロール・システム 177
ブレーキ・システム 247, 279
　アンチロック（ABS） 279
　フルードの点検 247
　マスタ・シリンダ 247
　警告灯 98
　駐車 110
ブレーキ・フルード 247, 284
ブレーキ／トランスミッション・インターロック ..112
ブレーキについて 279
フロント・アクスル（ディファレンシャル） 248
フロントおよびリヤ ParkSense システム 130
フロントガラス
　折りたたみ式 83
フロントガラス・ウォッシャ 42, 237
　フルード 237
フロントガラス・デフロスタ 219
フロントガラス・ワイパ 42
フロントガラス・ワイパ・ブレード 242

へ

ペット 218
ヘッド・レスト 36
ヘッドライト
　オートマチック 40
　ハイビーム／ロー・ビーム切替スイッチ 40
　パッシング 40
　ライト消し忘れ警告アラーム 41
　レベリング 41
　交換 260
　消灯遅延 41
　清掃 271
　遅延 41
　電球（バルブ）の交換 260
ヘッドレスト 36
ペットを乗せる場合 218
ベルト、シート 219

ほ

ホイール・ナット／ボルト 279
ホイールおよびホイール・タイヤのお手入れ .268
ホイールとホイール・タイヤ・トリム 268
ボイス・コマンド 31
ボディ・メカニズムの潤滑 242
ボンネット・プロップ 85
ボンネット・リリース 85
ボンネットを開ける 85

み

ミラー 38
　ドア 39
　バニティ 39
　ヒータ 39
　自動防眩式 38
　電動 39

め

メタノール 280
メタノール燃料 280
メンテナンス・フリー・バッテリ 237

も

モニタ、タイヤ空気圧システム 187

ゆ

ユーザー選択機能 150

ら

ラゲージ・キャリア 88

ラジアル・タイヤ 265
ラジエータ・キャップ 246
ラジエータ・キャップ（クーラント・プレッシャ・キャップ） 246
ラジオ・リモート・コントロール 170
ラジオの操作 170
ラッチ 220
　ボンネット 85
ラップ／ショルダ・ベルト 192
ラベル、タイヤと積載情報 263

り

リモート・キーレス・エントリ
　アラームのセット 20
　アラームの解除 20
　追加キー・フォブのプログラム 15
リモート・コントロール
　始動システム 17
リモート・サウンド・システム（ラジオ）コントロール 170
リモート始動
　Uconnect の設定 19
　Uconnect ユーザー選択機能 19
　リモート始動モードの終了 18
リモート始動（ガソリン） 17
リモート始動システム 17
リヤ・アクスル（ディファレンシャル） 248
リヤ・カメラ 134
リヤ・クロス・パス 184
リヤ・シート警告アラーム 176
リヤ・スイング・ゲート 86
リヤ・ワイパ／ウォッシャ 43
リヤ ParkSense システム 130
リリース、ボンネット 85

る

ルーフ・タイプ・キャリア 88

ろ

ローテーション、タイヤ 270
ロード・アシスタンス 221
ロード・フロア、カーゴ 87
ロック
　アクスル 117, 118
　オート・ドア 25
　ステアリング・ホイール 17
　チャイルド・プロテクション 25
　パワー・ドア 22

わ

ワイパ・ブレードの交換 242
ワイパ、リヤ 43

トップ、ドアの取り外し、およびフロントウィンドウを下げる際は、取扱説明書のすべての指示に従ってください。ドアを取り外し、フロントウィンドウを下げた状態で運転するのはオフ・ロード専用です。FCA US LLCでは、運転者の道路への注意がそれる恐れがある機器や機能を使用する場合は、十分な注意を払って扱うことを強く推奨します。

Jeep®



©2024 FCA US LLC. All Rights Reserved. Jeepは、FCA US LLC社の登録商標です。 App StoreはApple Inc.の登録商標です。Google PlayストアはGoogleの登録商標です。

初版
25_JL_OM_JA_JA